

松山駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

# 南江戸上沖遺跡

- 1次・2次調査 -

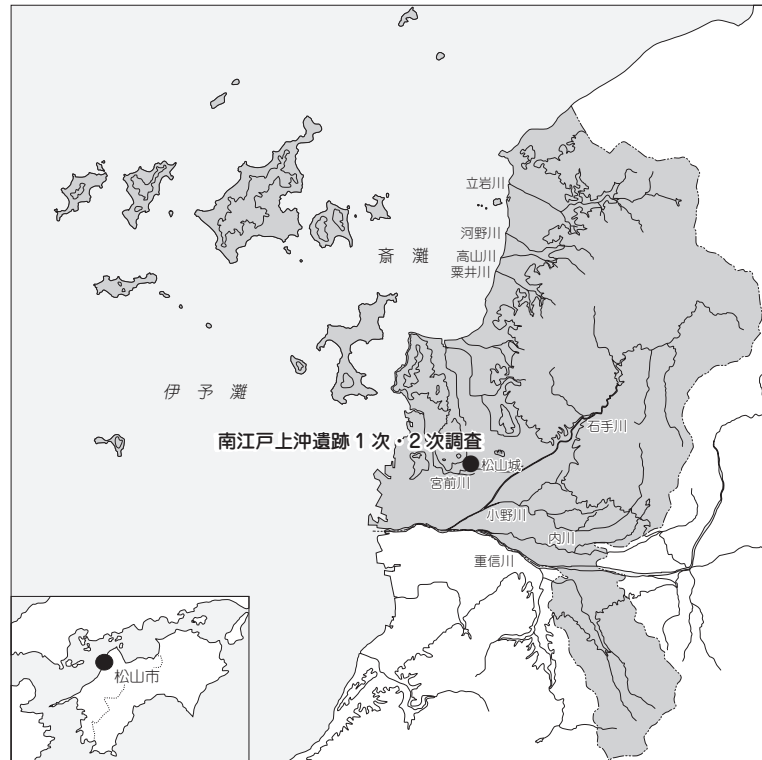
2021

公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団  
埋蔵文化財センター

松山駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

みなみえどかみおき  
南江戸上沖遺跡

- 1次・2次調査 -



2021

公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団  
埋蔵文化財センター





卷頭図版1 南江戸上沖遺跡1次調査 SE9



卷頭図版2 南江戸上沖遺跡2次調査 SE401



卷頭図版 3 南江戸上沖遺跡 2次調査 SK309



卷頭図版 4 南江戸上沖遺跡 2次調査 SK310



卷頭図版 5 南江戸上沖遺跡 1 次調査 SX1 出土遺物



卷頭図版 6 南江戸上沖遺跡 1 次調査 SX2 出土遺物



# 序 言

本書は、平成 27 年度と平成 28 年度に松山市南江戸一丁目で松山駅周辺土地区画整理事業に伴い実施した南江戸上沖遺跡 1 次調査・2 次調査の発掘調査報告書です。

本遺跡が所在する松山平野西部は、大峰ヶ台遺跡や古照遺跡など、市内でも弥生時代から古墳時代の遺跡が密集している地区です。独立丘陵の大峰ヶ台頂上部には弥生時代中期の高地性集落があり、沖積地の古照遺跡には 1972 年の下水処理場建設工事時に発見された用水確保のための堰の遺構がありました。発見された 3 基の堰は、その構造や建築廃材の再利用などから、国内でも重要な遺構に数えられています。

今回の調査では、古墳時代の祭祀遺構や中世の集落関連遺構などを確認しました。中でも 2 次調査で検出した溝は、集落を囲む区画溝で、市内でも類例が少ない遺構であり、松山平野の中世集落の構造を解明する貴重な資料です。

このような成果を上げることができたのは、関係各位の埋蔵文化財に対する深いご理解とご協力の賜物であり、心より感謝を申し上げます。

最後になりましたが、本書が文化財保護意識の向上と埋蔵文化財調査研究の一助となり、松山市民の皆様をはじめ多くの方々に末永く、ご活用いただければ幸いに存じます。

令和 3 年 11 月

公益財団法人文化・スポーツ振興財団  
埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー



# 例 言

1. 本書は、平成 27 年度と平成 28 年度に公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団埋蔵文化財センター（以下、「公益財団」という。）が実施した、松山市南江戸一丁目における松山駅周辺土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書である。
2. 各調査の概要は次のとおりである。
  - ・南江戸上沖遺跡 1 次調査（松山市南江戸一丁目 507 番 1 ～ 516 番 1）  
面積：約 1,900m<sup>2</sup>
  - ・南江戸上沖遺跡 2 次調査（松山市南江戸一丁目 506 番 1 ～ 511 番 8）  
面積：約 2,100m<sup>2</sup>
3. 整理作業と報告書作成は、公益財団が松山市都市整備部松山駅周辺整備課（以下、「市駅整備課」という。）と契約を結び平成 30 年度～ 31 年度に実施した。本書の編集作業は、同様に公益財団が市駅整備課と契約を結び令和 2 年度に実施した。
4. 発掘調査は、公益財団の高尾和長が担当した。
5. 本書における遺構は、呼称名を略号化して記述した。  
井戸：S E、溝：S D、土坑：S K、柱穴：S P、性格不明遺構：S X（土器溜まりを含む）
6. 本書で使用した標高値は海拔標高を示し、座標は世界測地系座標である。  
国土座標軸測量は、南江戸上沖遺跡 1 次調査は株式会社ウエスコ、南江戸上沖遺跡 2 次調査は有  
限会社四国測量設計に業務を委託した。
7. 遺構の測量は、調査員と調査担当者の指示のもと補助員と作業員が実施した。
8. 本書掲載の遺構図、遺物図は、スケール下に縮尺を表記した。
9. 本書報告の遺構埋土、土層の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色  
帖（1996）』に準拠した。
10. 遺物の実測及び掲載図の製図は、高尾の指示のもと木西嘉子、田崎真理、池内芳美、越智田美紀、  
が行った。
11. 屋外調査における写真撮影は大西朋子と調査担当者、本書掲載の遺物撮影・図版作成は大西と  
高尾が行った。
12. 第 4 章 南江戸上沖遺跡出土の中世人骨の分析では、特定非営利活動法人人類学研究機構  
松下孝幸氏・松下真実氏に分析及び寄稿して頂いた。記して感謝申し上げます。
13. 本書に関する資料は、松山市立埋蔵文化財センターが保管・収蔵している。
14. 本書の執筆と編集は、高尾が行った。
15. 報告書抄録は、巻末に掲載している。
16. 本書における報告書の内容は、調査概要報告書、『年報 28』（2016 年刊行）と『年報 29』（2017 年刊行）  
の内容に相違点がある場合、本書を持って訂正したものとする。

# 本文目次

第1章	はじめに	1		
第1節	調査に至る経緯			
	1. 南江戸上沖遺跡1次調査	2. 南江戸上沖遺跡2次調査		
第2節	整理及び編集・刊行組織			
	1. 整理組織	2. 編集・刊行組織		
第3節	立地と環境			
	1. 地理的環境	2. 歴史的環境		
第2章	南江戸上沖遺跡1次調査	7		
第1節	調査の経過と組織			
	1. 調査の経過	2. 調査組織		
第2節	調査の成果			
	1. 層位	2. 遺構と遺物	3. 小結	
第3章	南江戸上沖遺跡2次調査	113		
第1節	調査の経過と組織			
	1. 調査の経過	2. 調査組織		
第2節	調査の成果			
	1. 層位	2. 1区の調査	3. 2区の調査	
	4. 3区の調査	5. 4区の調査	6. 5区の調査	7. 小結
第4章	南江戸上沖遺跡出土の中世人骨	279		
第5章	調査の成果と課題	298		

# 挿図目次

## 第1章 はじめに

第1図 調査地周辺遺跡分布図	6
----------------	---

## 第2章 南江戸上沖遺跡1次調査

第2図 調査区割り図	8	第33図 SK21 測量図	36
第3図 調査地位置図及び周辺遺跡分布図	9	第34図 SK22 測量図	37
第4図 遺構配置図	10	第35図 SK23 測量図	37
第5図 古墳時代の遺構配置図	11	第36図 SK25 測量図	38
第6図 SX1 遺物出土状況図 (1)	12	第37図 SK26 測量図	38
第7図 SX1 遺物出土状況図 (2)	13	第38図 SK27 測量図	38
第8図 SX1 出土遺物実測図 (1)	14	第39図 SK28 測量図・出土遺物実測図	39
第9図 SX1 出土遺物実測図 (2)	15	第40図 SK31 測量図	39
第10図 SX1 出土遺物実測図 (3)	16	第41図 SK16 測量図・出土遺物実測図	40
第11図 SX1 出土遺物実測図 (4)	17	第42図 SK18 測量図・出土遺物実測図	41
第12図 SX1 出土遺物実測図 (5)	18	第43図 SK24 測量図・出土遺物実測図	42
第13図 SX1 出土遺物実測図 (6)	19	第44図 SK29 測量図・出土遺物実測図	43
第14図 SX2 遺物出土状況図 (1)	21	第45図 SK30 測量図・出土遺物実測図	43
第15図 SX2 遺物出土状況図 (2)	22	第46図 SK32 遺物出土状況図・出土遺物実測図	44
第16図 SX2 出土遺物実測図 (1)	23	第47図 SE6 測量図・出土遺物実測図	45
第17図 SX2 出土遺物実測図 (2)	24	第48図 SE7 測量図・出土遺物実測図	46
第18図 SX2 出土遺物実測図 (3)	25	第49図 SE9 測量図	47
第19図 SX2 出土遺物実測図 (4)	26	第50図 SE9 出土遺物実測図	48
第20図 P1 地点出土土師器測量図	27	第51図 SE10 測量図・出土遺物実測図	49
第21図 P2 地点出土土師器測量図	27	第52図 SE14 (SK14) 測量図・出土遺物実測図	50
第22図 P3 地点測量図・出土遺物実測図	28	第53図 SE15 (SK17) 測量図・出土遺物実測図・写真	51
第23図 P4 地点出土須恵器測量図	29	第54図 SP2 (水琴窟) 測量図・出土遺物実測図	52
第24図 P4 地点出土須恵器実測図	30	第55図 SD1・2・3・4 測量図	54
第25図 SK1 測量図・出土遺物実測図	31	第56図 SD5 測量図・出土遺物写真	55
第26図 中世の遺構配置図	32	第57図 SD6・7 測量図・遺物出土状況図	57
第27図 SK10 測量図・出土遺物実測図 (1)	33	第58図 SD6 出土遺物実測図 (1)	57
第28図 SK10 出土遺物実測図 (2)	34	第59図 SD6 出土遺物実測図 (2)	58
第29図 SK12 測量図	35	第60図 SD6 出土遺物実測図 (3)・写真	59
第30図 SK13 測量図・出土遺物実測図	35	第61図 SD8・9・10・11 測量図	60
第31図 SK15 測量図	36	第62図 SD8 出土遺物実測図・写真	61
第32図 SK19 測量図	36	第63図 SD8・9・10・11 遺物出土状況図	62

第 64 図	SD9 出土遺物実測図・写真	64	第 82 図	グリッド出土遺物実測図・拓本	78
第 65 図	SD10 出土遺物実測図	65	第 83 図	SK7 測量図・出土遺物実測図	78
第 66 図	SD11 出土遺物実測図	66	第 84 図	近現代の遺構配置図	79
第 67 図	SD12 測量図・出土遺物実測図	67	第 85 図	SK4・5 測量図・SK4 出土遺物実測図	80
第 68 図	SD13 出土遺物実測図・写真	68	第 86 図	SK5 出土遺物実測図	81
第 69 図	SD13・14 測量図・遺物出土状況図	69	第 87 図	SK6 測量図・出土遺物実測図	81
第 70 図	SD14 出土遺物実測図・拓本	70	第 88 図	SK8 測量図・出土遺物実測図・拓本	82
第 71 図	SD15・16 測量図・出土遺物実測図	71	第 89 図	SE1 測量図	83
第 72 図	SD17 出土遺物実測図	72	第 90 図	SE2 測量図	83
第 73 図	SD17・18・19 測量図	72	第 91 図	SE3 測量図	84
第 74 図	SD21・22 測量図・SD22 出土遺物実測図	73	第 92 図	SE4 (SE207) 測量図	84
第 75 図	SD23・24 測量図	73	第 93 図	SE4 (SE207) 出土遺物実測図	85
第 76 図	SX3 測量図	74	第 94 図	SE5 測量図・出土遺物実測図	85
第 77 図	SX4 測量図	74	第 95 図	SE11 (SK2) 測量図・出土遺物実測図	86
第 78 図	SP556 測量図・出土遺物拓本	75	第 96 図	SE12 (SK3) 測量図・出土遺物実測図	87
第 79 図	SP681 測量図・出土遺物拓本	75	第 97 図	SE13 (SK9) 測量図・出土遺物実測図・写真	88
第 80 図	柱穴出土遺物実測図 (1)・拓本	76	第 98 図	SP8・カクラン 36・48 出土遺物実測図・拓本・写真	88
第 81 図	柱穴出土遺物実測図 (2)・写真	77			

### 第 3 章 南江戸上沖遺跡 2 次調査

第 99 図	調査区区割り図	115	第 117 図	2 区遺構配置図	133
第 100 図	1 次調査・2 次調査遺構配置図	116	第 118 図	SK202 測量図・出土遺物実測図	134
第 101 図	1 区遺構配置図	117	第 119 図	SK203 測量図・出土遺物実測図	134
第 102 図	SD102 測量図	118	第 120 図	SK204 測量図・出土遺物実測図	135
第 103 図	SD102 出土遺物実測図	119	第 121 図	SK206 測量図・出土遺物実測図 (1)	135
第 104 図	SD103 測量図・出土遺物実測図	120	第 122 図	SK206 出土遺物実測図 (2)	136
第 105 図	SD104 測量図	120	第 123 図	SK207 測量図	136
第 106 図	SD104 出土遺物実測図	121	第 124 図	SK211 測量図・出土遺物実測図	136
第 107 図	SD105 測量図・出土遺物実測図	121	第 125 図	SK212 測量図	136
第 108 図	SD106 測量図	122	第 126 図	SK213 測量図・出土遺物実測図	137
第 109 図	SD106 出土遺物実測図	123	第 127 図	SK214 測量図・出土遺物実測図	137
第 110 図	SD107 測量図	124	第 128 図	SK215 測量図	137
第 111 図	SK101 出土遺物実測図	124	第 129 図	SK216 測量図・出土遺物実測図	138
第 112 図	SD101 出土遺物実測図	125	第 130 図	SK217 (SE203) 測量図	138
第 113 図	SX101 出土遺物実測図	125	第 131 図	SK217 (SE203) 出土遺物実測図	139
第 114 図	SX102 出土遺物実測図	125	第 132 図	SK218 (SE205) 測量図	140
第 115 図	出土地点不明遺物実測図	126	第 133 図	SK218 (SE205) 出土遺物実測図 (1)	141
第 116 図	SK201 測量図・出土遺物実測図	132	第 134 図	SK218 (SE205) 出土遺物実測図 (2)	142

第 135 図	SK219 (SE206) 測量図・出土遺物実測図	143	第 173 図	SD206 測量図・出土遺物実測図	180
第 136 図	SK220 (SE210) 測量図・出土遺物実測図	143	第 174 図	SD207 測量図	180
第 137 図	SE201 測量図	144	第 175 図	SD208 測量図	180
第 138 図	SE201 出土遺物実測図	145	第 176 図	SD209 測量図	181
第 139 図	SE202 測量図	146	第 177 図	SD210 測量図	181
第 140 図	SE202 出土遺物実測図	147	第 178 図	SD211 測量図	181
第 141 図	SE204 測量図 (1)	148	第 179 図	SD212 測量図	181
第 142 図	SE204 測量図 (2)・出土遺物実測図 (1)	149	第 180 図	SD212 出土遺物実測図	182
第 143 図	SE204 出土遺物実測図 (2)	150	第 181 図	SD213・216 測量図	183
第 144 図	SE204 出土遺物実測図 (3)	151	第 182 図	SD213 出土遺物実測図 (1)	183
第 145 図	SE204 出土遺物実測図 (4)	152	第 183 図	SD213 出土遺物実測図 (2)	184
第 146 図	SE204 出土遺物実測図 (5)	153	第 184 図	SD216 出土遺物実測図	184
第 147 図	SE208 測量図・出土遺物実測図	154	第 185 図	SD214 測量図・出土遺物実測図	185
第 148 図	SE209 測量図・出土遺物実測図	155	第 186 図	SD215 測量図	185
第 149 図	SE211 (SK208) 測量図・出土遺物実測図	156	第 187 図	SD217 測量図・出土遺物実測図	185
第 150 図	SE212 (SK210) 出土遺物実測図 (1)	157	第 188 図	SD218 測量図・出土遺物実測図	186
第 151 図	SE212 (SK210) 測量図	158	第 189 図	SD219 測量図・出土遺物実測図	187
第 152 図	SE212 (SK210) 出土遺物実測図 (2)	159	第 190 図	SD220・221 測量図	187
第 153 図	SE213 測量図・出土遺物実測図	159	第 191 図	SD222 測量図・出土遺物実測図	188
第 154 図	SE214 (SK205) 測量図・出土遺物実測図	160	第 192 図	SD223 測量図	188
第 155 図	SE215 測量図・出土遺物実測図	161	第 193 図	SD224 測量図	188
第 156 図	SE216 測量図	162	第 194 図	SD226・227 測量図	189
第 157 図	SE216 出土遺物実測図	163	第 195 図	グリッド出土遺物実測図	190
第 158 図	SD201 測量図	165	第 196 図	カクラン 201 出土遺物実測図	190
第 159 図	SD201 出土遺物実測図 (1)	166	第 197 図	出土地点不明遺物実測図 (1)	190
第 160 図	SD201 出土遺物実測図 (2)	167	第 198 図	出土地点不明遺物実測図 (2)・拓本	191
第 161 図	SD201 出土遺物実測図 (3)	168	第 199 図	第 2 面出土遺物実測図	191
第 162 図	SD201 出土遺物実測図 (4)	169	第 200 図	SK301 測量図	215
第 163 図	SD201 出土遺物実測図 (5)	170	第 201 図	SK302 測量図	215
第 164 図	SD201 出土遺物実測図 (6)	171	第 202 図	SK303 測量図	215
第 165 図	SD201 出土遺物実測図 (7)	172	第 203 図	3 区遺構配置図	216
第 166 図	SD201 出土遺物実測図 (8)	173	第 204 図	SK304 測量図	217
第 167 図	SD201 出土遺物実測図 (9)	174	第 205 図	SK309 測量図 (1)	217
第 168 図	SD202・203・204 測量図	175	第 206 図	SK309 人骨出土状況写真 (南より)	217
第 169 図	SD202 出土遺物実測図	176	第 207 図	SK309 測量図 (2)・出土遺物実測図	218
第 170 図	SD203 出土遺物実測図	177	第 208 図	SK310 測量図・出土遺物実測図	219
第 171 図	SD204 出土遺物実測図	178	第 209 図	SK310 人骨出土状況写真 (南より)	219
第 172 図	SD205 測量図・出土遺物実測図	179	第 210 図	SK311 測量図・出土遺物実測図	220

第 211 図	SK311 人骨出土状況写真 (南東より)	220	第 242 図	SK406 測量図・出土遺物実測図	248
第 212 図	SK312 測量図	221	第 243 図	SK407 測量図・出土遺物実測図	248
第 213 図	SK312 人骨出土状況写真 (西より)	221	第 244 図	SK408 測量図・出土遺物実測図	249
第 214 図	SK313 測量図	222	第 245 図	SE401 (SE8) 測量図	250
第 215 図	SK313 人骨出土状況写真 (南より)	222	第 246 図	SE401 (SE8) 出土遺物実測図	251
第 216 図	SE301 測量図	223	第 247 図	SE402 測量図・遺物出土状況図	252
第 217 図	SE301 出土遺物実測図	224	第 248 図	SE402 出土遺物実測図	253
第 218 図	SE302 測量図・出土遺物実測図	224	第 249 図	SE403 測量図・遺物出土状況図	254
第 219 図	SE303 (SK307) 測量図・出土遺物実測図	225	第 250 図	SE403 出土遺物実測図	255
第 220 図	SE304 測量図・出土遺物実測図	226	第 251 図	SD401・402 測量図	256
第 221 図	SD301・302 測量図	227	第 252 図	SD401 出土遺物実測図	256
第 222 図	SD301 出土遺物実測図	228	第 253 図	SD402 出土遺物実測図	256
第 223 図	SD302 出土遺物実測図	229	第 254 図	SD403 測量図・出土遺物実測図	257
第 224 図	SD303・304 測量図	230	第 255 図	SD404・405 測量図	257
第 225 図	SD303 出土遺物実測図	230	第 256 図	SD404 出土遺物実測図	257
第 226 図	SD304 出土遺物実測図	231	第 257 図	SD406 測量図・出土遺物実測図	258
第 227 図	SD306 測量図	232	第 258 図	SD407 測量図・出土遺物実測図	259
第 228 図	SD307 測量図	232	第 259 図	SD409・410・411 測量図	259
第 229 図	SD308・309 測量図	232	第 260 図	SD412・413 測量図	260
第 230 図	SD310 測量図	233	第 261 図	SD412 出土遺物実測図	260
第 231 図	SP3276 測量図	233	第 262 図	SD413 出土遺物実測図	260
第 232 図	SP3276 出土銅銭拓本	234	第 263 図	SD414 測量図	261
第 233 図	グリッド出土遺物実測図	235	第 264 図	グリッド出土遺物実測図 (1)	261
第 234 図	出土地点不明遺物実測図 (1)	235	第 265 図	グリッド出土遺物実測図 (2)	262
第 235 図	出土地点不明遺物実測図 (2)	236	第 266 図	出土地点不明遺物実測図	262
第 236 図	SK401 測量図	245	第 267 図	5 区遺構配置図	272
第 237 図	SK402 測量図・出土遺物実測図	245	第 268 図	SK501 測量図・出土遺物実測図	273
第 238 図	4 区遺構配置図	246	第 269 図	SD501 測量図・出土遺物実測図 (1)	274
第 239 図	SK403 測量図・出土遺物実測図	247	第 270 図	SD501 出土遺物実測図 (2)	275
第 240 図	SK404 測量図・出土遺物実測図	247	第 271 図	SD502 測量図	275
第 241 図	SK405 測量図・出土遺物実測図	248	第 272 図	グリッド出土遺物実測図	275

#### 第 4 章 南江戸上沖遺跡出土中世人骨

第 273 図	調査区全景写真	279	第 278 図	SK312 人骨出土状況写真	283
第 274 図	遺跡の位置図	280	第 279 図	SK313 人骨出土状況写真	283
第 275 図	SK309 人骨出土状況写真	282	第 280 図	SK309・SK311 人骨の残存図	292
第 276 図	SK310 人骨出土状況写真	282	第 281 図	SK312・SK313 人骨の残存図	293
第 277 図	SK311 人骨出土状況写真	282	第 282 図	SK309 人骨写真	294

第 283 図 SK310 人骨写真	295	第 285 図 SK312 人骨写真	296
第 284 図 SK311 人骨写真	295	第 286 図 SK313 人骨写真	297

## 第 5 章 調査の成果と課題

第 287 図 南江戸上沖遺跡区画溝配置図	303	第 290 図 南江戸上沖遺跡中世井戸位置図	307
第 288 図 南江戸地区中世区画溝遺跡位置図	304	第 291 図 南江戸地区の中世土壙墓遺跡位置図	310
第 289 図 南江戸地区の中世井戸遺跡位置図	305	第 292 図 南江戸上沖遺跡中世土壙墓位置図	312

# 表目次

## 第 1 章 はじめに

表 1 調査地一覧	1
-----------	---

## 第 2 章 南江戸上沖遺跡 1 次調査

表 2 土坑一覧	90	表 26 SE14 (SK14) 出土遺物観察表 (土製品)	
表 3 土壙墓一覧	91	表 27 SE15 (SK17) 出土遺物観察表 (土製品)	
表 4 井戸一覧		表 28 SE15 (SK17) 出土遺物観察表 (石製品)	102
表 5 溝一覧	92	表 29 SE15 (SK17) 出土遺物観察表 (鉄製品)	
表 6 性格不明遺構一覧	93	表 30 SP2 (水琴窟) 出土遺物観察表 (土製品)	
表 7 第 X 層上面 (第 2 面) 出土遺物遺構一覧		表 31 SD5 出土遺物観察表 (金属製品)	
表 8 SX1 出土遺物観察表 (土製品)	94	表 32 SD6 出土遺物観察表 (土製品)	
表 9 SX2 出土遺物観察表 (土製品)	96	表 33 SD6 出土遺物観察表 (石製品)	104
表 10 P3・P4 地点出土遺物観察表 (土製品)	98	表 34 SD6 出土遺物観察表 (金属製品)	
表 11 SK1 出土遺物観察表 (土製品)		表 35 SD8 出土遺物観察表 (土製品)	
表 12 SK10 出土遺物観察表 (土製品)		表 36 SD8 出土遺物観察表 (金属製品)	
表 13 SK13 出土遺物観察表 (土製品)	99	表 37 SD9 出土遺物観察表 (土製品)	105
表 14 SK28 出土遺物観察表 (土製品)		表 38 SD9 出土遺物観察表 (金属製品)	
表 15 SK16 (土壙墓) 出土遺物観察表 (土製品)		表 39 SD10 出土遺物観察表 (土製品)	
表 16 SK18 (土壙墓) 出土遺物観察表 (土製品)		表 40 SD11 出土遺物観察表 (土製品)	106
表 17 SK18 (土壙墓) 出土遺物観察表 (石製品)		表 41 SD11 出土遺物観察表 (金属製品)	107
表 18 SK24 (土壙墓) 出土遺物観察表 (土製品)		表 42 SD12 出土遺物観察表 (金属製品)	
表 19 SK29 (土壙墓) 出土遺物観察表 (土製品)	100	表 43 SD13 出土遺物観察表 (土製品)	
表 20 SK30 (土壙墓) 出土遺物観察表 (土製品)		表 44 SD13 出土遺物観察表 (金属製品)	
表 21 SK32 (土壙墓) 出土遺物観察表 (土製品)		表 45 SD14 出土遺物観察表 (土製品)	
表 22 SE6 出土遺物観察表 (土製品)		表 46 SD14 出土遺物観察表 (石製品)	108
表 23 SE7 出土遺物観察表 (土製品)		表 47 SD14 出土遺物観察表 (金属製品)	
表 24 SE9 出土遺物観察表 (土製品)	101	表 48 SD15 出土遺物観察表 (土製品)	
表 25 SE10 出土遺物観察表 (土製品)		表 49 SD16 出土遺物観察表 (土製品)	

表 50	SD17 出土遺物観察表 (金属製品)	表 62	SK8 (土墳墓) 出土遺物観察表 (金属製品)
表 51	SD22 出土遺物観察表 (土製品)	表 63	SE4 (SE207) 出土遺物観察表 (土製品)
表 52	SP556 出土遺物観察表 (金属製品)	表 64	SE5 出土遺物観察表 (土製品)
表 53	SP681 出土遺物観察表 (金属製品) ……109	表 65	SE11 (SK2) 出土遺物観察表 (土製品)
表 54	SP 出土遺物観察表 (金属製品)	表 66	SE11 (SK2) 出土遺物観察表 (石製品) …112
表 55	グリッド出土遺物観察表 (土製品)	表 67	SE12 (SK3) 出土遺物観察表 (土製品)
表 56	グリッド出土遺物観察表 (金属製品) ……110	表 68	SE12 (SK3) 出土遺物観察表 (石製品)
表 57	SK7 出土遺物観察表 (土製品)	表 69	SE13 (SK9) 出土遺物観察表 (土製品)
表 58	SK4 (土墳墓) 出土遺物観察表 (土製品)	表 70	SE13 (SK9) 出土遺物観察表 (金属製品)
表 59	SK5 (土墳墓) 出土遺物観察表 (土製品)	表 71	SP8 出土遺物観察表 (装飾品)
表 60	SK6 (土墳墓) 出土遺物観察表 (土製品)	表 72	カクラン 36 出土遺物観察表 (金属製品)
表 61	SK8 (土墳墓) 出土遺物観察表 (石製品・ガラス製品) · 111	表 73	カクラン 48 出土遺物観察表 (金属製品)

### 第3章 南江戸上沖遺跡2次調査

表 74	1区土坑一覧 ……127	表 98	SK211 出土遺物観察表 (土製品)
表 75	1区溝一覧	表 99	SK213 出土遺物観察表 (土製品)
表 76	1区性格不明遺構一覧 ……128	表 100	SK214 出土遺物観察表 (土製品) ……197
表 77	SD102 出土遺物観察表 (土製品)	表 101	SK216 出土遺物観察表 (土製品)
表 78	SD103 出土遺物観察表 (土製品) ……129	表 102	SK217 (SE203) 出土遺物観察表 (土製品)
表 79	SD104 出土遺物観察表 (土製品)	表 103	SK217 (SE203) 出土遺物観察表 (石製品)
表 80	SD105 出土遺物観察表 (土製品)	表 104	SK218 (SE205) 出土遺物観察表 (土製品)
表 81	SD106 出土遺物観察表 (土製品)	表 105	SK218 (SE205) 出土遺物観察表 (石製品)
表 82	SD106 出土遺物観察表 (金属製品) ……130	表 106	SK219 (SE206) 出土遺物観察表 (土製品) …198
表 83	SK101 出土遺物観察表 (土製品)	表 107	SK220 (SE210) 出土遺物観察表 (土製品) …199
表 84	SD101 出土遺物観察表 (土製品)	表 108	SE201 出土遺物観察表 (土製品)
表 85	SX101 出土遺物観察表 (土製品)	表 109	SE202 出土遺物観察表 (土製品) ……200
表 86	SX102 出土遺物観察表 (土製品) ……131	表 110	SE204 出土遺物観察表 (土製品)
表 87	出土地点不明出土遺物観察表 (土製品)	表 111	SE204 出土遺物観察表 (石製品)
表 88	出土地点不明出土遺物観察表 (石製品)	表 112	SE208 出土遺物観察表 (土製品) ……202
表 89	2区土坑一覧 ……192	表 113	SE209 出土遺物観察表 (土製品)
表 90	2区井戸一覧 ……193	表 114	SE211 (SK208) 出土遺物観察表 (土製品)
表 91	2区溝一覧 ……194	表 115	SE212 (SK210) 出土遺物観察表 (土製品) …203
表 92	SK201 出土遺物観察表 (土製品) ……195	表 116	SE212 (SK210) 出土遺物観察表 (石製品) …204
表 93	SK202 出土遺物観察表 (土製品)	表 117	SE213 出土遺物観察表 (土製品)
表 94	SK203 出土遺物観察表 (土製品)	表 118	SE214 (SK205) 出土遺物観察表 (土製品)
表 95	SK204 出土遺物観察表 (土製品) ……196	表 119	SE215 出土遺物観察表 (土製品)
表 96	SK206 出土遺物観察表 (土製品)	表 120	SE216 出土遺物観察表 (土製品)
表 97	SK206 出土遺物観察表 (石製品)	表 121	SD201 出土遺物観察表 (土製品) ……206



表 122	SD201 出土遺物観察表 (石製品) ……	208	表 160	SD301 出土遺物観察表 (石製品) ……	241
表 123	SD202 出土遺物観察表 (土製品) ……	209	表 161	SD302 出土遺物観察表 (土製品)	
表 124	SD202 出土遺物観察表 (石製品)		表 162	SD302 出土遺物観察表 (石製品)	
表 125	SD203 出土遺物観察表 (土製品) ……	210	表 163	SD303 出土遺物観察表 (土製品)	
表 126	SD204 出土遺物観察表 (土製品)		表 164	SD304 出土遺物観察表 (土製品) ……	242
表 127	SD204 出土遺物観察表 (石製品)		表 165	SP3276 出土遺物観察表 (金属製品)	
表 128	SD205 出土遺物観察表 (土製品)		表 166	グリッド出土遺物観察表 (土製品) ……	244
表 129	SD206 出土遺物観察表 (土製品)		表 167	出土地点不明出土遺物観察表 (土製品)	
表 130	SD212 出土遺物観察表 (土製品) ……	211	表 168	4区土坑一覧 ……	263
表 131	SD213 出土遺物観察表 (土製品)		表 169	4区井戸一覧	
表 132	SD216 出土遺物観察表 (土製品)		表 170	4区溝一覧 ……	264
表 133	SD214 出土遺物観察表 (土製品) ……	212	表 171	SK402 出土遺物観察表 (土製品)	
表 134	SD217 出土遺物観察表 (土製品)		表 172	SK403 出土遺物観察表 (土製品) ……	265
表 135	SD218 出土遺物観察表 (土製品)		表 173	SK404 出土遺物観察表 (土製品)	
表 136	SD219 出土遺物観察表 (土製品)		表 174	SK405 出土遺物観察表 (土製品)	
表 137	SD222 出土遺物観察表 (土製品) ……	213	表 175	SK406 出土遺物観察表 (土製品)	
表 138	SD222 出土遺物観察表 (石製品)		表 176	SK407 出土遺物観察表 (土製品)	
表 139	グリッド出土遺物観察表 (土製品)		表 177	SK408 出土遺物観察表 (土製品)	
表 140	カクラン 201 出土遺物観察表 (土製品)		表 178	SE401 (SE8) 出土遺物観察表 (土製品) ……	266
表 141	出土地点不明出土遺物観察表 (土製品) ……	214	表 179	SE402 出土遺物観察表 (土製品)	
表 142	出土地点不明出土遺物観察表 (石製品)		表 180	SE403 出土遺物観察表 (土製品) ……	268
表 143	出土地点不明出土遺物観察表 (金属製品)		表 181	SD401 出土遺物観察表 (土製品) ……	269
表 144	第2面出土遺物観察表 (土製品)		表 182	SD402 出土遺物観察表 (土製品)	
表 145	第2面出土遺物観察表 (石製品)		表 183	SD403 出土遺物観察表 (土製品)	
表 146	3区土坑一覧 ……	237	表 184	SD404 出土遺物観察表 (土製品)	
表 147	3区土壙墓一覧		表 185	SD406 出土遺物観察表 (土製品)	
表 148	3区井戸一覧 ……	238	表 186	SD407 出土遺物観察表 (土製品) ……	270
表 149	3区溝一覧		表 187	SD412 出土遺物観察表 (土製品)	
表 150	SK309 出土遺物観察表 (土製品) ……	239	表 188	SD413 出土遺物観察表 (土製品)	
表 151	SK310 出土遺物観察表 (土製品)		表 189	グリッド出土遺物観察表 (土製品)	
表 152	SK311 出土遺物観察表 (土製品)		表 190	グリッド出土遺物観察表 (石製品) ……	271
表 153	SK311 出土遺物観察表 (金属製品)		表 191	出土地点不明出土遺物観察表 (土製品)	
表 154	SE301 出土遺物観察表 (土製品)		表 192	5区土坑墓一覧 ……	276
表 155	SE302 出土遺物観察表 (土製品)		表 193	5区溝一覧	
表 156	SE302 出土遺物観察表 (石製品) ……	240	表 194	SK501(土壙墓) 出土遺物観察表 (土製品)	
表 157	SE303 (SK307) 出土遺物観察表 (土製品)		表 195	SD501 出土遺物観察表 (土製品) ……	277
表 158	SE304 出土遺物観察表 (土製品)		表 196	SD501 出土遺物観察表 (石製品)	
表 159	SD301 出土遺物観察表 (土製品)		表 197	グリッド出土遺物観察表 (土製品)	

## 第4章 南江戸上沖遺跡出土中世人骨

表 198	資料数 (Table 1. Number of materials)	281	表 202	大腿骨計測値	
表 199	出土人骨一覧 (Table 2. List of skeletons)		表 203	下顎骨	291
表 200	年齢区分 (Table 3. Division of age)		表 204	上腕骨	
表 201	上腕骨計測値	290	表 205	大腿骨	

## 第5章 調査の成果と課題

表 206	遺跡別祭祀遺物一覧表	300	表 212	水溜の構造	
表 207	祭祀遺構遺物別出土数一覧表	301	表 213	組み合わせ (井戸側が素掘り + 水溜)	
表 208	出土遺物総点数		表 214	組み合わせ (井戸側が石組み + 水溜)	
表 209	区画溝一覧表	303	表 215	組み合わせ (井戸側が曲げ物 + 水溜)	
表 210	井戸の平面形	307	表 216	土壙墓分類表	311
表 211	井戸側の構造	309	表 217	土壙墓分類比率	

# 写真図版目次

巻頭図版 1	南江戸上沖遺跡 1 次調査 SE9	巻頭図版 4	南江戸上沖遺跡 2 次調査 SK310
巻頭図版 2	南江戸上沖遺跡 2 次調査 SE401	巻頭図版 5	南江戸上沖遺跡 1 次調査 SX1 出土遺物
巻頭図版 3	南江戸上沖遺跡 2 次調査 SK309	巻頭図版 6	南江戸上沖遺跡 1 次調査 SX2 出土遺物

## 第2章 南江戸上沖遺跡 1 次調査

図版 1	1. 調査前状況① (北より)	図版 7	1. SK10 遺物出土状況 (南より)
	2. 調査前状況② (西より)		2. SK16 遺物出土状況 (南東より)
	3. 1 区北・南遺構検出状況 (南西より)		3. SK18 遺物出土状況 (東より)
図版 2	1. 1 区北遺構検出状況 (東より)	図版 8	1. SK30 遺物出土状況 (南より)
	2. 1 区南遺構検出状況 (南西より)		2. SE6 完掘状況 (南西より)
	3. 1 区南遺構完掘状況 (南西より)		3. SE9 完掘状況 (南より)
図版 3	1. 2 区遺構検出状況 (西より)	図版 9	1. SE9 半掘状況 (南より)
	2. 2 区遺構完掘状況① (西より)		2. SE10 土層状況 (南より)
	3. 2 区遺構完掘状況② (西より)		3. SE15 (SK17) 完掘状況 (北より)
図版 4	1. 2 区遺構完掘状況③ (南西より)	図版 10	1. SP2 (水琴窟) 検出状況 (北東より)
	2. 2 区遺構完掘状況④ (北より)		2. SK8 完掘状況 (北西より)
	3. 2 区遺構完掘状況⑤ (北より)		3. SE1 完掘状況 (北東より)
図版 5	1. SX1 遺物出土状況① (南東より)	図版 11	1. SE3 完掘状況 (南より)
	2. SX1 遺物出土状況② (北西より)		2. SE11 (SK2) 完掘状況 (西より)
	3. SX2 遺物出土状況① (東より)		3. SE12 (SK3) 検出状況 (南西より)
図版 6	1. SX2 遺物出土状況② (西より)	図版 12	1. SX1 出土遺物①
	2. P4 地点甕出土状況 (西より)	図版 13	1. SX1 出土遺物②
	3. P3 地点土師器出土状況 (北より)		

図版 14 1. SX1 出土遺物③、SX2 出土遺物①

図版 15 1. SX2 出土遺物②

図版 16 1. P3・P4 地点、SK10 出土遺物

図版 17 1. SK28、土墳墓 SK16・18・24・29・30 出土遺物

図版 18 1. 土墳墓 SK32、SE7・9・10・15 出土遺物

図版 19 1. SD6・8・9・10・11・14、SK8 出土遺物

### 第3章 南江戸上沖遺跡2次調査

図版 20 1. 1区遺構検出状況（北より）

2. 1区遺構完掘状況（北より）

3. 2区遺構検出状況（南より）

4. 2区遺構完掘状況（西より）

5. SE202 完掘状況（西より）

6. SE208 完掘状況（北西より）

図版 21 1. SE209 完掘状況（南より）

2. SE212 (SK210) 完掘状況（南東より）

3. 3区遺構検出状況（南より）

4. 3区完掘状況（奥）（東より）

5. SD301・302 完掘状況（西より）

6. SK309 人骨出土状況（東より）

図版 22 1. SK310 人骨出土状況（南より）

2. SE301 完掘状況（南西より）

3. SE302 曲げ物検出状況（南より）

4. SE303 完掘状況（南より）

5. SE304 完掘状況（南より）

6. SP3276 銅銭出土状況（南より）

図版 23 1. 4区遺構検出状況（北東より）

2. 4区遺構完掘状況（東より）

3. SE401 完掘状況（東より）

4. SE401 半掘状況（東より）

5. SE402 遺物出土状況（南東より）

6. SE402・403 完掘状況（東より）

図版 24 1. 5区遺構検出状況（東より）

2. 5区遺構完掘状況（東より）

3. 5区遺構完掘状況（南西より）

4. SK501 遺物出土状況①（南西より）

5. SK501 遺物出土状況②（南東より）

6. SK501 遺物出土状況③（南西より）

図版 25 1. SD102・104・106、SK101、1区出土地点不明、SK204・217・218、SE201・202・204 出土遺物

図版 26 1. SE214・216、SD201 出土遺物

図版 27 1. SD201・202・204 出土遺物

図版 28 1. SD206・213・216・219・222、2区グリッド、2区カクラン 201、2区出土地点不明、2区第2面出土遺物

図版 29 1. SK309・310・311、SE303、SD301・304、3区グリッド、3区出土地点不明出土遺物

図版 30 1. SE401・402・403、SD403、4区グリッド、SK501、SD501 出土遺物

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査に至る経緯

### 1. 南江戸上沖遺跡1次調査

平成21年、松山市都市整備部松山駅周辺整備課より松山駅周辺土地区画整理事業（駅西地区）に伴う埋蔵文化財確認申込書が、松山市教育委員会文化財課（以下、文化財課）に提出された。

申請地の位置する南江戸周辺では、平成27年10月に南江戸下沖遺跡の調査が行われ中世の集落に関連する柱の穴が見つかった。更にその西側にある大峰ヶ台丘陵とその周辺では、大峰ヶ台遺跡、古照遺跡・南斎院土居北遺跡・南江戸<sup>くじめ</sup>鬮目遺跡・松環古照遺跡・古照ゴウラ遺跡・辻町遺跡・朝美辻遺跡・朝美澤遺跡などがある。弥生時代では朝美澤遺跡2次調査から前期の遺跡が見つまっている。中期では大峰ヶ台4次調査があり、大峰ヶ台頂上部で高地性集落が見つまっている。後期では朝美澤遺跡から壺棺が出土している。古墳時代では前期古墳の朝日谷2号墳があり、主体部から銅鏡、銅鏃、鉄鏃など多くの副葬品が出土した。後期古墳は大峰ヶ台丘陵部に朝日谷1号墳、客谷古墳、大池東古墳など数多くの古墳が分布している。集落では、古照遺跡から灌漑用の堰が見つまっている。中期から後期では辻町遺跡から土器溜まりを8基確認し祭祀遺構と報告されている。中世では松環古照遺跡と南斎院北土居遺跡から一辺50mの方形館が確認されている。

文化財課、埋蔵文化財センターは確認申込書を受け、試掘調査を実施し、大部分が遺構・遺物が確認できなかったが、中世の遺構と遺物が確認できた一部の地区について埋蔵文化財が存在する可能性が高いと判断した。

試掘調査の結果を受け、文化財課、松山駅周辺整備課が協議を行い遺跡の存在が高いと判断した約1,900㎡に対して発掘調査を実施することとなった。

### 2. 南江戸上沖遺跡2次調査

平成27年9月より調査を行った南江戸上沖遺跡1次調査では、古墳時代の土器溜まり、中世の区画溝・土坑・井戸・柱穴など遺構を多数検出した。このことから、1次調査地の周辺には遺構が広い範囲で広がる可能性があるため、文化財課、埋蔵文化財センターは該当地の確認申込書を受け、平成27年12月に試掘調査を実施した。試掘調査の結果、中世の遺構と遺物が確認され、埋蔵文化財が存在する可能性が高いと判断された。

試掘調査の結果を受け、文化財課と松山駅周辺整備課は協議を行い、遺跡の存在が高いと判断した約2,100㎡に対して発掘調査を実施することとなった。

表1 調査地一覧

遺跡名	所在地	調査面積	屋外調査期間	整理事業期間
南江戸上沖遺跡1次調査	松山市南江戸一丁目507番1～516番1	約1,900㎡	平成27年8月24日(月) ～ 平成28年1月29日(金)	[出土物等整理] 平成30(2018)年10月1日～ 令和2(2020)年3月31日
南江戸上沖遺跡2次調査	松山市南江戸一丁目506番1～511番8	約2,100㎡	平成28年2月1日(月) ～ 平成28年7月5日(火)	[報告書編集] 令和2(2020)年4月1日～ 令和3(2021)年3月31日

## 第2節 整理及び編集・刊行組織

### 1. 整理組織〔平成30年度〕

公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団  
理事長 中山 紘治郎  
(5月29日～) 本田 元広  
事務局 局長 片山 雅央  
次長兼総務部長 高木 祝二  
文化振興部部長 小田 克己  
埋蔵文化財センター 所 長 村上 卓也  
主 任 高尾 和長  
(整理担当)

〔平成31年度〕

公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団  
理事長 本田 元広  
事務局 局長 片山 雅央  
次長兼総務部長 大野 昌孝  
施設管理部部長 片上 俊哉  
埋蔵文化財センター 所長兼館長 梅木 謙一  
主 任 高尾 和長  
(整理担当)

### 2. 編集・刊行組織〔令和3年4月1日現在〕

公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団  
理事長 本田 元広  
事務局 局長 片山 雅央  
次長兼施設管理部部長 杉野 公典  
埋蔵文化財センター 所長兼館長 梅木 謙一  
再雇用嘱託 高尾 和長  
(編集担当)  
一般嘱託 大西 朋子  
(写真担当)

## 第3節 立地と環境

### 1. 地理的環境

#### (1) 遺跡の立地

松山平野は四国山地北西部に位置し、石手川や重信川などの大小河川で形成された複合扇状地堆積物と沖積低地などで形成されている。このうち、石手川は高縄山地を水源とし、平野北東部を西進しながら、途中に重信川と合流する。石手川が形成した扇状地は、半径4kmに及ぶ。石手川扇状地は、古期扇状地面と新期扇状地面、さらには洪積世の段丘化した低位段丘面とに区分される。

この松山平野の西部に斎院地区と朝美地区が所在する南江戸地区がある。斎院地区は西方の伊予灘から2.5kmにある独立丘陵である弁天山の南東に位置する。朝美地区は弁天山の西1.0kmに位置する独立丘陵である大峰ヶ台丘陵の東に位置する。周辺の河川には、石手川支流の宮前川が大峰ヶ台丘陵の東から南へ迂回し弁天山と大峰ヶ台の間を抜けて北西に流れる。

## 2. 歴史的環境（第1図）

ここでは、遺跡の所在する南江戸（大峰ヶ台丘陵）、および周辺の遺跡分布等を概観していく。南江戸と大峰ヶ台丘陵には弥生時代以降の各期の遺跡が存在することが知られているが、これを遡る時期の遺構・遺物の検出例はみられていない。

### （1）縄文時代

縄文時代の遺物は、大峰ヶ台丘陵南麓直近にあつて、古墳時代前期の井堰が出土し、断続的に11次までの調査が行われている。古照遺跡の井堰を覆った洪水砂礫層中から、後期を中心として前期末～晩期の土器片の出土をみるが、遺物は石手川旧流路の氾濫に伴うものであつて、該期の遺構に伴うものではない。また、同丘陵北東麓の朝美澤遺跡2次調査包含層中から少量の後期土器片が出土している。

### （2）弥生時代

#### 前期

大峰ヶ台周辺部の微高地上で、弥生時代の遺構、遺物の出土が多くみられる。丘陵上や裾部では中～後期のものを主体とし、前期の遺跡は周辺の微高地上に分布している。これら前期の遺跡の中でも、朝美澤遺跡2次調査第3層出土の板付Ⅱa式併行期の遺物群は、松山平野の弥生時代の遺物としては最古段階の遺物が出土した遺跡のひとつである。また、調査地の西南方、弁天山丘陵東麓に所在する斎院烏山遺跡では環濠と考えられる溝状遺構から、前期末の一括遺物の出土をみている。

弁天山丘陵上に形成する斎院烏山遺跡1次・2次調査からは二重に廻る環濠集落が検出されている。鳥越遺跡からは前期末～中期初頭の土坑が検出されている。

#### 中期

大峰ヶ台遺跡4次調査として実施された丘陵頂上部の調査において、大型の円形竪穴建物、方形竪穴建物、掘立柱建物、段状遺構などの高地性集落が知られる。また、丘陵東麓で行われた大峰ヶ台遺跡6次調査や、さらに東方の朝美辻遺跡2次調査の西隣接した松山西部環状線に伴う大峰ヶ台Ⅱ遺跡の調査で、包含層遺物としての中期中葉の遺物の出土がある。近年では大峰ヶ台遺跡12次調査で溝から中期中葉の遺物が出土している。なお、現時点ではこれに続く中期後葉、凹線文期の遺跡はこの地域では確認されていない。

宮前川遺跡別府地区から集落関連遺構が検出され分銅形土製品1点が出土している。

#### 後期

遺跡数は増え、大峰ヶ台遺跡6次調査では丘陵鞍部に投棄された状況で、器台を多く含む後期中葉の土器群が出土し、また朝美澤遺跡では3基の壺棺墓が検出されている。

津田中学校構内遺跡からは多量の土器が出土し、大阪で作られた搬入品がある。鳥越遺跡、津田中学校構内遺跡1・2次調査では、土錘や石錘を多数伴った後期後半の火災住居の検出をはじめとして、多量の土器群が出土している。その中には搬入品の高松平野で作られた土器がある。

### (3) 古墳時代

調査地西方に所在する大峰ヶ台をはじめとして、周辺の岩子山、弁天山等の丘陵上には古墳が多く分布している。

大峰ヶ台丘陵北西面には、当平野最古の前方後円墳朝日谷2号墳があり、主体部粘土床上から2面の舶載鏡、40点を越える銅鏃・鉄鏃や鉄剣、ガラス玉等を出土している。また、西斜面で行われた同9次調査では、大池東古墳群として5世紀末～6世紀初頭の円墳群や、横穴式石室を主体部とする後期古墳群が調査されており、円墳群からは形象埴輪を含む埴輪類の出土がみられている。この丘陵には、そのほかにも横穴式石室を主体部に持つ後期古墳が多く分布しており、朝日谷1号墳や、大峰ヶ台3次調査・同5次調査で確認された客谷古墳群といった、6世紀後半～7世紀前半を主体とした円墳の調査が行われている。西方の弁天山古墳からは、箱式石棺を主体部にもち、石棺からは青銅鏡が2面出土している。また、津田山古墳からも箱式石棺と青銅鏡1面が検出されている。弁天山古墳の東側丘陵には、御産所古墳群と岩子山古墳群、西側丘陵には弁天山古墳群が形成される。このうち岩子山古墳からは、人物埴輪や馬型埴輪が出土している。古墳以外には、西方に古照遺跡や松環古照遺跡、古照ゴウラ遺跡、津田中学校構内遺跡と岩子山遺跡などがある。また、大峰ヶ台丘陵東の低地、宮前川左岸にある辻町遺跡・辻町遺跡2次調査からは、後期の祭祀関連遺構を検出し大峰ヶ台遺跡8次調査（辻遺跡2次調査）、大峰ヶ台遺跡Ⅱでは掘立柱建物跡が検出されている。

### (4) 古 代

朝美澤廃寺遺跡の調査によって平安時代の寺跡の一部が検出され、澤廃寺と命名された。そのほか、11世紀後半の朝美澤遺跡・朝美澤遺跡2次調査では、7世紀～8世紀中頃の掘立柱建物3棟を検出している。南江戸客谷遺跡では9～10世紀の集落関連遺構が検出されている。朝美澤遺跡2次調査では、10世紀以降の掘立柱建物が検出されている。南斎院土居北遺跡から出土した遺物には、土師器坏・皿の他に緑釉陶器、越州窯青磁碗、布目瓦などの古代の寺院や役所を関連を想定される遺物が出土している。

### (5) 中 世

中世以降になるとこの地域では、一気に遺跡の増加が見られる。前述の松山環状線に伴う大峰ヶ台丘陵北東麓部から南東部の調査によって中世の水田址、集落、墓等が見つかり、また、南江戸鬮目遺跡1次調査、古照遺跡上層部において多量の土師器、瓦器、須恵器が出土しており、これらの遺物は松山平野の中世土器編年の基準資料となっている。そのほか地域では集落遺跡とともに大峰ヶ台遺跡8次調査や辻町遺跡2次など中世墓の検出がなされており、集落内での墓域が中世から近世まで継続的に使用されている。北斎院地内遺跡1～3次調査からは15～16世紀の集落の広がりを確認している。北斎院地内遺跡4次調査から区画溝、建物、井戸、墓の集落遺構が検出され出土遺物には出土例の少ない風炉があり注目される遺跡である。南斎院土居北遺跡からは、一辺が50m、幅約3mを測る方形の居館跡が見つかり館内には井戸と掘立柱建物に伴う柱穴が多数検出された。館外には井戸、墓、溝、土坑、柱穴などが多数検出された。特に井戸は石組みのものと素掘りのものがあり、いずれも曲げ物を伴っている。墓は人骨が検出され伸展葬と屈葬があり、頭骨だけを埋葬したものもある。

(6) 近 世

近世の遺構では、墓を主体に調査が行われている。調査地北西の南江戸桑田遺跡は近世墓地で、11基の桶棺墓と1基の箱棺墓を検出し、その他にも土壙墓が検出された。北斎院地内遺跡では、墓や掘立柱建物を中心とした遺構群が検出され、集落内での墓域、生活域といった集落変遷の一端が窺える資料が出土している。

【参考文献】

- 梅木謙一 2005 「南江戸桑田」「大峰ヶ台6次・8次」「北斎院」『宮前川流域の遺跡』松山市文化財調査報告書第102集
- 梅木謙一 2006 「大峰ヶ台遺跡3次調査」「南江戸客谷遺跡」『大峰ヶ台遺跡Ⅲ』松山市文化財調査報告書 第110集
- 栗田茂敏 1995 『大峰ヶ台遺跡－第4次調査－』松山市文化財調査報告書 第48集
- 高尾和長 1998 『大峰ヶ台遺跡Ⅱ－第9次調査－』松山市文化財調査報告書 第62集
- 栗田茂敏 2007 『大峰ヶ台遺跡－第10次調査－』松山市文化財調査報告書 第119集
- 山之内志郎 2016 『衣山北組遺跡・谷町遺跡2次調査』松山市文化財調査報告書 第183集
- 相原浩二・河野史知 1995 『辻町遺跡－2次調査地－』松山市文化財調査報告書 第51集
- 栗田正芳 他 1995 「第10・11次」『古照遺跡』松山市文化財調査報告書 第47集
- 梅木謙一 1994 「北斎院地内」「斎院烏山」『斎院の遺跡』松山市文化財調査報告書 第43集
- 梅木謙一・宮内慎一 1992 『朝美澤遺跡・辻町遺跡』松山市文化財調査報告書 第29集
- 梅木謙一 2001 『斎院の遺跡Ⅱ』松山市文化財調査報告書 第80集
- 作田一耕 1998 『斎院・古照』愛媛県埋蔵文化財発掘調査報告書 第67集
- 大滝雅嗣 1987 『宮前川遺跡』愛媛県埋蔵文化財報告書
- 西尾幸則・栗田茂敏 1986 『宮前川遺跡』松山市教育委員会・松山市文化財調査報告書 第18集
- 西田栄 1986 「津田山古墳」『愛媛県史資料編考古』愛媛県史編纂委員会
- 森光晴 他 1976 「御産所権現山古墳」『埋蔵文化財発掘調査報告』松山市教育委員会
- 名本二六雄 1975 「岩子山古墳」松山市教育委員会
- 武正良浩 1994 「北斎院地内遺跡」『斎院の遺跡』松山市文化財調査報告書 第43集
- 中野良一 他 2004 『南斎院土居北遺跡・南江戸鬮目遺跡2次調査』愛媛県埋蔵文化財発掘調査報告書 第113集





S=1:25,000

**A** 南江戸上沖遺跡1次・2次調査

- |                      |                      |                       |                       |
|----------------------|----------------------|-----------------------|-----------------------|
| ① 御産所古墳              | ② 弁天山古墳              | ③ 宮前川遺跡別府地区           | ④ 岩子山古墳               |
| ⑤ 岩子山遺跡              | ⑥ 鳥越遺跡               | ⑦ 斎院烏山遺跡              | ⑧ 斎院烏山遺跡2次調査          |
| ⑨ 津田中学校構内遺跡1次調査      | ⑩ 津田中学校構内遺跡2次調査      | ⑪ 津田山古墳               | ⑫ 北斎院地内遺跡1次調査         |
| ⑬ 北斎院地内遺跡2次調査        | ⑭ 北斎院地内遺跡3次調査        | ⑮ 北斎院地内遺跡4次調査         | ⑯ 南斎院土居北遺跡            |
| ⑰ 客谷古墳群A(大峰ヶ台遺跡3次調査) | ⑱ 大峰ヶ台遺跡4次調査         | ⑲ 客谷古墳群B(大峰ヶ台遺跡3次調査)  | ⑳ 大峰ヶ台遺跡6次調査(辻遺跡1次調査) |
| ㉑ 朝日谷1号墳(大峰ヶ台遺跡7次調査) | ㉒ 朝日谷2号墳(大峰ヶ台遺跡7次調査) | ㉓ 大峰ヶ台遺跡8次調査(辻遺跡2次調査) | ㉔ 大池東古墳群(大峰ヶ台遺跡9次調査)  |
| ㉕ 大峰ヶ台遺跡12次調査        | ㉖ 南江戸客谷遺跡            | ㉗ 大峰ヶ台遺跡II            | ㉘ 朝美澤廃寺               |
| ㉙ 朝美澤遺跡              | ㉚ 朝美澤遺跡2次調査          | ㉛ 朝美辻遺跡2次調査           | ㉜ 辻町遺跡                |
| ㉝ 辻町遺跡2次調査           | ㉞ 南江戸桑田遺跡            | ㉟ 南江戸矚目遺跡             | ㊱ 古照遺跡                |
| ㊲ 松環古照遺跡             | ㊳ 古照ゴウラ遺跡            |                       |                       |

第1図 調査地周辺遺跡分布図

## 第2章 南江戸上沖遺跡1次調査

### 第1節 調査の経過と組織

#### 1. 調査の経過（第2図）

発掘調査（屋外調査）は、2015（平成27）年8月24日～2016（平成28）年1月29日の間実施した。調査は排土置き場の確保のため、調査区は北と南に分け、北を1区、南を2区とした。1区は南北に細分し、調査は1区北、1区南、1区南下層の第X層上面、2区の順で行った。

平成27年

- 8月24日（月）：重機を使用して建物基礎の撤去を開始する。
- 9月7日（月）：調査区を設定し、重機を使用して1区北より掘削作業を開始する。
- 9月15日（火）：1区北と1区南の掘削を終了し、遺構検出と遺構配置図の作成を行う。
- 9月29日（火）：高所作業車を使用して1区南の遺構検出状況の写真撮影を行う。
- 10月16日（金）：高所作業車を使用して1区北の遺構完掘状況の写真撮影を行う。
- 10月19日（月）：1区北の遺構測量図の作成と1区南の遺構掘り下げを行う。
- 11月6日（金）：1区南の第2面古墳時代の土器溜まり2ヶ所と須恵器と土師器の出土状況の写真撮影を行う。
- 11月13日（金）：2区を重機を使用して掘削作業を行う。
- 12月1日（火）：高所作業車を使用して1区南の遺構完掘状況と2区の遺構検出状況の写真撮影を行う。
- 12月8日（火）：東西方向と南北方向の溝が同一と思われるため、2区D9区を重機を使用して拡張を行う。

平成28年

- 1月5日（火）：古墳時代の土器溜まりSX1検出面第X層上面（第2面）まで重機を使用して掘削を行う。
- 1月12日（火）：第2面の精査を行い、第1面の掘残しの柱穴と古墳時代の遺物の広がり検出作業を行う。
- 1月20日（水）：報道関係者を対象とした現地説明会を行う。
- 1月21日（木）：高所作業車を使用して2区の遺構検出状況の写真撮影を行う。
- 1月23日（土）：一般市民を対象とした現地説明会を午前10時より行う。150人の参加があった。
- 1月29日（金）：2区の遺構測量を行い作業を終了する。

## 2. 調査組織

公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団

	理事 長	中山 紘治郎
事務局	局長	中西 真也
	次長兼総務部長	橋 昭司
	文化振興部部長	梶原 信之
埋蔵文化財センター	考古館館長兼所長	田城 武志
	主 査	梅木 謙一 (調査・研究)
	主 任	高尾 和長 (調査担当)
		大西 朋子 (写真担当)

## 第2節 調査の成果

### 1. 層 位

調査地は、標高 12.0 ~ 14.0 mを測る。調査前は宅地と水田として使用されていた。

基本層位は 10 層に分類できる。遺構検出面は第Ⅵ層と第Ⅹ層上面の 2 面ある。

第Ⅰ層：造成土

第Ⅱ層：耕作土 1

第Ⅲ層：床土 1

第Ⅳ層：耕作土 2

第Ⅴ層：床土 2

第Ⅵ層：にぶい黄橙色土 (10YR 7/3) 砂混じり (中世の検出面)

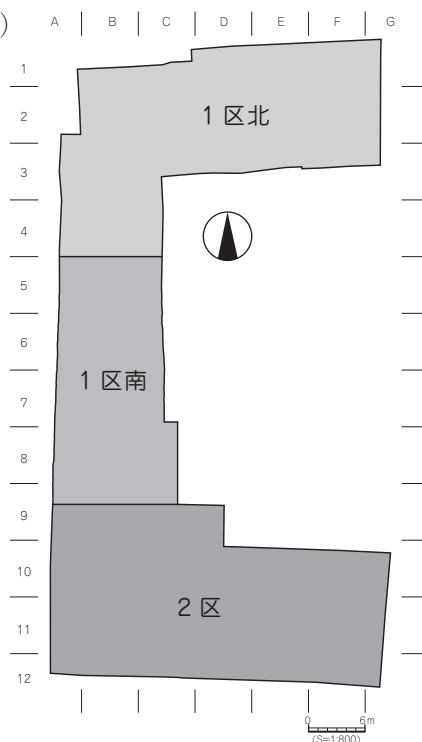
第Ⅶ層：にぶい黄橙色土 (10YR 7/3) 粗砂混じり

第Ⅷ層：にぶい黄橙色土 (10YR 7/2)

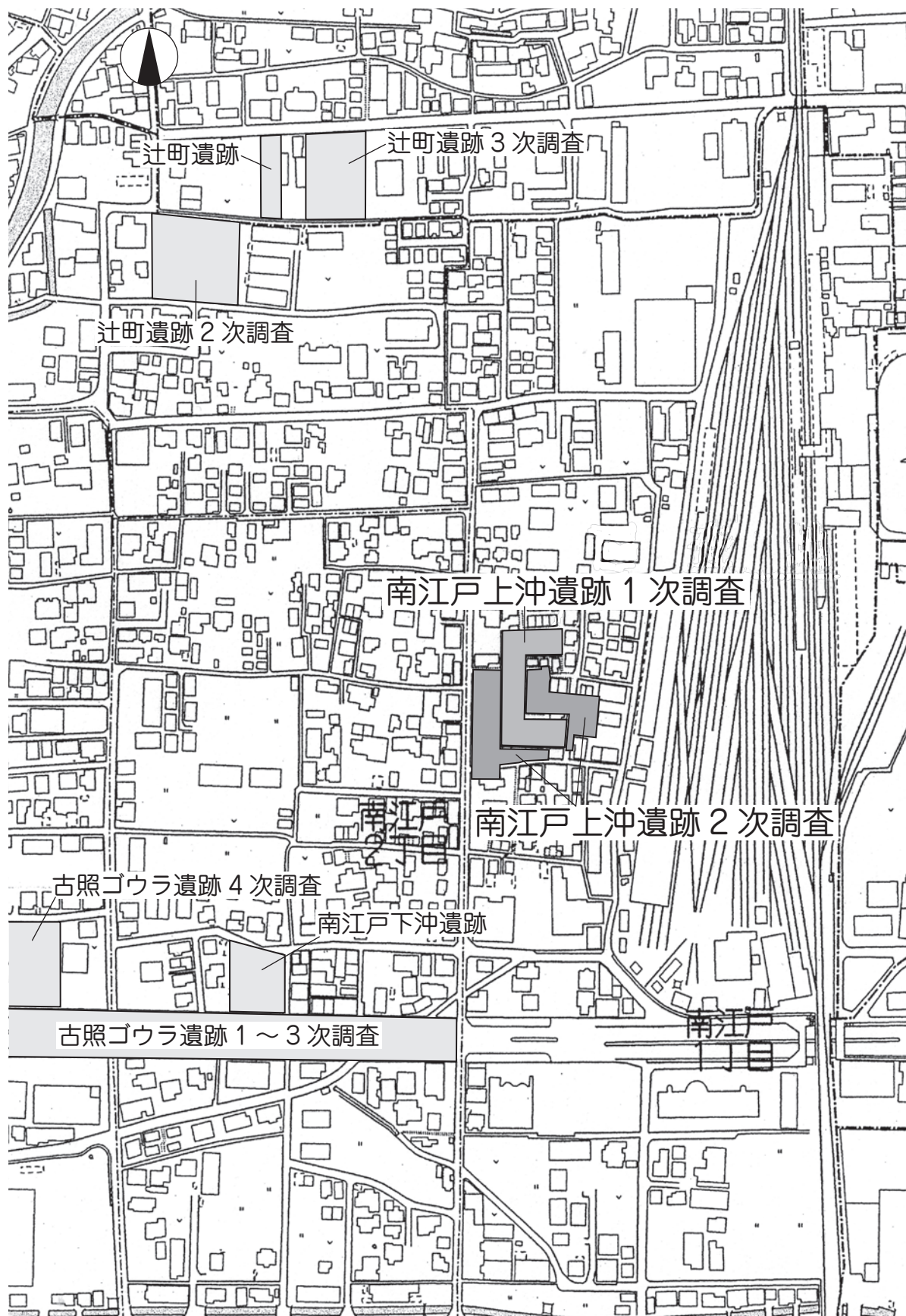
第Ⅸ層：灰白色土 (10YR 7/1) 細砂混じり

第Ⅹ層：褐灰色粘質土 (7.5YR 5/1) (古墳時代の検出面)

調査にあたり調査区内を 6m 四方のグリッドに分けた。グリッドは西から東に A・B・C・・・F・G、北から南に 1・2・3・・・12 とし、A1・A2・・・F12 と順次グリッド名を付した。



第2図 調査区区分図



第3図 調査地位置図及び周辺遺跡分布図

南江戸上沖遺跡 1次調査



第4図 遺構配置図

## 2. 遺構と遺物 (第4図)

遺構検出面は2面あり第Ⅵ層上面と、第Ⅹ層上面である。第Ⅹ層上面からは、古墳時代の遺構を検出した。第Ⅵ層上面からは、中世と近・現代の遺構と遺物を検出した。検出した遺構は、土坑15基、土壙墓10基、井戸15基、溝23条、性格不明遺構4基、柱穴1246基である。遺物は弥生土器、土師器、瓦器、須恵器、陶磁器、石製品、鉄製品、銅銭、人骨が出土した。

### (1) 古墳時代 (第5図)

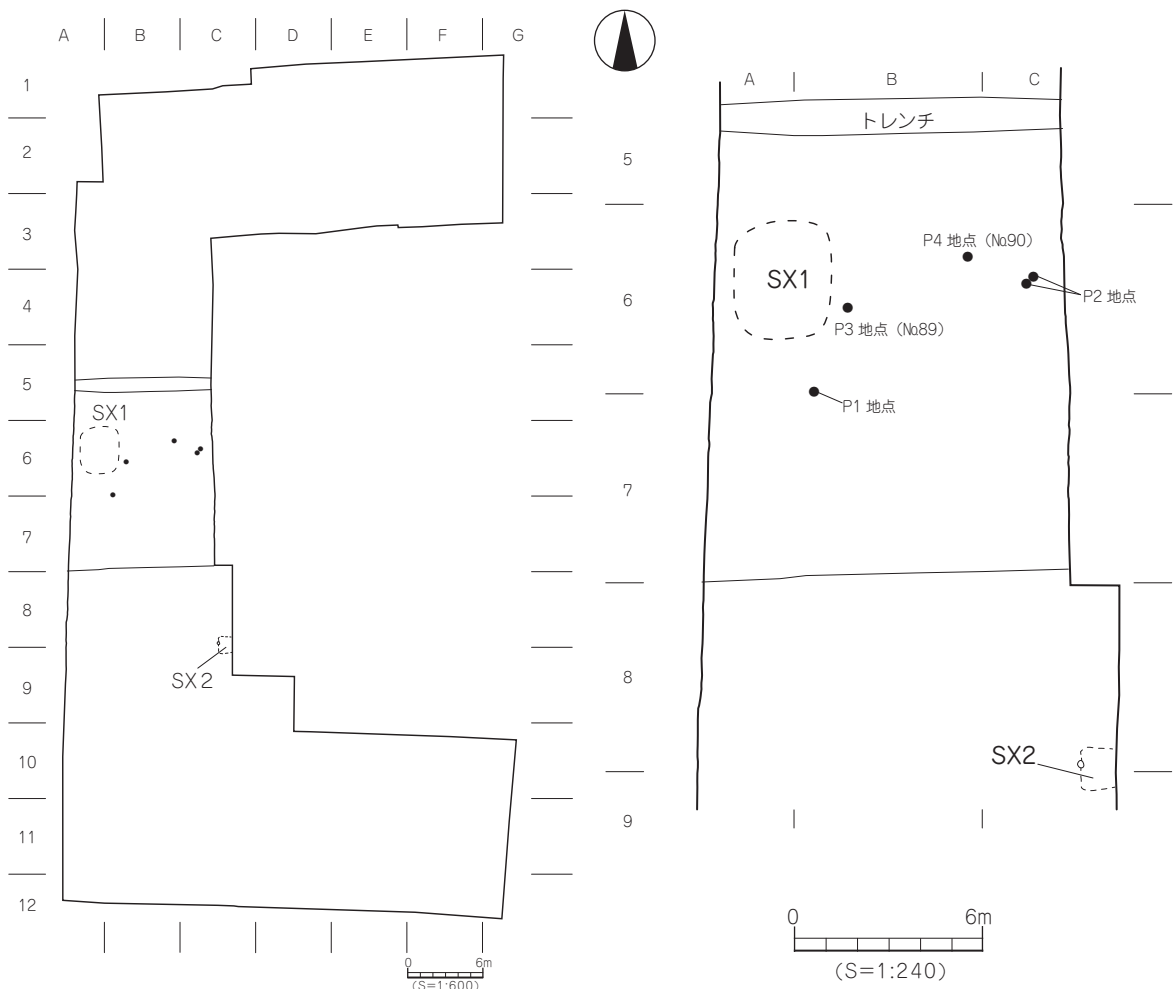
古墳時代の遺構は、土器溜まりが2ヶ所と須恵器の据え置かれた甕が1ヶ所、土師器の据え置かれた甕が3ヶ所で検出した。

#### 1) 土器溜まり

##### SX1 (第6～13図、図版5・12～14)

調査工程：第Ⅵ層上面の近・現代の土坑（カクラン）を掘削中に須恵器の大きな破片が出土した。カクラン坑の床面と側面には、須恵器の完形品が確認できた為、第Ⅵ層上面の調査終了後に第Ⅹ層上面まで掘削を行い、遺物の広がりや掘方の確認を行った。

SX1は、調査区のA・B6区に位置し5m四方に遺物の広がりを確認した。掘方は確認できなかった。遺物は第Ⅹ層上に置かれたものと判断した。出土遺物には、須恵器の坏蓋・坏身・高坏・短頸壺・平瓶、土師器の壺・甕・埴がある。坏身・坏蓋はセットで出土したものがあ

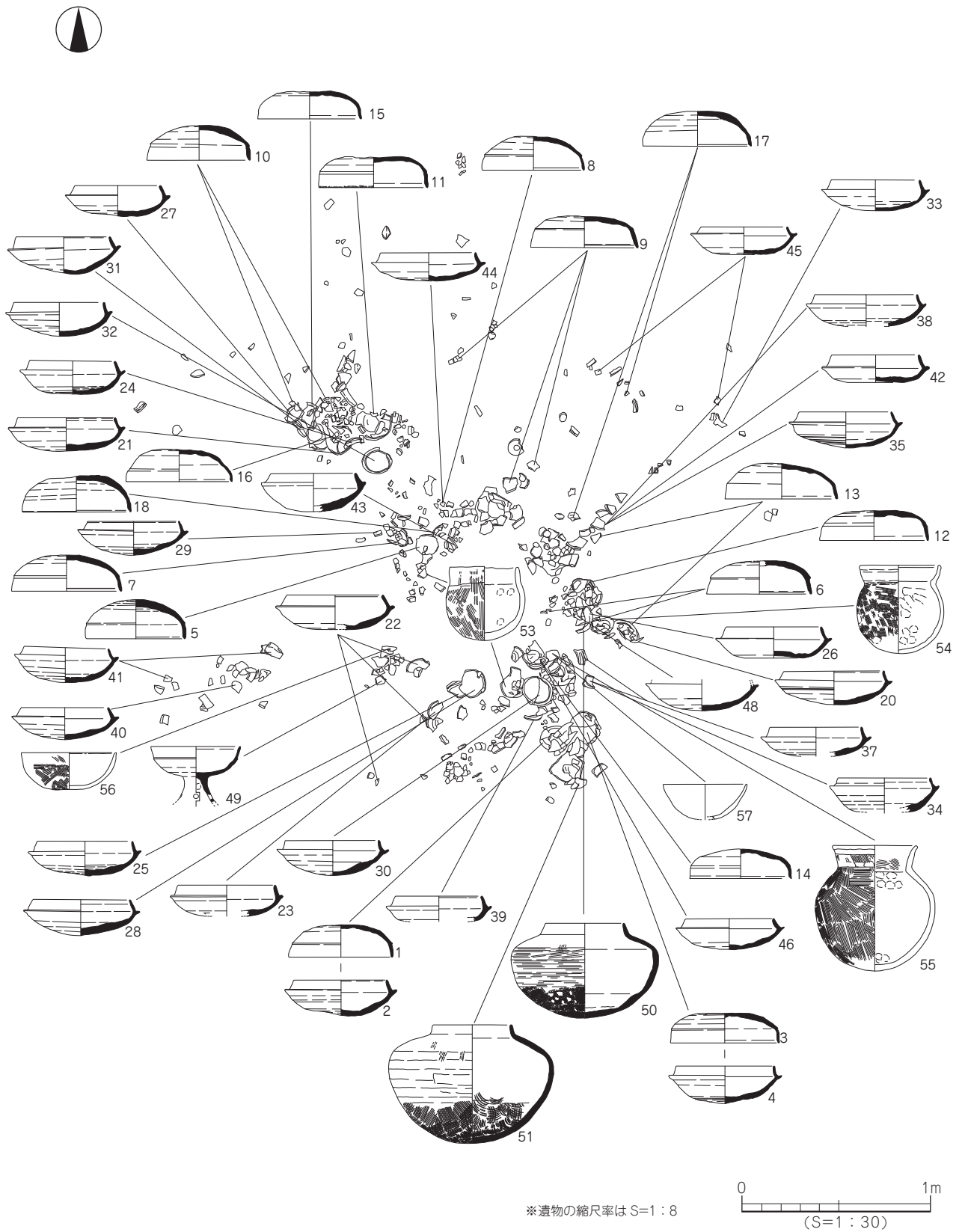


第5図 古墳時代の遺構配置図

南江戸上沖遺跡 1次調査



第6図 SX1 遺物出土状況図 (1)



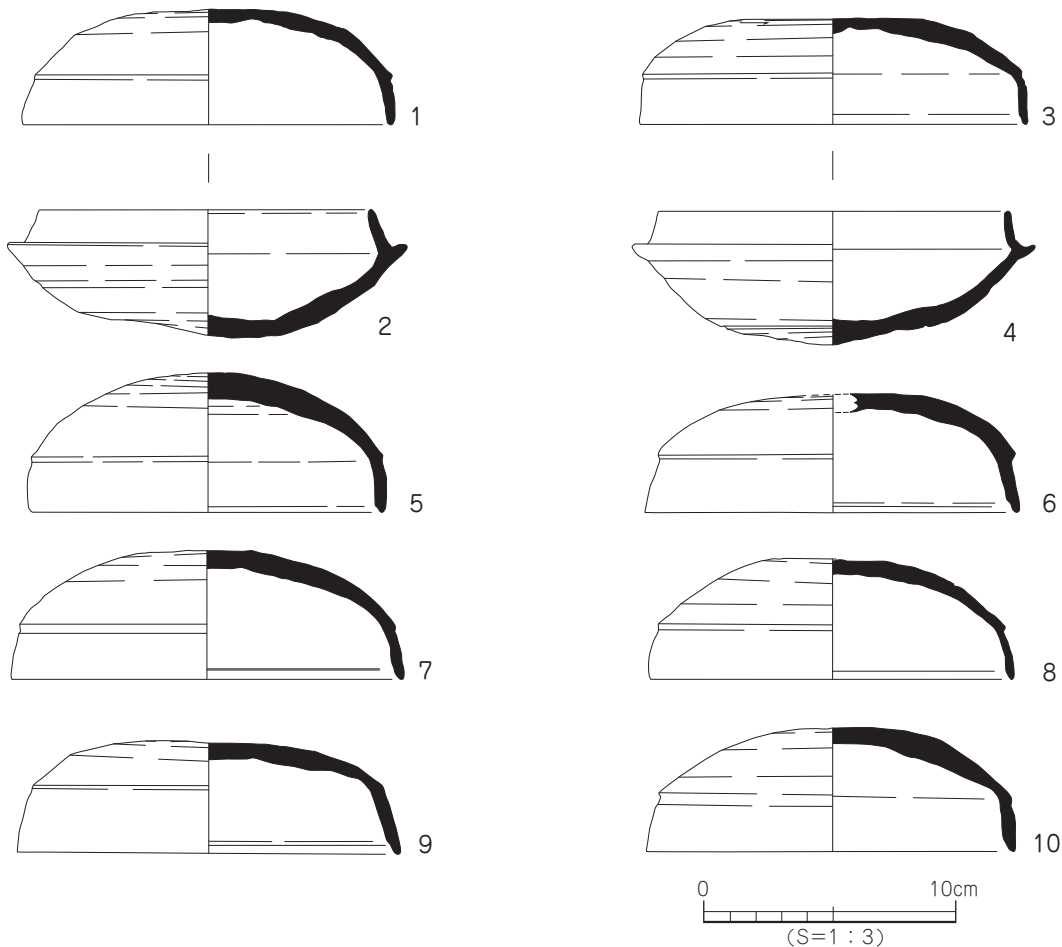
第7図 SX1 遺物出土状況図 (2)



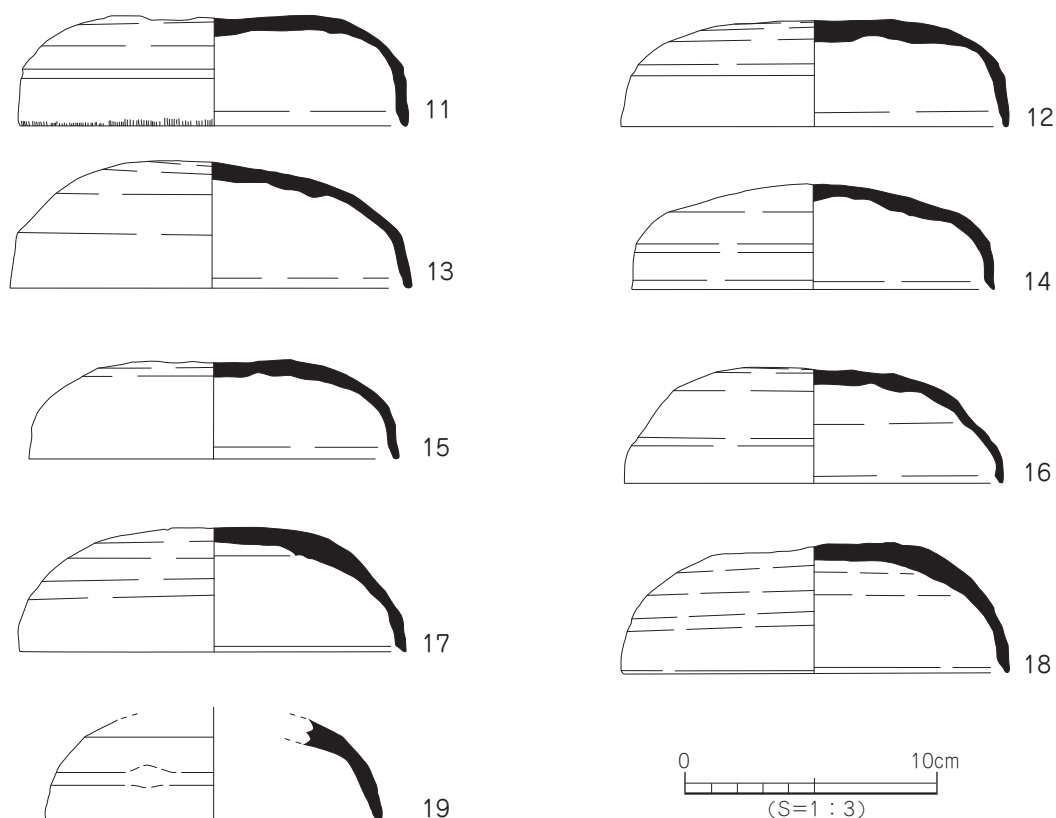
出土遺物 (1 ~ 57)

1 ~ 52 は須恵器。1・2 と 3・4 はセットである。1 は坏蓋。口縁部と天井部との境は断面三角形状の稜となる。天井部は丸みをもつ。2 は坏身。たちあがりは直線的に内傾する。底部はかなり歪む。3 は坏蓋。口縁端部は内傾する面をもつ。口縁部と天井部との境は断面三角形状の稜となる。天井部は平たい。4 は坏身。たちあがりはややそり気味に上方に伸びる。口縁端部は丸みをもつ。底部はやや尖る。

5 ~ 19 は坏蓋。5 は厚みのある丸い天井部。口縁端部は内傾する面をもつ。6 は口縁部と天井部との境は断面三角形状の稜となる。7 は丸みをもつ天井部から段をもち口縁部につづく。口縁部の境はナデにより窪み稜をもつ。8 は丸みをもつ天井部。口縁部と天井部の境は稜をもつ。9 は口縁端部は内傾する面をもち、天井部と口縁部の境はわずかに稜をもつ。10 は天井部と口縁部の境はナデにより窪み稜をもつ。11 は口縁端部外面に細かい刻み目がある。12 は天井部と口縁部を分ける境はナデにより窪む。天井部は歪みが激しい。13 は天井部と口縁部を分ける境は不明瞭である。14 は口縁端部は内傾する面をもつ。15 は天井部と口縁部を分ける境は不明瞭である。天井部は扁平である。16 は口縁部を分ける境は不明瞭である。口縁端部は内傾する面をもつ。17 は口縁端部は内傾する面をもち僅かに窪む。天井部と口縁部を分ける境は不明瞭である。18 は口縁端部は内傾する面をもつ。摩滅が激しく石英と長石を多量に含む。19 は厚みのある天井部。口縁端部は丸い。

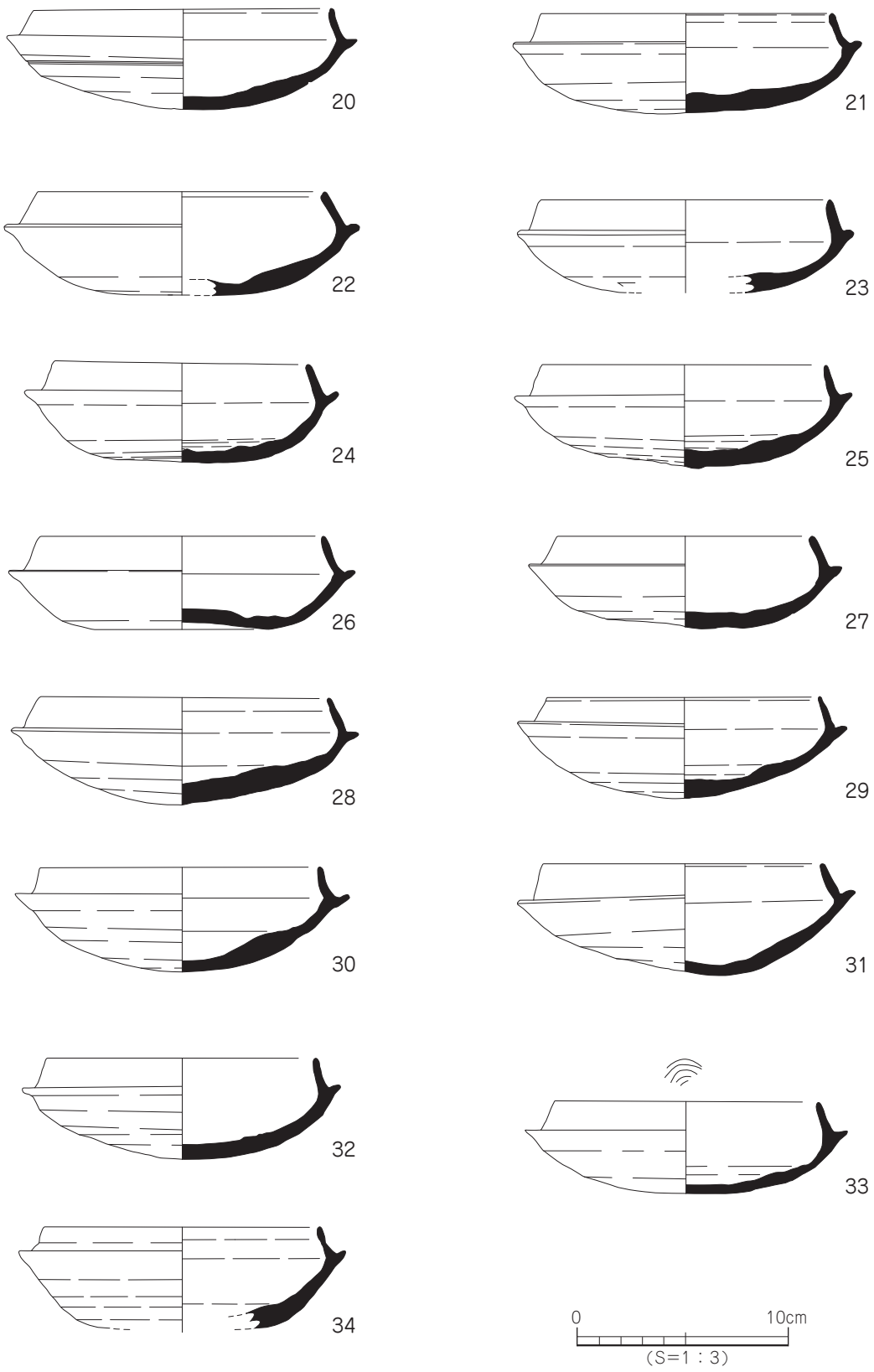


第8図 SX1 出土遺物実測図 (1)

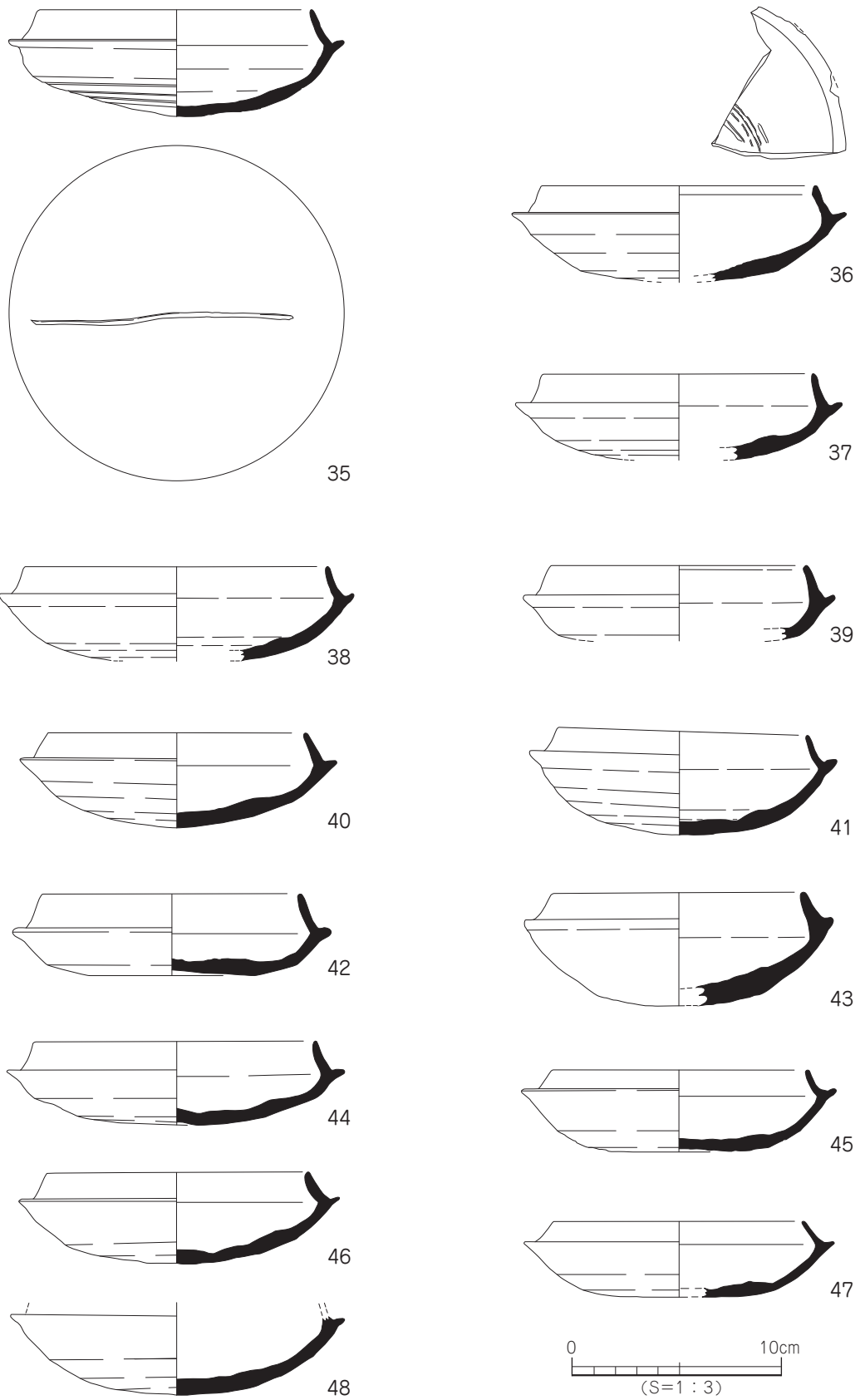


第9図 SX1 出土遺物実測図 (2)

20～48は坏身。20は受け部は短く水平に伸びる。たちあがりは内傾する。21は短く水平に伸びる受け部。口縁端部内面がナデにより窪む。たちあがりはややそり気味に内傾する。口縁端部は面をもつ。底部は平たい。22は短く水平に伸びる受け部。たちあがりは内傾し口縁端部は内傾する面をもつ。23は短く水平に伸びる受け部。たちあがりは直立気味にわずかに内傾する。24は受け部は外上方に伸びる。たちあがりは内傾し端部は丸い。25は受け部は外上方に短く伸びる。たちあがりは内傾する。26は扁平で焼け歪む底部。受け部は外上方に短く伸びる。たちあがりは内傾し端部は丸い。27は受け部は短く水平に伸びる。たちあがりは内傾し端部は丸い。28は受け部は短く水平に伸びる。たちあがりは内傾する。29は短く水平に伸びる受け部。たちあがりは内傾し端部は先細りである。30は受け部は外上方に短く伸びる。たちあがりは内傾し直立気味に伸びる。31は受け部は外上方に短く伸びる。たちあがりは内傾し端部は丸い。32は短く水平に伸びる受け部。たちあがりは直立気味である。底部は歪んで楕円形状である。33は底部内面に同心円状の工具痕。受け部は短く水平に伸び、打ち欠かされている。34は内傾するたちあがりはナデにより中央部が窪む。自然釉がかかる。35は底部外面に長さ12.5cmの直線状の線刻あり。底部内面に同心円状の工具痕が僅かに残る。底部に歪み。36はたちあがり内傾し端部は内傾する面をもつ。底部内面に同心円状の工具痕。37は扁平な底部。受け部は外上方に短く伸びる。たちあがり内傾し端部は尖り気味に丸い。38は受け部は外上方に短く伸びる。たちあがり内傾する。自然釉がかかる。39は受け部は外上方に短く伸びる。たちあがり内傾し端部は丸い。40は内傾するたちあがりの端部は尖り気味に丸い。41は受け部は外上方に短く伸びる。たちあがり内傾する。器壁は薄い。42は焼け歪みが激しい。受け部は短く水平に伸びる。たちあがり内傾する。43はたちあがり内傾し端部は丸い。受け部は僅



第 10 図 SX1 出土遺物実測図 (3)

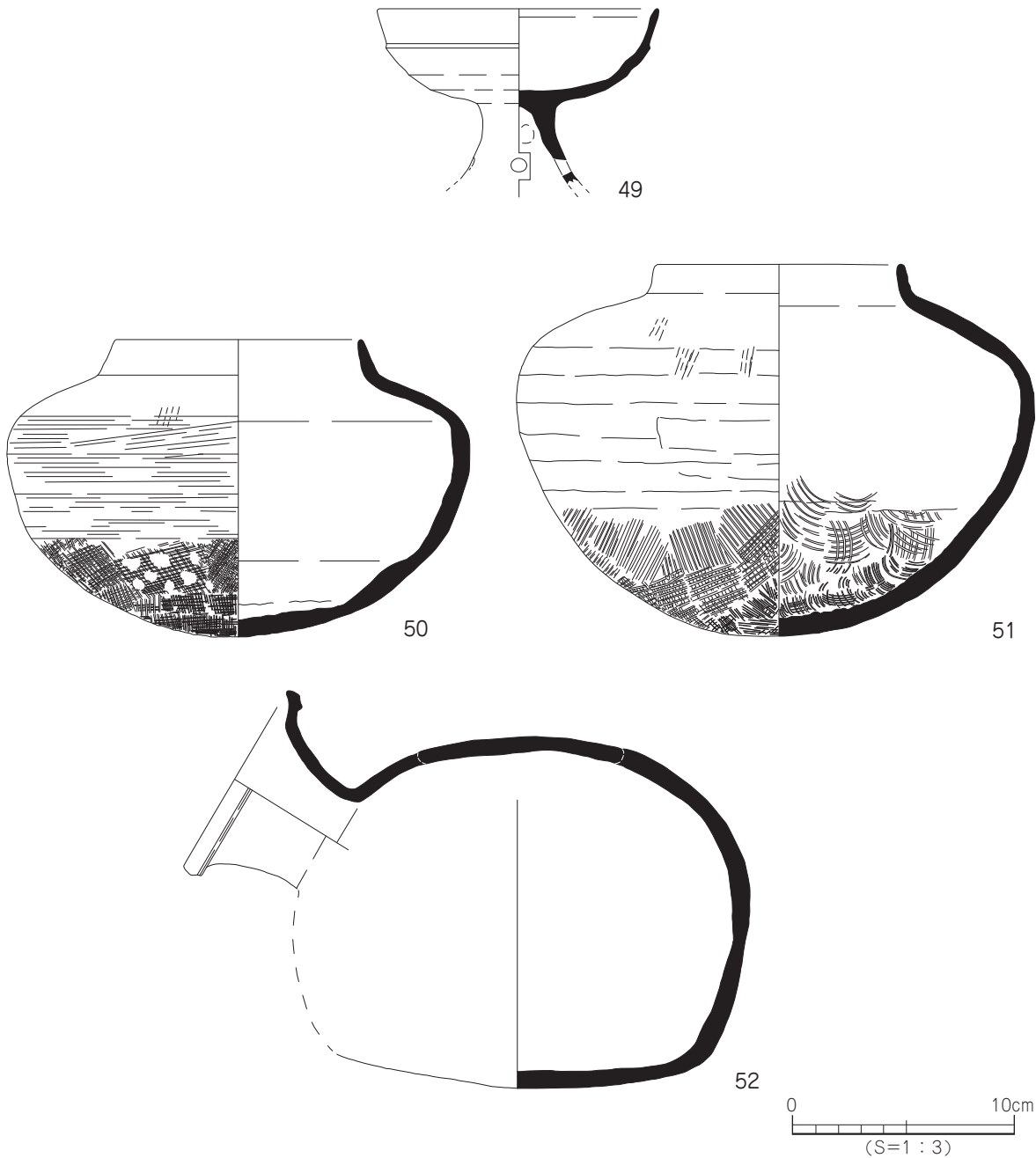


第 11 図 SX1 出土遺物実測図 (4)

かに水平に伸び、端部は丸い。44は受け部は短く水平に伸びる。たちあがりは内傾する。扁平な底部。  
 45は受け部は外上方に短く伸びる。たちあがりは内傾し端部は丸い。46は受け部の厚みは薄く短く  
 水平に伸びる。たちあがりは内傾する。47は受け部は短く水平に伸びる。たちあがりは器壁が薄く  
 内傾し端部は尖り気味に丸い。48は短く水平に伸びる受け部。口縁部は欠損。

49は高坏。口縁部中位に段をもつ。脚部に径0.7cmの円孔を3ヶ所施す。

50・51は短頸壺。50は短く内傾する口縁端部は尖り気味である。51は短く直立気味に伸びる口縁  
 端部は丸い。



第12図 SX1 出土遺物実測図 (5)

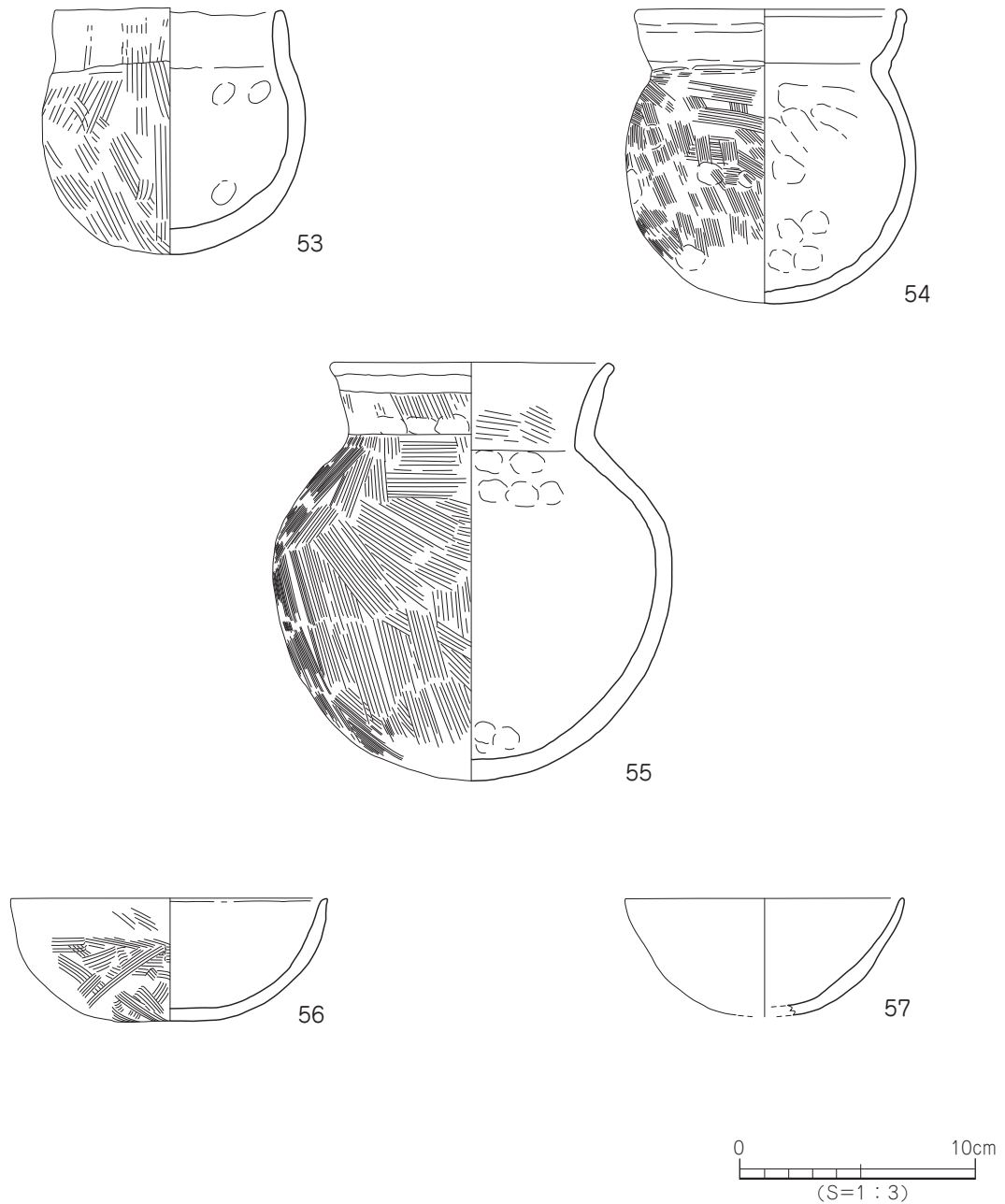
遺構と遺物

52は平瓶。口縁部は段をもち外方向に広がる。口縁部内面はナデにより窪む。体部に蓋をした円形の痕が見られる。

53～57は土師器。53～55は壺。53は短く直立する口縁端部は丸い。厚みのある底部は丸い。54は外傾し僅かに内湾する短い口縁部。体部は球形である。55は短く外反する口縁端部は丸い。体部は球形である。黒斑あり。

56・57は碗。56は口縁端面は内傾する面をもつ。底部に黒斑あり。57は外傾する口縁端部は尖り気味に丸い。

時期：SX1は出土遺物からTK10古墳時代後期前半の土器溜まりと思われる。



第13図 SX1出土遺物実測図(6)

**SX2** (第 14～19 図、図版 5・6・14・15)

調査工程：調査区の東壁下に土層確認用のトレンチを掘削中に第 X 層上面で、須恵器の坏身の完形品を検出したため、SX1 と同じく遺物の広がりを見たと想定し、第 VI 層上面の調査終了後に周辺を掘り下げることとした。遺物は 3 m 四方の広がりを見たが、掘方は確認できなかった。

SX2 は、調査区の C8・9 区に位置する。出土遺物には、須恵器の坏蓋・坏身、土師器の壺・甕がある。坏身・坏蓋はセットで出土したものが 6 セットあり、この 1 セットの坏身内には小石が入れられていた。

**出土遺物** (58～88)

58～79 は須恵器。58～69 はセットである。

58・59 58 は坏蓋。口縁部と天井部との境には沈線が巡る。天井部は丸みをもつ。59 は坏身。たちあがりはやや内湾する。口縁端部は尖り気味で内側に沈線が巡る。底部は厚手で丸みをもつ。小石が 15 点入れられていた。

60・61 60 は坏蓋。口縁部と天井部を分ける境はあまい稜をもつ。口縁端部内面は内傾する面をもつ。61 は坏身。たちあがりなあまい稜をもって内傾する。口縁端部は尖り気味。底部は厚手で丸みをもつ。

62・63 62 は坏蓋。天井部の焼成時に他の遺物の付着物が見られる。口縁部に自然釉が見られる。口縁部に歪みがある。63 は坏身。短く水平に伸びる受け部、たちあがりは内傾する。

64・65 64 は坏蓋。口縁部と天井部を分ける境は凹線状に窪む。天井部内面に同心円状のあて具痕。65 は坏身。短く水平に伸びる受け部、たちあがりは内傾する。底部内面に同心円状のあて具痕。

66・67 66 は坏蓋。口縁部と天井部を分ける境はあまい稜をもつ。口縁端部内面は内傾する面を持つ。67 は坏身。短く水平に伸びる受け部、たちあがりは内傾する。

68・69 68 は坏蓋。口縁部は直立気味に接地し、口縁端部は内傾し内面をもち凹線状に窪む。69 は坏身。扁平な底部。底部内面に同心円状のあて具痕。

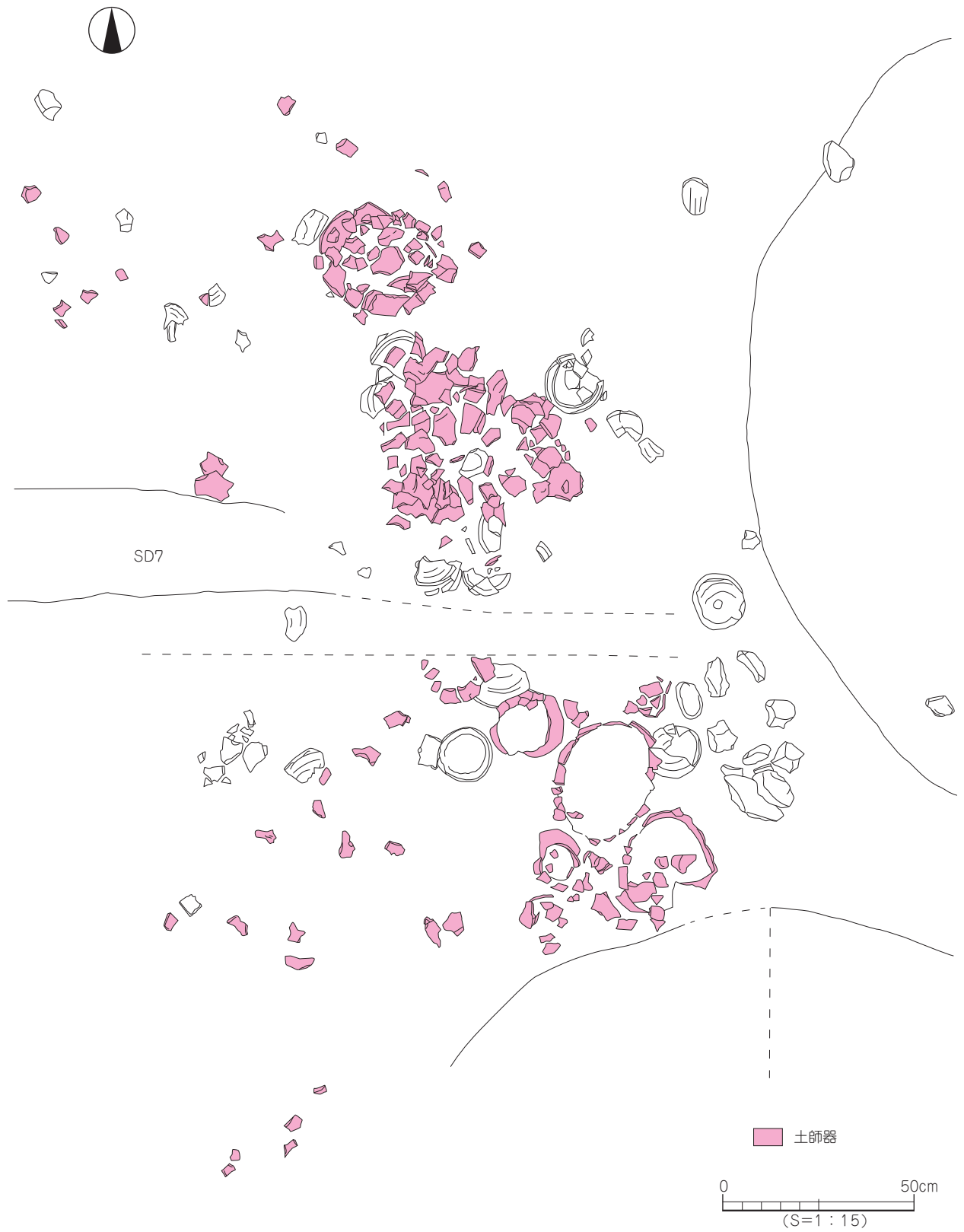
70～74 は坏蓋。70 は口縁部と天井部を分ける境は段をもつ。口縁端部は尖り気味に丸い。71 は口縁部と天井部を分ける稜はわずかに段をもつ。口縁端部内面は内傾し窪む。72 は口縁部と天井部を分ける境はあまい稜をもつ。口縁端部は丸い。73 は口縁部は直立気味に接地し、端部は丸い。74 は丸い天井部。口縁部と天井部を分ける稜は明確である。口縁端部内面は内傾し窪む。

75～79 は坏身。75 は短く外上方に伸びる受け部、たちあがりは内傾する。底部内面に同心円状のあて具痕。焼け歪みあり。76 は短く水平に伸びる受け部、たちあがりは内傾する。77 は短く水平に伸びる受け部、たちあがりは内傾する。78 は短く水平に伸びる受け部、たちあがりは内傾する。79 は短く水平に伸びる受け部、たちあがりは内傾する。

80～88 は土師器。80～85 は甕。80 は口縁部は外傾し、口縁端部内面は内傾する。胴部中央部で最大径を測る。底部に黒斑。81 は口縁部は外傾し僅かに内湾する。口縁端部内面は内傾する面をもち窪む。黒斑あり。82 は口縁部は外傾し僅かに内湾する。口縁端部は面をもつ。黒斑あり。83 は口縁部は外傾し僅かに内湾する。口縁端部は丸い。84 は外傾する短い口縁部。85 は口縁部は外傾し僅かに内湾する。

86～88 は壺。86 は短く外傾する口縁端部内面は丸い。外面肩部に 2 本の線刻がある。87 は丸い胴部に外傾する口縁部。88 は丸い底部。

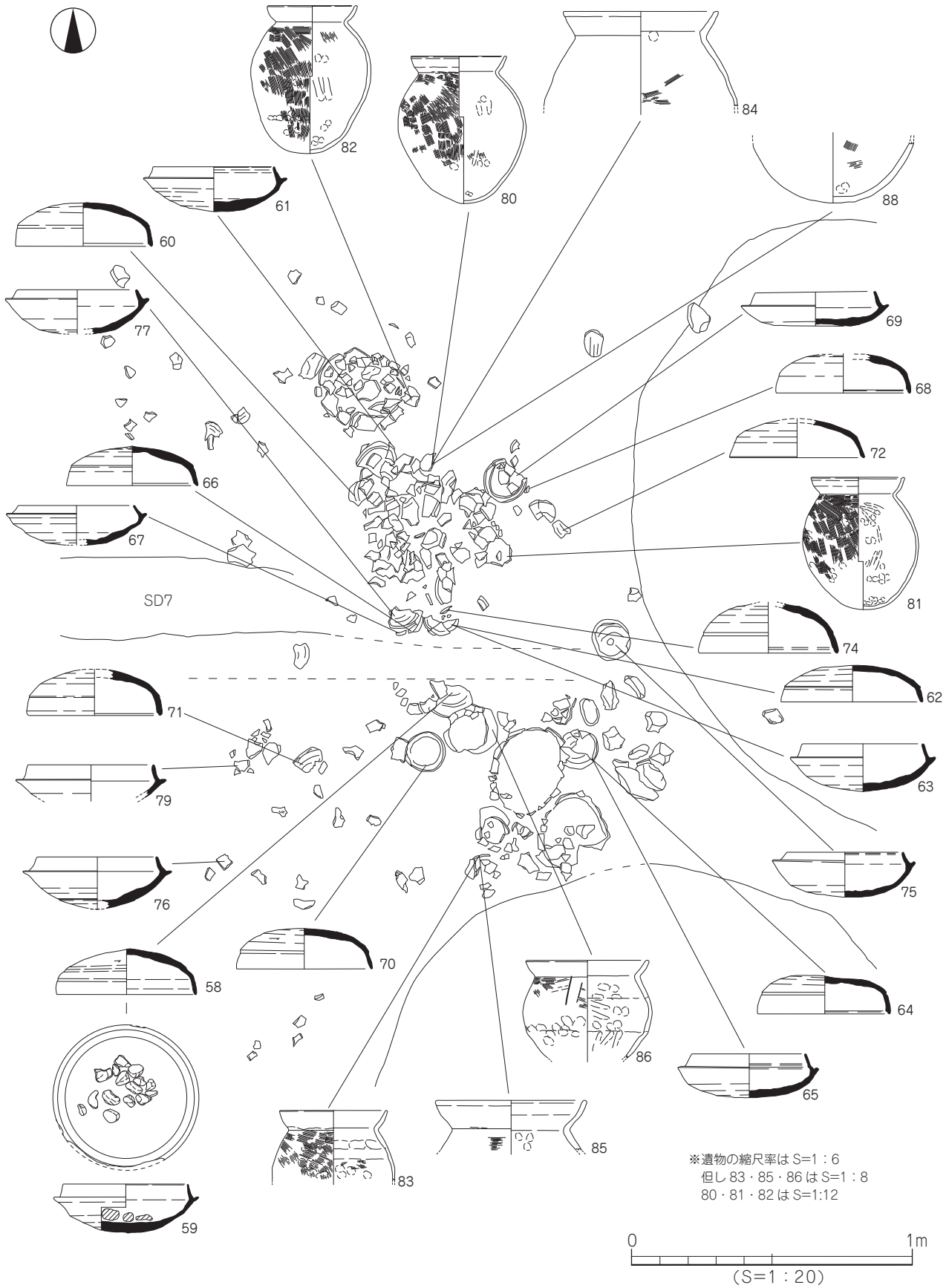
**時期**：SX2 は出土遺物から、TK10 古墳時代後期前半の土器溜まりと思われる。



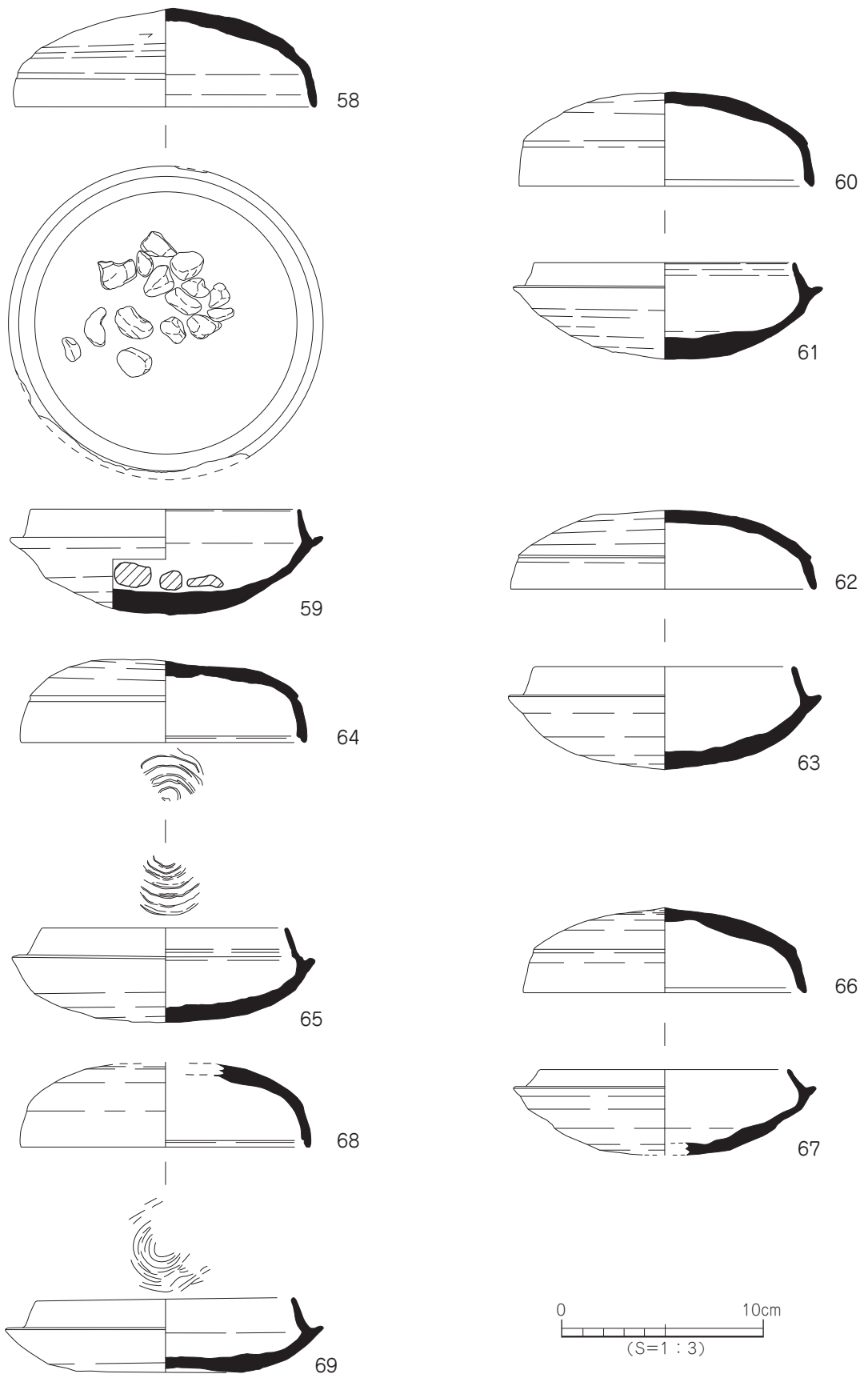
第 14 図 SX2 遺物出土状況図 (1)



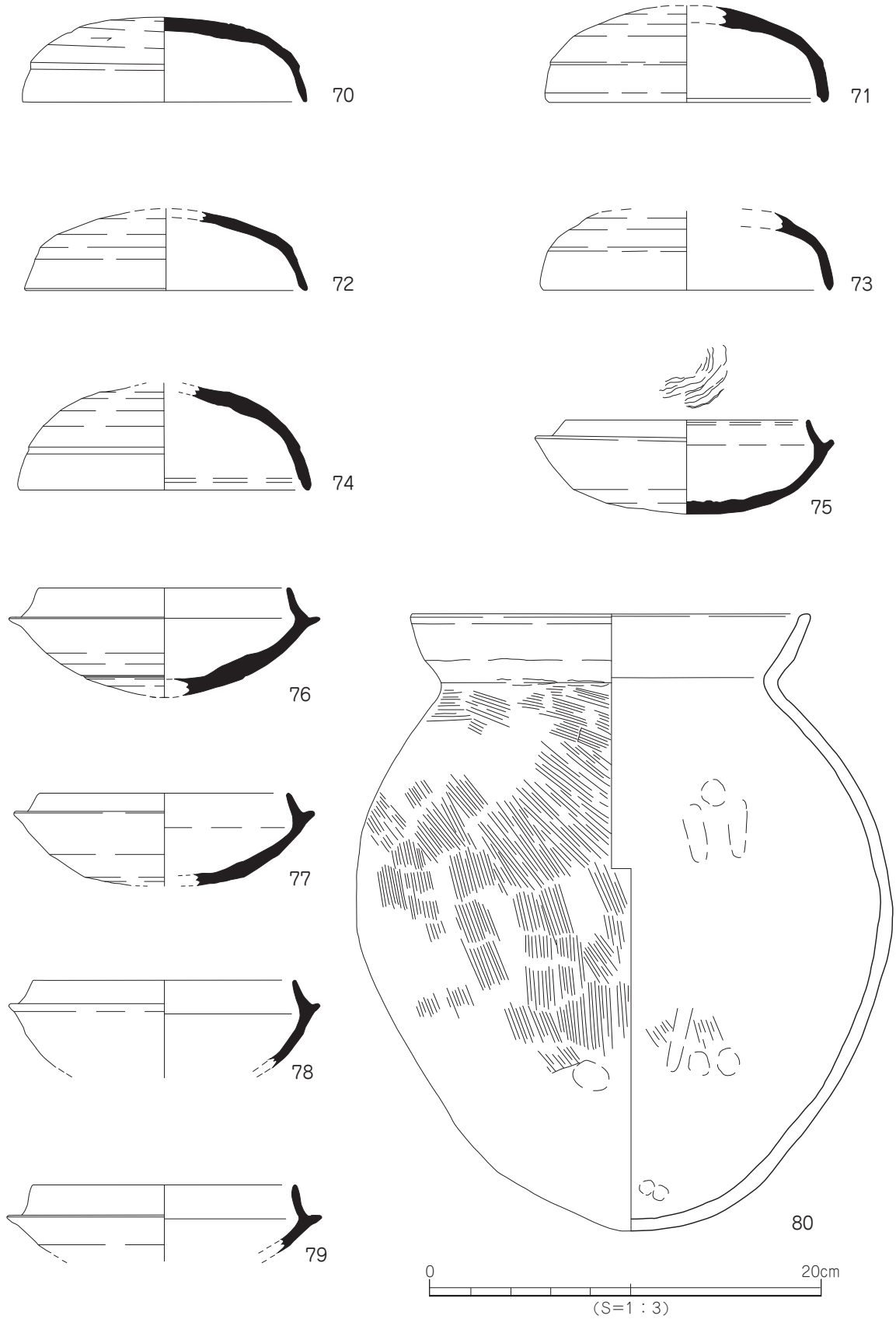
南江戸上沖遺跡 1次調査



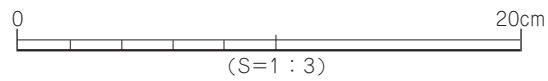
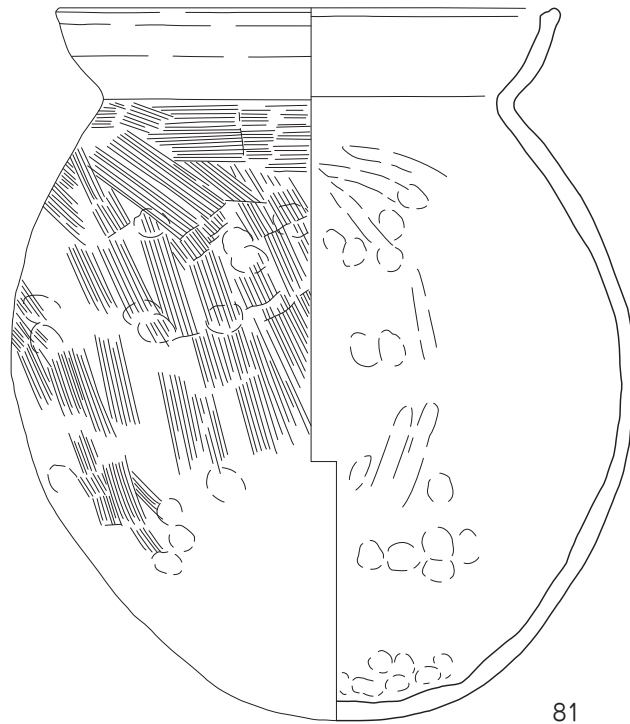
第 15 図 SX2 遺物出土状況図 (2)



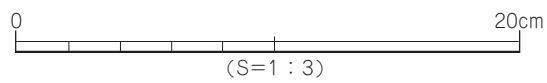
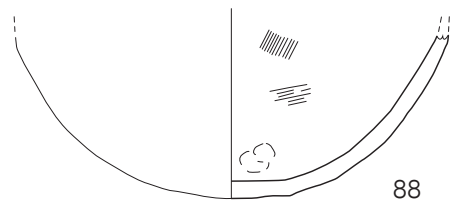
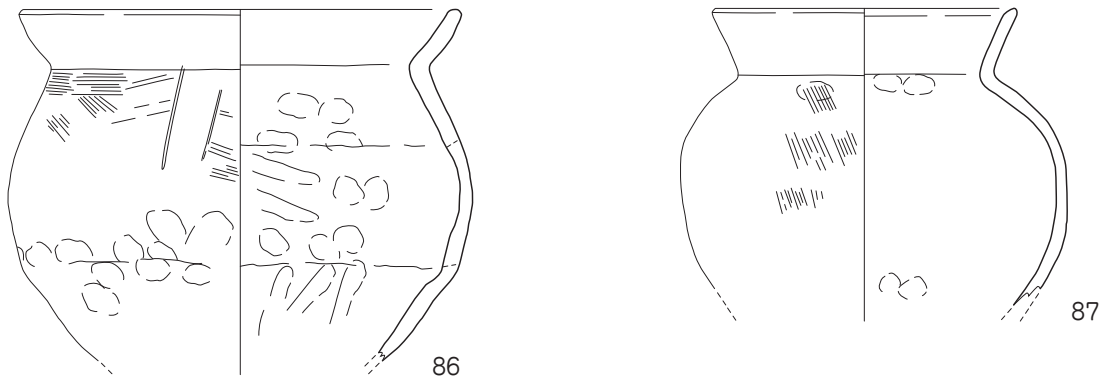
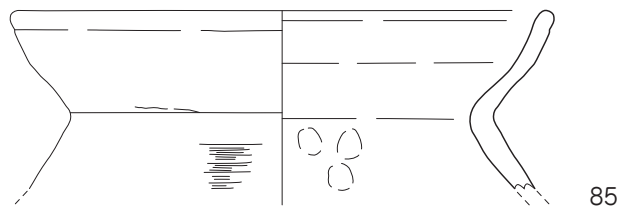
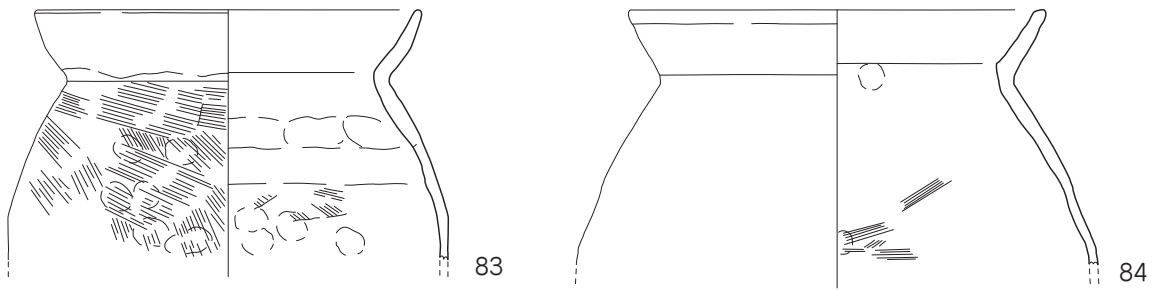
第 16 図 SX2 出土遺物実測図 (1)



第 17 図 SX2 出土遺物実測図 (2)



第 18 図 SX2 出土遺物実測図 (3)



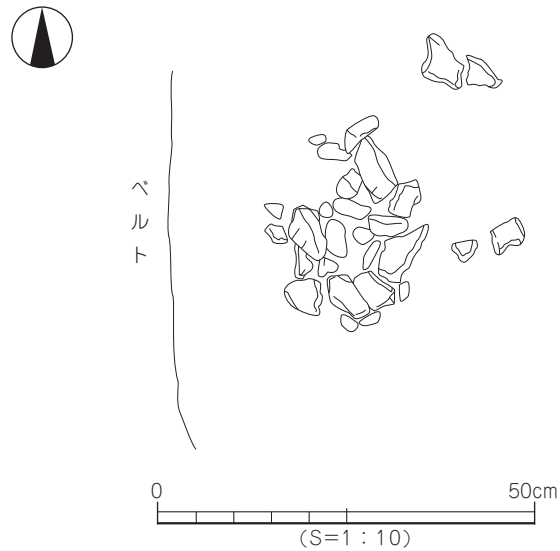
第 19 図 SX2 出土遺物実測図 (4)

2) 第X層上面出土遺物

SX1 周辺の第X層上面の調査により、4 地点から土師器と須恵器が出土した。調査区の B6 区からは土師器 2 点と須恵器 1 点、C6 区からは土師器 2 点である。これらの出土遺物は、第X層上面に据え置かれ、上部から押しつぶされた状態での出土であった。

P1 地点 (第 20 図)

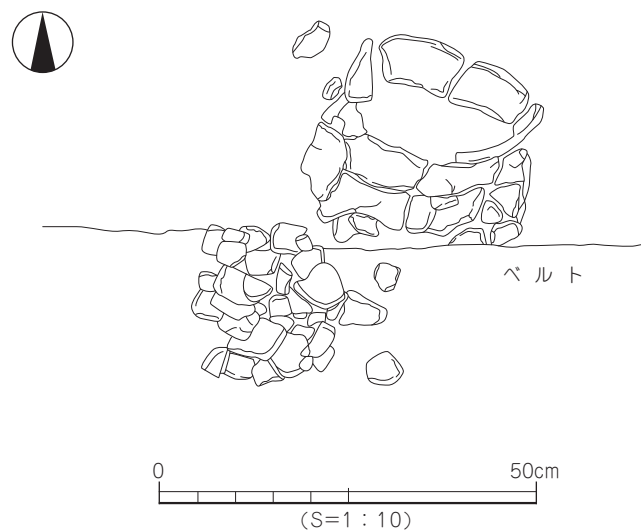
P1 は、SX1 の南側の B6 区に位置する。出土遺物は土師器の甕の胴部が破碎された状態で出土した。遺物は摩滅が著しく復元には到らず、実測は行っていない。



第 20 図 P1 地点出土土師器測量図

P2 地点 (第 21 図)

P2 は、調査区の C6 区に位置する。出土遺物は土師器の甕の胴部で破碎されたものと、押し潰れた状態に分かれて検出した。遺物は摩滅が著しく復元には到らず実測は行っていない。

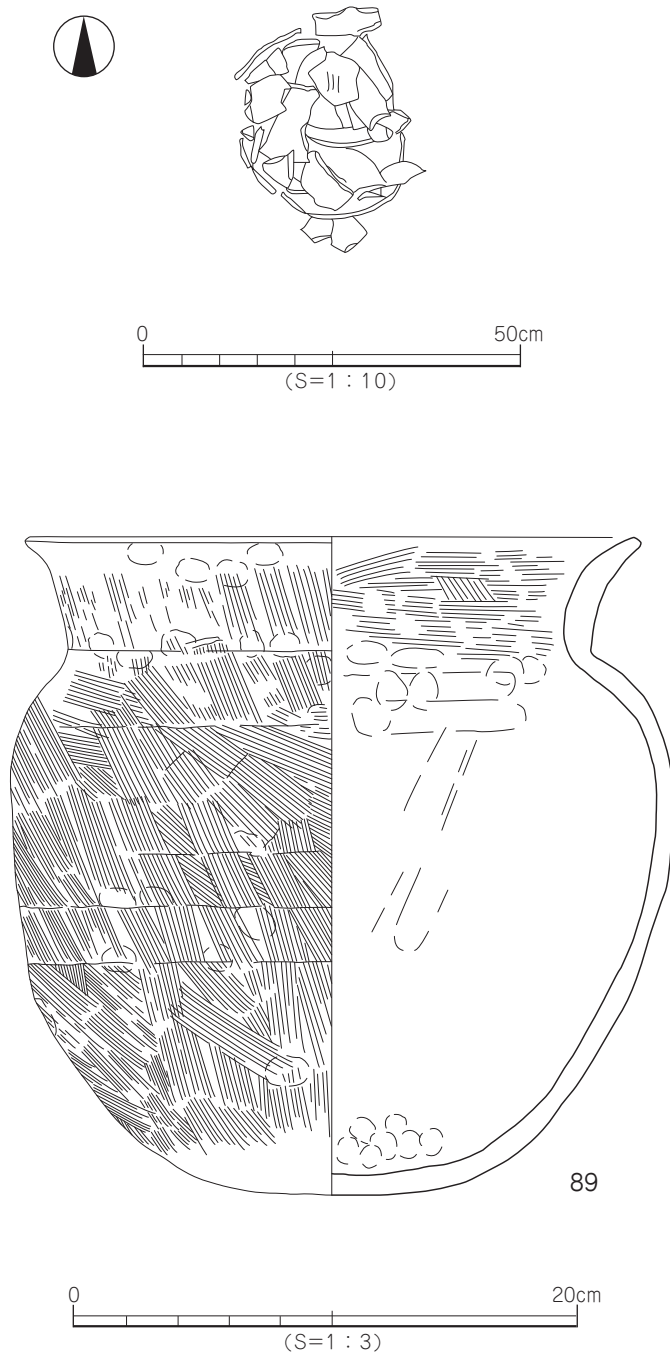


第 21 図 P2 地点出土土師器測量図

P3 地点 (第 22 図、図版 6・16)

P3 は、調査区の B6 区に位置する。検出状況は据え置かれたものが上部から押しつぶされた状況で出土した。

出土遺物 (89) 89 は土師器の甕。外反する口縁端部は丸い。焼け歪みがある。ほぼ完形品。

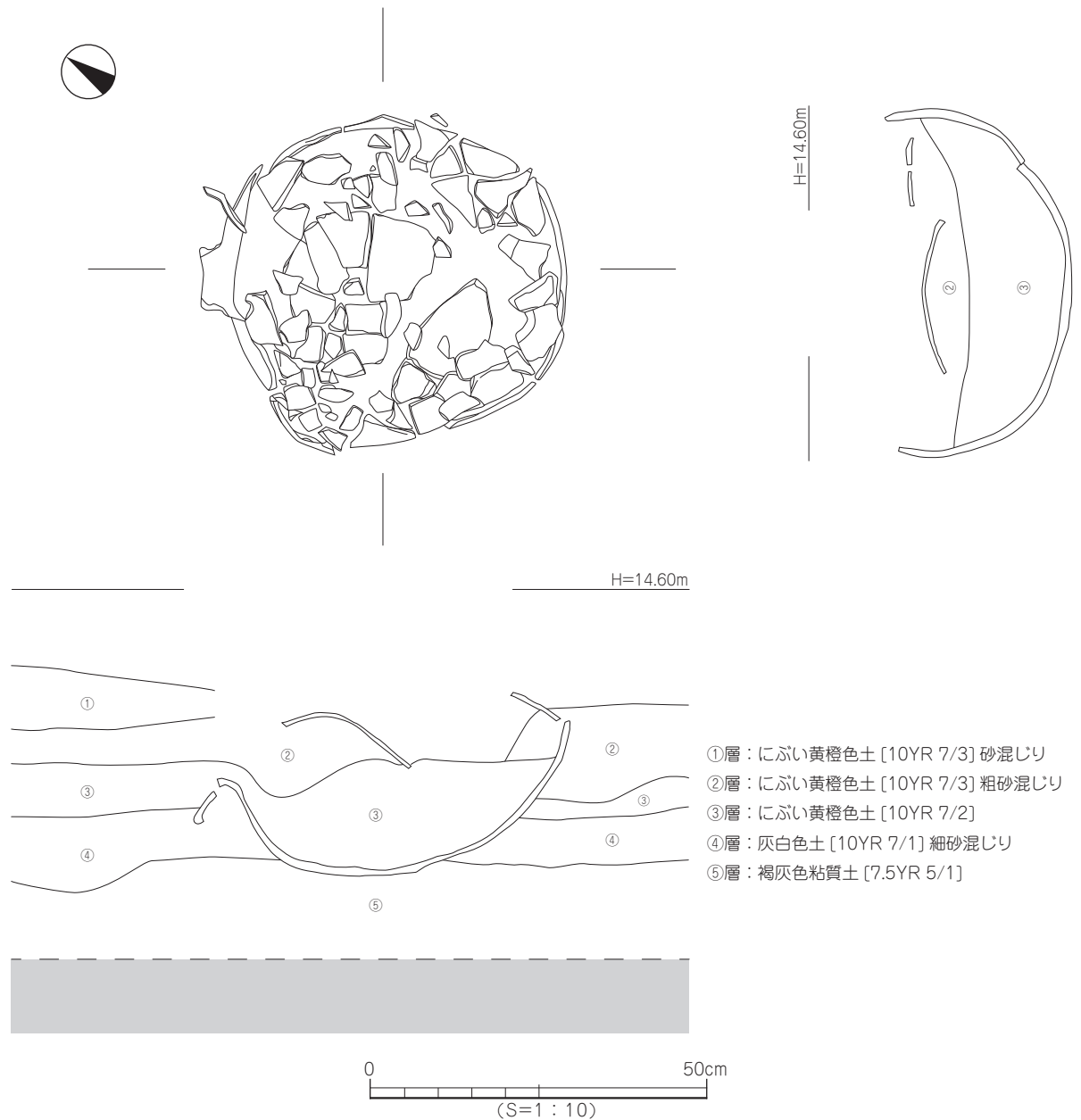


第 22 図 P3 地点測量図・出土遺物実測図

P4 地点 (第 23・24 図、図版 6・16)

調査工程：B6 区のカクラン土坑 (近・現代) を掘削時に、須恵器の甕口縁部が出土した。甕は破片でなく、下方につづくことを確認したため、第 VI 層上面の調査終了後に第 X 層上面で調査を行った。埋土は、5 層に分層できる。①にぶい黄橙色土 (10YR 7/3) 砂混じり、②にぶい黄橙色土 (10YR 7/3) 粗砂混じり、③にぶい黄橙色土 (10YR 7/2)、④灰白色土 (10YR 7/1) 細砂混じり、⑤褐灰色粘質土 (7.5YR 5/1) である。須恵器の甕は完形品で、北西方向に口縁部を向け横倒しで、上部より押しつぶされた状態で出土した。

甕の周辺を精査したが、掘方は確認できなかったため、人為的に掘削された遺構内出土ではなく、第 X 層の窪地に据え置かれたと思われる。



第 23 図 P4 地点出土須恵器測量図



出土遺物 (90)

90 は須恵器の甕。外反する口縁部。口縁端部はナデにより拡張され端面は窪む。外面にタタキ痕、内面に同心円状のあて具痕が見られる。自然釉が付着する。



第 24 図 P4 地点出土須恵器実測図

(2) 中世 (第26図)

中世の遺構は、土坑14基、土墳墓6基、井戸7基、溝23条である。

1) 土坑

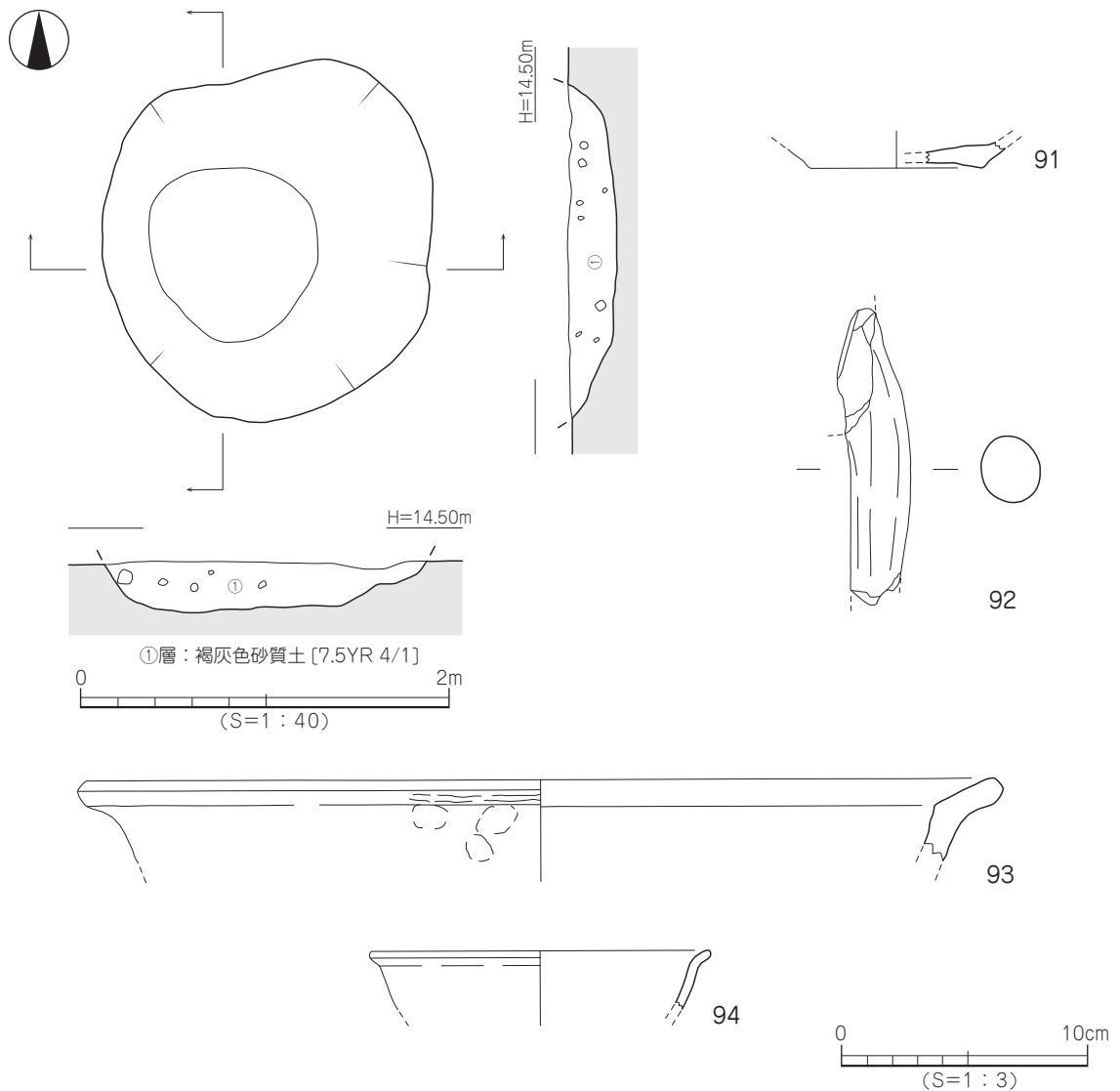
中世の土坑は14基を検出した。

SK1 (第25図)

SK1は、調査区のD2・3区に位置する。平面形態は不整形で、規模は長さ1.95m、幅1.91m、深さ0.28mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は褐灰色砂質土(7.5YR 4/1)である。埋土には礫を含む。出土遺物には、土師器の皿・坏・甕、瓦器、陶磁器、弥生土器、須恵器の小片がある。

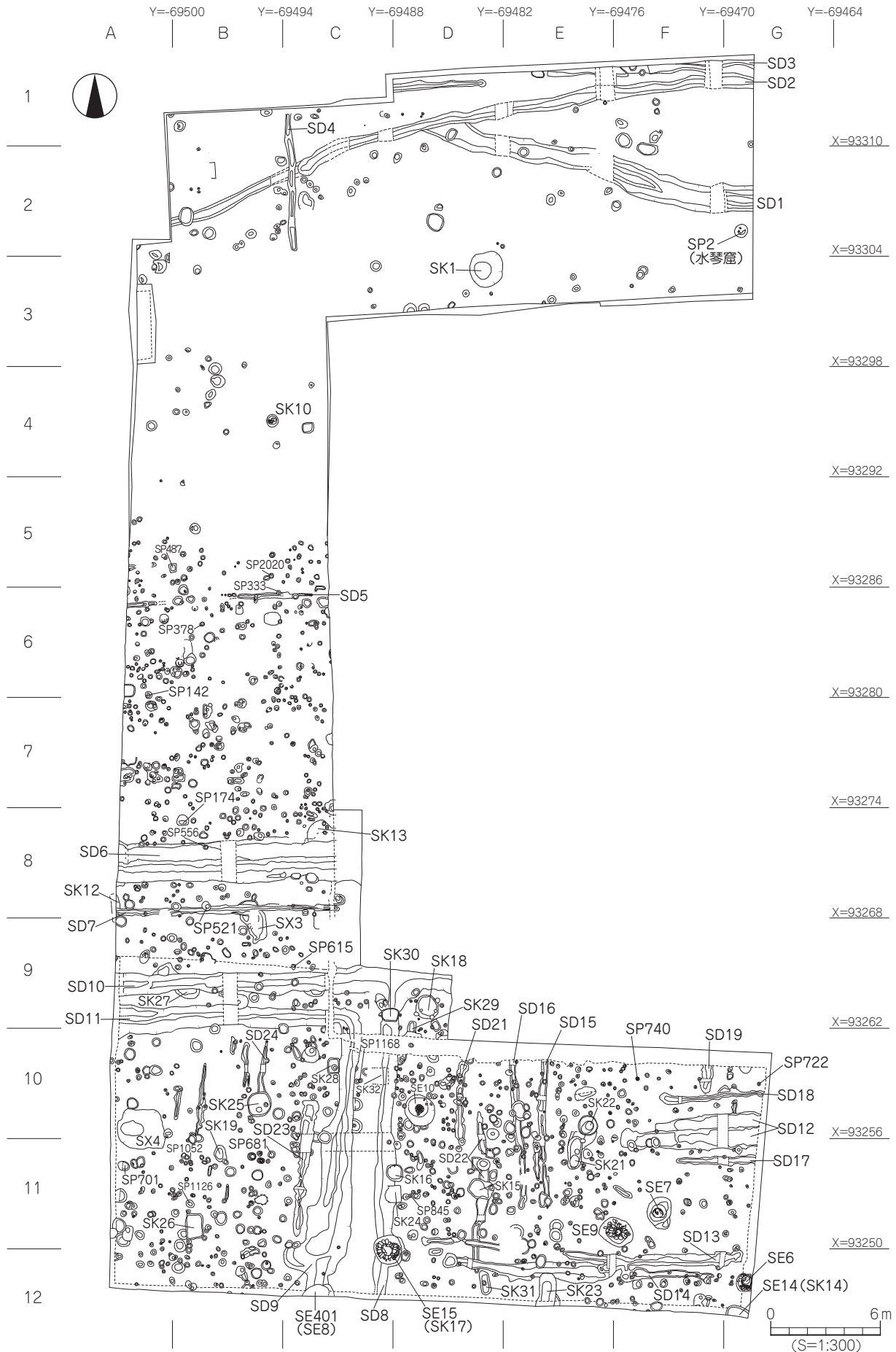
**出土遺物 (91～94)** 91～93は土師器。91は坏底部の小片。92は三足付き土釜の脚部。端部は欠損している。接合面の一部に土釜の底部内面が残る。93は土鍋。短く外傾する口縁部。煤が付着する。94は陶磁器の碗。口縁部は短く外方向に屈曲する。口縁端部は丸い。

**時期：**出土遺物から、中世の土坑と考えられる。



第25図 SK1 測量図・出土遺物実測図

南江戸上沖遺跡 1次調査



第26図 中世の遺構配置図

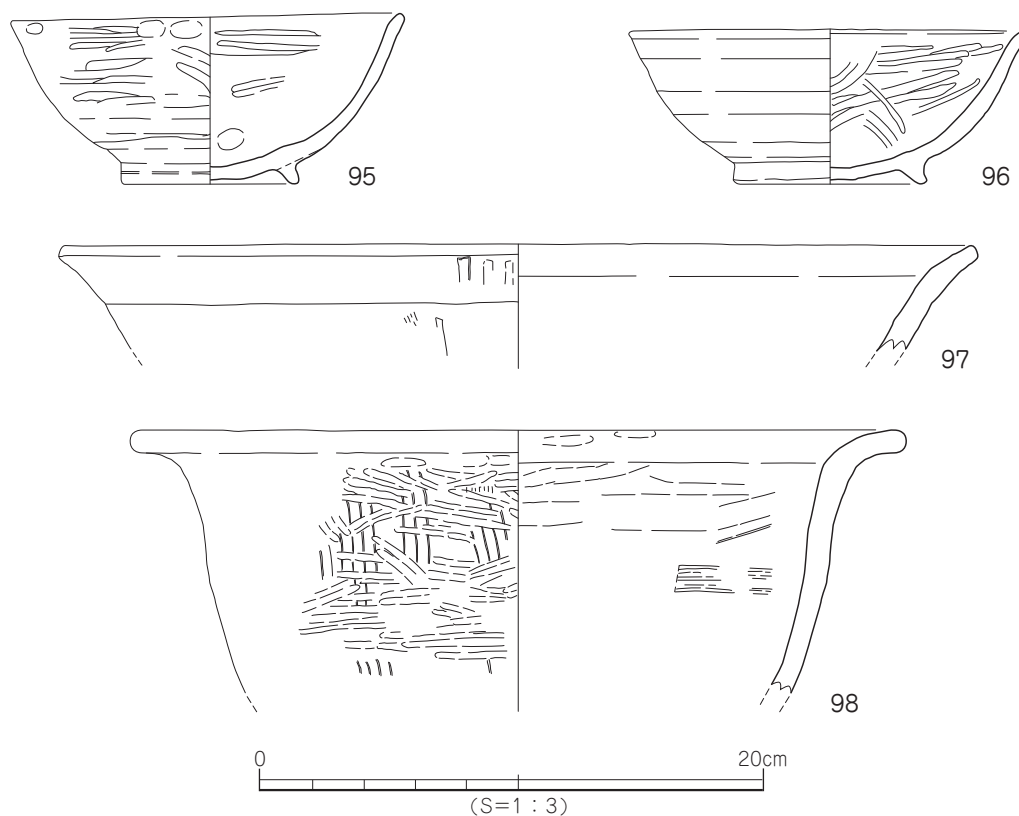
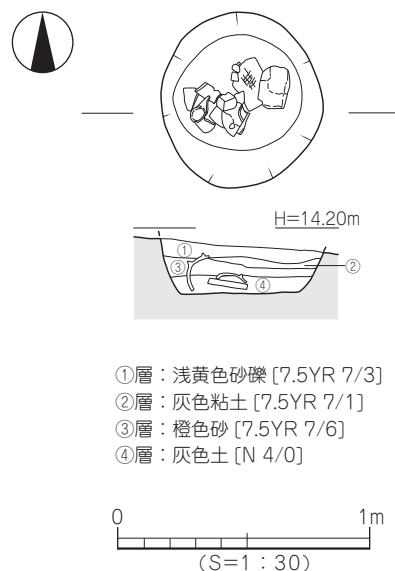
## SK10 (第27図・28、図版7・16)

SK10は、調査区のB4区に位置する。平面形態は円形で、規模は長さ0.69m、幅0.61m、深さ0.16mを測る。断面形態は、逆台形状である。埋土は、4層に分層でき①浅黄色砂礫(7.5YR 7/3)、②灰色粘土(7.5YR 7/1)、③橙色砂(7.5YR 7/6)、④灰色土(N 4/0)である。出土遺物には、土師器の埴・土鍋、瓦がある。

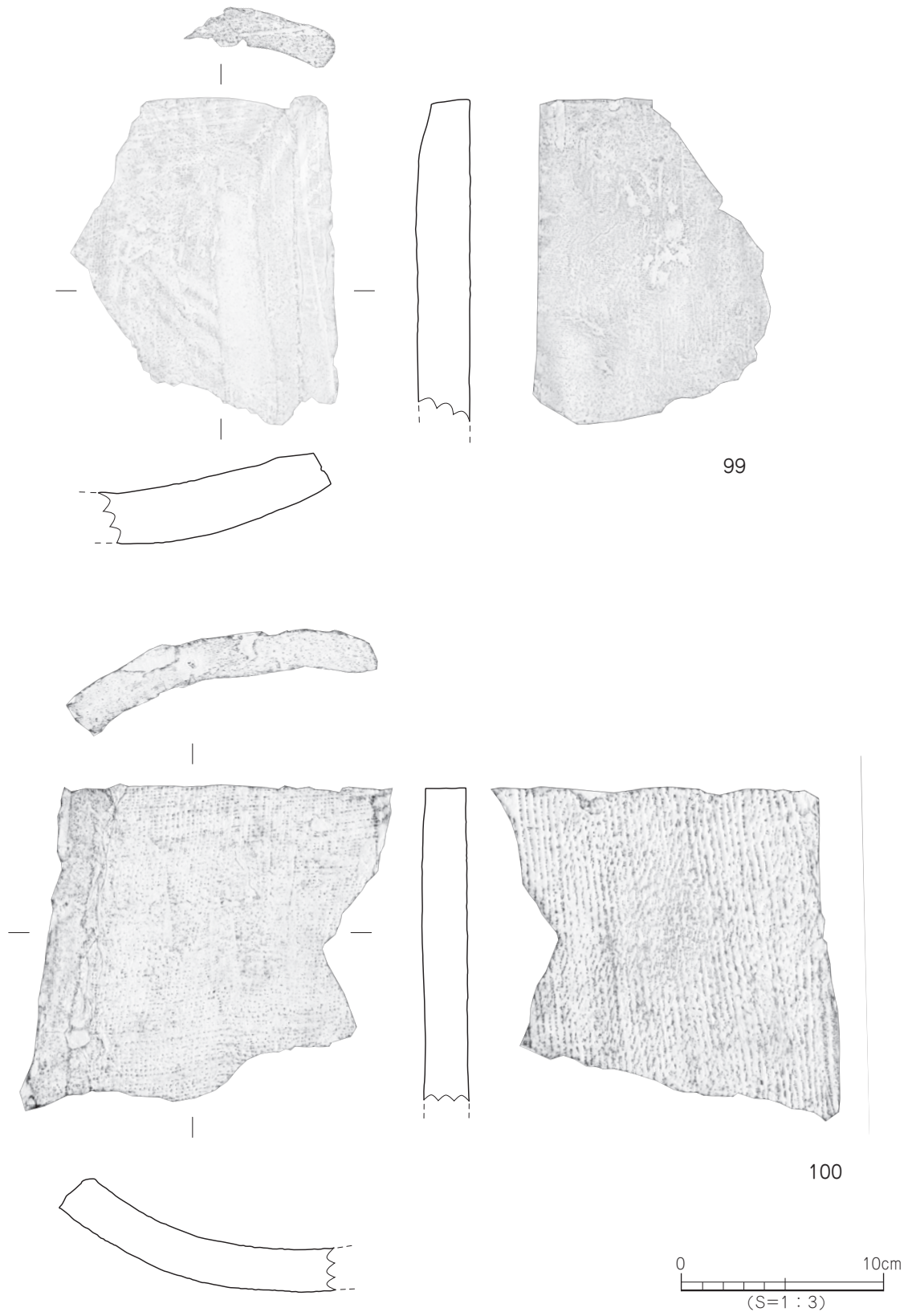
## 出土遺物(95～100)

95～98は土師器。95・96は内黒土器埴。95は断面三角形状の低い高台をもつ。体部は丸みをもってたちあがる。96は断面三角形状の低い高台をもち、器壁は厚く体部は丸みをもってたちあがる。内面には暗文あり。底部に黒斑がある。97・98は土鍋。97は体部から口縁部にかけて大きく直線的に外反し、口縁端部は方形状である。98の口縁部は大きく外反し、口縁端部は丸みをもつ。99・100は瓦。99は須恵質。凹面に細かい布目痕が残る。100は凸面に細縄タタキ痕、凹面に布目痕が残る。

時期：出土遺物から、平安時代～鎌倉時代の土坑と考えられる。埴の時期は12世紀の後半。



第27図 SK10 測量図・出土遺物実測図(1)



第28図 SK10 出土遺物実測図(2)

SK12 (第29図)

SK12は、調査区のA8区に位置し、1次調査西壁と2次調査3区の境で検出した。SD7とカクラン87に切られる。西側は2次調査3区SD303につづく。西側は1次調査のトレンチに切られるため、平面形態は明確ではないが、検出した一部の平面形と断面観察、2次調査の平面確認から、長方形と考えられる。規模は、長さ約1.50m、幅0.45m、深さ0.17mを測る。断面形態は、皿状である。埋土は、灰色土(7.5YR 4/1)砂混じりである。出土遺物には、土師器の皿・土釜、瓦器の小片があるが、実測可能遺物はない。

時期：出土遺物から、中世の土坑と考えられる。

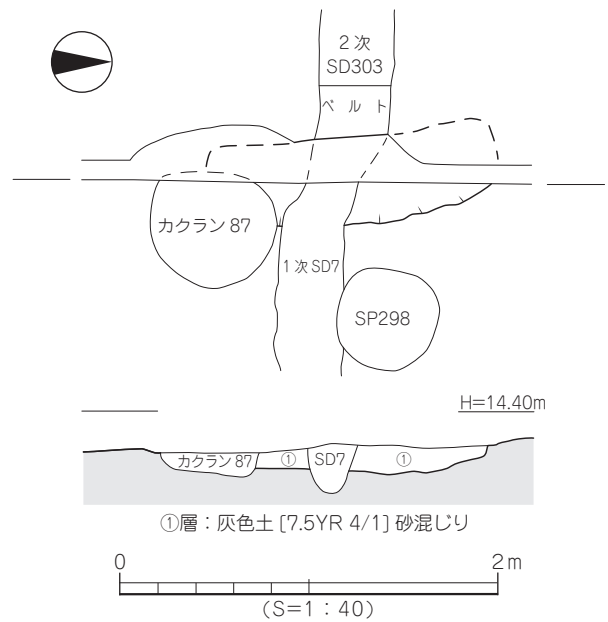
SK13 (第30図)

SK13は、調査区のC8区に位置する。南側はSD6と切り合う。平面形態は、2カ所のコーナー部を検出したため、隅丸方形と考えられる。規模は、長さ1.50m、検出幅1.08m、深さ0.16mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、明褐灰色土(7.5YR 7/2)である。出土遺物には、土師器の皿・土釜、瓦器、陶磁器がある。

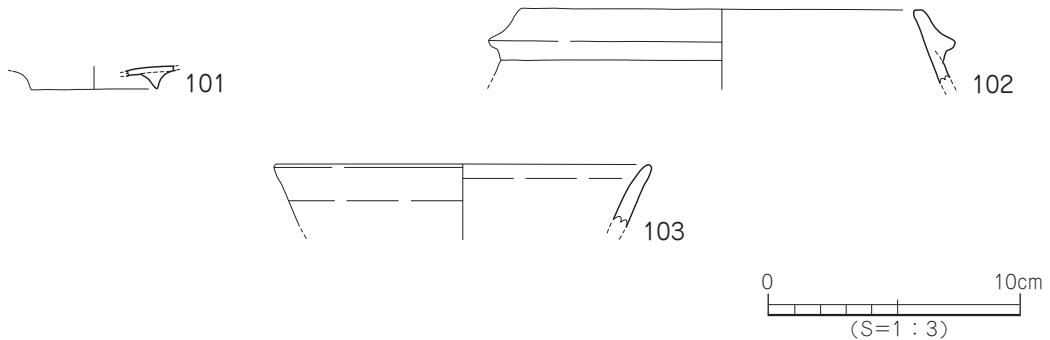
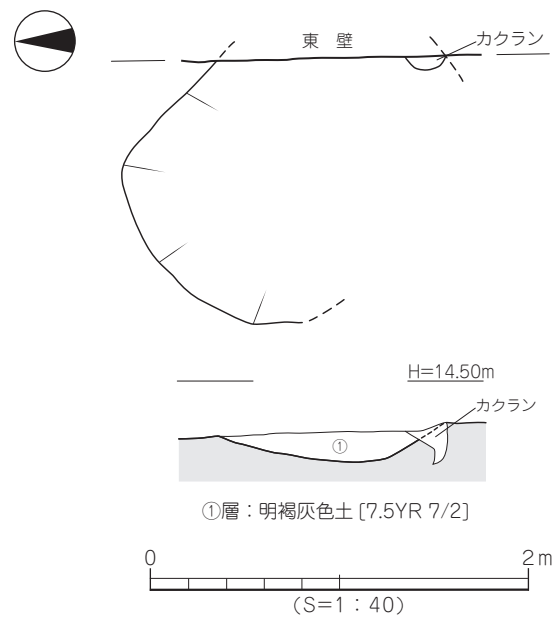
出土遺物 (101～103)

101は瓦器碗。底部に断面三角形状の高台を貼り付ける。102は土師器の土釜。口縁部下部に断面三角形状の鏝を貼り付ける。103は陶磁器の碗。

時期：出土遺物から、中世の土坑と考えられる。



第29図 SK12 測量図



第30図 SK13 測量図・出土遺物実測図

**SK15 (第 31 図)**

SK15は、調査区のD11区に位置し、SD22を切る。平面形態は不整長方形で、規模は長さ1.35m、幅1.04m、深さ0.14mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、2層に分層される。①褐灰色土(10YR 4/1)、②にぶい黄橙色土(10YR 7/3)に褐灰色土(10YR 4/1)が混じる。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、須恵器の小片があるが、実測可能遺物はない。

**時期：**出土遺物から、中世の土坑と考えられる。

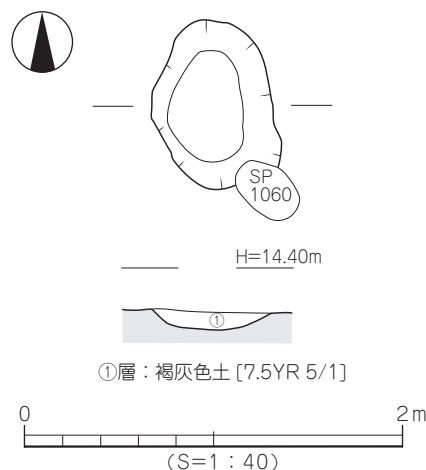


第 31 図 SK15 測量図

**SK19 (第 32 図)**

SK19は、調査区のB11区に位置し、SP1060に切られる。平面形態は楕円形で、規模は長さ0.90m、幅0.54m、深さ0.08mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 5/1)である。出土遺物には、土師器の皿と坏の小片があるが、実測可能遺物はない。

**時期：**出土遺物から、中世の土坑と考えられる。

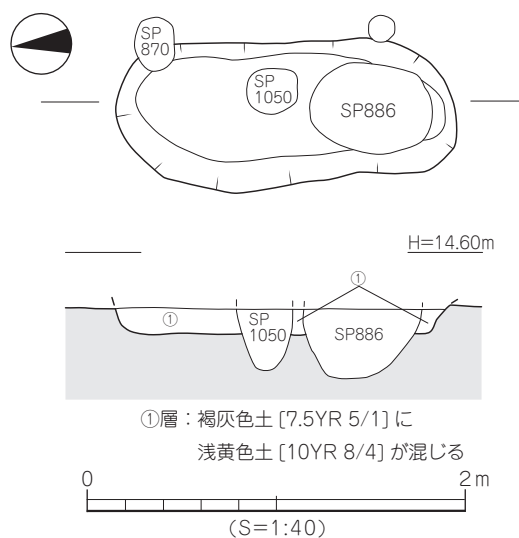


第 32 図 SK19 測量図

**SK21 (第 33 図)**

SK21は、調査区のE11区に位置し、SP886、SP870、SP1050に切られる。平面形態は不整楕円形で、規模は長さ1.71m、幅0.74m、深さ0.12mを測る。断面形態は、皿状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 5/1)に浅黄色土(10YR 8/4)が混じる。出土遺物には、土師器の皿の小片があるが、実測可能遺物はない。

**時期：**出土遺物から、中世の土坑と考えられる。



第 33 図 SK21 測量図

SK22 (第34図)

SK22は、調査区のE10区に位置する。平面形態は円形で、規模は長さ1.60m、幅0.92m、深さ0.34mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、4層に分層される。①褐灰色土(7.5YR 5/1)、②浅黄色土(10YR 8/4)に褐灰色土(7.5YR 5/1)が混じる、③褐灰色土(7.5YR 5/1)に浅黄色土(10YR 8/4)が混じる、④浅黄色土(10YR 8/4)である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、瓦器、須恵器の小片があるが、実測可能遺物はない。

時期：出土遺物から、中世の土坑と考えられる。

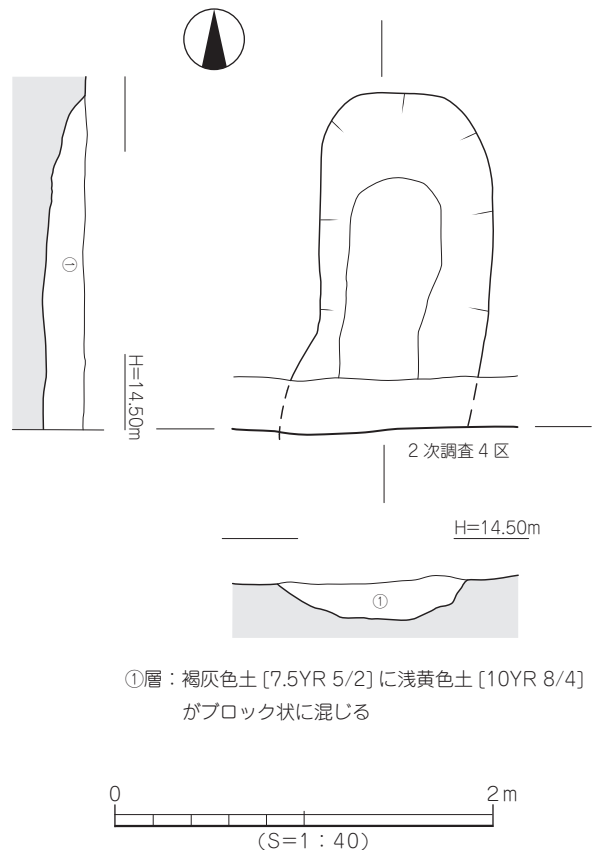


第34図 SK22 測量図

SK23 (第35図)

SK23は、調査区のE12区に位置する。南側は2次調査4区につづくが4区では確認できなかった。平面形態は隅丸長方形で、規模は検出長1.53m、幅1.01m、深さ0.18mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 5/2)に浅黄色土(10YR 8/4)がブロック状に混じる。出土遺物には、土師器の土釜・甕、須恵器、石があるが、実測可能遺物はない。

時期：出土遺物から、中世の土坑と考えられる。



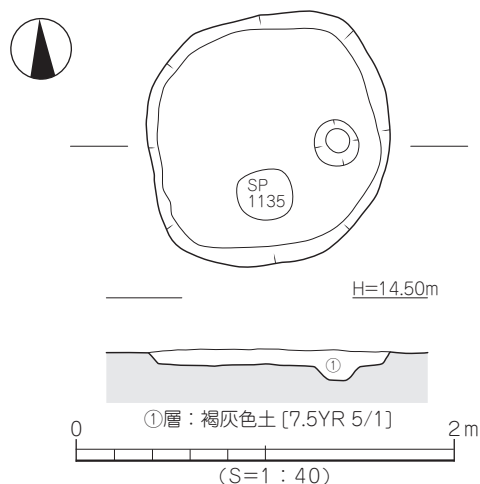
第35図 SK23 測量図



**SK25 (第 36 図)**

SK25 は、調査区の B10 区に位置し、SP1135 に切られる。平面形態は円形で、規模は長さ 1.34 m、幅 1.28m、深さ 0.08 m を測る。断面形態は、皿状である。埋土は、褐灰色土 (7.5YR 5/1) である。出土遺物には、土師器の皿・坏・甕があるが、実測可能遺物はない。

**時期：**出土遺物から、中世の土坑と考えられる。



第 36 図 SK25 測量図

**SK26 (第 37 図)**

SK26 は、調査区の B11 区に位置し、SP966、SP1127 に切られる。平面形態は長方形で、規模は長さ 1.42 m、幅 0.93m、深さ 0.19 m を測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土 (7.5YR 5/1) である。出土遺物には、土師器の甕、須恵器、陶磁器があるが、実測可能遺物はない。

**時期：**出土遺物から、中世の土坑と考えられる。

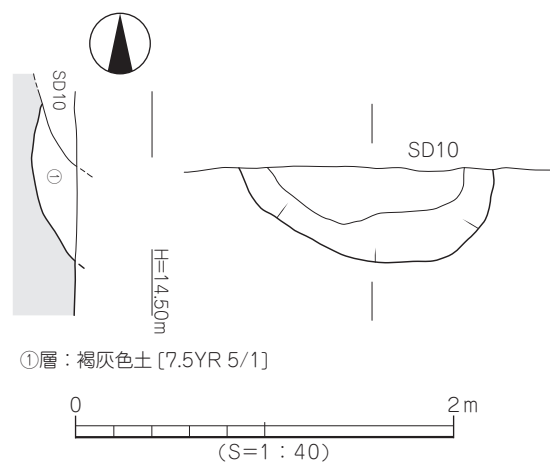


第 37 図 SK26 測量図

**SK27 (第 38 図)**

SK27 は、調査区の B9 区に位置し、SD10 に切られる。平面形態は、楕円形と思われる。規模は長さ 1.33 m、検出幅 0.50m、深さ 0.24 m を測る。断面形態は、レンズ状と思われる。埋土は、褐灰色土 (7.5YR 5/1) である。出土遺物には土師器の皿・坏・甕、須恵器があるが、実測可能遺物はない。

**時期：**出土遺物から、中世の土坑と考えられる。



第 38 図 SK27 測量図

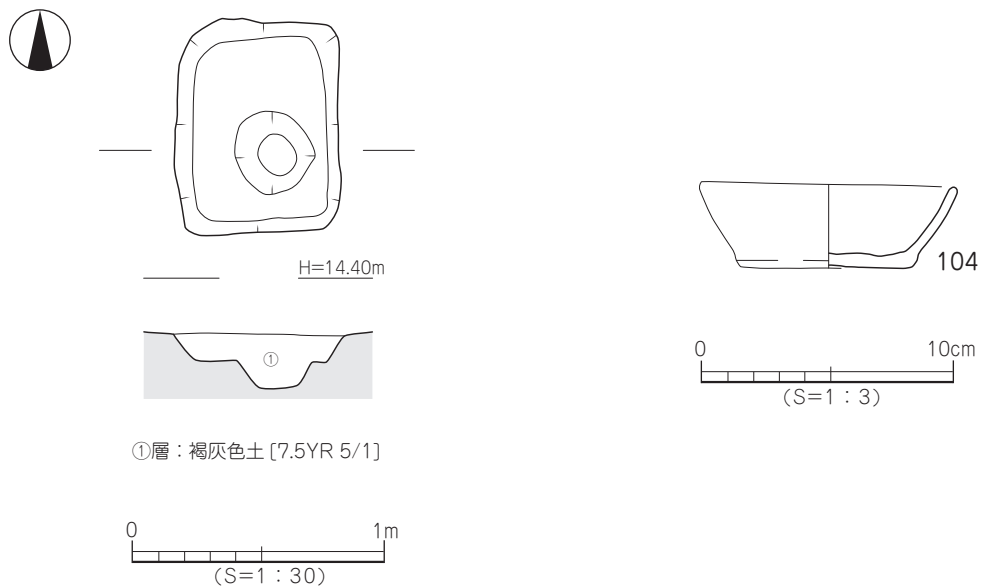
SK28 (第 39 図、図版 17)

SK28 は、調査区の C10 区に位置する。平面形態は長方形で、規模は長さ 0.85 m、幅 0.65m、深さ 0.22 m を測る。断面形態は、逆台形状で中央部に円形の段をもつ。埋土は、褐灰色土 (7.5YR 5/1) である。出土物には、土師器の皿・坏・甕、須恵器がある。

出土遺物 (104)

104 は土師器の坏。外傾する体部。底部の切り離しは回転糸切りである。

時期：出土遺物から、中世の土坑と考えられる。

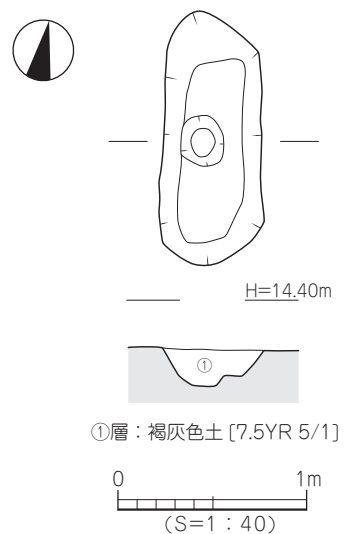


第 39 図 SK28 測量図・出土遺物実測図

SK31 (第 40 図)

SK31 は、調査区の D12 区に位置する。平面形態は楕円形で、規模は長さ 1.35 m、幅 0.52m、深さ 0.20 m を測る。断面形態は、逆台形状で中央部に円形状の窪みがある。埋土は、褐灰色土 (7.5YR 5/1) である。出土遺物には、土師器の皿・坏・甕、須恵器の挿鉢があるが、実測可能遺物はない。

時期：出土遺物から、中世の土坑と考えられる。



第 40 図 SK31 測量図

## 2) 土墳墓

土墳墓は、6基を検出した。

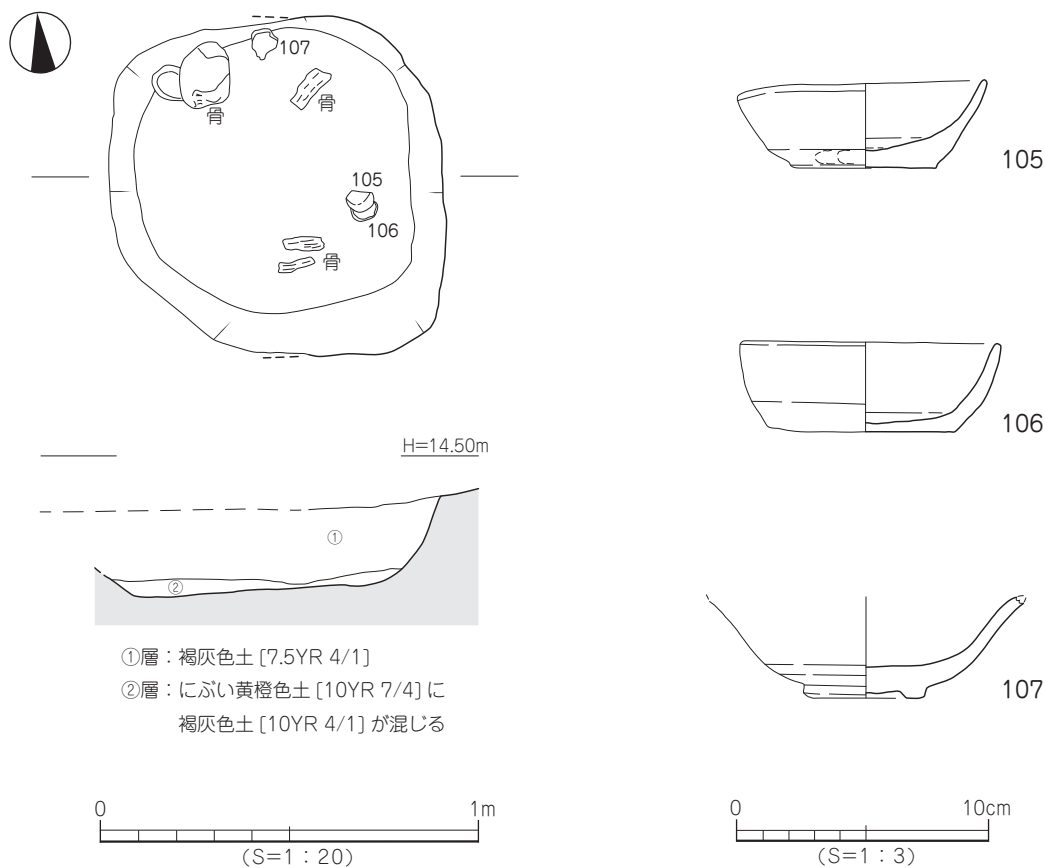
### SK16 (第41図、図版7・17)

SK16は、調査区のC・D11区に位置し、SD8を切る。調査時には、SD8との埋土の違いが明確でなく、SD8完掘時に平面を確認したため、西側は床面しか確認できていない。平面形態は隅丸方形で、規模は径0.88m、深さ0.26mを測る。断面形態は、逆台形状である。埋土は、2層に分層される。①褐灰色土(7.5YR 4/1)、②にぶい黄橙色土(10YR 7/4)に褐灰色土(10YR 4/1)が混じる。出土遺物には、土師器の坏・土釜、須恵器、陶磁器、人骨がある。土師器の出土状況は、完形品の坏2点が中央東に口縁部を合わせた状態で出土した。坏内部には遺物はなかった。人骨は頭蓋骨が北西に位置し、中央東と中央南からは長さ20cmの骨が出土した。骨は腐食が激しく取り上げはできなかった。

### 出土遺物 (105～107)

105・106は土師器の坏。105は直立気味にたちあがる体部。口縁部は丸い。ほぼ完形品。106は内湾気味にたちあがる体部。口縁端部は丸い。底部の切り離しは静止糸切りである。ほぼ完形品。107は陶磁器の碗。口縁端部は欠損している。底部は削り出し高台で内面には胎土目跡が3ヶ所に見られる。

時期：出土遺物の形態から、16世紀末～17世紀初頭の土墳墓と考えられる。



第41図 SK16 測量図・出土遺物実測図

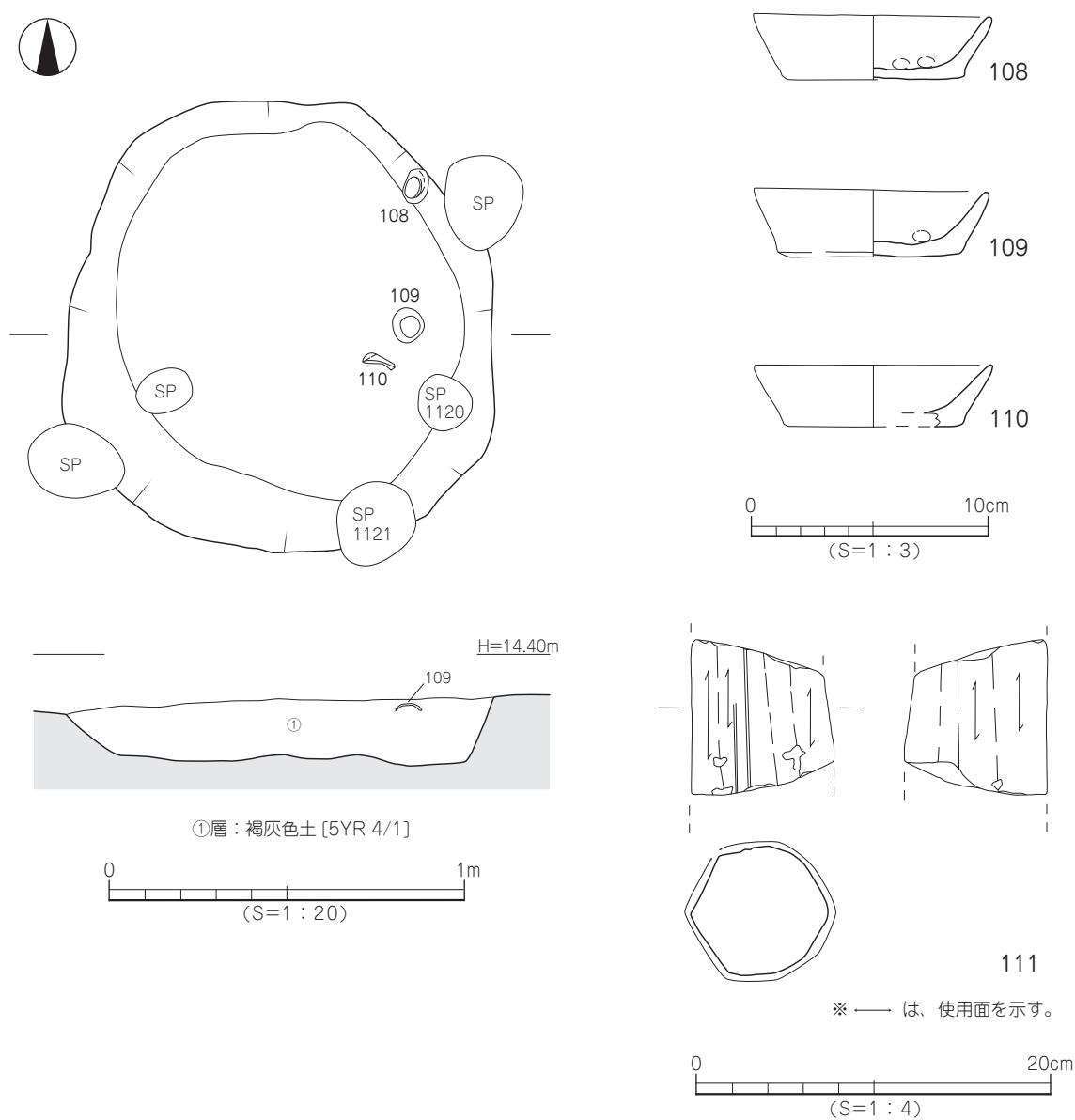
SK18 (第42図、図版7・17)

SK18は、調査区のD9区に位置し、SP1120・1121に切られる。平面形態は円形で、規模は長さ1.20m、幅1.20m、深さ0.20mを測る。断面形態は、逆台形状である。埋土は、褐灰色土(5YR 4/1)である。出土遺物には、土師器の完形品の坏2点、土師器片、須恵器片、石製品の砥石がある。

出土遺物 (108～111)

108～110は土師器の坏。108はほぼ完形品。底部の切り離しはヘラ切りである。109は完形品。底部の切り離しはヘラ切りである。110は外傾する体部から口縁部。口縁端部は先細りする。111は砥石。六角柱状で6面のすべての面で使用痕が確認できる。

時期：出土遺物の形態から、16世紀末～17世紀初頭の土壌墓と考えられる。



第42図 SK18 測量図・出土遺物実測図

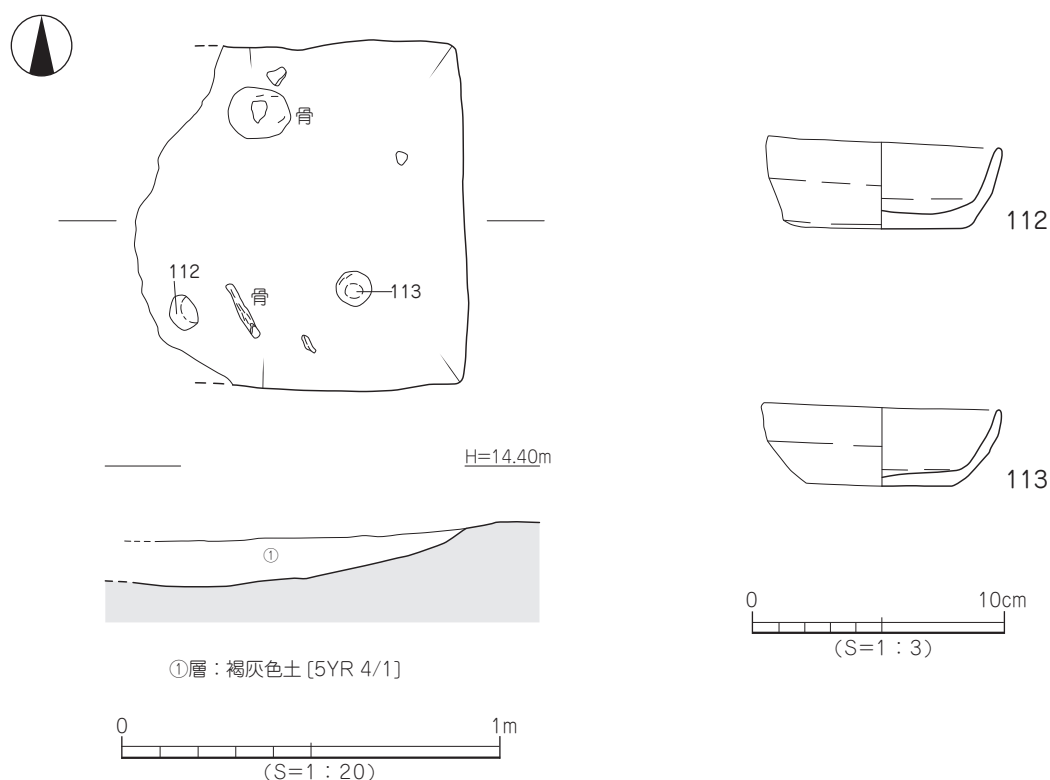
SK24 (第 43、図版 17 図)

SK24 は、調査区の C・D11 区に位置し、SD8 を切る。調査時には、SD8 との埋土の違いが明確でなく、SD8 完掘時に確認したため、西側平面形は床面しか確認できていない。平面形態は、西側は確認できていないが、長方形と思われる。規模は、検出長 0.92 m、幅 0.91m、深さ 0.15 m を測る。断面形態は、レンズ状と思われる。埋土は、褐灰色土 (5YR 4/1) である。出土遺物には、土師器の完形品の坏 2 点、土師器片、須恵器、人骨がある。人骨の出土状況は、北側中央部に頭蓋骨が位置し、南側中央部に大腿骨と思われる長さ 30cm の骨が位置する。人骨の東西から完形品の土師器の坏が出土した。

出土遺物 (112・113)

112・113 は土師器の坏。112 はほぼ完形品。内湾する体部。底部の切り離しはヘラ切りである。113 は完形品。内湾する体部。口縁部は尖り気味である、底部の切り離しは回転糸切りである。

時期：出土遺物から、中世の土壌墓と考えられる。



第 43 図 SK24 測量図・出土遺物実測図

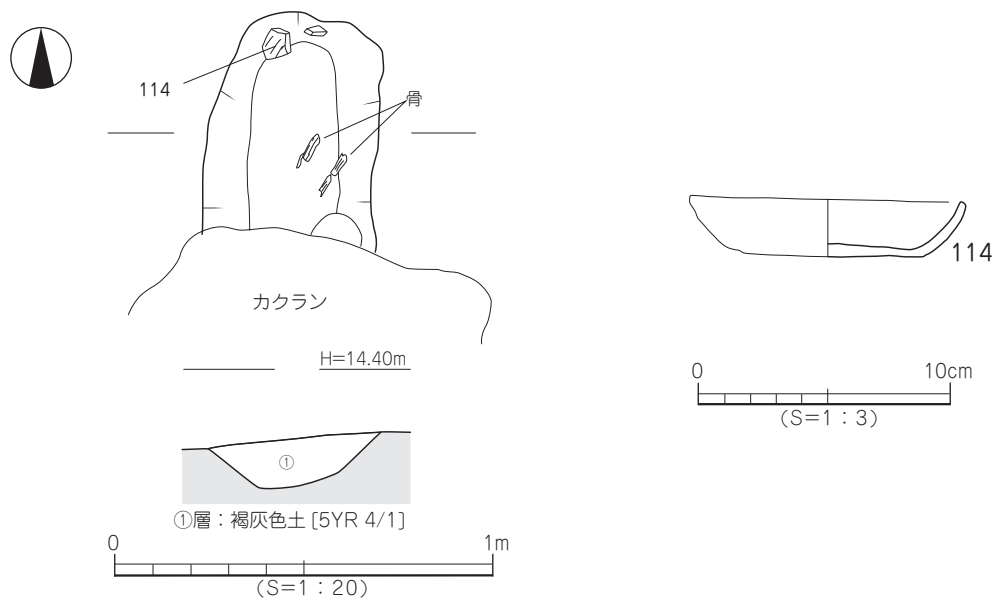
SK29 (第 44 図、図版 17)

SK29 は、調査区の D9・10 区に位置し、南側はカクランに切られる。平面形態は楕円形で、規模は検出長 0.57 m、幅 0.46m、深さ 0.15 m を測る。断面形態はレンズ状である。埋土は、褐灰色土 (5YR 4/1) である。出土遺物には、土師器の坏 1 点、人骨がある。人骨の出土状況は、中央部に長さ 30cm の骨が北東方向に平行に位置する。

出土遺物 (114)

114 は土師器の坏。外面にナデによる凹凸が見られる。

時期：出土遺物から、中世の土壌墓と考えられる。



第 44 図 SK29 測量図・出土遺物実測図

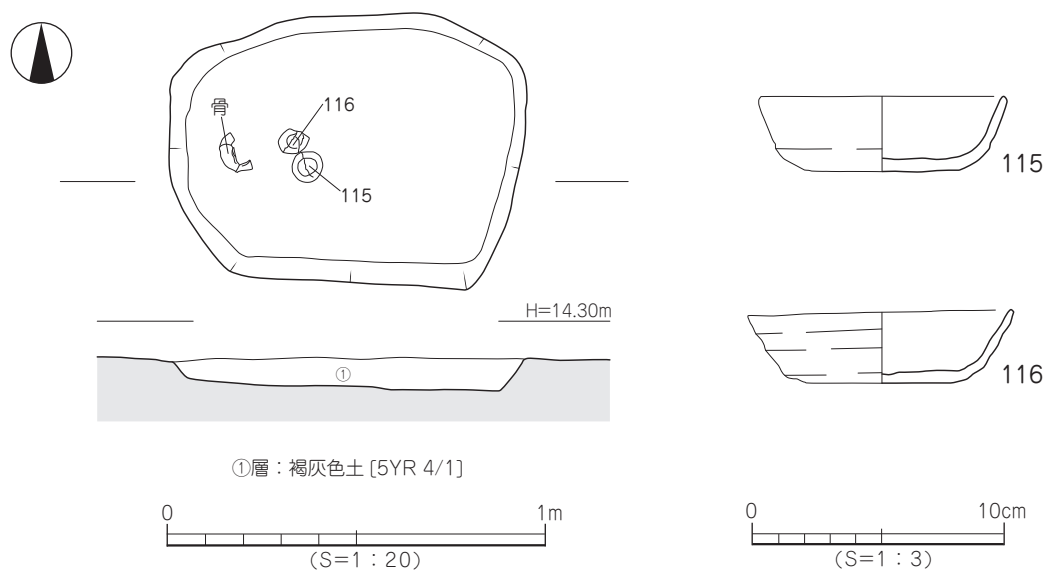
**SK30 (第 45 図、図版 8・17)**

SK30 は、調査区の C・D9 区に位置し、SD8 を切る。平面形態は長方形で、規模は長さ 0.9 m、幅 0.7 m、深さ 0.2 m を測る。断面形態は、逆台形状である。埋土は、褐灰色土 (5YR 4/1) である。出土遺物には、土師器の坏の完形品が 2 点、須恵器の捏鉢と人骨がある。人骨の出土状況は、西側に頭蓋骨と思われる円形状の骨が位置する。土師器の坏 2 点は、中央部やや西側の上層で、口縁部を下にした状態で出土した。

**出土遺物 (115・116)**

115・116 は土師器の坏。115 は外傾する体部から口縁端部は丸い。底部の切り離しは回転糸切りである。116 は外面にナデによる段が見られる。底部は切り離し後ナデ。ほぼ完形品。

**時期：**出土遺物から、中世の土壙墓と考えられる。



第 45 図 SK30 測量図・出土遺物実測図

SK32 (第 46、図版 18 図)

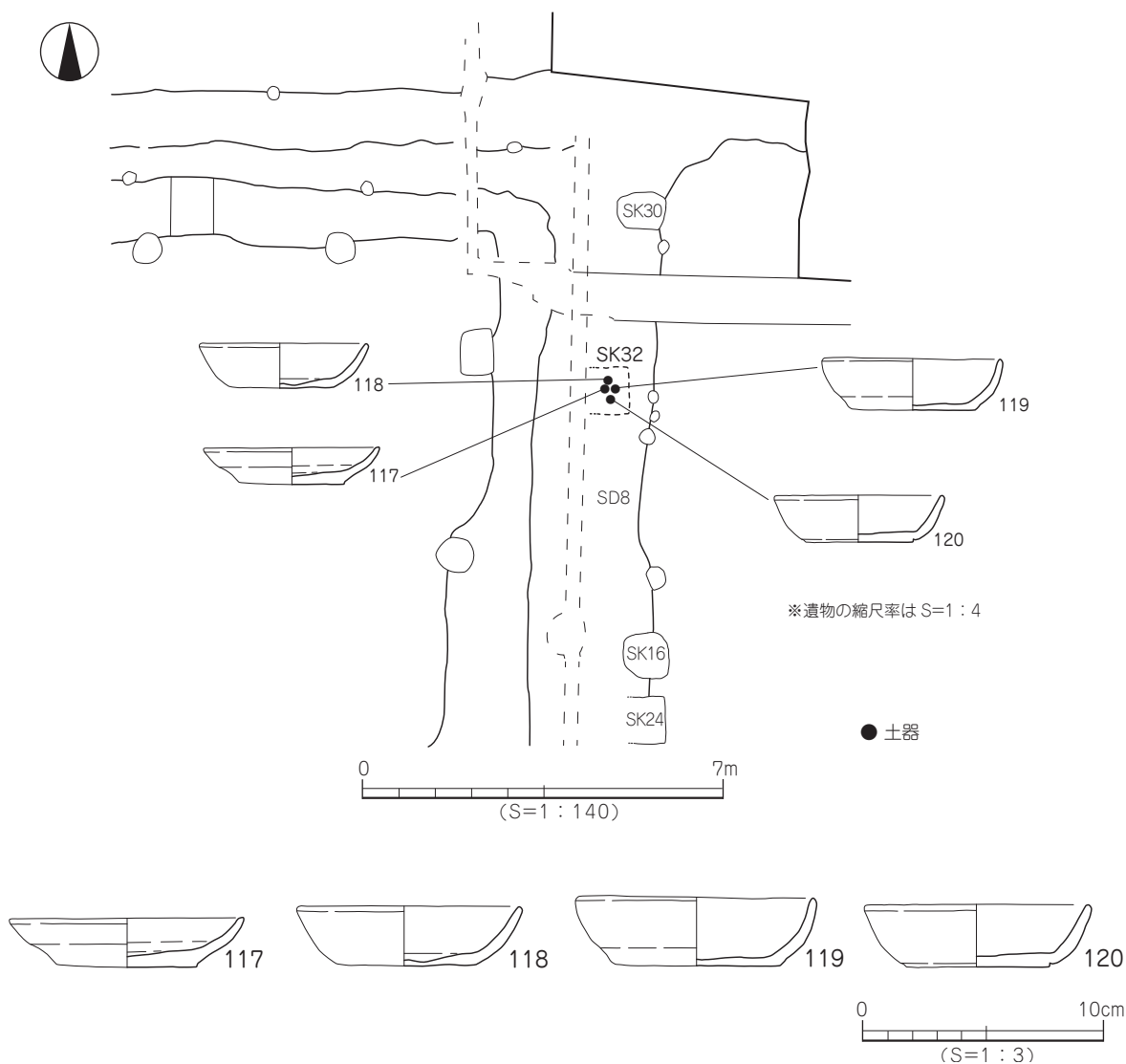
調査工程：平面形は調査時には確認することができなかったが、溝検出状況の写真を確認すると、わずかに色の違いが確認できたこと。北側には SD8 を切る SK30、南側には SK16・24 が位置すること。出土状況では SD8 上層で坏と皿の完形品がまとまって出土していること。遺物が完形品で、検出レベルが SK30・16・24 の出土遺物と同じであること。これらの状況から、他の土壙墓と同じく溝を切る土壙墓 (SK32) とした。

SK32 は調査区の C10 区に位置する。平面形態は不明である。出土遺物は土師器の皿と坏がある。

出土遺物 (117 ~ 120)

117 ~ 120 は土師器。117 は皿。高台風の底部。内湾する体部から口縁部。口縁端部は尖り気味である。底部の切り離しは回転糸切りである。118 ~ 120 は坏。118 は完形品。底部に回転糸切り痕と板状圧痕がある。119・120 は完形品。底部の切り離しは回転糸切りである。

時期：出土遺物から中世の土壙墓と考えられる。



第 46 図 SK32 遺物出土状況図・出土遺物実測図

### 3) 井戸

中世の井戸は7基を検出した。

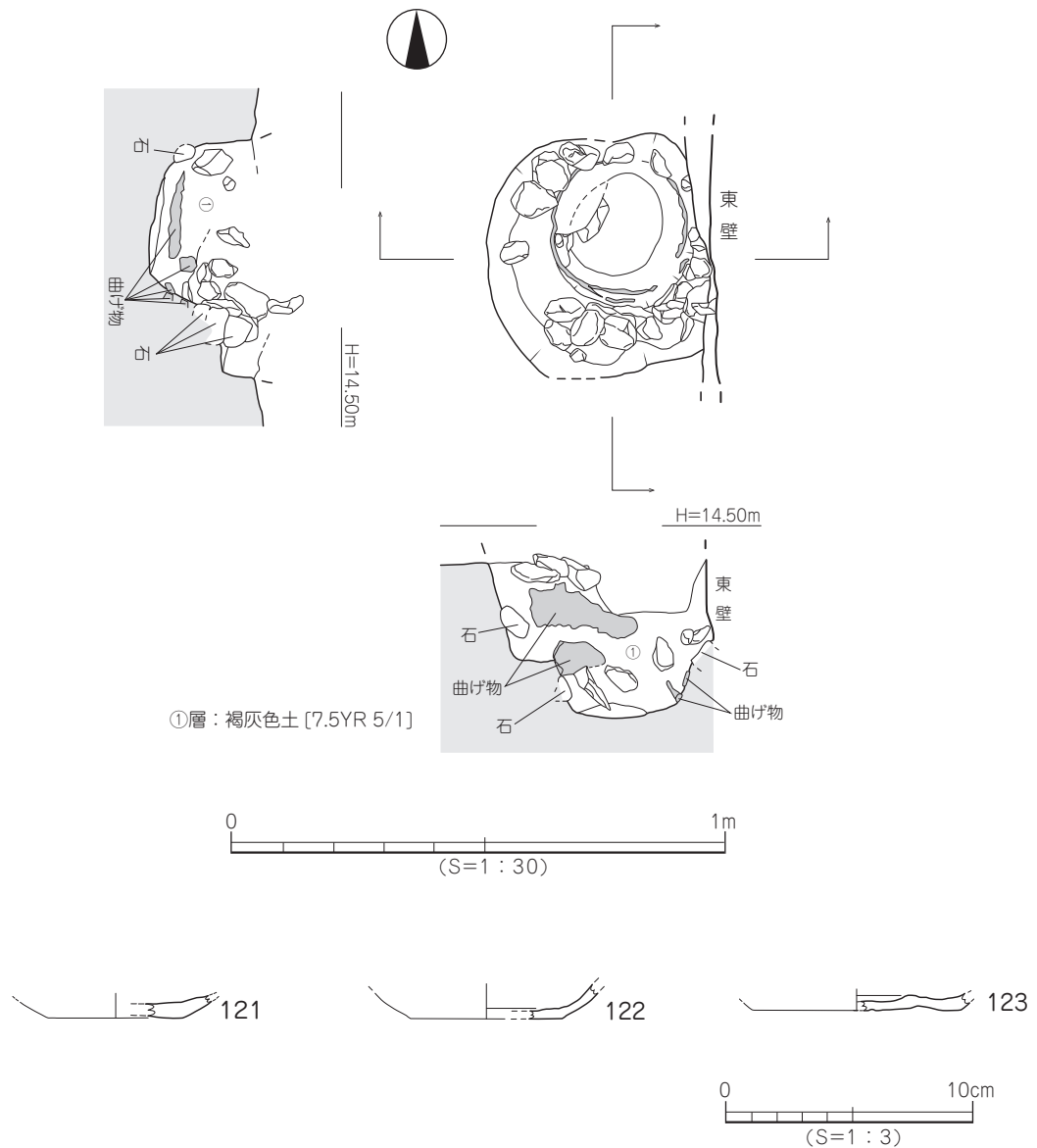
#### SE6 (第47図、図版8)

SE6は、調査区のG12区に位置し、東側は調査区外につづく。平面形態は円形で、規模は長さ1.0m、幅1.10m、深さ0.66mを測る。断面形態は、逆台形状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 5/1)である。井戸側は、石組を一部検出したがほぼ崩壊状態である。水溜は、曲げ物の痕跡が確認できる。出土遺物には、土師器の皿・坏・甕、須恵器がある。

#### 出土遺物 (121 ~ 123)

121 ~ 123は土師器の皿。3点ともに底部の小片で底部の切り離しは回転糸切りである。121・122の底部には板状圧痕が見られる。

時期：出土遺物から、中世の井戸と考えられる。



第47図 SE6 測量図・出土遺物実測図



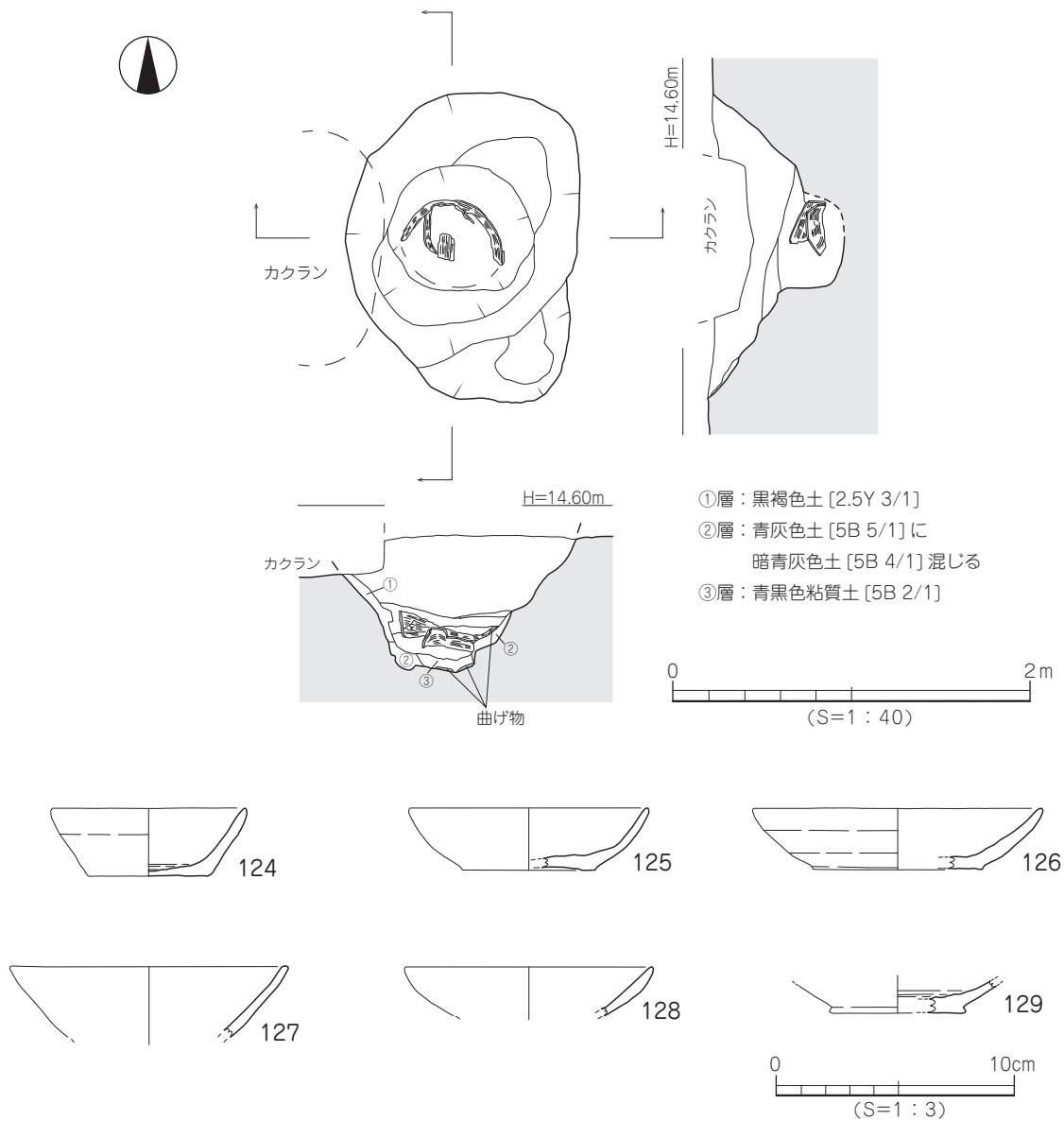
SE7 (第48図、図版18)

SE7は、調査区のF11区に位置し、西側の上部はカクランに切られる。平面形態は円形で、規模は長さ1.80m、幅1.30m、深さ0.75mを測る。断面形態は逆凸形状である。埋土は、3層に分層できる。①黒褐色土(2.5Y 3/1)、②青灰色土(5B 5/1)に暗青灰色土(5B 4/1)が混じる、③青黒色粘質土(5B 2/1)である。下部に水溜の曲げ物を検出した。出土遺物には土師器の皿・坏・甕、須恵器がある。

出土遺物 (124～129)

124～129は土師器の坏。125・126は底部から口縁部の小片。124～126の底部の切り離しは回転系切りである。127は外傾する体部から口縁部の小片。器壁は薄い。128は口縁部の小片。口縁端部は先細りである。129は円盤高台。底部の切り離しは回転系切りである。

時期：出土遺物から、中世の井戸と考えられる。



第48図 SE7 測量図・出土遺物実測図

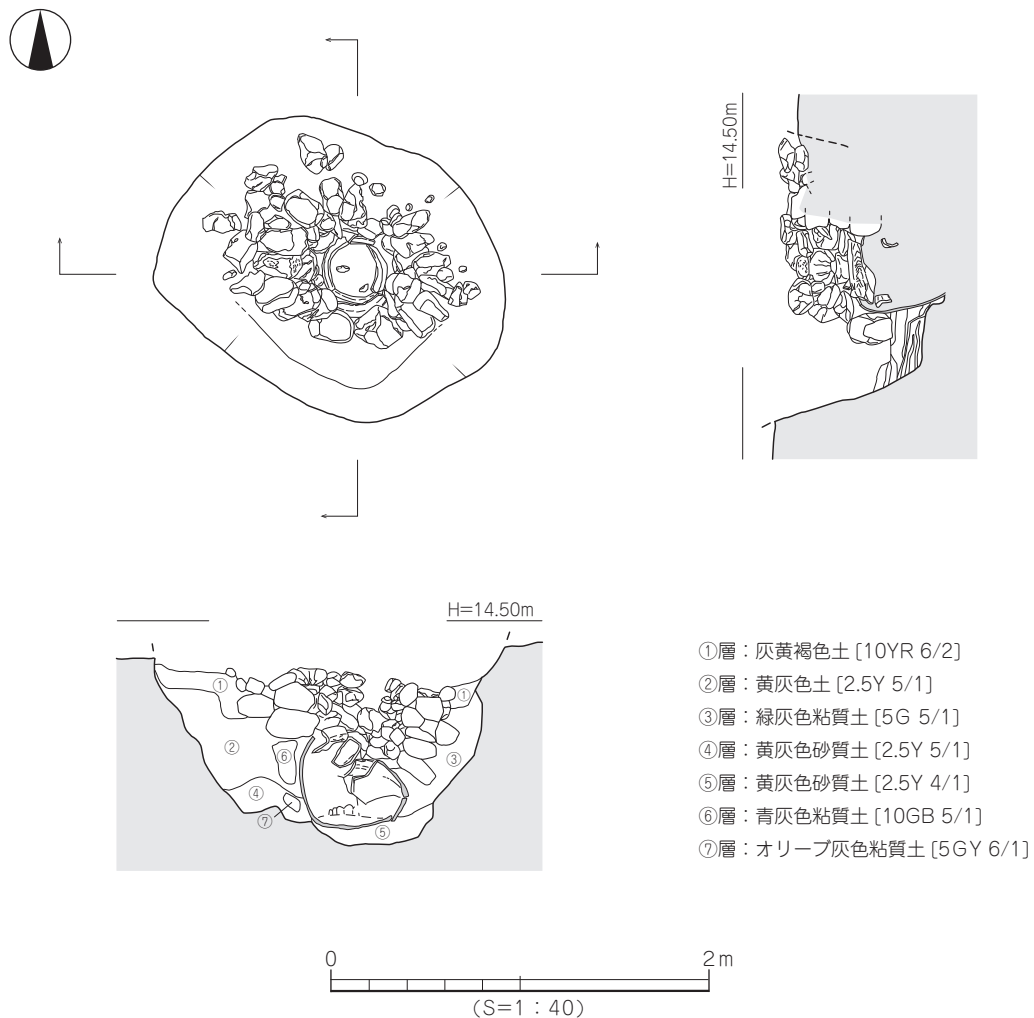
SE9 (第49・50図、図版8・9・18)

SE9は、調査区のE・F11区に位置する。平面形態は円形で、規模は長さ1.60m、幅1.70m、深さ0.85mを測る。断面形態は逆台形状である。埋土は、7層に分層される。①灰黄褐色土(10YR 6/2)、②黄灰色土(2.5Y 5/1)、③緑灰色粘質土(5G 5/1)、④黄灰色砂質土(2.5Y 5/1)、⑤黄灰色砂質土(2.5Y 4/1)、⑥青灰色粘質土(10GB 5/1)、⑦オリーブ灰色粘質土(5GY 6/1)である。井戸側は石組みで、水溜には甕が据えられている。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、陶器の大甕と須恵器がある。

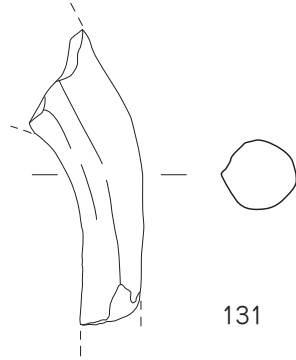
出土遺物(130～132)

130は亀山焼の陶器の大甕。井戸枠として使用。完形品で底部は打ち欠かれて穴が開く。131は土師器の三足付土釜の脚部。煤が付着している。132は須恵器の埴瓶。肩部に把手が付く。掘方下部の⑤黄灰色砂質土より出土した。

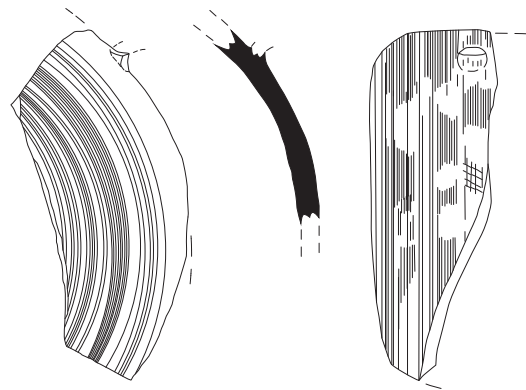
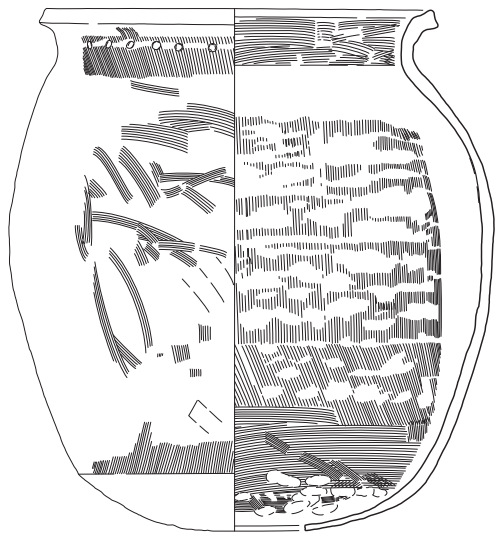
時期：出土遺物から、中世の井戸と考えられる。



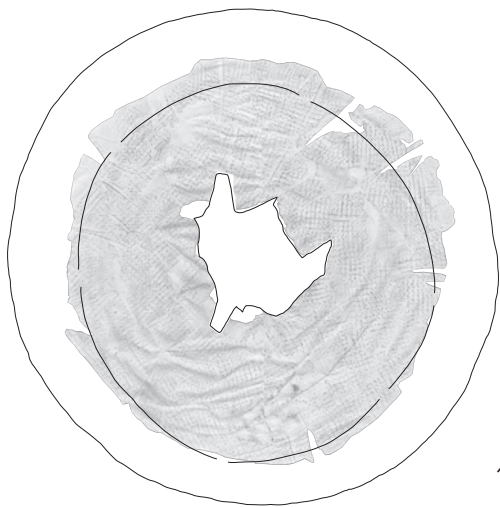
第49図 SE9 測量図



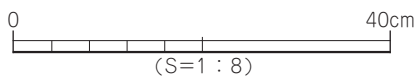
131



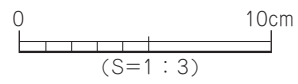
132



130



(S=1:8)



(S=1:3)

第 50 図 SE9 出土遺物実測図

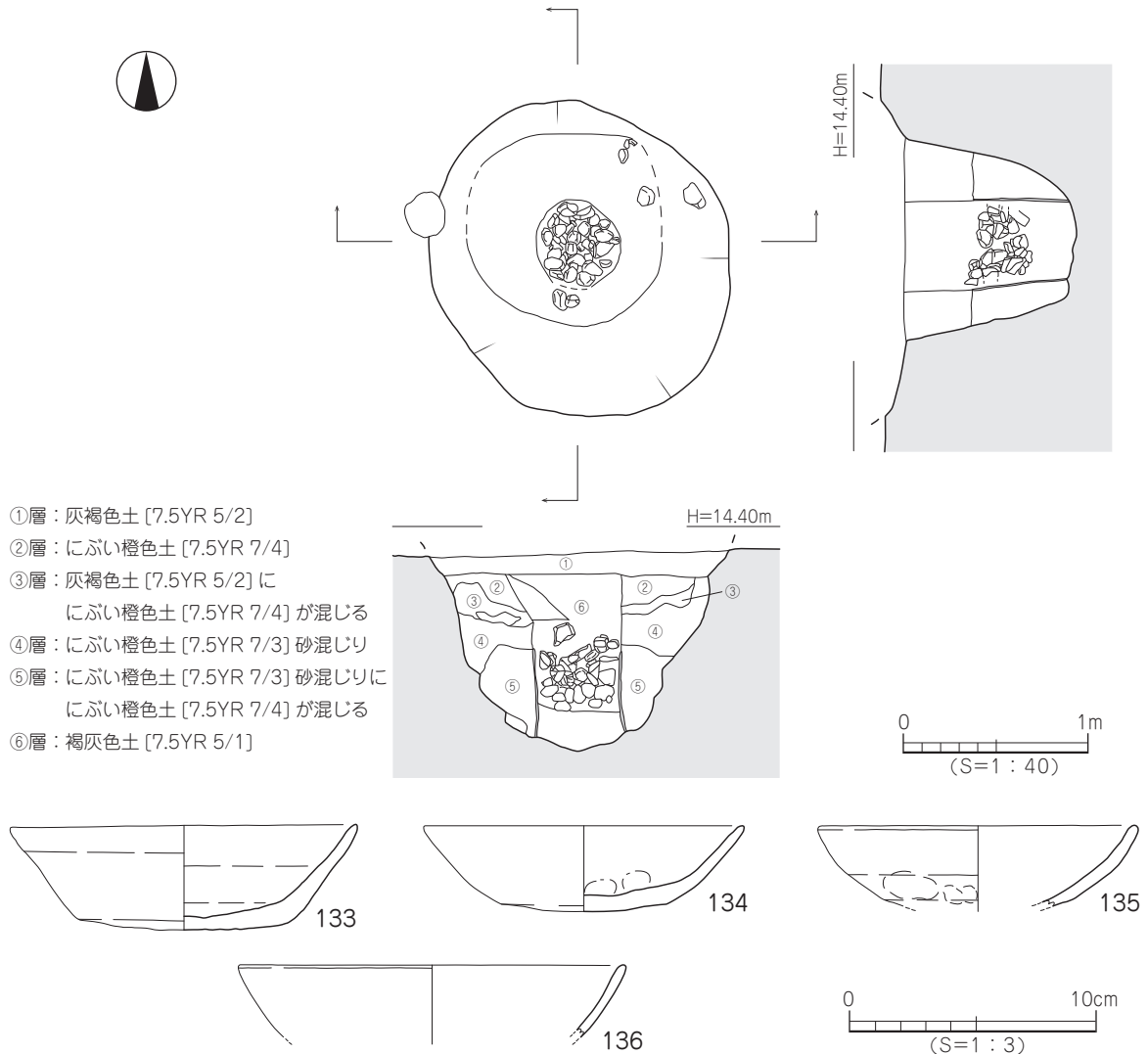
SE10 (第51図、図版9・18)

SE10は、調査区のD10区に位置する。平面形態は円形で、規模は長さ1.78m、幅1.70m、深さ0.54mを測る。断面形態は、逆台形状である。埋土は、6層に分層される。①灰褐色土(7.5YR 5/2)、②にぶい橙色土(7.5YR 7/4)、③灰褐色土(7.5YR 5/2)ににぶい橙色土(7.5YR 7/4)が混じる、④にぶい橙色土(7.5YR 7/3)砂混じり、⑤にぶい橙色土(7.5YR 7/3)砂混じりににぶい橙色土(7.5YR 7/4)が混じる、⑥褐灰色土(7.5YR 5/1)である。②～⑤は掘方の埋土である。井戸の構造は、井戸側に石組み、水溜りに曲げ物を検出した。曲げ物の平面形態は円形で、規模は径0.48m、高さ0.53mを測る。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、瓦器、須恵器、弥生土器がある。

出土遺物 (133～136)

133～136は土師器。133・134は坏。133は口縁端部は先細りである。丸みをもつ底部は回転ヘラ切り後ナデ調整を施す。134は丸みをもつ底部。内面底部に黒斑がある。135・136は碗。135は外傾し、わずかに内湾する体部外面は凹凸がある。口縁端部は丸い。煤が付着する。136は口縁部の小片。外傾し内湾気味の体部。口縁部の器壁は薄い。

時期：出土遺物から、中世の井戸と考えられる。



第51図 SE10 測量図・出土遺物実測図

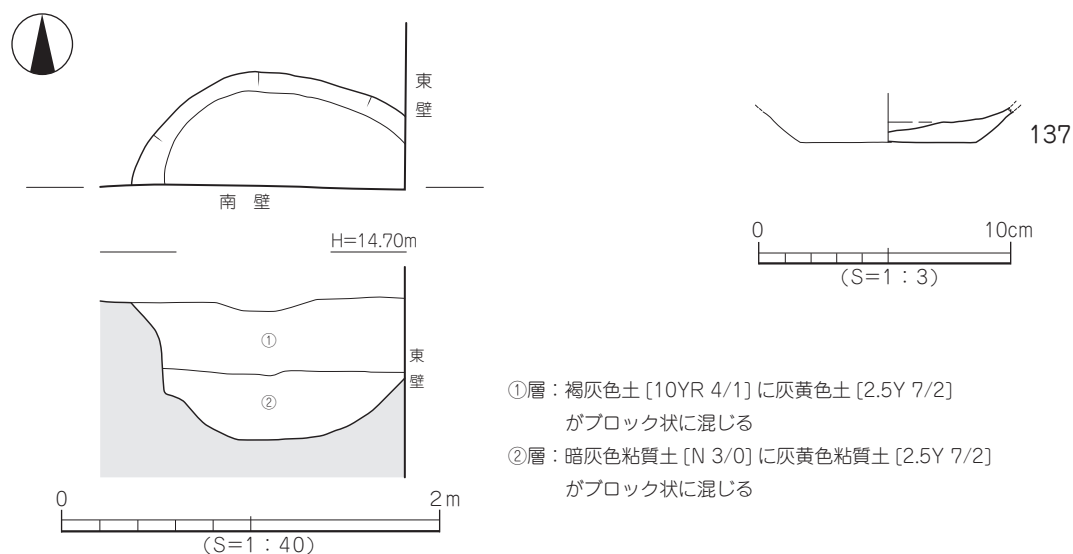
SE14 (SK14) (第52図)

SE14は、調査区のG12区に位置し、東側と南側は調査区外につづく。平面形態は、北側部分の検出であるが、北側の形状から円形と思われる。規模は、検出長0.80m、検出幅0.40m、深さ0.72mを測る。断面形態は、逆台形状である。埋土は、2層に分層される。①褐灰色土(10YR 4/1)に灰黄色土(2.5Y 7/2)がブロック状に混じる、②暗灰色粘質土(N 3/0)に灰黄色粘質土(2.5Y 7/2)がブロック状に混じる。出土遺物には、土師器の皿・坏・甕、須恵器の胴部片がある。

出土遺物 (137)

137は土師器の皿。底部の切り離しは回転糸切りである。

時期：出土遺物から、中世の井戸と考えられる。



第52図 SE14 (SK14) 測量図・出土遺物実測図

SE15 (SK17) (第53図、図版9・18)

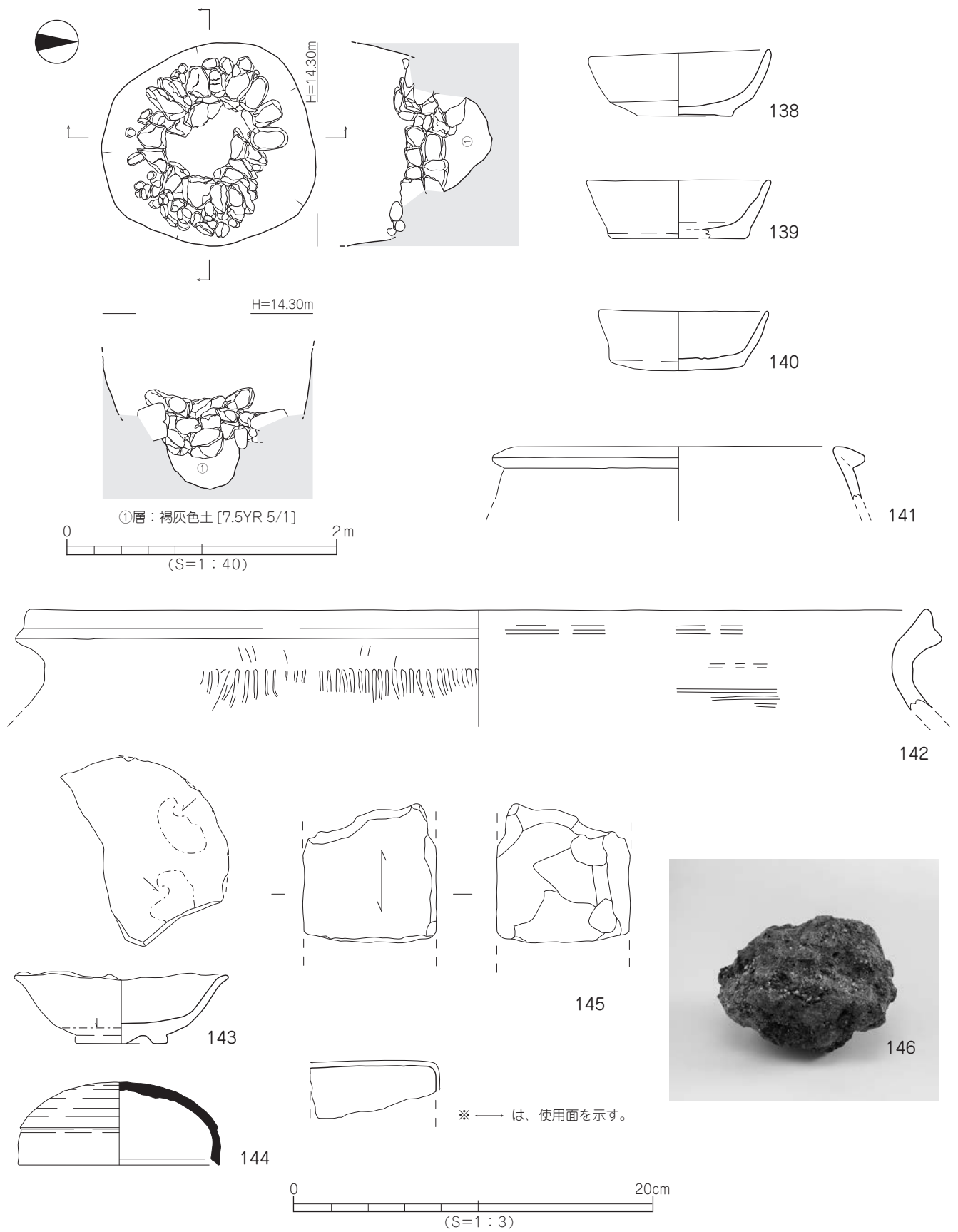
SE15は、調査区のC・D11・12区に位置する。平面形態は円形で、規模は径1.6m、深さ0.85mを測る。断面形態は、逆台形状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 5/1)である。井戸側は、上部の石組みが崩れているが、下部は二～四段以上残っている。水溜は、曲げ物の痕跡が僅かに残る。出土遺物には土師器の坏・土釜、陶磁器、須恵器、弥生土器、石製品、鉄製品がある。

出土遺物 (138～146)

138～141は土師器。138～140は坏。138の体部下は強いナデにより稜をもつ。底部に工具による強いナデが見られる。139は外傾する体部から口縁端部は丸い。140は丸みをもつ底部。内面に煤が付着する。141は土釜。口縁端部外面に断面三角形の鏝を貼り付ける。外面に煤が付着する。142は陶器の亀山焼の甕。短く外反する口縁端部外面はナデにより窪む。143は陶磁器の碗。口縁部は花卉状。削り出し高台で底部は露胎。144は須恵器の坏蓋。丸い天井部と口縁部を分ける稜は、断面三角形である。口縁端部は内傾する面をもち窪む。145は砥石。長方形で使用痕が確認できる。石材は流紋岩である。146は鉄滓。法量は重さ1266.27gを測る。

時期：出土遺物から、中世の井戸と考えられる。

遺構と遺物



第 53 図 SE15 (SK17) 測量図・出土遺物実測図・写真

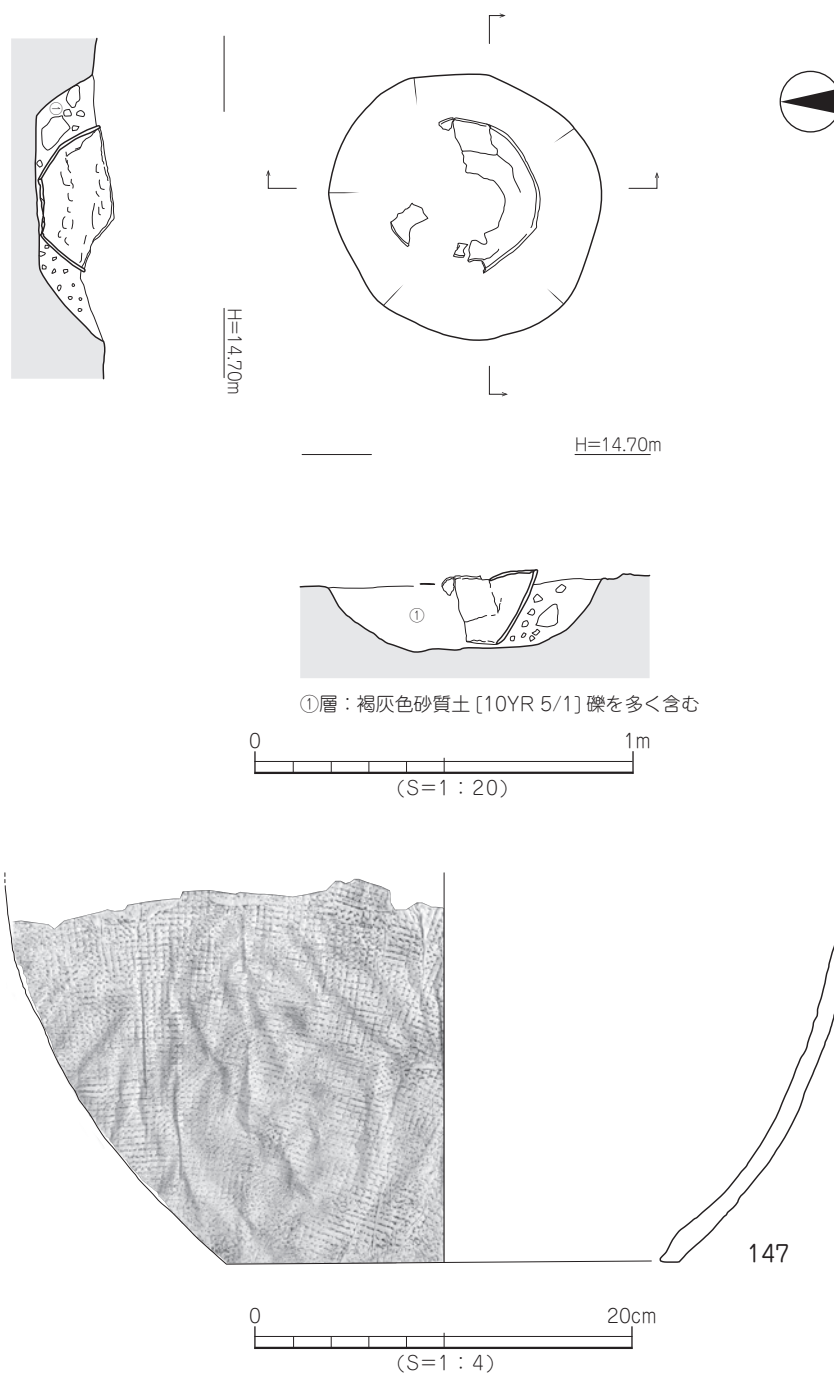
SP 2 (水琴窟) (第 54 図、図版 10)

SP2 は、調査区の G2 区に位置する。掘方の平面形態は楕円形で、規模は長さ 0.74m、幅 0.65 m、深さ 0.21 m を測る。断面形態は、逆台形状である。埋土は、褐灰色砂質土 (10YR 5/1) 礫を多く含むである。出土遺物には甕が出土した。掘方内には石が混入し、掘方の床面部からも小石を検出した。

出土遺物 (147)

147 は 亀山焼の陶器の甕。外面にタタキ痕が残る。甕底部は円形状に打ち欠いている。

時期：出土遺物から、中世の水琴窟と考えられる。



第 54 図 SP2 (水琴窟) 測量図・出土遺物実測図

#### 4) 溝

溝は、23条を検出した。

##### SD1 (第55図)

SD1は、調査区のD1～G2区に位置する東西方向の溝で、SK2に切られ、東側は調査区外につづく。規模は検出長18.80m、幅1.68m、深さ0.16mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、黄灰色砂質土(2.5Y 5/1)礫を含む、を基本とする。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、須恵器、弥生土器がある。弥生土器は摩滅している。実測可能遺物はない。

**時期：**出土遺物から、中世の溝と考えられる。

##### SD2 (第55図)

SD2は、調査区のB2～G1区に位置する東西方向の溝で、東側と西側は調査区外につづく。規模は検出長32.62m、幅0.90m、深さ0.16mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、黄灰色砂質土(2.5Y 5/1)1～4mm大の礫を含む、を基本とする。出土遺物には、土師器の皿の小片、弥生土器があるが、実測可能遺物はない。

**時期：**出土遺物から、中世の溝と考えられる。

##### SD3 (第55図)

SD3は、調査区のE～G1区に位置する東西方向の溝で、西側、東側、北側は調査区外につづく。規模は検出長12.36m、幅0.52m、深さ0.17を測る。断面形態は、逆台形状である。埋土は、褐灰色粗砂(5YR 5/1)を基本とする。出土遺物には、土師器の皿の小片があるが、実測可能遺物はない。

**時期：**出土遺物から、中世の溝と考えられる。

##### SD4 (第55図)

SD4は、調査区のC1・2区に位置する南北方向の溝で、北側は調査区外につづく。規模は、検出長7.92m、幅0.38m、深さ0.15mを測る。断面形態は、皿状である。埋土は、緑灰色土(5G 6/1)を基本とする。出土遺物には、土師器の皿と須恵器の捏鉢・擂鉢があるが、実測可能遺物はない。

**時期：**出土遺物から中世の溝と考えられる。

##### SD5 (第56図)

SD5は、調査区のA～C6区に位置する東西方向の溝で、SP333に切られる。規模は、検出長9.40m、幅0.10～0.25m、深さ0.04～0.08mを測る。中央部が3.1m途切れる。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 5/1)である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、瓦器、鉄滓がある。

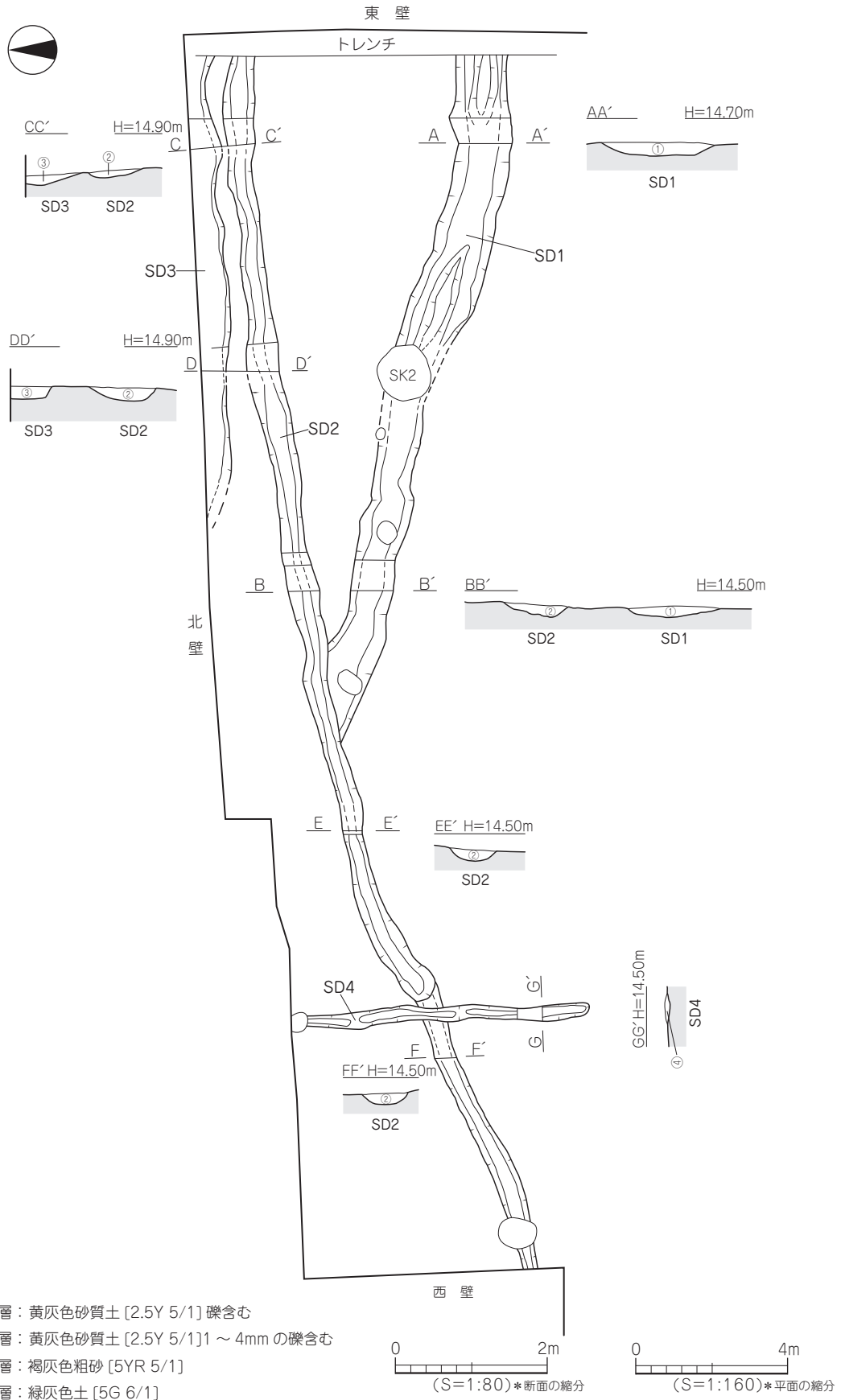
##### 出土遺物 (148)

148は鉄滓。B6から出土した。法量は重さ32.06gを測る。

**時期：**出土遺物から、中世の溝と考えられる。

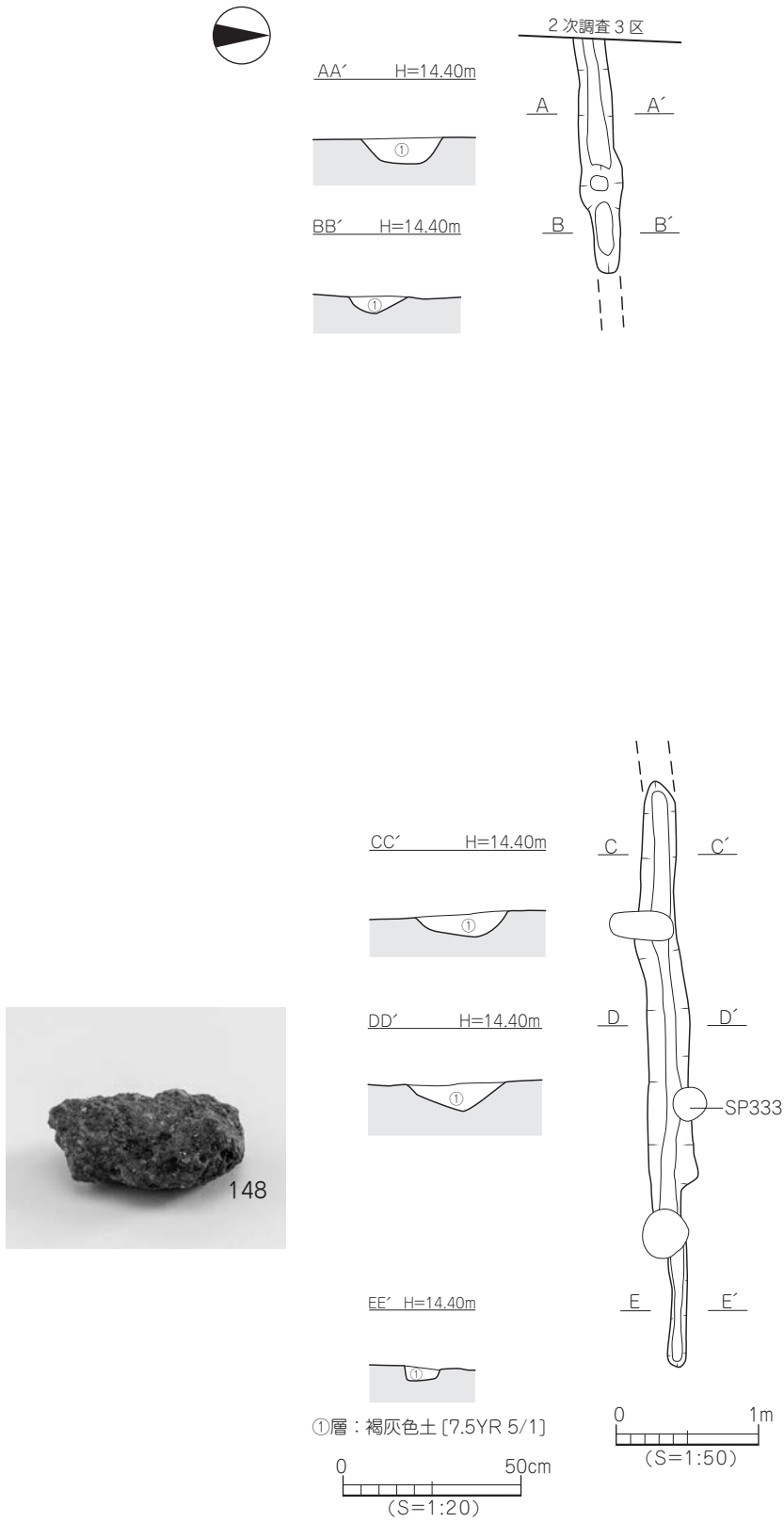


南江戸上沖遺跡 1次調査



第 55 図 SD1・2・3・4 測量図

遺構と遺物



第 56 図 SD5 測量図・出土遺物写真

**SD6** (第 57～60 図、図版 19)

SD6 は、調査区の A～C8 区に位置する東西方向の溝で、中央部は途切れ東側は 2 次 2 区 SD201 に、西側は 2 次 3 区 SD304 につづく。規模は、検出長 11.8 m、幅 2.3 m、深さ 0.4m を測る。断面形態は、逆台形である。埋土は、褐灰色を基本とし、色調と混入物により 5 層に分層される。①灰褐色土 (7.5YR 5/2)、②褐灰色土 (7.5YR 5/1)、③褐灰色土 (5YR 4/1)、④褐灰色粘質土 (5YR 4/1)、⑤褐灰色砂質土 (5YR 6/1) である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜・土鍋、須恵器の播鉢・捏鉢、瓦器、陶磁器、石製品、鉄製品がある。

**出土遺物** (149～181)

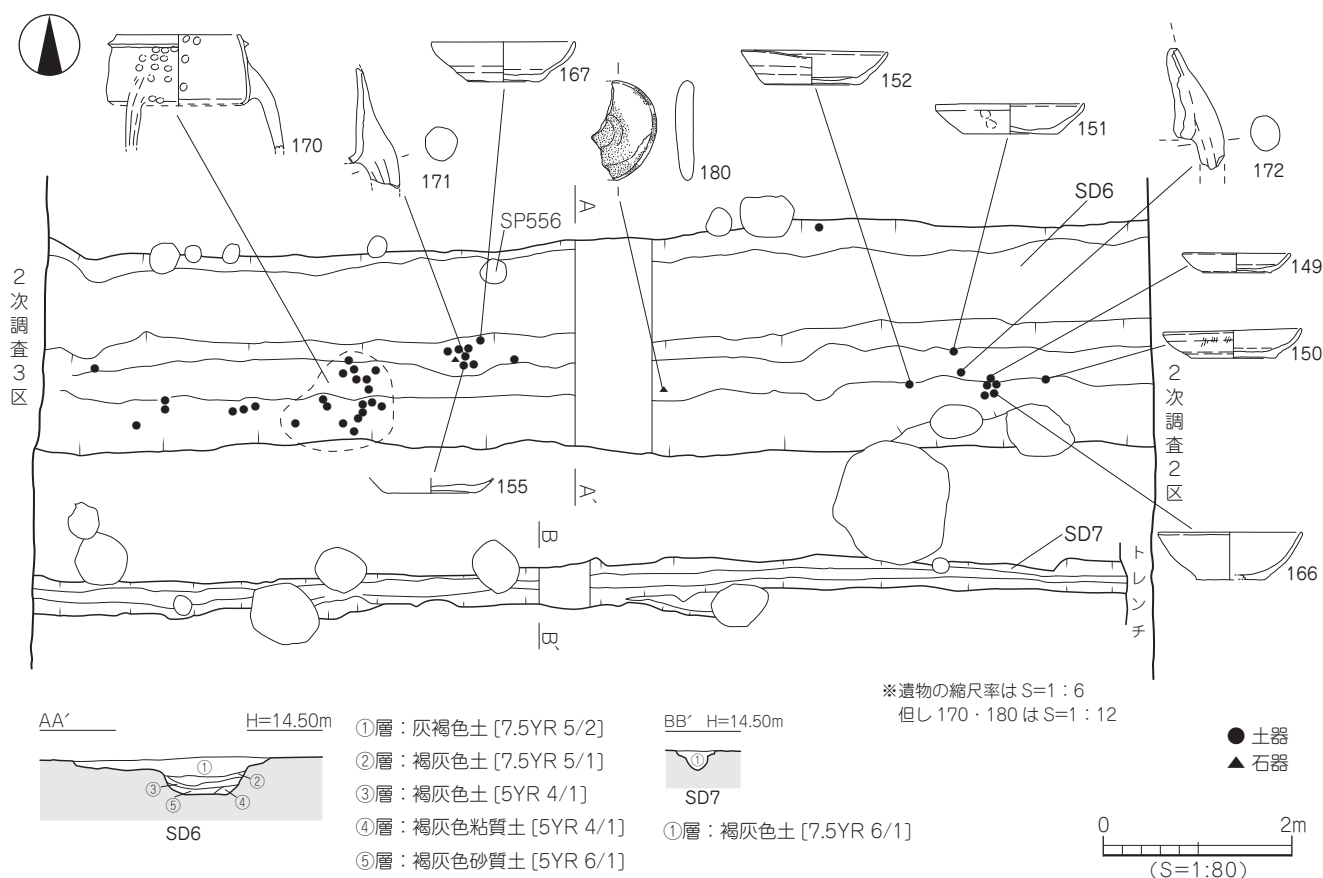
149～175 は土師器。149 は皿。底部はやや上げ底。底部の切り離しは、回転糸切りで板状圧痕がある。150～167 は坏。150 の底部はたちあがりをもち高台風。体部は内湾気味である。151 の体部は外反し、口縁部付近でやや上方にたちあがる。152 の体部は外反し口縁端部は丸い。底部は薄手でかなり歪む。153 の体部は直線的に外反する。口縁端部は尖り、器壁は薄手である。154 の体部は内湾し口縁端部は尖り気味である。155 の底部は上げ底で板状圧痕がある。体部上部は器壁が薄い。156 は内湾する体部から口縁部の残存。口縁端部は先細りである。157 は内湾する体部から口縁部の残存、口縁端部は丸い。158 は内湾する体部から口縁部の残存。口縁端部は尖り気味である。159 は内湾する体部から口縁部。口縁端部は丸い。160 は内湾する体部から口縁部。口縁端部は尖り気味である。161 は内湾する体部から口縁部。体部外面にナデにより稜が見られる。162 は体部外面にナデによる稜が見られる。口縁端部は尖り気味である。163 は体部外面にナデによる稜が見られる。口縁端部は尖り気味である。164 は直線的に伸びる体部。口縁部は尖り気味である。165 は体部外面にナデによる稜が見られる。口縁部端は尖り気味である。166 は内湾する体部から口縁部。口縁部の器壁は薄い。167 は外面に強いナデによる稜が見られる。内面に轆轤目が残る。底部にわずかに板状圧痕が見られる。168～173 は土釜。168・169 は土釜の口縁部。口縁部外面下部に、断面三角形の鏝を貼り付ける。168 は煤が付着する。170 は三足付き土釜の口縁部から脚部にかけての残存。口縁部外面下部に、断面三角形の鏝を貼り付ける。煤が付着する。171～173 は三足付土釜の脚部である。171・172 は土釜の底部内面が残る。煤が付着する。173 の断面は円形である。174・175 は土鍋。174 は短く外傾する口縁部。口縁端部は面をもちナデにより窪む。煤が付着する。175 は口縁端面はナデにより窪み、口縁部の内面はナデにより、大きく窪む。淡い黒斑がある。176・177 は備前焼の陶器の播鉢。176 の口縁端部は内傾し、内面には 6 本の櫛目が残る。177 の口縁端部は外傾する面をもち、内面には 5 本の櫛目が残る。178 は青磁の碗。内湾する体部の口縁部は僅かに外反し、端部は丸い。179 は円盤状土製品。土器の再利用品。円盤状に打ち欠いている。180 は石製品。円盤状で 1/2 の残存である。全面に煤が付着している。181 は鉄滓。C8 区の上層から出土した。法量は重さ 92.71g を測る。

**時期：**出土遺物から、14 世紀末～15 世紀前半の集落を区画する溝と考えられる。

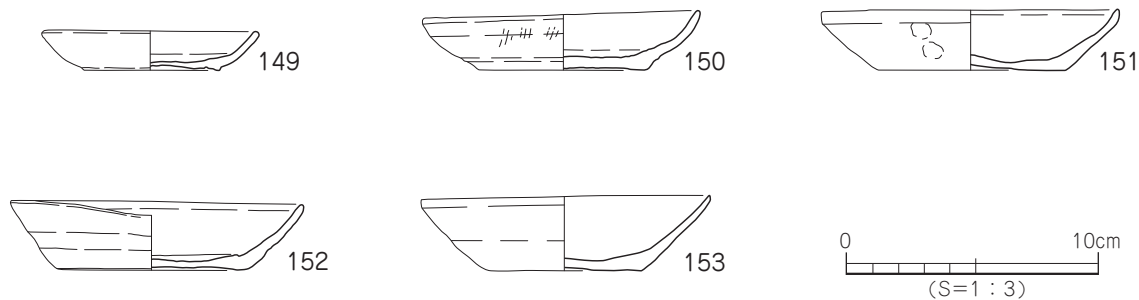
SD7 (第57図)

SD7は、調査区のA～C 8区に位置する東西方向の溝で、SX3を切る。東側は2次調査2区につづきSE206に切られ、SD221に接続する。西側は2次調査3区SD303につづく。規模は、検出長11.55m、幅0.33～0.40m、深さ0.22を測る。断面形態は「U」字状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 6/1)を基本とする。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、瓦器、陶磁器、須恵器、弥生土器があるが、実測可能遺物はない。

時期：出土遺物から、中世の溝と考えられる。

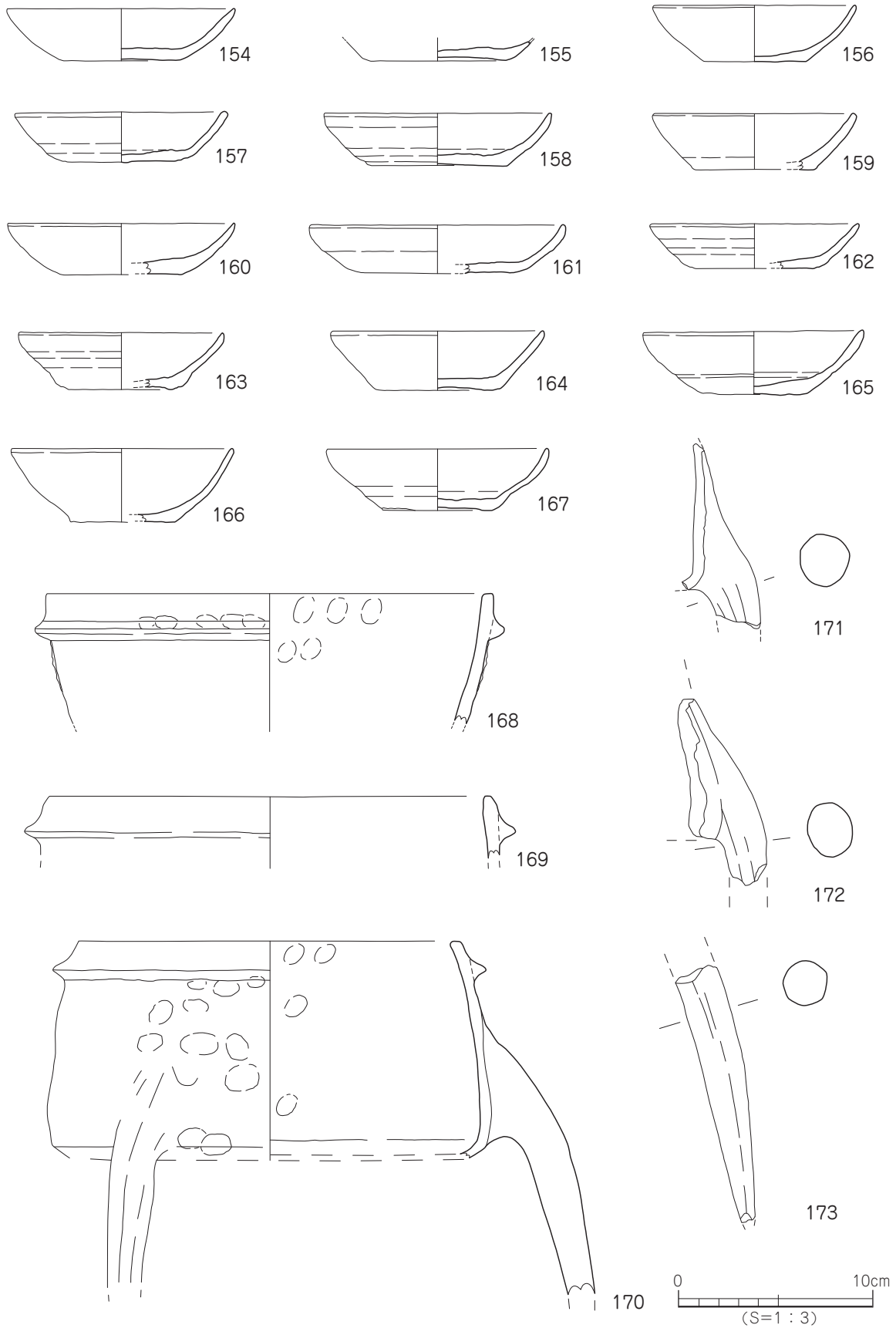


第57図 SD6・7 測量図・遺物出土状況図



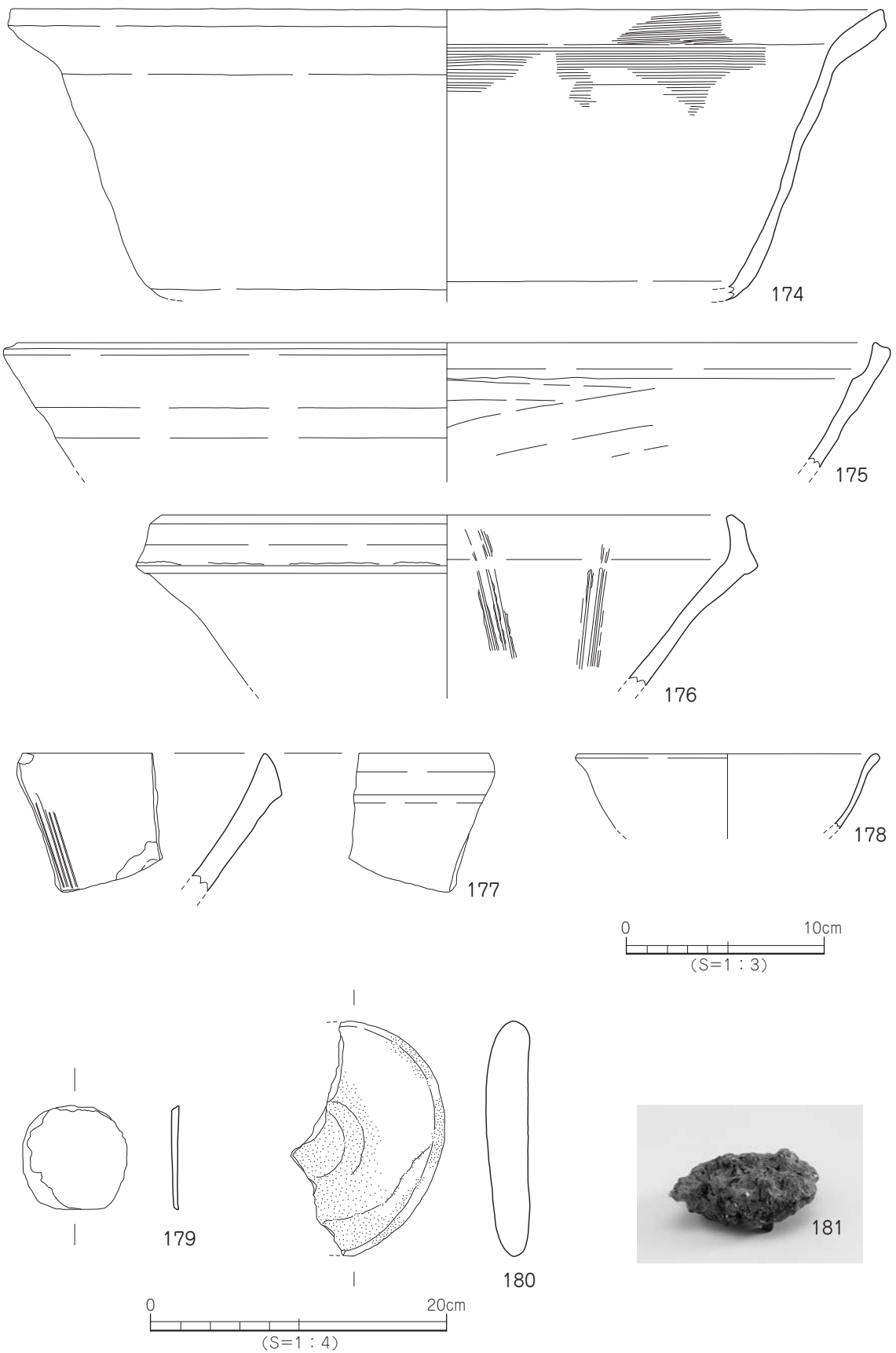
第58図 SD6出土遺物実測図(1)

南江戸上沖遺跡 1次調査



第 59 図 SD6 出土遺物実測図 (2)

遺構と遺物



第 60 図 SD6 出土遺物実測図 (3)・写真

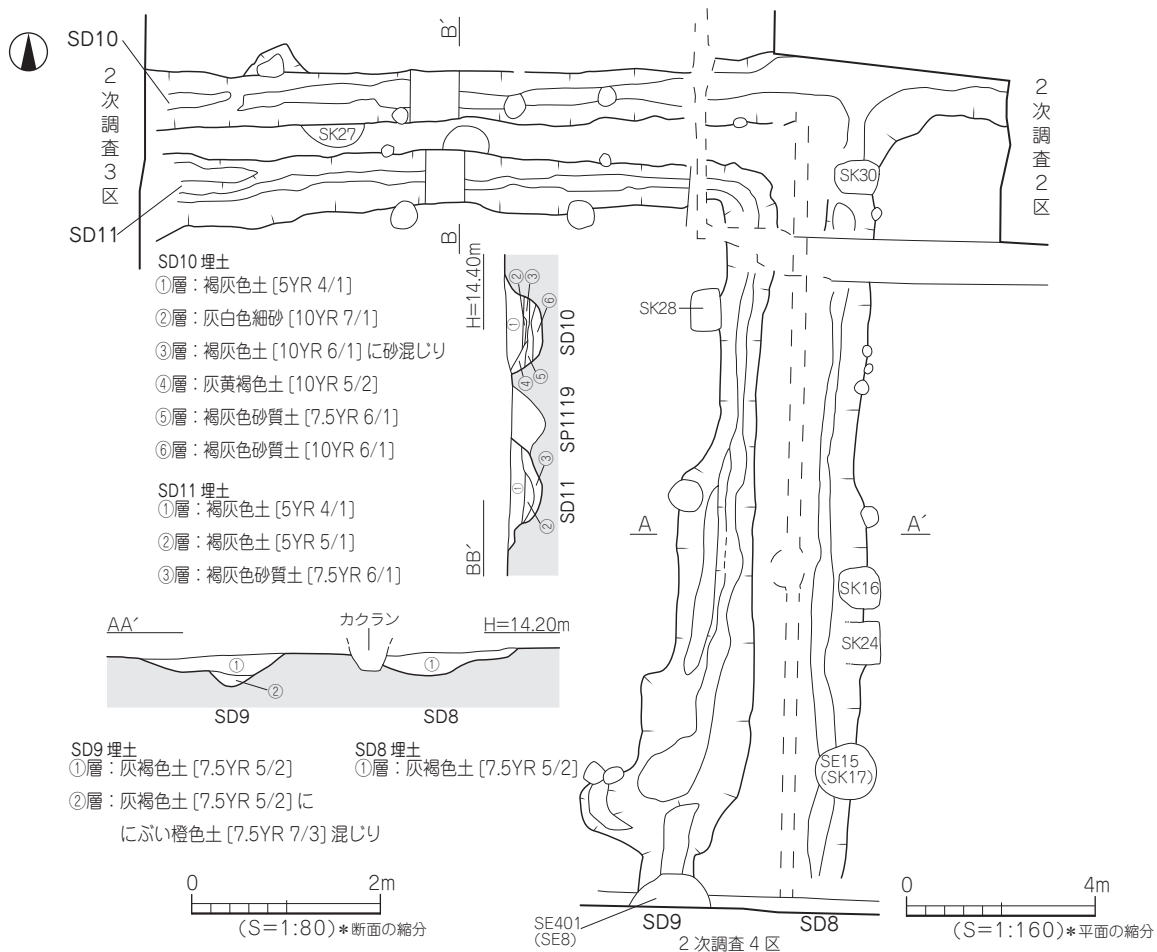
SD8 (第61～63図、図版19)

SD8は、調査区のC9～12区に位置する南北方向の溝で、C9区で東西方向の溝SD10とT字状に接続される。規模は、検出長18m、幅1.82m、深さ0.24mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、灰褐色土(7.5YR 5/2)である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、陶磁器、須恵器の捏鉢、轆の羽口、弥生土器、鉄製品がある。

出土遺物 (182～191)

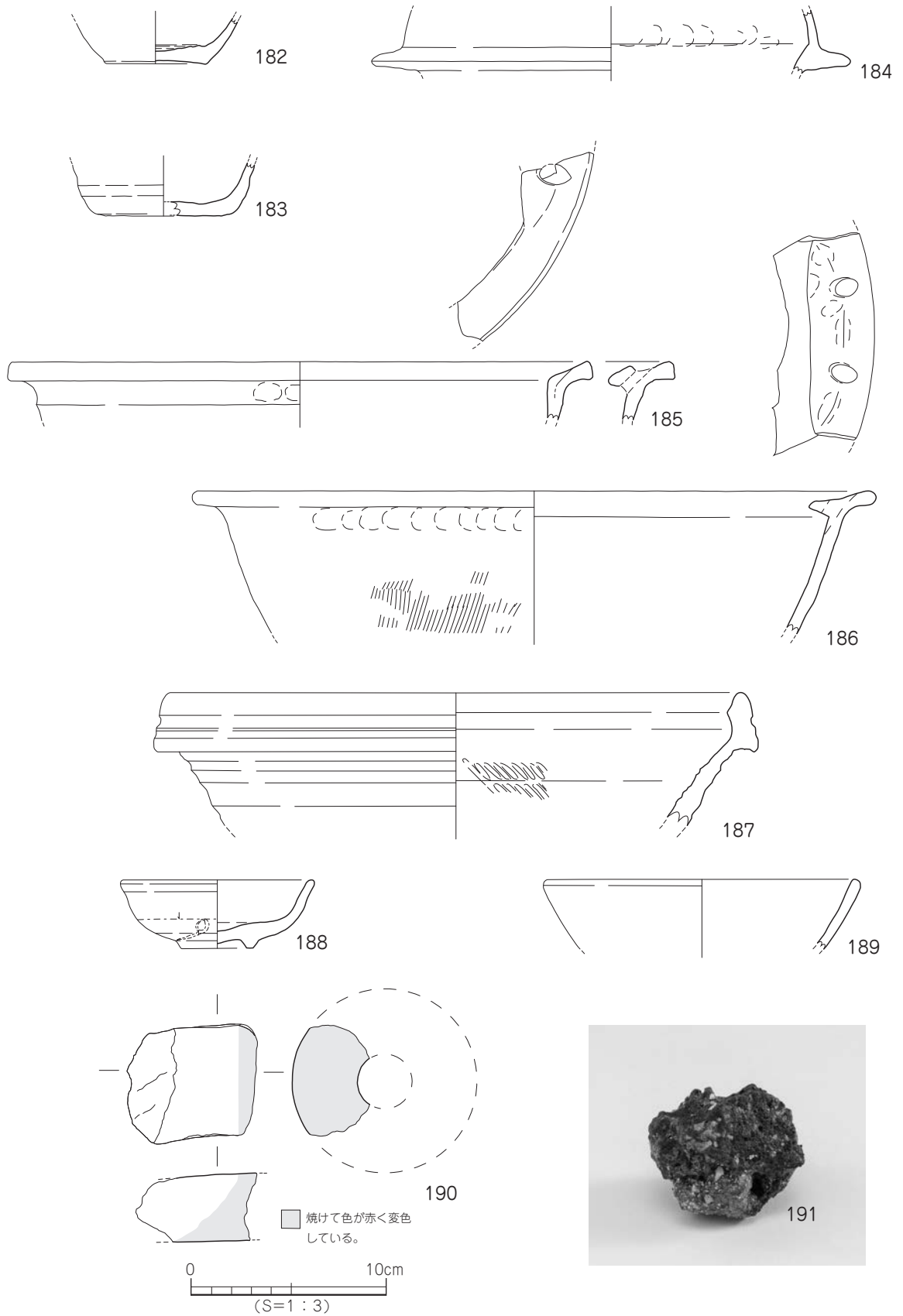
182～186は土師器。182・183は坏。182は上げ底の底部。底部の切り離しは静止糸切りである。183は体部外面はナデにより稜をもつ。底部の切り離しはヘラ切りである。184は羽釜。水平に短く伸びる鏝部。口縁部は内湾する。煤が付着する。185・186は土鍋。185は短く外反する口縁部に、円孔が施されている。煤が付着する。186は口縁部は短く外反し、口縁部は内側に拡張され円孔が2個残る。煤が付着する。187・188は陶器。187は備前焼の播鉢。口縁部端部は短く上方に伸び、外面に2条の凹線が廻る。内面に櫛目が施される。188は肥前焼の碗。内湾する体部に、口縁部はわずかに外反し端部は丸い。底部は削り出し高台である。189は青磁碗の口縁部片。口縁端部は丸く、全面に釉葉が掛かる。190は轆の羽口の小片。全体に熱を受けて変色している。特に先端部は熱で溶けている。191は鉄滓。法量は重さ45.93gを測る。

時期：出土遺物から、室町時代の集落を区画する溝と考えられる。



第61図 SD8・9・10・11 測量図

遺構と遺物



第 62 図 SD8 出土遺物実測図・写真

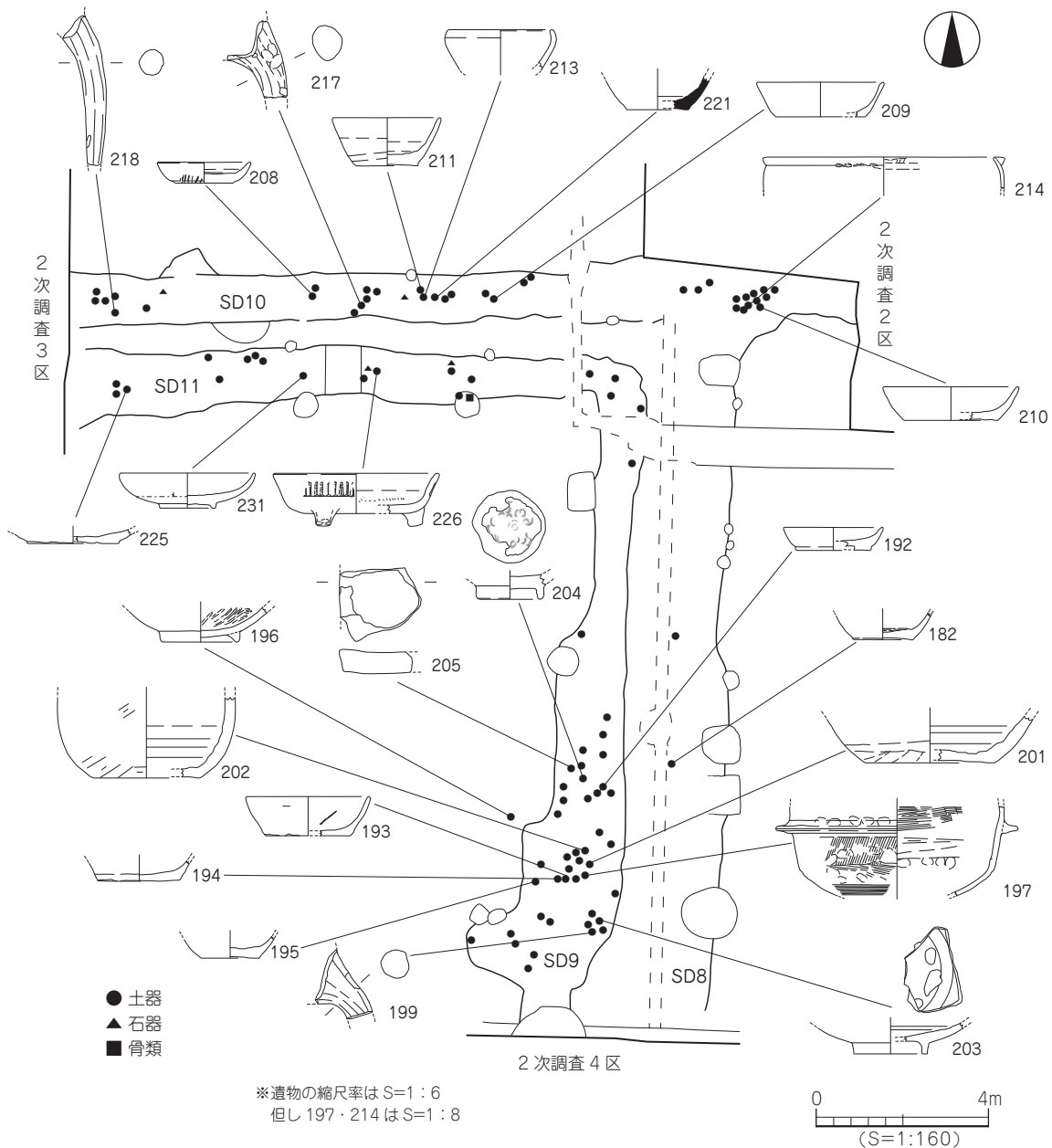


SD9 (第 61・63・64 図、図版 19)

SD9 は、調査区の C9～12 区に位置する南北方向の溝で、C9 区で西方向に折れ曲がり SD11 と接続する同一の溝である。南側は 2 次 4 区 SE401 に切られ、SE401 の南側で途切れて SD407 につづく。規模は、検出長 16.0 m、幅 1.91 m、深さ 0.32m を測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、2 層に分層される。①灰褐色土 (7.5YR 5/2)、②灰褐色土 (7.5YR 5/2) ににぶい橙色土 (7.5YR 7/3) 混じりである。出土遺物には、土師器の皿・坏・埴・土釜、須恵器の播鉢・捏鉢、青磁碗、瓦器、陶器、瓦質土器、瓦、鉄製品、石がある。

出土遺物 (192～207)

192～199 は土師器。192 は皿。口縁端部は尖り気味である。底部の切り離しは回転糸切りである。



第 63 図 SD8・9・10・11 遺物出土状況図

## 遺構と遺物

193～195は坏。193は体部から口縁部は内湾し丸い。器壁は薄い。194は外面にナデによる稜がある。底部の切り離しは、回転ヘラ切である。195は底部は歪みが激しい。底部の切り離しは、回転糸切りか。196は内黒土器の埴。高台は断面三角形形状である。内面に暗文が見られる。197は羽釜。短く水平に伸びる鏝部。鏝下部から底部に煤が付着する。198・199は土釜。198は口縁端部外面に断面三角形形状の鏝を貼り付ける。煤が付着する。199は三足付き土釜の脚部。土釜の底部内面が残る。煤が付着する。200は瓦質土器の風炉。口縁部は短く直立しナデにより内側に拡張され、口縁端面は水平でナデ窪む。外面にはタテ方向のハケ目が残る。201・202は備前焼の陶器の瓶。内面に轆轤目が顕著に残る。202は外面に釉薬が一部見られる。203は白磁皿。見込みに目跡の部分を削り取っている。204は青磁碗。龍泉窯系青磁器。見込みに印花文がある。205は平瓦の小片。206は釘。断面は四角形状である。207は鉄滓。法量は重さ24.45gを測る。

**時期：**出土遺物から、室町時代の集落を区画する溝と考えられる。

### SD10（第61・63・65図、図版19）

SD10は、調査区のA～D9区に位置する東西方向の溝で、C9区で東西方向の溝SD8とT字状に接続される。東側は2次2区SD213・SD204につづき、西側は2次3区SD302につづく。規模は、検出長18.0m、幅1.06m、深さ0.37mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は6層に分層される。①褐灰色土（5YR 4/1）、②灰白色細砂（10YR 7/1）、③褐灰色土（10YR 6/1）に砂混じり、④灰黄褐色土（10YR 5/2）、⑤褐灰色砂質土（7.5YR 6/1）、⑥褐灰色砂質土（10YR 6/1）である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、須恵器の播鉢・捏鉢、陶磁器、弥生土器、石がある。

### 出土遺物（208～221）

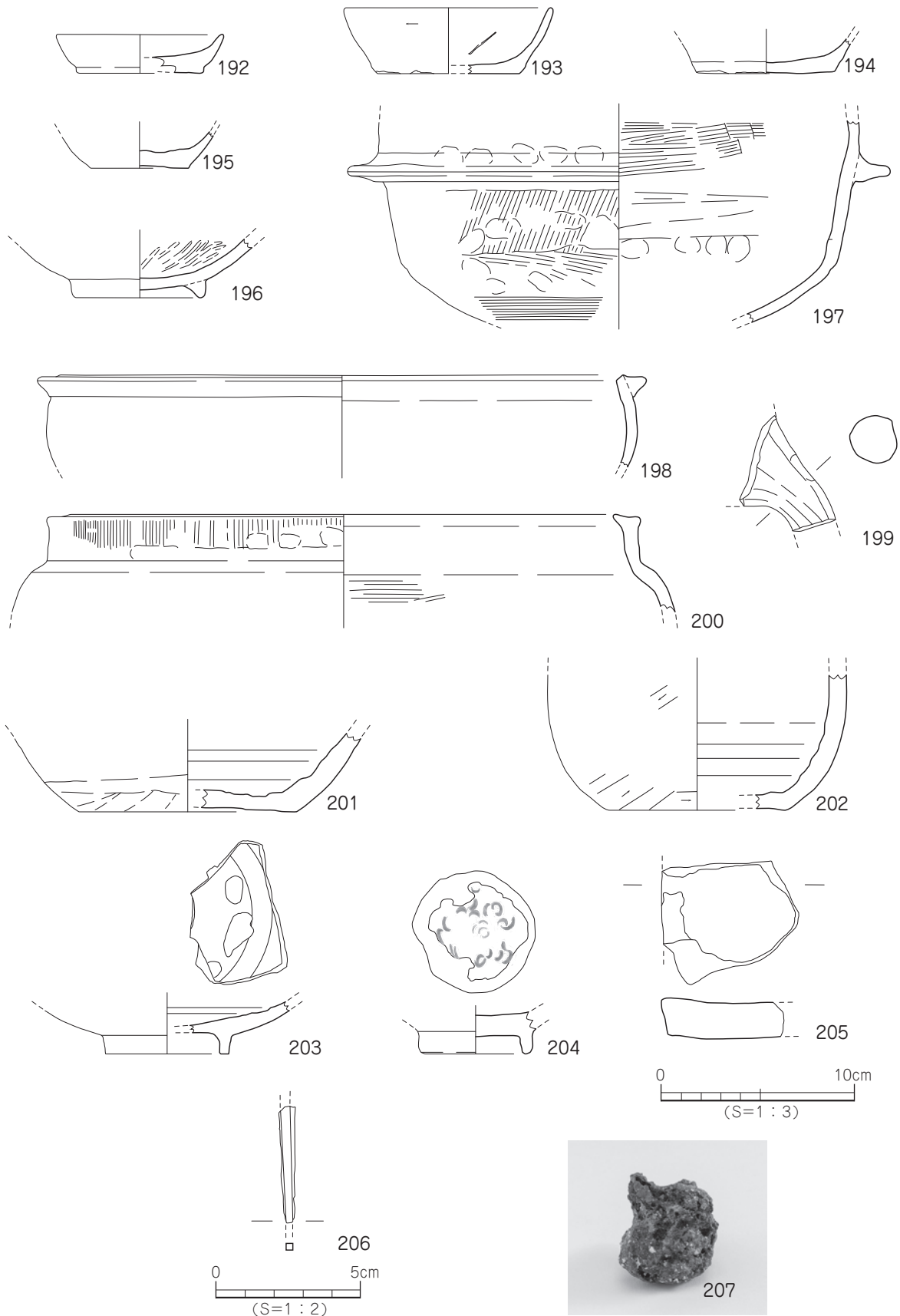
208～218は土師器。208は皿。底部の切り離しは、回転糸切りである。体部下部にヘラ状工具による刻み目がある。209～213は坏。209は口縁端部は丸い。210は内湾する体部から口縁部。底部の切り離しは、回転糸切りか。211は直線的にたちあがる体部。底部の切り離しは、回転糸切りである。内面に轆轤目が残る。212は内湾気味の体部から口縁部。底部の切り離しは、回転ヘラ切りである。内面に轆轤目が残る。213は外傾する体部に口縁部は短く内湾し端部は丸い。214～218は土釜。214・215は口端部外面に断面三角形形状の鏝を貼り付ける。216は口縁端部外面の下部に断面三角形形状の凸帯を貼り付ける。217・218は三足付き土釜の脚部。219・220は陶器。219は備前焼の片口の鉢。口縁部外面に3条の凹線がある。内外面に自然釉が掛かる。220は瀬戸焼の天目茶碗。口縁端部は屈曲する。221は須恵器の取手付き埴の底部片。

**時期：**出土遺物から、室町時代の集落を区画する溝と考えられる。

### SD11（第61・63・66図、図版19）

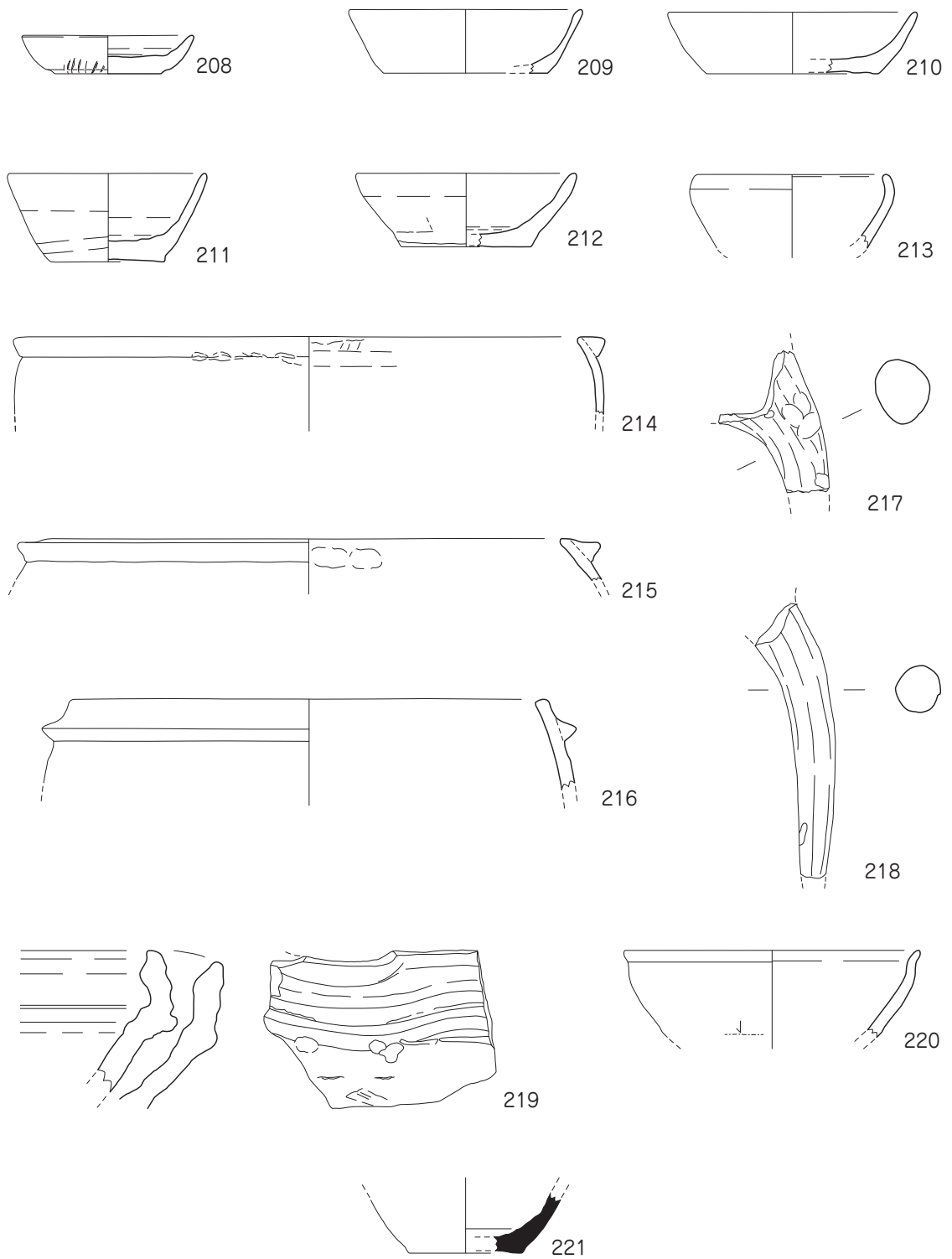
SD11は、調査区のA～C9区に位置する東西方向の溝で、C9区で南北方向に折れ曲がり、SD9と接続する同一の溝である。西側は2次3区SD301に接続する。規模は、検出長16.0m、幅1.17m、深さ0.33mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、3層に分層される。①褐灰色土（5YR 4/1）、②褐灰色土（5YR 5/1）、③褐灰色砂質土（7.5YR 6/1）である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜・土鍋、陶磁器、須恵器の捏鉢、弥生土器、鉄製品の釘、矢先、鉄滓、人骨がある。

南江戸上沖遺跡 1次調査



第64図 SD9 出土遺物実測図・写真

遺構と遺物

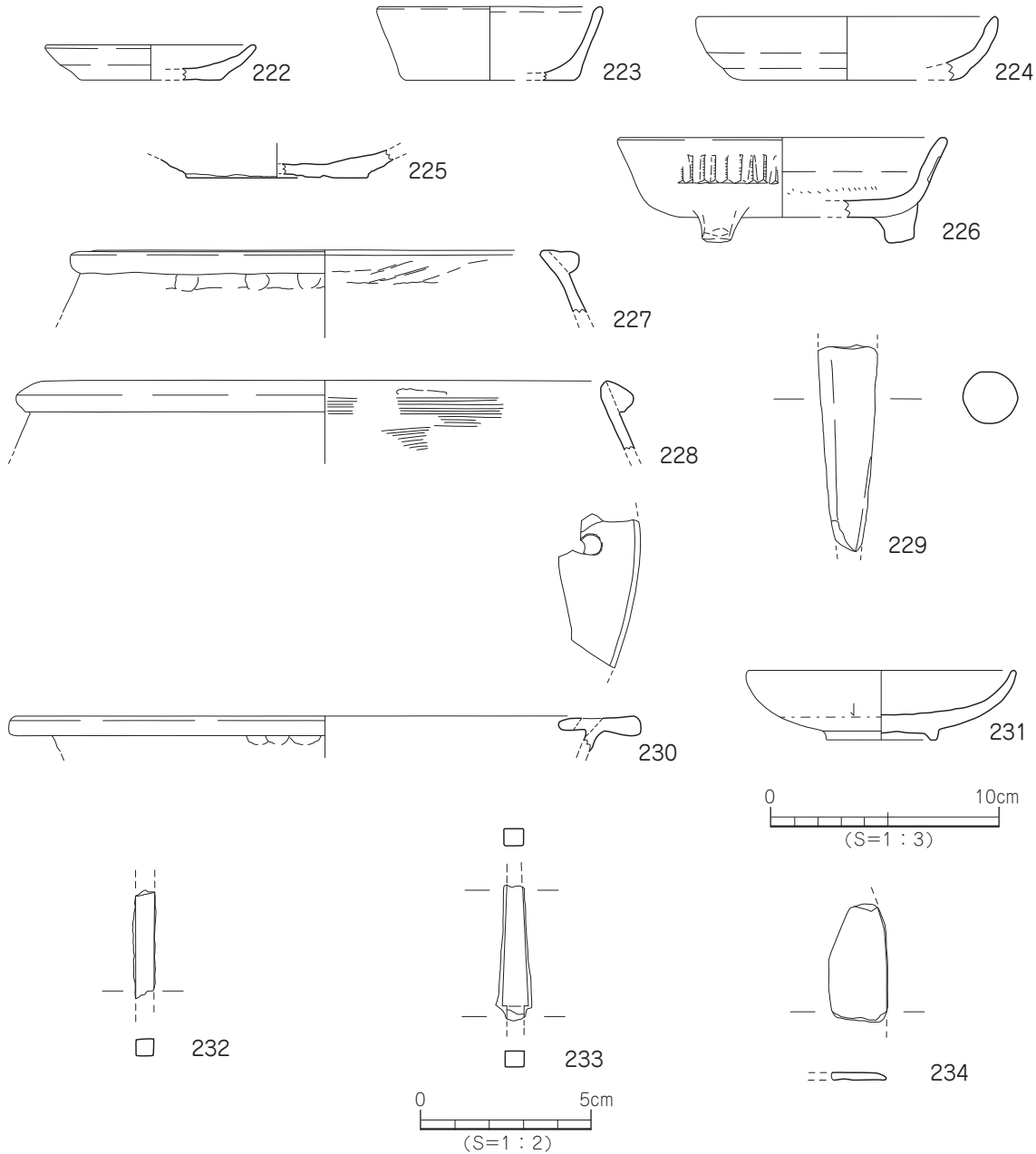


第 65 図 SD10 出土遺物実測図

出土遺物 (222 ~ 234)

222 ~ 230 は土師器。222 は皿。短く外傾する体部。口縁端部は丸い。223 ~ 225 は坏。223 は直線的にたちあがる体部。口縁端部は丸い。224 は内湾する体部から口縁部。口縁端部は尖り気味である。225 の底部の切り離しは回転糸切りで、板状圧痕がみられる。内面には轆轤目が残る。226 は火鉢。短い三足の脚が付く。体部外面に工具による刻み目が巡る。227 ~ 229 は土釜。227・228 は口縁端部外面に断面三角形の鏝を貼り付ける。229 は三足付釜の脚部。230 は土鍋。口縁部は短く水平に伸び、内側に拡張され径1cmの円孔を穿つ。煤付着。231 は唐津焼の陶器の坏。内湾する口縁部から体部。口縁端部は先細りで丸い。削り出し高台が付く。232 ~ 234 は鉄製品。232 は釘。断面は四角形状である。233 は矢先。先端部と茎は欠損している。234 は刀子。

時期：出土遺物から、室町時代の集落を区画する溝と考えられる。



第 66 図 SD11 出土遺物実測図

遺構と遺物

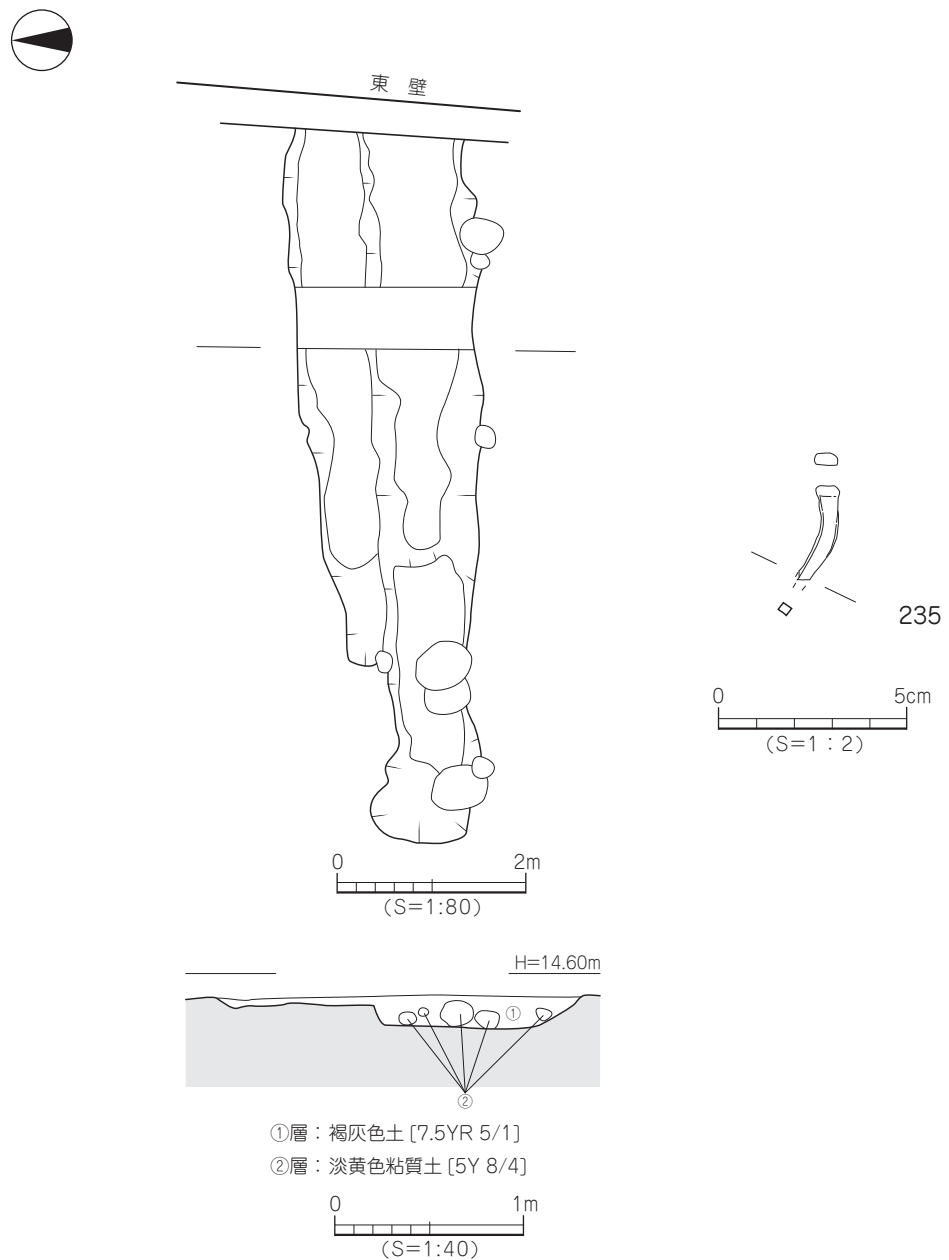
SD12 (第 67 図)

SD12 は、調査区の F・G・10・11 区に位置する、東西方向の溝である。規模は、検出長 7.56 m、幅 1.92 m、深さ 0.18 m を測る。断面形態は、皿状である。埋土は、2 層に分層される。① 褐灰色土 (7.5YR 5/1)、② 淡黄色粘質土 (5Y 8/4) である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、陶磁器、須恵器、瓦、鉄製品がある。

出土遺物 (235)

235 は鉄釘。断面は四角形状で、釘頭は叩打により潰れている。

時期：出土遺物から、中世の溝と考えられる。



第 67 図 SD12 測量図・出土遺物実測図

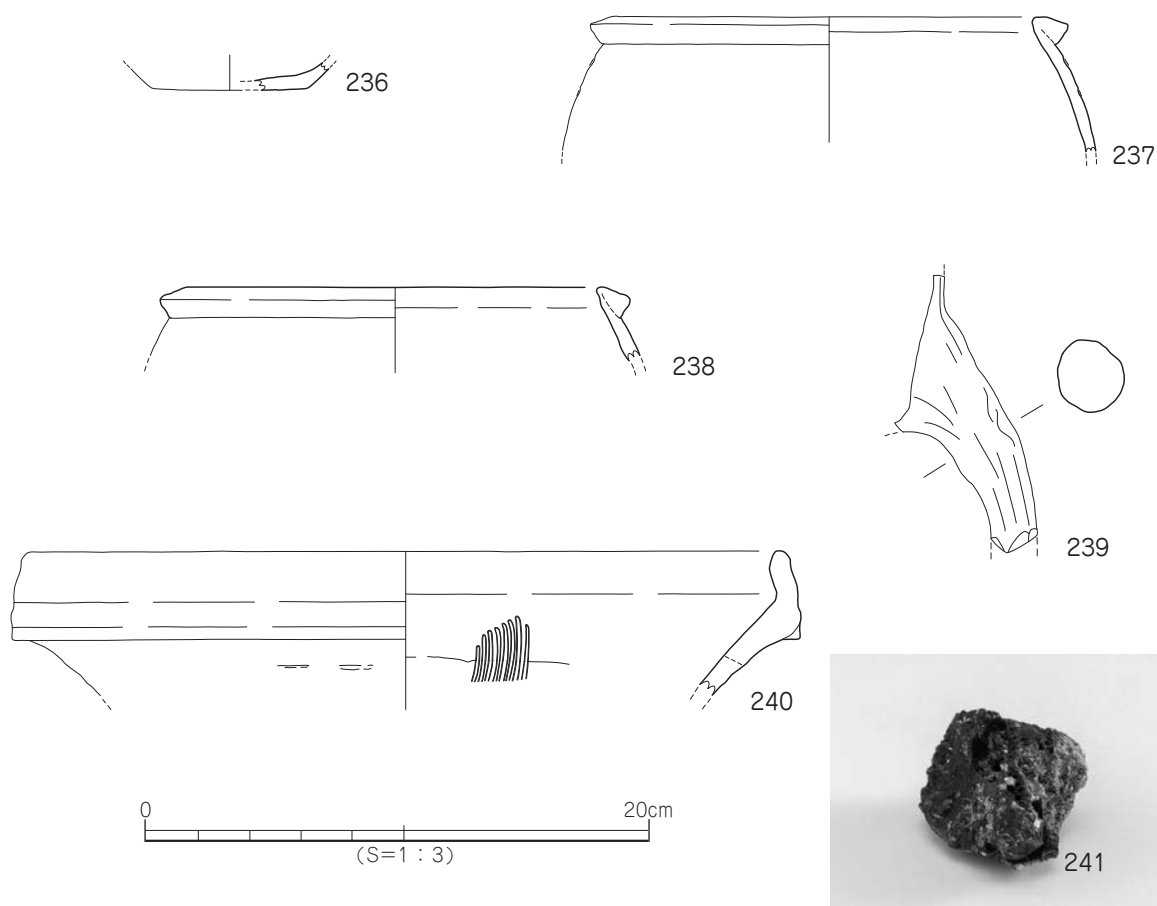
SD13 (第 68・69 図)

SD13は、調査区のG～D12区に位置する、東西方向の溝である。東側は調査区外につづく。規模は、長さ17.44m、幅0.53m、深さ0.16mを測る。中央部がSD14と接し、1.6m途切れる。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 5/1)を基本とする。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、瓦器、陶磁器、須恵器の播鉢、鉄滓がある。

出土遺物 (236～239)

236～239は土師器。236は皿。底部の小片。底部の切り離しは、回転糸切りである。237～239は土釜。237・238口縁部片。口縁端部外面に、断面三角形状の鏝を貼り付ける。239は三足付土釜の脚部。煤が付着する。240は陶器の播鉢。口縁端部は短く直立し、外面にナデによる凹線が見られる。内面に8本の櫛目を施す。241は鉄滓。F12区出土。法量は重さ41.83gを測る。

時期：出土遺物から、中世の溝と考えられる。

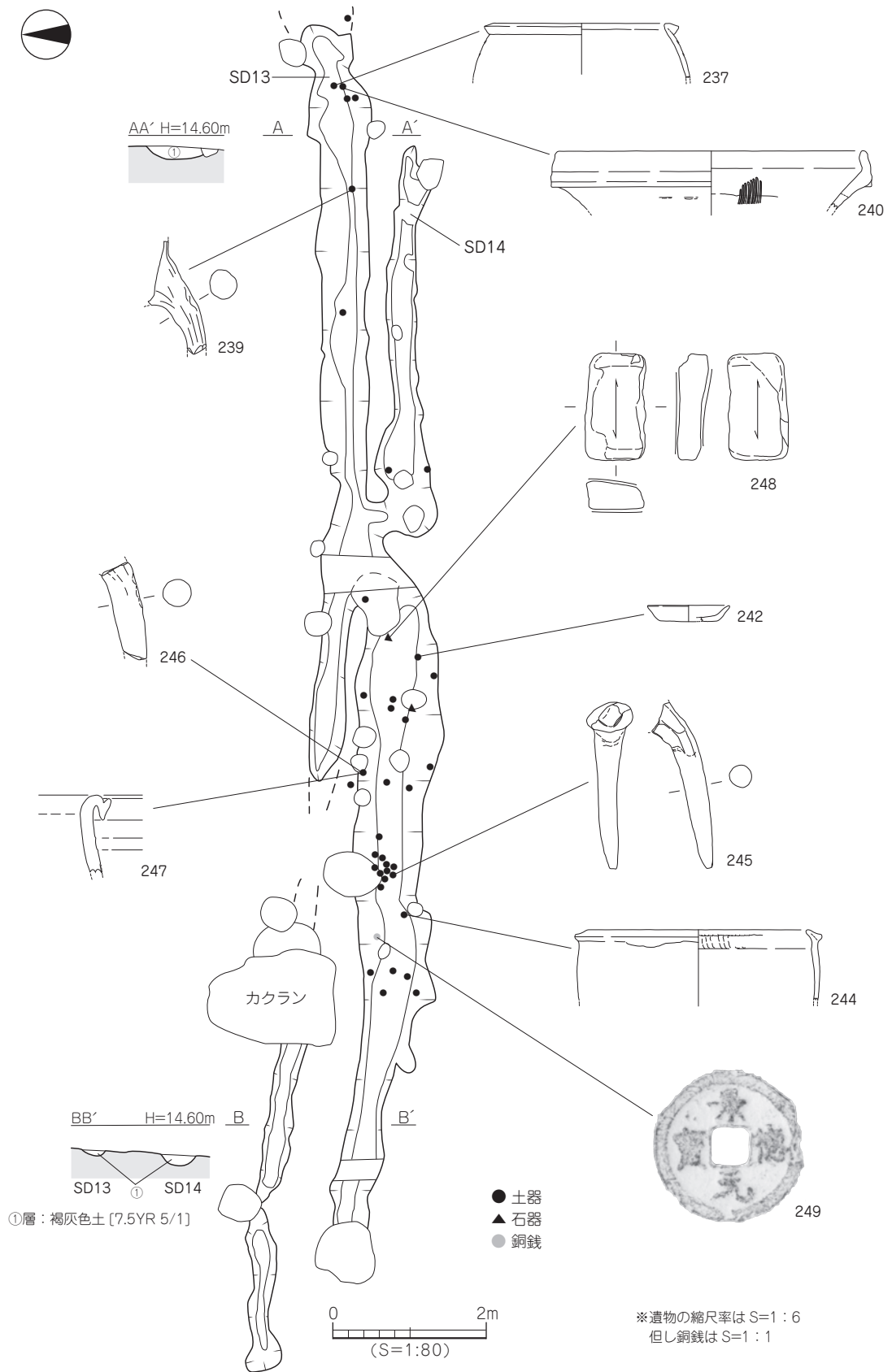


第 68 図 SD13 出土遺物実測図・写真

SD14 (第 69・70 図、図版 19)

SD14は、調査区のG～D12区に位置する、東西方向の溝である。規模は、長さ14.82m、幅0.45m、深さ0.13を測る。中央部がSD13と接する。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 5/1)を基本とする。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、陶磁器、須恵器、石製品、銅銭1枚がある。

遺構と遺物



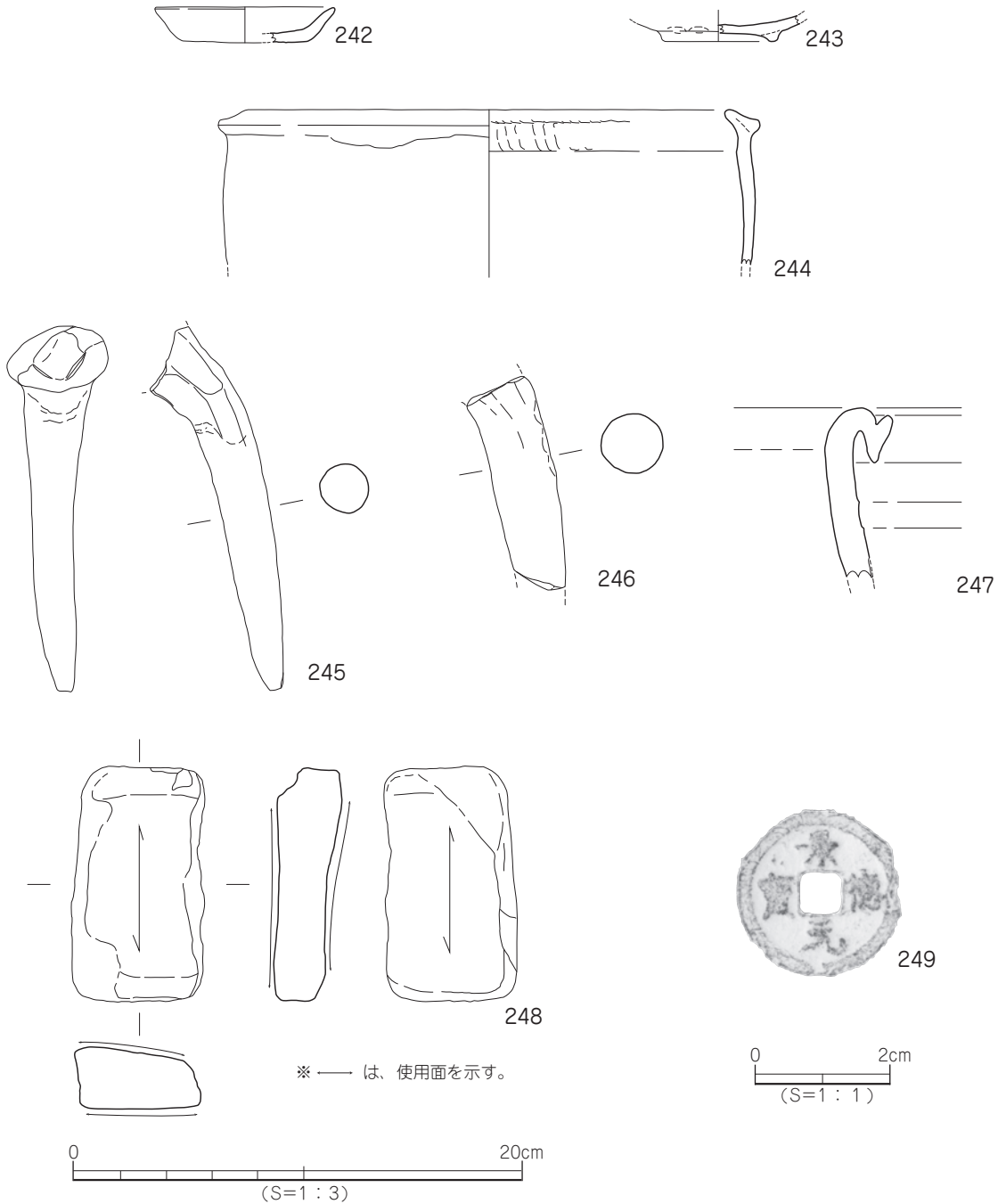
第 69 図 SD13・14 測量図・遺物出土状況図



出土遺物 (242 ~ 249)

242 ~ 246 は土師器。242 は皿。外反する体部から口縁部。口縁端部は尖り気味である。底部の切り離しは、ヘラ切りか。243 は埴。輪高台を貼り付ける。244 ~ 246 は土釜。244 は口縁端部外面に断面三角形状の鏝を貼り付ける。245・246 は三足付土釜の脚部。247 は常滑焼の陶器の広口壺。口縁端部はU字状に短く折れ曲がり、口縁端部は上下に拡張される。248 は砥石。ほぼ完形品。材質は石英粗面岩である。249 は銅銭。景德元寶 (けいとくげんぼう) である。

時期：出土遺物から、中世の溝と考えられる。



第70図 SD14 出土遺物実測図・拓本

SD15 (第71図)

SD15は、調査区のE10・11区に位置する、南北方向の溝である。規模は、検出長7.44m、幅0.40m、深さ0.10mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 5/1)である。出土遺物には、土師の皿・坏・土釜、須恵器がある。

出土遺物(250・251)

250・251は土師器の坏。250は口縁部は外反し、端部は尖り気味である。内外面にナデによる段が見られる。251は上げ底。底部の切り離しは回転糸切りである。

時期：出土遺物から、中世の溝と思われる。

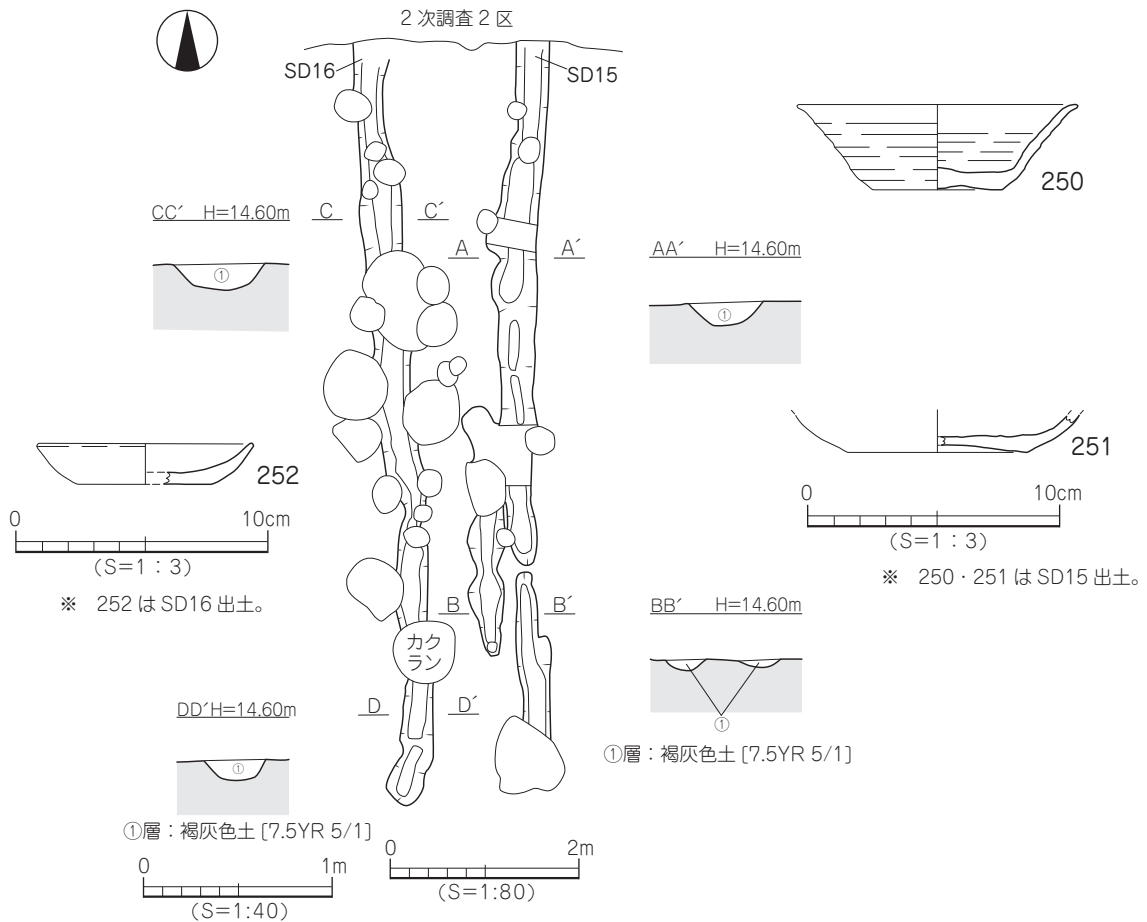
SD16 (第71図)

SD16は、調査区のE10・11区に位置する、南北方向の溝である。規模は、検出長8.20m、幅0.50m、深さ0.13mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 5/1)である。出土遺物には、土師の皿・坏・土釜、須恵器がある。

出土遺物(252)

252は土師器の皿。内湾する体部から口縁部。口縁端部は先細りである。

時期：出土遺物から、中世の溝と考えられる。



第71図 SD15・16 測量図・出土遺物実測図

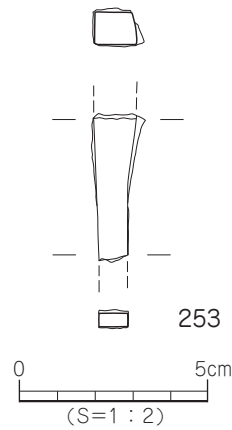
SD17 (第72・73図)

SD17は、調査区のF・G11区に位置する、東西方向の溝で東側は調査区外につづく。規模は、検出長4.18m、幅0.33m、深さ0.07mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 5/1)である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、鉄製品がある。

出土遺物 (253)

253は釘。先端部は欠損している。断面は長方形状である。G11区から出土した。

時期:出土遺物から、中世の溝と考えられる。



第72図 SD17出土遺物実測図

SD18 (第73図)

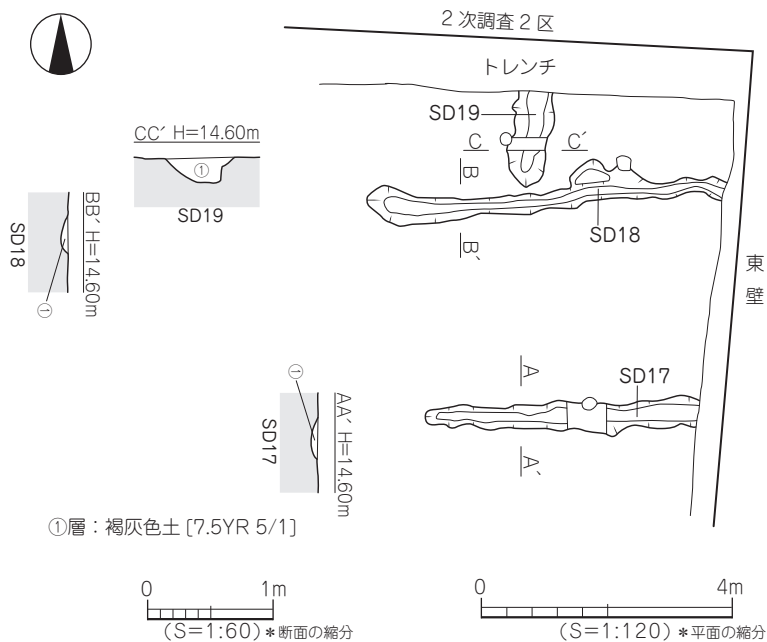
SD18は、調査区のF・G10区に位置する、東西方向の溝で東側は調査区外につづく。規模は、検出長5.76m、幅0.30m、深さ0.07を測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 5/1)である。出土遺物はない。

時期:埋土と検出状況から、中世の溝と考えられる。

SD19 (第73図)

SD19は、調査区のF10区に位置する南北方向の溝で、北側はトレンチに切られ、2次調査2区につづく。規模は、検出長1.60m、幅0.55m、深さ0.19mを測る。断面形態は、不整形である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 5/1)である。出土遺物には、土師器の皿の小片があるが、実測可能遺物はない。

時期:出土遺物から、中世の溝と考えられる。



第73図 SD17・18・19測量図

SD21 (第74図)

SD21は、調査区のD10・11区に位置する南北方向の溝で、SP887・888・927に切られ、北側は2次調査2区につづく。規模は、検出長4.16m、幅0.31m、深さ0.05mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 5/1)である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜があるが、実測可能遺物はない。

時期：出土遺物から、中世の溝と考えられる。

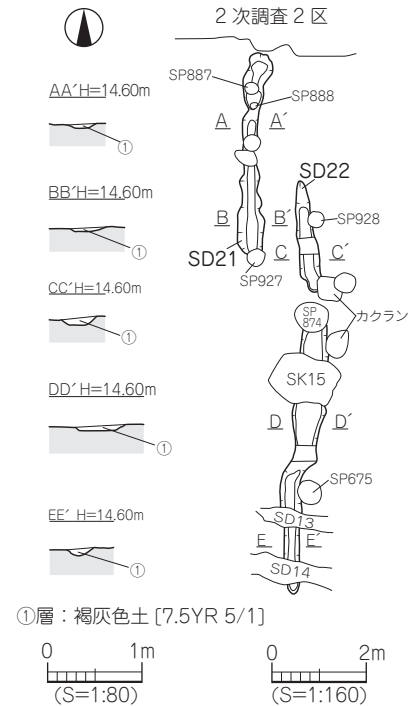
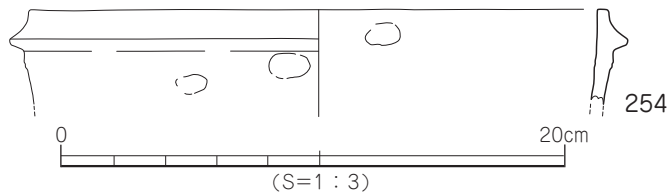
SD22 (第74図)

SD22は、調査区のD10～12区に位置する南北方向の溝で、SK15、SD13・14、SP675・874・928、カクランに切られる。規模は、長さ8.84m、幅0.27～0.52m、深さ0.07mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 5/1)である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜がある。

出土遺物 (254)

254は土師器の土釜。口縁端部下に断面三角形状の鏝。

時期：出土遺物から、中世の溝と考えられる。



第74図 SD21・22 測量図・SD22 出土遺物実測図

SD23 (第75図)

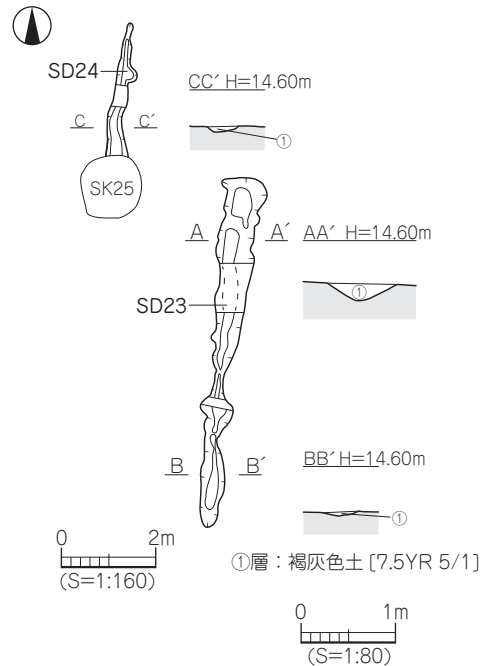
SD23は、調査区のC10・11区に位置する、南北方向の溝である。規模は、長さ7.50m、幅0.32～0.71m、深さ0.02～0.16mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 5/1)である。出土遺物には、土師坏・皿・土釜、陶磁器、須恵器があるが、実測可能遺物はない。

時期：出土遺物から、中世の溝と考えられる。

SD24 (第75図)

SD24は、調査区のB10区に位置する南北方向の溝で、SK25に切られる。規模は、長さ2.84m、幅0.16～0.30m、深さ0.03mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 5/1)である。出土遺物には、土師器の皿・土釜があるが、実測可能遺物はない。

時期：出土遺物から、中世の溝と考えられる。



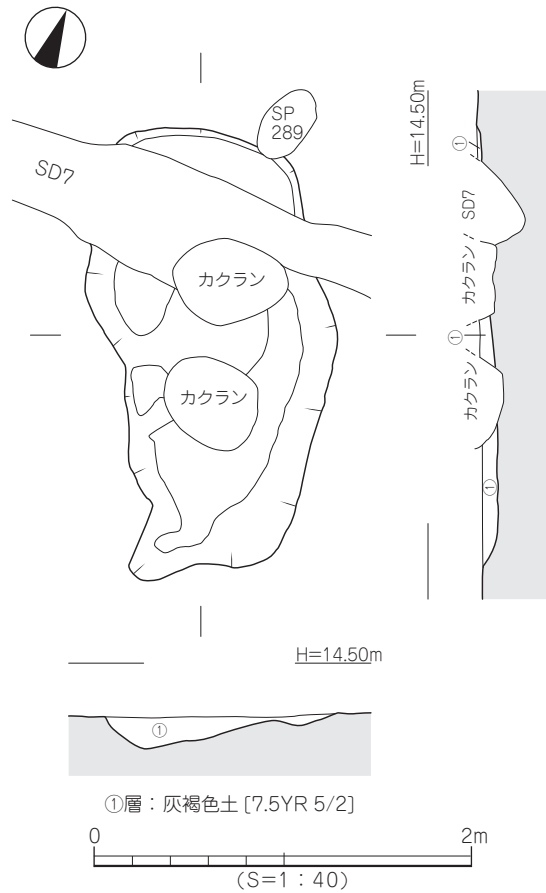
第75図 SD23・24 測量図

5) 性格不明遺構 (SX)

SX3 (第76図)

SX3は、調査区のB8・9区に位置し、SD7、SP289、カクランに切られる。平面形態は不整形で、規模は長さ240m、幅1.43m、深さ0.07～0.15mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、灰褐色土(7.5YR 5/2)である。出土遺物には、土師器の皿・坏・甕、須恵器、石があるが、実測可能遺物はない。

時期：出土遺物から、中世の性格不明遺構と考えられる。

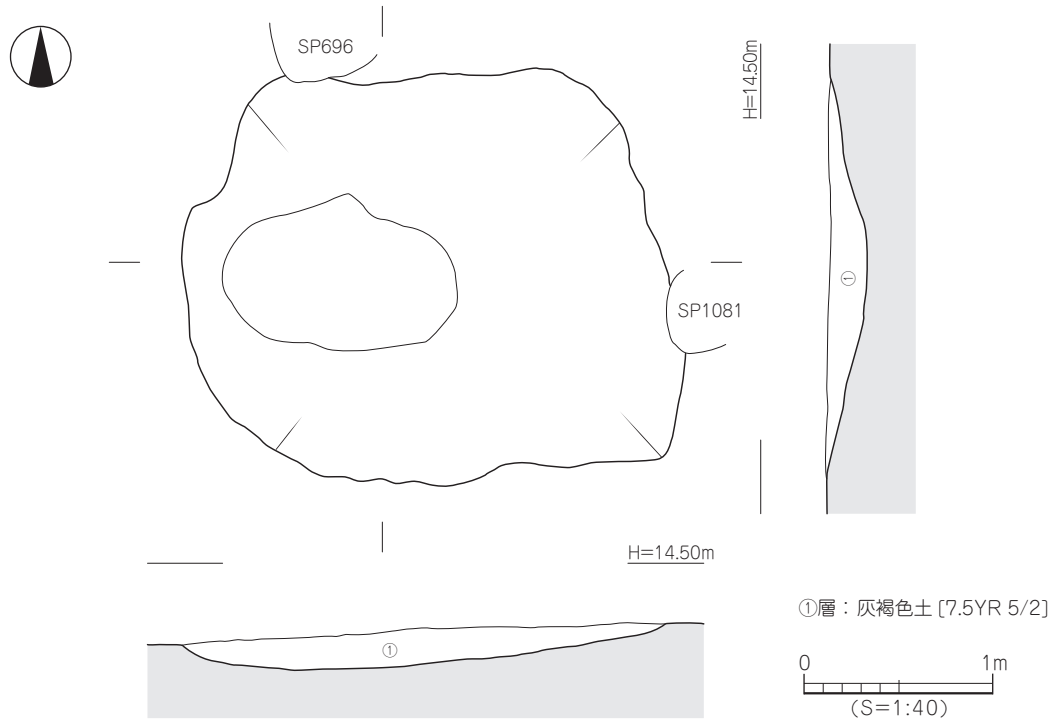


第76図 SX3 測量図

SX4 (第77図)

SX4は、調査区のA10・11区に位置し、SP696・1081に切られる。平面形態は、不整形で規模は長さ2.57m、幅2.16m、深さ0.18mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、灰褐色土(7.5YR 5/2)である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、須恵器、弥生土器、石があるが、実測可能遺物はない。

時期：出土遺物から、中世の性格不明遺構と考えられる。

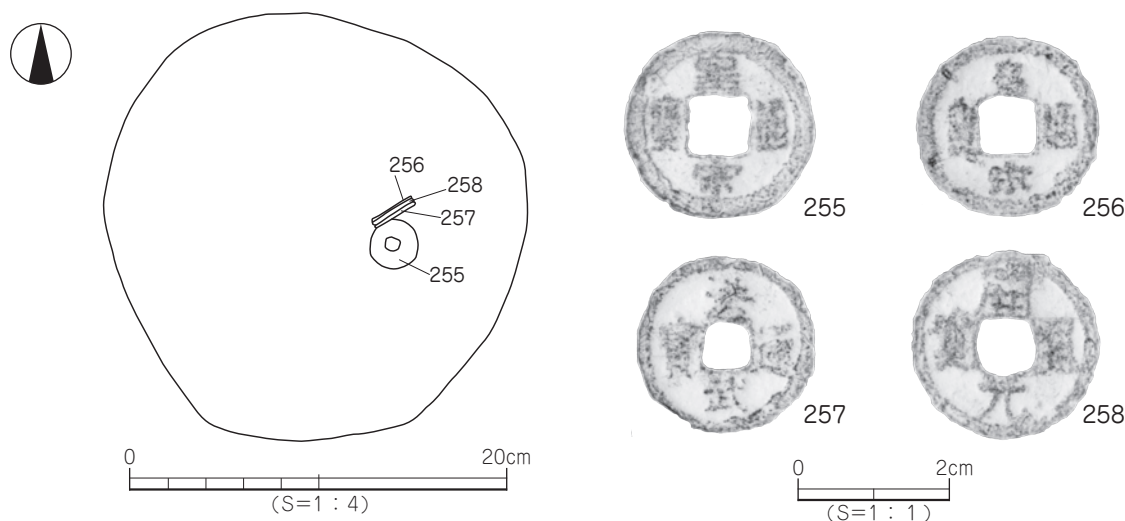


第77図 SX4 測量図

6) 柱穴 (SP)

SP556 (255 ~ 258) (第78図)

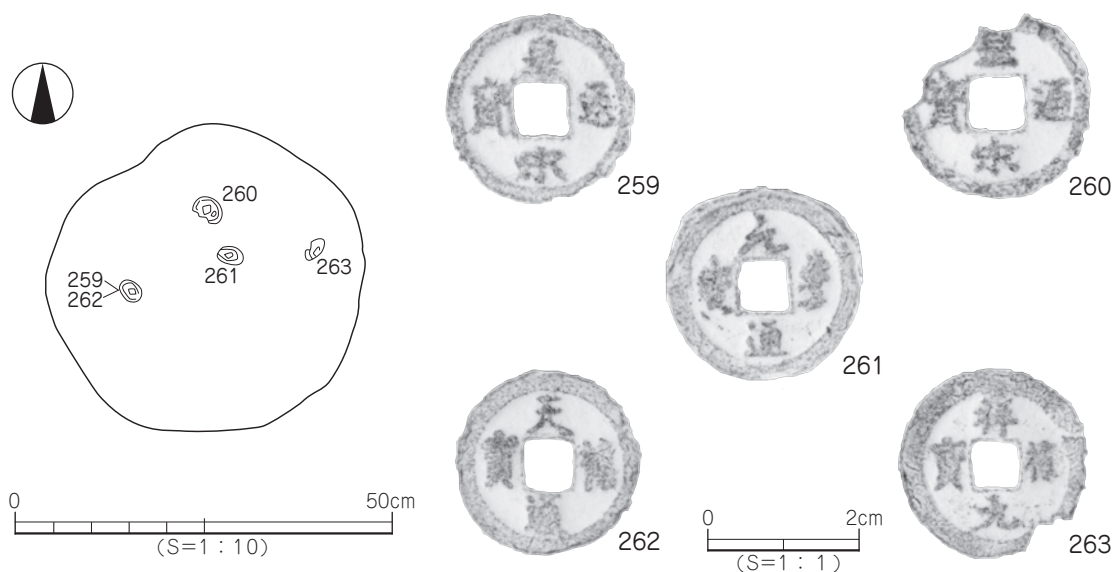
SP556は、調査区のB8区に位置しSD6を切る。平面形態は円形で、規模は径0.25m、深さ0.16mを測る。埋土は、褐灰色砂質土(7.5YR 4/1)である。出土遺物は、銅銭4点がある。出土状況は、床面から11cm上層から出土した。256・257・258の3枚は重なり合って直立状態で出土し、255は倒れた状態での出土である。255・256は「皇宋通寶」(こうそうつうほう)、257は「洪武通寶」(こうぶつうほう)、258は「開元通寶」(かいげんつうほう)である。



第78図 SP556 測量図・出土遺物拓本

SP681 (259 ~ 263) (第79図)

SP681は、B11区に位置する。平面形態は円形で、規模は径0.40m、深さ0.25mを測る。出土遺物は銅銭5点がある。出土状況は5点ともに柱穴の床面から10cm上部の中位で出土した。259・262は重なって出土した。259・260は「皇宋通寶」、261は「元豊通寶」(げんぽうつうほう)、262は「天禧通寶」(てんきつうほう)、263は「祥符元寶」(しょうぶげんほう)である。



第79図 SP681 測量図・出土遺物拓本

7) 柱穴出土遺物 (第 80・81 図)

銅銭 (264)

264 は SP1052 出土。SP1052 は B11 区に位置し、平面形態は円形で規模は、径 0.25 m、深さ 0.07 m を測る。埋土は、褐灰色土 (10YR 4/1) に灰白色粘土混じりである。出土遺物は、銅銭 1 点がある。264 は「治平元寶」(ちへいげんぼう) 鑄造期間：北宋 1064 年～である。

刀子 (265・266)

265 は SP615 出土。SP615 は C9 区に位置する。埋土は、灰褐色土 (7.5YR 5/2) に黄色土混じりである。265 は刀子の小片。残存長 2.9cm、幅 1.1cm を測る。

266 は SP1168 出土。SP1168 は C10 区に位置する。埋土は、灰褐色土 (7.5YR 5/2) に黄色土混じりである。切っ先部は残る。残存長 22.3cm、幅 2.2cm を測る。

釘 (267～269)

267 は SP845 出土。SP845 は D11 区に位置する。埋土は、灰褐色土 (7.5YR 5/2) に黄色土混じりである。267 は断面は四角形状である。268 は SP740 出土。SP740 は F10 区に位置する。埋土は、灰褐色土 (7.5YR 5/2) に黄色土混じりである。268 は釣り針状に曲がっている。断面は四角形状である。269 は SP521 出土。SP521 は、B8 区に位置する。埋土は、灰褐色土 (7.5YR 5/2) に黄色土混じりである。269 は釣り針状に曲がっている。

鏝 (270)

270 は SP701 出土。SP701 は A11 区に位置する。埋土は、褐灰色土 (7.5YR 6/1) ににぶい橙色土 (2.5YR 6/2) の砂混じりである。270 は鏝。

鉄滓 (271～275)

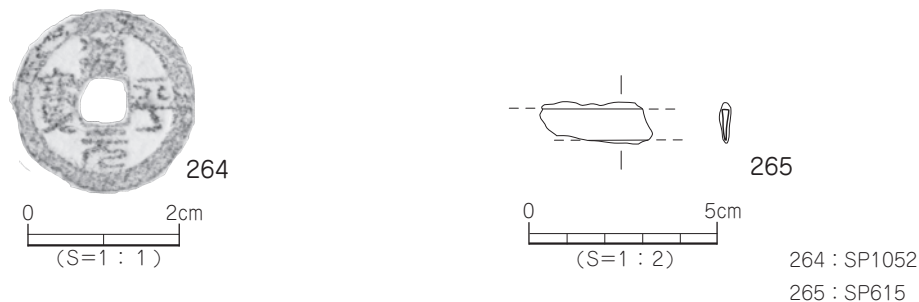
271 は SP142 出土。SP142 は A7 区に位置する。重さ 53.49g。272 は SP2020 出土。SP2020 は B5 区に位置する。重さ 17.18g。273～275 の 3 点は SP1126 出土。SP1126 は B11 区に位置する。273 は重さ 51.32g、274 は重さ 106.61g、275 は重さ 74.09g を測る。

鉄塊 (276・277)

276 は SP174 出土。SP174 は B8 区に位置する。埋土は、灰褐色土 (7.5YR 5/2) である。重さ 9.14g を測る。277 は SP378 出土。SP378 は B6 区に位置する。重さ 72.12g を測る。

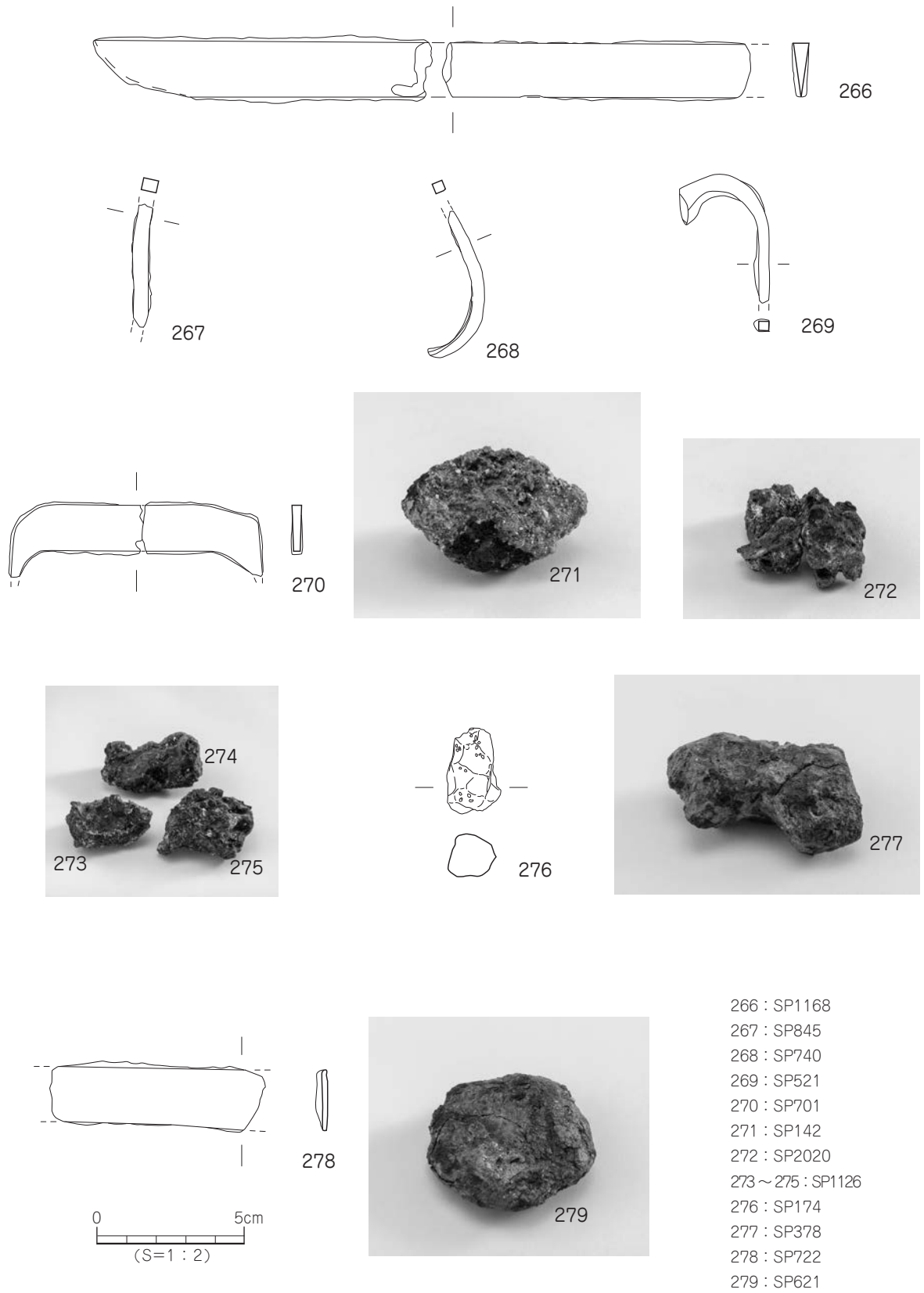
不明鉄製品 (278・279)

278 は SP722 出土。G10 区に位置する。埋土は、褐灰色土 (7.5YR 5/1) ににぶい橙色土混じりである。278 は長方形で両端部は欠損し、厚みは薄い。279 は SP621 出土。



第 80 図 柱穴出土遺物実測図 (1)・拓本

遺構と遺物

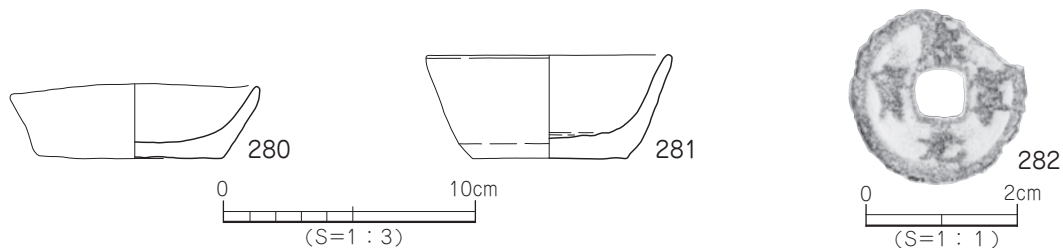


第 81 図 柱穴出土遺物実測図 (2)・写真



8) グリッド出土遺物 (280～282) (第82図)

280・281は土師器の坏。280は直線的にたちあがる体部、口縁部は内湾気味で端部は尖り気味である。底部の切り離しは、静止糸切り後ナデ調整を施す。281は直線的にたちあがる体部から口縁端部は丸い。底部の切り離しは、回転糸切りである。C9区出土である。この2点はC9・D9区の拡張を行ったときに検出した。C・D9区からは、SK18・29・30の土壙墓3基を検出していることから、これら3基の遺物の可能性がある。282は銅銭。「熙寧元寶」(きねいげんぼう)である。熙寧は中国・北宋の神宗の治世で用いられた元号。1068年～1077年。



第82図 グリッド出土遺物実測図・拓本

(3) 近・現代 (図84図)

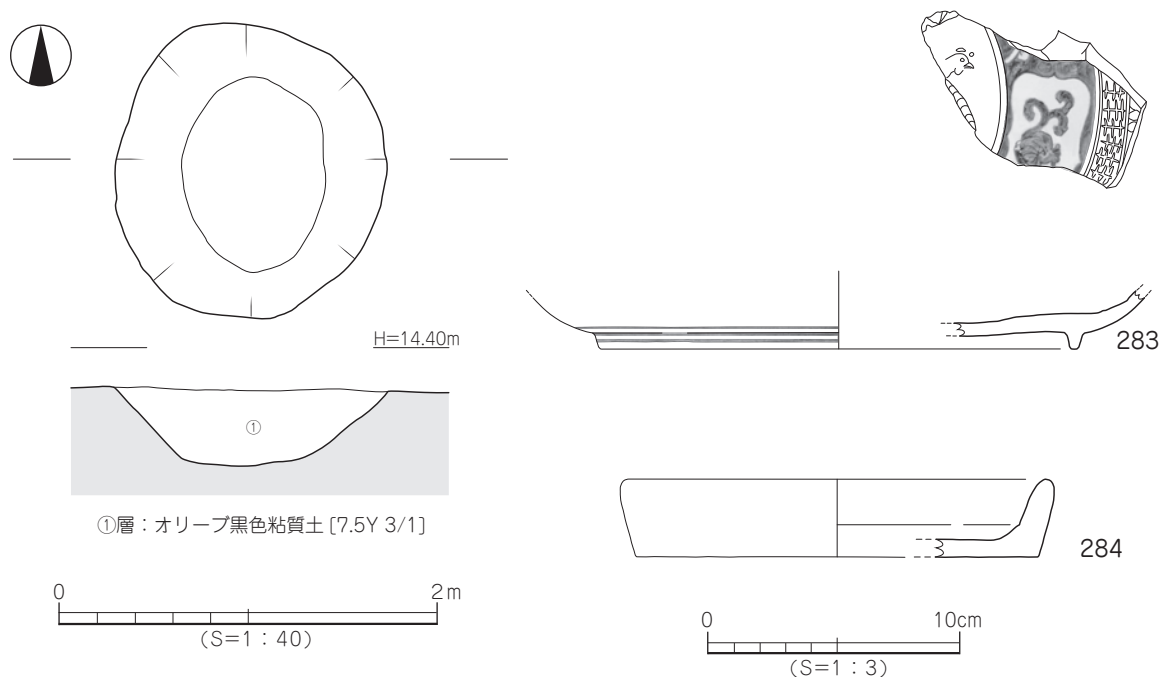
検出した遺構は、土坑1基、土壙墓4基、井戸8基、柱穴1基である。

1) 土坑

土坑は、1基を検出した。

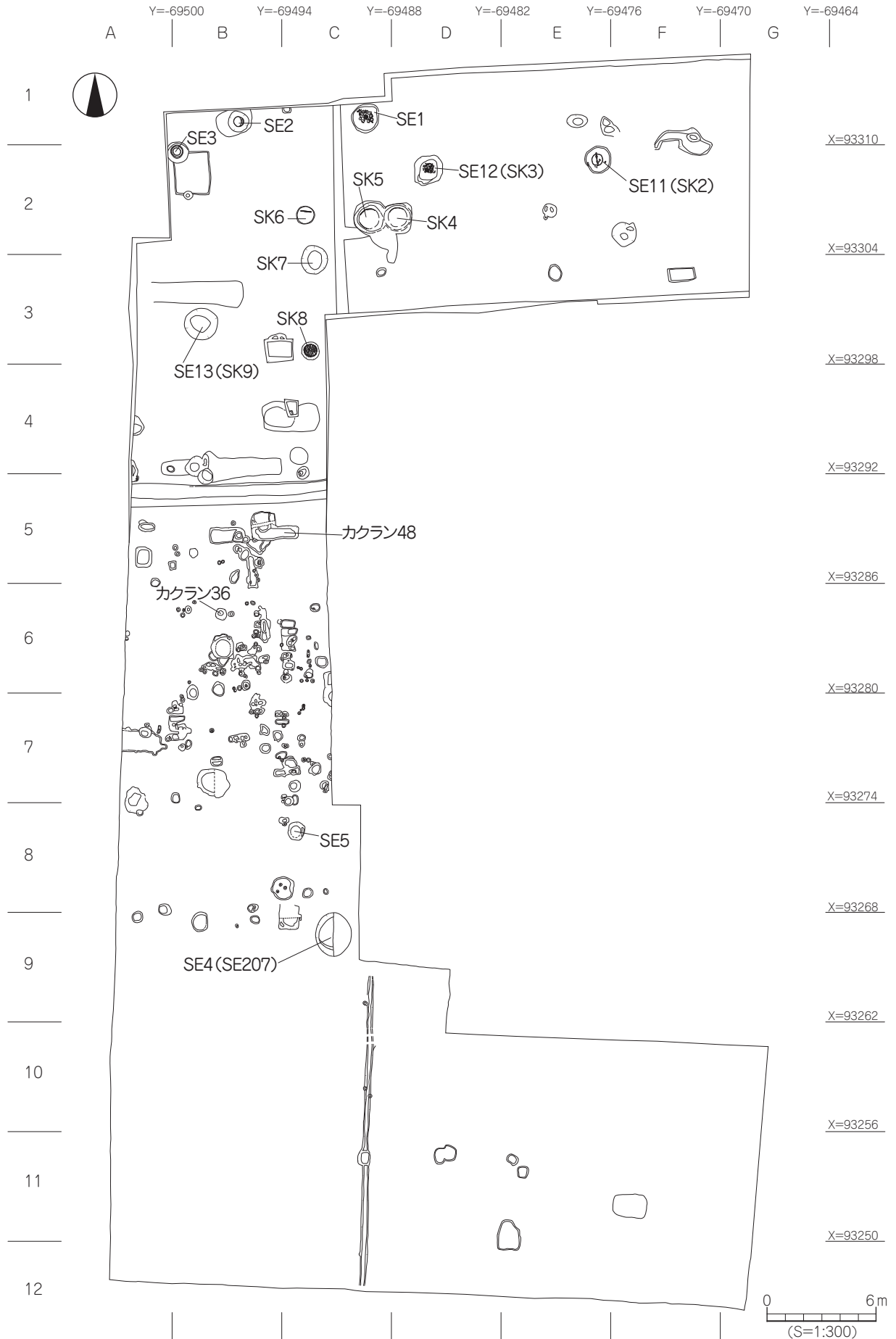
SK7 (第83図)

SK7は、調査区のC2・3区に位置する。平面形態は円形で、規模は長さ1.55m、幅1.42m、深さ0.39mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、オリブ黒色粘質土(7.5Y 3/1)である。出土遺物には、土師器の皿・坏・甕、陶磁器が出土している



第83図 SK7 測量図・出土遺物実測図

遺構と遺物



第 84 図 近現代の遺構配置図

出土遺物 (283・284)

283は磁器の皿。型打ち成形で畳付けは砂目がある。染付呉須。284は瓦質土器の火鉢。水平な底部に短く「ハ」の字状に開く口縁端部は丸い。

時期：埋土と出土遺物から、近・現代の土坑と考えられる。

2) 土壌墓

土壌墓は、4基を検出した。

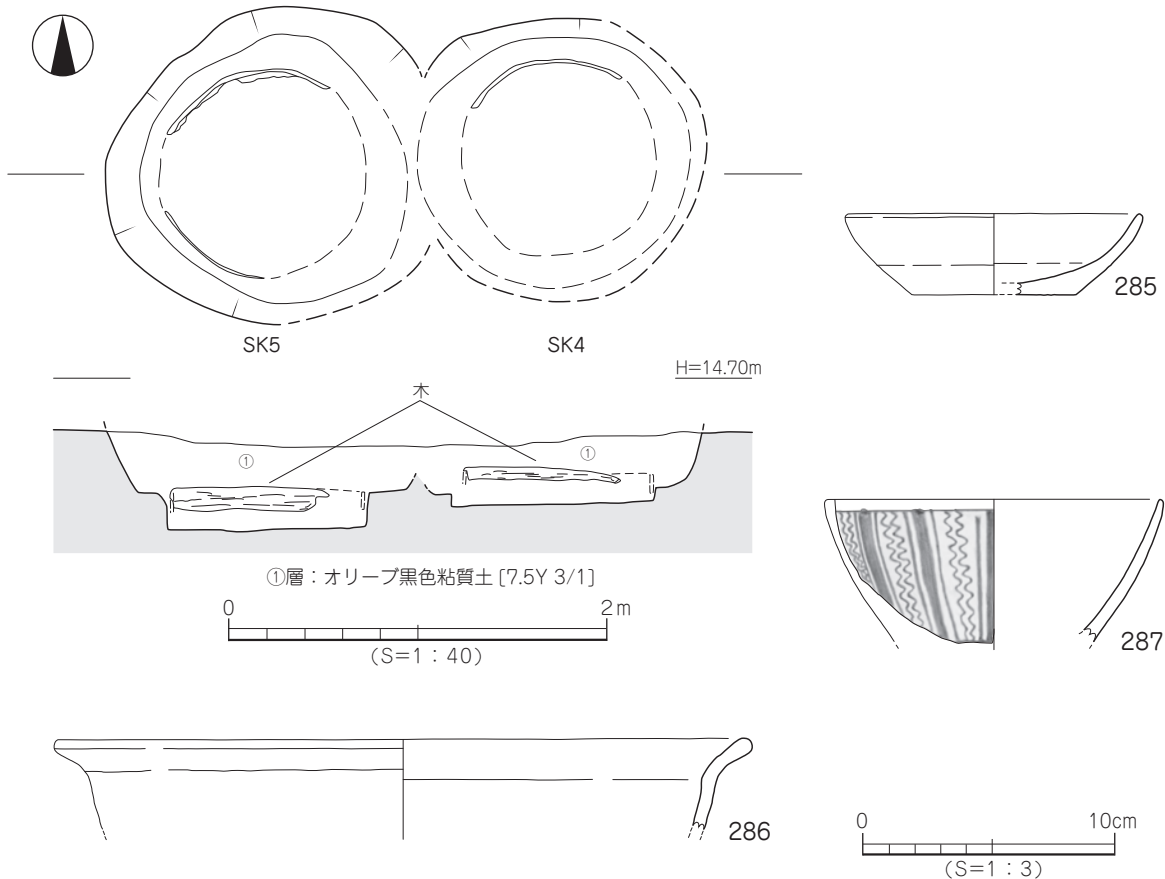
SK4 (第85図)

SK4は、調査区のC・D2区に位置する。SK5と切りあう。平面形態は円形で、規模は長さ1.64m、幅1.39m、深さ0.34mを測る。断面形態は、逆台形状である。埋土は、オリーブ黒色粘質土(7.5Y 3/1)である。出土遺物には、木製品の曲げ物の一部、土師器の皿・坏・土鍋、須恵器片、多数の瓦がある。曲げ物は桶棺と思われる。

出土遺物 (285～287)

285・286は土師器。285は坏。内湾する体部から口縁部。口縁端部は丸い。底部の切り離しは回転糸切りである。286は土鍋。短く外反する口縁端部は丸い。287は磁器の碗。内湾する体部から口縁部。口縁端部は尖り気味である。

時期：出土状況と遺物から、近・現代の桶棺墓と考えられる。



第85図 SK4・5 測量図・SK4 出土遺物実測図

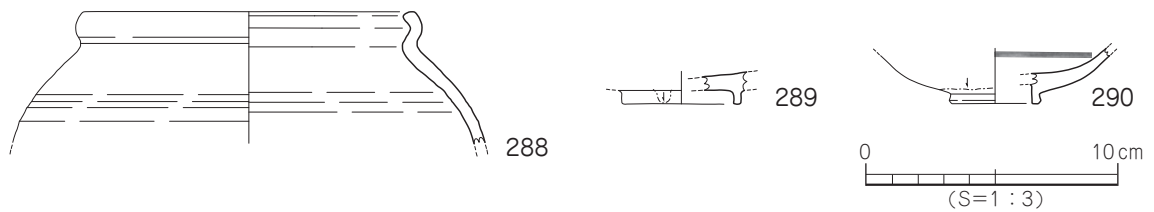
SK5 (第85・86図)

SK5は、調査区のC2区に位置する。SK4と切りあう。平面形態は円形で、規模は長さ1.83m、幅1.69m、深さ0.50mを測る。断面形態は、逆台形状である。埋土はオリブ黒色粘質土(7.5Y 3/1)である。出土遺物には、木製品の曲げ物、土師器の土釜、陶磁器が出土している。曲げ物は桶棺と思われる。

出土遺物 (288～290)

288～290は陶磁器。288は壺。口縁部は短く外反し、内側に屈曲する。289・290は碗。289は削り出し高台。露胎で一部釉が垂れる。290は削り出し高台。露胎。

時期：出土状況と遺物から、近・現代の桶棺墓と考えられる。



第86図 SK5 出土遺物実測図

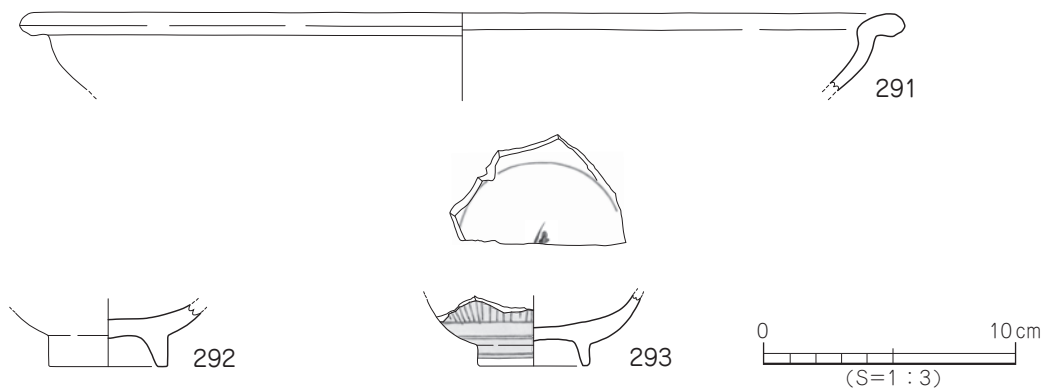
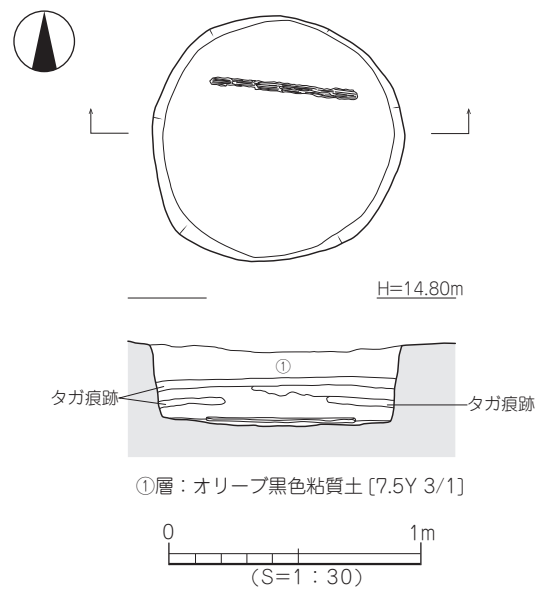
SK6 (第87図)

SK6は、調査区のC2区に位置する。平面形態は円形で、規模は長さ1.0m、幅0.97m、深さ0.3mを測る。断面形態は、逆台形状である。埋土は、オリブ黒色粘質土(7.5Y 3/1)である。出土遺物には、瓦、土師器の鍋、陶磁器、木製品が出土している。木製品は、桶棺の底板と曲げ物の一部である。

出土遺物 (291～293)

291は土師器の焙烙鍋。短く外方向に伸びる口縁部。292・293は陶磁器の碗。292は瀬戸焼の灰釉陶器。畳付は露胎。293は染付。畳付は露胎。呉須。

時期：出土状況から、近・現代の桶棺墓と考えられる。



第87図 SK6 測量図・出土遺物実測図

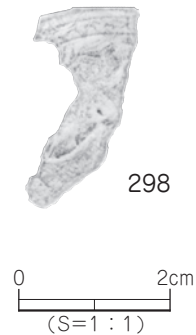
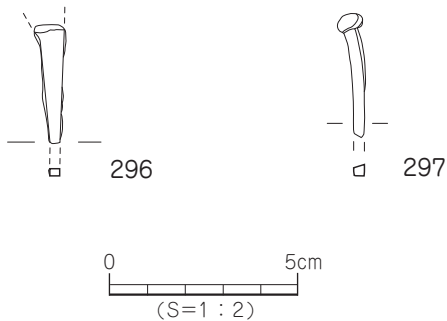
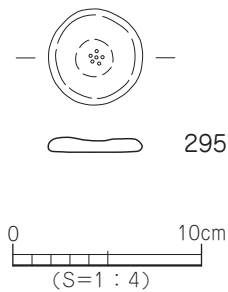
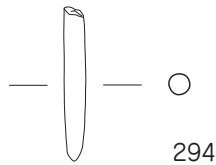
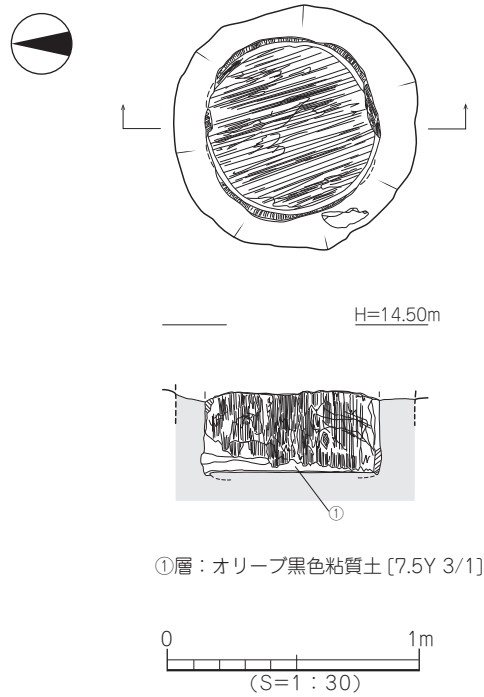
SK8 (第 88 図、図版 10・19)

SK8 は、調査区の C3 区に位置する。平面形態は円形で、規模は長さ 1.0 m、幅 0.97m、深さ 0.32 m を測る。断面形態は、箱状である。埋土は、オリーブ黒色粘質土 (7.5Y 3/1) である。出土遺物には、木製品、人骨、おはじき、陶器、土師器、ガラス瓶、コンクリート片が出土している。木製品は、曲げ物と底板で、桶棺と思われる。

出土遺物 (294 ~ 298)

294 はロウ石。筆記用具。鉛筆の芯状に先端が尖っている。295 はおはじき。ガラス製。円形で完形品。中央部が窪み 6 点の型押し模様がある。緑色。296・297 は釘。断面は四角形状である。桶棺内から出土した。298 は器種不明の銅製品である。

時期：埋土と出土遺物から、近・現代の桶棺墓と考えられる。



第 88 図 SK8 測量図・出土遺物実測図・拓本

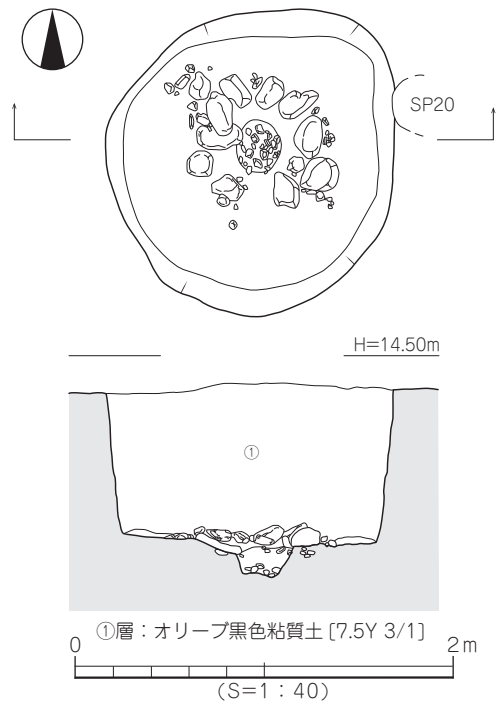
3) 井戸

井戸は、8基を検出した。

SE1 (第89図、図版10)

SE1は、調査区のC1区に位置する。平面形態は円形で、規模は長さ1.72m、幅1.52m、深さ1.02mを測る。断面形態は、箱状である。埋土は、オリーブ黒色粘質土(7.5Y 3/1)である。下部から石組みを一段検出した。水溜の石組みとして使用されていた。出土遺物には、瓦、土師器の皿・甕・土鍋、須恵器、陶磁器があるが、実測可能遺物はない。

時期：出土遺物から、近・現代の井戸と考えられる。

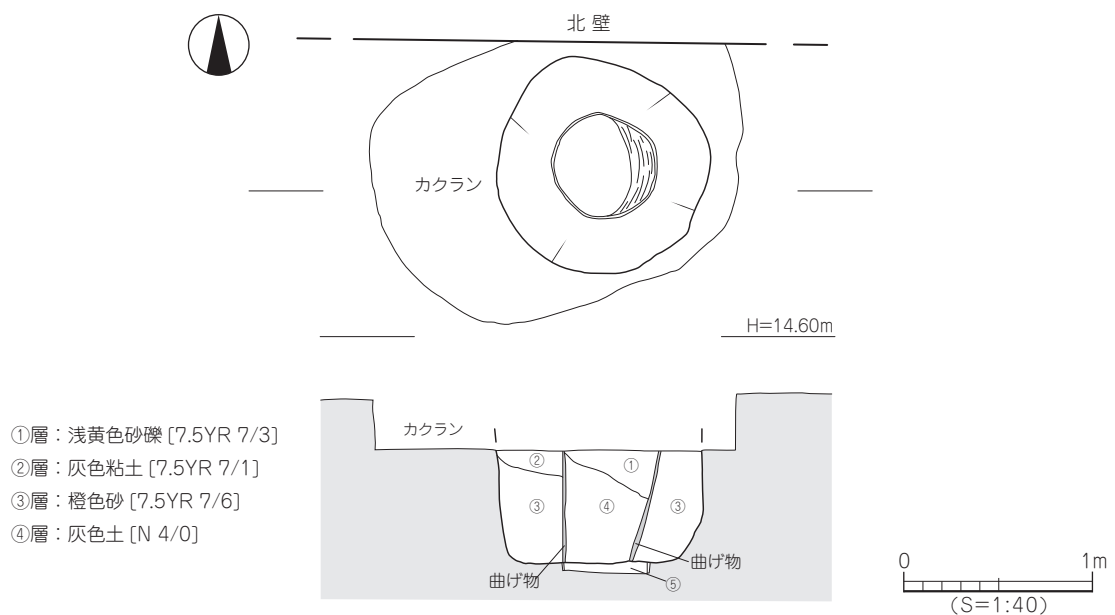


第89図 SE1 測量図

SE2 (第90図)

SE2は、調査区のB1区に位置し、上部をカクランに切られる。平面形態は円形で、規模は長さ1.12m、幅1.13m、深さ0.62mを測る。断面形態は、箱状である。埋土は、4層に分層される。①浅黄色砂礫(7.5YR 7/3)、②灰色粘土(7.5YR 7/1)、③橙色砂(7.5YR 7/6)、④灰色土(N 4/0)である。出土遺物には、瓦、木片、鉄、弥生土器、須恵器、陶磁器、曲げ物がある。曲げ物は井戸側に使用されていた。実測可能遺物はない。

時期：出土遺物から、近・現代の井戸と考えられる。

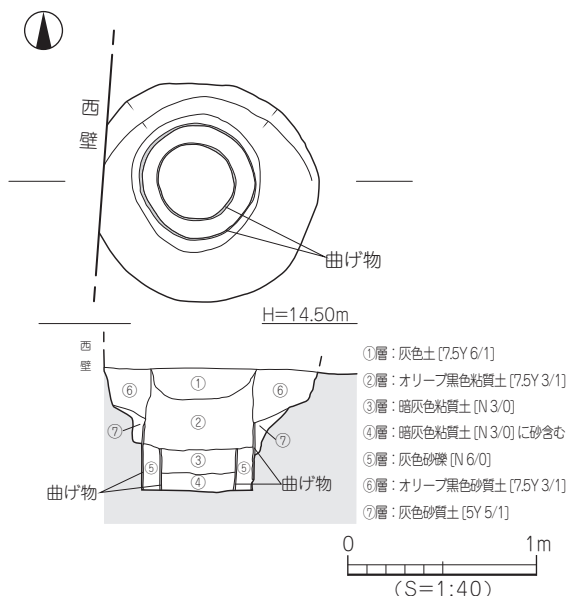


第90図 SE2 測量図

SE3 (第91図、図版11)

SE3は、調査区のB2区に位置する。平面形態は円形で、規模は長さ1.15m、幅1.14m、深さ0.64mを測る。断面形態は、箱状である。埋土は、7層に分層される。①灰色土(7.5Y 6/1)、②オリーブ黒色粘質土(7.5Y 3/1)、③暗灰色粘質土(N 3/0)、④暗灰色粘質土(N 3/0)に砂を含む、⑤灰色砂礫(N 6/0)、⑥オリーブ黒色砂質土(7.5Y 3/1)、⑦灰色砂質土(5Y 5/1)である。出土遺物には、木製の曲げ物、瓦、須恵器、土師器の皿・土釜が出土している。曲げ物は、井戸側と水溜の二段構造である。実測可能遺物はない。

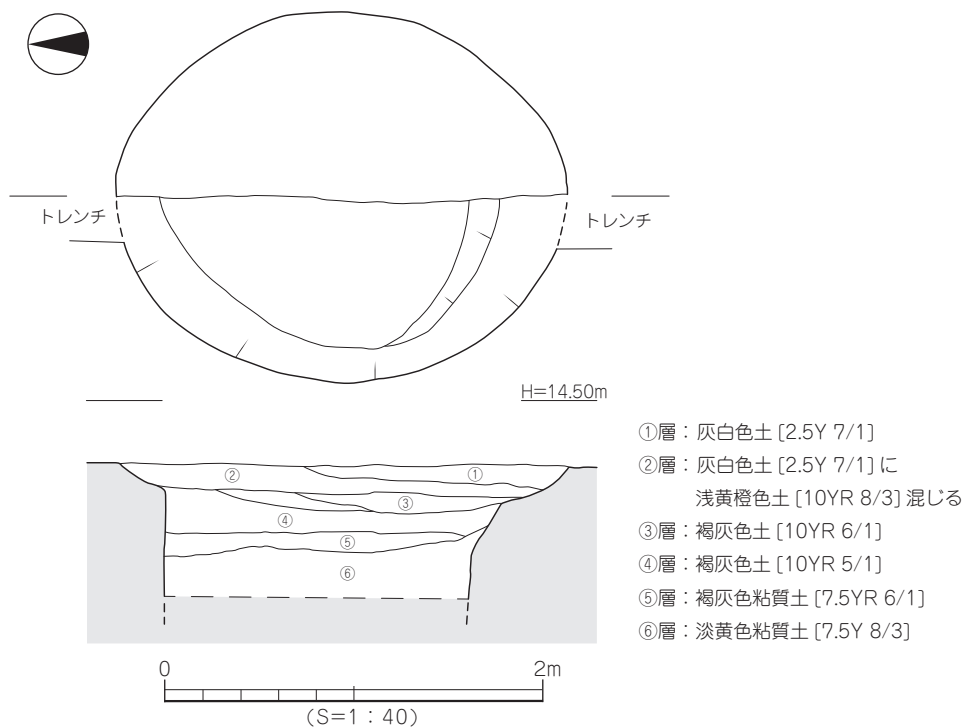
時期：出土遺物から、近・現代の井戸と考えられる。



第91図 SE3 測量図

SE4 (SE207) (第92・93図)

SE4は、調査区のC9区に位置する。平面形態は円形で、規模は長さ2.35m、検出幅(0.78m)、深さ(0.65)mを測る。深さは現状値で、掘り切れていない。断面形態は、箱状である。埋土は、6層に分層される。①灰白色土(2.5Y 7/1)、②灰白色土(2.5Y 7/1)に浅黄橙色土(10YR 8/3)混じる、③褐灰色土(10YR 6/1)、④褐灰色土(10YR 5/1)、⑤褐灰色粘質土(7.5YR 6/1)、⑥淡黄色粘質土(7.5Y 8/3)である。出土遺物には、土師器の皿・甕・土釜、弥生土器、須恵器、瓦がある。

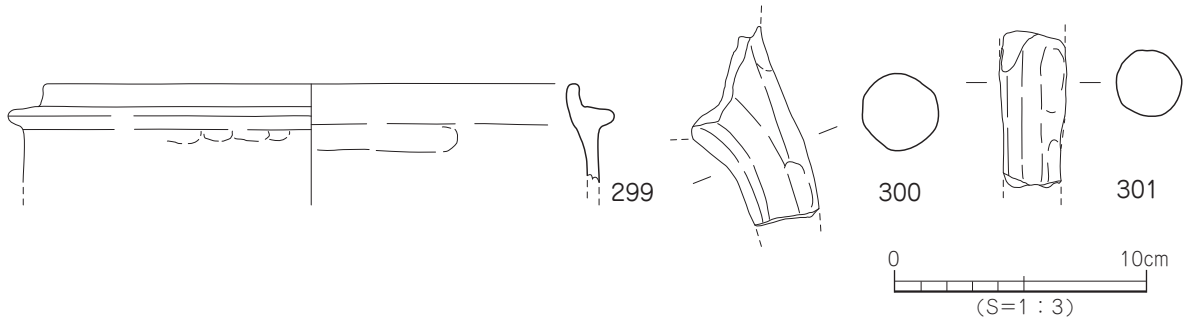


第92図 SE4 (SE207) 測量図

出土遺物 (299 ~ 301)

299 ~ 301 は土師器の土釜。299 は口縁部外面に断面三角形状の鏝を貼り付ける。煤付着。300・301 は三足付土釜の脚部。300 には煤が付着する。

時期：出土遺物から、近・現代の井戸と考えられる。



第 93 図 SE4 (SE207) 出土遺物実測図

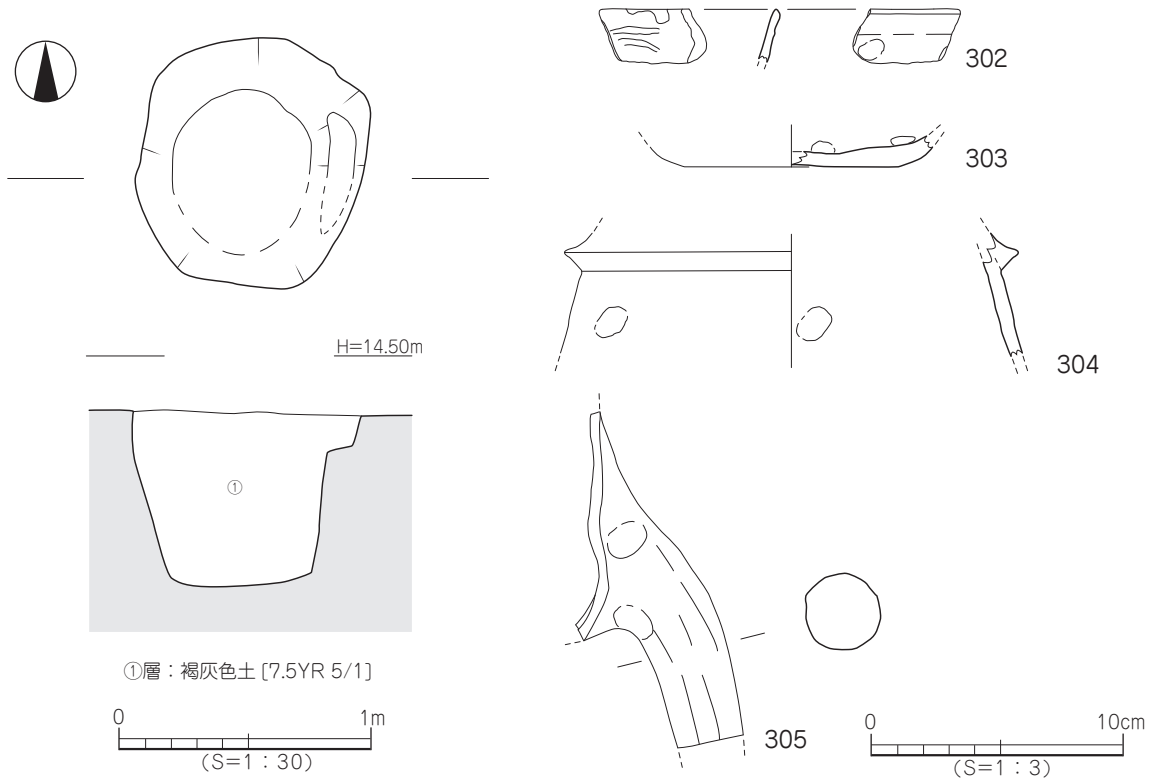
SE5 (第 94 図)

SE5 は、調査区の C8 区に位置する。SD6 と切り合う。平面形態は円形で、規模は長さ 0.92 m、幅 0.98 m、深さ 0.72 m を測る。断面形態は、箱状である。埋土は、褐灰色土 (7.5YR 5/1) である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、瓦器、陶磁器、須恵器がある。

出土遺物 (302 ~ 305)

302 ~ 305 は土師器。302・303 は坏。302 は口縁部の小片。303 は底部の小片。304・305 は土釜。304 は断面三角形状の鏝を貼り付ける。305 は三足付土釜の脚部。煤が付着する。

時期：出土遺物から、近・現代の井戸と考えられる。



第 94 図 SE5 測量図・出土遺物実測図



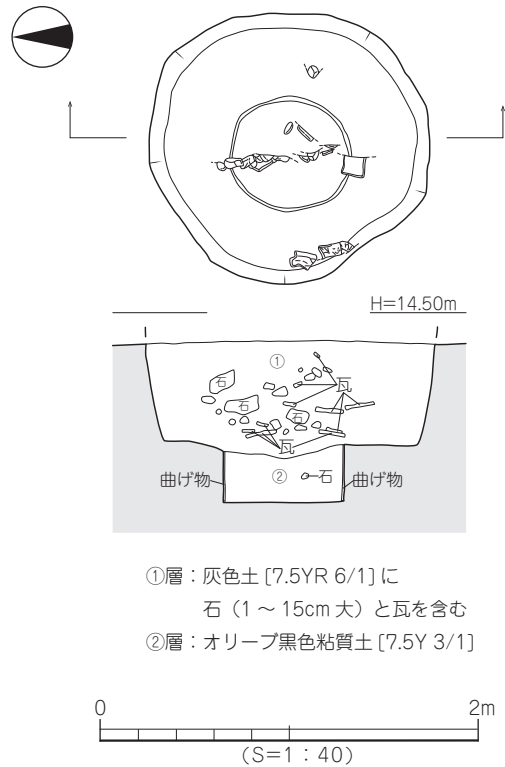
SE11 (SK2) (第95図、図版11)

SE11は、調査区のE2区に位置する。平面形態は円形で、規模は長さ1.62m、幅1.52m、深さ0.83mを測る。断面形態は、逆凸形状である。埋土は、2層に分層される。①灰色土(7.5Y 6/1)に石(1~15cm大)と瓦を含む、②オリーブ黒色粘質土(7.5Y 3/1)である。井戸の構造は下部に水溜の曲げ物を設置する。曲げ物の規模は径0.65m、深さ0.30mを測る。出土遺物には、多量の瓦、土師器の甕、陶磁器、弥生土器、須恵器、石製品、曲げ物が出土している。曲げ物は水溜として使用されていた。埋土内には、1~15cm大の礫が多量に廃棄されていた。

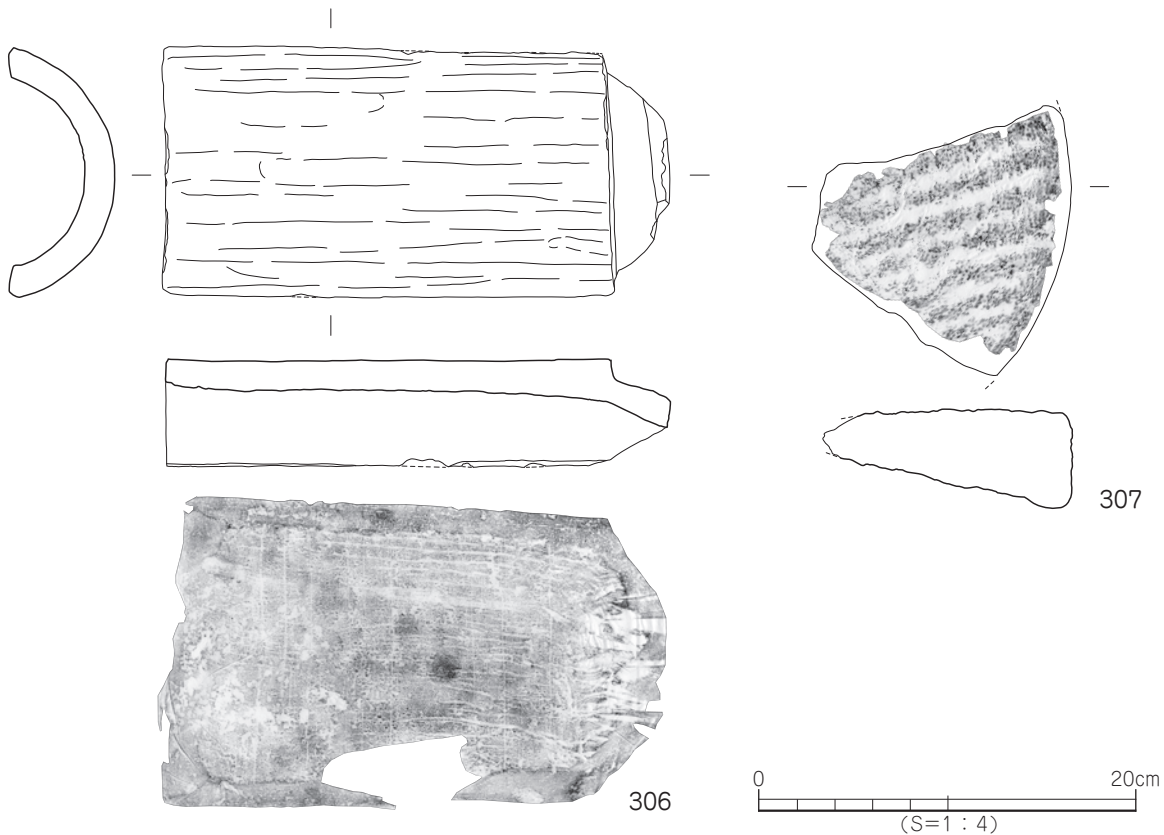
出土遺物 (306・307)

306は丸瓦。完形品。307は石臼。下臼で約1/4の残存。材質は砂岩である。

時期：出土遺物から、近・現代の井戸と考えられる。



- ①層：灰色土 [7.5YR 6/1] に  
石 (1~15cm 大) と瓦を含む
- ②層：オリーブ黒色粘質土 [7.5Y 3/1]



第95図 SE11 (SK2) 測量図・出土遺物実測図

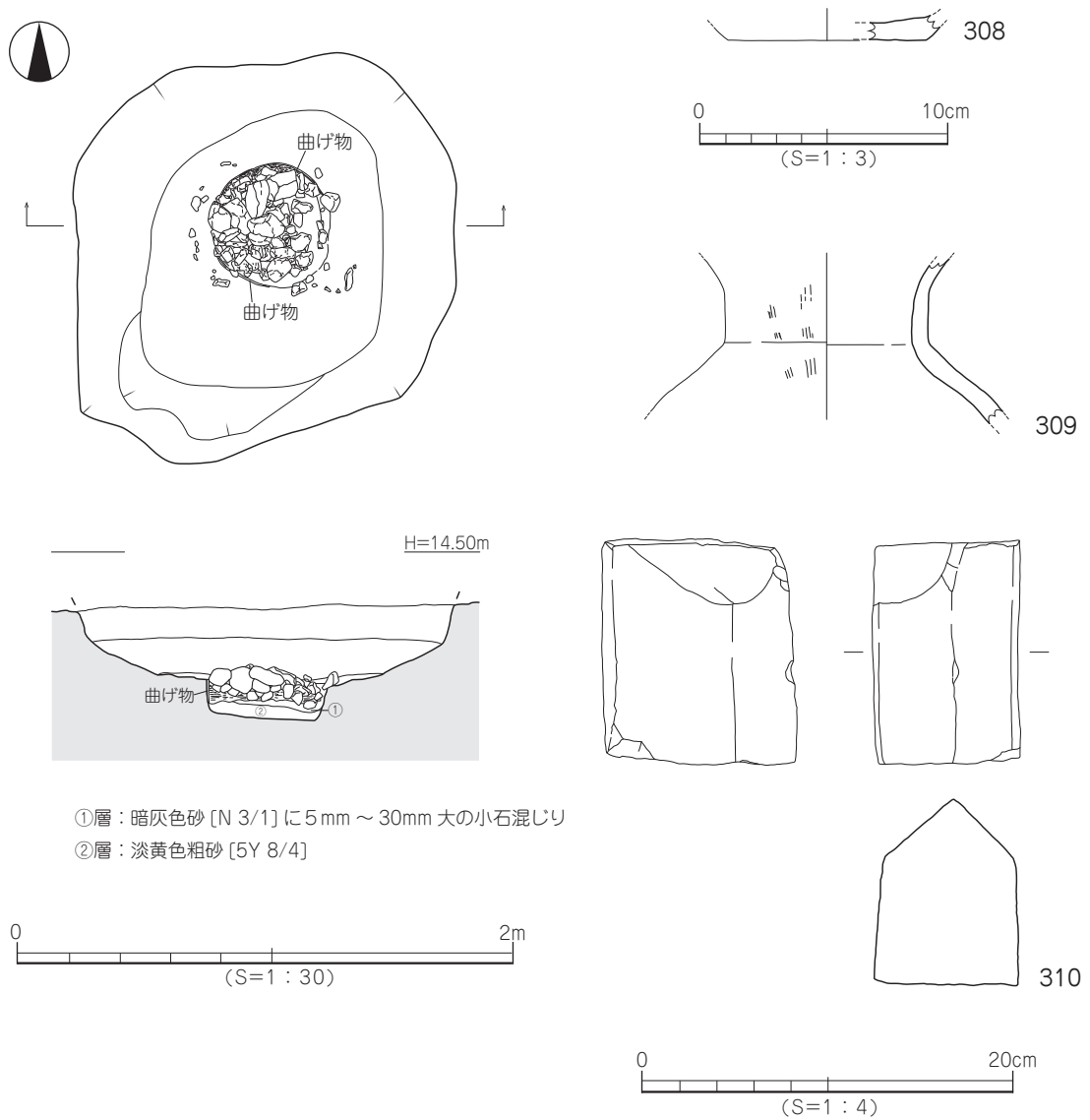
SE12 (SK3) (第96図、図版11)

SE12は、調査区のD2区に位置する。平面形態は円形で、規模は長さ1.78m、幅1.61m、深さ0.42mを測る。断面形態は、逆台形状である。埋土は、2層に分層される。①暗灰色砂(N 3/1)に5～30mm大の小石混じり、②淡黄色粗砂(5Y 8/4)である。井戸の構造は、井戸側に石組み、水溜りに曲げ物を設置する。出土遺物には、土師器の皿・坏・甕、弥生土器、石製品がある。

出土遺物 (308～310)

308は土師器の坏。底部の小片。309は弥生土器の長頸壺。頸部から胴部の残存。310はカマド石。煤が付着している。

時期：出土遺物から、近・現代の井戸と考えられる。



第96図 SE12 (SK3) 測量図・出土遺物実測図

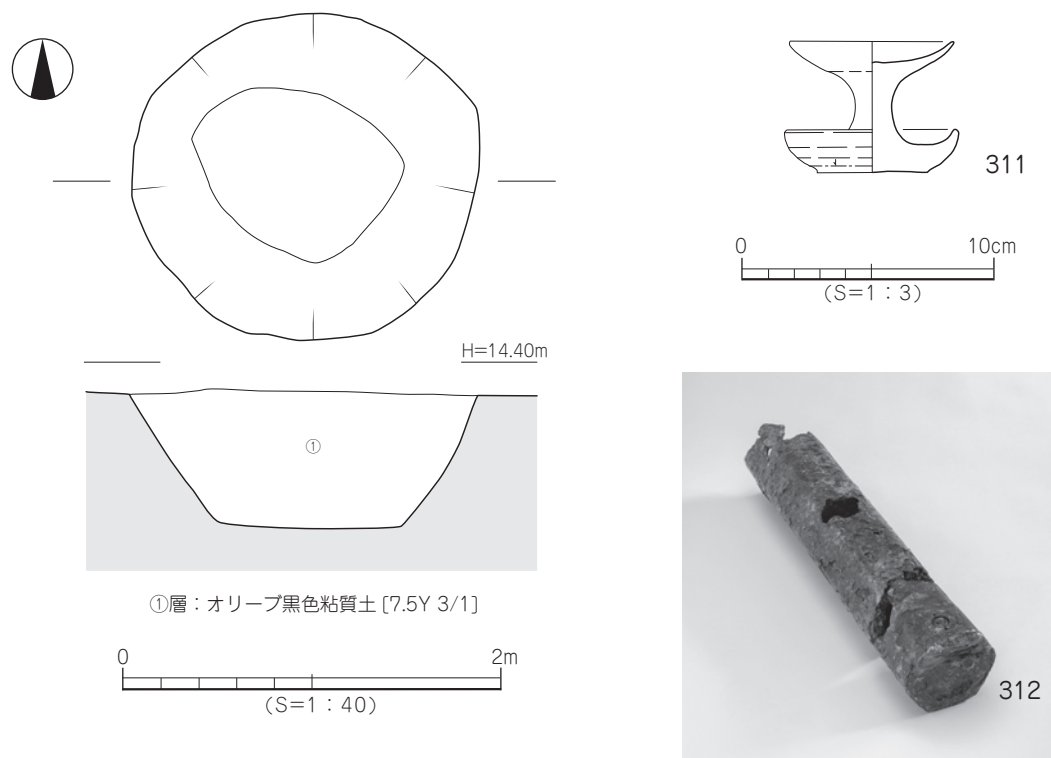
SE13 (SK9) (第97図)

SE13は、調査区のB3区に位置する。平面形態は円形で、規模は長さ1.85m、幅1.70m、深さ0.72mを測る。断面形態は、逆台形状である。埋土は、オリーブ黒色粘質土(7.5Y 3/1)である。出土遺物には、焼夷弾、瓦、ガラス瓶、陶磁器、鉄パイプが出土している。

出土遺物 (311・312)

311は陶器の燈明皿。底部に回転糸切り痕が見られる。312は鉄製品の焼夷弾。

時期：出土遺物と検出状況から、近・現代の井戸と考えられる。



第97図 SE13 (SK9) 測量図・出土遺物実測図・写真

4) 柱穴・カクラン出土遺物 (313～315) (第98図)

313はガラス小玉。青緑色。SP8出土。

314は銅銭。「天聖元寶」(てんせいげんぼう)。B6区のカクラン36出土。

315は煙管。B・C5区のカクラン48出土。



第98図 SP8・カクラン36・48出土遺物実測図・拓本・写真

### 3. 小結

本調査からは、古墳時代、中世、近・現代の遺構と遺物を検出した。

#### 古墳時代

古墳時代後期には、祭祀を行ったと思われる土器溜まりが2ヶ所で見つかった。この土器溜まりは、調査地の北に位置する辻町遺跡1次・2次調査からも8基見つかり、祭祀遺構とされている。わずかに出土遺物の器種に違いが見られるが、掘方のない場所に遺物が据え置かれたという出土状況は、同じ様相である。

#### 中世

中世では、区画溝、土壙墓、井戸を検出した。

区画溝：区画溝は東西方向の平行する溝2本と逆「L」字状の溝を検出した。これらの溝は集落を区画する溝と考えられる。調査地のある南江戸周辺には、これまでに松環古照遺跡や南斎院土居北遺跡で、一辺50mの区画溝が見つかり方形館として報告されている。これらの方形館内には、カマドを持つ竪穴建物などが検出され方形館とされている。当調査地で検出された複数の区画溝は、方形館の可能性も考えられるが、区画内での建物跡が明確に確認できなかったため、区画溝とした。

土壙墓：土壙墓は調査区のC・D区10～11区に位置し、幅5m、長さ20mの範囲に南北方向に列をなして6基を検出した。平面形態は方形と円形、楕円形がある。出土遺物には、完形品の坏が複数点出土し人骨も含まれている。土壙墓が集中することから、一族か近親者の墓地の可能性も考えられる。

井戸：井戸は2区の東側から6基を検出した。井戸の平面形態は円形で、水溜の施設には曲げ物と土器を使用するものがある。

#### 近・現代

近・現代では、井戸8基と土壙墓4基、ゴミ穴多数を検出した。

出土遺物には陶器、瓦、ロウ石、ガラス製のおはじき、焼夷弾などがある。

本調査からは、古墳時代の土器溜りや中世の区画溝、土壙墓、井戸などの集落に関連する遺構を多数検出した。検出した遺構からは、調査地及び周辺には古墳時代から中世にかけての集落が存在し、古墳時代と中世の集落が大峰ヶ台丘陵の南側の南斎院から南江戸の東側まで大きく広がることが判明した。今後、更に周辺の詳細な調査を続け、古墳時代と中世における集落の様相や構造等について解明していく予定である。

南江戸上沖遺跡 1 次調査

遺構・遺物一覧 — 凡例 —

(1) 以下の表は、本調査地検出の遺構と出土遺物の計測値及び観察一覧である。

(2) 出土遺物観察表の各掲載について

法量欄 ( ): 推定復元値

調整欄 土製品の各部名称を略記した。

例) (天)→天井部、(天上)→天井上部、(天下)→天井下部、(胴)→胴部、(体)→体部

(底)→底部、(底上)→底部上部、(底下)→底部下部、(口)→口縁部、(口端)→口縁端部

胎土・焼成欄 胎土欄では混和剤を略記した。

例) 石→石英、長→長石、金→金ウンモ、密→精製土。

( ) の中の数値は混和剤粒子の大きさを示す。

例) 石・長 (1~4) →「1mm~4mm 大の石英・長石を含む」である。

焼成欄の略記について。

◎→良好、○→良、△→不良

表2 土坑一覧

(1)

土坑 (SK)	地区	平面形	断面形	規模		埋土	出土遺物	時期	備考
				長径×短径×深さ (m)					
1	D2・3	不整形	レンズ状	1.95 × 1.91 × 0.28		褐灰色砂質土 (7.5YR 4/1)	土師器 陶磁器・瓦器 弥生土器・須恵器	中世	
SK2・3 → SE11・12 変更									
SK4 ~ 6・8 → 土壙墓一覧表 SK 移動									
7	C2・3	円形	レンズ状	1.55 × 1.42 × 0.39		オリーブ黒色粘質土 (7.5Y 3/1)	土師器 陶磁器	近・現代	
SK9 → SE13 変更									
10	B4	円形	逆台形状	0.69 × 0.61 × 0.16		①浅黄色砂礫 (7.5YR 7/3) ②灰色粘土 (7.5YR 7/1) ③橙色砂 (7.5YR 7/6) ④灰色土 (N 4/0)	土師器 瓦	鎌倉時代	12世紀。 内黒土器碗。
SK11古墳の甕									
12	A8	長方形か	皿状	1.50 × 0.45 × 0.17		灰色土 (7.5Y 4/1) 砂混じる	土師器 瓦器	中世	西側は調査区外2 次3区につづく。
13	C8	隅丸方形	レンズ状	(1.50) × 1.08 × 0.16		明褐灰色 (7.5YR7/2)	土師器 陶磁器 瓦器	中世	
SK14 → SE14 変更									
15	D11	不整形長方形	レンズ状	1.35 × 1.04 × 0.14		①褐灰色土 (10YR4/1) ②にふい黄橙色土 (10YR 7/3) に褐灰色土 (10YR 4/1) 混じる	土師器 須恵器	中世	SD22をきる。
SK16 → 土壙墓一覧表 SK 移動									
SK17 → SE15 変更									
SK18 → 土壙墓一覧表 SK 移動									
19	B11	楕円形	レンズ状	0.90 × 0.54 × 0.08		褐灰色土 (7.5YR 5/1)	土師器	中世	SP1060に切 られる。
欠番20									
21	E11	不整形円形	皿状	1.71 × 0.74 × 0.12		褐灰色土 (7.5YR 5/1) に浅黄色土 (10YR 8/4) が混じる	土師器	中世	SP886・870・1050 に切られる。
22	E10	円形	レンズ状	1.60 × 0.92 × 0.34		①褐灰色土 (7.5YR 5/1) ②浅黄色土 (10YR 8/4) に褐 灰色土 (7.5YR 5/1) 混じる ③褐灰色土 (7.5YR 5/1) に 浅黄色土 (10YR 8/4) 混じる ④浅黄色土 (10YR 8/4)	土師器 須恵器 瓦器	中世	
23	E12	隅丸長方形	レンズ状	(1.53) × 1.01 × 0.18		褐灰色土 (7.5YR 5/2) に浅黄色土 (10YR8/4) がブロック状に混じる	土師器 須恵器 石製品	中世	南側は2次4区 につづく。
SK24 → 土壙墓一覧表 SK 移動									
25	B10	円形	皿状	1.34 × 1.28 × 0.08		褐灰色土 (7.5YR 5/1)	土師器	中世	SP1135に切 られる。

## 遺構一覧

土坑一覧

(2)

土坑 (SK)	地区	平面形	断面形	規模		埋土	出土遺物	時期	備考
				長径×短径×深さ (m)					
26	B11	長方形	レンズ状	1.42 × 0.93 × 0.19		褐色土 (75YR 5/1)	土師器 須恵器 陶磁器	中世	SP966・1127 に切られる。
27	B9	楕円形	レンズ状	1.33 × 0.50 × 0.24		褐色土 (75YR 5/1)	土師器 須恵器	中世	SD10に切ら れる。
28	C10	長方形	逆台形状	0.85 × 0.65 × 0.22		褐色土 (75YR 5/1)	土師器 須恵器	中世	
SK29・30 → 土墳墓一覧表 SK 移動									
31	D12	楕円形	逆台形状	1.35 × 0.52 × 0.20		褐色土 (75YR 5/1)	土師器 須恵器	中世	

表 3 土墳墓一覧

土墳墓 (SK)	地区	平面形	断面形	規模		埋土	出土遺物	時期	備考
				長径×短径×深さ (m)					
4	C・D2	円形	逆台形状	1.64 × 1.39 × 0.34		オリーブ黒色粘質土 (7.5Y 3/1)	土師器・須恵器 陶磁器・瓦・ 木製品	近・現代	SK5と切り合 う。桶墳墓。
5	C2	円形	逆台形状	1.83 × 1.69 × 0.50		オリーブ黒色粘質土 (7.5Y 3/1)	土師器 陶磁器 木製品	近・現代	SK4と切り合 う。桶墳墓。
6	C2	円形	逆台形状	1.00 × 0.97 × 0.30		オリーブ黒色粘質土 (7.5Y 3/1)	土師器 陶磁器 瓦・木製品	近・現代	桶墳墓。
8	C3	円形	箱状	1.00 × 0.97 × 0.32		オリーブ黒色粘質土 (7.5Y 3/1)	土師器・陶器 木製品・石製 品・人骨 ガラス	近・現代	桶墳墓。
16	C・D11	隅丸方形	逆台形状	0.88 × 0.88 × 0.26		①褐色土 (75YR 4/1) ②にふい黄褐色土 (10YR 7/4) に褐色土 (10YR 4/1)	土師器 須恵器 陶磁器 人骨	中世	SD8を切る。
18	D9	円形	逆台形状	1.20 × 1.20 × 0.20		褐色土 (5YR 4/1)	土師器 須恵器 石製品	中世	SP1120・1121 に切られる。
24	C・D11	長方形	レンズ状	0.92 × 0.91 × 0.15		褐色土 (5YR 4/1)	土師器 須恵器 人骨	中世	SD8を切る。
29	D9・10	楕円形	レンズ状	(0.57) × 0.46 × 0.15		褐色土 (5YR 4/1)	土師器 人骨	中世	カクランに切 られる。
30	C・D9	長方形	逆台形状	0.9 × 0.7 × 0.20		褐色土 (5YR 4/1)	土師器 須恵器 人骨	中世	SD8を切る。
32	C10	不明	不明	不明		褐色土 (5YR 4/1)	土師器	中世	SD8を切る。

表 4 井戸一覧

(1)

井戸 (SE)	地区	平面形	断面形	規模		埋土	出土遺物	時期	備考
				模長径×短径×深さ (m)					
1	C1	円形	箱状	1.72 × 1.52 × 1.02		オリーブ黒色粘質土 (7.5Y 3/1)	土師器 須恵器 陶磁器 瓦	近・現代	石組み。
2	B1	円形	箱状	1.12 × 1.13 × 0.62		①浅黄色砂礫 (75YR 7/3) ②灰色粘土 (75YR 7/1) ③褐色砂 (75YR 7/6) ④灰色土 (N 4/0)	須恵器・弥生 土器・木製品・ 鉄製品・瓦	近・現代	上部をカク ランに切られる。
3	B2	円形	箱状	1.15 × 1.14 × 0.64		①灰土 (75Y 6/1) ②オリーブ黒色粘質土 (75Y 3/1) ③暗灰色粘質土 (N 3/0) ④暗灰色粘質土 (N 3/0) に砂含む ⑤灰色砂礫 (N 6/0) ⑥オリーブ黒色砂質土 (75Y 3/1) ⑦灰色砂質土 (6Y 5/1)	土師器 須恵器 木製品 瓦	近・現代	井戸側と水溜 の二段構造。
4	C9	円形	箱状	2.35 × (0.78) × (0.65)		①灰白色土 (2.5Y 7/1) ②灰白色土 (2.5Y 7/1) に浅 黄褐色土 (10YR 8/3) 混じる ③暗灰色土 (10YR 6/1) ④暗灰色土 (10YR 5/1) ⑤暗灰色粘質土 (7.5YR 6/1) ⑥浅黄色粘質土 (7.5Y 8/3)	土師器 須恵器 弥生土器 瓦	近・現代	(SE207) 変更。
5	C8	円形	箱状	0.92 × 0.98 × 0.72		褐色土 (75YR 5/1)	土師器 須恵器 陶磁器 瓦器	近・現代	SD6と切り 合う。

南江戸上沖遺跡 1次調査

井戸一覧

(2)

井戸 (SE)	地区	平面形	断面形	規模 長径×短径×深さ (m)	埋土	出土遺物	時期	備考
6	G12	円形	逆台形状	1.00 × 1.10 × 0.66	褐灰色土 (7.5YR 5/1)	土師器 須恵器 木製品	中世	東側は調査区外。石組み。
7	F11	円形	逆凸形状	1.80 × 1.30 × 0.75	①黒褐色土 (2.5Y 3/1) ②青灰色土 (5B 5/1) に暗青灰色土 (5B 4/1) が混じる ③青黒色粘質土 (5B 2/1)	土師器 須恵器 木製品	中世	上部をカクランに切られる。
SE8 → 2次SE401 と同一。2次で報告する。								
9	E・F11	円形	逆台形状	1.60 × 1.70 × 0.85	①灰黄褐色土 (10YR 6/2) ②黄灰色土 (2.5Y 5/1) ③緑灰色粘質土 (5G 5/1) ④黄灰色砂質土 (2.5Y 5/1) ⑤黄灰色砂質土 (2.5Y 4/1) ⑥青灰色粘質土 (10GB 5/1) ⑦オリーブ灰色粘質土 (5GY 6/1)	土師器 須恵器 陶器	中世	亀山焼。 甕の水溜部。 石組み。
10	D10	円形	逆台形状	1.78 × 1.70 × 0.54	①灰褐色土 (7.5YR 5/2) ②にぶい褐色土 (7.5YR 7/4) ③灰褐色土 (7.5YR 5/2) ににぶい褐色土 (7.5YR 7/4) が混じる ④にぶい褐色土 (7.5YR 7/3) 砂混じり ⑤にぶい褐色土 (7.5YR 7/3) 砂混じり ⑥にぶい褐色土 (7.5YR 7/4) が混じる ⑦黄灰色土 (7.5YR 5/1)	土師器 須恵器 弥生土器 瓦器 木製品	中世	石組み。
11	E2	円形	逆凸形状	1.62 × 1.52 × 0.83	①灰色土 (7.5Y 6/1) に石 (1～15mm大) と瓦を含む ②オリーブ黒色粘質土 (7.5Y 3/1)	土師器・須恵器 弥生土器・陶磁器・木製品・石製品・瓦	近・現代	(SK2) 変更。
12	D2	円形	逆台形状	1.78 × 1.61 × 0.42	①暗灰色砂 (N 3/1) に5～30mm大の小石混じり ②淡黄色粗砂 (5Y 8/4)	土師器 弥生土器 石製品	近・現代	(SK3) 変更。 石組み。
13	B3	円形	逆台形状	1.85 × 1.70 × 0.72	オリーブ黒色粘質土 (7.5Y 3/1)	陶磁器 瓦・ガラス 鉄製品	近・現代	(SK9) 変更。
14	G12	円形	逆台形状	0.80 × 0.40 × 0.72	①褐色土 (10YR 4/1) に灰黄色土 (2.5Y 7/2) がブロック状に混じる ②暗灰色粘質土 (N3 0) に灰黄色粘質土 (2.5Y 7/2) がブロック状に混じる	土師器 須恵器	中世	東・南側は調査区外。 (SK14) 変更。
15	C・D11・12	円形	逆台形状	1.60 × 1.60 × 0.85	褐灰色土 (7.5YR 5/1)	土師器・須恵器 陶磁器・弥生土器 石製品・鉄製品	中世	(SK17) 変更。 石組みが二～四段残る。
SP2 (水琴窟)	G2	楕円形	逆台形状	0.74 × 0.65 × 0.21	褐灰色砂質土 (10YR 5/1) 礫を多く含む	陶器	中世	亀山焼。

表5 溝一覧

(1)

溝 (SD)	地区	方向	断面形	規模 長さ×幅×深さ (m)	埋土	出土遺物	時期	備考
1	D1～G2	東西	レンズ状	(18.8) × 1.68 × 0.16	黄灰色砂質土 (2.5Y 5/1) 礫を含む	土師器 須恵器 弥生土器	中世	東側は調査区外。
2	B2～G1	東西	レンズ状	(32.62) × 0.90 × 0.16	黄灰色砂質土 (2.5Y 5/1) 1～4mm大の礫を含む	土師器 弥生土器	中世	西・東側は調査区外。
3	E～G1	東西	逆台形状	(12.36) × 0.52 × 0.17	褐灰色粗砂 (5YR 5/1)	土師器	中世	西・東・北側は調査区外。
4	C1・2	南北	皿状	(7.92) × 0.38 × 0.15	緑灰色土 (5G 6/1)	土師器 須恵器	中世	北側は調査区外。
5	A～C6	東西	レンズ状	(9.40) × 0.1～0.25 × 0.04～0.08	褐灰色土 (7.5YR 5/1)	土師器 瓦器 鉄製品	中世	SP333に切られる。
6	A～C8	東西	逆台形状	(11.8) × 2.3 × 0.4	①灰褐色土 (7.5YR 5/2) ②褐色土 (7.5YR 5/1) ③褐色土 (5YR 4/1) ④褐灰色粘質土 (5YR4/1) ⑤褐灰色砂質土 (5YR6/1)	土師器・須恵器 瓦器・陶磁器 石製品・鉄製品	鎌倉時代	西側は2次3区、東側は2次2区につづく区画溝。
7	A～C8	東西	「U」字状	(11.55) × 0.33～0.40 × 0.22	褐灰色土 (7.5YR 6/1)	土師器・須恵器 瓦器・陶磁器 弥生土器	中世	西側は2次3区、東側は2次2区につづく。
8	C9～12	南北	レンズ状	(18.0) × 1.82 × 0.24	灰褐色土 (7.5YR 5/2)	土師器 須恵器 鉄製品 籾の羽口	室町時代	南側は2次4区につづくC9区でSD10にT字状に接続。
9	C9～12	南北	レンズ状	(16.0) × 1.91 × 0.32	①灰褐色土 (7.5YR 5/2) ②灰褐色土 (7.5YR 5/2) ににぶい褐色土 (7.5YR 7/3) 混じり	土師器・須恵器 磁器・瓦器 石製品・鉄製品 瓦質土器・瓦	室町時代	南側は2次4区につづくC9区で西に折れ曲がりSD11に接続。
10	A～D9	東西	レンズ状	(18.0) × 1.06 × 0.37	①褐色土 (5YR 4/1) ②灰白色細砂 (10YR 7/1) ③灰褐色土 (10YR 6/1) に砂混じり ④灰黄褐色土 (10YR 5/2) ⑤褐色土 (7.5YR 6/1) ⑥褐色土 (10YR 6/1)	土師器 須恵器 陶磁器 弥生土器 石製品	室町時代	西・東側は2次2・3区につづくC9区でSD8とT字状に接続。

遺構一覧

溝一覧

(2)

溝 (SD)	地区	方向	断面形	規模 長さ×幅×深さ (m)	埋土	出土遺物	時期	備考
11	A～C9	東西	レンズ状	(16.0) × 1.17 × 0.33	①褐灰色土 (5YR 4/1) ②褐灰色土 (5YR 5/1) ③褐灰色砂質土 (7.5YR 6/1)	土師器 須恵器 陶磁器 弥生土器 鉄製品	室町時代	西側は2次3区につづく。C9区で南方向に折れ曲がる。SD9に接続。
12	F・G10・11	東西	皿状	(7.56) × 1.92 × 0.18	①褐灰色土 (7.5YR 5/1) ②淡黄色粘質土 (5Y 8/4)	土師器 須恵器 陶磁器 鉄製品・瓦	中世	東側は調査区外。
13	D～G12	東西	レンズ状	17.44 × 0.53 × 0.16	褐灰色土 (7.5YR 5/1)	土師器 須恵器 陶磁器 瓦器・鉄	中世	東側は調査区外。
14	D～G12	東西	レンズ状	14.82 × 0.45 × 0.13	褐灰色土 (7.5YR 5/1)	土師器 須恵器 陶磁器 石製品・銅銭	中世	
15	E10・11	南北	レンズ状	(7.44) × 0.40 × 0.10	褐灰色土 (7.5YR 5/1)	土師器 須恵器	中世	北側は2次2区につづく。
16	E10・11	南北	レンズ状	(8.20) × 0.50 × 0.13	褐灰色土 (7.5YR 5/1)	土師器 須恵器	中世	北側は2次2区につづく。
17	F・G11	東西	レンズ状	(4.18) × 0.33 × 0.07	褐灰色土 (7.5YR 5/1)	土師器 鉄製品	中世	東側は調査区外。
18	F・G10	東西	レンズ状	(5.76) × 0.30 × 0.07	褐灰色土 (7.5YR 5/1)	なし	中世	東側は調査区外。
19	F10	南北	不整形	(1.60) × 0.55 × 0.19	褐灰色土 (7.5YR 5/1)	土師器	中世	北側はトレンチに切られ2次2区につづく。
欠番20								
21	D10・11	南北	レンズ状	(4.16) × 0.31 × 0.05	褐灰色土 (7.5YR 5/1)	土師器	中世	SP887・888・927に切られ北側は2次2区につづく。
22	D10～12	南北	レンズ状	8.84 × 0.27～0.52 × 0.07	褐灰色土 (7.5YR 5/1)	土師器	中世	SK15・SD13・14・SP675・674・908・カクランに切られる。
23	C10・11	南北	レンズ状	7.50 × 0.32～0.71 × 0.02～0.16	褐灰色土 (7.5YR 5/1)	土師器 須恵器 陶磁器	中世	
24	B10	南北	レンズ状	2.84 × 0.16～0.30 × 0.03	褐灰色土 (7.5YR 5/1)	土師器	中世	SK25に切られる。

表6 性格不明遺構一覧

性格不明遺構 (SX)	地区	平面形	断面形	規模 長径×短径×深さ (m)	埋土	出土遺物	時期	備考
1	A・B6	自然地形	自然地形	5m四方の遺物の広がり	第IX層が覆う	須恵器 土師器	古墳時代 後期前半	第X層上面検出。
2	C8・9	自然地形	自然地形	3m四方の遺物の広がり	第IX層が覆う	須恵器 土師器	古墳時代 後期前半	第X層上面検出。
3	B8・9	不整形	レンズ状	2.40 × 1.43 × 0.07～0.15	灰褐色土 (7.5YR 5/2)	土師器 須恵器 石製品	中世	SD7・SP289・カクランに切られる。
4	A10・11	不整形	レンズ状	2.57 × 2.16 × 0.18	灰褐色土 (7.5YR 5/2)	土師器 須恵器 弥生土器 石製品	中世	SP696・1081に切られる。

表7 第X層上面 (第2面) 出土遺物遺構一覧

地点 (P)	地区	平面形	断面形	規模 長径×短径×深さ (m)	埋土	出土遺物	時期	備考
1	B6	自然地形	自然地形	掘方なし 第X層上面で土師器を据え置く	第IX層が覆う	土師器	古墳時代 後期後半	
2	C6	自然地形	自然地形	掘方なし 第X層上面で土師器を据え置く	第IX層が覆う	土師器	古墳時代 後期後半	
3	B6	自然地形	自然地形	掘方なし 第X層上面で土師器を据え置く	第IX層が覆う	土師器	古墳時代 後期後半	
4	B6	自然地形	自然地形	掘方なし 第X層上面で須恵器を据え置く		須恵器	古墳時代 後期後半	



南江戸上沖遺跡 1 次調査

表 8 SX1 出土遺物観察表 (土製品)

(1)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
1	坏蓋	口径 14.6 器高 4.6	口縁部と天井部との境は、断面三角形の稜となる。天井部は丸みをもつ。	㊦回転ヘラケズリ ㊧回転ナデ	回転ナデ (天井部中央に同心円のあて具痕)	灰色 灰色	密 ◎	No.2 とセット。	12
2	坏身	口径 13.1 器高 5.1	たちあがりは、直線的に内傾する。底部はかなり歪む。	㊦回転ナデ ㊧回転ヘラケズリ	◎回転ナデ ㊧ナデ	灰白色 灰白色	長 (1~2) 密 ◎	No.1 とセット。	12
3	坏蓋	口径 15.3 器高 4.2	口縁端部は、内傾する面をもつ。口縁部と天井部との境は、断面三角形の稜となる。天井部は平たい。	㊦回転ヘラケズリ ㊧回転ナデ	◎回転ナデ ㊧ナデ	灰色 灰色	長 (1~4) 密 ◎	No.4 とセット。	12
4	坏身	口径 13.7 器高 5.3	たちあがりは、ややそり気味に上方に伸びる。口縁端部は、丸みを持つ。底部はやや尖る。	㊦回転ナデ ㊧回転ヘラケズリ	◎回転ナデ ㊧ナデ	灰色 灰色	長 (1~5) 密 ◎	No.3 とセット。	12
5	坏蓋	口径 (13.8) 器高 5.5	厚みのある丸い天井部。口縁端部は、内傾する面をもつ。	㊦回転ヘラケズリ ㊧回転ナデ	◎回転ナデ ㊧ナデ	灰白色 灰色	長 (1~2) ◎		
6	坏蓋	口径 14.8 器高 4.6	口縁部と天井部との境は、断面三角形の稜となる。天井部は丸みをもつ。	㊦回転ヘラケズリ ㊧回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	長 (1~3) 密 ◎		12
7	坏蓋	口径 (15.5) 器高 5.1	丸みをもつ天井部から、段をもち口縁部につづく。口縁部内面が僅かに窪む。	㊦回転ヘラケズリ ㊧回転ナデ	回転ナデ ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
8	坏蓋	口径 14.3 器高 4.8	丸みをもつ天井部。口縁部と天井部との境は稜をもつ。	㊦回転ヘラケズリ ㊧回転ナデ	◎回転ナデ ㊧ナデ	灰色 灰色	長 (1~2) 密 ◎		
9	坏蓋	口径 15.0 器高 4.4	天井部と口縁部との境は、僅かに稜を持つ。口縁端部は内傾する面をもち窪む。	㊦回転ヘラケズリ ㊧回転ナデ	◎回転ナデ ㊧ナデ	灰色 灰色	長 (1~3) 密 ◎		
10	坏蓋	口径 14.5 器高 4.9	天井部と口縁部の境は、ナデにより窪み稜をもつ。	㊦回転ヘラケズリ ㊧回転ナデ	◎回転ナデ ㊧ナデ	灰色 灰色	長 (1~3) 密 ◎		12
11	坏蓋	口径 15.3 器高 4.4	口縁端部外面に、細かい刻み目がある。	㊦回転ヘラケズリ →㊧ナデ ㊧回転ナデ	◎回転ナデ ㊧回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		12
12	坏蓋	口径 15.3 器高 4.2	天井部と口縁部を分ける境は、ナデにより窪む。天井部は歪みが激しい。	㊦回転ヘラケズリ ㊧回転ナデ	◎回転ナデ ㊧ナデ	灰色 灰色	石・長 (1) ◎		12
13	坏蓋	口径 15.9 器高 5.1	天井部と口縁部を分ける境は、不明瞭である。	㊦回転ヘラケズリ ㊧回転ナデ	◎回転ナデ ㊧回転ナデ・ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~3) ◎		
14	坏蓋	口径 (14.4) 器高 4.2	口縁端部は内傾する面をもつ。	㊦回転ヘラケズリ ㊧回転ナデ	◎回転ナデ ㊧ナデ	灰白色 灰白色	石・長 (1~3) ◎		
15	坏蓋	口径 (14.6) 器高 3.8	天井部と口縁部を分ける境は、不明瞭である。天井部は扁平である。	㊦回転ヘラケズリ ㊧回転ナデ	◎回転ナデ ㊧ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~3) ◎		
16	坏蓋	口径 (15.0) 器高 4.5	口縁部を分ける境は、不明瞭である。口縁端部は、内傾する面をもつ。	㊦回転ヘラケズリ ㊧回転ナデ	◎回転ナデ ㊧ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~3) ◎		
17	坏蓋	口径 15.2 器高 4.9	口縁端部は、内傾する面をもち僅かに窪む。天井部と口縁部を分ける境は不明瞭である。	㊦回転ヘラケズリ ㊧回転ナデ	◎回転ナデ ㊧ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~4) ◎		12
18	坏蓋	口径 15.3 器高 5.2	口縁端部は、内傾する面をもつ。摩滅が激しく石英と長石を多量に含む。	㊦回転ヘラケズリ ㊧回転ナデ	◎回転ナデ ㊧回転ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~4) 多量 ◎		12
19	坏蓋	口径 (13.1) 残高 4.0	厚みのある天井部。口縁端部は丸い。	㊦回転ヘラケズリ ㊧回転ナデ	◎回転ナデ ㊧回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
20	坏身	口径 14.1 器高 4.8	受け部は、短く水平に伸びる。たちあがりは、内傾する。	㊦回転ナデ ㊧回転ヘラケズリ	◎回転ナデ ㊧ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~3) ◎		13
21	坏身	口径 13.9 器高 4.8	たちあがりは、ややそり気味に内傾する。口縁端部は面をもつ。底部は平たい。	㊦回転ナデ ㊧回転ヘラケズリ	◎回転ナデ ㊧ナデ	灰色 灰色	長 (1~2) 密 ◎		12
22	坏身	口径 (13.6) 残高 4.9	短く水平に伸びる受け部。たちあがりは、内傾し口縁端部は内傾する面をもつ。	㊦回転ナデ ㊧回転ヘラケズリ	◎回転ナデ ㊧ナデ	灰白色 灰白色	石・長 (1~3) 密 ◎		

出土遺物一覧

SX1 出土遺物観察表 (土製品)

(2)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
23	坏身	口径 (13.7) 残高 4.4	短く水平に伸びる受け部。たちあがり りは、直立気味にわずかに内傾する。	㊦㊧㊨回転ナデ ㊩㊪㊫回転ヘラケズリ	㊱㊲回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
24	坏身	口径 12.0 器高 4.7	受け部は、外上方に伸びる。たちあ がりは、内傾し端部は丸い。	㊦㊧㊨回転ナデ ㊩㊪㊫回転ヘラケズリ	㊱㊲回転ナデ	灰色 灰色	長 (1~3) 密 ◎		12
25	坏身	口径 13.4 器高 4.9	受け部は、外上方に短く伸びる。た ちあがりは、内傾する。	㊦㊧㊨回転ナデ ㊩㊪㊫回転ヘラケズリ	㊱回転ナデ ㊲ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~2) ◎		
26	坏身	口径 (13.4) 器高 4.4	扁平で焼け歪む底部。受け部は、外 上方に短く伸びる。たちあがりは、 内傾し端部は丸い。	㊦㊧㊨回転ナデ ㊩㊪㊫回転ヘラケズリ	㊱回転ナデ ㊲ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~4) 密 ◎		
27	坏身	口径 12.0 器高 4.3	受け部は、短く水平に伸びる。たち あがりは、内傾し端部は丸い。	㊦㊧㊨回転ナデ ㊩㊪㊫回転ヘラケズリ	㊱回転ナデ ㊲ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~3) 密 ◎		13
28	坏身	口径 (12.6) 器高 5.0	受け部は、短く水平に伸びる。たち あがりは、内傾する。	㊦㊧㊨回転ナデ ㊩㊪㊫回転ヘラケズリ	㊱回転ナデ ㊲回転ナデ	灰色 灰色	長 (1~2) ◎		13
29	坏身	口径 12.9 器高 4.8	短く水平に伸びる受け部。たちあが りは、内傾し端部は先細りである。	㊦㊧㊨回転ナデ ㊩㊪㊫回転ヘラケズリ	㊱㊲回転ナデ	灰色 灰色	長 (1~2) ◎		13
30	坏身	口径 13.2 器高 4.9	受け部は、外上方に短く伸びる。た ちあがりは、内傾し直立気味に伸び る。	㊦㊧㊨回転ナデ ㊩㊪㊫回転ヘラケズリ	㊱回転ナデ ㊲ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~3) ◎		13
31	坏身	口径 (12.3) 器高 5.1	受け部は、外上方に短く伸びる。た ちあがりは、内傾し端部は丸い。	㊦㊧㊨回転ナデ ㊩㊪㊫回転ヘラケズリ	㊱回転ナデ ㊲ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~3) ◎		
32	坏身	口径 12.7 器高 4.8	短く水平に伸びる受け部。たちあが りは、直立気味である。底部は歪ん で楕円形状である。	㊦㊧㊨回転ナデ ㊩㊪㊫回転ヘラケズリ	㊱回転ナデ ㊲ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~2) 密 ◎		13
33	坏身	口径 (12.6) 器高 4.4	底部内面に、同心円状の工具痕。受 け部は、短く水平に伸び、打ち欠か れている。	㊦㊧㊨回転ナデ ㊩㊪㊫回転ヘラケズリ	㊱回転ナデ ㊲ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~2) 密 ◎		
34	坏身	口径 (13.1) 残高 4.8	たちあがりは、内傾しナデにより中 央部が窪む。自然釉がかかる。	㊦㊧㊨回転ナデ ㊩㊪㊫回転ヘラケズリ	㊱回転ナデ	オリーブ灰色 灰色	密 ◎	自然釉	
35	坏身	口径 (13.0) 器高 5.6	底部外面に長さ 12.5cm直線状の線刻 あり。底部内面に、同心円状の工具 痕が僅かに残る。底部に歪み。	㊦㊧㊨回転ナデ ㊩㊪㊫回転ヘラケズリ	㊱回転ナデ ㊲ナデ	灰色 灰色	密 ◎		13
36	坏身	口径 (13.0) 残高 4.5	たちあがりは、内傾し端部は、内傾 する面をもつ。底部内面に同心円状 の工具痕。	㊦㊧㊨回転ナデ ㊩㊪㊫回転ヘラケズリ	㊱回転ナデ ㊲ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
37	坏身	口径 (12.9) 残高 4.1	扁平な底部。受け部は、外上方に短 く伸びる。たちあがりは、内傾し端 部は尖り気味に丸い。	㊦㊧㊨回転ナデ ㊩㊪㊫回転ヘラケズリ	㊱回転ナデ	灰色 灰色色	密 ◎		
38	坏身	口径 (14.5) 残高 4.5	受け部は、外上方に短く伸びる。た ちあがりは、内傾する。自然釉がか かる。	㊦㊧㊨回転ナデ ㊩㊪㊫回転ヘラケズリ	㊱回転ナデ	暗青灰色 青灰色	密 ◎	自然釉	
39	坏身	口径 (12.2) 残高 3.6	受け部は、外上方に短く伸びる。た ちあがりは、内傾し端部は丸い。	㊱回転ナデ ㊲回転ヘラケズリ	㊱回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
40	坏身	口径 (12.3) 器高 4.6	たちあがりは内傾し、端部は尖り気 味に丸い。	㊦㊧㊨回転ナデ ㊩㊪㊫回転ヘラケズリ	㊱回転ナデ ㊲ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~6) ◎		
41	坏身	口径 (11.8) 器高 5.0	受け部は、外上方に短く伸びる。た ちあがりは、内傾する。器壁は薄い。	㊦㊧㊨回転ナデ ㊩㊪㊫回転ヘラケズリ	㊱回転ナデ ㊲ナデ	灰色 灰色	長 (1~3) 密 ◎		
42	坏身	口径 (12.3) 器高 3.6	焼け歪みが激しい。受け部は、短く 水平に伸びる。たちあがりは、内傾 する。	㊦㊧㊨回転ナデ ㊩㊪㊫回転ヘラケズリ	㊱回転ナデ ㊲ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~3) 密 ◎		
43	坏身	口径 (12.0) 残高 5.4	たちあがりは、内傾し端部は丸い。 受け部は、僅かに水平に伸び、端部 は丸い。	㊦㊧㊨回転ナデ ㊩㊪㊫回転ヘラケズリ	㊱㊲回転ナデ	灰白色 灰白色	石 (1~4) 多 ◎		
44	坏身	口径 (13.4) 器高 4.0	受け部は、短く水平に伸びる。たち あがりは、内傾する。扁平な底部。	㊦㊧㊨回転ナデ ㊩㊪㊫回転ヘラケズリ	㊱回転ナデ ㊲ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~3) ◎		

南江戸上沖遺跡 1 次調査

SX1 出土遺物観察表 (土製品)

(3)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
45	坏身	口径 (12.1) 器高 3.9	受け部は、外上方に短く伸びる。たちあがりは、内傾し端部は丸い。	㊦㊧回転ナデ ㊦㊧回転ヘラケズリ	㊦回転ナデ ㊦ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~2) 密 ◎		
46	坏身	口径 12.5 器高 4.3	受け部の厚みは薄く、短く水平に伸びる。たちあがりは、内傾する。	㊦㊧回転ナデ ㊦㊧回転ヘラケズリ	㊦回転ナデ ㊦ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~5) ◎		
47	坏身	口径 11.9 残高 3.6	受け部は、短く水平に伸びる。たちあがりは、器壁が薄く内傾し、端部は尖り気味に丸い。	㊦㊧回転ナデ ㊦㊧回転ヘラケズリ	㊦回転ナデ ㊦ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~3) ◎		
48	坏身	受部径 15.8 残高 3.7	短く水平に伸びる受け部。口縁部は欠損。	㊦㊧回転ナデ ㊦㊧回転ヘラケズリ	㊦回転ナデ ㊦ナデ	灰白色 灰白色	石・長 (1~2) ◎		
49	高坏	口径 (12.6) 残高 7.7	口縁部中位に段をもつ。脚部に径 0.7 cm の円孔を 3 カ所施す。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		13
50	短頸壺	口径 (11.0) 器高 13.5	口縁部は短く内傾し、端部は尖り気味である。	㊦㊧回転ナデ ㊦㊧タタキ ㊦平行タタキ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		13
51	短頸壺	口径 10.9 器高 16.8	口縁部は、短く直立気味に伸び、口縁端部は丸い。	㊦㊧回転ナデ ㊦㊧タタキ ㊦平行タタキ	㊦回転ナデ ㊦同心円文工具痕	灰白色 灰白色	密 ◎		13
52	平瓶	口径 (9.2) 器高 17.9	口縁部は、段をもち外方向に広がる。口縁部内面は、ナデにより窪む。体部に蓋をした円形の痕が見られる。	㊦ナデ ㊦マメツ	ナデ	灰白色 灰白色	△		14
53	壺	口径 9.7 器高 10.5	短く直立する口縁端部は丸い。厚みのある底部は丸い。	㊦ヨコナデ ㊦ハケ (6 本/cm) → ナデ	㊦ヨコナデ ㊦ナデ	橙色 橙色	石・長 (1) ◎		14
54	壺	口径 (11.1) 器高 12.5	外傾し僅かに内湾する短い口縁部。体部は球形である。	㊦ヨコナデ ㊦ハケ (13~14 本/cm) → ナデ	㊦ヨコナデ ㊦ナデ	明赤褐色・に ぶい橙色 にぶい橙色	長 (1) 金 ◎		14
55	壺	口径 11.5 器高 17.7	短く外反する口縁端部は丸い。体部は球形である。	㊦ヨコナデ ㊦ハケ (13~14 本/cm) → ナデ ㊦ナデ	㊦ハケ (13~14 本/cm) ㊦ナデ	橙色・明赤褐色 橙色	長 (1~2) ◎	黒斑	14
56	壺	口径 13.4 器高 5.2	口縁端面は内傾する面をもつ。	㊦ハケ → ナデ ㊦ハケ (5 本/cm)	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	長 (1~3) ◎	黒斑	14
57	壺	口径 (11.8) 残高 4.9	外傾する口縁端部は尖り気味に丸い。	ナデ	ナデ	にぶい橙色 橙色	長 (1~2) ◎		

表 9 SX2 出土遺物観察表 (土製品)

(1)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
58	坏蓋	口径 14.9 器高 4.9	口縁部と天井部との境には、沈線が巡る。天井部は、丸みをもつ。	㊦㊧回転ヘラケズリ ㊦㊧回転ナデ	㊦回転ナデ ㊦ナデ	灰白色 灰白色	石・長 (1~3) ◎	No.59 と セット。	14
59	坏身	口径 13.2 器高 5.3	たちあがりは、やや内湾する。口縁端部は、尖り気味で内側に沈線が巡る。底部は、厚手で丸みをもつ。	㊦㊧回転ナデ ㊦㊧回転ヘラケズリ	㊦回転ナデ ㊦ナデ	灰白色 灰白色	石・長 (1~4) ◎	小石 15 個 入る。No.58 とセット。	14
60	坏蓋	口径 14.5 器高 4.6	口縁部と天井部を分ける境はあまい稜をもつ。口縁端部内面は、内傾する面をもつ。	㊦㊧回転ヘラケズリ ㊦㊧回転ナデ	㊦回転ナデ ㊦ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~2) 密 ◎	No.61 と セット。	14
61	坏身	口径 12.9 器高 4.8	たちあがりは、あまい稜をもって内傾する。口縁端部は、尖り気味。底部は、厚手で丸みをもつ。	㊦㊧回転ナデ ㊦㊧回転ヘラケズリ	㊦回転ナデ ㊦ナデ	灰白色 灰白色	石・長 (1~2) 石粒 (1~4) ◎	No.60 と セット。	14
62	坏蓋	口径 15.1 器高 3.9	天井部の焼成時に他の遺物の付着物が見られる。口縁部に自然釉が見られ歪みがある。	㊦㊧回転ヘラケズリ ㊦㊧回転ナデ	㊦回転ナデ ㊦ナデ	灰色 灰白色	密 ◎	自然釉。 No.63 と セット。	
63	坏身	口径 (12.4) 残高 5.1	短く水平に伸びる受け部、たちあがりは、内傾する。	㊦㊧回転ナデ ㊦㊧回転ヘラケズリ	㊦回転ナデ ㊦ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎	No.62 と セット。	

出土遺物一覧

SX2 出土遺物観察表 (土製品)

(2)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
64	坏蓋	口径 14.9 器高 4.9	口縁部と天井部を分ける境は、凹線状に窪む。天井部内面に同心円状のあて具痕。	㊦回転ヘラケズリ ㊧回転ナデ	㊦回転ナデ ㊧同心円のあて具痕	灰白色 灰白色	密 ◎	No.65とセット。	15
65	坏身	口径 12.1 器高 4.7	短く水平に伸びる受け部。たちあがりは、内傾する。底部内面に同心円状のあて具痕。	㊦回転ナデ ㊧回転ヘラケズリ	㊦回転ナデ ㊧同心円のあて具痕	灰白色 灰白色	密 ◎	No.64とセット。	15
66	坏蓋	口径 (14.0) 器高 4.2	口縁部と天井部を分ける境は、あまい稜をもつ。口縁端部内面は、内傾する面をもつ。	㊦回転ヘラケズリ ㊧回転ナデ	㊦回転ナデ ㊧ナデ	灰色 灰色	密 ◎	No.67とセット。	
67	坏身	口径 (12.4) 残高 4.2	短く水平に伸びる受け部。たちあがりは、内傾する。	㊦回転ナデ ㊧回転ヘラケズリ	㊦回転ナデ ㊧ナデ	灰色 灰色	密 ◎	No.66とセット。	
68	坏蓋	口径 (14.3) 残高 4.2	口縁部は、直立気味に接地し、口端部は、内傾する面をもち、凹線状に窪む。	㊦回転ヘラケズリ ㊧回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	No.69とセット。	
69	坏身	口径 12.8 器高 3.6	扁平な底部。底部内面に同心円状のあて具痕。	㊦回転ナデ ㊧回転ヘラケズリ	㊦回転ナデ ㊧同心円のあて具痕	灰色 灰色	長 (1~3) 密 ◎	No.68とセット。	
70	坏蓋	口径 14.5 器高 4.8	口縁部と天井部を分ける境は、段をもつ。口縁端部は、尖り気味に丸い。	㊦回転ヘラケズリ ㊧回転ナデ	㊦回転ナデ ㊧ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~3) 密 ◎		15
71	坏蓋	口径 (14.2) 残高 4.9	口縁部と天井部を分ける稜は、わずかに段をもつ。口縁端部内面は、内傾し窪む。	㊦回転ヘラケズリ ㊧回転ナデ	㊦回転ナデ ㊧ナデ	灰色 灰白色	長 (1~2) 密 ◎		
72	坏蓋	口径 (14.3) 残高 4.2	口縁部と天井部を分ける境は、あまい稜をもつ。口縁端部は丸い。	㊦回転ヘラケズリ ㊧回転ナデ	㊦回転ナデ ㊧ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~2) 密 ◎		
73	坏蓋	口径 (14.6) 残高 4.0	口縁部は、直立気味に接地し、端部は丸い。	㊦回転ヘラケズリ ㊧回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~2) 密 ◎		
74	坏蓋	口径 (14.8) 残高 4.3	丸い天井部。口縁部と天井部を分ける稜は、明確である。口縁端部内面は、内傾し窪む。	㊦回転ヘラケズリ ㊧回転ナデ	㊦回転ナデ ㊧ナデ	灰色 灰白色	密 ◎		
75	坏身	口径 12.4 器高 4.8	短く外上方に伸びる受け部。たちあがりは内傾する。底部内面に同心円状のあて具痕。焼け歪みあり。	㊦回転ナデ ㊧回転ヘラケズリ	㊦回転ナデ ㊧同心円のあて具痕	灰白色 灰白色	密 ◎		15
76	坏身	口径 (12.4) 残高 5.6	短く水平に伸びる受け部。たちあがりは、内傾する。	㊦回転ナデ ㊧回転ヘラケズリ	㊦回転ナデ ㊧ナデ	灰白色 灰白色	石・長 (1~2) 密 ◎		
77	坏身	口径 (12.6) 残高 4.7	短く水平に伸びる受け部。たちあがりは、内傾する。	㊦回転ナデ ㊧回転ヘラケズリ	㊦回転ナデ ㊧ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
78	坏身	口径 (13.3) 残高 5.0	短く水平に伸びる受け部。たちあがりは、内傾する。	㊦回転ナデ ㊧回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
79	坏身	口径 (13.4) 残高 3.9	短く水平に伸びる受け部。たちあがりは、内傾する。	㊦回転ナデ ㊧回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
80	甕	口径 20.2 器高 31.4	口縁部は外傾し、口縁端部内面は内傾する。胴部中央部で最大径を測る。底部に黒斑。	㊦ヨコナデ ㊧ハケ(6~7本/cm) ㊨ナデ	㊦ヨコナデ ナデ (一部ハケが残る)	明赤褐色 明褐色	石・長 (1~2) ◎	黒斑	15
81	甕	口径 19.6 器高 28.1	口縁部は外傾し僅かに内湾する。口縁端部は、内傾する面をもち窪む。黒斑あり。	㊦ヨコナデ ㊧ナデ→ハケ(6~7本/cm) ㊨マメツ	㊦ヨコナデ ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長 (1~3) ◎	金 黒斑	15
82	甕	口径 19.0 器高 31.4	口縁部は外傾し、僅かに内湾する。口縁端部は面をもつ。黒斑あり。	㊦ヨコナデ ㊧ハケ (6~7本/cm) ㊨マメツ	㊦ヨコナデ ナデ	橙色 にぶい赤褐色	石・長 (1~2) ◎	金 黒斑	15
83	甕	口径 (15.2) 残高 9.9	口縁部は外傾し僅かに内湾する。口縁端部は丸い。	㊦ヨコナデ ㊧ハケ(6~7本/cm)	㊦ヨコナデ ナデ (一部ハケが残る)	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長 (1~5) ◎	金	
84	甕	口径 (18.4) 残高 10.1	外傾する短い口縁部。	マメツ	㊦ヨコナデ ナデ	明赤褐色 明赤褐色	石・長 (1~5) ◎	金	
85	甕	口径 21.0 残高 7.1	口縁部は外傾し僅かに内湾する。	㊦ヨコナデ 細かいハケ	㊦ヨコナデ ナデ	赤褐色 赤褐色	石・長 (1~5) ◎	金	

南江戸上沖遺跡 1 次調査

SX2 出土遺物観察表 (土製品)

(3)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
86	壺	口径 (17.2) 残高 9.0	短く外傾する口縁部。口端面は丸い。 外面肩部に 2 本の線刻がある。	㊦ヨコナデ ㊧ハケ(6~7本/cm)	㊦ヨコナデ ナデ	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	石・長(1~2)金 ◎		15
87	壺	口径 (11.9) 残高 11.8	丸い胴部に外傾する口縁部。	一部ハケ(6~7本/cm) マメツ	ナデ マメツ	明赤褐色 橙色	石・長(1~3)金 ◎		
88	壺	残高 6.5	丸い底部。	マメツ	ハケ→ナデ	暗褐色 褐色	石・長(1~2)金 ◎		

表 10 P3・P4 地点出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
89	甕	口径 24.1 器高 26.0	外反する口縁端部は丸い。 ほぼ完形品。	㊦ナデ ㊧ハケ(6~7本/cm) ㊨ナデ	㊦ハケ(6本/cm) ㊨ナデ ㊩指頭痕→ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~2) ◎		16
90	甕	口径 (23.2) 胴部径 49.4 器高 48.2	外反する口縁部。口縁端部は、ナデ により拡張され、端面は窪む。自然 釉が付着。	㊦回転ナデ タタキ	㊦回転ナデ 同心円文	灰白色 灰色	石・長(1~3) ◎	自然釉	16

表 11 SK1 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
91	坏	底径 (7.0) 残高 1.0	底部の小片。	ナデ	ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	長(1) ◎		
92	土釜	残高 13.0	三足釜の脚部。端部は欠損。一部底 部の内面が残る。	ナデ	ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~2)金 ◎		
93	土鍋	口径 (37.6) 残高 3.4	短く外傾する口縁部。	ヨコナデ 工具によるナデ	ヨコナデ ナデ	黒褐色 にぶい橙色	石・長(1~4)金 ◎	煤付着	
94	碗	残高 1.5	短く外方向に屈曲する。口縁端部は 丸い。	施釉	施釉	施釉(半透明・ 灰オリーブ色)	密 ◎		

表 12 SK10 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
95	埴	口径 15.3 底径 6.8 器高 6.7	断面三角形の低い高台をもつ。体部 は、丸みをもつてたちあがる。	㊦ヨコナデ ㊧強いナデ→ミガキ ㊨ヨコナデ	ナデ→ミガキ	淡黄色 灰白色	石・長(1~2)金 ◎		16
96	埴	口径 15.3 底径 7.2 器高 6.2	断面三角形の低い高台をもつ。体部 は、丸みをもつてたちあがる。器壁 が厚い。	㊦ヨコナデ ㊧ケズリ ㊨ナデ	ミガキ(暗文)	灰白色 黒色	石・長(1~2) ◎	底部に 黒斑	16
97	土鍋	口径 (36.0) 残高 4.3	体部から口縁部にかけて、大きく直 線的に外反する。口縁端部は方形。	ナデ	ナデ(マメツ)	黒色 灰褐色	石・長(1~2) ◎		
98	土鍋	口径 (39.8) 残高 10.5	口縁部は大きく外反する。口縁端部 は丸みをもつ。	㊦ナデ・指おさえる ㊧粗いハケ目→ミガキ	板状工具によ る強いナデ (一部ハケ目)	暗灰色・褐灰色 灰褐色	石・長(1~3) ◎		
99	平瓦	残存長 16.2 残存幅 11.5 残存厚 2.9	小片。	(凸面) ケズリ→ナデ	(凹面) ケズリ→ナデ 細かい布目痕	(凸面) 灰白色 (凹面) 灰白色	石・長(1~3) 石粒(1~7) ◎		16
100	平瓦	残存長 16.8 残存幅 15.8 残存厚 2.3	小片。	(凸面) 細縄タタキ	(凹面) 布目痕	(凸面) にぶい黄褐色 (凹面) 橙色	密 石粒(1~3) ◎		16

出土遺物一覧

表 13 SK13 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
101	埴	底径 (4.9) 残高 0.9	瓦器埴。底部に断面三角形の高台を貼り付ける。	ナデ	ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
102	土釜	口径 (16.0) 残高 2.9	口縁部の下部に、断面三角形の罫を貼り付ける。	ナデ	ナデ	明赤褐色 橙色	石・長 (1~3) 金 ◎		
103	碗	口径 (14.9) 残高 2.5	陶磁器。口縁端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰オリーブ色 灰オリーブ色	密 ◎		

表 14 SK28 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
104	坏	口径 (10.0) 底径 6.6 器高 3.3	底部の切り離しは、回転糸切り。	ナデ	ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長 (1~2) ◎		17

表 15 SK16 (土墳墓) 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
105	坏	口径 9.8 底径 5.7 器高 2.9~3.5	ほぼ完形品。直立気味にたちあがる体部、口縁部は丸い。底部の切り離しは、静止糸切りである。	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	橙色 淡橙色	長 (1) ◎		17
106	坏	口径 10.2 底径 7.4 器高 3.6	ほぼ完形品。内湾気味にたちあがる体部、口縁部は丸い。底部の切り離しは、静止糸切りである。	ヨコナデ	回転ナデ	橙色 橙色	長 (1) ◎		17
107	碗	底径 4.9 残高 4.0	口縁端部が欠損。削り出し高台。内面に胎土目跡が3ヶ所に見られる。唐津焼。	ヨコナデ ケズリ	回転ナデ	施釉 施釉	密 ◎		17

表 16 SK18 (土墳墓) 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
108	坏	口径 10.0 底径 7.6 器高 2.7	底部の切り離しは、ヘラ切りか。ほぼ完形品。	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	長 (1~2) ◎		17
109	坏	口径 9.9 底径 7.4 器高 2.9	底部の切り離しは、ヘラ切りか。完形品。	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	長 (1~2) ◎		17
110	坏	口径 (10.0) 底径 (7.6) 器高 2.6	外傾する体部から口縁部。口縁端部は、先細りする。	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長 (1~2) ◎		

表 17 SK18 (土墳墓) 出土遺物観察表 (石製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
111	砥石			(8.9)	8.0	7.3	794.70	断面は六角柱状。	17

表 18 SK24 (土墳墓) 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
112	坏	口径 9.2 底径 7.4 器高 3.4	底部の切り離しは、ヘラ切りか。ほぼ完形品。	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	長 (1~2) ◎		17
113	坏	口径 9.3 底径 5.8 器高 3.3	底部の切り離しは、回転糸切りである。完形品。	ヨコナデ	ヨコナデ	橙色 橙色	石 (1~2) ◎		17

南江戸上沖遺跡 1 次調査

表 19 SK29 (土墳墓) 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
114	坏	口径 (10.7) 底径 7.6 器高 2.3	外面にナデによる凹凸が見られる。底部の切り離しは、回転糸切りである。	ヨコナデ 回転糸切り→ナデ	ヨコナデ	灰色 灰色	石・長 (1~2) 金 ◎		17

表 20 SK30 (土墳墓) 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
115	坏	口径 (9.6) 底径 (6.0) 器高 3.0	外傾する体部から口縁端部は丸い。底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長 (1~2) ◎		17
116	坏	口径 10.5 底径 6.4 器高 2.8	外面にナデによる段が見られる。底部は、切り離し後ナデ。ほぼ完形品。	ヨコナデ 回転糸切り→ナデ	ヨコナデ ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	長 (1) ◎		17

表 21 SK32 (土墳墓) 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
117	皿	口径 9.8 底径 5.9 器高 2.1	高台風の底部。内湾する体部から口縁部。口縁端部は尖り気味である。底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙色 灰褐色	細粒 ◎		
118	坏	口径 9.0 底径 5.8 器高 2.5	完形品。底部の切り離しは回転糸切り。板状圧痕。	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	長 (1) 細粒 ◎		18
119	坏	口径 9.8 底径 6.8 器高 2.8	完形品。底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	長 (1~2) ◎		18
120	坏	口径 9.2 底径 5.9 器高 2.6	完形品。底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	長 (1~2) ◎		18

表 22 SE6 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
121	皿	底径 (5.5) 残高 0.9	底部の切り離しは、回転糸切り。板状圧痕。底部の小片。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	長 (1) ◎		
122	皿	底径 (6.2) 残高 1.4	底部の切り離しは、回転糸切り。板状圧痕。底部の小片。	ヨコナデ	ヨコナデ	淡橙色 淡橙色	石・長 (1) ◎		
123	皿	底径 (8.4) 残高 0.7	底部の切り離しは、回転糸切り。底部の小片。	ヨコナデ	ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長 (1) ◎		

表 23 SE7 出土遺物観察表 (土製品)

(1)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
124	坏	口径 (8.1) 底径 5.0 器高 2.9	底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ	橙色 橙色	石・長 (1~3) ◎		18
125	坏	口径 (10.1) 底径 (5.7) 器高 2.6	底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 にぶい黄橙色	石・長 (1) ◎		
126	坏	口径 (12.1) 底径 (7.1) 器高 2.6	底部の切り離しは、回転糸切り。	マメツ	マメツ	浅黄橙色 橙色	石・長 (1) ◎		

出土遺物一覧

SE7 出土遺物観察表 (土製品)

(2)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
127	坏	口径 (11.7) 残高 3.0	外傾する体部から口縁部。器壁は薄い。小片。	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長 (1~2) ◎		
128	坏	口径 (10.3) 残高 2.1	口縁端部は先細りである。小片。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 浅黄橙色	石・長 (1~2) ◎		
129	坏	底径 (5.6) 残高 1.4	円盤高台。底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 にぶい黄橙色	長 (1) ◎		

表 24 SE9 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
130	甕	口径 40.6 器高 55.3	亀山焼。井戸杵として使用。底部を打ち欠いている。	ナデ ◎タタキ→ハケ (4本/cm) ◎タタキ	ハケ (4本/cm)	黒褐色 黒褐色	密 ◎		18
131	土釜	残高 11.7	三足付土釜の脚部。	ナデ		にぶい橙色 にぶい橙色	石・長 (1~2) ◎	煤付着	
132	埴瓶	残高 13.8	把手が付く。	カキ目	ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~3) ◎		

表 25 SE10 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
133	坏	口径 14.0 底径 8.5 器高 4.3	口縁端部は、先細りである。丸みをもつ底部。回転ヘラ切り後ナデ。	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色 浅黄橙色	石・長 (1~3) ◎		18
134	坏	口径 (14.0) 器高 3.5	丸みをもつ底部。内面底部に黒斑。	ナデ	ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長 (1) 金 ◎	黒斑	
135	埴	口径 (12.8) 残高 3.3	外傾しわずかに内湾する体部、口縁端部は丸い。外面体部は、凹凸がある。	ナデ 指頭痕	ナデ	褐灰色 灰白色	石・長 (1~3) 金 ◎	煤付着	
136	埴	口径 (15.7) 残高 2.9	外傾し内湾気味の体部。口縁部の器壁は薄い。口縁部の小片。	ナデ	ナデ	灰色 灰色	長 (1) ◎		

表 26 SE14 (SK14) 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
137	皿	底径 7.0 器高 1.4	底部の切り離しは、回転糸切り。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密・金 ◎		

表 27 SE15 (SK17) 出土遺物観察表 (土製品)

(1)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
138	坏	口径 (10.0) 底径 5.2 器高 3.7	体部下部は、強いナデにより稜をもつ。底部に工具による、強いナデがある。	回転ナデ	回転ナデ	橙色 橙色	石・長 (1~2) 金 ◎		18
139	坏	口径 (10.0) 底径 (7.6) 器高 3.3	外傾する体部から口縁端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	長 (1) ◎		



南江戸上沖遺跡 1 次調査

SE15 (SK17) 出土遺物観察表 (土製品)

(2)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
140	坏	口径 (9.4) 底径 (7.4) 器高 3.4	丸みをもつ底部。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰黄色	石・長 (1~2) ◎	煤付着	18
141	土釜	口径 (17.5) 残高 4.1	口縁端部外面に、断面三角形の鐶を貼り付ける。	ヨコナデ	ヨコナデ	橙色 橙色	石・長 (1~2) 金 ◎	煤付着	
142	甕	口径 (49.6) 残高 5.5	短く外反する口縁端部外面は、ナデにより窪む。亀山焼。	ハケ→ナデ	ヨコナデ	暗灰色 暗灰色	石・長 (1~3) ◎		
143	碗	口径 11.8 底径 5.0 器高 4.0	口縁部は花卉状。削り出し高台。底部は露胎。唐津焼か。	施釉	施釉	灰オリーブ色 灰白色	密 ◎		18
144	坏蓋	口径 (11.0) 器高 4.6	丸い天井部。天井部と口縁部を分ける稜は、断面三角形である。口縁端部は、内傾する面をもち窪む。	回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~5) 密 ◎		

表 28 SE15 (SK17) 出土遺物観察表 (石製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
145	砥石		流紋岩	(7.6)	7.4	2.9	218.03	断面長方形形状。使用痕が確認できる。	

表 29 SE15 (SK17) 出土遺物観察表 (鉄製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
146	鉄滓		鉄	13.0	11.0	6.8	1266.27	写真掲載	

表 30 SP2 (水琴窟) 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
147	甕	底径 (25.0) 残高 20.0	亀山焼。底部を打ち欠いて井戸枠として使用している。	タタキ	マメツ・ハクリ	暗青灰色 灰白色	石・長 (1~4) ◎		

表 31 SD5 出土遺物観察表 (金属製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
148	鉄滓		鉄	4.5	3.0	1.6	32.06	写真掲載	

表 32 SD6 出土遺物観察表 (土製品)

(1)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
149	皿	口径 8.4 底径 5.4 器高 1.6	底部はやや上げ底。底部に板状圧痕あり。	①・④ヨコナデ ◎回転糸切り痕	①・④ヨコナデ ◎ナデ	灰白色 灰白色	密・褐色粒 ◎		19
150	坏	口径 10.8 底径 6.6 器高 2.4	底部は、たちあがりをもち高台風。体部は、内湾気味。底部に板状圧痕あり。	①・④ヨコナデ (一部ハケ目) ◎回転糸切り痕	①・④ヨコナデ ◎ナデ	灰白色・橙色 灰白色・橙色	石・長 (1~2) 石粒 (5) ◎		19
151	坏	口径 11.6 底径 7.4 器高 2.4	体部は外反し、口縁部付近でやや上方にたちあがる。底部に板状圧痕あり。	①・④ヨコナデ ◎回転糸切り痕	①・④ヨコナデ ◎ナデ	浅黄橙色 淡黄色	石・長 (1~2) ◎		
152	坏	口径 115~122 底径 7.5 器高 21~28	体部は外反し、口縁端部は丸い。底部は薄手。かなり歪む。底部に板状圧痕あり。	①・④ヨコナデ ◎回転糸切り痕	①・④ヨコナデ ◎ナデ	灰白色 灰白色	石・長 (1) ◎		19

出土遺物一覧

SD6 出土遺物観察表 (土製品)

(2)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) 色調 (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
153	坏	口径 11.4 底径 6.0 器高 3.0	体部は、直線的に外反する。口縁端部は尖る。器壁は薄手。底部に板状痕あり。	①・④ヨコナデ ⑥回転糸切り痕	①・④ヨコナデ ⑥ナデ	灰白色 灰白色	石・長 (1~4) ◎		
154	坏	口径 (11.7) 底径 (5.8) 器高 2.7	体部は内湾し、口縁端部は尖り気味である。底部に板状圧痕あり。	①・④ヨコナデ ⑥回転糸切り痕	①・④ヨコナデ ⑥ナデ	橙色 橙色	金 ◎		
155	坏	底径 7.0 残高 1.0	底部は上げ底で、板状圧痕がある。体部上部は、器壁が薄い。	マメツ ⑥糸切り痕	マメツ	にぶい橙色 灰白色	長 (1~4) ◎		
156	坏	口径 (10.4) 底径 (5.4) 器高 2.9	内湾する体部から口縁部。口縁端部は先細りである。	①・④ヨコナデ ⑥糸切り痕	①・④ヨコナデ ⑥ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	長 (1) ◎		
157	坏	口径 (10.8) 底径 6.0 器高 2.7	内湾する体部から口縁部、口縁端部は丸い。	①・④ヨコナデ ⑥糸切り痕	①・④ヨコナデ ⑥ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	密・金 ◎		
158	坏	口径 (11.6) 底径 7.1 器高 2.7	内湾する体部から口縁部。口縁端部は尖り気味である。	工具によるナデ ヨコナデ ヘラ切痕	工具によるナデ ヨコナデ	灰色 灰色	細粒 ◎		
159	坏	口径 (11.1) 底径 (6.4) 器高 2.9	内湾する体部から口縁部。口縁端部は丸い。	①・④ヨコナデ ⑥糸切り痕	①・④ヨコナデ ⑥ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	◎		
160	坏	口径 (11.6) 底径 (6.2) 器高 2.6	内湾する体部から口縁部。口縁端部は、尖り気味である。	①・④ヨコナデ ⑥糸切り痕	①・④ヨコナデ ⑥ナデ	灰白色 黄灰色	長 (1) ◎		
161	坏	口径 (13.0) 底径 (7.4) 器高 2.5	内湾する体部から口縁部。体部外面に、ナデにより稜が見られる。	①・④ヨコナデ ⑥糸切り痕	①・④ヨコナデ ⑥ナデ		細粒 ◎		
162	坏	口径 (10.7) 底径 (6.0) 器高 2.3	体部外面に、ナデによる稜が見られる。口縁端部は、尖り気味である。	①・④ヨコナデ ⑥糸切り痕	①・④ヨコナデ ⑥ナデ	灰黄褐色 灰色	金 ◎		
163	坏	口径 (10.4) 底径 (5.4) 器高 2.7	体部外面に、ナデによる稜が見られる。口縁端部は尖り気味である。	①・④ヨコナデ ⑥糸切り痕	①・④ヨコナデ ⑥ナデ	灰白色 灰白色	金 ◎		
164	坏	口径 (10.9) 底径 (5.5) 器高 3.0	直線的に伸びる体部。口縁部は、尖り気味である。	①・④ヨコナデ ⑥糸切り痕	①・④ヨコナデ ⑥ナデ	灰黄色 黄灰色	金 ◎		
165	坏	口径 (11.3) 底径 5.5 器高 3.3	体部外面に、ナデによる稜が見られる。口縁端部は、尖り気味である。	①・④ヨコナデ ⑥糸切り痕	①・④ヨコナデ ⑥工具によるナデ	灰白色 淡黄橙色	砂粒 ◎		
166	坏	口径 (11.4) 底径 (5.4) 器高 4.8	内湾する体部から口縁部。口縁部の器壁は薄い。	①・④ヨコナデ ⑥糸切り痕	①・④ヨコナデ ⑥工具によるナデ	灰白色 灰白色	金 ◎		
167	坏	口径 11.3 底径 5.6 器高 3.2	外面に強いナデによる、稜が見られる。内面に轆轤目が残る。底部にわずかに板状痕。	①・④ヨコナデ ⑥回転糸切り痕	①・④ヨコナデ ⑥ナデ	灰白色 灰白色	石・長 (1~2) ◎		19
168	土釜	口径 (22.8) 残高 6.8	口縁部外面下部に、断面三角形の鑊を貼り付ける。	ナデ	ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~2) ◎	煤付着	
169	土釜	口径 (22.7) 残高 3.1	口縁部外面下部に、断面三角形の鑊を貼り付ける。	ナデ	ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~2) ◎		
170	土釜	口径 (18.6) 底径 (22.2) 残高 18.2	口縁部外面下部に、断面三角形の鑊を貼り付ける。	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長 (1~2) ◎	煤付着	19
171	土釜	残高 9.5	三足付土釜の脚部。底部の内面が残る。	ナデ		にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長 (1~2) 金 ◎	煤付着	
172	土釜	残高 9.6	三足付土釜の脚部。底部の内面が残る。	ナデ		にぶい褐色 にぶい褐色	石・長 (1~4) ◎	煤付着	
173	土釜	残高 13.3	三足付土釜の脚部。	ナデ		にぶい橙色	石・長 (1~2) ◎		
174	土鍋	口径 (43.8) 残高 14.7	短く外傾する口縁部。口縁端部は、面をもちナデにより窪む。	ヨコナデ	ハケ (8本/cm)	黒色 にぶい橙色	長 (1~2) ◎	煤付着	

南江戸上沖遺跡 1 次調査

SD6 出土遺物観察表 (土製品)

(3)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
175	土鍋	口径 (43.6) 残高 6.3	口縁端面は、ナデにより窪む。口縁部内面は、ナデにより大きく窪む。淡い黒斑。	ヨコナデ	ヨコナデ 工具によるナデ	明黄褐色 明黄褐色	石・長 (1~2) 金 ◎	黒斑	
176	播鉢	口径 (28.4) 残高 8.6	内面に 6 本の櫛目。口縁端部は、内傾する。備前焼。	回転ナデ	回転ナデ	明赤褐色・橙色 赤褐色	長 (1~3) ◎		
177	播鉢	残高 7.0	口縁端部は、外傾する面をもつ。内面に 5 本の櫛目。備前焼。	回転ナデ	回転ナデ	暗褐色 暗褐色	長 (1~2) ◎		
178	碗	口径 (15.0) 残高 3.8	内湾する体部の口縁部は、僅かに外反する。口縁端部は丸い。青磁。	施釉	施釉	灰白色 灰白色 釉 (淡緑色透明)	密 ◎		19
179	円盤状 土製品	長さ 6.0 幅 7.0 厚さ 0.5	土器の再利用。円盤状に打ち欠いて いる。重さ 32.82g	マメツ	マメツ	黒褐色 暗褐色	長 (1~2) 金 ◎		19

表 33 SD6 出土遺物観察表 (石製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
180	不明	約 1/2		15.8	(10.0)	2.8	547.16	全面に煤が付着している。	19

表 34 SD6 出土遺物観察表 (金属製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
181	鉄滓		鉄	6.8	5.0	2.0	92.71	写真掲載	

表 35 SD8 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
182	坏	底径 5.1 残高 2.3	上げ底の底部。底部の切り離しは、 静止糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	長 (1~2) 金 ◎		
183	坏	底径 (7.0) 残高 2.7	体部外面は、ナデにより稜をもつ。 ヘラ切り痕。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	長 (1~2) ◎		
184	羽釜	鐙径 (25.6) 残高 3.3	水平に短く伸びる鐙部。口縁部は、 内湾する。	ナデ	ナデ 指頭痕	褐灰色 灰褐色	長 (1~2) ◎	煤付着	
185	土鍋	口径 (29.5) 残高 3.0	短く外反する口縁部に、円孔が施さ れている。16 世紀末。	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ	黒褐色 褐灰色	◎	煤付着	
186	土鍋	口径 (34.5) 残高 7.3	口縁部は短く外反し、口縁部は内側 に拡張され、円孔が 2 個残る。	ナデ ハケ (5 本/cm)	ナデ	にぶい赤褐色 にぶい橙色	金 ◎	煤付着	
187	播鉢	口径 (29.3) 残高 6.8	口縁端部は短く上方に伸び、外面に 2 条の凹線が巡る。内面に櫛目が施 される。備前焼。江戸時代。	強いヨコナデ	ヨコナデ	にぶい赤褐色 にぶい褐色	密 ◎		
188	碗	口径 (9.8) 底径 3.8 器高 3.5	内湾する体部に口縁部は、わずかに 外反する。口縁端部は丸い。底部は 削り出し高台。肥前焼。近世。	施釉	施釉	にぶい褐色 オリーブ灰色	密 ◎		19
189	碗	口径 (15.8) 残高 3.5	口縁部片。口縁端部は丸い。全面に 釉薬がかかる。青磁碗。	施釉	施釉	オリーブ灰色 オリーブ灰色	密 ◎		19
190	羽口	径 (9.5) 長さ (6.8)	籬の羽口の小片。全体に熱を受けて 変色している、特に先端部は熱で溶 けている。	熱を受け不明	熱を受け不明	灰白色 橙色	長 (1~3) ◎		19

表 36 SD8 出土遺物観察表 (金属製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
191	鉄滓		鉄	4.0	3.0	2.8	45.93	写真掲載	

出土遺物一覧

表 37 SD9 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
192	皿	口径 (8.6) 底径 (6.4) 器高 2.0	口縁端部は、尖り気味である。底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ→ナデ	灰白色 浅黄橙色	石・長 (1) ◎		
193	坏	口径 (10.6) 底径 (7.4) 器高 3.4	体部から口縁部は内湾し、口縁端部は丸い。器壁は薄い。	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ	にぶい橙色 浅黄橙色	長 (1) 金 ◎		
194	坏	底径 7.2 残高 1.8	外面にナデによる稜がある。底部の切り離しは、回転ヘラ切り。	ヨコナデ 強いナデ	ヨコナデ	浅黄橙色 にぶい橙色	長 (1) ◎		
195	坏	底径 5.0 残高 2.1	底部は歪みが激しい。底部の切り離しは、回転糸切りか。	ヨコナデ	ヨコナデ ◎轆轤目が残る	浅黄橙色 にぶい橙色	長 (1~2) 金 ◎		
196	碗	底径 6.5 残高 3.0	内黒土器碗。高台は、断面三角形である。内面に暗文が見られる。12世紀。	ヨコナデ ナデ	ミガキ 暗文	淡黄色・明黄褐色 黒褐色	石・長 (1~2) ◎		
197	羽釜	鑿径 (28.0) 残高 10.4	短く水平に伸びる鑿部。鑿下部から底部に煤付着。	ヨコナデ→ナデ ハケ (5~6本/cm)	ハケ (5~6本/cm) ナデ	にぶい橙色 明褐色	石・長 (1~3) ◎	煤付着	
198	土釜	口径 (29.0) 残高 4.7	口縁端部外面に、断面三角形の鑿を貼り付ける。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄褐色	石・長 (1~2) 金 ◎	煤付着	
199	土釜	残高 6.1	三足付土釜の脚部。底部の内面が残る。	ナデ	ナデ	明褐色 にぶい黄褐色	石・長 (1~2) ◎	煤付着	
200	風炉	口径 (28.0) 残高 5.0	口縁部は短く直立し、ナデにより内側に拡張され、口縁端面は水平でナデ窪む。外面には、タテ方向のハケ目。16世紀。	ハケ (5本/cm) ヨコナデ	ヨコナデ ハケ (5本/cm)	オリーブ黒色 オリーブ黒色	石 (1) ◎		
201	瓶	底径 (11.4) 残高 4.1	備前焼。内面に轆轤目が顕著に残る。	回転ナデ 工具による強い ナデ (ケズリ風)	回転ナデ	褐灰色 黒褐色	長 (1~2) ◎		
202	瓶	底径 (9.0) 残高 7.0	備前焼。内面に轆轤目が顕著に残る。外面に釉薬が一部見られる。	回転ナデ 工具による強い ナデ (ケズリ風)	回転ナデ	暗紫灰色 暗青灰色	長 (1) ◎		
203	皿	底径 (5.2) 残高 2.2	見込みに目跡の部分の削り取っている。白磁器。	施釉 回転ナデ (底部に は釉が効かない)	施釉	灰色 灰白色	密 ◎		19
204	碗	底径 (6.4) 残高 2.7	龍泉窯系青磁器。見込みに印花文あり。	施釉	施釉	乳白色 乳白色	密 ◎		19
205	瓦	残存長 6.1 残存幅 7.0 厚さ 1.9	平瓦の小片。	細縄目痕	布目痕	凹面: 灰白色 凸面: 灰色	長 (1) 密 ◎		

表 38 SD9 出土遺物観察表 (金属製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
206	釘		鉄	(4.0)	0.5	0.25	1.38		
207	鉄滓		鉄	3.5	3.5	2.8	24.45	写真掲載	

表 39 SD10 出土遺物観察表 (土製品)

(1)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
208	皿	口径 (8.0) 底径 (5.0) 器高 1.8	底部の切り離しは、回転糸切り。体部下部に、ヘラ状工具による刻み目がある。	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	浅黄橙色 浅黄褐色	長 (1) ◎		
209	坏	口径 (11.0) 底径 (7.8) 器高 3.0	口縁端部は丸い。	ヨコナデ	ヨコナデ	淡橙色 橙色	長 (1) ◎		
210	坏	口径 (11.6) 底径 (8.1) 器高 2.9	内湾する体部から口縁部。底部の切り離しは、回転糸切りか。	ヨコナデ	マメツ	淡黄色 淡黄色	長 (1) ◎		

南江戸上沖遺跡 1 次調査

SD10 出土遺物観察表 (土製品)

(2)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
211	坏	口径 (9.3) 底径 5.3 器高 4.2	直線的にたちあがる体部。底部の切り離しは、回転糸切り。内面に轆轤目が残る。	ヨコナデ 工具によるナデ	ヨコナデ	にぶい橙色 浅黄橙色	長 (1) ◎		
212	坏	口径 (10.4) 底径 (6.2) 器高 3.5	内湾気味の体部から口縁部。底部の切り離しは、回転ヘラ切り。内面に轆轤目が残る。	ヨコナデ 工具痕	ヨコナデ	橙色 淡橙色	長 (1) ◎		
213	坏	口径 (8.8) 残高 3.5	外傾する体部に口縁部は短く内湾し、端部は丸い。	ヨコナデ	ヨコナデ	橙色 橙色	長 (1) ◎		
214	土釜	口径 (25.4) 残高 3.7	口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長 (1~2) 金 ◎		
215	土釜	口径 (23.8) 残高 2.0	口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長 (1) 金 ◎		
216	土釜	口径 (22.2) 残高 4.3	口縁端部外面の下部に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	石・長 (1~2) 金 ◎		
217	土釜	残高 6.7	三足付土釜の脚部。	ナデ		にぶい褐色	石・長 (1~2) 金 ◎		
218	土釜	残高 12.9	三足付土釜の脚部。	ナデ		にぶい褐色	石・長 (1~2) 金 ◎		
219	鉢	残高 8.1	片口の鉢。口縁部外面に 3 条の凹線がある。内外面に自然釉。備前焼。	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色 暗赤褐色	密 ◎	自然釉	
220	碗	口径 (13.9) 残高 4.1	天目茶碗。口縁端部は屈曲する。瀬戸焼。	施釉	施釉	橙色 黒褐色	密 ◎		19
221	埴	底径 (5.4) 残高 2.8	須恵器の取手付き埴の底部片。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 暗灰黄色	長 (1~2) ◎		

表 40 SD11 出土遺物観察表 (土製品)

(1)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
222	皿	口径 (9.2) 底径 (6.2) 器高 2.1	短く外傾する体部。口縁端部は丸い。	ヨコナデ	ヨコナデ	暗灰黄色 灰黄色	長 (1~2) ◎		
223	坏	口径 (9.7) 底径 (7.4) 器高 3.2	直線的にたちあがる体部。口縁端部は丸い。	ヨコナデ	ヨコナデ	橙色・にぶい 橙色・淡橙色	長 (1) ◎		
224	坏	口径 (12.9) 底径 (9.0) 器高 2.8	内湾する体部から口縁部。口縁端部は、尖り気味である。	ヨコナデ	ヨコナデ	橙色 橙色	長 (1) ◎		
225	坏	底径 (8.0) 残高 1.2	底部の切り離しは、回転糸切り。板状圧痕。内面に轆轤目が残る。	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	密 ◎		
226	火鉢	口径 (14.2) 底径 (9.0) 器高 4.6	短い三足の脚。体部外面に、工具による刻み目を巡らす。	ナデ 回転糸切り	ヨコナデ ナデ	淡橙色 にぶい橙色	長 (1) ◎		19
227	土釜	口径 (19.0) 残高 2.7	口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長 (1) 金 ◎		
228	土釜	口径 (24.6) 残高 2.9	口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	ヨコナデ	ヨコナデ ハケ (6~7本/cm)	にぶい橙色 にぶい黄橙色	石・長 (1~2) ◎		
229	土釜	残高 9.1	三足付土釜の脚部。	ナデ		灰褐色	石・長 (1) 金 ◎		
230	土鍋	口径 (27.2) 残高 1.5	口縁部は、短く水平に伸び、内側に拡張され、径 1cm の円孔を穿つ。	ヨコナデ	ナデ	黒褐色 褐灰色	長 (1) 密 ◎	煤附着	

出土遺物一覧

SD11 出土遺物観察表 (土製品)

(2)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
231	坏	口径 (14.2) 底径 (9.0) 器高 4.6	内湾する口縁部から体部。口縁端部は、先細りで丸い。削り出し高台が付く。唐津焼。	施釉 回転ヘラケズリ 回転ナデ	施釉	灰オリーブ色 灰オリーブ色	密 ◎		

表 41 SD11 出土遺物観察表 (金属製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
232	釘		鉄	(3.2)	0.6	0.55	2.13		
233	矢先	先端と茎欠損	鉄	(3.9)	0.6~1.05	0.5~0.9	4.38		
234	刀子		鉄	(3.5)	1.8	0.3	2.40		

表 42 SD12 出土遺物観察表 (金属製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
235	釘		鉄	(2.5)	0.4~0.51	0.3~0.5	1.27		

表 43 SD13 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
236	皿	底径 (6.1) 残高 1.1	底部の小片。底部の切り離しは、回転糸切り。	マメツ	マメツ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	長 (1) 密 ◎		
237	土釜	口径 (17.4) 残高 5.3	口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	マメツ	ハクリ	にぶい橙色 灰白色	長 (1~3) ◎		
238	土釜	口径 (16.3) 残高 2.9	口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	マメツ	マメツ	明赤褐色 にぶい赤褐色	長 (1~2) ◎		
239	土釜	残高 11.0	三足付土釜の脚部。	ナデ		明赤褐色	長 (1~2) ◎	煤付着	
240	播鉢	口径 (29.9) 残高 5.8	口縁端部は短く直立し、外面にナデによる凹線が見られる。内面に8本の櫛目を施す。	ヨコナデ	ヨコナデ	明赤褐色 赤褐色	密 ◎		

表 44 SD13 出土遺物観察表 (金属製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
241	鉄滓		鉄	3.5	3.2	2.3	41.83	写真掲載	

表 45 SD14 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
242	皿	口径 (7.9) 底径 (5.8) 器高 1.6	外反する体部から口縁部。口縁端部は、尖り気味である。底部の切り離しは、ヘラ切りか。	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	密 ◎		
243	碗	底径 (5.0) 残高 1.1	輪高台を貼り付ける。	ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
244	土釜	口径 (21.4) 残高 6.9	口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	ナデ	ナデ	にぶい橙色 にぶい黄橙色	長 (1~3) ◎		
245	土釜	残高 16.3	三足付土釜の脚部。	ナデ		にぶい橙色	長 (1~3) ◎		
246	土釜	残高 9.5	三足付土釜の脚部。	マメツ		にぶい褐色	長 (1~2) 金 ◎		
247	広口壺	残高 7.3	口縁端部は、「U」字状に短く折り曲げられ、口縁端部は上下に拡張される。常滑焼。		ヨコナデ	にぶい赤褐色 黒褐色	密 ◎		19

南江戸上沖遺跡 1次調査

表 46 SD14 出土遺物観察表 (石製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
248	砥石	ほぼ完形	石英粗面岩	10.4	5.3~5.9	2.0~2.7	248.90		

表 47 SD14 出土遺物観察表 (金属製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				径 (cm)	孔寸 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
249	古銭「景德元寶」	完形	銅	2.4	0.6	0.13	3.09	北宋(1004年)	

表 48 SD15 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
250	坏	口径 (11.0) 底径 (5.7) 器高 3.5	口縁部は外反し、端部は尖り気味である。内外面にナデによる、段が見られる。	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長 (1~2) ◎		
251	坏	底径 (7.0) 残高 1.5	上げ底。底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長 (1~2) ◎		

表 49 SD16 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
252	皿	口径 (8.4) 器高 1.6	内湾する体部から口縁部。口縁端部は、先細りである。	ナデ	ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長 (1~2) ◎		

表 50 SD17 出土遺物観察表 (金属製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
253	釘		鉄	(3.9)	1.4	1.0	8.83		

表 51 SD22 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
254	土釜	口径 (22.5) 残高 4.2	口縁端部に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	ナデ	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長 (1~2) ◎		

表 52 SP556 出土遺物観察表 (金属製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				径 (cm)	孔寸 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
255	古銭「皇宋通寶」	ほぼ完形	銅	2.4	0.9	0.10	2.00	北宋(1004年)	
256	古銭「皇宋通寶」	完形	銅	2.4	0.7	0.10	1.10		
257	古銭「洪武通寶」	完形	銅	2.2	0.5	0.19	3.60	(1368年以降)	
258	古銭「開元通寶」	完形	銅	2.4	0.7	0.10	2.87	武徳4年(621年)に初鑄	

出土遺物一覧

表 53 SP681 出土遺物観察表 (金属製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				径 (cm)	孔寸 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
259	古銭「皇宋通寶」	ほぼ完形	銅	2.4	0.7	0.11	1.84	北宋(1004年)	
260	古銭「皇宋通寶」	2/3	銅	2.4	0.6	0.12	1.50		
261	古銭「元豊通寶」	完形	銅	2.5	0.6	0.12	2.37	北宋元豊年間 (1078年~1085年)鑄造	
262	古銭「天禧通寶」	完形	銅	2.4	0.6	0.13	2.75	北宋・天禧年間 (1017年~1021年)	
263	古銭「祥符元寶」	完形	銅	2.5	0.6	0.13	2.71	北宋(1008年~)	

表 54 SP 出土遺物観察表 (金属製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ・径 (cm)	幅・孔寸 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
264	古銭「治平元寶」	完形	銅	2.4	0.6	0.13	2.91	SP1052 北宋(1064年~)	
265	刀子		鉄	(2.9)	1.1	0.3	1.93	SP615	
266	刀子		鉄	(22.3)	2.2	0.6	38.49	SP1168	
267	釘		鉄	(4.2)	0.6	0.4~0.6	2.53	SP845	
268	釘		鉄	(5.0)	0.3~0.6	0.4~0.6	2.81	SP740	
269	釘	完形	鉄	(4.4)	0.4	0.6	7.94	SP521	
270	鏝	ほぼ完形	鉄	8.5	1.8	0.4	14.16	SP701	
271	鉄滓		鉄	5.0	3.5	2.2	53.49	SP142 写真掲載	
272	鉄滓		鉄	3.0	3.0	1.4	17.18	SP2020 写真掲載	
273	鉄滓		鉄	5.5	4.0	2.5	51.32	SP1126 写真掲載	
274	鉄滓		鉄	7.2	5.0	2.2	106.61		
275	鉄滓		鉄	6.5	6.0	2.6	74.09		
276	鉄塊		鉄	2.9	1.8	1.4	9.14	SP174	
277	鉄塊		鉄	6.5	3.5	2.2	72.12	SP378 写真掲載	
278	不明		鉄	(7.1)	2.1	0.4	11.34	SP722	
279	不明		鉄	5.5	6.0	2.0	95.47	SP621 写真掲載	

表 55 グリッド出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
280	坏	口径 (9.9) 底径 (7.3) 器高 2.9	直線的にたちあがる体部。口縁端部は、尖り気味である。底部の切り離しは、静止糸切り後ナデ。	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	長 (1) ◎		
281	坏	口径 (9.6) 底径 (6.1) 器高 4.1	直線的にたちあがる体部から口縁部。口縁端部は丸い。底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	長 (1~2) ◎		



南江戸上沖遺跡 1 次調査

表 56 グリッド出土遺物観察表 (金属製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				径 (cm)	孔寸 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
282	古銭「熙寧元寶」	ほぼ完形	銅	2.30	0.65	1.10	1.91	北宋(1068年~1077年)	

表 57 SK7 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
283	皿	底径 (18.9) 残高 2.3	陶磁器の染付。畳付は砂目あり。呉須。型打ち成形。	施釉	施釉	透明 (釉)	密 ◎		
284	火鉢	口径 (17.1) 底径 (15.9) 器高 3.1	水平な底部。短く「ハ」の字状に開く口縁端部は丸い。瓦質土器。	ナデ	ナデ	灰色 灰色	長 (1) ◎		

表 58 SK4 (土墳墓) 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
285	坏	口径 (11.6) 底径 (6.5) 器高 3.2	内湾する体部から口縁部。口縁端部は丸い。	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	長 (1) ◎		
286	土鍋	底部 (27.4) 残高 3.6	短く外反する口縁部。口縁端部は丸い。	ナデ	ナデ	灰黄褐色 灰黄褐色	長 (1~2) ◎		
287	碗	底部 (13.2) 残高 5.7	内湾する体部から口縁部。口縁端部は、尖り気味である。	施釉	施釉	透明 (釉)	密 ◎		

表 59 SK5 (土墳墓) 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
288	壺	口径 (13.0) 残高 5.2	口縁部は短く外反し、内側に屈曲する。	ヨコナデ (施釉)	ヨコナデ (施釉)	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	密 ◎		
289	碗	底径 (4.6) 残高 1.3	削り出し高台。露胎で一部釉が垂れる。	施釉 (半透明)	施釉 (半透明)	明オリーブ灰色 明オリーブ灰色	密 ◎		
290	碗	底径 (3.5) 残高 2.2	削り出し高台。露胎。	施釉	施釉	灰白色 (釉)	密 ◎		

表 60 SK6 (土墳墓) 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
291	焙烙鍋	口径 (34.3) 残高 3.1	短く外方向に伸びる口縁部。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄橙色	石・長 (1~2) ◎		
292	碗	底径 (4.7) 残高 1.6	高台部。畳付は露胎。瀬戸焼の灰釉陶器。	ヨコナデ	ヨコナデ	淡黄色 (半透明) 淡黄色 (半透明)	密 ◎		
293	碗	底径 (3.0) 残高 1.6	陶磁器の染付。畳付には釉がかからない。呉須。	施釉	施釉	透明 (釉) 透明 (釉)	密 ◎		

出土遺物一覧

表 61 SK8 (土墳墓) 出土遺物観察表 (石製品・ガラス製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
294	ロウ石	完形	ロウ石	4.1	0.6	5.1	2.50	筆記用具。鉛筆の芯状に先端が尖っている。	
295	おはじき	完形	ガラス	径5.1		0.8	31.46	中央部が窪み6点の型押し模様がある。緑色。	

表 62 SK8 (土墳墓) 出土遺物観察表 (金属製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
296	釘		鉄	(3.1)	0.8	0.4	1.80		
297	釘		鉄	(3.3)	0.4	0.4	1.17		
298	不明		銅	2.4	1.1	0.5	0.90		19

表 63 SE4 (SE 2 0 7) 出土遺物観察表 (土製品)

実測番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
299	土釜	口径 (5.0) 残高 0.9	口縁部の外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長 (1~2) ◎	煤付着	
300	土釜	残高 7.9	三足付土釜の脚部。	ナデ		にぶい黄橙色	石・長 (1~2) 金 ◎	煤付着	
301	土釜	残高 6.2	三足付土釜の脚部。	ナデ		にぶい黄褐色	石・長 (1~2) 金 ◎		

表 64 SE5 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
302	坏	残高 2.1	口縁部の小片。	ナデ	ナデ	灰色 灰色	石・長 (1) ◎		
303	坏	底径 (8.6) 残高 4.5	底部の小片。	ナデ	ナデ	淡黄色 淡黄色	石・長 (1) ◎		
304	土釜	残高 4.9	断面三角形の鏝を貼り付ける。	ナデ	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長 (1~2) 金 ◎		
305	土釜	残高 13.3	三足付土釜の脚部。	ナデ		にぶい橙色	石・長 (1~2) ◎	煤付着	

表 65 SE11 (SK2) 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	玉縁長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)		
306	丸瓦	完形	土製品	26.5	3.0	13.2	1.6	近世	

南江戸上沖遺跡 1 次調査

表 66 SE11 (SK2) 出土遺物観察表 (石製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
307	石臼(下臼)	約1/4	砂岩	(13.0)	(12.5)	5.1	1043.48		

表 67 SE12 (SK3) 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
308	坏	底径 (8.0) 残高 1.0	底部の小片。	マメツ	ヨコナデ	にぶい橙色 灰白色	長 (1) ○		
309	長頸壺	残高 8.9	頸部から胴部の残存。	ハケ	ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長 (1~3) 金 ◎		

表 68 SE12 (SK3) 出土遺物観察表 (石製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
310	カマド石			12.2	7.7	10.0	1720.15	煤付着	

表 69 SE13 (SK9) 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
311	燈明皿	口径 6.7 底径 4.4 器高 5.2	底部に回転糸切り痕。	施釉 (一部かき取り)	施釉	灰白色 灰白色 (不透明)	密 ◎		

表 70 SE13 (SK9) 出土遺物観察表 (金属製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
312	焼夷弾		鉄	(38.5)	8.5	7.1	1231.14	写真掲載	

表 71 SP8 出土遺物観察表 (装飾品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	径 (cm)	孔径 (cm)	重さ (g)		
313	小玉	完形	ガラス	0.4	0.6	0.15	0.19	青緑色	

表 72 カクラン 36 出土遺物観察表 (金属製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				径 (cm)	孔寸 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
314	古銭「天聖元寶」	完形	銅	2.5	0.7	0.12	3.08	北宋・天聖元年 (1023年)	

表 73 カクラン 48 出土遺物観察表 (金属製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
315	煙管		銅	(8.0)	1.5	0.5	16.40	写真掲載	

# 第3章 南江戸上沖遺跡2次調査

## 第1節 調査の経過と組織

### 1. 調査の経過 (第99・100図)

調査では、調査区を1区～5区に分け、まず1区の調査を行い、つづいて2区、5区、3区、4区の順に調査を併行して行った。以下、調査工程を略記する。

2月1日(月)：屋外調査を開始する。1区重機にて建物基礎撤去を開始する。

2月4日(木)：1区重機にて表土掘削を開始する。

2月10日(水)：遺構検出状況の写真撮影を行う。2区の建物基礎の撤去を重機にて開始する。

2月12日(金)：1区遺構掘削作業。2区東側から重機による表土掘削を開始する。

2月22日(月)：2区の掘削を終了し遺構検出作業の開始。3区の基礎撤去を開始する。

2月25日(木)：1区遺構完掘状況の写真撮影を高所作業車を使用して行う。

3月2日(水)：2区遺構検出状況の写真撮影を高所作業車を使用して行う。遺構配置図の作成。

3月18日(金)：2区遺構掘削作業。3区重機を使用して表土掘削を開始する。

3月31日(木)：2区SK・SE・SD掘削及び測量作業。3区重機による掘削終了。

4月11日(月)：2区遺構掘り下げ・測量・写真を行う。3区全面精査。5区建物基礎を重機にて撤去作業。

4月12日(火)：2区遺構掘り下げ・測量・写真を行う。3区遺構検出状況の写真撮影を行う。5区の基礎を撤去。

4月13日(水)：2区遺構掘り下げ・測量・写真撮影を行う。3区遺構の掘り下げ。5区重機を使用して表土掘削を行う。

4月15日(金)：2区SE213写真撮影。3区遺構掘り下げ、遺構配置図の作成を行う。5区遺構検出状況の写真撮影と遺構配置図の作成を行う。その後掘り下げ作業を行う。

4月22日(金)：2区SE216測量・写真。3区SP3276出土銅銭15枚の出土状況写真撮影と測量を行う。5区遺構完掘状況の写真撮影と遺構測量を行う。

4月28日(木)：4区(事務所下)掘削のため事務所の移動。

5月2日(月)：2区の遺構測量作業。3区の遺構掘削を行う。5区は重機を使用して埋め戻し作業を行う。

5月9日(月)：4区の表土掘削作業を重機を使用して開始する。

5月10日(火)：4区の掘削した土を1区に移動し埋め戻し作業を開始する。

5月13日(金)：1区の埋め戻し終了。3区SP3276銅銭26枚まで増える。

5月18日(水)：3区土壙墓の人骨調査(土井ヶ浜ミュージアム松井先生)を行う。

5月19日(木)：松井先生による人骨の調査と取り上げ引き取り作業を行う。

5月20日(金)：松井先生の人骨調査取り上げ引き取り作業を行う。

5月23日(月)：3区SK309・311の測量を行う。4区遺構検出状況の写真撮影、遺構配置図の作成を行う。

## 南江戸上沖遺跡 2次調査

- 6月2日(木)：2・3区の遺構完掘状況の写真撮影を高所作業車を使用して行い、その後遺構測量作業と4区の遺構掘り下げ作業を行う。
- 6月13日(月)：2・3区の遺構図測量が終了し埋め戻しを開始する。4区遺構測量作業を行う。
- 6月15日(水)：4区の遺構完掘状況の写真撮影を高所作業車を使用して行う。重機を使用して2・3・4区の埋め戻しを開始する。
- 6月23日(木)：事務所撤去。調査道具のかたづけ。
- 6月29日(水)：発掘機材の返却。
- 7月5日(火)：埋め戻し作業は本日で終了する。(雨天日には作業を中止)現地引き渡し。

## 2. 調査組織

公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団

	理事長	中山 紘治郎
事務局	局長	中西 真也
	次長兼総務部長	橋 昭司
	文化振興部部長	梶原 信之
埋蔵文化財センター	考古館館長兼所長	村上 卓也
	主査	梅木 謙一 (調査・研究)
	主任	高尾 和長 (調査担当)

## 第2節 調査の成果

### 1. 層位

基本層位は8層に分類できる。

第Ⅰ層：造成土

第Ⅱ層：耕作土1

第Ⅲ層：床土

第Ⅳ層：耕作土2

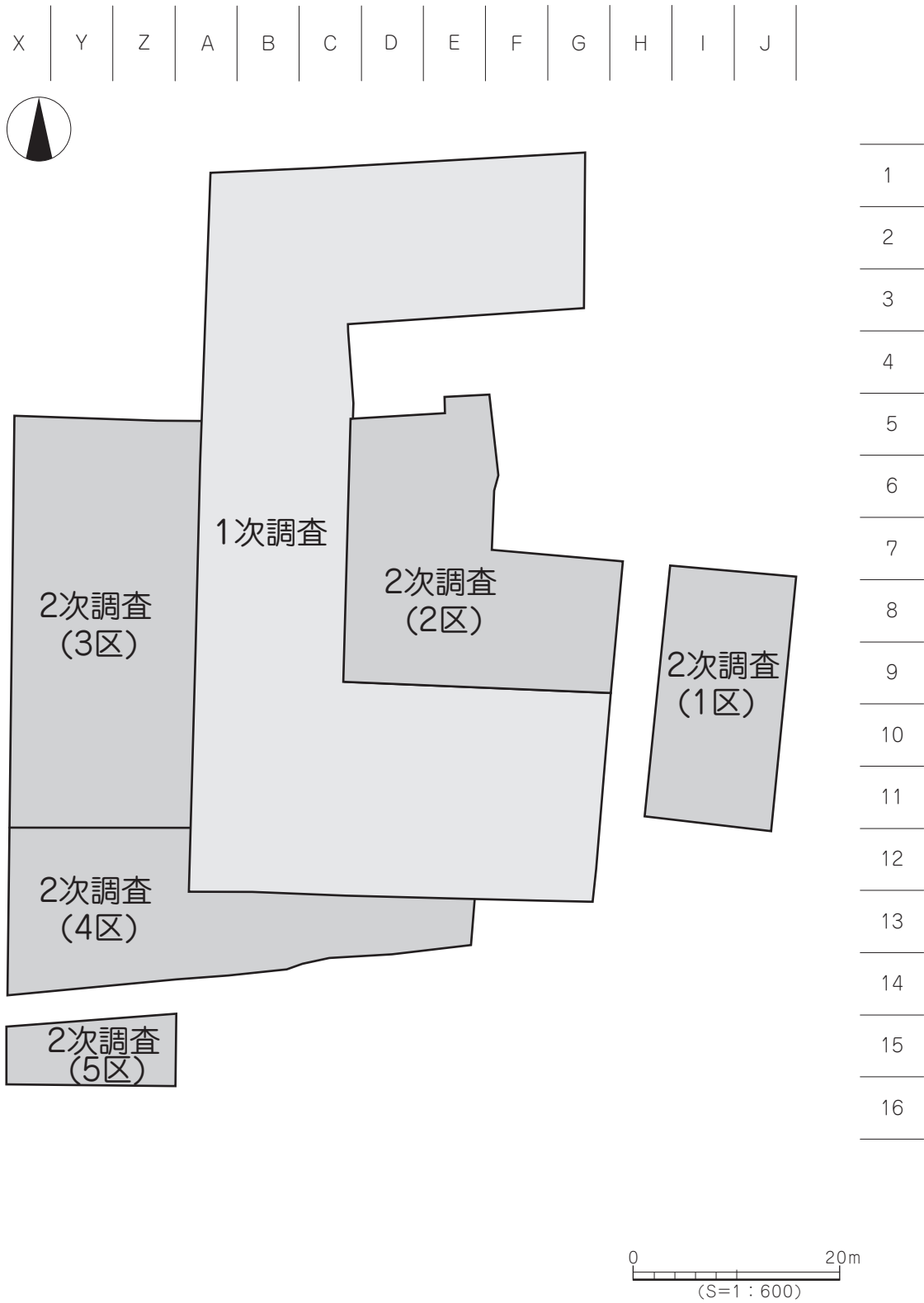
第Ⅴ層：床土2

第Ⅵ層：にぶい黄橙色土 (10YR 7/3) 砂混じり (中世の遺構検出面)

第Ⅶ層：にぶい黄橙色土 (10YR 7/3) 粗砂混じり

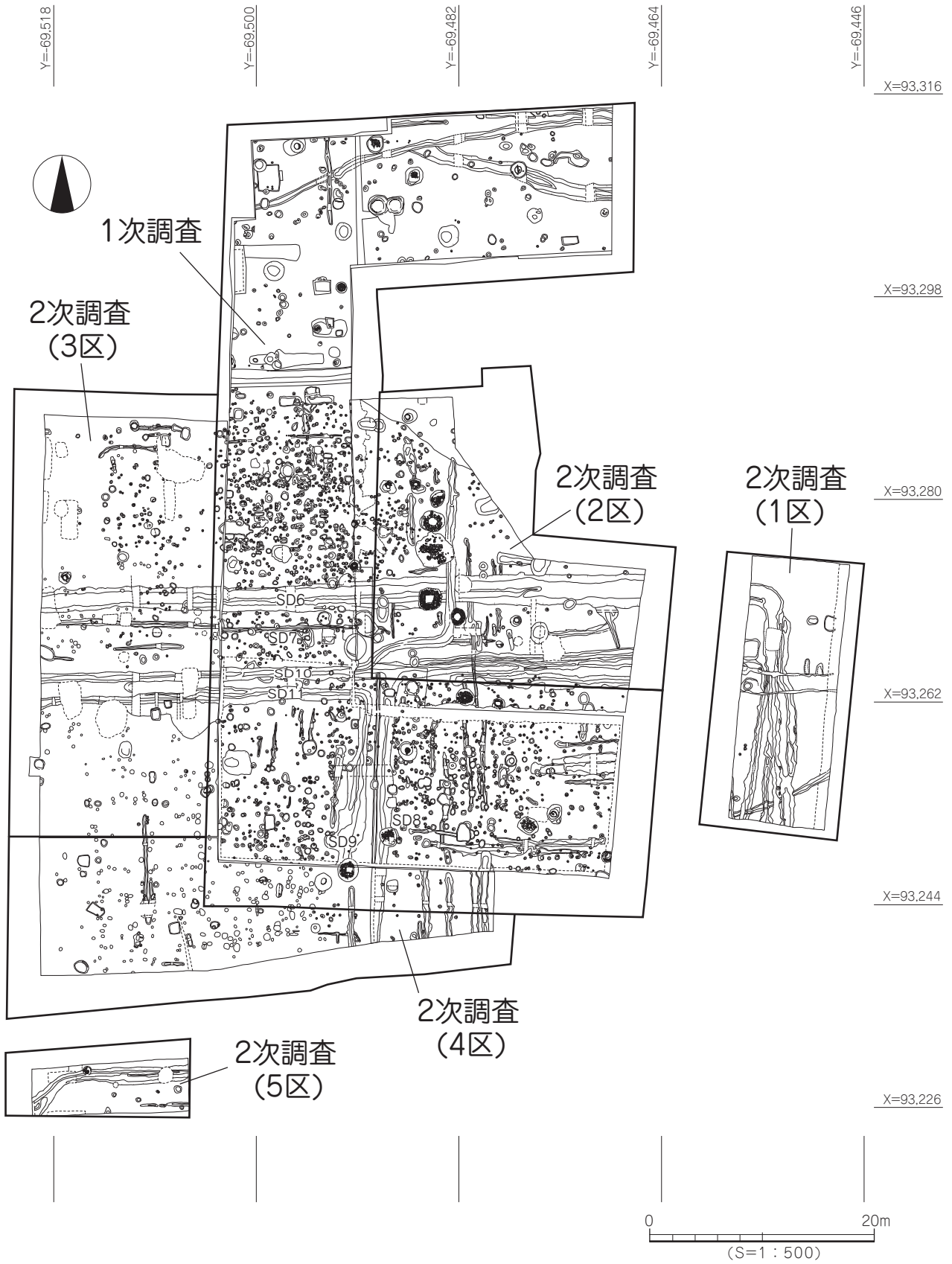
第Ⅷ層：にぶい黄橙色土 (10YR 7/2)

調査にあたり1次調査からの続きのグリッドで、調査区内を6m四方に分けた。グリッドは3区西から東にX・Y・Z・A・B、北から南に7・8・9・10・11とし、X7・X8・・・J11と順次グリッド名を付した。



第 99 図 調査区区割り図

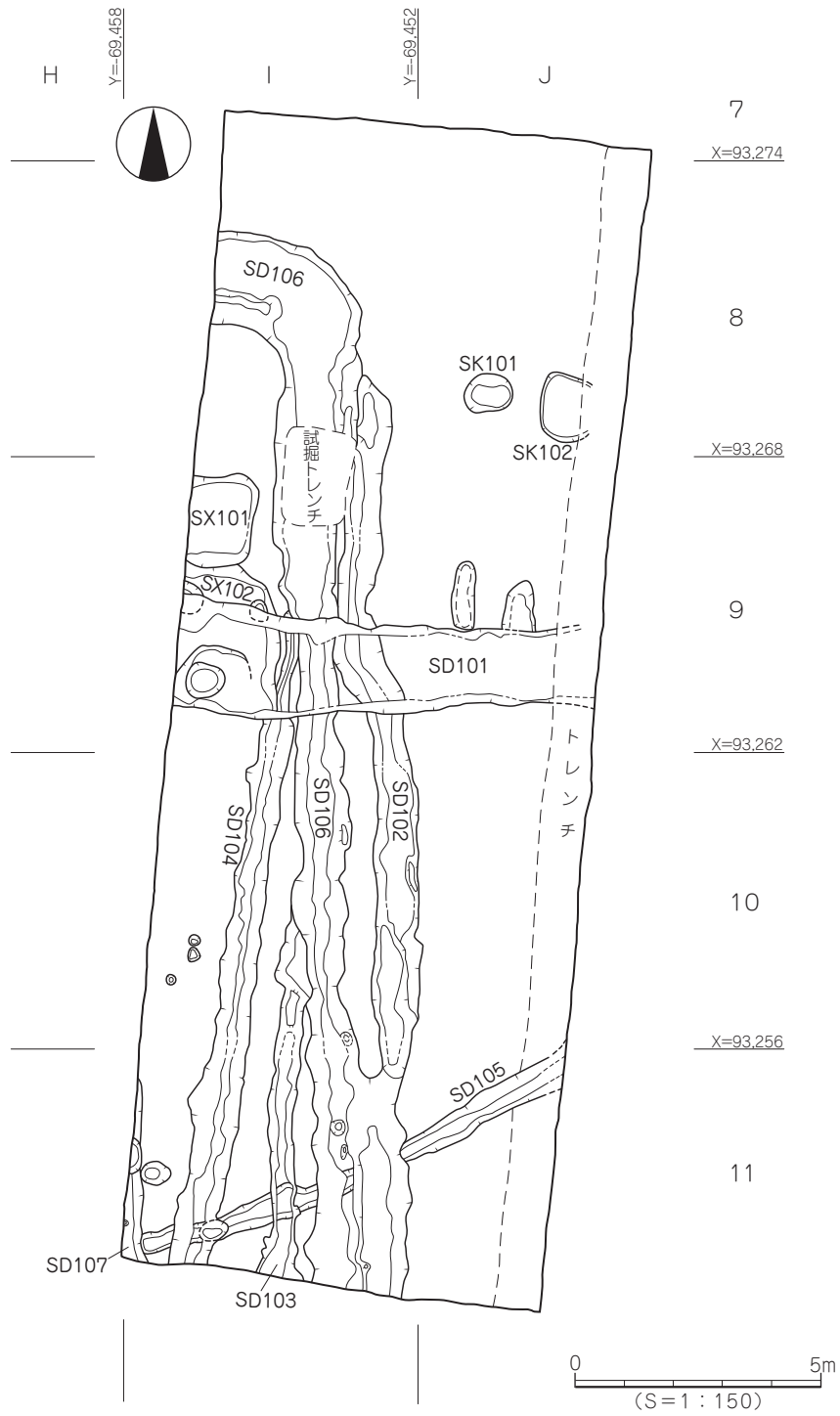
南江戸上沖遺跡 2次調査



第 100 図 1 次調査・2 次調査遺構配置図

2. 1区の調査 (第101図、図版20)

1区は、1次調査地の東に位置し、2次調査地2区の道路を隔てた東側に位置する。調査区は、東西約8m、南北約24mを測る長方形の調査区である。検出した遺構は、土坑2基、溝7条、性格不明遺構2基、柱穴8基である。検出遺構の時期は、中世と近・現代である。



第101図 1区遺構配置図



(1) 中世

中世の遺構は、溝6条である。

1) 溝

SD102 (第102・103図、図版25)

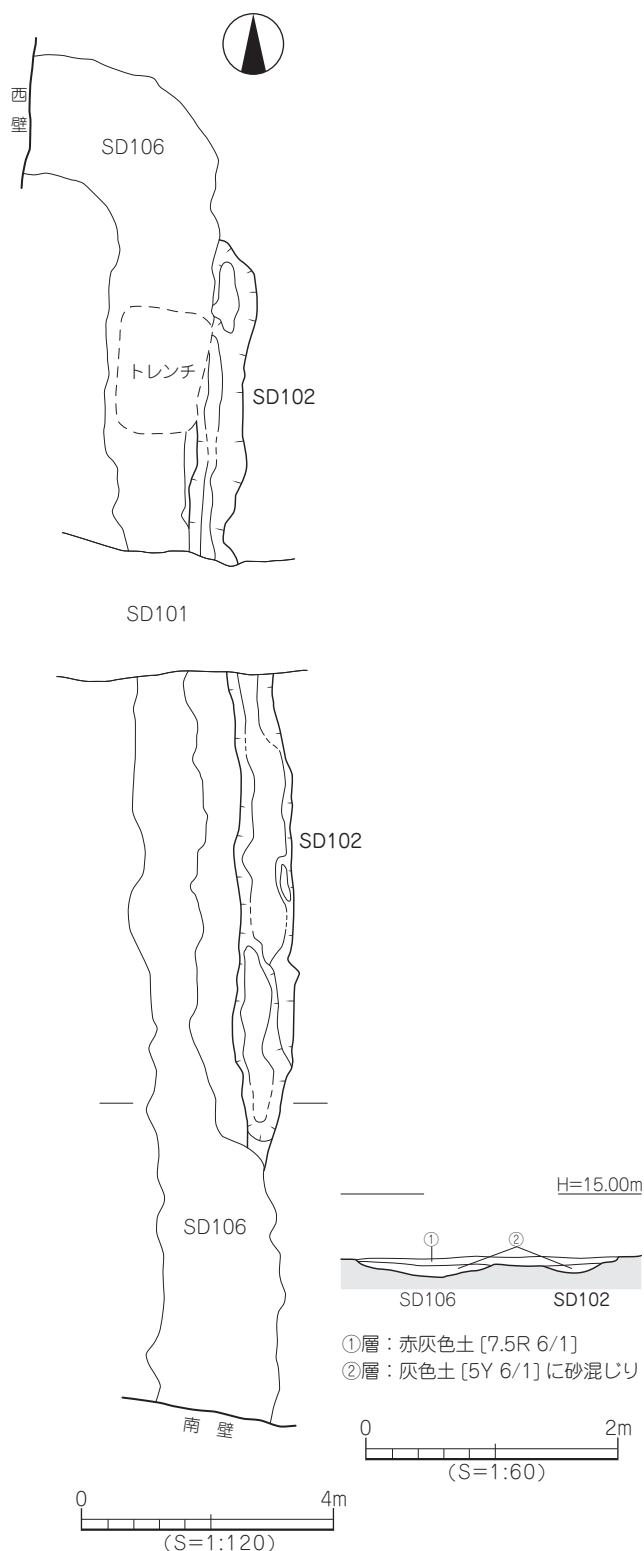
SD102は、調査区のI8～11区に位置する南北方向の溝で、SD106の東側に並走しI8区とJ11区でSD106に切れ、I9区でSD101に切られる。規模は、検出長14.30m、幅0.70～1.00m、深さ0.12mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は①赤灰色土(7.5R 6/1)、②灰色土(5Y 6/1)に砂混じりである。出土遺物には、土師器、瓦器、須恵器、瓦質土器、陶磁器がある。

出土遺物 (316～332)

316～322は土師器。316・317は皿。316の底部には、板状圧痕が見られる。317は底部の切り離しは、回転糸切りである。318は坏。底部には板状圧痕が見られる。319～322は土釜。319・320は口縁部外面下に、断面三角形の鏝を貼り付ける。319には煤が付着する。321・322は三足付土釜の脚部。323・324は備前焼の陶器の播鉢。323は口縁部は拡張され口縁端面は、内傾する面をもち、外面に凹線が2条巡る。内面には櫛目があり、使用されマメツしている(14～15世紀)。324の内面は使用痕が顕著で、ツルツルしている。325は中国製白磁の碗。口縁部は玉縁状である(12世紀)。326は土師器の甕。口縁部は外傾して内湾する。口縁端面は、内傾する面をもつ。327～332は須恵器。327は瓶。高台が付くが欠損している。328は東播系の捏鉢の底部片。329・330は坏。円盤高台が付く(10世紀代)。331は坏蓋。中央部が窪むつまみが付く。332は坏身。短く水平に伸びる受け部に、たちあがり内傾し、端部は尖り気味である。

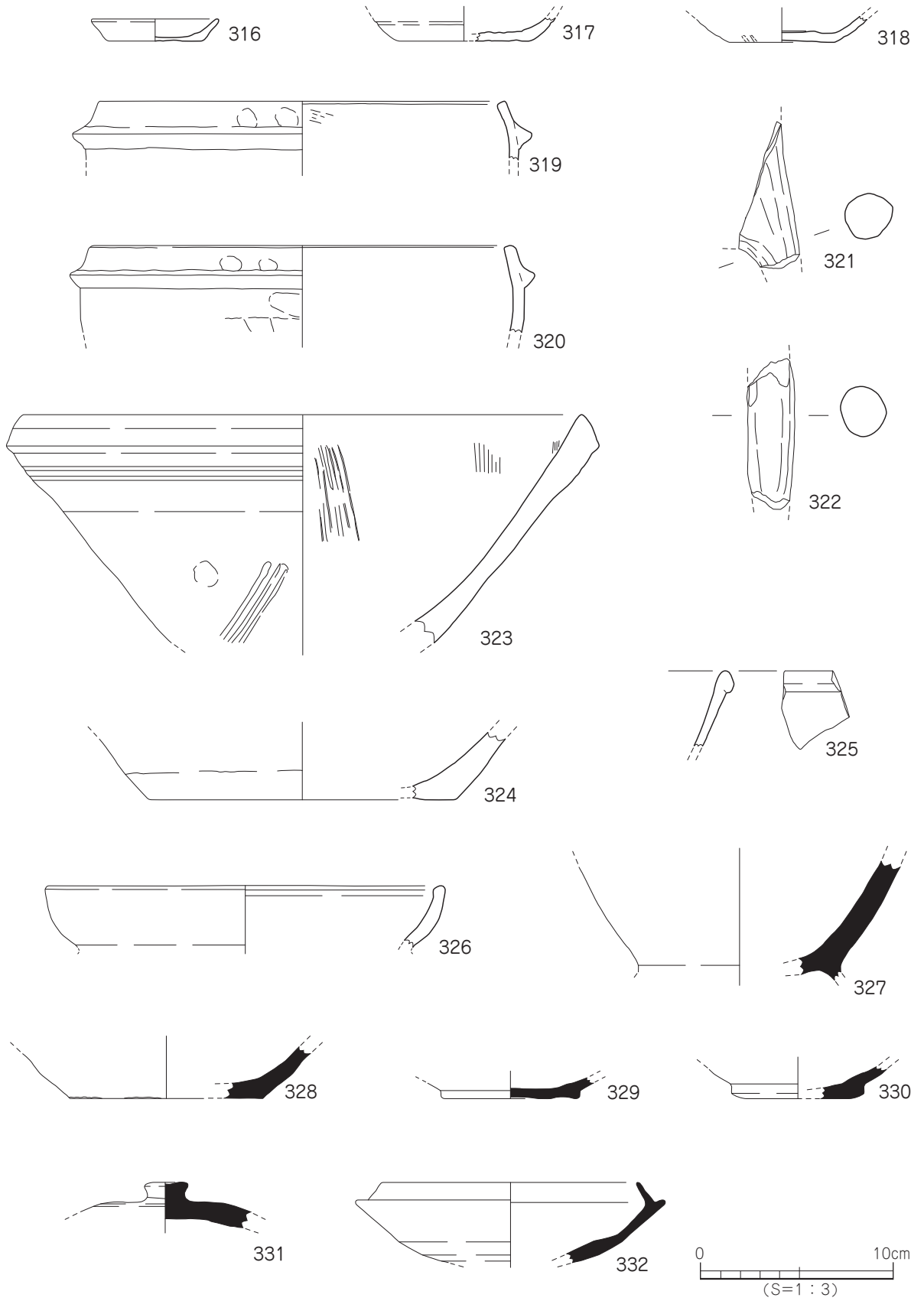
**時期：**出土遺物と形状から、14世紀末～15世紀前半の集落を区画する溝と考えられる。

南側の調査壁断面観察では、SD106と上面埋土が同一あり、SD106の床面が窪んだ部分の溝であったものと思われる。



第102図 SD102測量図

遺構と遺物



第 103 図 SD102 出土遺物実測図

SD103 (第104図)

SD103は、調査区のI10～11区に位置する南北方向の溝で、I10区でSD106に切られる。規模は、検出長7.35m、幅0.53m、深さ0.32mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、①灰色土(5Y 6/1)礫含む、②褐灰色土(7.5YR 5/1)である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、瓦器、須恵器、瓦質土器、陶磁器がある。

出土遺物 (333～336)

333・334は土師器。333は坏。底部の小片。334は土釜。口縁部外面下に、断面三角形状の鏝を貼り付ける。335は陶磁器の碗。口縁端部は短く外反する(16世紀)。336は須恵器の坏。底部の小片。

時期：出土遺物と形状からは、14世紀末～15世紀前半の集落を区画する溝と考えられる。



第104図 SD103測量図・出土遺物実測図

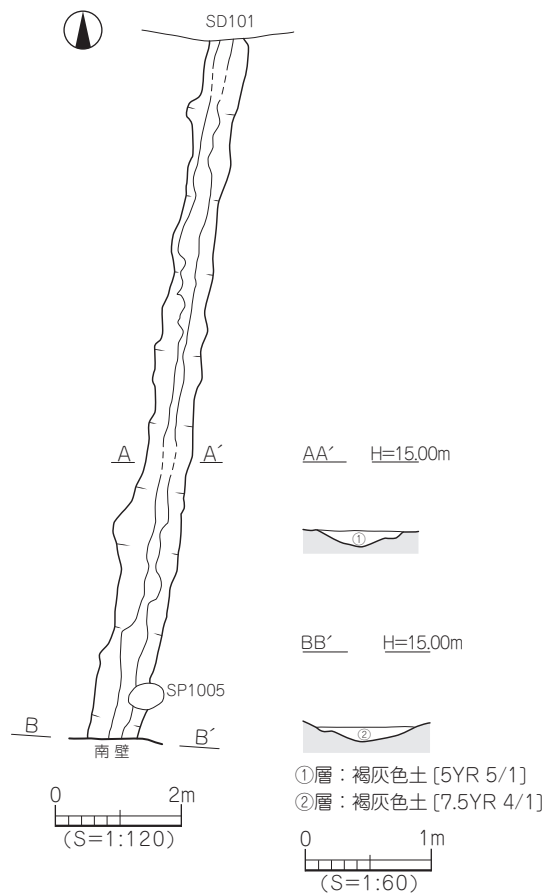
SD104 (第105・106図、図版25)

SD104は、調査区のI9～11区に位置する南北方向の溝で、SD101・SP1005に切られSD105を切る。規模は、検出長13.35m、幅0.76m、深さ0.37mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、①褐灰色土(5YR 5/1)、②褐灰色土(7.5YR 4/1)である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、瓦器、須恵器の坏身・坏蓋、陶磁器の碗がある。

出土遺物 (337～343)

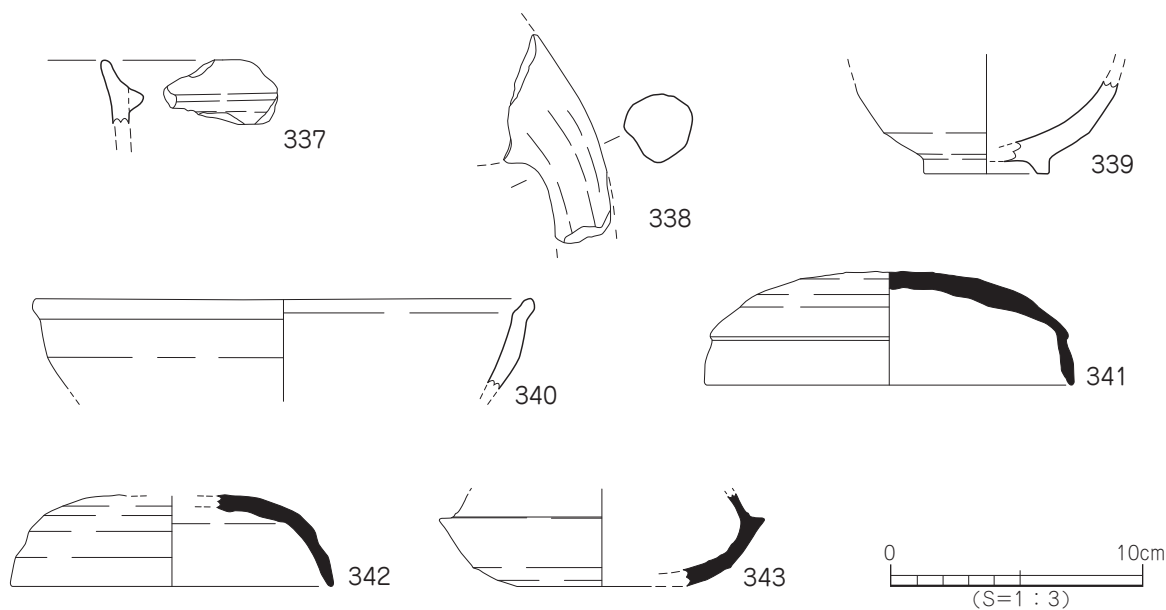
337・338は土師器の土釜。337は口縁部外面下に、断面三角形状の鏝を貼り付ける。338は三足付土釜の脚部。339は肥前系陶磁器の碗(近世)。底部は削り出し高台で露胎。340は土師器の甕。内湾する口縁端部は丸い。341～343は須恵器。341・342は坏蓋。341は口縁部と天井部を分ける稜が段をもち明瞭である。口縁部は内傾する面をもつ。342の口縁部は尖り気味に丸い。343は坏身。短く水平に伸びる受け部をもつ。

時期：出土遺物と形状から、14世紀末～15世紀前半の集落を区画する溝と考えられる。



第105図 SD104測量図

遺構と遺物



第 106 図 SD104 出土遺物実測図

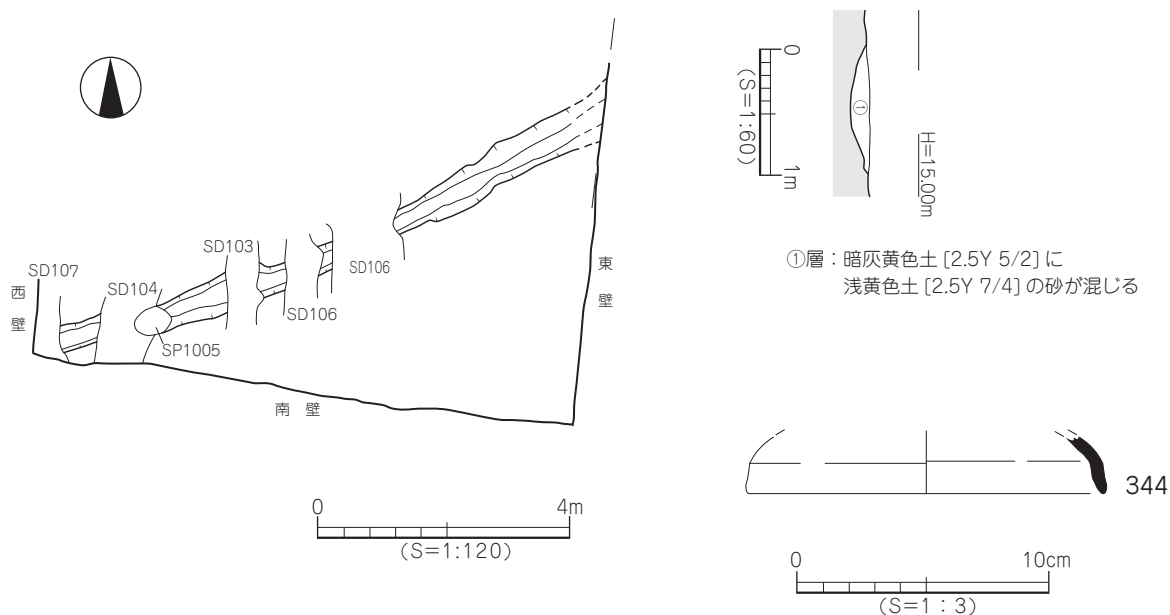
SD105 (第 107 図)

SD105 は、調査区の J・I11 区に位置する東西方向の溝で、SD103・104・106・107・SP1005 に切られる。規模は、検出長 9.6 m、幅 0.60 m、深さ 0.33m を測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、暗灰黄色土 (2.5Y 5/2) に浅黄色土 (2.5Y 7/4) の砂が混じるである。出土遺物には、土師器の皿、須恵器の坏蓋がある。

出土遺物 (344)

344 は須恵器の坏蓋。口縁端部は内傾する面をもつ。

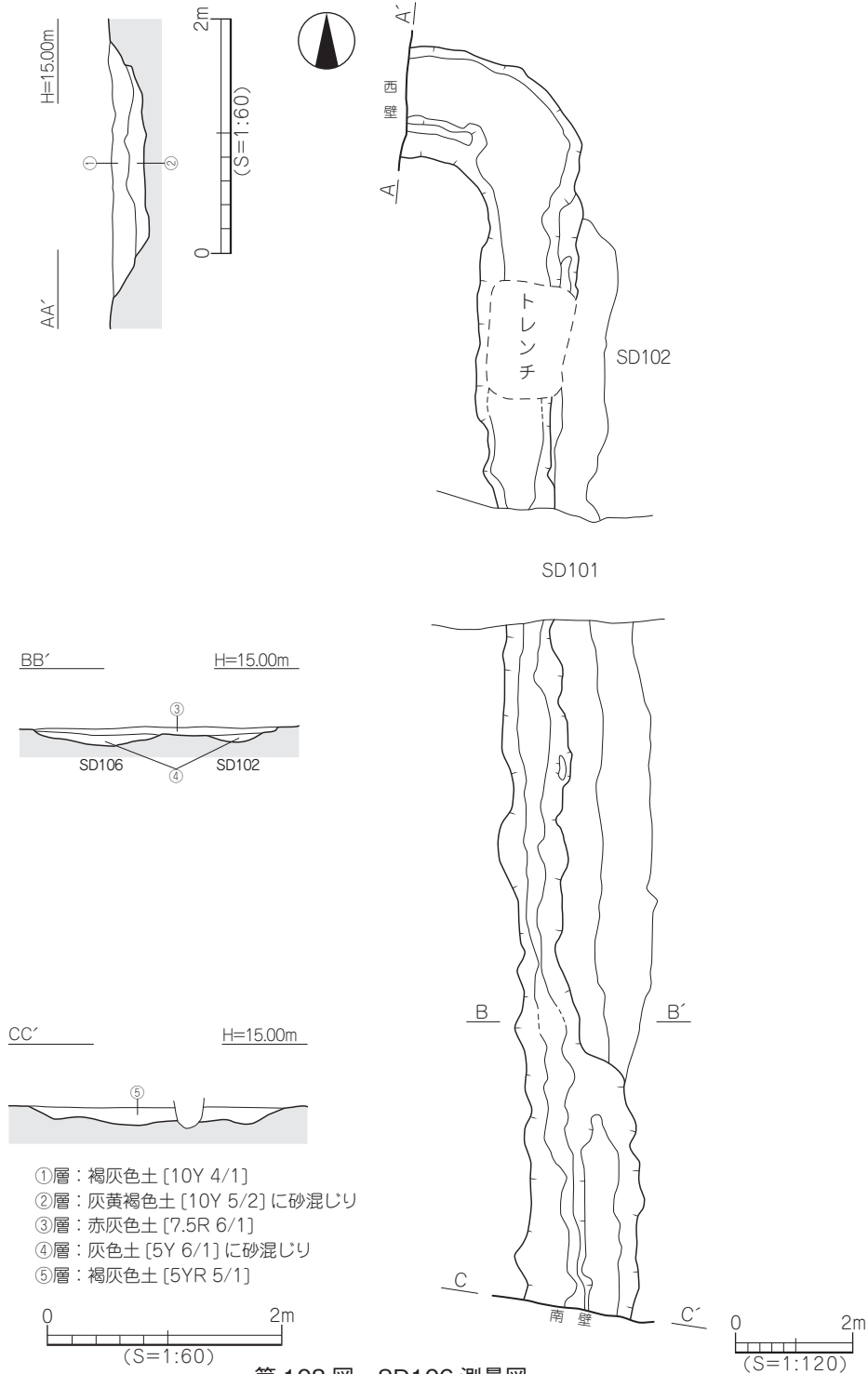
時期：出土遺物から、中世の溝と考えられる。



第 107 図 SD105 測量図・出土遺物実測図

SD106 (第108・109図、図版25)

SD106は、調査区のI8～11区に位置する西から南に曲がる溝で、SD102・103・104・105を切り、SD101に切られる。規模は、検出長21.90m、幅1.10m、深さ0.33mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、①褐灰色土(10Y 4/1)、②灰黄褐色土(10Y 5/2)に砂混じり、③赤灰色土(7.5R 6/1)、④灰色土(5Y 6/1)に砂混じり、⑤褐灰色土(5YR 5/1)である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、須恵器の甕、瓦質土器、陶磁器、銅銭1枚がある。

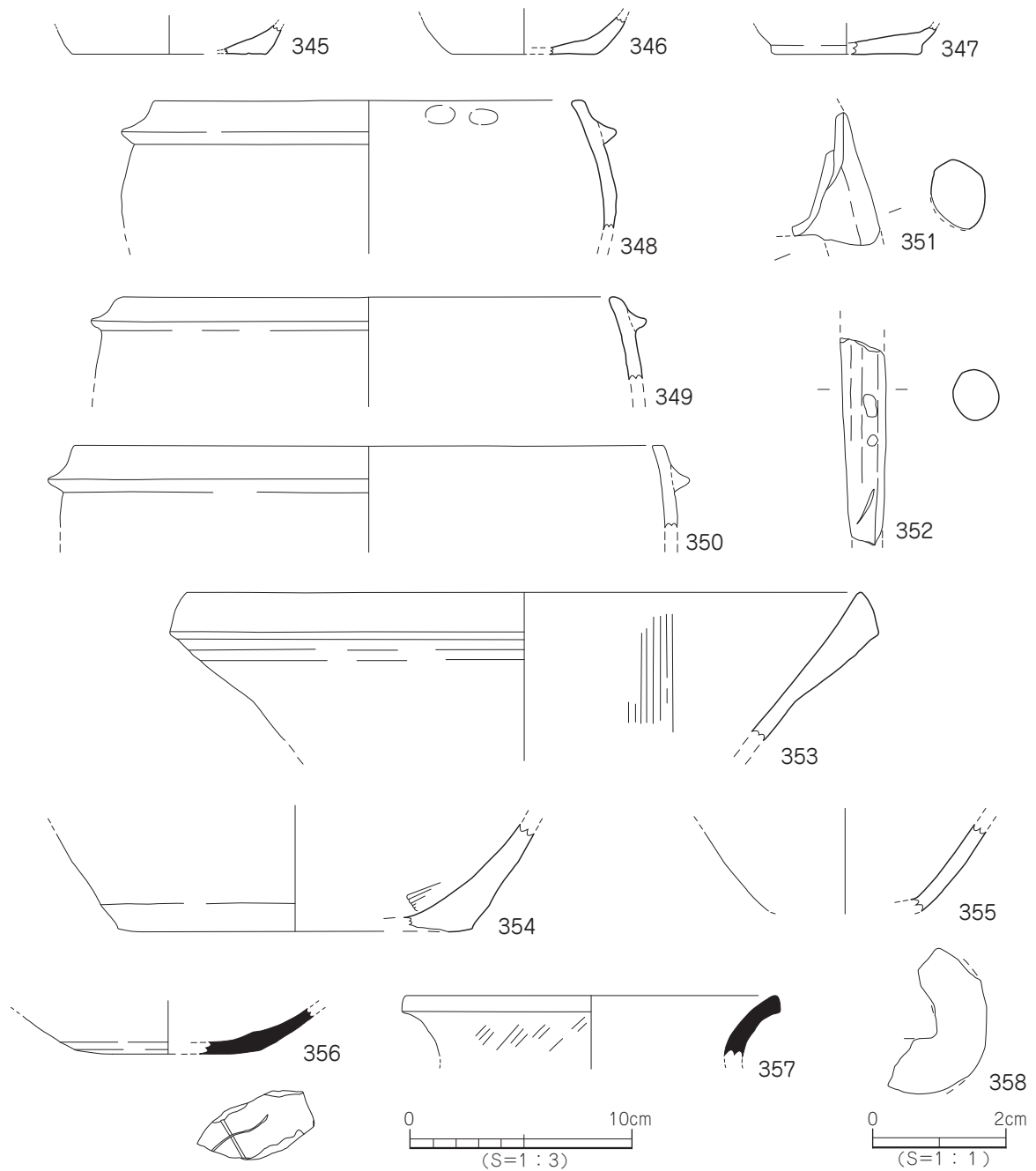


第108図 SD106測量図

出土遺物 (345 ~ 358)

345 ~ 352 は土師器。345 ~ 347 は坏。底部の小片。348 ~ 352 は土釜。348 ~ 350 は口縁部外面下に、断面三角形状の鏝を貼り付ける。348・349 は煤が付着する。351・352 は三足付土釜の脚部。353 ~ 355 は陶器。353・354 は備前焼の播鉢。353 は内面に櫛目があり、よく使用されてツルツルしている。354 は内面に櫛目がある。355 は天目茶碗。瀬戸焼か。二次焼成を受けている。356・357 は須恵器。356 は坏身。底部外面に「X」状の線刻がある。357 は壺。外反する口縁部の小片。358 は銅銭。腐食が激しく文字は読み取れない。

時期：出土遺物と形状から、14世紀末～15世紀前半の集落を区画する溝と考えられる。



第 109 図 SD106 出土遺物実測図

**SD107** (第110図)

SD107は、調査区のI11区に位置する南北方向の溝で、SD105を切る。規模は、検出長3.7m、幅0.55m、深さ0.33mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(5YR 4/1)である。出土遺物はない。

**時期**：埋土から、中世の溝と考えられる。

(2) 近・現代

1) 土坑

土坑は、2基検出した。

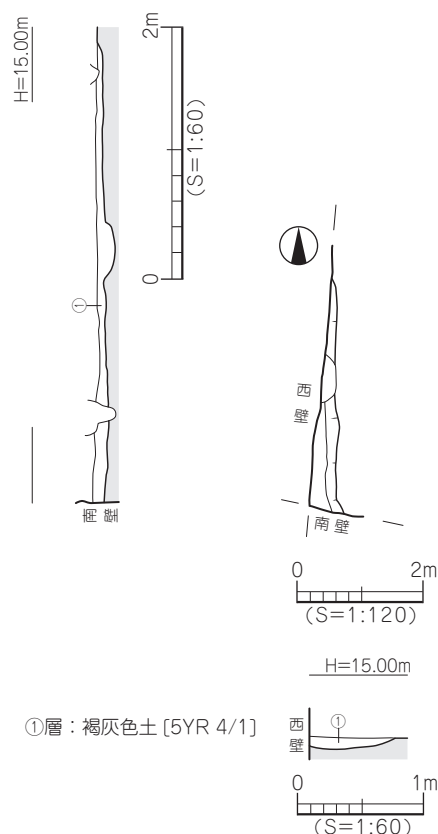
**SK101** (第111図、図版25)

SK101は、調査区のJ8区に位置する。平面形態は楕円形で、規模は長さ1.10m、幅0.75m、深さ0.26mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(5YR 4/1)である。出土遺物には、土師器の坏・土釜、須恵器、中国製白磁碗がある。

**出土遺物** (359)

359は中国製の白磁碗。底部に削り出し高台が付く。

**時期**：埋土と出土遺物から、近・現代の土坑と考えられる。

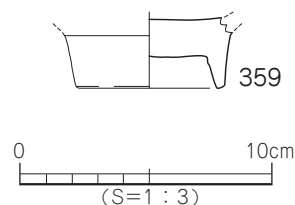


第110図 SD107 測量図

**SK102**

SK102は、調査区のJ8区に位置する。平面形態は方形で、規模は長さ1.35m、推定幅0.85m、深さ0.20mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(5YR 4/1)である。出土遺物はない。

**時期**：埋土から、近・現代の土坑と考えられる。



第111図 SK101 出土遺物実測図

2) 溝

溝は、1条を検出した。

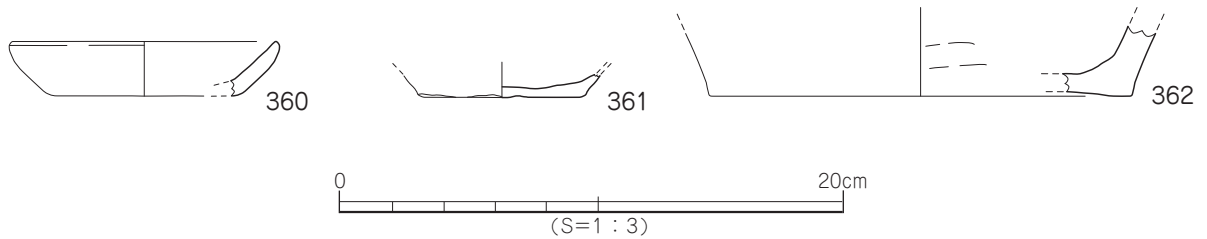
**SD101** (第112図)

SD101は、調査区のI・J9区に位置する東西方向の溝で、SD102・104・106を切る。規模は、長さ11.8m、幅2.30m、深さ0.03～0.40mを測る。断面形態は、逆台形状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 5/1)を基本とする。出土遺物には、土師器、須恵器、陶磁器、瓦がある。

**出土遺物** (360～362)

360・361は土師器の皿。360の体部は内湾気味にたちあがる。361は底部の小片。362は陶器の甕の底部。

**時期**：埋土から、近・現代の溝と思われる。



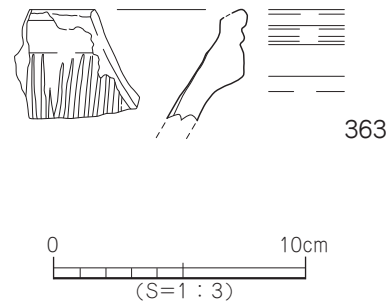
第 112 図 SD101 出土遺物実測図

### 3) 性格不明遺構

性格不明遺構は、2 基検出した。

#### SX101 (第 113 図)

SX101 は、調査区の I9 区に位置し、SX102 を切り、西側は調査区外につづく。平面形態は方形で、規模は長さ 1.80 m、推定幅 1.35m、深さ 0.66 m を測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土 (7.5YR 5/1) である。出土遺物には、土師器の皿・土釜・焙烙鍋、須恵器の甕、備前焼きの播鉢などの陶磁器がある。



第 113 図 SX101 出土遺物実測図

#### 出土遺物 (363)

363 は備前焼陶器の播鉢の口縁部片。口縁部外面に 2 条の凹線が巡り、内面には櫛目がある (江戸時代)。

**時期：**埋土と出土遺物から、近・現代の遺構と考えられる。

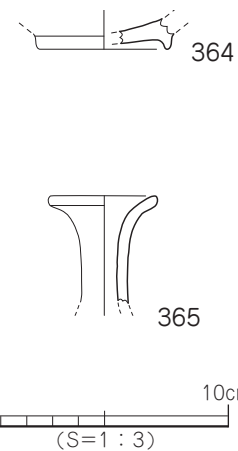
#### SX102 (第 114 図)

SX102 は、調査区の I9 区に位置し、SX101 に切られる。平面形態は不整形で、規模は検出長 2.80 m、検出幅 2.10m、深さ 0.75 m を測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土 (7.5YR 5/1) 砂混じりである。出土遺物には、土師器の土釜、須恵器の甕、陶磁器がある。

#### 出土遺物 (364・365)

364・365 は陶磁器。364 は碗の底部。高台部の残存である。接地面は露胎である。365 は花瓶の口頸部片。仏花瓶。

**時期：**埋土と出土遺物から、近・現代の遺構と考えられる。



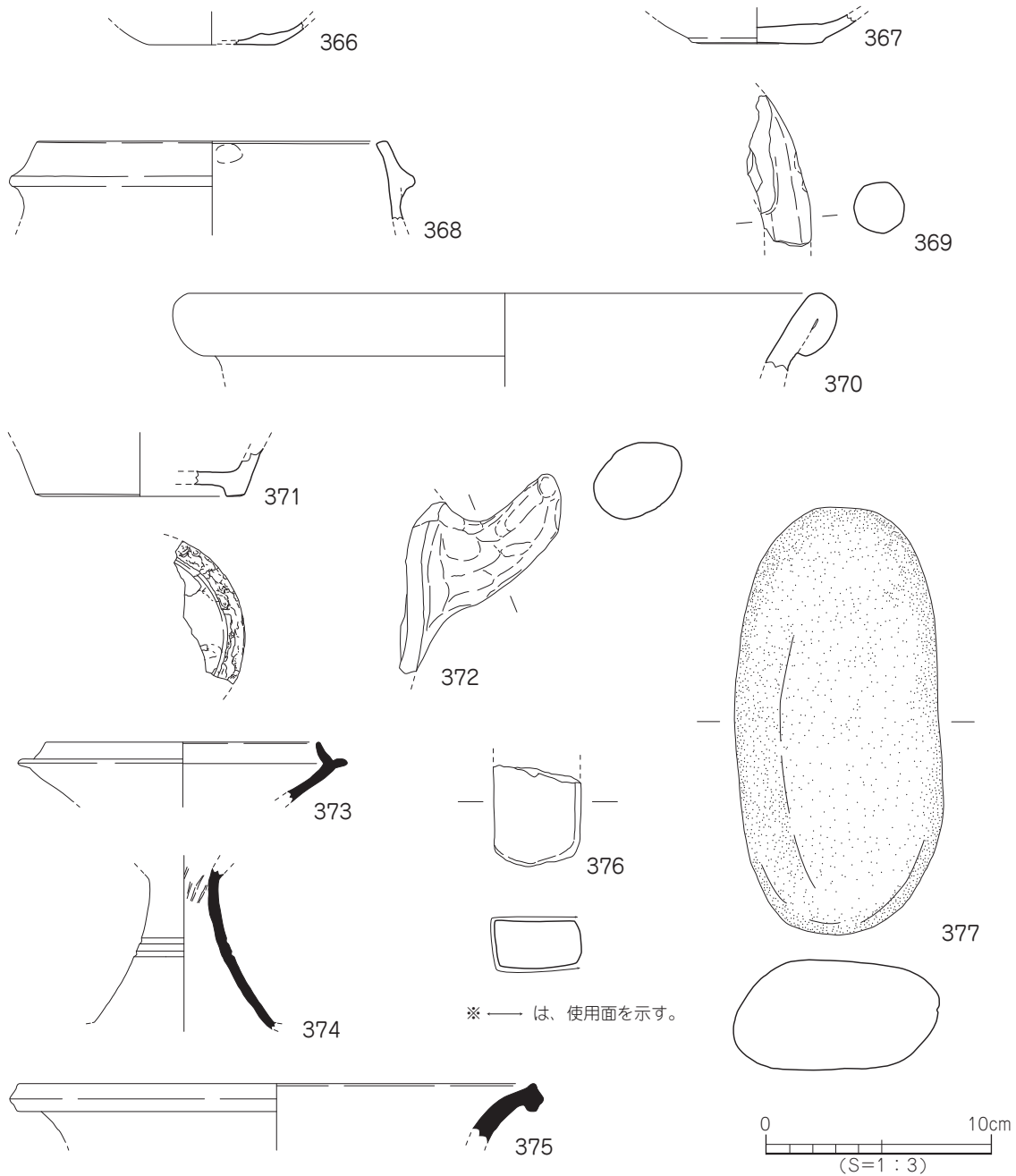
第 114 図 SX102 出土遺物実測図



4) 出土地点不明遺物 (366～377) (第115図、図版25)

366～369は土師器。366・367は皿。底部の小片。368・369は土釜。368は口縁部外面下に、断面三角形の鏝を貼り付ける。369は三足付土釜の脚部。370・371は陶磁器。370は備前焼の甕。口縁部は折り曲げられて、玉縁状である。内面に自然釉が掛かる。371は青磁の壺底部。高台部内面は露胎。372は土師器の甑の把手。形状は舌状で断面は楕円形である。373～375は須恵器。373は坏身。短く水平に伸びる受け部に、内傾するたちあがりをもつ。374は高坏。脚部の中位に2条の凹線文を施す。375は壺の口縁部。口縁端部は上下に拡張される。

376・377は石製品。376は砥石。使用痕が顕著で、よく使いこまれている。材質は流紋岩である。377は石器の素材。



第115図 出土地点不明遺物実測図

遺構一覧

遺構・遺物一覧 — 凡例 —

(1) 以下の表は、本調査地検出の遺構と出土遺物の計測値及び観察一覧である。

(2) 出土遺物観察表の各掲載について

法量欄 ( ): 推定復元値

調整欄 土製品の各部名称を略記した。

例) □→口縁部、底→底部、天→天井部、体→体部、つまみ→つまみ部、

底上→底部上部、底下→底部下部、天上→天井部上部、天下一→天井部下部、

胎土・焼成欄 胎土欄では混和剤を略記した。

例) 石→石英、長→長石、金→金ウンモ、密→精製土。

( ) の中の数値は混和剤粒子の大きさを示す。

例) 石・長 (1~4) →「1mm~4mm 大の石英・長石を含む」である。

焼成欄の略記について。

◎→良好、○→良好、△→不良。

表 74 1 区土坑一覧

土坑 (SK)	地区	平面形	断面形	規模 長径×短径×深さ (m)	埋土	出土遺物	時期	備考
101	J8	楕円形	レンズ状	1.10 × 0.75 × 0.26	褐灰色土 (5YR 4/1)	土師器 須恵器 陶磁器	近・現代	中国製 白磁
102	J8	方形	レンズ状	1.35 × (0.85) × 0.20	褐灰色土 (5YR 4/1)	なし	近・現代	

表 75 1 区溝一覧

溝 (SD)	地区	方向	断面形	規模 長さ×幅×深さ (m)	埋土	出土遺物	時期	備考
101	I・J9	東西	逆台形状	11.8 × 2.30 × 0.03 ~ 0.40	褐灰色土 (7.5YR 5/1) を基本とする。	土師器 須恵器 陶磁器 瓦	近・現代	SD102・104・ 106 を切る。
102	I8 ~ 11	南北	レンズ状	(14.30) × 0.70 ~ 1.00 × 0.12	①赤灰色土 (7.5YR 6/1) ②灰色土 (5YR 6/1)	土師器 須恵器 瓦 陶磁器	室町時代	SD101・106 に切られる。
103	II0 ~ 11	南北	レンズ状	(7.35) × 0.53 × 0.32	①灰色土 (5Y 6/1) 礫 を含む ②褐灰色土 (7.5YR 5/1)	土師器 須恵器 瓦質土器 陶磁器	室町時代	SD106 に 切られる。
104	I9 ~ 11	南北	レンズ状	(13.35) × 0.76 × 0.37	①褐灰色土 (5YR 5/1) ②褐灰色土 (7.5YR 4/1)	土師器 須恵器 陶磁器 瓦器	室町時代	SD101・SP1005 に切れ、 SD105 を切る。
105	J・II1	東西	レンズ状	(9.60) × 0.60 × 0.33	暗灰黄色土 (2.5Y 5/2) に浅黄色土 (2.5Y 7/4) の砂混じり	土師器 須恵器	中世	SD103・104・ 106・107、SP1005 に切られる。
106	I8 ~ 11	西~南 折れ曲がる	レンズ状	(21.90) × 1.10 × 0.33	①褐灰色土 (10Y 4/1) ②灰黄褐色土 (10Y 5/2) に砂混じり ③赤灰色土 (7.5R 6/1) ④灰色土 (5Y 6/1) に砂 混じり ⑤褐灰色土 (5YR 5/1)	土師器 須恵器 瓦質土器 陶磁器 銅銭	室町時代	SD101 に切れ、 SD102・ 103・104・ 105 を切る。
107	II1	南北	レンズ状	(3.7) × 0.55 × 0.33	褐灰色土 (5YR 4/1)	なし	中世	SD105 を切 る。

南江戸上沖遺跡2次調査1区

表 76 1区性格不明遺構一覧

性格不明遺構(SX)	地区	平面形	断面形	規模 長径×短径×深さ(m)	埋土	出土遺物	時期	備考
101	I9	方形	レンズ状	1.80 × (1.35) × 0.66	褐灰色土(7.5YR 5/1)	土師器 須恵器 陶磁器	近・現代	SX102を切り、西側は調査区外。
102	I9	不整形	レンズ状	2.80 × 2.10 × 0.75	褐灰色土(7.5YR 5/1) 砂混じり	土師器 須恵器 陶磁器	近・現代	SX101に切られる。

表 77 SD102 出土遺物観察表(土製品)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
316	皿	口径(6.5) 底径(4.9) 器高1.2	底部に板状圧痕が見られる。	ヨコナデ	回転ナデ	にぶい橙色 灰褐色	長(1)金 ◎	I9～10区	
317	皿	底径(6.8) 残高1.1	底部の切り離しは、回転糸切りである。	ヨコナデ	マメツ	にぶい橙色 淡橙色	長(1) ◎		
318	坏	底径(5.5) 残高1.4	底部に板状圧痕が見られる。	回転糸切り	ヨコナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	長(1)金 ◎		
319	土釜	口径(21.0) 残高3.1	口縁部外面下に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	ヨコナデ	ヨコナデ ハケ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	長(1)金 ◎	I10区 上層 煤付着	
320	土釜	口径(21.5) 残高4.5	口縁部外面下に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ	黄褐色 暗灰黄色	石・長(1)金 ◎	I11区 上層	
321	土釜	残高7.6	三足付土釜の脚部の付け根部分。	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	石・長(1)金 ◎	I10区 上層	
322	土釜	残高7.7	三足付土釜の脚部。	回転ナデ		にぶい黄橙色	石・長(1~2)金 ◎	I11区 南壁	
323	播鉢	口径(28.8) 残高11.9	口縁端面は内傾する面をもち、外面に凹線が2条巡る。内面に7条一組みの櫛目。使用されマメツしている。備前焼。	ヨコナデ	ナデ	明赤褐色 褐灰色	長(1) ◎	I11区	
324	播鉢	底径(16.0) 残高3.5	内面は使用されツルツルしている。	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色 にぶい橙色	長(1~2) ◎	I10区 上層	
325	碗	残高3.9	口縁端部は玉縁状。中国製白磁。	施釉(半透明)	施釉(半透明)	灰白色 灰白色	密 ◎	I11区 下層	25
326	甕	口径(20.4) 残高3.2	外傾し内湾する口縁部。口縁端部は内傾する面をもつ。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰黄褐色 明黄褐色	石・長(1~2)金 ◎	I10区 上層	
327	瓶	残高6.2	高台が付くが欠損している。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	長(1)金 ◎	I11区 南壁付近	
328	捏鉢	底径(10.0) 器高2.7	平底。東播系須恵器。	ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎	I11区 上層	
329	坏	底径(7.0) 残高4.2	円盤高台の小片。	回転ナデ	マメツ	灰白色 灰白色	密 ○	I10区 上層	
330	坏	底径(6.8) 器高2.2	円盤高台が付く。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	密 ◎	I11区 上層	
331	坏蓋	つまみ径2.2 残高2.2	中央部が窪むつまみが付く。	㊦回転ナデ ㊧回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	長(1)密 ◎	I11区 下層	
332	坏身	口径(13.1) 残高4.2	たちあがりは、内傾し端部は尖り気味である。短く水平に伸びる受け部。	㊦㊧回転ナデ ㊨回転ヘラケズリ	㊩ナデ ㊪回転ナデ	灰色 灰色	長(1)密 ◎	I11区 上層	

出土遺物一覧

表 78 SD103 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
333	坏	底径 (7.1) 残高 1.8	底部片。	ナデ	ヨコナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長(1~3) 金 ◎	I10区 上層	
334	土釜	残高 2.2	口縁部片。口縁部外面下に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	ヨコナデ	ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1) ◎	I10区 上層	
335	碗	口径 (10.3) 残高 3.3	口縁端部は短く外反する。陶磁器。	ナデ	ナデ	灰白色(施釉) 灰白色(施釉)	密 ◎	I11区 下層	
336	坏	底径 (6.6) 残高 2.2	須恵器の底部小片。捏鉢の底部の可能性も有り。	ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1) 金 ◎	I9区	

表 79 SD104 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
337	土釜	残高 2.5	口縁部外面下に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	ヨコナデ	ナデ	橙色 橙色	石・長(1) 金 ◎	I8区 下層	
338	土釜	残高 8.3	三足付土釜の脚部の付け根部。	ナデ		橙色	長(1~2) ◎	I8区 下層 煤附着	
339	碗	底径 13.9 残高 4.8	削り出し高台。露胎。肥前系。近世。	回転ナデ	施釉	施釉(半透明) 施釉	密 ◎	I11区	25
340	甕	口径 (19.8) 残高 3.8	内湾する口縁端部は、外反する。口端部は丸い。	ヨコナデ	ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長(1~2) 金 ◎	I10区	
341	坏蓋	口径 (14.4) 器高 4.5	口縁部と天井部を分ける境は、明瞭である。口縁端部は内傾する面をもつ。	㊦㊧回転ヘラケズリ ㊦㊧㊨回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰白色	長(1~5) 密 ◎		
342	坏蓋	口径 (12.6) 残高 3.6	口縁部は、尖り気味に丸い。	㊦㊧回転ヘラケズリ ㊦㊧㊨回転ナデ	㊦㊧㊨回転ナデ	灰色 灰色	長(1~2) 密 ◎	I10 下層	
343	坏身	残高 3.7	短く水平に伸びる受け部。	㊦㊧㊨回転ナデ ㊦㊧㊨回転ヘラケズリ	㊦㊧㊨回転ナデ	灰色 灰色	長(1~5) 密 ◎	I11区	

表 80 SD105 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
344	坏蓋	口径 (14.0) 残高 4.6	口縁端部は、内傾する面をもつ。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	J11区 下層	

表 81 SD106 出土遺物観察表(土製品)

(1)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
345	坏	底径 (8.8) 残高 1.3	底部の小片。	ナデ	ナデ	橙色 橙色	石・長(1) 金 ◎		
346	坏	底径 (6.4) 残高 2.0	底部の小片。	ナデ	ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	長(1~2) 金 ◎	I11区 上層	
347	坏	底径 (6.4) 残高 1.4	底部の小片。	ナデ	ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長(1) ◎	I10~I11区 バルト	
348	土釜	口径 (18.7) 残高 5.8	口縁部外面下に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	回転ナデ ナデ	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~3) 金 ◎	I10~I11区 バルト 煤附着	

南江戸上沖遺跡2次調査1区

SD106 出土遺物観察表 (土製品)

(2)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
349	土釜	口径 (22.0) 残高 5.2	口縁部外面下に、断面三角形の鐳を貼り付ける。	ナデ	ナデ	橙色 橙色	石・長(1~6) 密 ◎	I10区 下層 煤付着	
350	土釜	口径 (26.6) 残高 3.7	口縁部外面下に、断面三角形の鐳を貼り付ける。	ヨコナデ	ナデ	橙色 橙色	石・長(1~2) 金 ◎	I10~11区	
351	土釜	残高 5.8	三足付土釜の脚部付け根部分。	回転ナデ		橙色	石・長(1~4) ◎	I9~10区	
352	土釜	残高 9.3	三足付土釜の脚部。	ナデ		橙色	石・長(1~2) ◎	I10区	
353	播鉢	口径 (30.2) 残高 6.4	内面に7条一組の櫛目。よく使用されて、ツルツルしている。備前焼。14~15世紀。	ナデ	ナデ	橙色 にぶい橙色	石・長(1~3) 金 ◎	I10~11区	
354	播鉢	口径 (15.8) 残高 5.7	内面に櫛目あり。備前焼。	ナデ	ナデ	橙色 にぶい橙色	石・長(1~4) ◎	I10~11区	
355	碗	残高 4.8	天目茶碗。二次焼成を受けている。瀬戸焼。	ナデ	ナデ	褐釉 (一部淡) 褐釉	密 ◎	I8区 下層	25
356	坏身	残高 2.0	底部外面に「X」状の線刻あり。	◎回転ナデ ◎回転ヘラケズリ	◎回転ナデ ◎ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1~2) ◎	I10区 下層	
357	壺	口径 (16.8) 残高 2.7	外反する口縁部の小片。陶磁器。	ハケ後ナデ	ナデ	灰色 灰色	石・長(1) ◎	I10区 下層	

表 82 SD106 出土遺物観察表 (金属製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
358	古銭	1/2	銅	(2.3)	(0.7)	(0.1)	0.63	腐食が激しく 文字不明	

表 83 SK101 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
359	碗	底径 5.8 残高 2.7	中国製の白磁。削り出し高台。	回転ナデ	施釉 (半透明)	灰白色 灰黄色	密 ◎		25

表 84 SD101 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
360	皿	口径 (10.4) 底径 (7.0) 器高 2.2	口縁部は丸い。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	長(1) 金 ◎	J9区 東半部	
361	皿	底径 (6.3) 残高 0.9	底部の小片。	ナデ ◎回転ヘラ切り	ヨコナデ	にぶい黄橙色 浅黄橙色	長(1) 金 ◎	J9区 西半部	
362	甕	底径 (16.8) 残高 2.8	底部の小片。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	長(1) 密 ◎	J9区 ベルト 下層	

表 85 SX101 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
363	播鉢	残高 4.4	口縁部外面に、凹線が2条施される。内面に11条の櫛目あり。備前焼。江戸時代。	回転ナデ	回転ナデ	暗褐色 赤褐色	密 ◎	I9区	

出土遺物一覧

表 86 SX102 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
364	碗	底径 (6.2) 残高 1.2	高台部。高台接地面は露胎。	施釉	施釉 (半透明)	灰白色 灰白色	密 ◎		
365	花瓶	口径 4.2 残高 4.2	仏花瓶。	施釉	施釉	灰白色 (釉) 明オリブ灰色	密 ◎		

表 87 出土地点不明出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
366	皿	底径 (5.6) 残高 1.0	底部の小片。	◎回転糸切り	マメツ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長 (1~3) ◎		
367	皿	底径 5.8 残高 1.3	底部の小片。	マメツ	ヨコナデ	黄褐色 黒色	白色粒 ◎		
368	土釜	口径 (15.5) 残高 3.5	口縁部外面下に断面三角形の鐏を貼り付ける。	ヨコナデ	ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長 (1~2) ◎		
369	土釜	残高 6.7	三足付土釜の脚部。	ナデ		にぶい黄橙色	白色粒 ◎	I9区	
370	甕	口径 (28.0) 残高 3.4	口縁部は折り曲げて玉縁状である。備前焼。内面に自然釉。	回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	にぶい赤褐色 黄褐色	密 ◎	南半 検出面 自然釉	
371	壺	底径 (9.4) 残高 2.1	畳付に目跡。高台内部内面は露胎。外面に施釉。青磁。	回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	灰白色 灰白色 (釉) 明オリブ灰色	密 ◎	J9区	25
372	甌	残高 8.9	甌の把手部は舌状で、断面は楕円形である。	ナデ		にぶい黄橙色	石・長 (1~2) ◎	取り上げ No.1	
373	坏身	口径 (12.0) 残高 2.7	短く水平に伸びる受け部。たちあがりは、内傾する。	回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	灰色 灰色	密 ◎	西壁	
374	高坏	残高 7.2	脚部中位に、2条の凹線を施す。	回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	灰白色 オリブ灰色	白色粒 ◎	北壁	
375	壺	口径 (22.8) 残高 2.6	口縁端部は、上下に拡張される。	回転ヨコナデ	自然釉 オリブ灰色	灰色 灰色	密 ◎	東壁 トレンチ	

表 88 出土地点不明出土遺物観察表 (石製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
376	砥石	よく使いこまれている。	流紋岩	(4.5)	3.9	2.1	55.04	伊予砥 (砥部の石)	
377	石材		安山岩	19.0	9.1	4.9	1355.32	J10区	

### 3. 2区の調査 (第117図、図版20)

2区は、1次調査地の東に位置する「L」字状の調査区で、南北約12m～25m、東西約10m～25mを測る。2区では、中世から近・現代までの遺構や遺物を検出した。検出遺構は、土坑16基、井戸11基、溝25条、柱穴235基である。

#### (1) 中世

中世の遺構は、溝25条、土坑16基、井戸11基、柱穴235基である。出土遺物は土師器、須恵器、陶磁器、石器がある。

##### 1) 土坑

土坑は、16基を検出した。

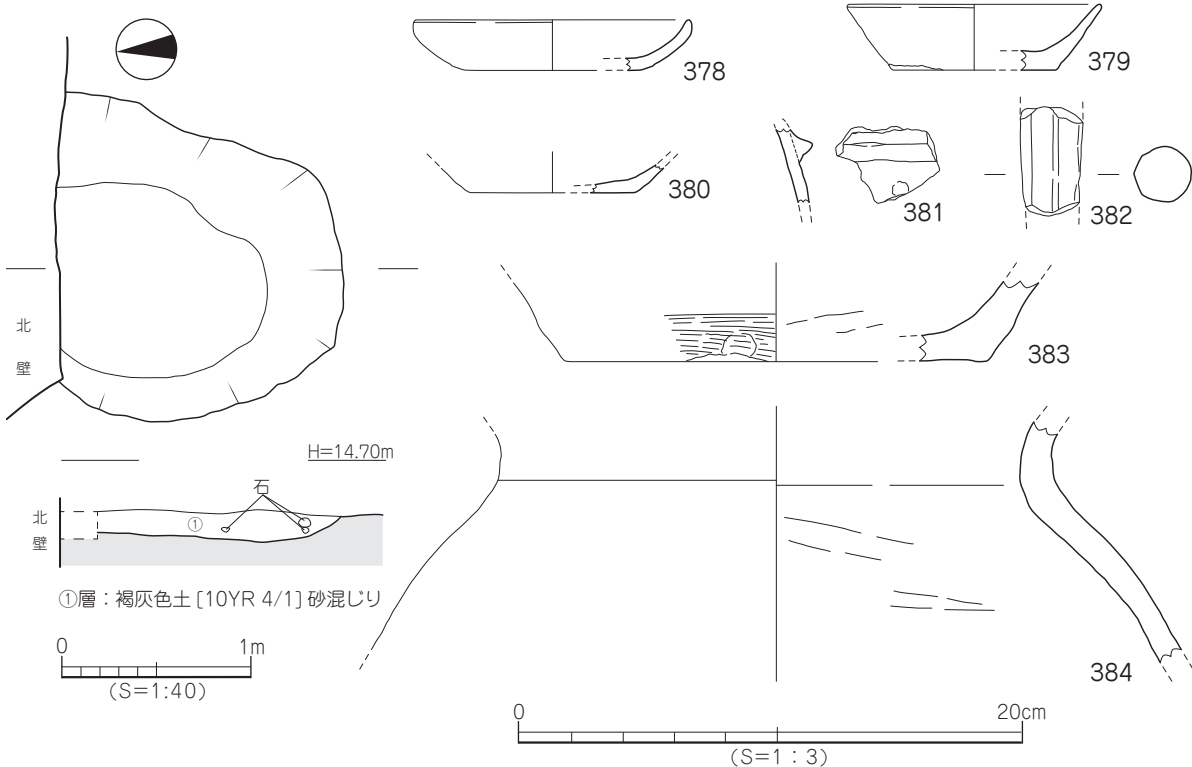
##### SK201 (第116図)

SK201は、調査区のF7・8区に位置し、SD201・212を切る。北側は調査区外につづく。平面形態は、楕円形と思われる。規模は南北検出長1.58m、東西1.68m、深さ0.17mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(10YR 4/1)砂混じり、である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、須恵器の坏身・甕、陶器がある。

##### 出土遺物 (378～384)

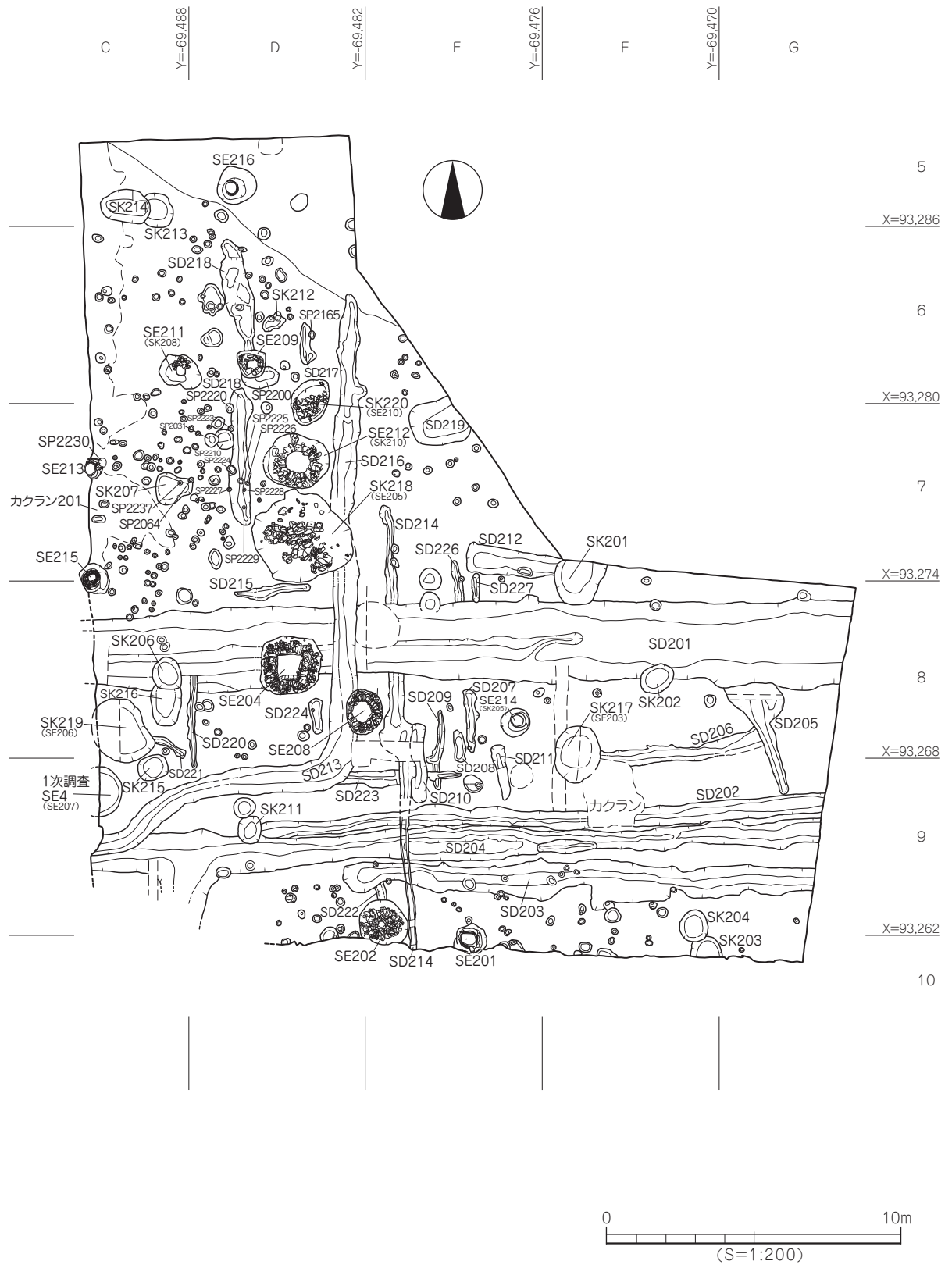
378～382は土師器。378は皿。内湾する口縁部から体部。379・380は坏。379は外傾する口縁部。380は底部の薄片。381・382は土釜。381の外面に断面三角形の鏝を貼り付ける。煤が付着する。382は三足付土釜の脚部。383・384は陶磁器。383は備前焼の播鉢。384は甕。頸部から胴部の残存。外面に釉が掛かる。

時期：出土遺物から、中世の土坑と考えられる。



第116図 SK201 測量図・出土遺物実測図

遺構と遺物



第 117 図 2 区遺構配置図



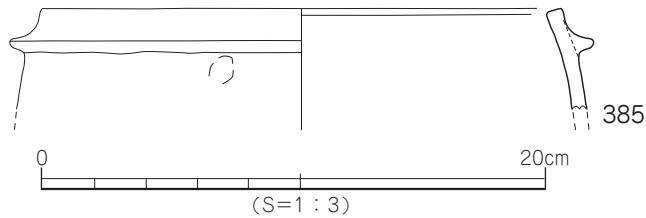
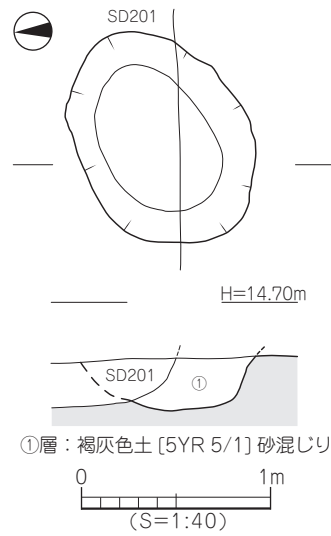
SK202 (第118図)

SK202は、調査区のF8区に位置し、SD201に切られる。平面形態は楕円形で、規模は長径1.20m、短径0.88m、深さ0.27mを測る。断面形態は、逆台形状である。埋土は、褐灰色土(5YR 5/1)砂混じり、である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜がある。

出土遺物 (385)

385は土師器の土釜。口縁部外面下に、断面三角形の鏝を貼り付ける。

時期：出土遺物から、中世の土坑と考えられる。



第118図 SK202 測量図・出土遺物実測図

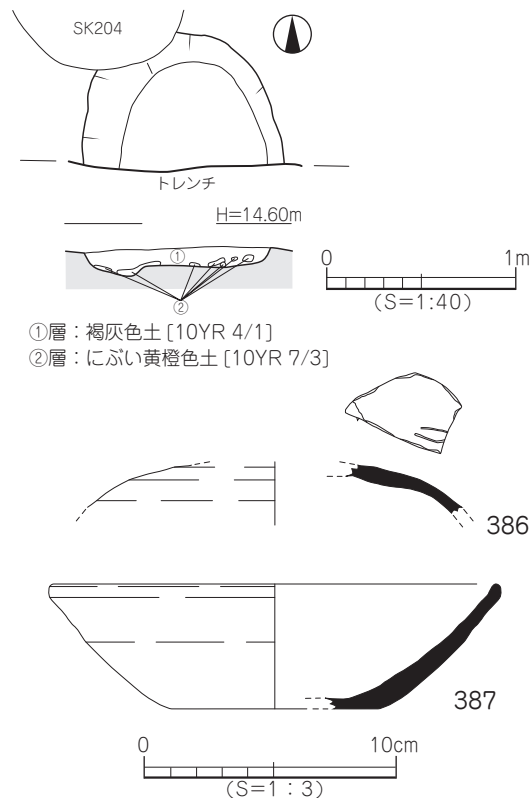
SK203 (第119図)

SK203は、調査区のF10区に位置し、北側はSK204、南側はトレンチに切られる。平面形態は、楕円形と思われる。規模は、南北検出長0.73m、東西1.06m、深さ0.14mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、①褐灰色土(10YR 4/1)、②にぶい黄橙色土(10YR 7/3)である。出土遺物には、土師器の皿・土釜、須恵器の捏鉢がある。

出土遺物 (386・387)

386・387は須恵器。386は坏蓋。天井部の外面に、2本の直線のヘラ記号がある。387は捏鉢。内湾する体部、口縁部はナデにより丸い。

時期：出土遺物の土師器から、中世の土坑と考えられる。



第119図 SK203 測量図・出土遺物実測図

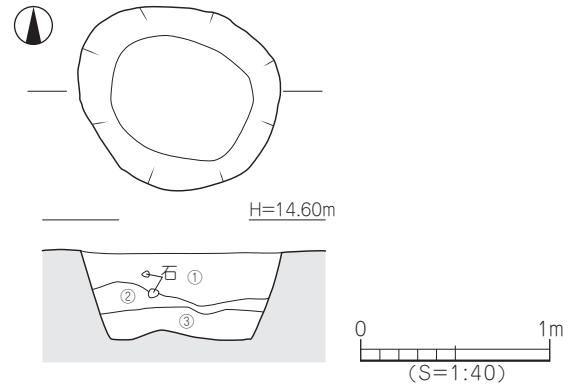
SK204 (第120図、図版25)

SK204は、調査区のF9・10区に位置し、SK203を切る。平面形態は円形で、規模は径1.1m、深さ0.45mを測る。断面形態は、逆台形状である。埋土は、①褐灰色土(10YR 4/1)にぶい黄橙色土(10YR 7/3)がブロック状に混じる、②にぶい黄橙色土(10YR 7/3)に褐灰色土(10YR 4/1)が混じる、③褐灰色粘質土(10YR 6/1)に灰白色砂質土(10YR 7/1)混じる、である。出土遺物には、土師器の皿・碗・土釜、須恵器、瓦器、陶磁器がある。

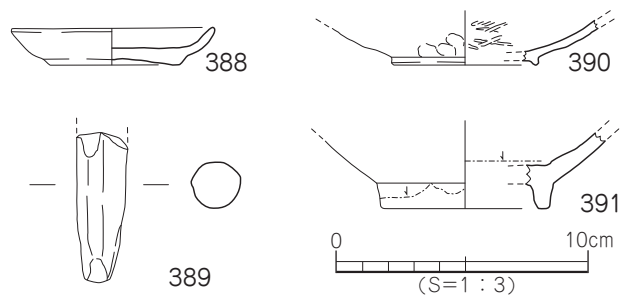
出土遺物 (388～391)

388・389は土師器。388は皿。短く内湾する体部から口縁部。口縁端部は丸い。389は土釜。三足付土釜の脚部。390は瓦器碗。内面に暗文がある。391は陶磁器の碗。削り出し高台の底部片。内面に釉のかき取り痕がある。

時期：出土遺物から、中世の土坑と考えられる。



- ①層：褐灰色土 [10YR 4/1] にぶい黄褐色土 [10YR 7/3] がブロック状に混じる
- ②層：にぶい黄褐色土 [10YR 7/3] に褐灰色土 [10YR 4/1] が混じる
- ③層：褐灰色粘質土 [10YR 6/1] に灰白色砂質土 [10YR 7/1] が混じる



第120図 SK204 測量図・出土遺物実測図

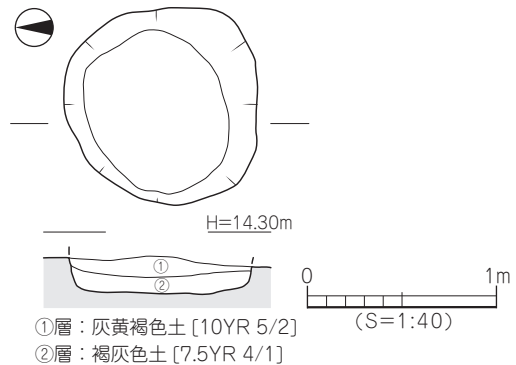
SK206 (第121・122図)

SK206は、調査区のC8区に位置し、SK216とSD201を切る。平面形態は円形で、規模は径1.05m、深さ0.20mを測る。断面形態は、逆台形状である。埋土は、①灰黄褐色土(10YR 5/2)、②褐灰色土(7.5YR 4/1)である。出土遺物には、土師器の皿・土釜、須恵器、瓦器、陶磁器、石製品がある。

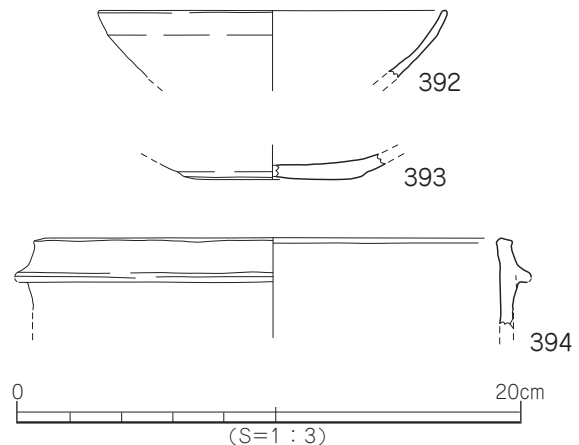
出土遺物 (392～398)

392～397は土師器。392・393は坏。392は内湾する体部。393は底部の小片。394～397は土釜。394～396は口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。395・396は煤が付着している。397は底部の小片。煤が付着している。398は石庖丁の小片。材質は結晶片岩である。

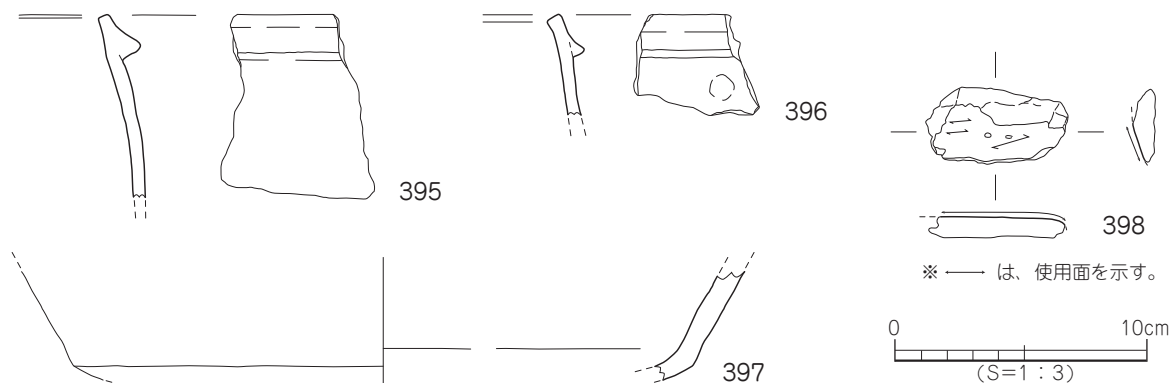
時期：出土遺物から、中世の土坑と考えられる。



- ①層：灰黄褐色土 [10YR 5/2]
- ②層：褐灰色土 [7.5YR 4/1]



第121図 SK206 測量図・出土遺物実測図 (1)

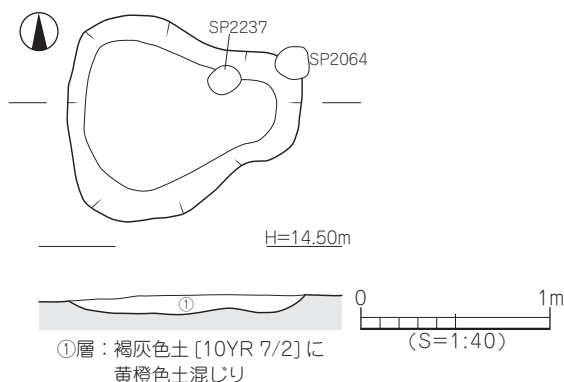


第122図 SK206 出土遺物実測図(2)

**SK207 (第123図)**

SK207は、調査区のC7区に位置し、SP2064・2237に切られる。平面形態は不整形で、規模は長さ1.25m、幅1.09m、深さ0.10mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(10YR 7/2)に黄橙色土混じり、である。出土遺物には、土師器の皿、須恵器があるが、実測可能遺物はない。

時期:出土遺物から、中世の土坑と考えられる。



第123図 SK207 測量図

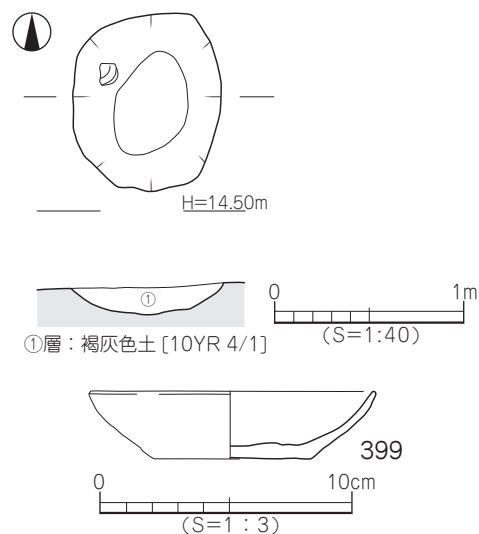
**SK211 (第124図)**

SK211は、調査区のD9区に位置し、SD202・204を切る。平面形態は楕円形で、規模は径0.78m~0.94m、深さ0.15mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(10YR 4/1)である。出土遺物には、土師器の坏の完形品1点がある。

**出土遺物 (399)**

399は土師器の坏。底部の切り離しは、回転糸切りで、板状圧痕が見られる。

時期:出土遺物から、中世の土坑と考えられる。

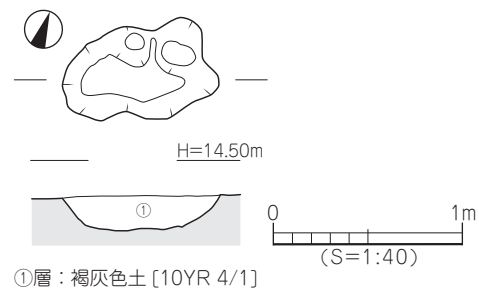


第124図 SK211 測量図・出土遺物実測図

**SK212 (第125図)**

SK212は調査区のD6区に位置する。平面形態は不整形で、規模は長さ0.82m、幅0.47m、深さ0.18mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(10YR 4/1)である。出土遺物はない。

時期:検出状況から、中世の土坑と考えられる。



第125図 SK212 測量図

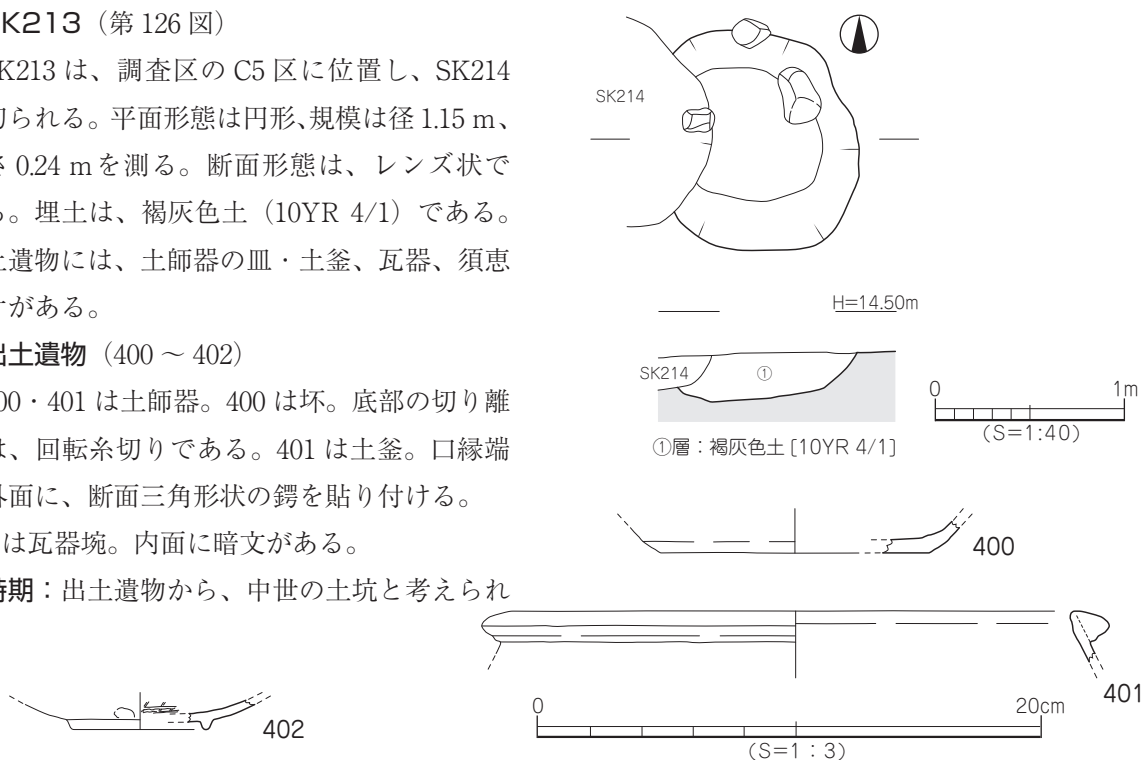
SK213 (第126図)

SK213は、調査区のC5区に位置し、SK214に切られる。平面形態は円形、規模は径1.15m、深さ0.24mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(10YR 4/1)である。出土遺物には、土師器の皿・土釜、瓦器、須恵器片がある。

出土遺物 (400～402)

400・401は土師器。400は坏。底部の切り離しは、回転糸切りである。401は土釜。口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。402は瓦器碗。内面に暗文がある。

時期：出土遺物から、中世の土坑と考えられる。



第126図 SK213 測量図・出土遺物実測図

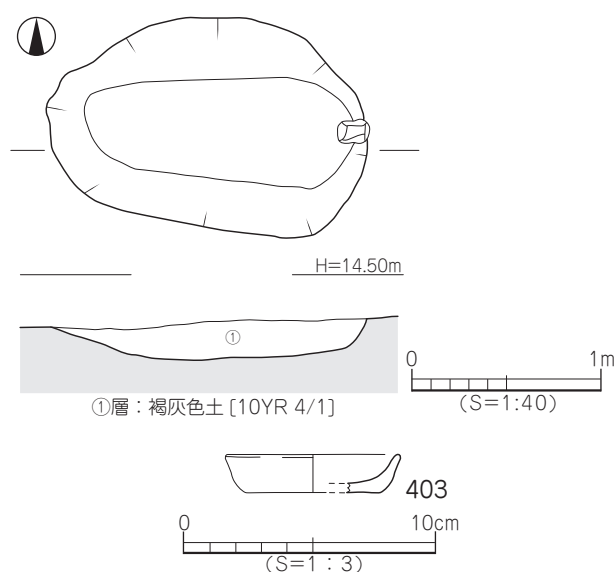
SK214 (第127図)

SK214は、調査区のC5区に位置し、SK213を切る。平面形態は楕円形で、規模は長さ1.72m、幅1.23m、深さ0.21mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(10YR 4/1)である。出土遺物には、土師器の皿・土釜、須恵器がある。

出土遺物 (403)

403は土師器の皿。直立気味にたちあがる体部。口縁端部は丸い。

時期：出土遺物から、中世の土坑と考えられる。

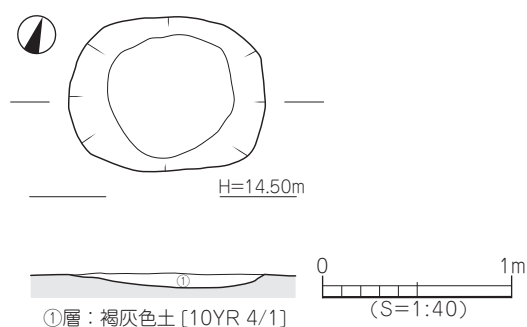


第127図 SK214 測量図・出土遺物実測図

SK215 (第128図)

SK215は、調査区のC9区に位置し、平面形態は楕円形で、規模は径1.05m、0.82m、深さ0.08mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(10YR 4/1)である。出土遺物はない。

時期：検出状況から、中世の土坑と考えられる。



第128図 SK215 測量図

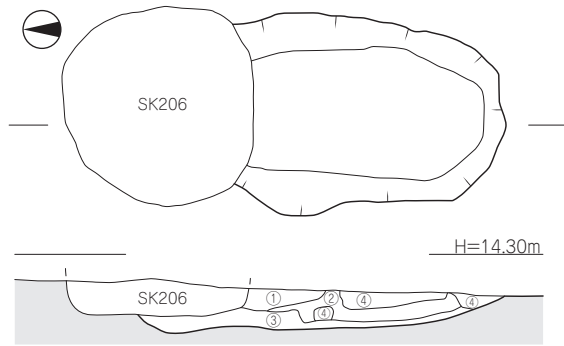
SK216 (第129図)

SK216は、調査区のC8区に位置し、SK206に切られる。平面形態は楕円形で、規模は検出長1.96m、幅1.07m、深さ0.20mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、①灰黄褐色土(10YR 6/2)、②浅黄橙色土(10YR 8/4)、③褐灰色土(10YR 4/1)、④灰黄褐色土(10YR 6/2)に浅黄橙色土(10YR 8/4)がブロック状に混じる、である。出土遺物には、土師器の皿・土釜、瓦器、須恵器がある。

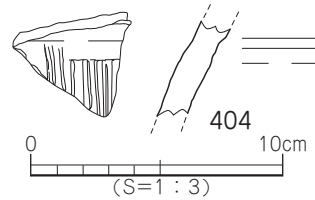
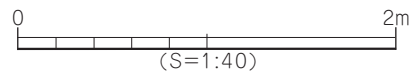
出土遺物(404)

404は陶器の播鉢。内面に7条の櫛目が残る。

時期:出土遺物から、中世の土坑と考えられる。



- ①層: 灰黄褐色土 [10YR 6/2]
- ②層: 浅黄橙色土 [10YR 8/4]
- ③層: 褐灰色土 [10YR 4/1]
- ④層: 灰黄褐色土 [10YR 6/2] に浅黄橙色土 [10YR 8/4] がブロック状に混じる



第129図 SK216 測量図・出土遺物実測図

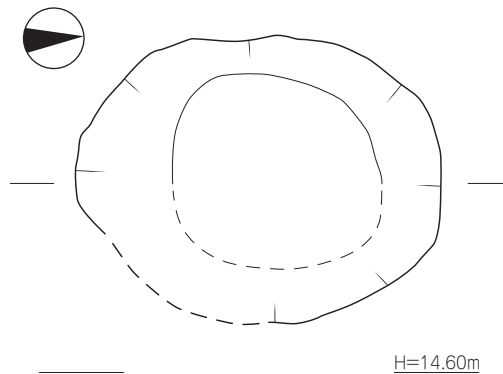
SK217 (SE203) (第130・131図、図版25)

SK217は、調査区のF8・9区に位置し、南側をカクランに切られる。平面形態は楕円形で、規模は径1.93m、幅1.50m、深さ0.63mを測る。素掘りの井戸である。断面形態は、逆台形状である。埋土は、①褐灰色土(10YR 4/1)、②にぶい橙色土(7.5YR 6/4)、③黄灰色粘質土(2.5Y 4/1)、④黄灰色粘質土(2.5Y 6/1)、⑤灰黄色粘質土(2.5Y 7/2)である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、瓦器、須恵器の瓶、砥石がある。

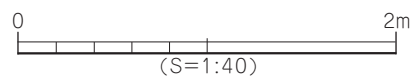
出土遺物(405～415)

405～412は土師器。405～409は坏。405～407は底部の小片。405の底部の切り離しは、回転糸切りである。407は外面に段をもち体部につづく。408・409は底部に、断面三角形の高台を貼り付ける。410は埴。体部は内湾し、口縁端部は尖り気味である。411は土釜の口縁部片。口縁部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。煤が付着する。412は土鍋。短く外傾する口縁部の小片。煤が付着する。413は瓦器埴。体部は内湾し、内面に暗文がある。414は須恵器の瓶の底部片である。415は砥石。全面に使用痕が見られ、よく使いこまれている。

時期:出土遺物から、中世の土坑と考えられる。

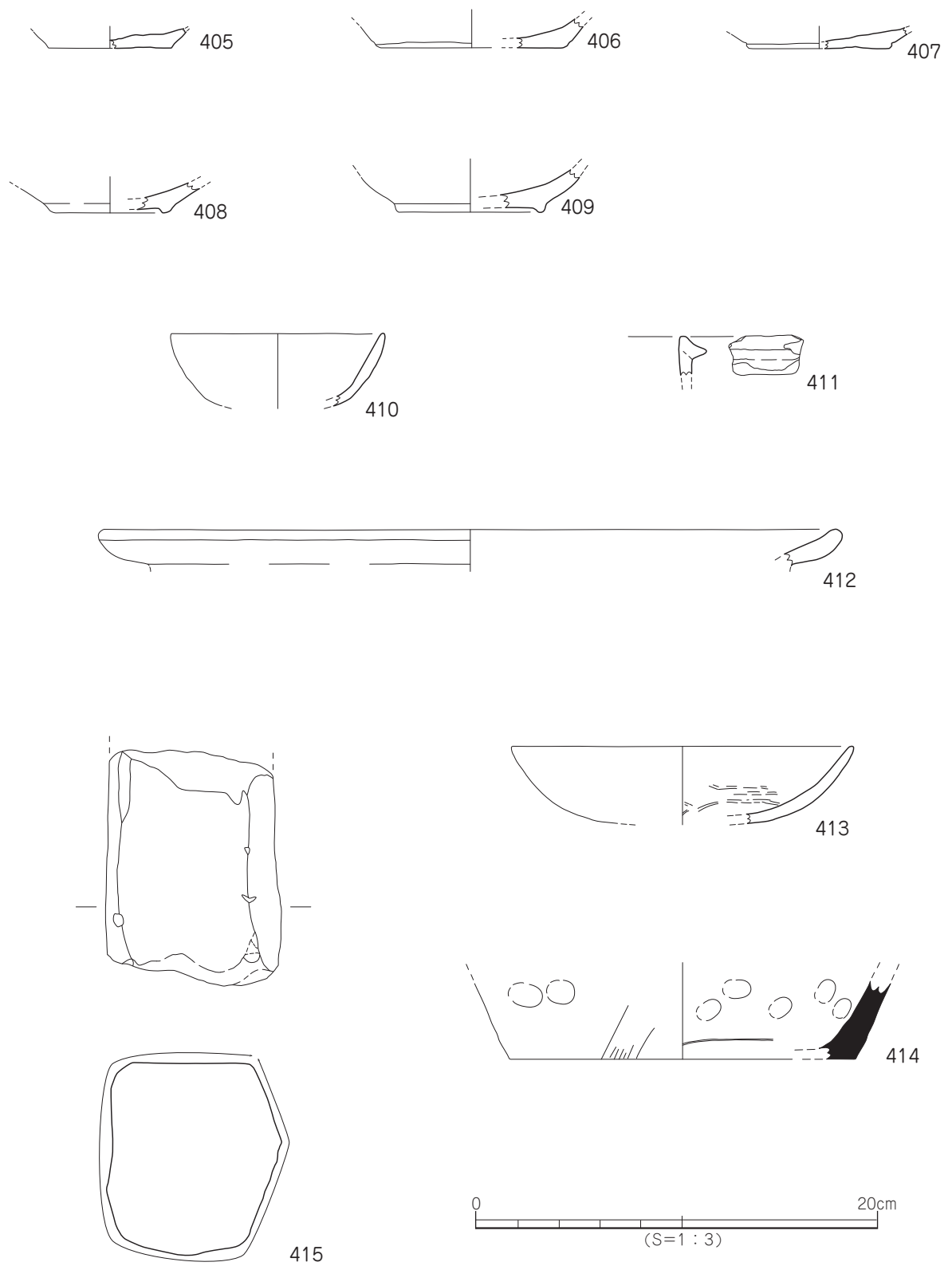


- ①層: 褐灰色土 [10YR 4/1]
- ②層: にぶい橙色土 [7.5YR 6/4]
- ③層: 黄灰色粘質土 [2.5Y 4/1]
- ④層: 黄灰色粘質土 [2.5Y 6/1]
- ⑤層: 灰黄色粘質土 [2.5Y 7/2]



第130図 SK217 (SE203) 測量図

遺構と遺物



※ ← は、使用面を示す。

第 131 図 SK217 (SE203) 出土遺物実測図

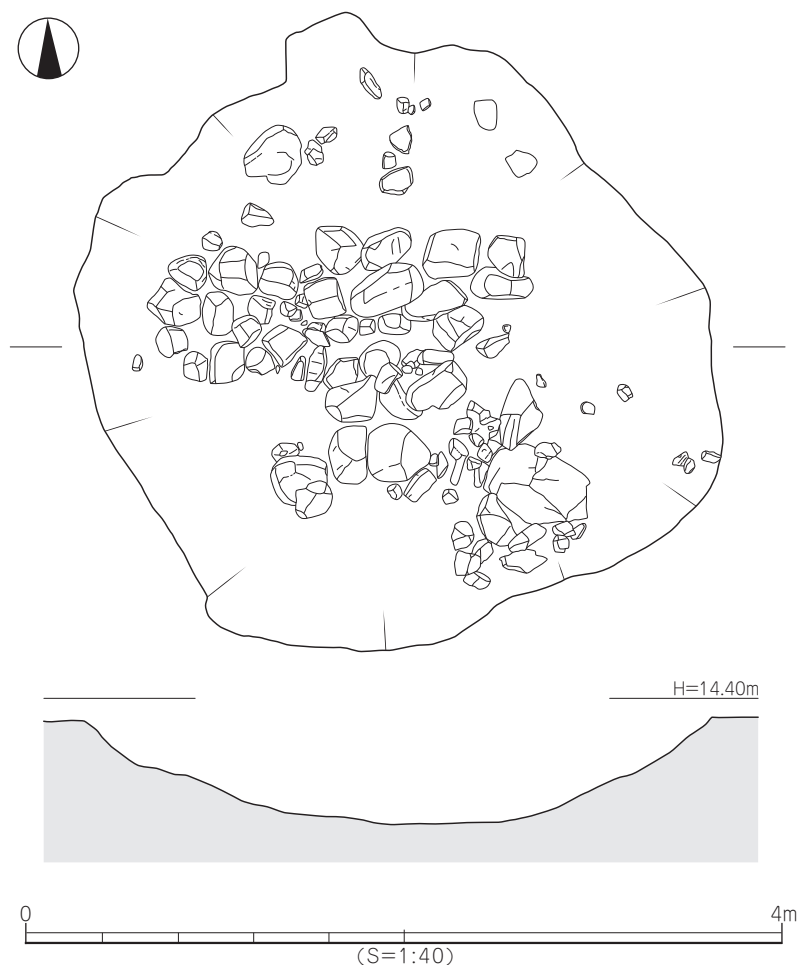
SK218 (SE205) (第132～134図、図版25)

SK218は、調査区のD7区に位置し、SD216を切る。平面形態は円形で、規模は長軸3.45m、短軸3.18m、深さ0.60mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(10YR 4/1)である。内部には、10～70cm大の石が散乱し、破壊された井戸と考えられる。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、須恵器の坏蓋・甕・捏鉢、瓦器、備前焼の擂鉢、陶磁器、滑石製の鍋がある。

出土遺物(416～435)

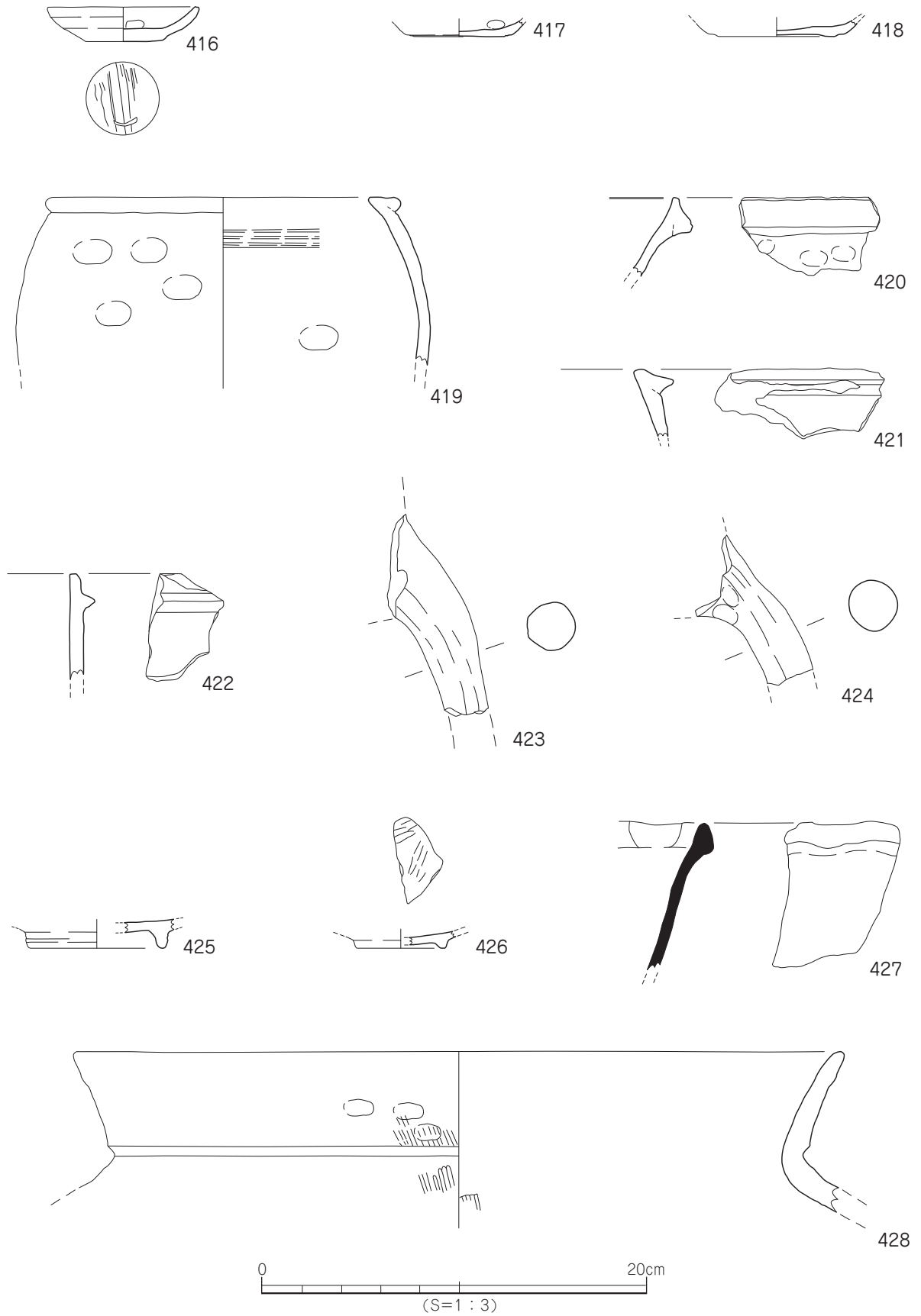
416～425は土師器。416～418は皿。416は底部に板状圧痕が残る。417・418は底部の小片。419～424は土釜。419～422は口縁端部外面に、断面三角形状の鏝を貼り付ける。煤が付着する。423・424は三足付土釜の脚部で煤が付着する。425は内黒土器の塊。426は瓦器塊。底部小片。内面に暗文がある。427は東播系須恵器の片口鉢の口縁部である。428は瓦質土器の甕。口縁部は外傾し端部は丸い。429～433は陶器。429～432は備前焼の擂鉢。429の口縁端部は内傾し先細りである。内面に櫛目が見られる。430の口縁部はナデにより上下に拡張され、内面には櫛目が見られる。431の口縁端部は直立し先細りである。432の内面には7本の櫛目がある。433は甕。頸部から胴部の残存で亀山焼である。434は須恵器の坏蓋。口縁端部は尖り気味で、内傾する面をもつ。435は石鍋。口縁部外面下に断面「コ」の字状の鏝を削り出す。(滑石製。長崎県産。)

時期：出土遺物から、中世の土坑と考えられる。



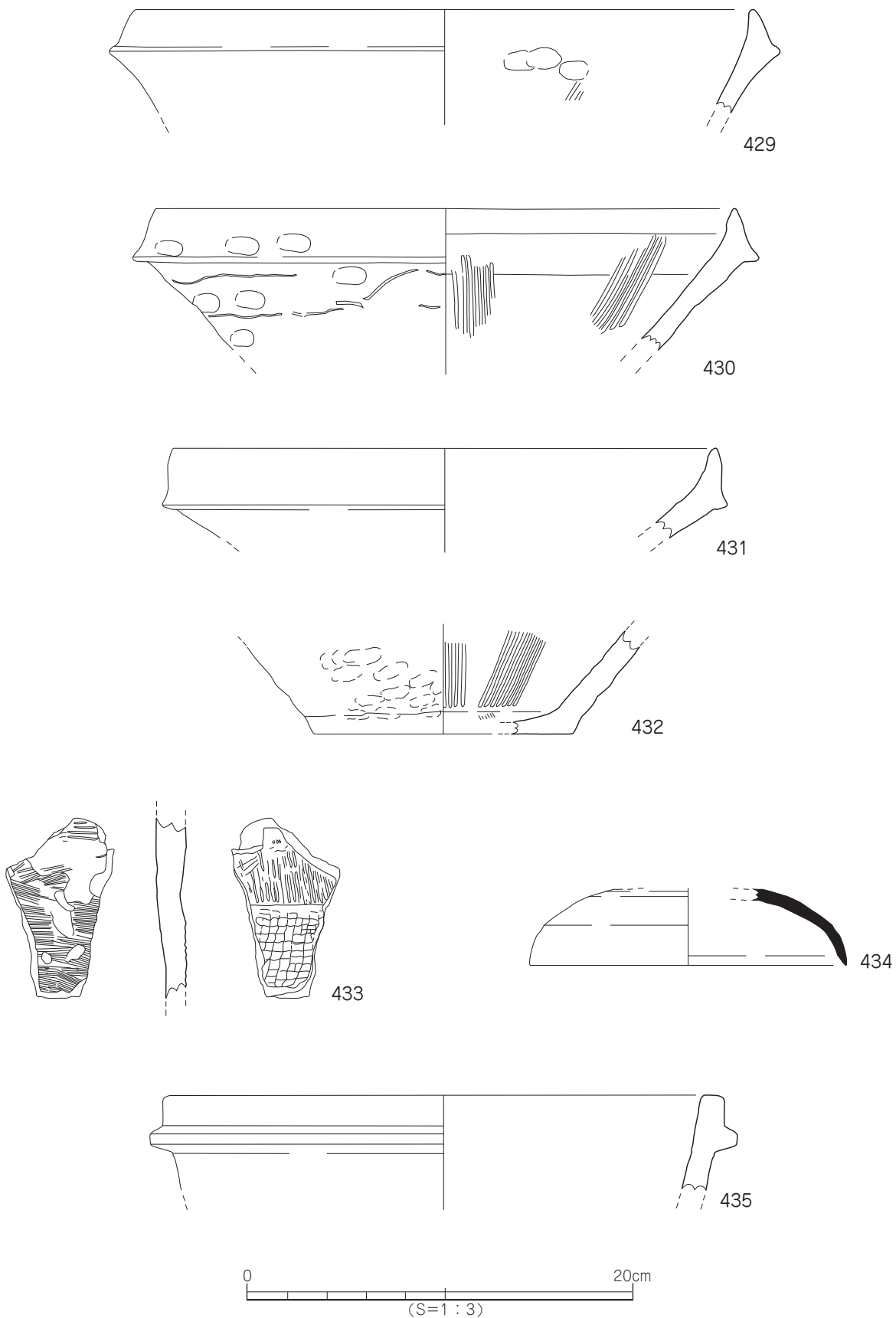
第132図 SK218 (SE205) 測量図

遺構と遺物



第 133 図 SK218 (SE205) 出土遺物実測図 (1)





第134図 SK218 (SE205) 出土遺物実測図(2)

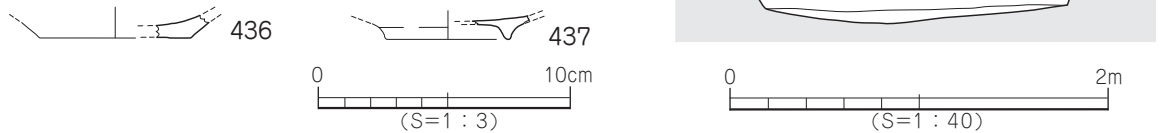
SK219 (SE206) (第 135 図)

SK219 は、調査区の C8・9 区に位置し、SD221 を切る。平面形態は不整形で、規模は長軸 2.27 m、短軸 1.70 m、深さ 0.70 m を測る。断面形態は、逆台形状である。埋土は、褐灰色土 (10YR 4/1) である。内部には 10 ~ 70cm 大の石が散乱していた。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、須恵器の坏蓋・甕・捏鉢、瓦器、備前焼の播鉢、陶磁器がある。

出土遺物 (436・437)

436・437 は土師器。坏底部の小片。底部の切り離しは、回転糸切りである。437 は埴。底部に、断面三角形の高台を貼り付ける。

時期：出土遺物から、中世の土坑と考えられる。



第 135 図 SK219 (SE206) 測量図・出土遺物実測図

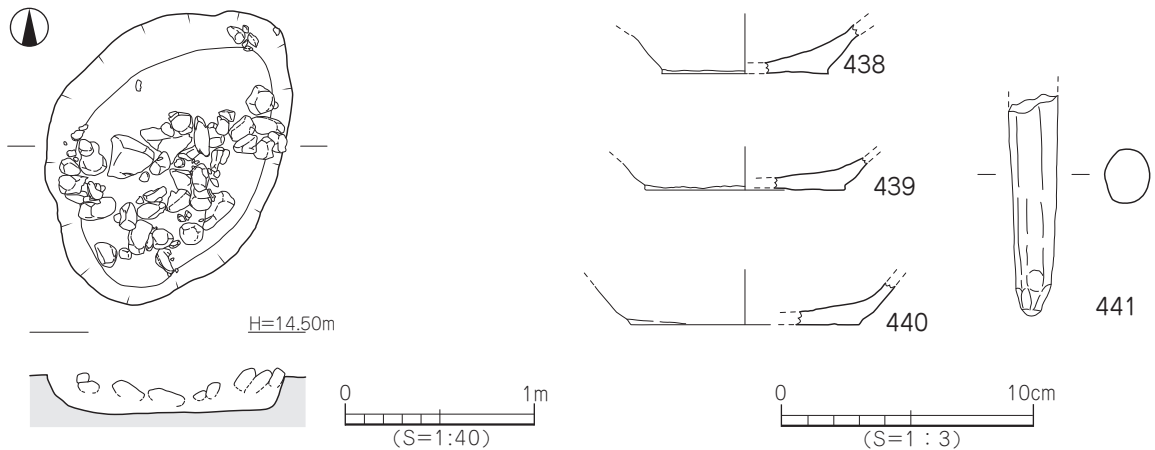
SK220 (SE210) (第 136 図)

SK220 は、調査区の D6・7 区に位置する。平面形態は楕円形で、規模は長軸 1.70 m、短軸 1.23 m、深さ 0.22 m を測る。断面形態は、逆台形状である。埋土は、褐灰色土 (10YR 4/1) である。内部には、10 ~ 70cm 大の石が散乱していた。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、須恵器の坏蓋・甕・捏鉢、瓦器、備前焼の播鉢、陶磁器がある。

出土遺物 (438 ~ 441)

438 ~ 441 は土師器。438 ~ 440 は坏の底部小片。底部の切り離しは、回転糸切りである。441 は三足付土釜の脚部である。

時期：出土遺物から、中世の土坑と考えられる。



第 136 図 SK220 (SE210) 測量図・出土遺物実測図

## 2) 井戸

井戸は11基を検出した。

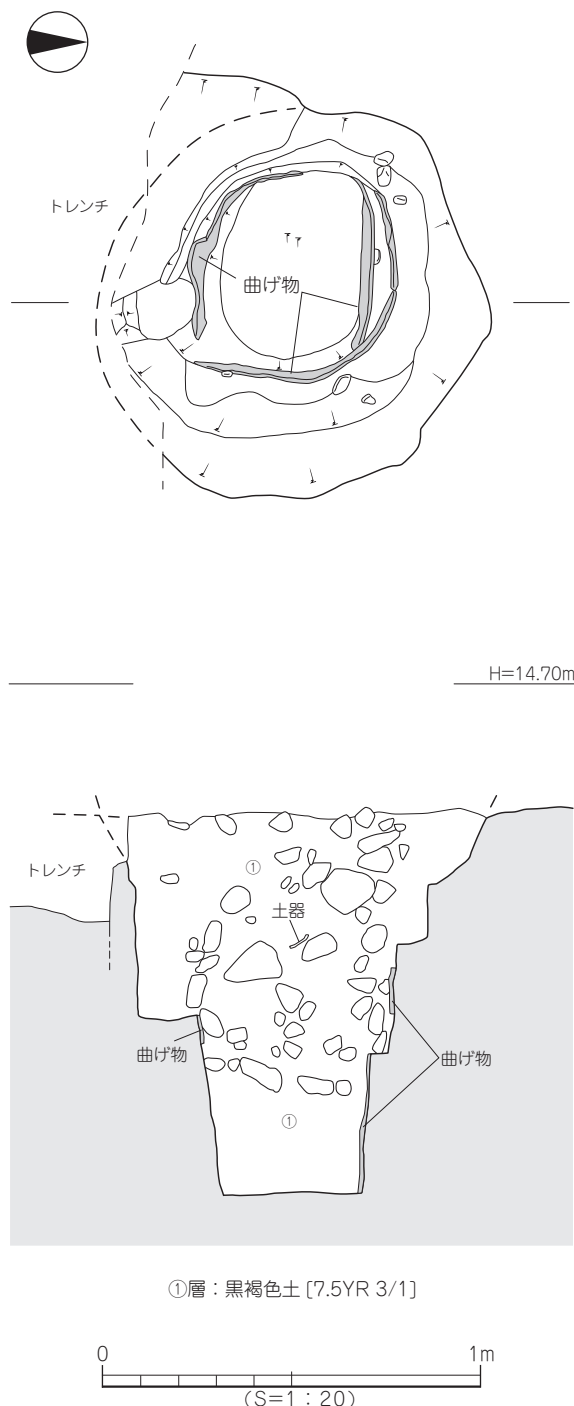
### SE201 (第137・138図、図版25)

SE201は、調査区のE10区に位置し、南側は1次調査区につづく。掘方は平面形態は円形で、規模は径1.04m、深さ1.0mを測る。断面形態は、逆台形状である。埋土は、黒褐色土(7.5YR 3/1)である。井戸の構造は、井戸側は素掘りで、水溜めに曲げ物を、上下二段に検出した。規模は、上段の曲げ物が径0.5m、下段の曲げ物が径0.37mを測る。井戸内からは、こぶし大の礫を多数検出した。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜・ミニチュア土器、須恵器の甕、陶器の甕がある。

### 出土遺物 (442～460)

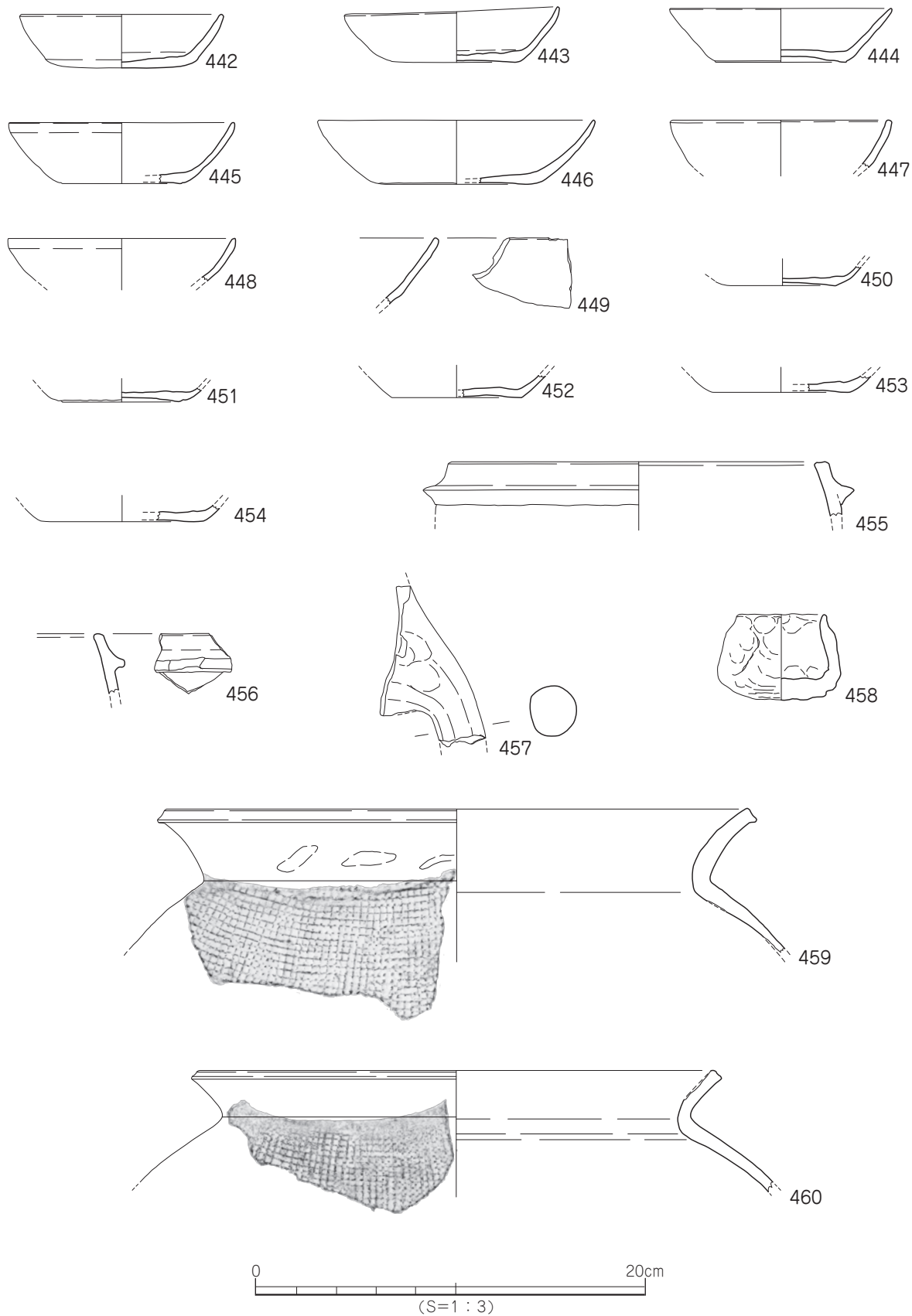
442～458は土師器。442～454は坏。442の底部の切り離しは回転糸切りで、板状圧痕がある。443はわずかに上げ底で、全体に歪みがある。444の口縁部は、外傾し口縁端部は、尖り気味である。底部はわずかに上げ底で、底部の切り離しは回転糸切りである。445の口縁部は内湾し、底部の切り離しは回転糸切りである。446は底部の切り離しは回転糸切りで、板状圧痕がある。内面には煤が付着し、二次的焼成を受けて剥離と摩滅が著しい。447・448は、内湾する口縁部の小片。449は口縁部の小片。二次的焼成を受けている。450～452の底部の切り離しは回転糸切りである。452には底部に板状圧痕があり、内面には煤が付着している。453・454は底部片で、底部の切り離しは回転糸切りである。455～457は土釜。455・456は口縁部片。口縁部外面下に断面三角形状の鏝を貼り付ける。煤が付着する。457は三足付土釜の脚部。458は手捏ね土器。底部は丸く、口縁部は直立し端部は細い。459・460は亀山焼の陶器の甕。外反する口縁端面はナデにより窪む。

**時期：**出土遺物から、中世の井戸と考えられる。



第137図 SE201 測量図

遺構と遺物



0 20cm  
(S=1 : 3)

第 138 図 SE201 出土遺物実測図

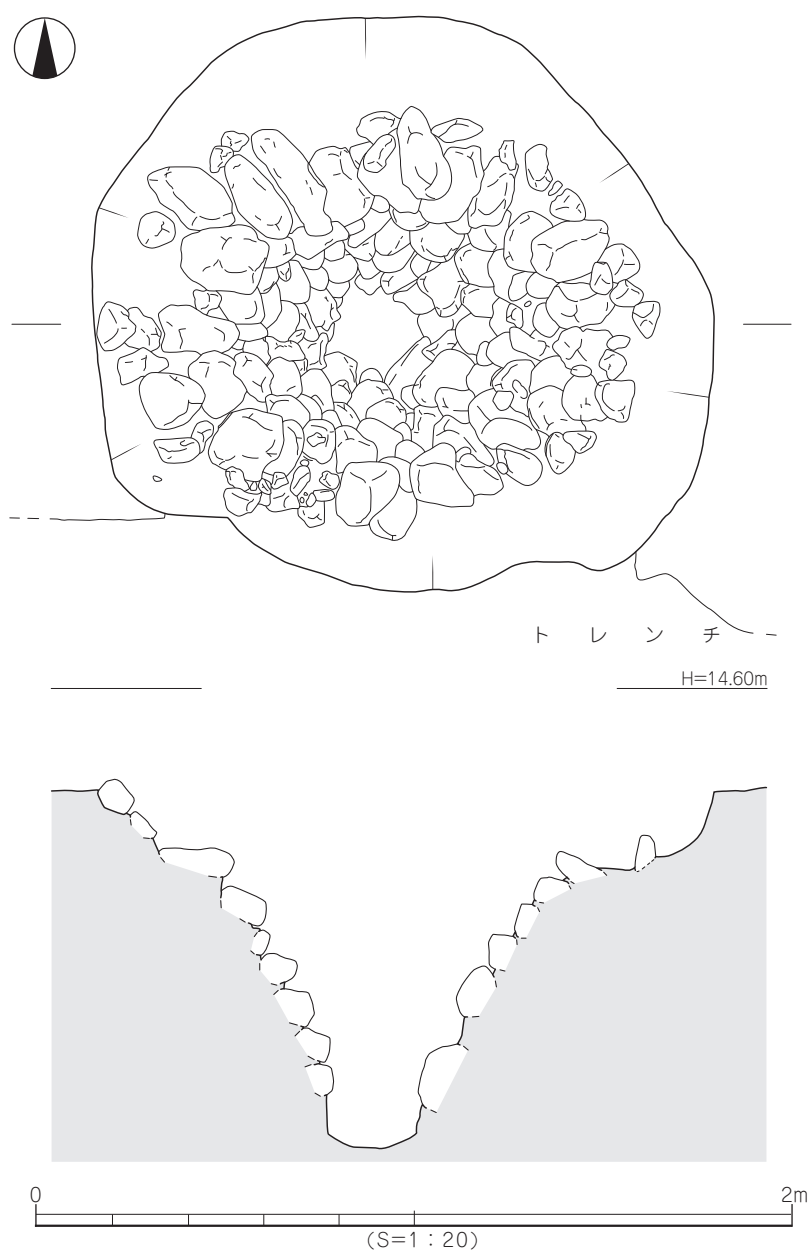
SE202 (第139・140図、図版20・25)

SE202は、調査区のD・E9・10区に位置し、南側は1次調査区につづく。掘方の平面形態は円形で、規模は径1.65m、幅1.1m、深さ0.95mを測る。断面形態は、漏斗状である。埋土は、褐灰色土(10YR 4/1)である。井戸の構造は、井戸側には5～30cm大の石を使用して播鉢状に組み上げ、上部で85cm、下部で22cmを測る。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、備前焼の甕、陶磁器がある。

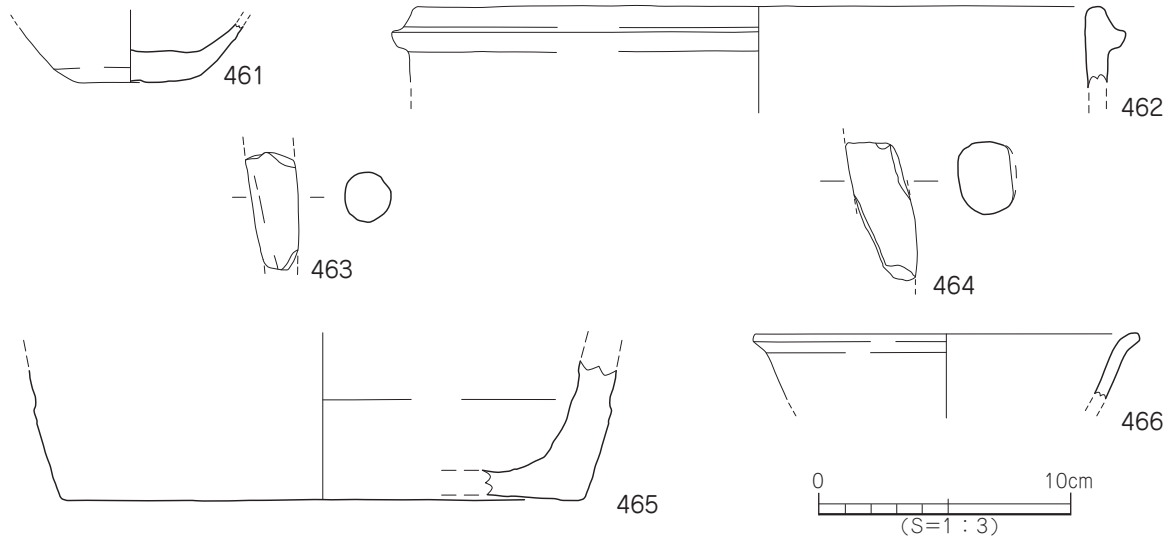
出土遺物(461～466)

461～464は土師器。461は坏。丸みのある底部。462～464は土釜。462は口縁部外面に、断面「コ」字状の鏝を貼り付ける。463・464は三足付土釜の脚部。465は陶器の甕の底部片。内面と外面の一部に、自然釉が付着する。466は陶磁器の碗。口縁端部は短く外反し丸い。

時期：出土遺物から、中世の井戸と考えられる。



第139図 SE202 測量図



第140図 SE202 出土遺物実測図

## SE204 (第141～146図、図版25)

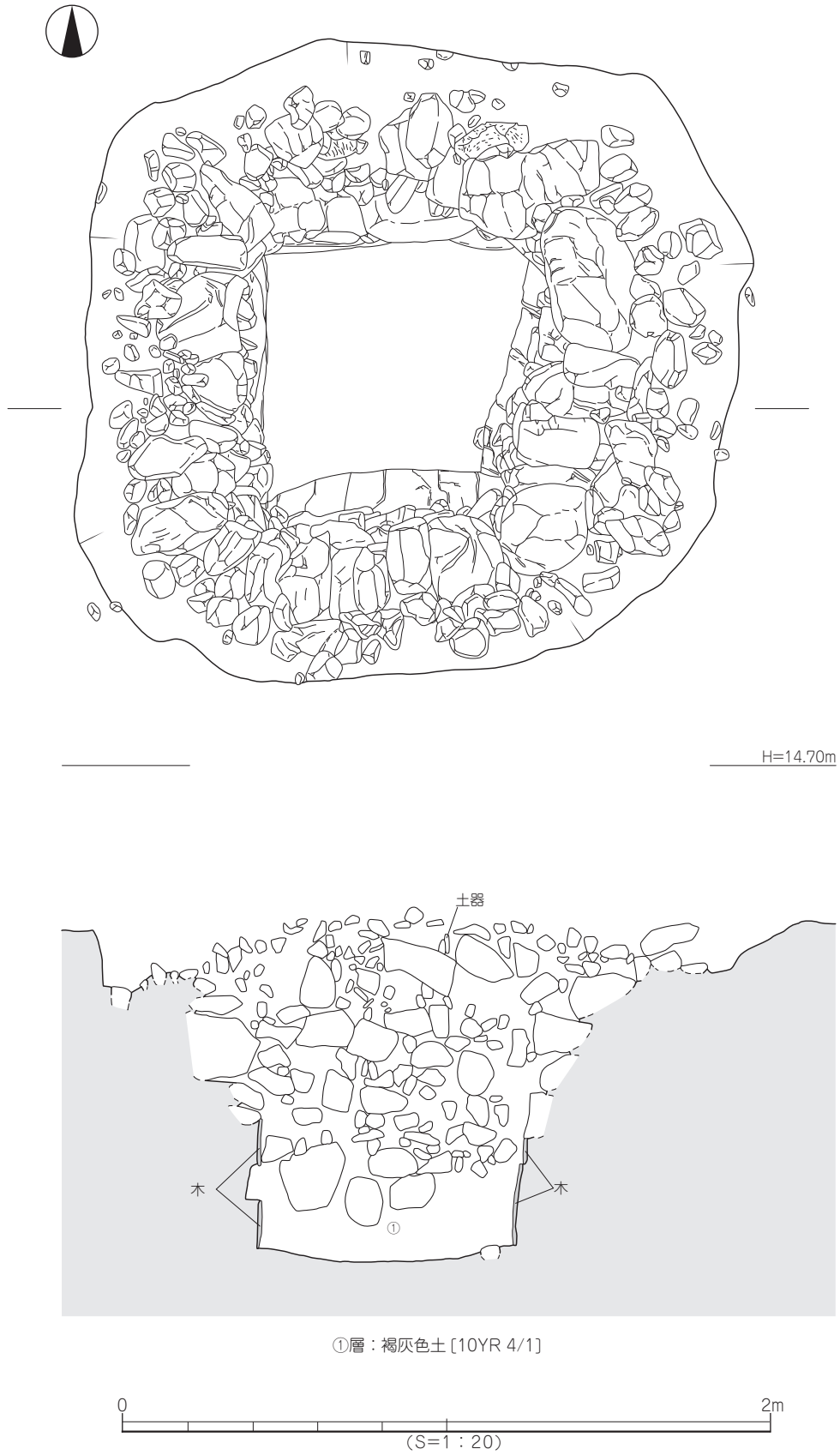
SE204は、調査区のD8区に位置し、SD201を切る。掘方の平面形態は方形で、規模は一辺2.0m、深さ1.03mを測る。断面形態は、逆台形状である。埋土は、褐灰色土(10YR 4/1)である。井戸の構造は井戸側には5～40cm大の石を使用して組み上げ、石組み下部の水ためには、四隅に杭を配置し、横木を渡している。規模は長さ82cm、深さ42cmを測る。井戸内は多量の石で埋められている。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜・大甕、須恵器の甕、瓦質土器、備前焼の甕・播鉢、陶磁器、砥石・石臼などの石製品とスラグがある。

## 出土遺物 (467～502)

467～477は土師器。467～470は坏。467は平底の底部に、僅かに内湾する口縁部から体部。底部の切り離しは、回転糸切りである。468は水平な底部。口縁端部は、尖り気味に丸い。煤が付着する。469は水平な底部をもつ。470は外傾する口縁部から体部をもつ。471～477は土釜。471～473は口縁部。口縁部外面下に、断面三角形状の鏝を貼り付ける。473は煤が付着する。474～477は三足付土釜の脚部。476・477には煤が付着する。478・479は瓦質土器の茶釜。478は直立する短い口縁部をもつ。479は頸部下に把手が付く。480～493は陶磁器。480・481は亀山焼の甕。480の口縁部はナデにより拡張され、端面は窪む。481の口縁部は短く外反し、端部はナデにより上下に拡張される。482～485は備前焼の播鉢。いずれも内面に櫛目が見られる。482の口縁部は直立し端面は、内傾する面をもつ。483は外傾する口縁部。486は陶器の壺。上げ底の底部片。487は青磁碗。削り出し高台の小片。488～491は壺。489の口縁部は短く外反し、端部は玉縁状である。490の口縁部は直立し、端部は玉縁状である。外面に自然釉が掛かる。491は短く外反する口縁端面は、ナデにより僅かに窪む。492・493は甕。492の口縁部は直立し、端部は折り返して玉縁状である。493の口縁部は直立し、口縁端部は玉縁状で外面に凹線を施す。自然釉が掛かる。494～502は石製品。494は石庖丁。両面共によく磨かれている。495は石器素材。結晶片岩。496～501は砥石。496・498は金属製品の研磨に使われた溝が見られる。496～500は流紋岩である。501は緑色片岩。502は石臼の上臼である。軸穴と挽手穴が残る。

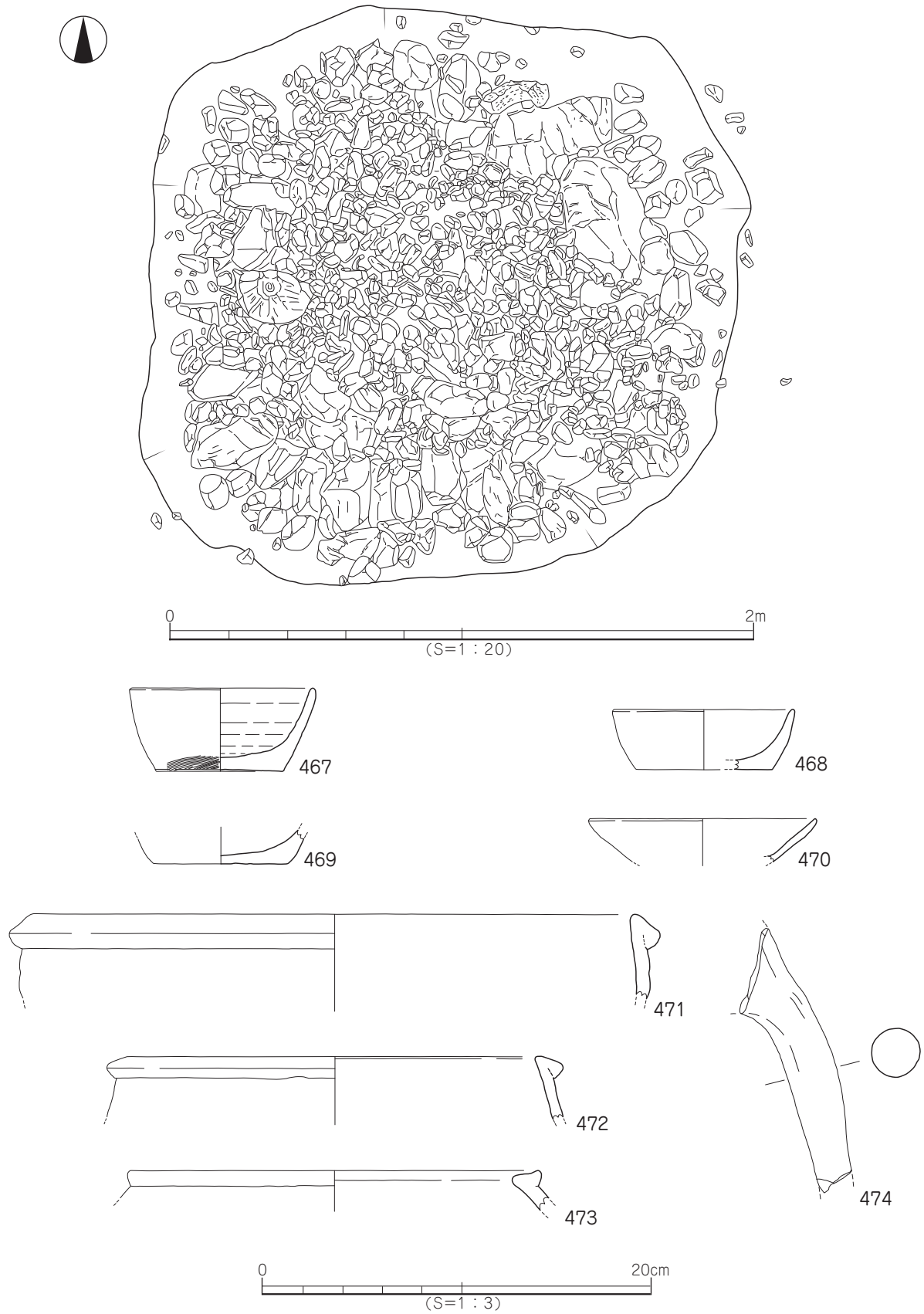
時期：出土遺物から、中世の井戸と考えられる。

南江戸上沖遺跡 2次調査 2区



第 141 図 SE204 測量図 (1)

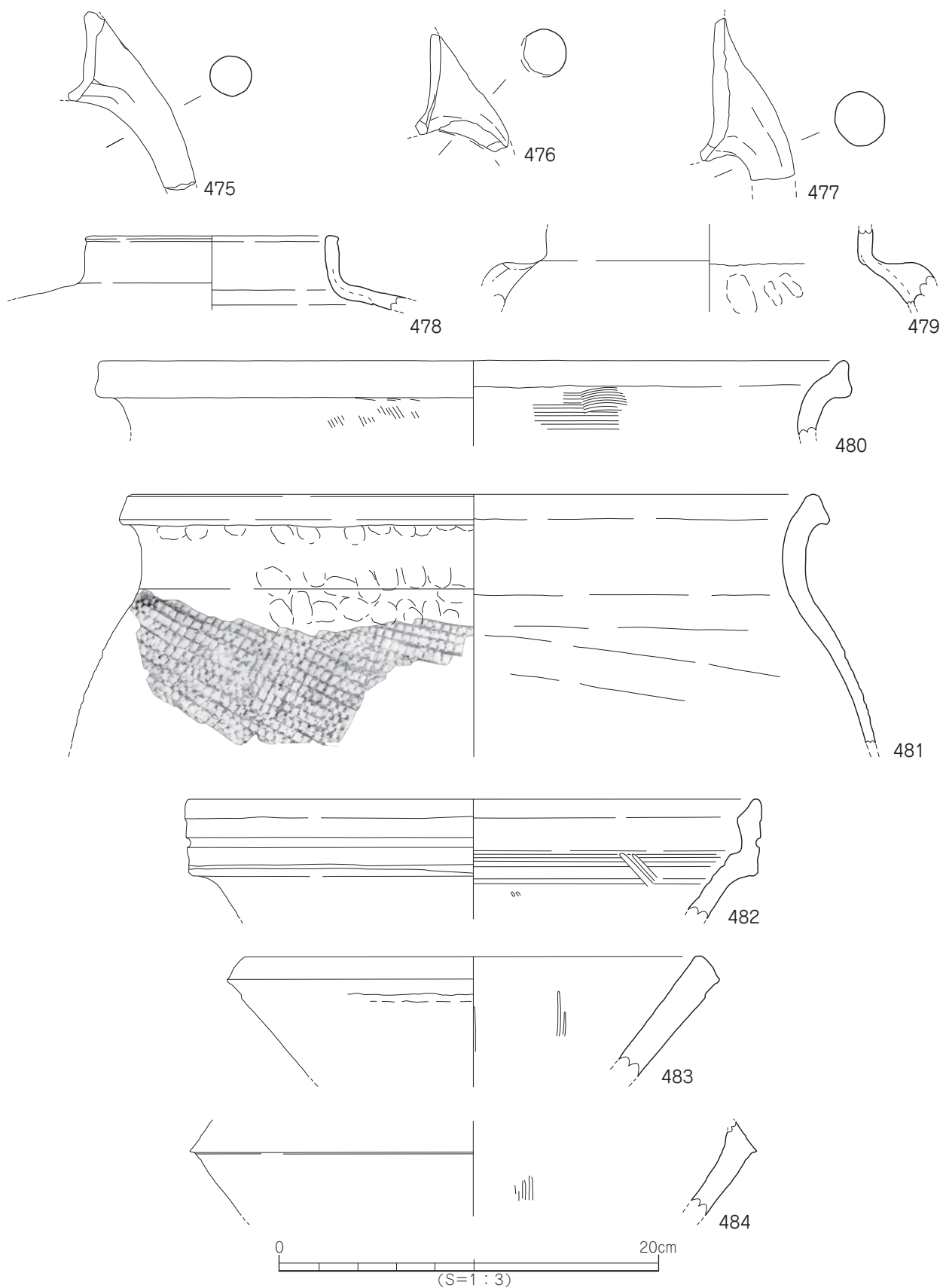
遺構と遺物



第 142 図 SE204 測量図 (2)・出土遺物実測図 (1)

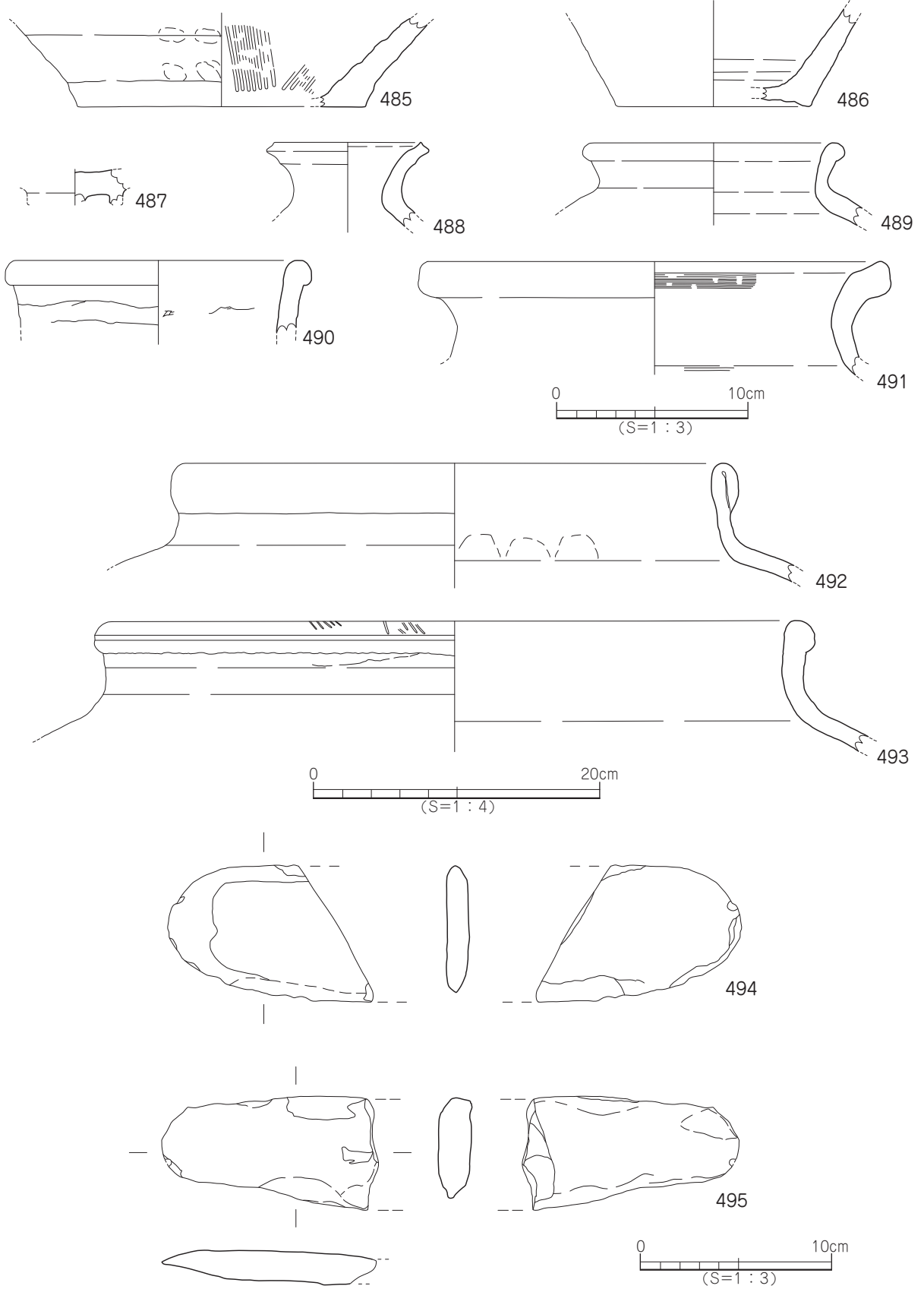


南江戸上沖遺跡2次調査2区

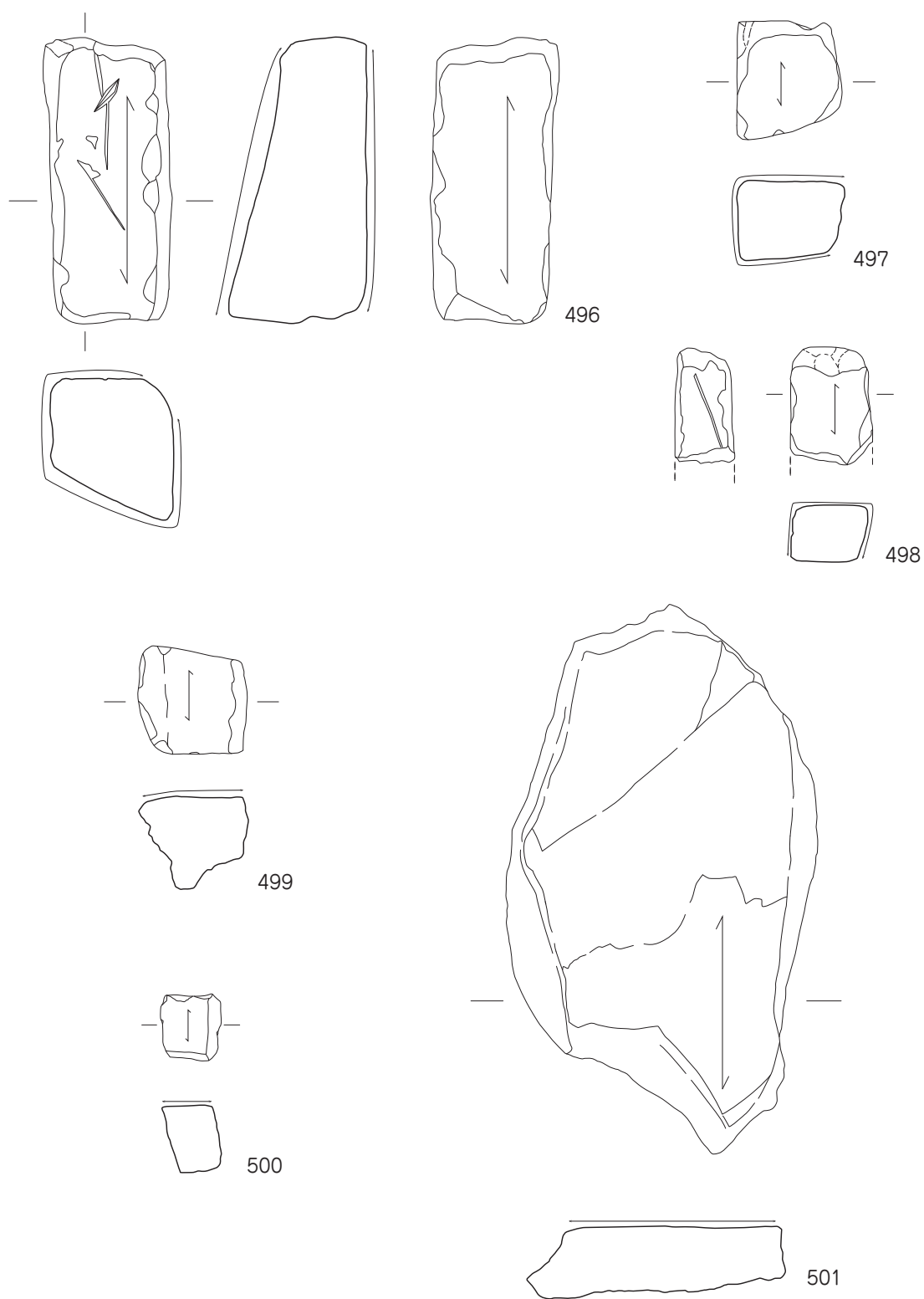


第143図 SE204 出土遺物実測図(2)

遺構と遺物



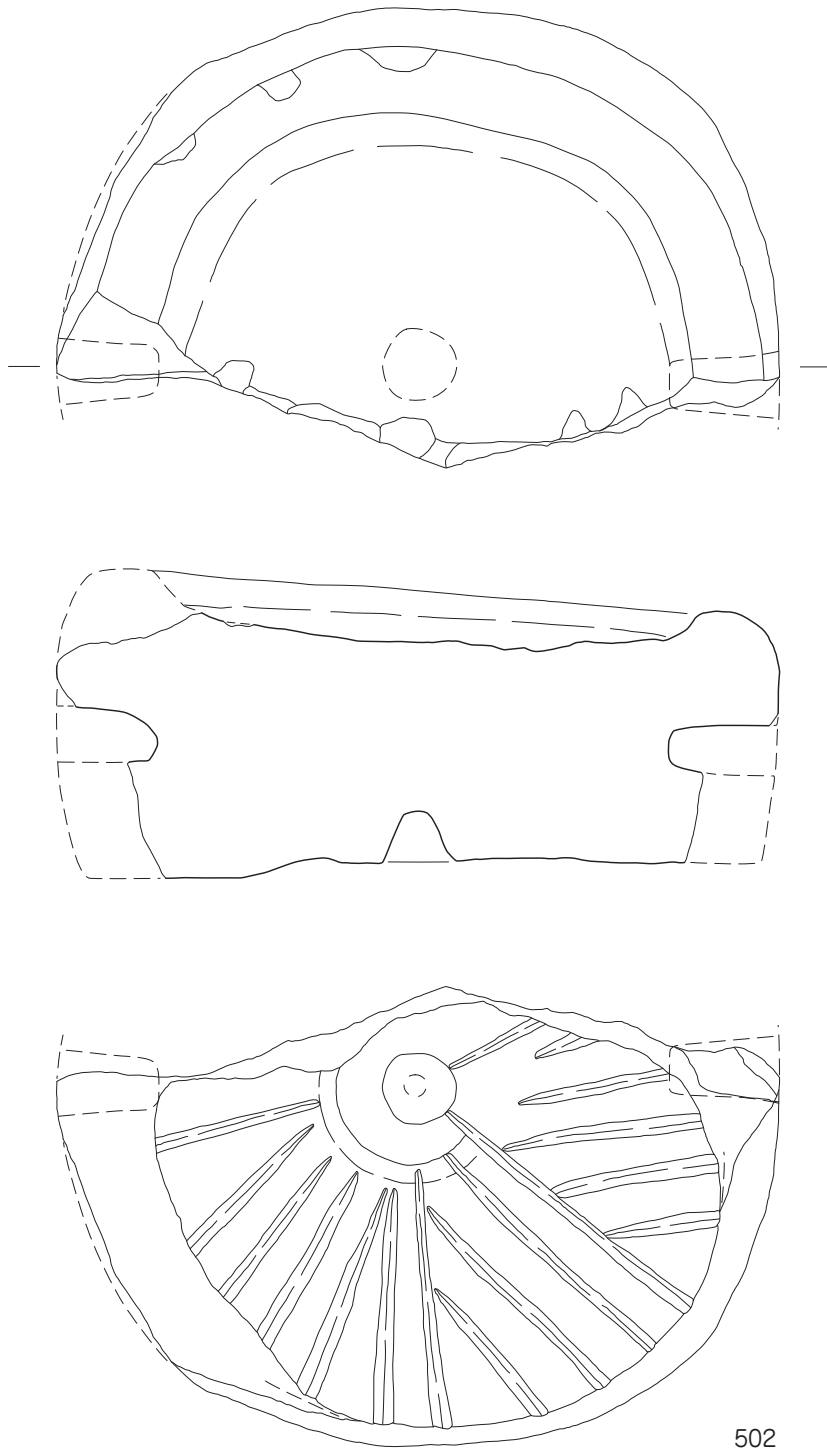
第 144 図 SE204 出土遺物実測図 (3)



※ — は、使用面を示す。

0 20cm  
(S=1:3)

第145図 SE204 出土遺物実測図(4)



0 20cm  
(S=1:3)

第 146 図 SE204 出土遺物実測図 (5)

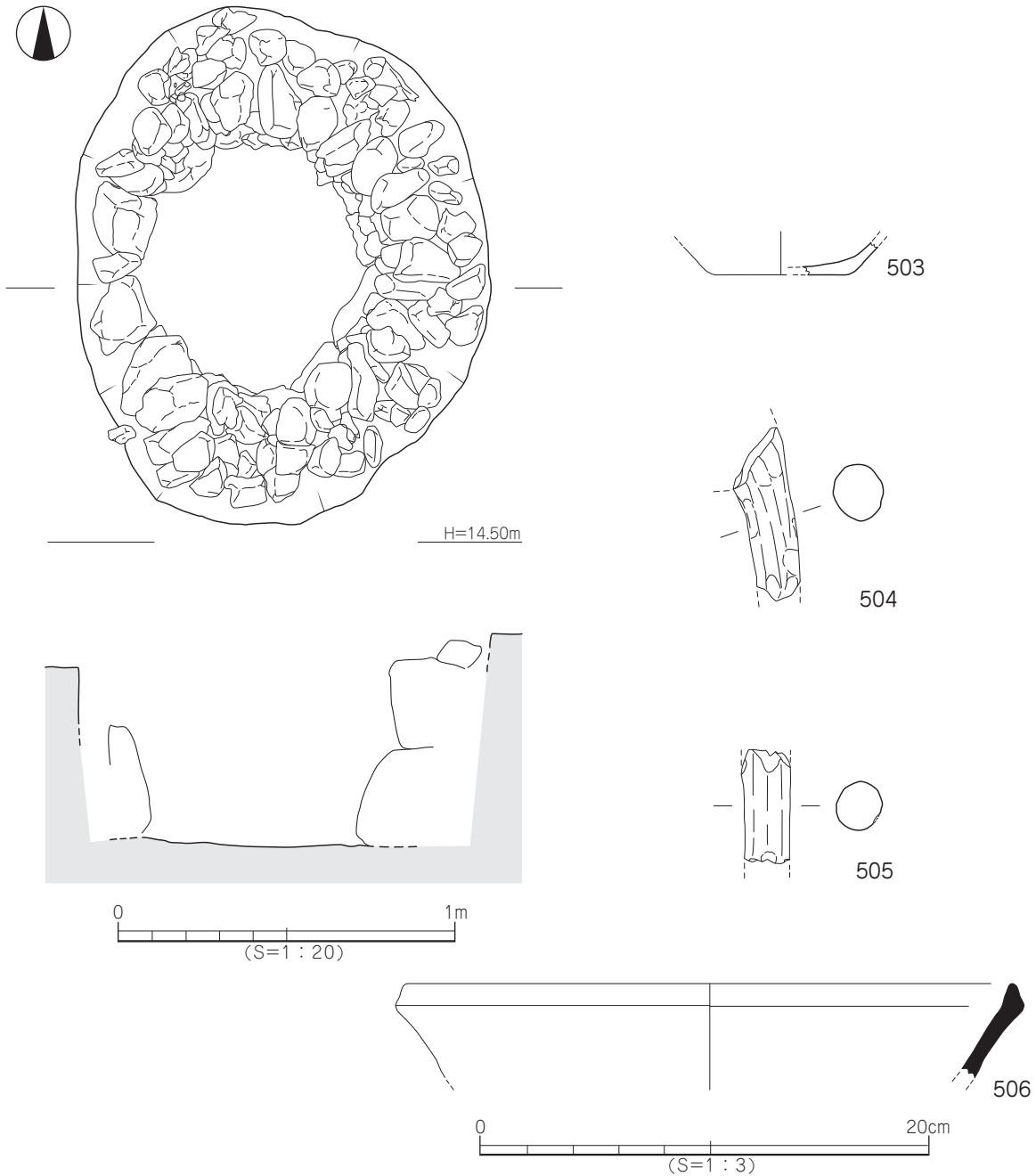
SE208 (第147図、図版20)

SE208は、調査区のDE・8区に位置し、SD213を切る。平面形態は楕円形で、規模は長軸1.65m、短軸1.23m、深さ0.64mを測る。断面形態は、逆台形状である。埋土は、褐灰色土(10YR 4/1)である。井戸の構造は井戸側に、10～30cmの石を3～5段に積み上げている。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、須恵器がある。

出土遺物 (503～506)

503～505は土師器。503は坏。底部の小片。504・505は三足付土釜の脚部。506は東播系須恵器の捏鉢。口縁部の小片である。

時期：出土遺物から、中世の井戸と考えられる。



第147図 SE208 測量図・出土遺物実測図

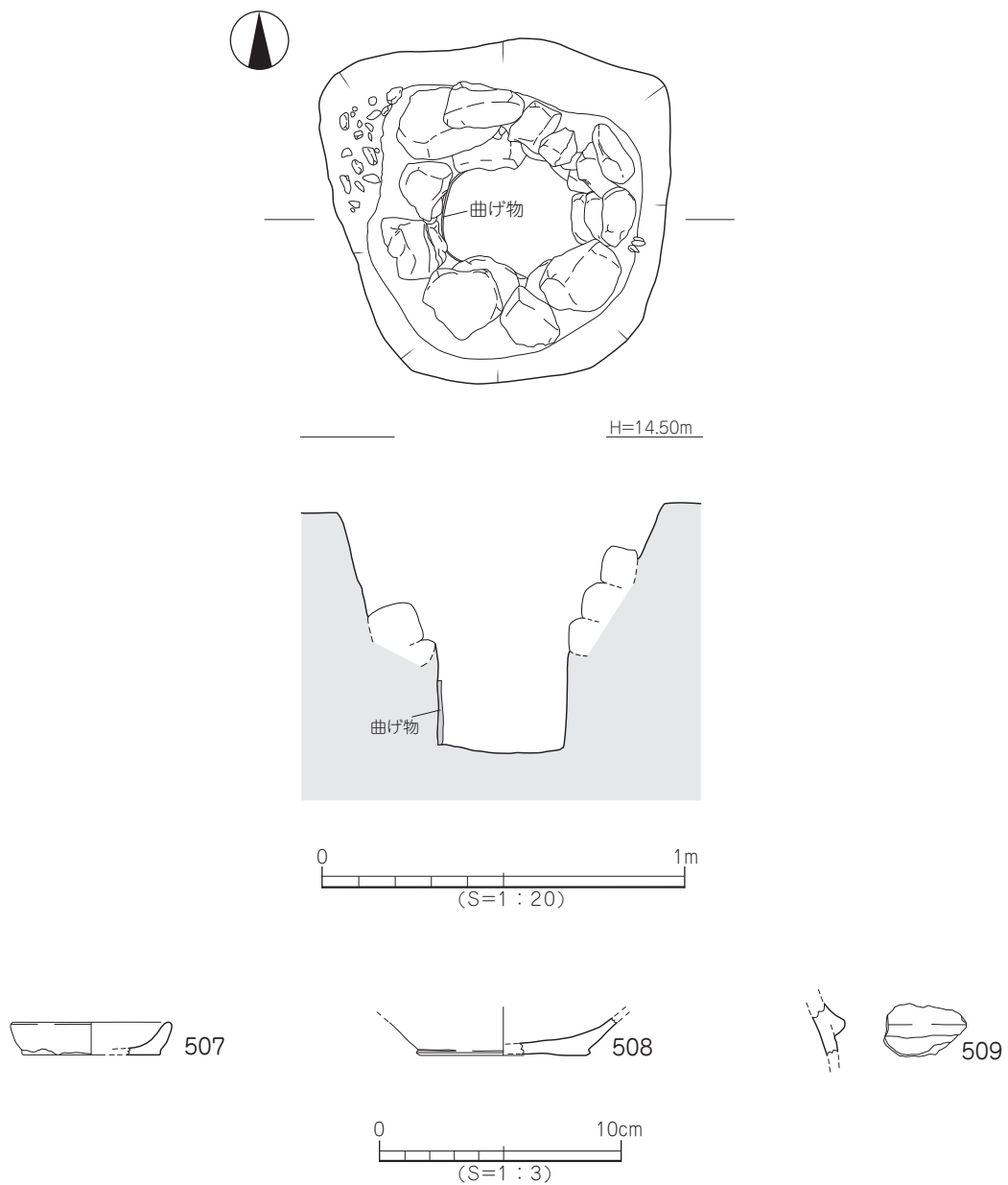
SE209 (第 148 図、図版 21)

SE209 は、調査区の D6 区に位置し、SD218 を切る。掘方の平面形態は、上面は不整形である。掘り方の規模は、長軸 0.95 m、短軸 0.90 m、深さ 0.68 m を測る。埋土は、褐灰色土 (10YR 4/1) である。井戸の構造は井戸側は、10 ~ 30cm の石を円形状に積み上げる。下部の水溜めは、円形の曲げ物を使用し、規模は径 25cm を測る。断面形態は、逆台形状である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、須恵器がある。

出土遺物 (507 ~ 509)

507 ~ 509 は土師器。507 は皿。短く外傾する口縁端部は丸い。外面に黒斑が見られる。508 は坏。底部の切り離しは、回転糸切りである。509 は土釜。口縁部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。

時期：出土遺物から、中世の井戸と考えられる。



第 148 図 SE209 測量図・出土遺物実測図

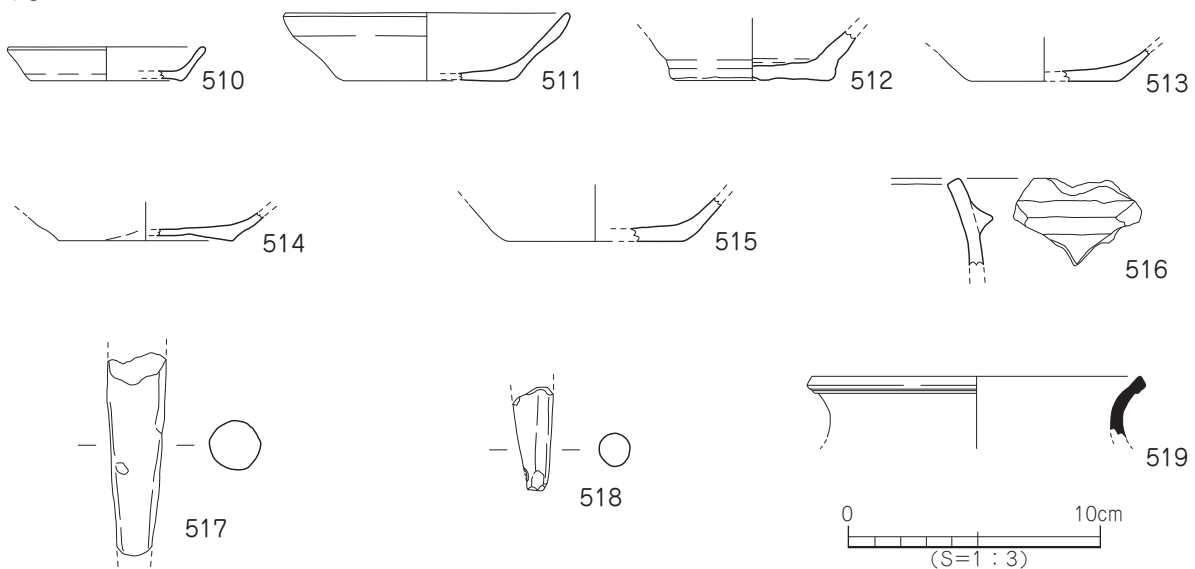
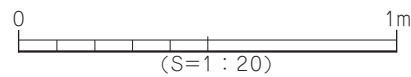
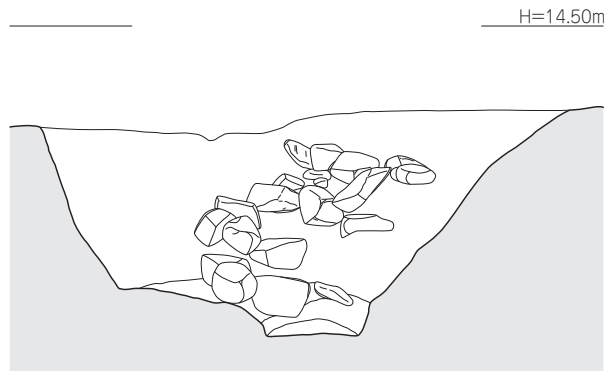
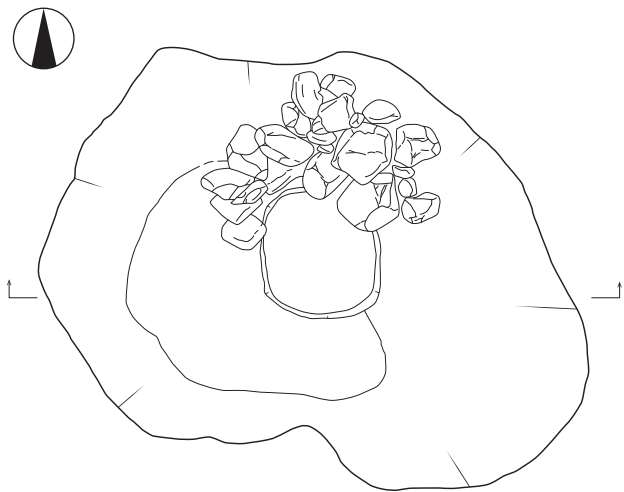
SE211 (SK208) (第149図)

SE211は、調査区のC・D6区に位置する。掘り方の平面形態は不整楕円形で、規模は長軸1.48m、短軸1.15m、深さ0.65mを測る。断面形態は、逆台形状である。埋土は、褐灰色土(10YR 4/1)である。井戸の構造は井戸側は、北側には、10～18cm大の石を積み上げられているのが残るが、南側の石は抜き取られている。水溜には曲げ物がある。規模は径0.35m、深さ0.1mを測る。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、須恵器の坏蓋・甕・捏鉢、瓦器がある。

出土遺物 (510～519)

510～518は土師器。510は皿。短く外傾する口縁端部は丸い。底部の切り離しは、回転糸切りである。511～515は坏。511の底部の切り離しは、回転糸切りである。512の内面には轆轤目が残る。底部の切り離しは、ヘラ切りである。513～515の底部の切り離しは、回転糸切りである。514は板状圧痕が見られる。516～518は土釜。516は口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。517・518は三足付土釜の脚部。519は須恵器の壺。外反する口縁端部は「コ」字状である。

時期：出土遺物から、中世の井戸と考えられる。



第149図 SE211 (SK208) 測量図・出土遺物実測図

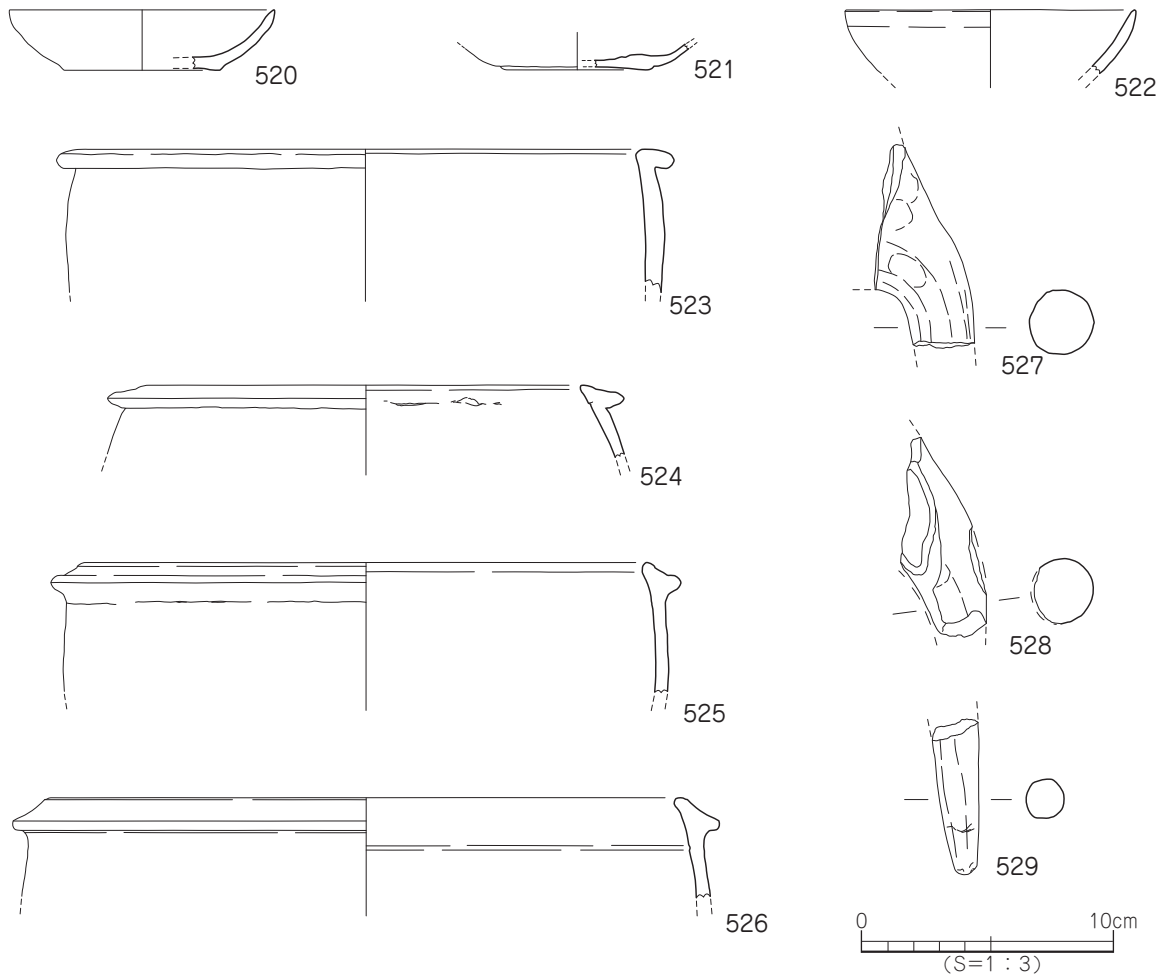
## SE212 (SK210) (第 150 ~ 152 図、図版 21)

SE212 は、調査区の D7 区に位置する。掘り方の平面形態は円形で、規模は長軸 2.03 m、短軸 1.83 m、深さ 0.85 m を測る。埋土は、褐灰色土 (10YR 4/1) である。井戸の構造は井戸側は、20 ~ 40cm 大の石を積み上げている。水溜は、曲げ物の痕跡があり、規模は径 80cm、高さ 30cm を測る。断面形態は、逆台形状である。埋土は、①黒褐色土 (10YR 3/1)、②にぶい黄橙色土 (10YR 6/3)、③褐灰色粘質土 (10YR 6/1) 砂混じり、④灰色粘質土 (5Y 6/1) 黄色砂混じり、⑤黒色土 (10YR 2/1) 炭化材混じり、⑥黒褐色土 (2.5Y 3/1) 砂混じり、⑦浅黄色砂 (2.5Y 7/4) である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、須恵器の坏蓋・甕・捏鉢、瓦、石製品がある。

## 出土遺物 (520 ~ 534)

520 ~ 531 は土師器。520 ~ 522 は坏。520・521 の底部の切り離しは、回転糸切りである。522 の口縁端部は、尖り気味に丸い。523 ~ 531 は土釜。523 ~ 526 は口縁部。口縁部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。525・526 は煤が付着する。526 の内面には、凹線状の溝がある。527 ~ 531 は三足付土釜の脚部。527 は煤が付着する。532 は陶器の搦鉢。内面はよく使いこまれて、ツルツルしている。533 は平瓦。凸面に縄目タタキ痕、凹面に布目圧痕が残る。534 は砥石。厚みが薄い手持ちの砥石。

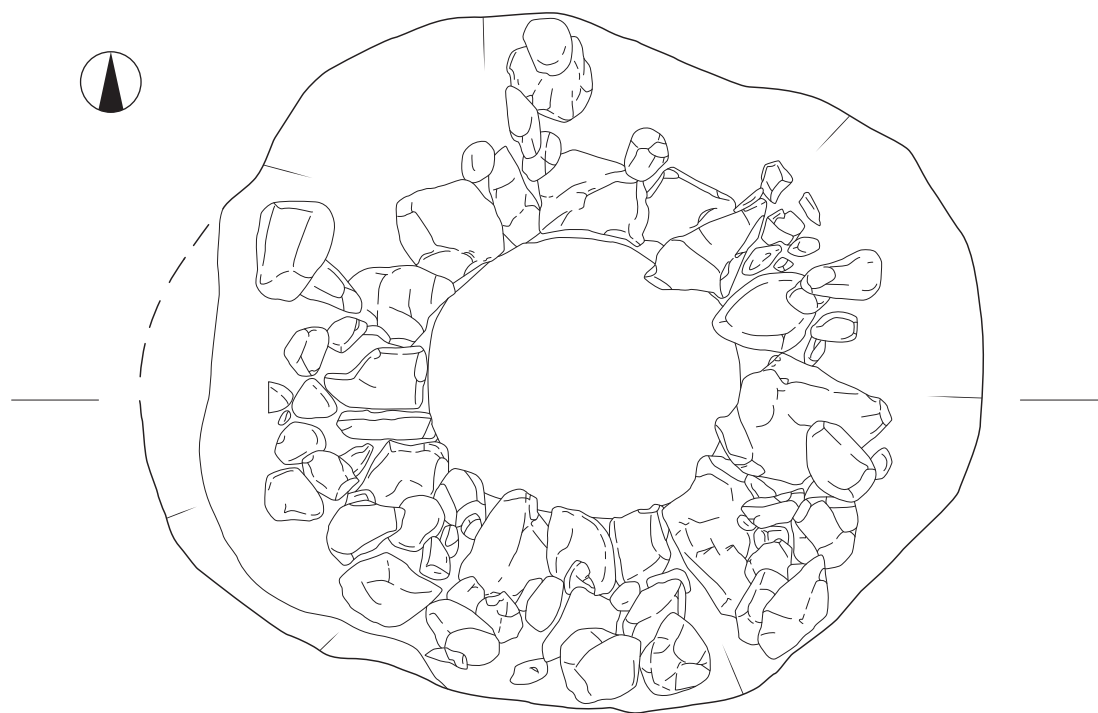
時期：出土遺物から、中世の井戸と考えられる。



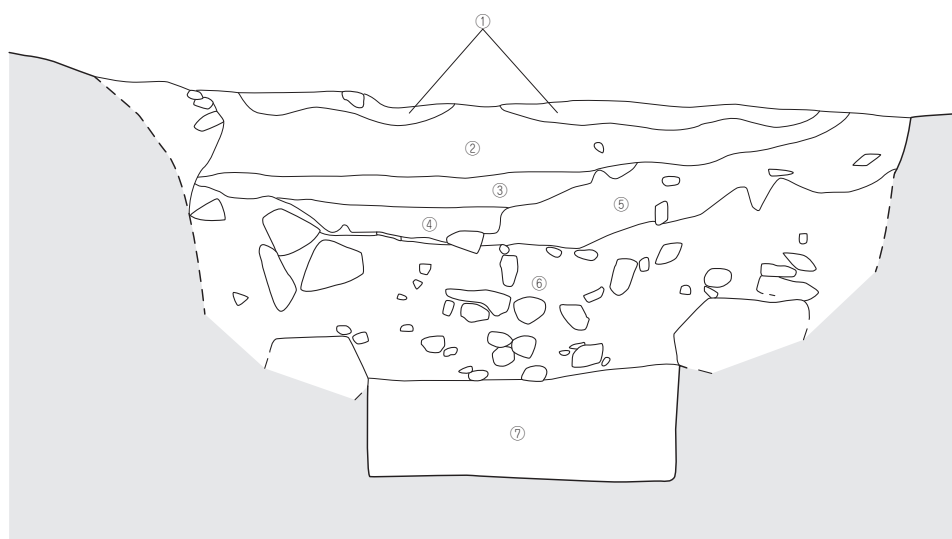
第 150 図 SE212 (SK210) 出土遺物実測図 (1)



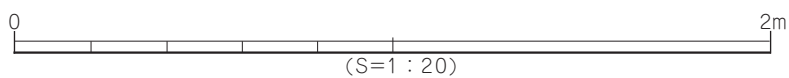
南江戸上沖遺跡 2次調査 2区



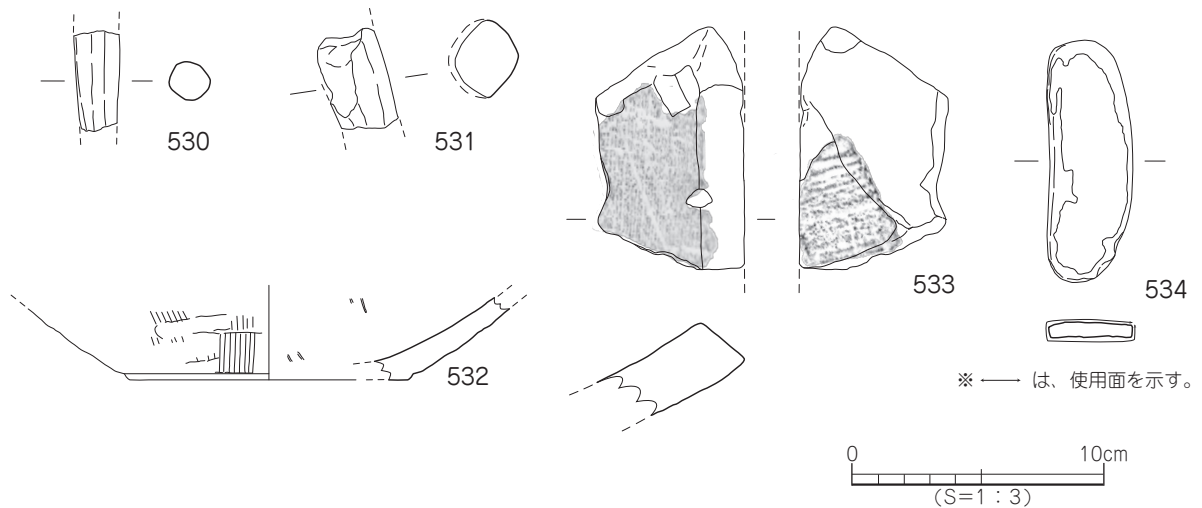
H=14.60m



- ①層：黒褐色土 [10YR 3/1]
- ②層：にぶい黄橙色土 [10YR 6/3]
- ③層：褐灰色粘質土 [10YR 6/1] 砂混じり
- ④層：灰色粘質土 [5Y 6/1] 黄色砂混じり
- ⑤層：黒色土 [10YR 2/1] 炭化材混じり
- ⑥層：黒褐色土 [2.5Y 3/1] 砂混じり
- ⑦層：浅黄色砂 [2.5YR 7/4]



第 151 図 SE212 (SK210) 測量図



第152図 SE212 (SK210) 出土遺物実測図 (2)

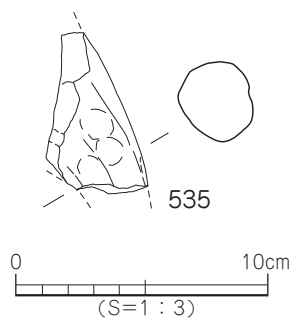
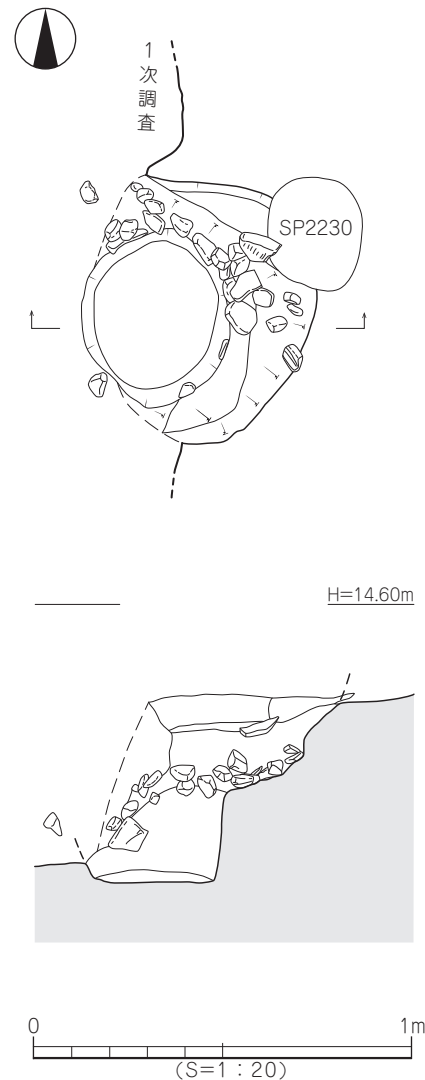
SE213 (第153図)

SE213は、調査区のC7区に位置し、SP2230に切られ、西側は1次調査と切り合っている。1次調査時には確認できていなかった。掘り方の平面形態は円形で、規模は長軸0.75m、検出短軸0.60m、深さ0.48mを測る。断面形態は、逆台形状である。埋土は、褐灰色土(10YR 4/1)である。井戸の構造は、内部には、5~10cm大の石が散乱していることから、石組が存在していたと思われる。水溜は曲げ物の痕跡があり。規模は径50cm、高さ21cmを測る。出土遺物には、土師器の坏小片と土釜がある。

出土遺物 (535)

535は土師器の土釜。三足付土釜の脚部。煤が付着する。

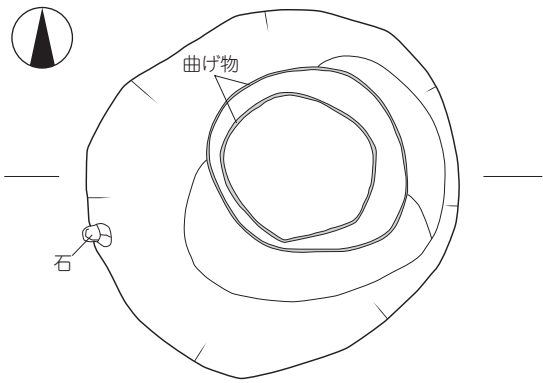
時期：出土遺物から、中世の井戸と考えられる。



第153図 SE213 測量図・出土遺物実測図

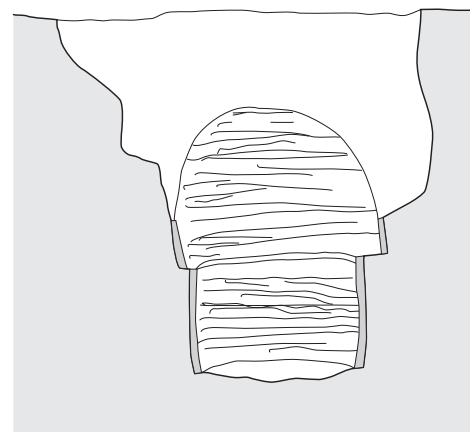
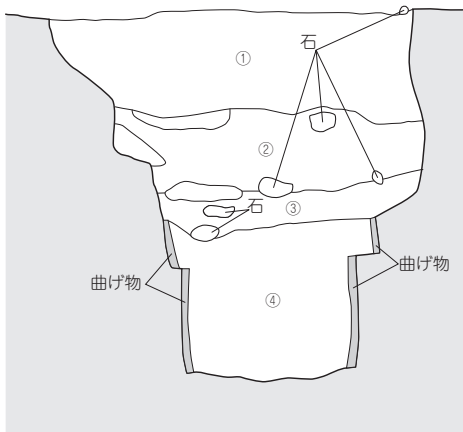
SE214 (SK205) (第154図、図版26)

SE214は、調査区のE8区に位置する。掘り方の平面形態は円形で、規模は長軸1.00m、短軸0.91m、深さ0.98mを測る。井戸の構造は井戸側は曲げ物で規模は径56cm、高さ40cm、水溜は曲げ物で、規模は径47cm、高さ33cmで残る。埋土は、①褐灰色土(5YR 4/1)、②黒褐色粘質土(2.5Y 3/1)に黄灰色砂質土(2.5Y 6/1)がブロック状に混じる、③黄灰色砂質土(2.5Y 6/1)に黒褐色粘質土(2.5Y 3/1)がブロック状に混じる、④黄灰色砂質土(2.5Y 6/1)に礫が混じる

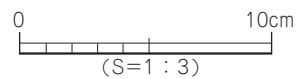
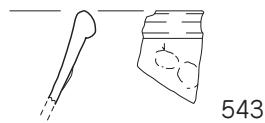
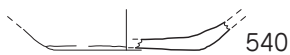
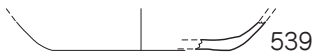
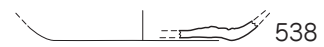
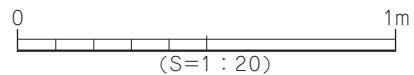


H=14.60m

H=14.60m



- ①層：褐灰色土 [5YR 4/1]
- ②層：黒褐色粘質土 [2.5Y 3/1] に黄灰色砂質土 [2.5Y 6/1] がブロック状に混じる
- ③層：黄灰色砂質土 [2.5Y 6/1] に黒褐色粘質土 [2.5Y 3/1] がブロック状に混じる
- ④層：黄灰色砂質土 [2.5Y 6/1] に礫が混じる



第154図 SE214 (SK205) 測量図・出土遺物実測図

じる、④黄灰色砂質土 (2.5Y 6/1) に礫が混じる、である。断面形態は、逆台形状である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、瓦器、陶磁器がある。

**出土遺物 (536 ~ 543)**

536 ~ 542 は土師器。536 ~ 540 は皿。536・540 の底部に、板状圧痕が見られる。537 ~ 539 の底部の切り離しは、回転糸切りである。538 の内面に轆轤目がある。541・542 は坏。底部の切り離しは、回転糸切りである。543 は中国製白磁碗。口縁端部は玉縁状である。

**時期：**出土遺物から、中世の井戸と考えられる。

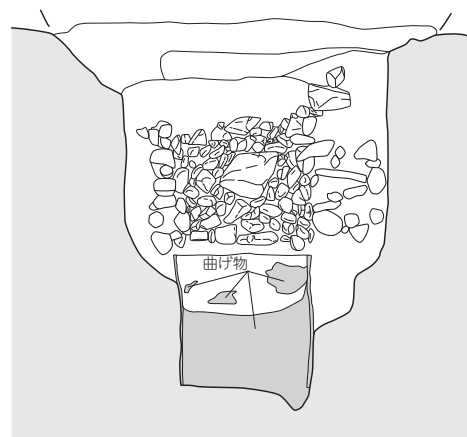
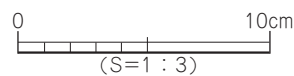
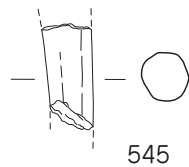
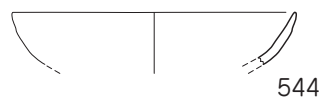
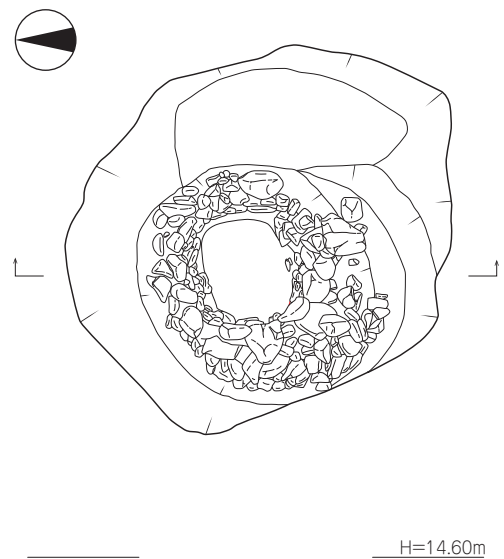
**SE215 (第 155 図)**

SE215 は、調査区の C7・8 区に位置し、西側は 1 次調査区につづく。掘り方の平面形態は円形で、規模は長さ 1.01 m、幅 0.91 m、深さ 1.04 m を測る。断面形態は、逆台形状である。埋土は、褐灰色土 (10YR 4/1) である。井戸の構造は井戸側には、5 ~ 10 cm 大の石を使用し組み上げ、水溜は曲げ物がある。曲げ物の規模は、径 0.35 m、高さ 35 cm を測る。出土遺物には、土師器の皿・土釜、瓦器、須恵器がある。

**出土遺物 (544・545)**

544・545 は土師器。544 は坏。口縁端部は、尖り気味である。545 は土釜。三足付土釜の脚部。

**時期：**出土遺物から、中世の井戸と考えられる。



第 155 図 SE215 測量図・出土遺物実測図

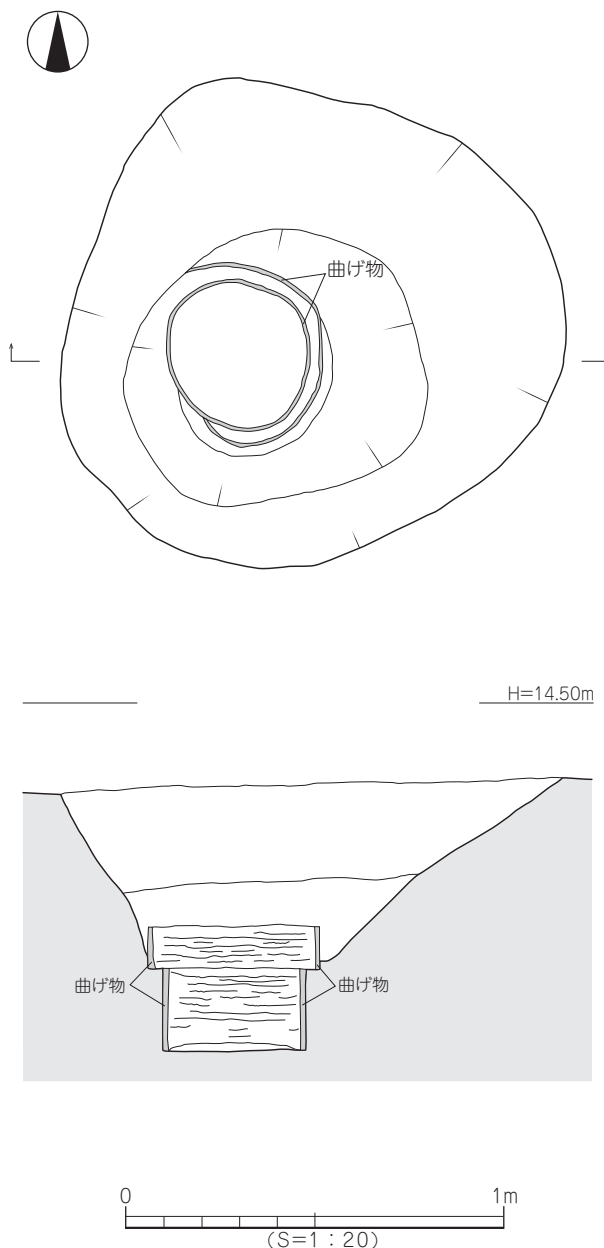
SE216 (第156・157図、図版26)

SE216は、調査区のD5区に位置する。掘り方の平面形態は円形で、規模は径1.36m、幅1.31m、深さ0.70mを測る。断面形態は、逆台形状である。埋土は、褐灰色土(10YR 4/1)である。井戸の構造は、井戸側は曲げ物で、規模は径45cm、高さ12cm、水溜は曲げ物で、規模は、径35cm、高さ22cmを測る。出土遺物には、土師器の皿、須恵器の捏鉢、瓦器壙、中国製白磁の高台付皿、布目瓦がある。

出土遺物 (546～567)

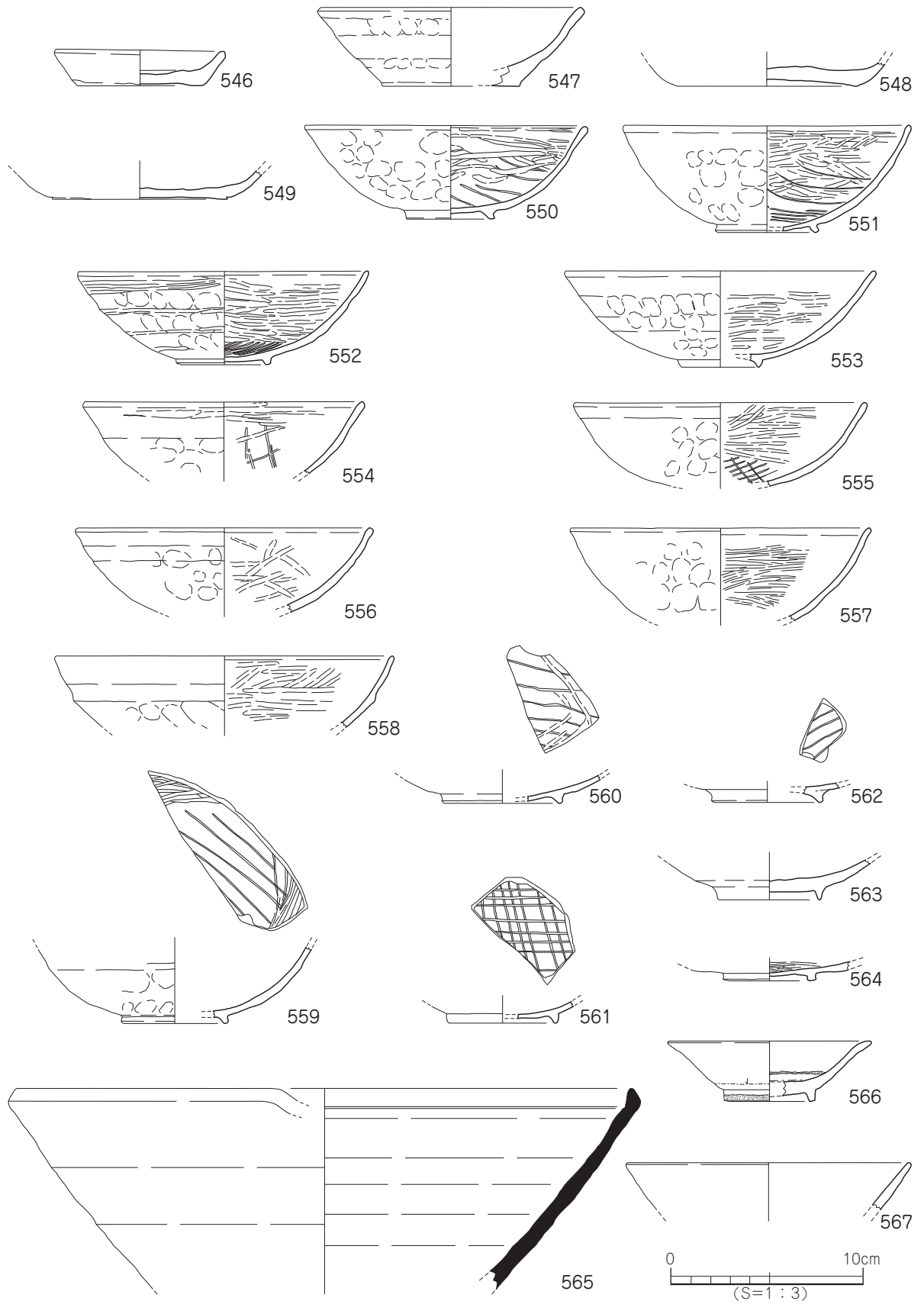
546～549は土師器。546は皿の完形品。底部の切り離しは、回転糸切りで板状圧痕が見られる。内面に轆轤目があり、煤が付着する。547～549は坏。底部の切り離しは、回転糸切りである。547の底部には、板状圧痕が見られる。550～564は瓦器壙。550～559は内湾する体部をもつ。550は完形品。内面に螺旋状と平行線状の暗文が見られる。551・552は、内面に平行線状の暗文が見られる。552は和泉型瓦器壙。553は断面三角形状の高台を貼り付ける。554・555は内面に格子状の暗文が見られる。556・557は口縁部が僅かに外反する。559は断面方形形状の高台を貼り付ける。内面に螺旋状と平行線状の、暗文が見られる。560は断面三角形状の、高台を貼り付ける。内面に平行線状の暗文が見られる。561は断面三角形状の高台を貼り付ける。内面に格子状の暗文が見られる。562は断面三角形状の高台を貼り付ける。内面に平行線状の暗文が見られる。563は断面三角形状の、高台を貼り付ける。在地の瓦器。564は断面四角形状の高台を貼り付ける。565は東播系須恵器の片口の捏鉢。口縁部は上方に肥厚する。12～13世紀。566・567は中国製白磁。566は高台付皿。外反する体部、底部は断面四角形状の高台を削り出す。内面は輪状に釉をかき取っている。567は碗の口縁部。

時期：出土遺物から、中世の井戸と考えられる。



第156図 SE216測量図

遺構と遺物



第 157 図 SE216 出土遺物実測図

## 3) 溝

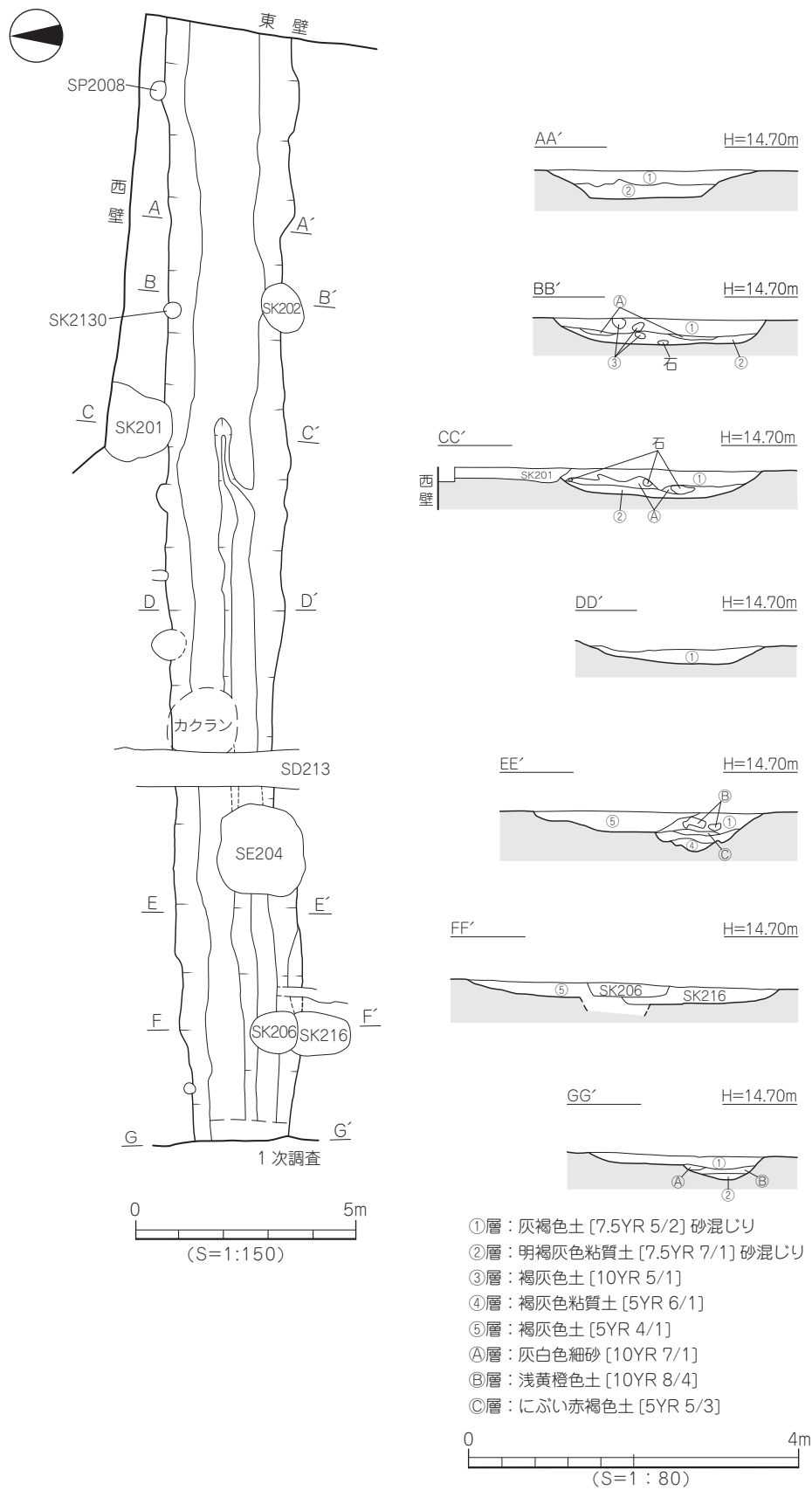
## SD201 (第158～167図、図版26・27)

SD201は、調査区のC8～G8区に位置する東西方向の溝で、SE204、SK201・202・206・216、SD213に切れ、西側は1次SD6に、東側は道路を挟み1区SD106につづく。規模は、検出長25.3m、幅2.82m、深さ0.25～0.45mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、①灰褐色土(7.5YR 5/2)砂混じり、②明褐色粘質土(7.5YR 7/1)砂混じり、③褐色土(10YR 5/1)、④褐色粘質土(5YR 6/1)、⑤褐色土(5YR 4/1)、⑥灰白色細砂(10YR 7/1)、⑦浅黄橙色土(10YR 8/4)、⑧にぶい赤褐色土(5YR 5/3)である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、須恵器の大甕、瓦質土器、備前焼、陶磁器、台石・砥石などの石製品がある。

## 出土遺物(568～640)

568～605は土師器。568～571は皿。568は内湾する体部。底部の切り離しは、回転糸切りである。569の体部は外傾し、口縁部は外反する。570の底部の切り離しは、回転糸切りである。571の底部の切り離しは、回転ヘラ切りである。572～582は坏。572～576は内湾する体部。底部の切り離しは、回転糸切りである。576は内面に粘土ひもの巻き上げ痕が見られる。578は完形品。平底の底部に、直線的にたちあがる体部をもつ。579・580は平底の底部。581・582の底部は円盤高台。581の口縁部は尖り気味である。底部の切り離しは、回転糸切りである。583～603は土釜。583～588は内湾する口縁部から体部。口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。煤が付着する。583は脚部の付け根が残る。584は脚部の貼り付け痕が残る。588の口縁端面はナデにより窪む。589～594は外傾する口縁部。口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。煤が付着する。590・592の口縁端面はナデにより窪む。595～603は三足付土釜の脚部。煤が付着する。595・597・599・600は土釜底部の内面が残る。604・605は土鍋。屈曲する口縁部。605の口縁端面はナデにより窪む。606～609は瓦質土器の羽釜。606は円孔をもつ耳を一对、肩部に張り付ける。607は鏝が剥がれている。鏝上部に凹線が1条巡る。608は水平に伸びる鏝が付く(14～15世紀)。609は平底の底部に内湾する体部、外面に凹線が巡る。610～624は陶磁器。610～612は備前焼の播鉢。610・611の口縁部は、上方に肥厚される。610の内面には10本の櫛目が残る。612の内面には、8本の櫛目が残る。613～615は壺。613・614は外傾する頸部。口縁端部は玉縁状である。613には自然釉が掛かる。615の口縁部は折り曲げられて玉縁状である。614・615は備前焼。616～619は備前焼の甕。616の口縁部は折り曲げられて玉縁状である。617は外反する口縁端部は、下方に肥厚される。口縁端面はナデにより窪む。外面に自然釉が掛かる。618・619は平底の底部。620～624は碗。620は天目茶碗。外面に鉄釉がかかる。瀬戸焼か。621は白磁碗。内面の釉を輪状にかき取る。622・623は中国製白磁碗。624は中国製青磁碗。内面に印花文がある。625～627は須恵器。625・626は坏身。625は受け部は外上方に伸び、たちあがりは内傾し端部は尖り気味である。626は受け部は水平に短く伸び、たちあがりは内傾する。627は甗。球形の胴部。628は不明品。火鉢などの脚部か。猫足風に屈曲している。629～640は石製品。629～634は砥石。629は京都の鳴滝系。仕上げ用砥石で石材は頁岩。630～633の石材は流紋岩。635～638は砥石として使用されたものを、カマド石として再利用したものか。煤が付着している。639・640はカマド石。639は煤が付着している。

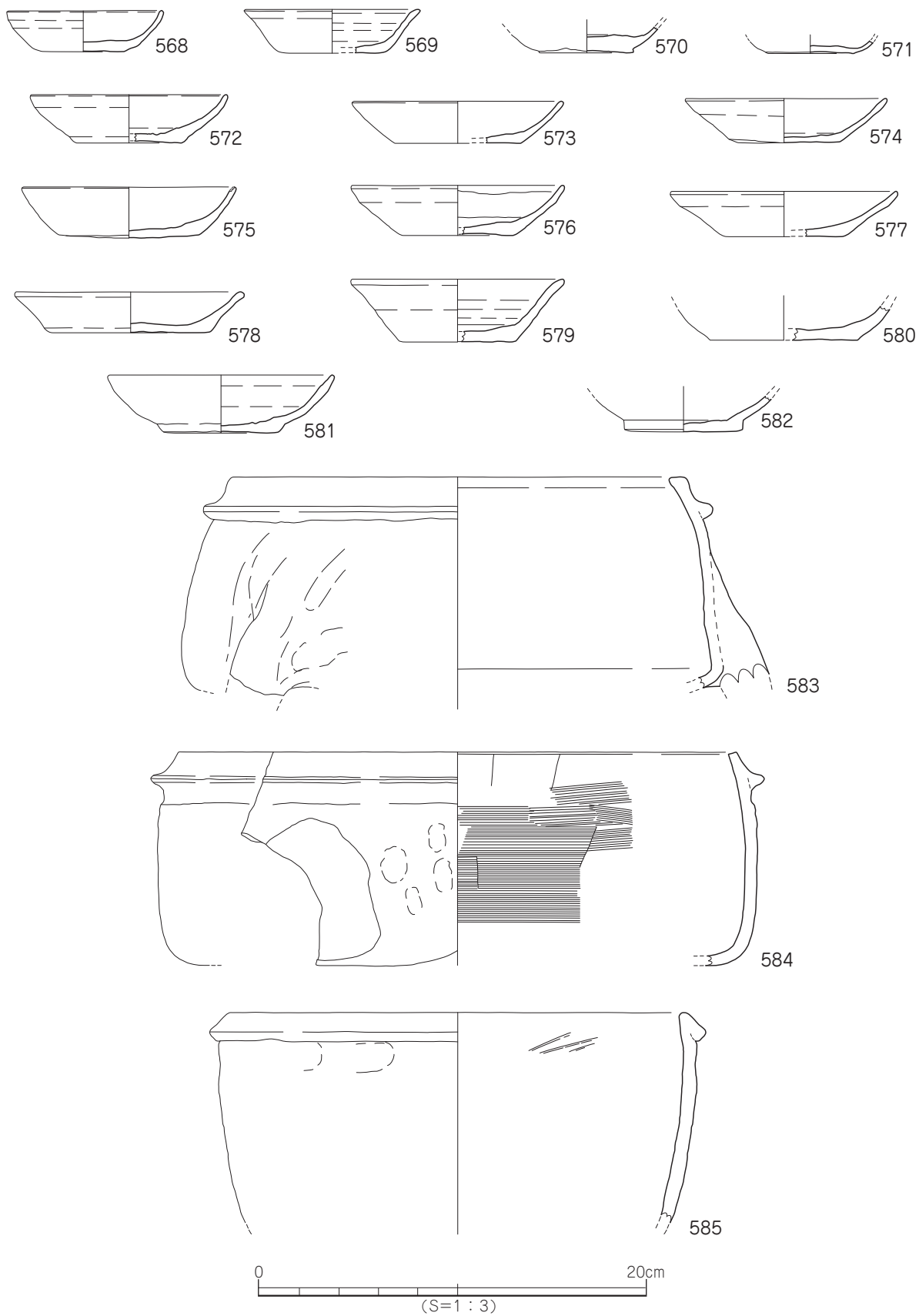
時期：出土遺物と形状からは、14世紀末～15世紀前半の集落を区画する溝と考えられ、1次調査SD6ならびに2次調査1区SD104と同一と推定される。



第158図 SD201 測量図

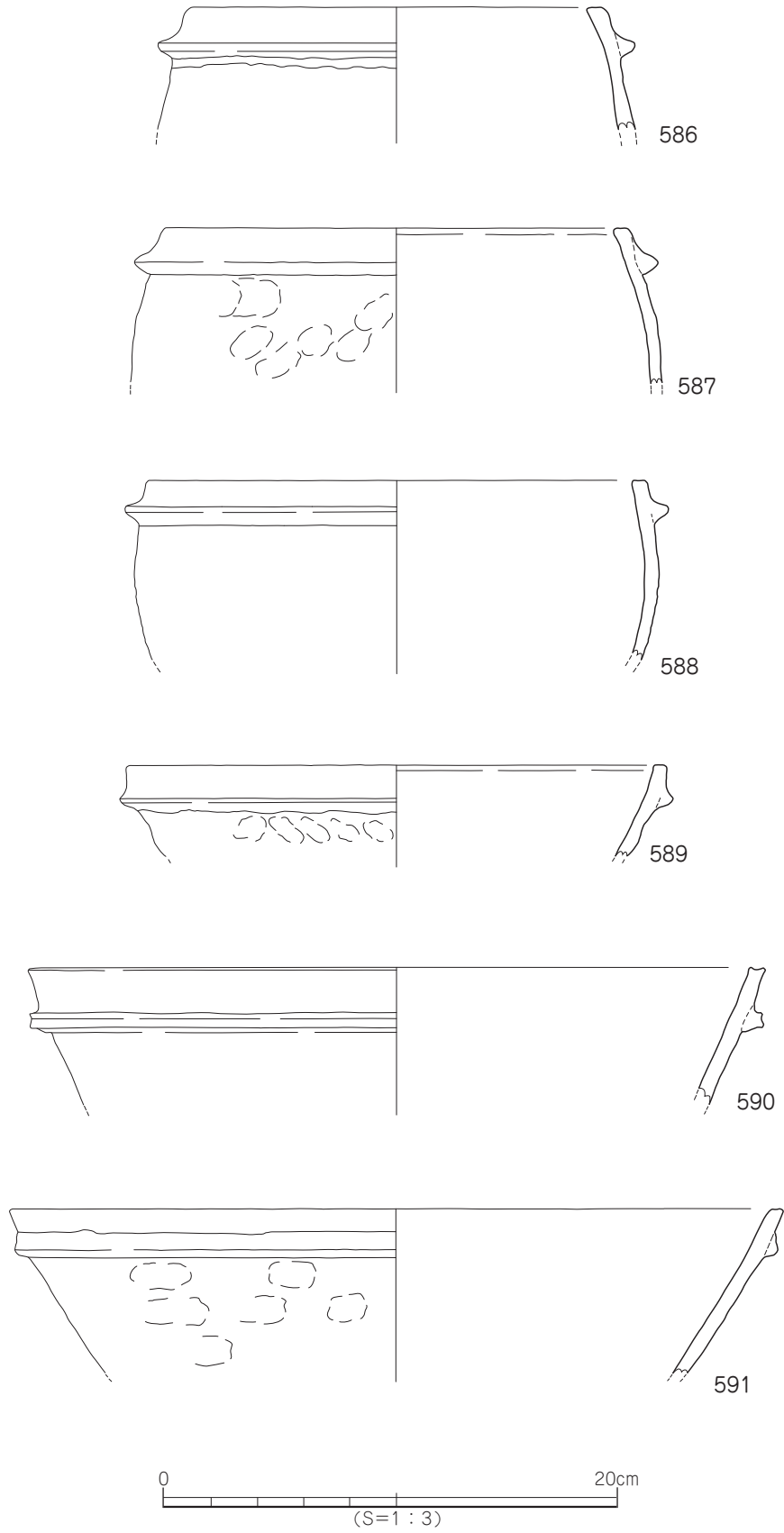


南江戸上沖遺跡2次調査2区

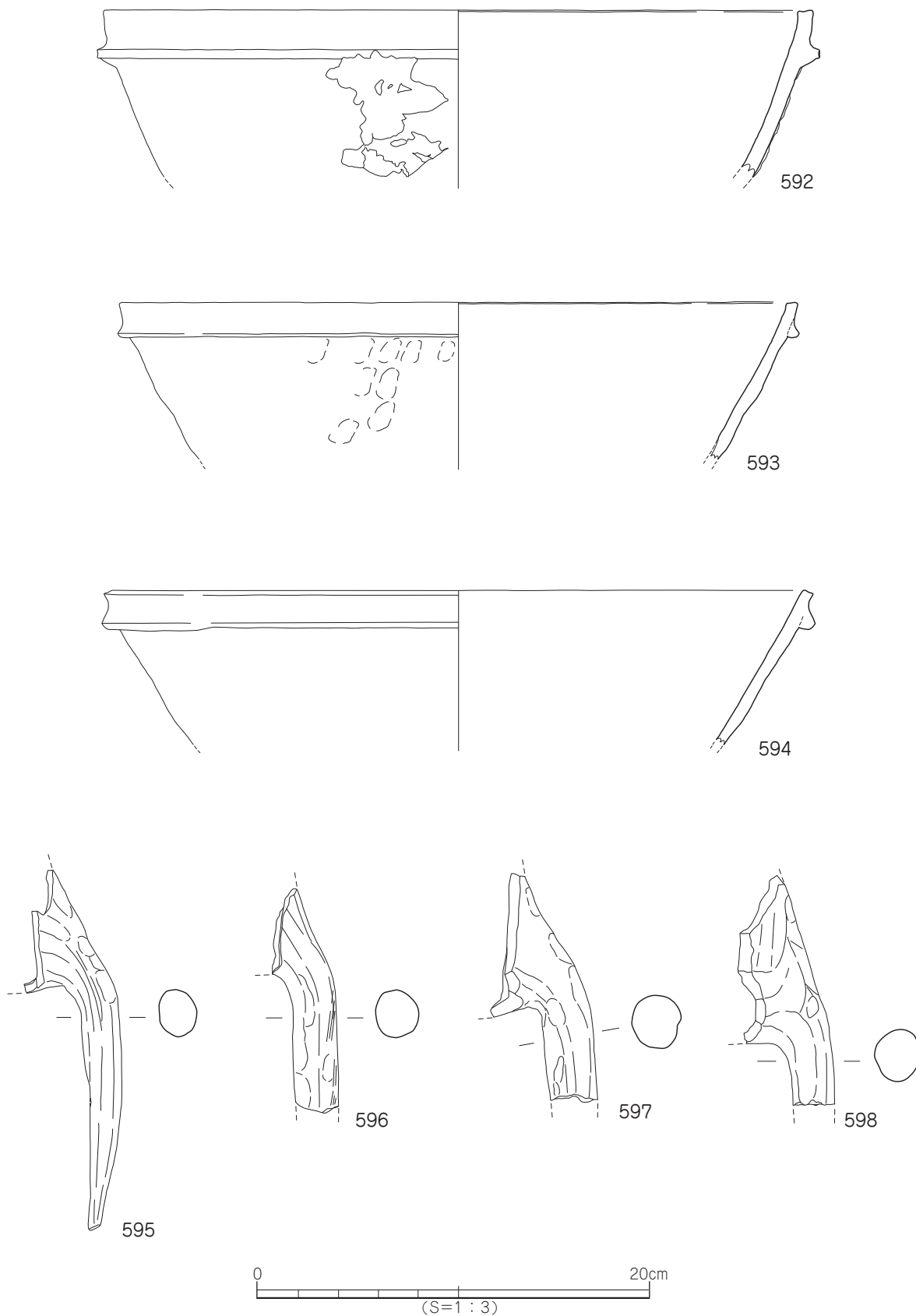


第159図 SD201 出土遺物実測図(1)

遺構と遺物

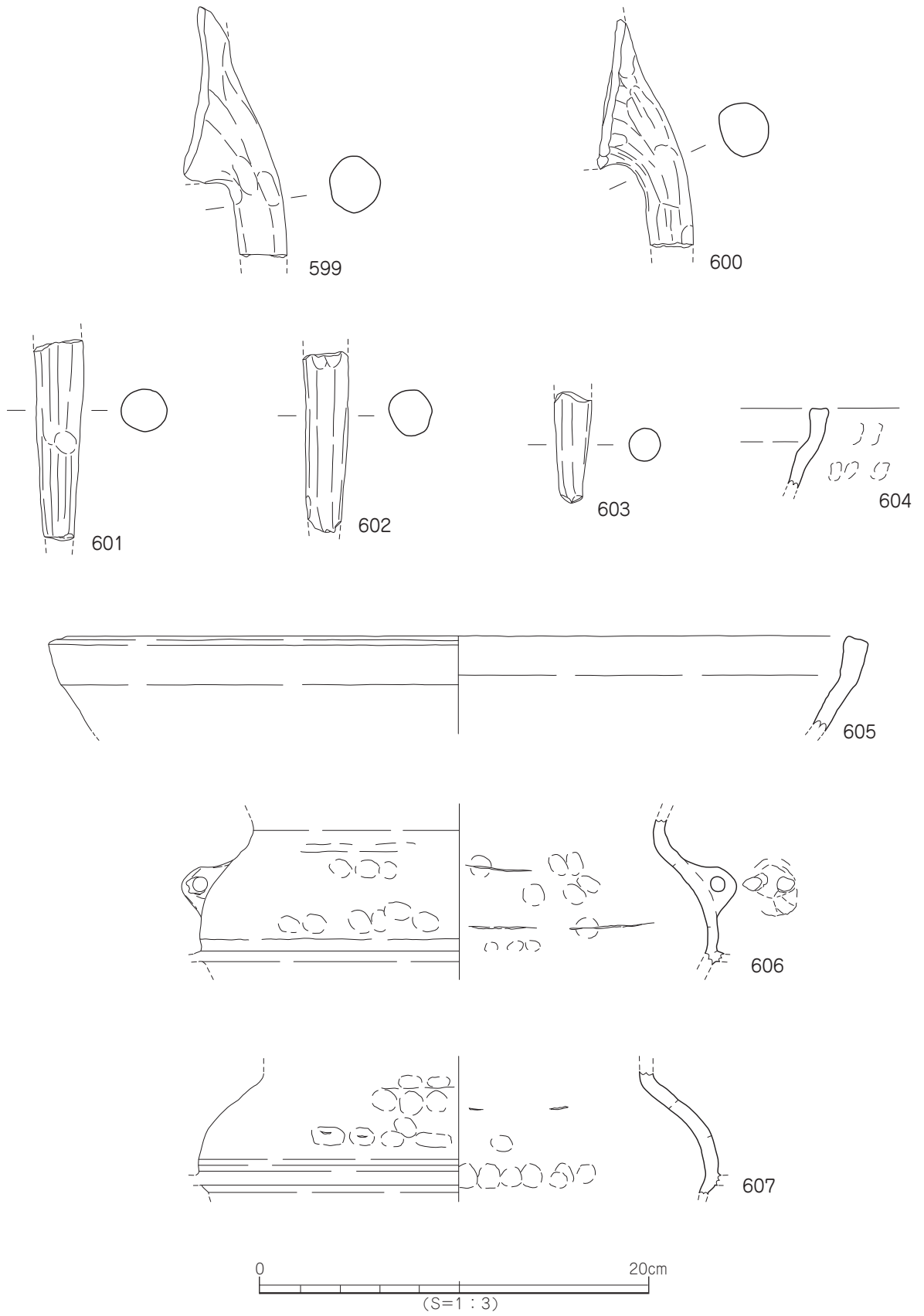


第 160 図 SD201 出土遺物実測図 (2)



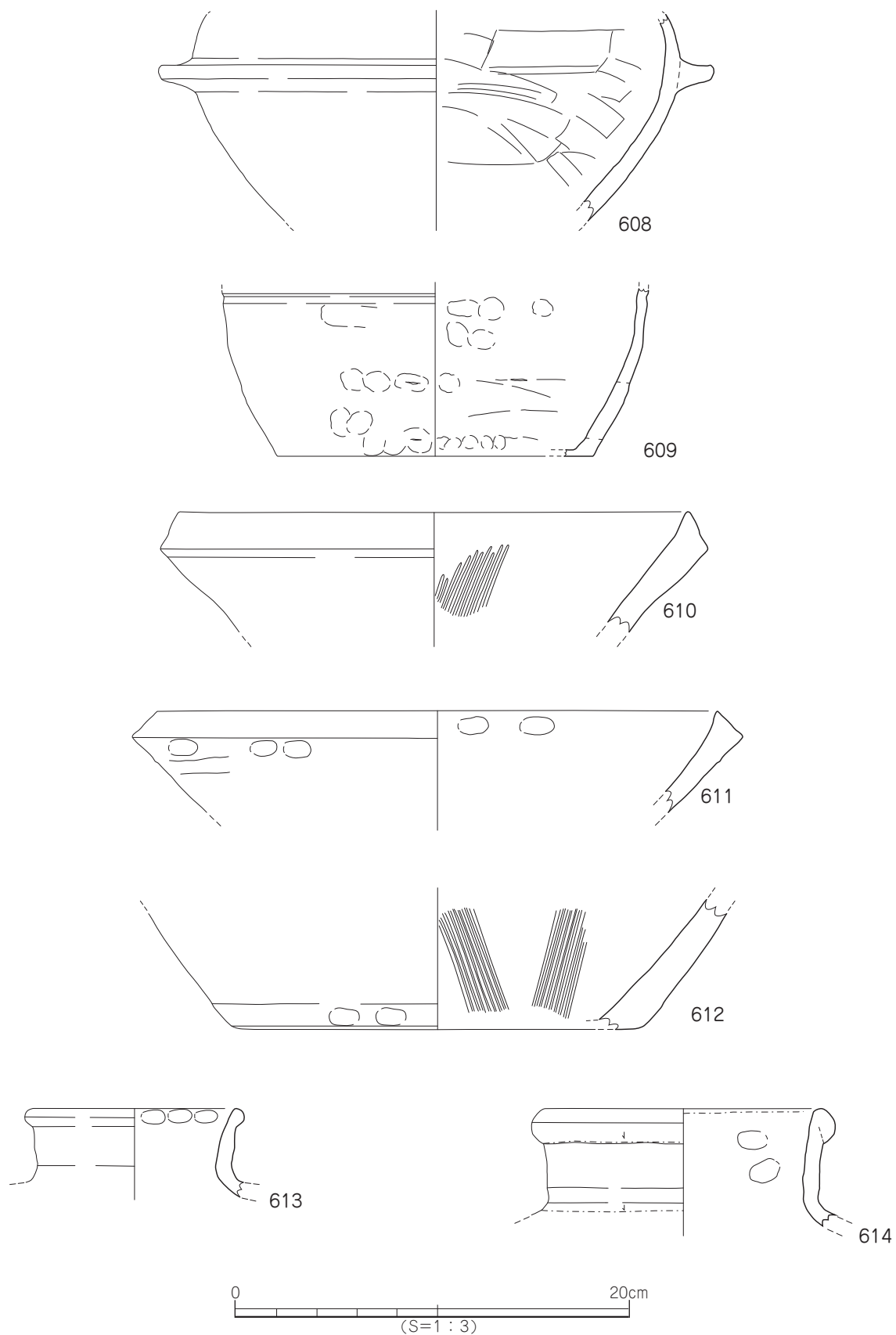
第 161 図 SD201 出土遺物実測図 (3)

遺構と遺物



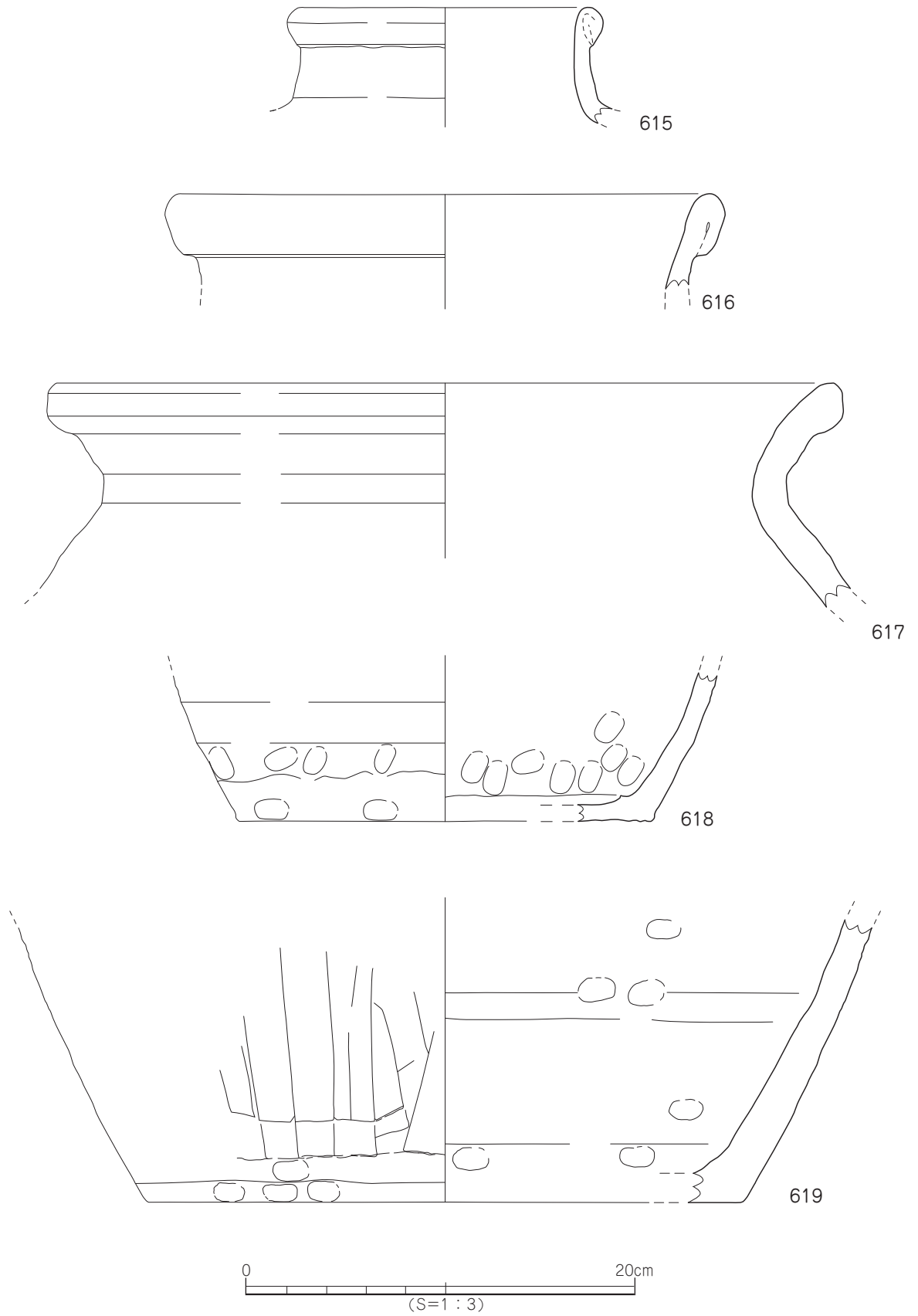
第 162 図 SD201 出土遺物実測図 (4)

南江戸上沖遺跡2次調査2区



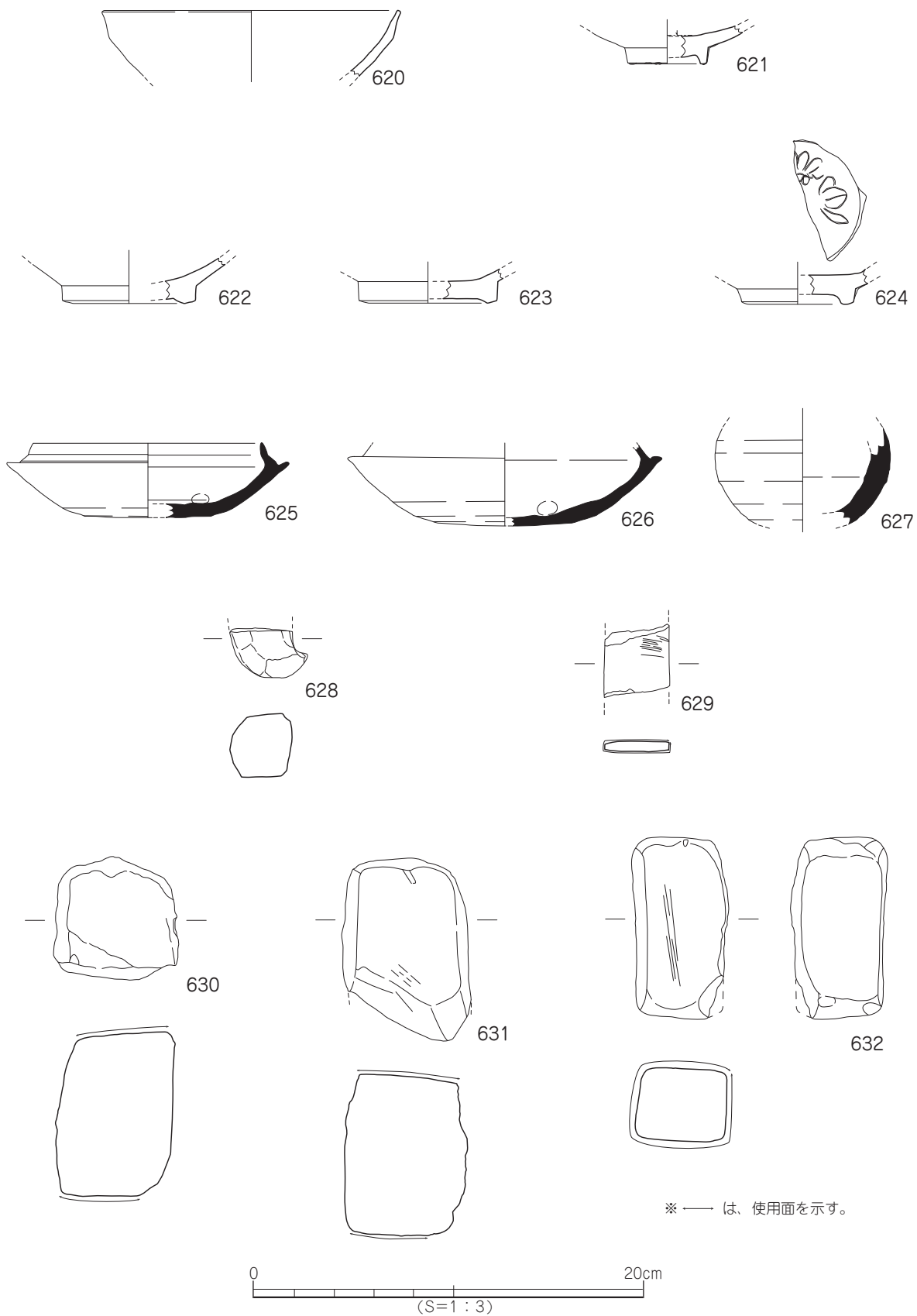
第 163 図 SD201 出土遺物実測図 (5)

遺構と遺物



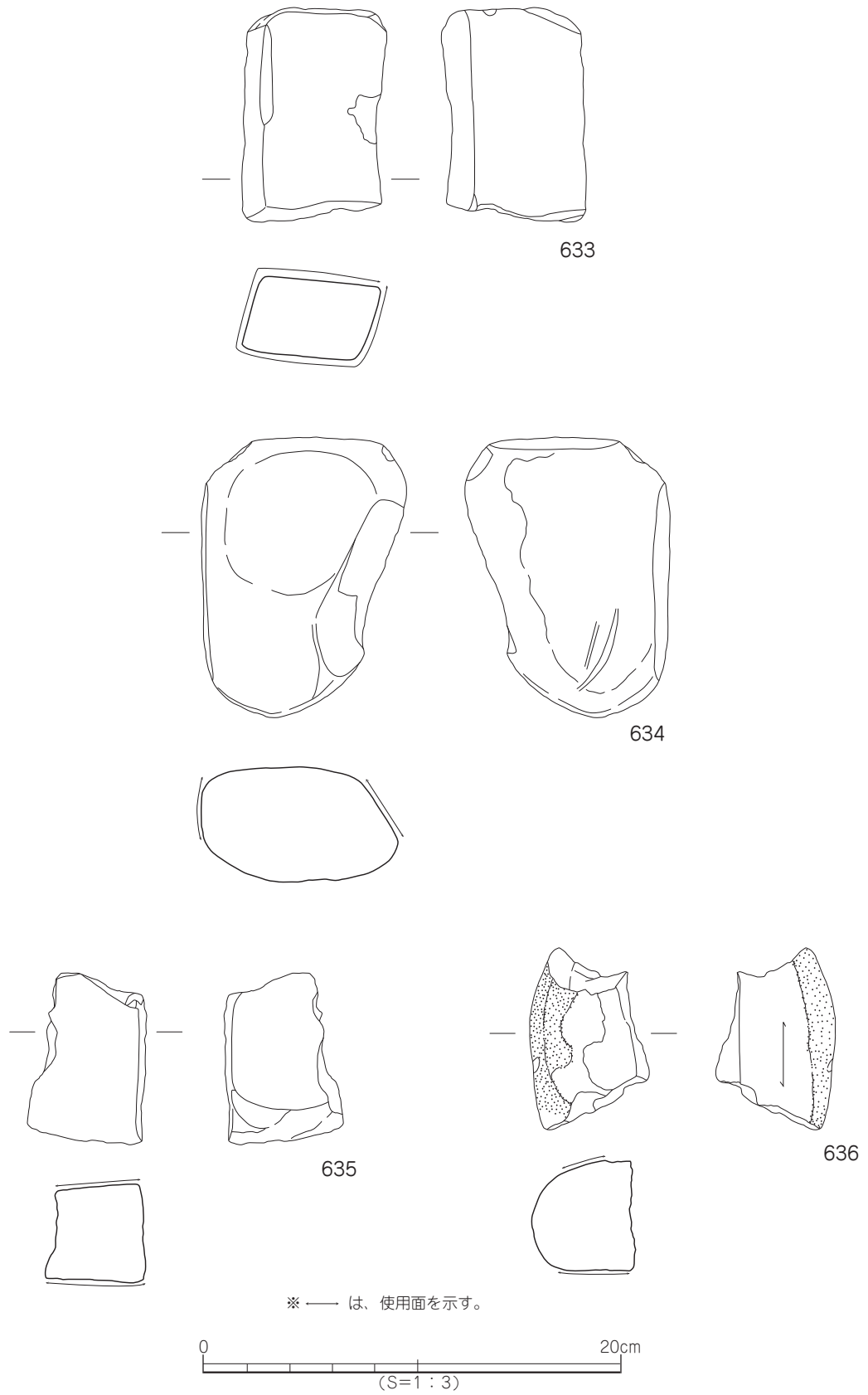
第 164 図 SD201 出土遺物実測図 (6)

南江戸上沖遺跡2次調査2区



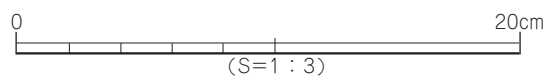
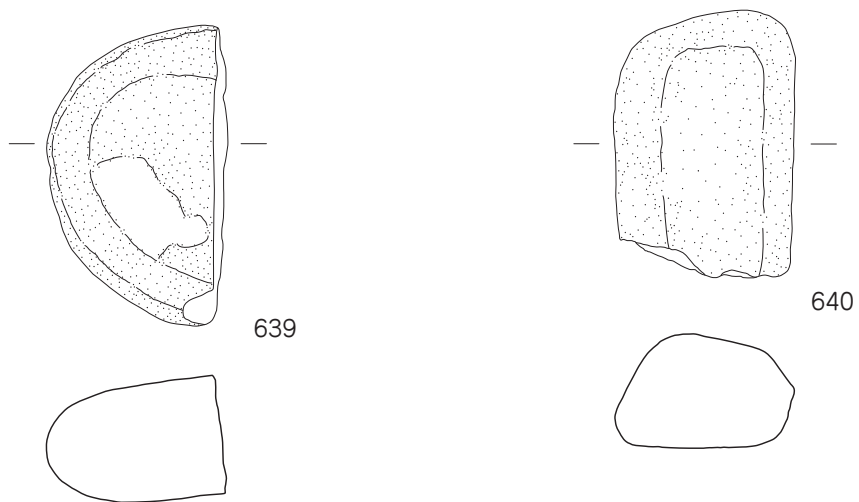
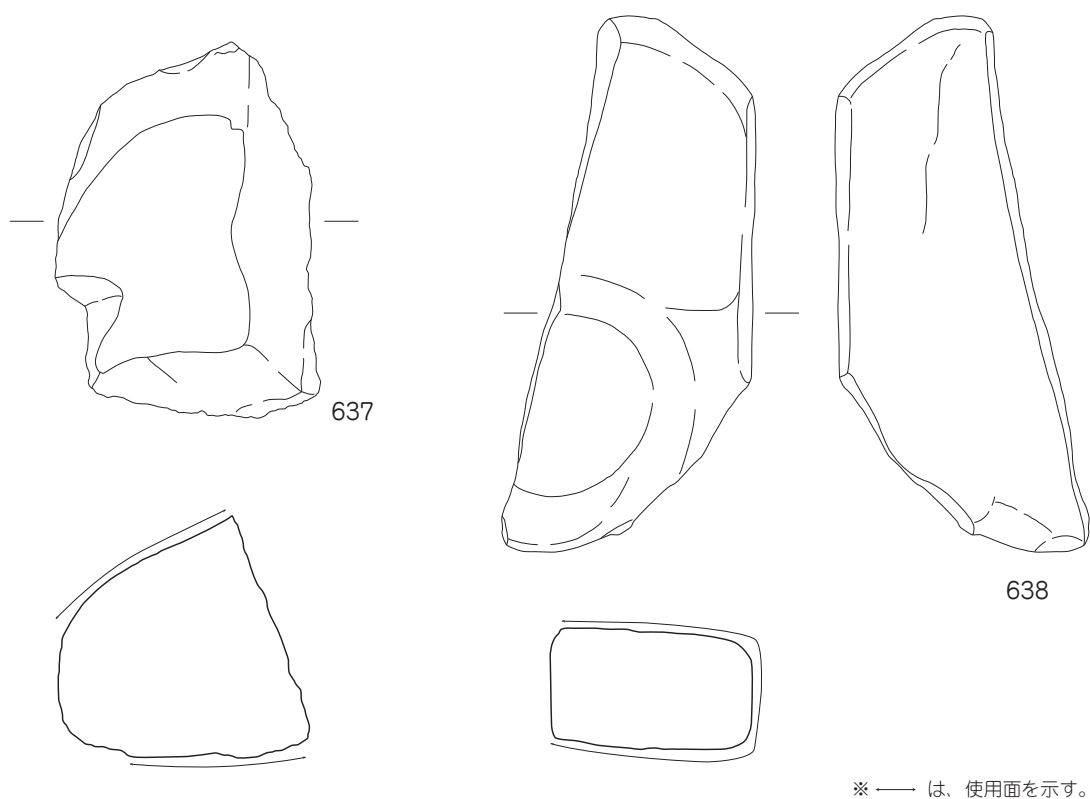
第 165 図 SD201 出土遺物実測図 (7)

遺構と遺物



第 166 図 SD201 出土遺物実測図 (8)





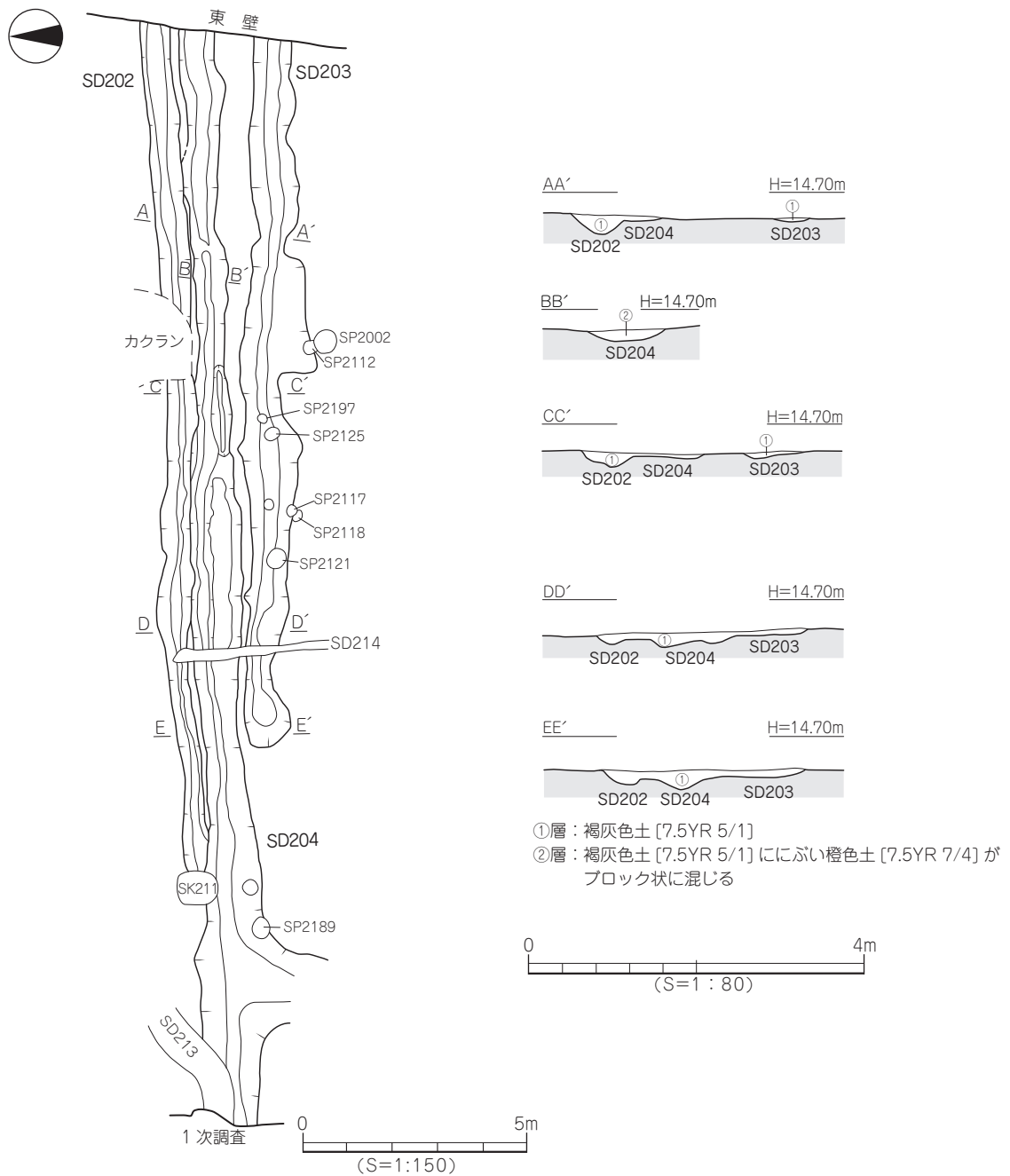
第 167 図 SD201 出土遺物実測図(9)

SD202 (第 168・169 図、図版 27)

SD202 は、調査区の C9～G9 区に位置する東西方向の溝で、SD204・214、SK211、カクランに切られ東側は調査区外につづく。規模は検出長 19.00 m、幅 0.83 m、深さ 0.23m を測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土 (7.5YR 5/1) である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、瓦器、須恵器、陶磁器、石製品がある。

出土遺物 (641～651)

641～643 は土師器。641 は坏。底部の切り離しは、回転糸切りである。642・643 は土釜。642 は内湾する口縁端部外面に、断面三角状の鏝を貼り付ける。643 は三足付土釜の脚部。644 は東播系須恵器の捏鉢。口縁端部は上方に、肥厚される。645・646 は備前焼の陶器の搦鉢。645 は口縁部外面に、

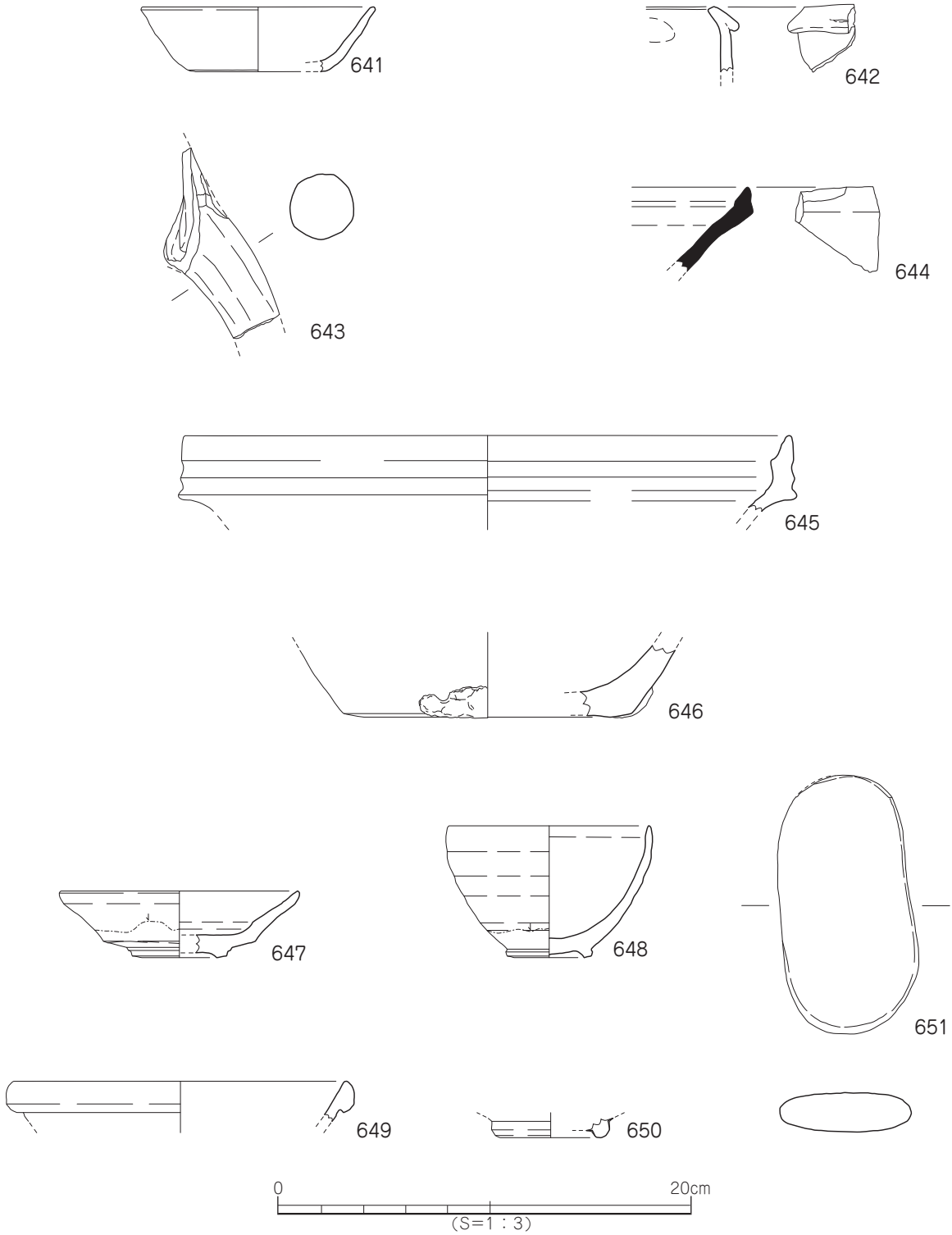


第 168 図 SD202・203・204 測量図

南江戸上沖遺跡2次調査2区

ナデによる2本の凹線が廻る。646は底部片。647・648は肥前系の陶器。647は皿。段をもち外反する体部。底部は削り出し高台である。648は碗。削り出し高台から体部は内湾し、口縁部は直立し端部は尖る。649は白磁碗。口縁部は玉縁状である。650は青磁碗。高台部の小片。651は石器素材。

時期：出土遺物と形状からは、室町時代の集落を区画する溝と考えられる。



第169図 SD202 出土遺物実測図

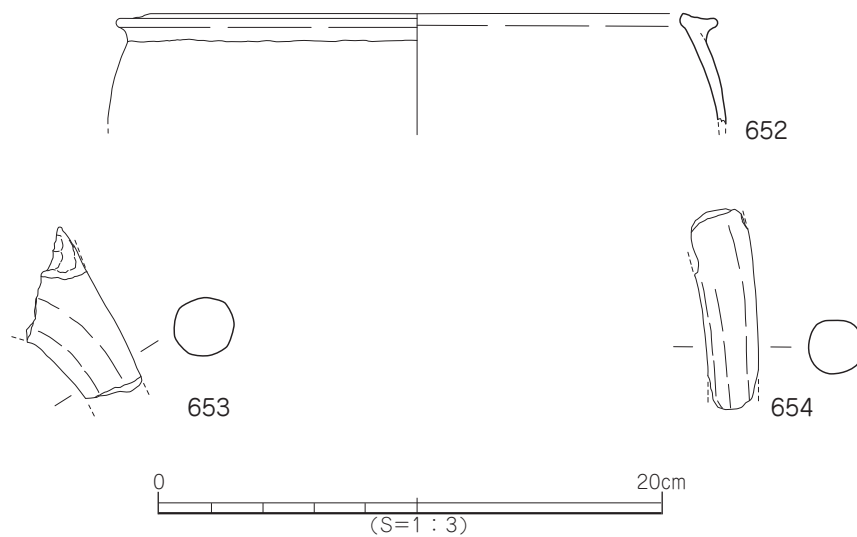
SD203 (第 168・170 図)

SD203 は、調査区の D9～G9 区に位置する東西方向の溝で、SD214 に切られる。東側は調査区外につづく。規模は検出長 15.92 m、幅 0.48 m、深さ 0.04m を測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土 (7.5YR 5/1) である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、瓦器、陶磁器、須恵器がある。

出土遺物 (652～654)

652～654 は土師器の土釜。652 は内湾する口縁端部外面に、断面三角形状の鏝を貼り付ける。653・654 は三足付土釜の脚部。653 には煤が付着する。

時期：出土遺物から、室町時代の溝と考えられる。



第 170 図 SD203 出土遺物実測図

SD204 (第 168・171 図、図版 27)

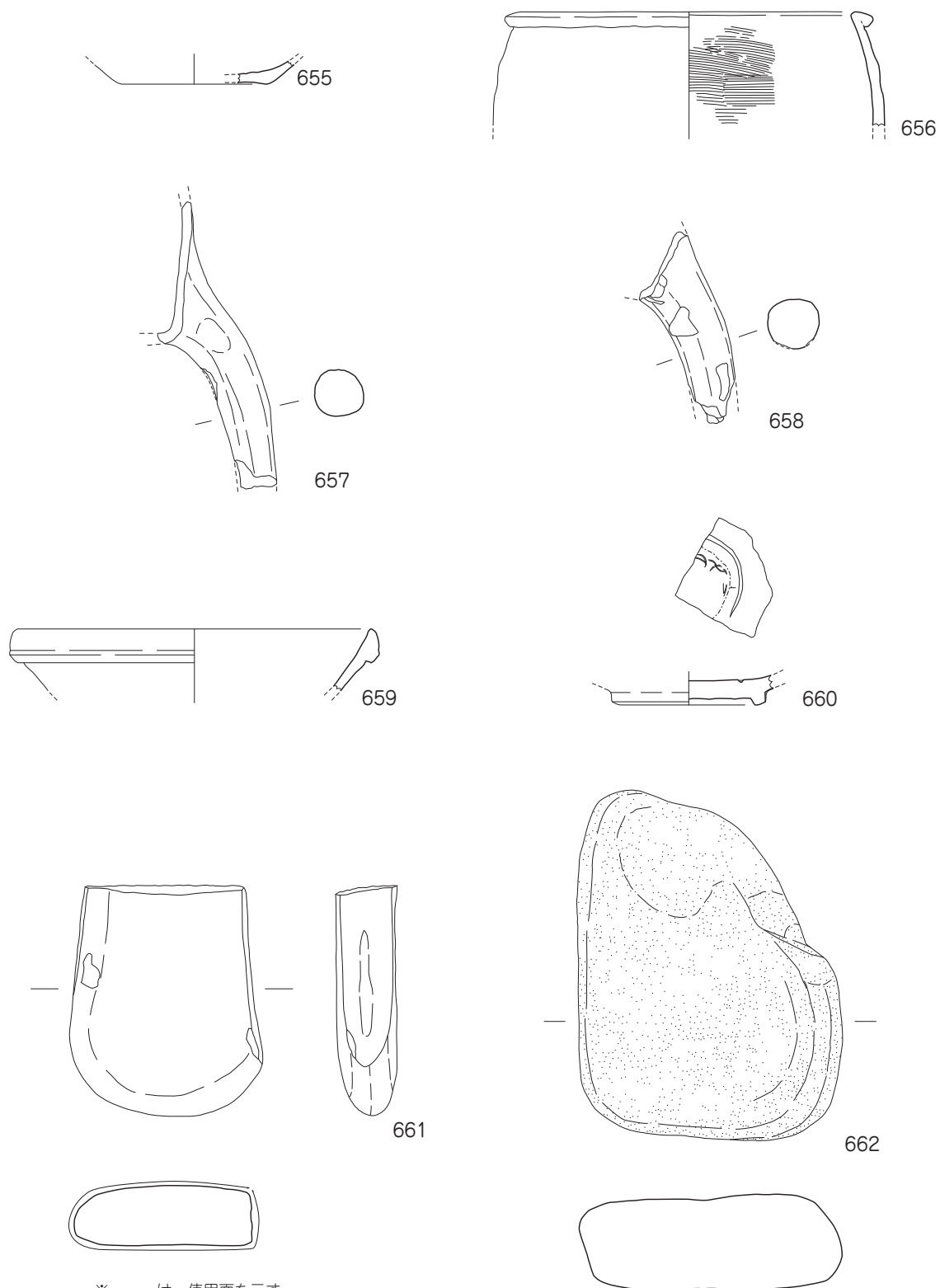
SD204 は、調査区の C9～G9 区に位置する東西方向の溝で、SD202 を切り、SD214、SK211 に切られる。西側は 1 次調査 SD10、南側は SD8 に「T」字状に接続され、東側は調査区外につづく。規模は検出長 24.96 m、幅 1.0 m、深さ 0.18m を測る。断面形態はレンズ状である。埋土は、①褐灰色土 (7.5YR 5/1)、②褐灰色土 (7.5YR 5/1) ににぶい橙色土 (7.5YR 7/4) がブロック状に混じる、である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、瓦器、須恵器、陶磁器、鉄滓、台石・砥石の石製品がある。

出土遺物 (655～662)

655～658 は土師器。655 は皿。底部の小片。656～658 は土釜。656 は内湾する口縁端部外面に、断面三角形状の鏝を貼り付ける。煤が付着する。657・658 は三足付土釜の脚部。657 は脚部との接合面に、底部内面が残る。煤が付着する。659 は中国製白磁碗。口縁端部は玉縁状。660 は中国製青磁碗。内面に文様あり。龍泉窯。

661・662 は石製品。661 は砥石。煤が付着しておりカマド石として再利用されたものか。662 はカマド石。煤が付着している。

時期：出土遺物からは、室町時代の集落を区画する溝と考えられ、1 次調査 SD8、SD10 と同一溝。



第 171 図 SD204 出土遺物実測図

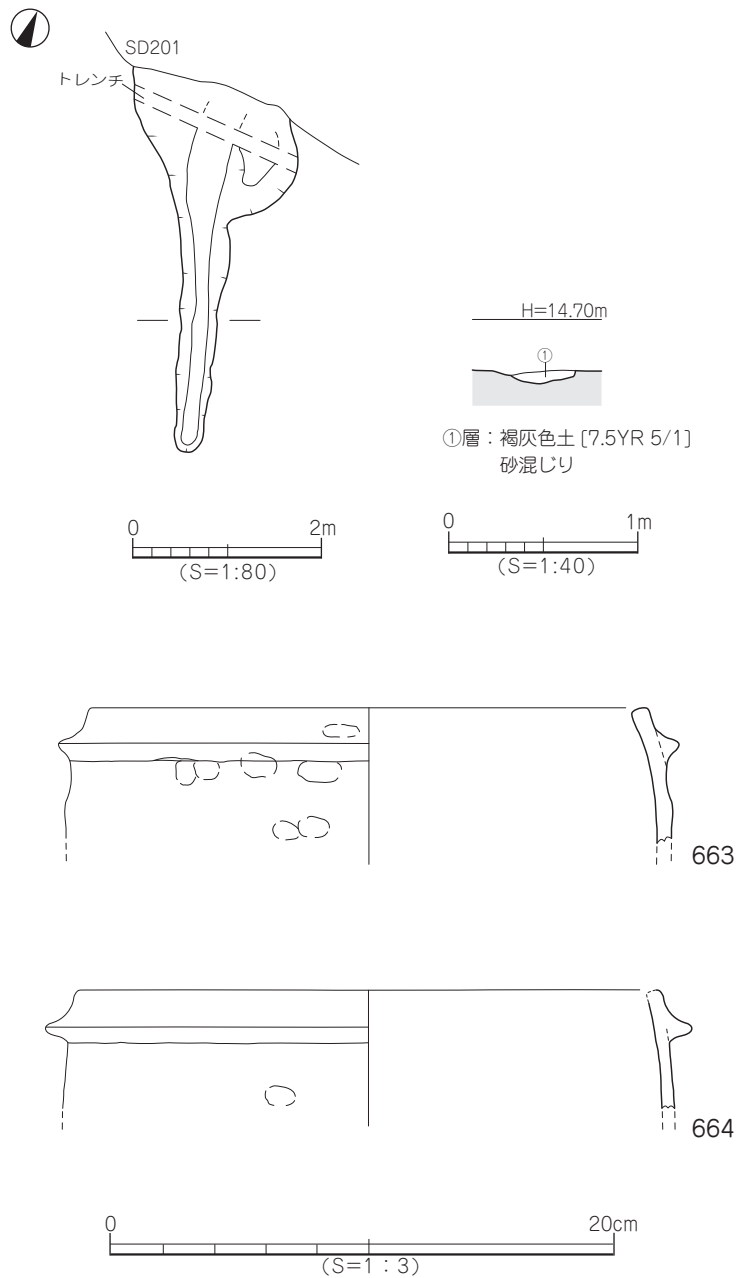
SD205 (第 172 図)

SD205 は、調査区の G8・9 区に位置する南北方向の溝で、SD206 を切り、SD201 に切られる。北側が土坑状に広がる。規模は、検出長 3.94 m、幅 0.40 ~ 1.92 m、深さ 0.06m を測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土 (7.5YR 5/1) 砂混じりである。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、須恵器がある。

出土遺物 (663・664)

663・664 は土師器の土釜。内湾する口縁端部外面下に、断面三角形の鏝を貼り付ける。

時期：出土遺物から、中世の溝と考えられる。



第 172 図 SD205 測量図・出土遺物実測図

**SD206** (第173図、図版28)

SD206は、調査区のG8～F9区に位置する東西方向の溝で、SD205、SK217(SE203)、カクランに切られる。規模は検出長5.40m、幅0.44～0.65m、深さ0.09mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 5/1)である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、須恵器がある。

**出土遺物** (665)

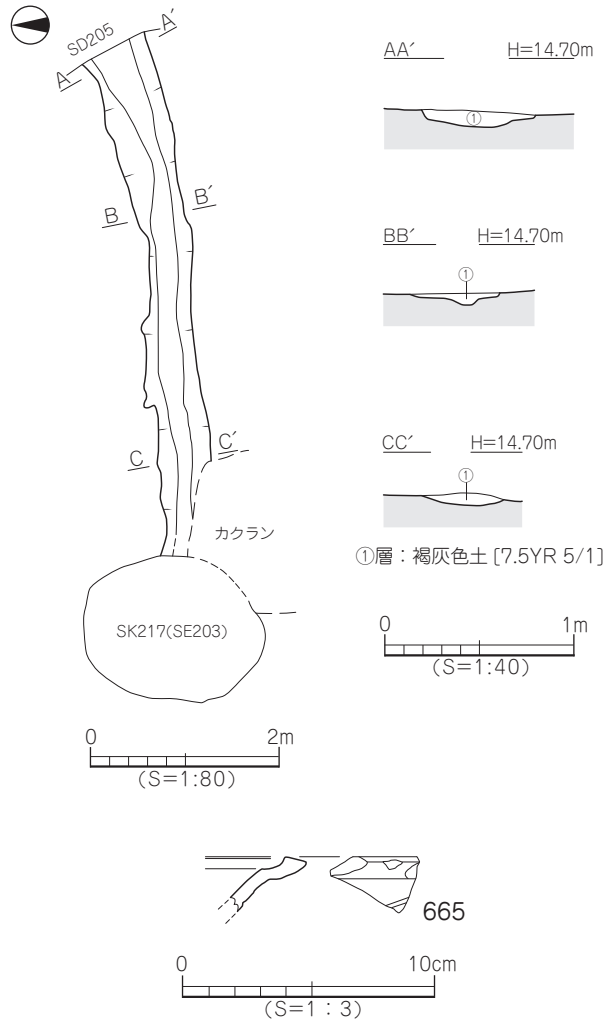
665は陶磁器の皿。口縁部は屈曲し、口縁端面は外傾する面をもつ。

時期：出土遺物から、中世の溝と考えられる。

**SD207** (第174図)

SD207は、調査区のE8区に位置する、南北方向の溝である。規模は、長さ2.13m、幅0.41m、深さ0.06mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 4/1)である。北に位置するSD226か227と同一の可能性がある。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、須恵器があるが、実測可能遺物はない。

時期：出土遺物から、中世の溝と考えられる。

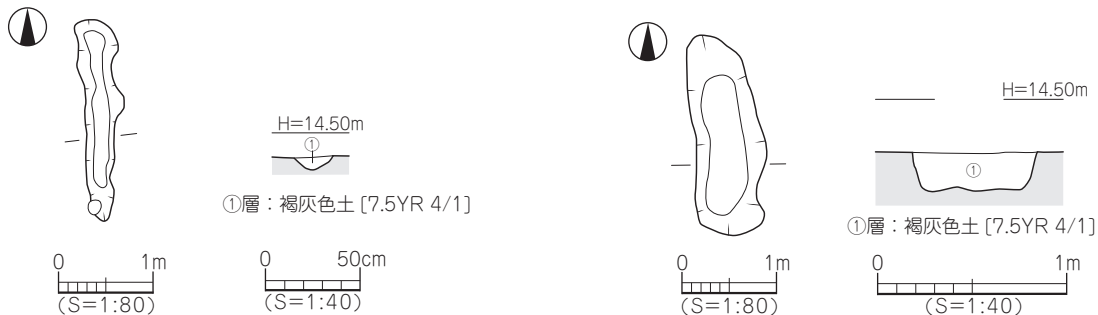


第173図 SD206 測量図・出土遺物実測図

**SD208** (第175図)

SD208は、調査区のE8・9区に位置する南北方向の溝である。規模は、長さ1.06m、幅0.38m、深さ0.10mを測る。断面形態は、箱状である。埋土は褐灰色土(7.5YR 4/1)である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、須恵器があるが、実測可能遺物はない。

時期：出土遺物から、中世の溝と考えられる。



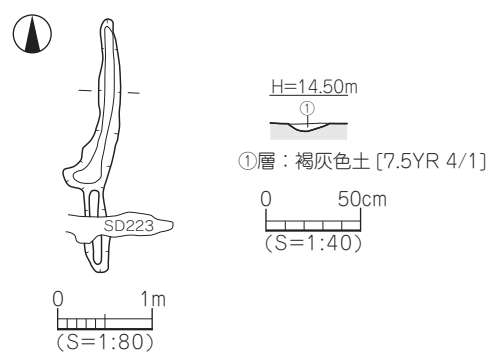
第174図 SD207 測量図

第175図 SD208 測量図

## SD209 (第176図)

SD209は、調査区のE8・9区に位置する南北方向の溝で、SD223に切られる。規模は、検出長2.68m、幅0.25m、深さ0.04mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 4/1)である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、須恵器があるが、実測可能遺物はない。

時期:出土遺物から、中世の溝と考えられる。

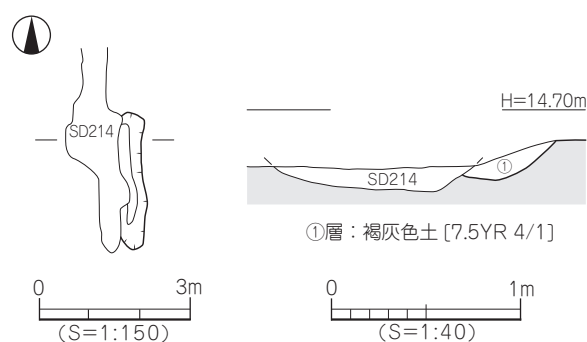


第176図 SD209 測量図

## SD210 (第177図)

SD210は、調査区のE8・9区に位置する南北方向の溝で、SD223を切り、SD214に切られる。規模は、検出長1.08m、幅0.20m、深さ0.20mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 4/1)である。出土遺物には、土師器の皿、坏、土釜、須恵器があるが、実測可能遺物はない。

時期:出土遺物から、中世の溝と考えられる。

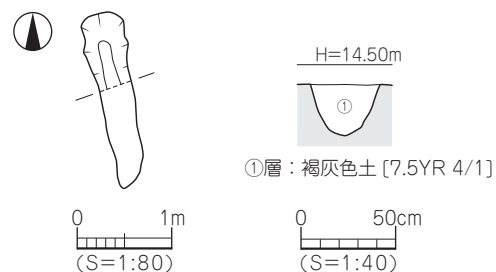


第177図 SD210 測量図

## SD211 (第178図)

SD211は、調査区のE8・9区に位置する南北方向の溝である。規模は、検出長1.87m、幅0.35m、深さ0.27mを測る。断面形態は、「U」字状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 4/1)である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、須恵器があるが、実測可能遺物はない。

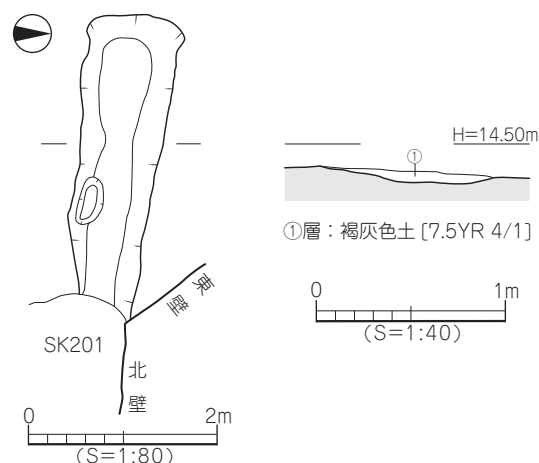
時期:出土遺物から、中世の溝と考えられる。



第178図 SD211 測量図

## SD212 (第179・180図)

SD212は、調査区のE7・8区に位置する東西方向の溝で、SK201に切られる。規模は、検出長3.02m、幅0.93m、深さ0.05mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 4/1)である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、須恵器、陶器がある。



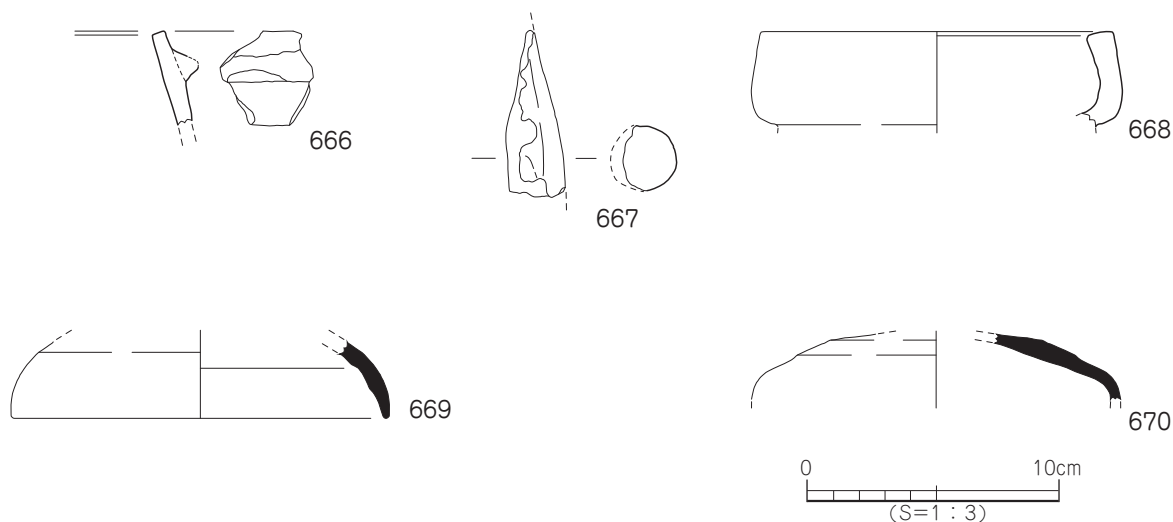
第179図 SD212 測量図



**出土遺物 (666～670)**

666・667は土師器の土釜。666は内湾する口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。667は三足付土釜の脚部。668は陶磁器の壺。内傾する短い口縁端部は「コ」字状である。669・670は須恵器の坏蓋。669は口縁部片。670は天井部の小片。

**時期：**出土遺物から、中世の溝と考えられる。



第180図 SD212 出土遺物実測図

**SD213・SD216 (第181～184図、図版28)**

SD213・216は同一の溝。調査区のD6～C9区に位置する。SD201を切りSK218(SE205)・SE208に切られる。SD201に切られる南側をSD213、北側をSD216として調査を行った。1次調査SD10のC9から湾曲して東に伸び、D9区で折れ曲がり北に延びる。規模は、検出長24.6m、幅1.16～0.75m、深さ0.28mを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は、①褐灰色土(7.5YR 5/1)に砂混じり、②橙色土(5YR 6/6)、③灰色粘質土(N 5/0)である。出土遺物には、土師器の皿・甕・土釜、須恵器の甕、備前焼の播鉢、陶磁器がある。

**出土遺物 (SD213：671～680)**

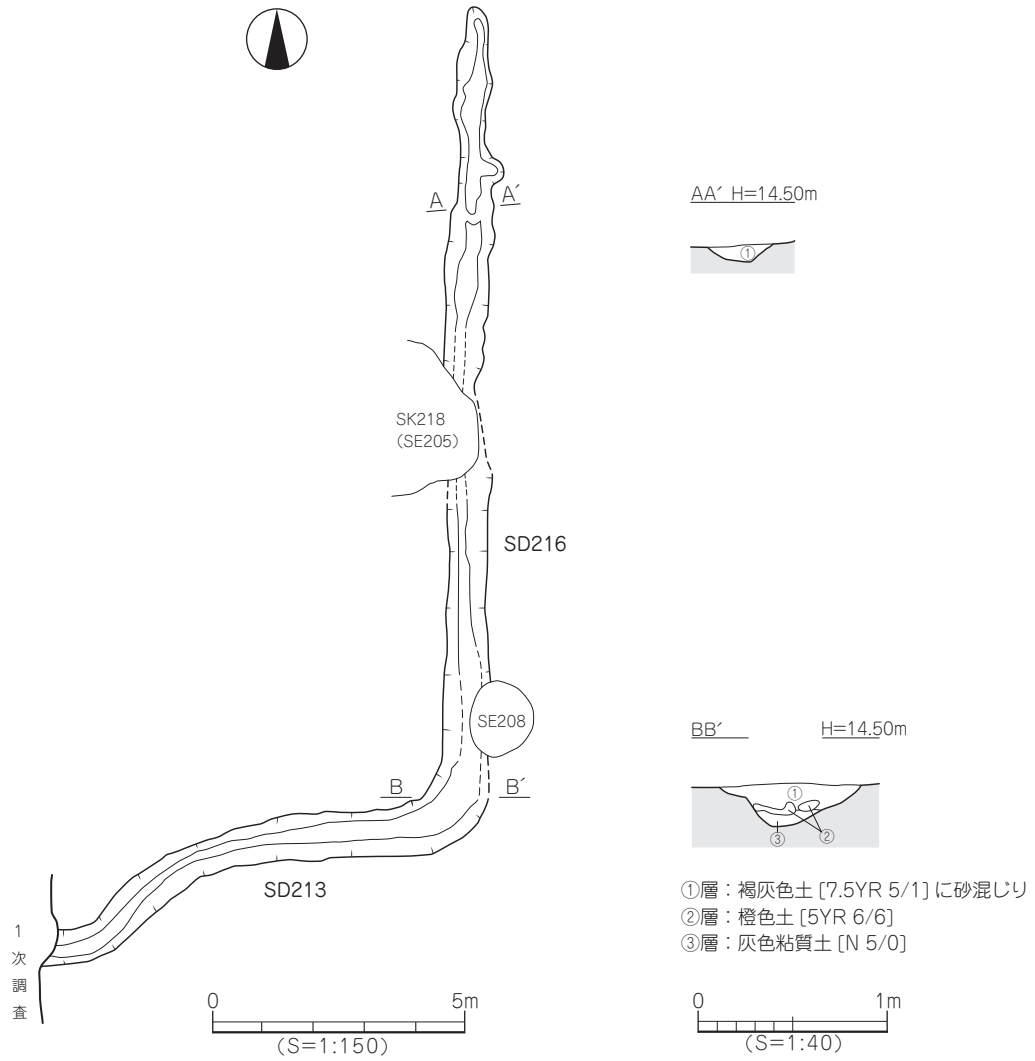
671～675は土師器。671は坏。平底の底部に内湾する体部。口縁端部は、尖り気味である。底部内面に轆轤目が残る。672～675は土釜。672は内湾する口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。673～675は三足付土釜の脚部。煤が付着する。676～678は陶器。676は茶釜(風炉)。内傾する短い口縁部。677は天目茶碗(瀬戸焼16世紀)。短く外反する口縁端部は丸い。底部は露胎。鉄釉が掛かる。678は壺。679は弥生土器。高坏の基部の小片。680は瓦の小片。内面に布目痕が残る。

**出土遺物 (SD216：681～688)**

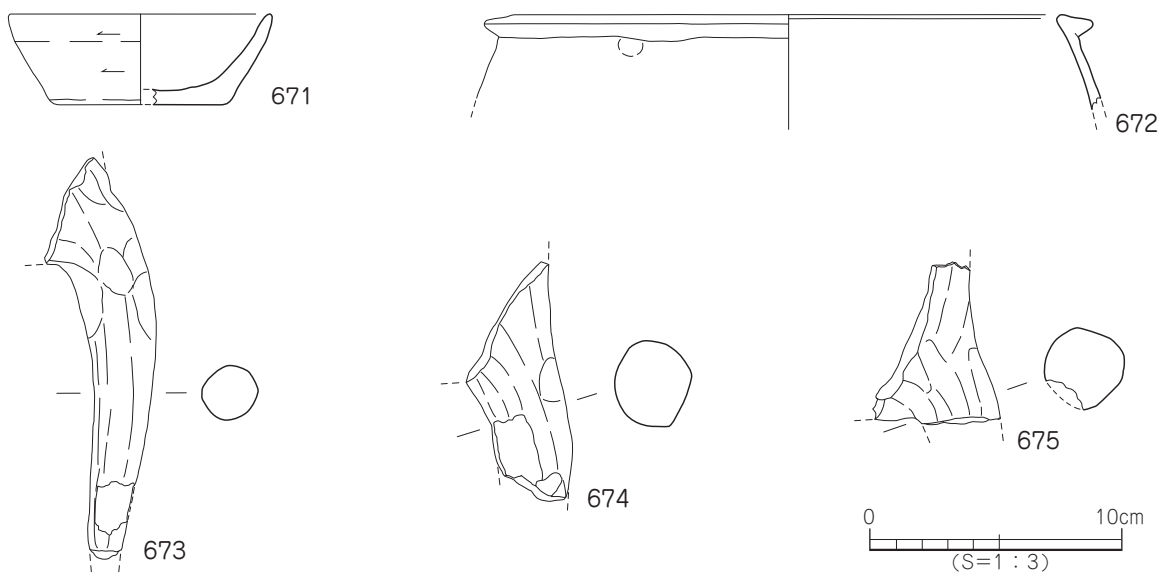
681～686は土師器。681・682は坏。681の口縁端部は外反する。682は底部の小片。683～686は土釜。683・684は内湾する口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。685・686は三足付土釜の脚部。685は煤が付着する。687・688は陶器。687は備前焼の播鉢。片口の口縁部の小片。688は天目茶碗(瀬戸焼15～16世紀)。口縁部は短く外反し、端部は尖り気味である。

**時期：**出土遺物から、SD213・216は中世の溝と考えられる。

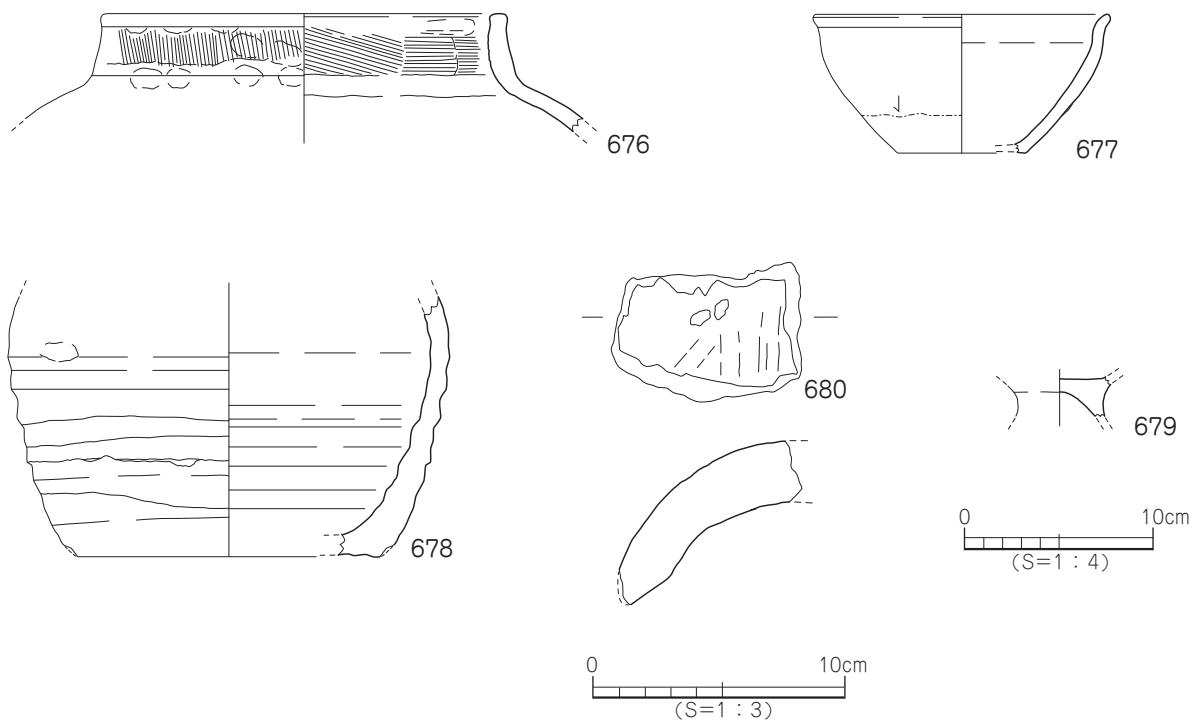
遺構と遺物



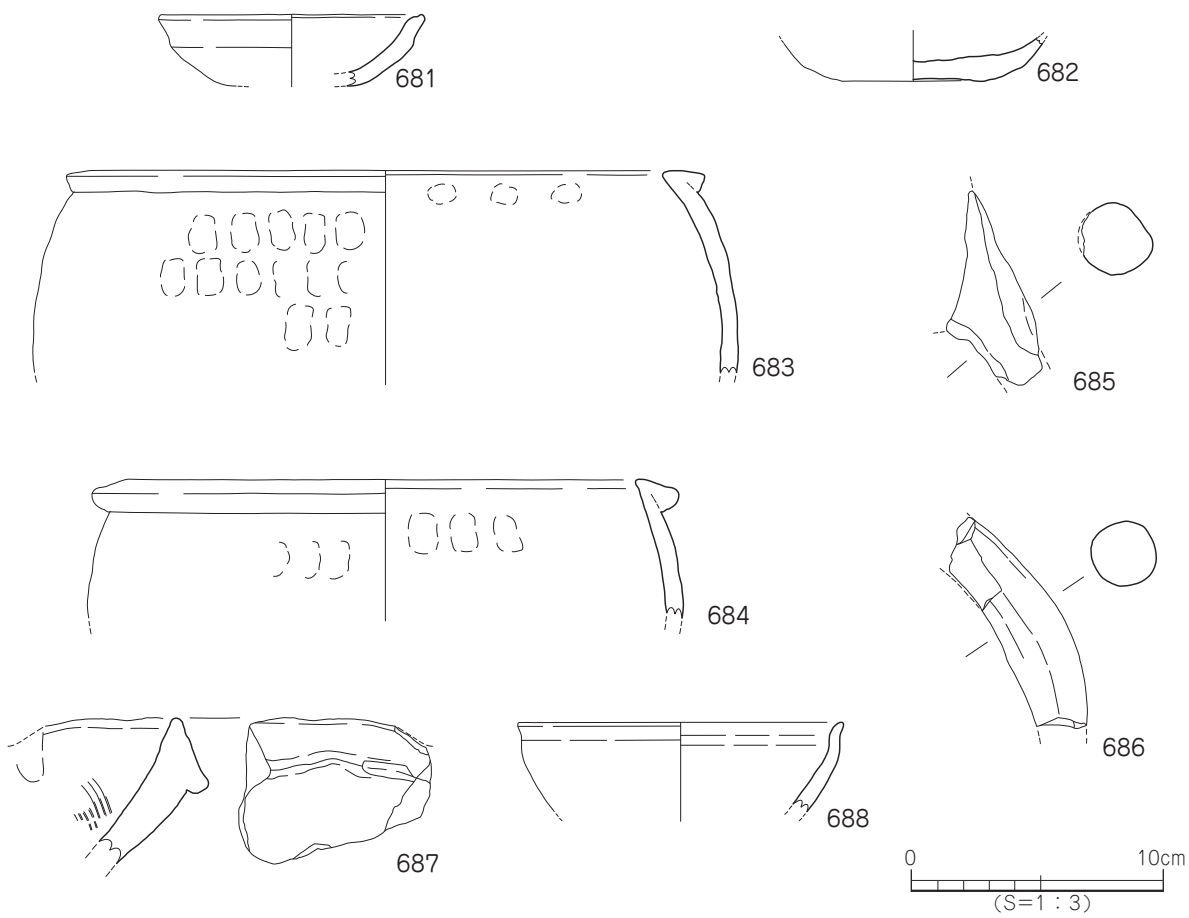
第181図 SD213・216測量図



第182図 SD213出土遺物実測図(1)



第 183 図 SD213 出土遺物実測図 (2)



第 184 図 SD216 出土遺物実測図

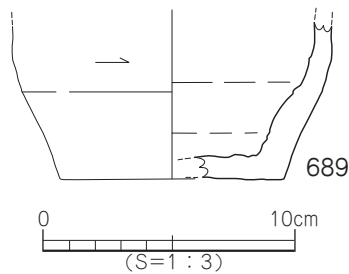
SD214 (第185図)

SD214は、調査区のE7～10区に位置し、SD210を切り、南側は1次調査区につづく、南北方向の溝である。規模は、検出長15.00m、幅0.35m、深さ0.10mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(5YR 4/1)である。出土遺物には陶器がある。

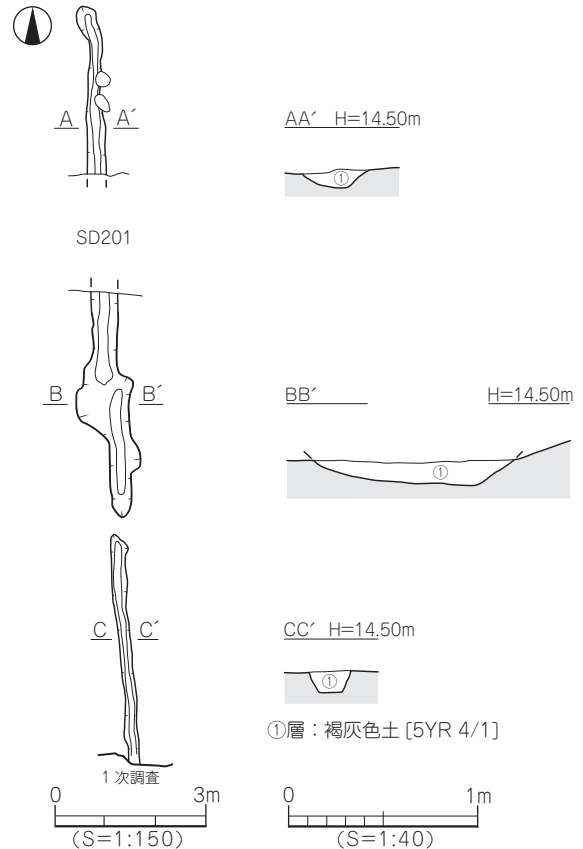
出土遺物 (689)

689は陶器の壺。平底の底部内面に自然釉が掛かる。

時期：埋土と出土遺物から、中世の溝と考えられる。



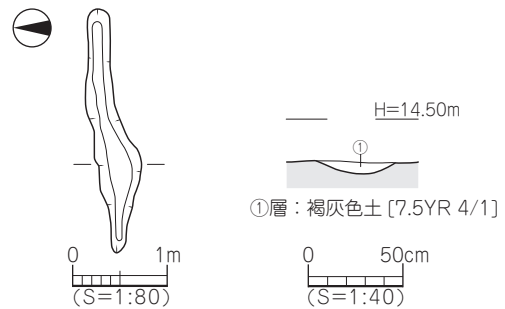
第185図 SD214 測量図・出土遺物実測図



SD215 (第186図)

SD215は、調査区のD8区に位置する東西方向の溝である。規模は、長さ2.60m、幅0.42m、深さ0.11mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 4/1)である。出土遺物はない。

時期：埋土から、中世の溝と考えられる。



第186図 SD215 測量図

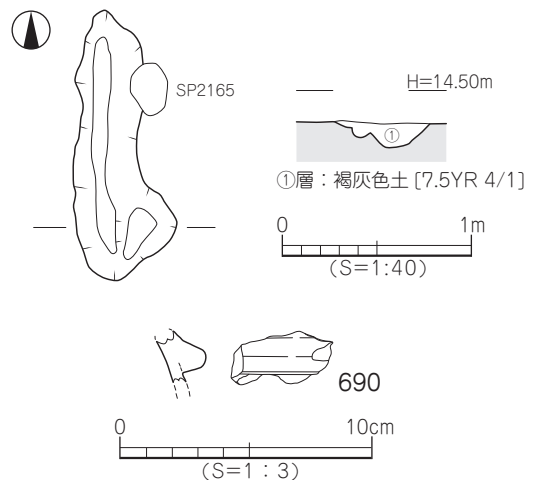
SD217 (第187図)

SD217は、調査区のD6区に位置し、SP2165に切られる、南北方向の溝である。規模は、長さ1.45m、幅0.48m、深さ0.13mを測る。断面形態は、不整形である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 4/1)である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜がある。

出土遺物 (690)

690は土師器の土釜。口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。煤が付着する。

時期：出土遺物から、中世の溝と考えられる。



第187図 SD217 測量図・出土遺物実測図

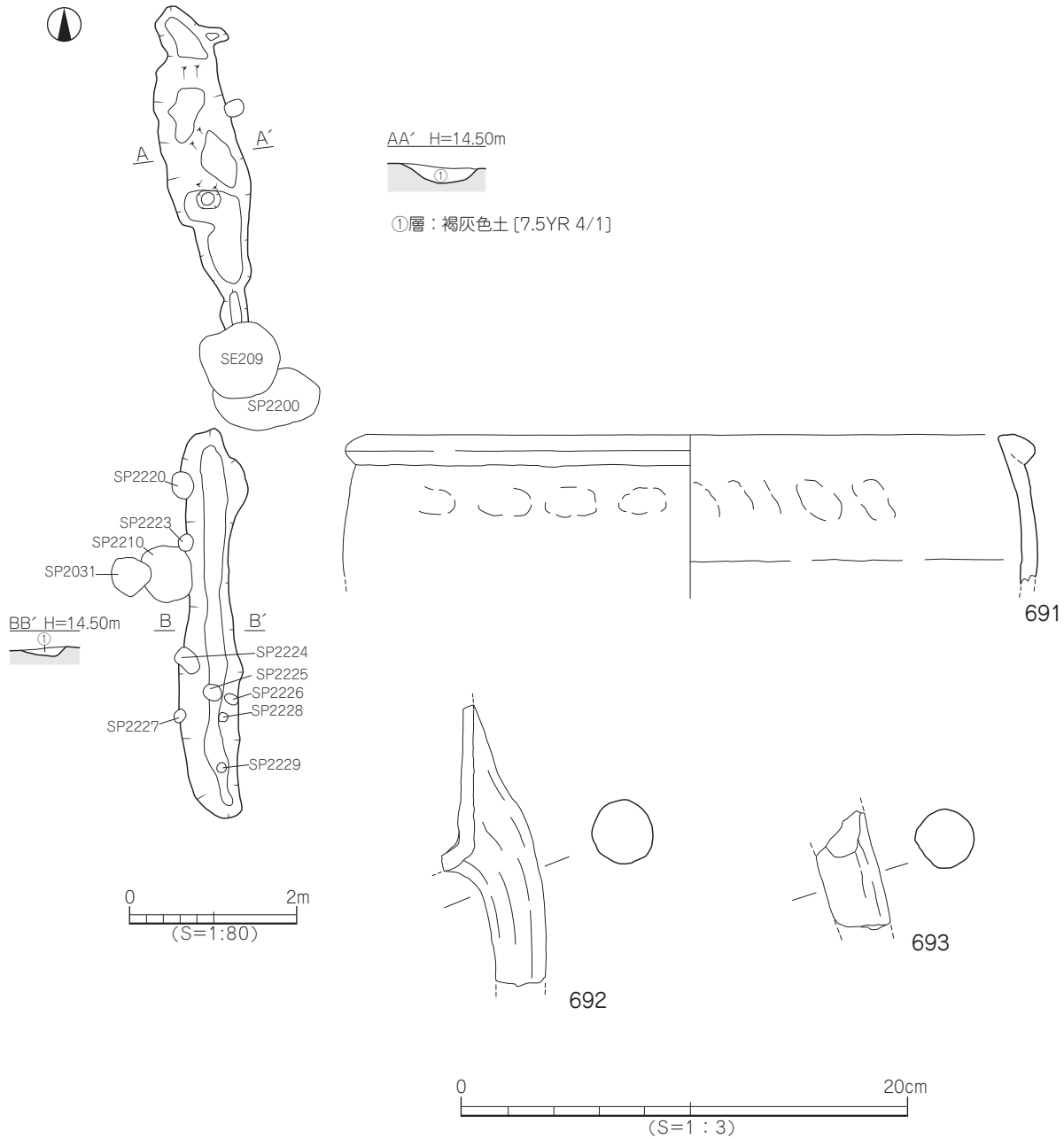
SD218 (第188図)

SD218は、調査区のD6・7区に位置する南北方向の溝で、SE209、SP2200・2210・2220・2223～2229に切れ、中央部が途切れる。規模は、検出長9.66m、幅0.95m、深さ0.18mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 4/1)である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、須恵器がある。

出土遺物 (691～693)

691～693は土師器の土釜。691は内湾する口縁端部外面に、断面三角形状の鏝を貼り付ける。692・693は三足付土釜の脚部。692は煤が付着する。

時期：出土遺物から、中世の溝と考えられる。



第188図 SD218測量図・出土遺物実測図

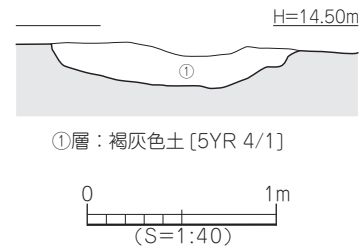
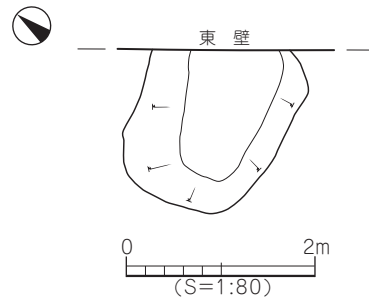
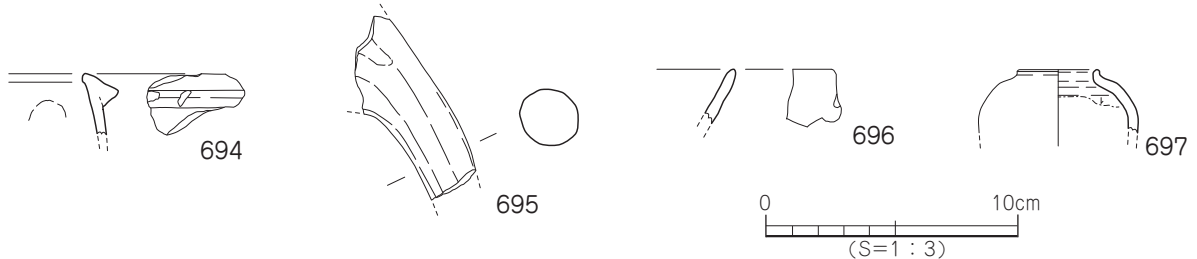
SD219 (第189図、図版28)

SD219は、調査区のE7区に位置する東西方向の溝で、東側は調査区外につづく。規模は、検出長2.00m、幅1.54m、深さ0.21mを測る。土坑状である。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(5YR 4/1)である。出土遺物には、土師器、須恵器、陶磁器がある。

出土遺物 (694～697)

694・695は土師器の土釜。694は内湾する口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。695は三足付土釜の脚部。696・697は陶磁器。696は碗の口縁部の小片。697は小壺。直立する短い口縁端部は丸い。瀬戸焼か。

時期：埋土から、中世の溝と考えられる。



第189図 SD219測量図・出土遺物実測図

SD220 (第190図)

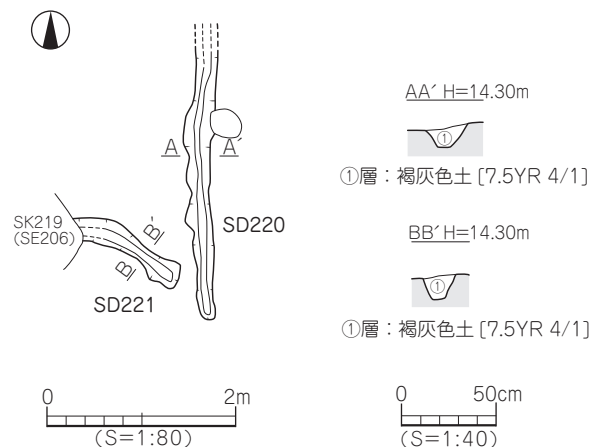
SD220は、調査区のC8・9区に位置し、SD201を切る南北方向の溝である。規模は、検出長2.84m、幅0.23m、深さ0.11mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 4/1)である。出土遺物はない。

時期：埋土から、中世の溝と考えられる。

SD221 (第190図)

SD221は、調査区のC8区に位置し、SK219(SE206)に切られる、東西方向の短い溝で、1次調査のSD7につづく溝と思われる。規模は、検出長1.28m、幅0.23m、深さ0.13mを測る。断面形態は、「U」字状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 4/1)である。出土遺物はない。

時期：埋土から、中世の溝と考えられる。



第190図 SD220・221測量図

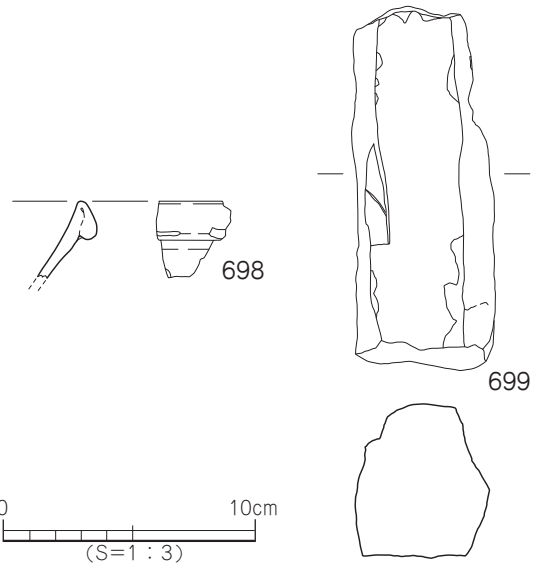
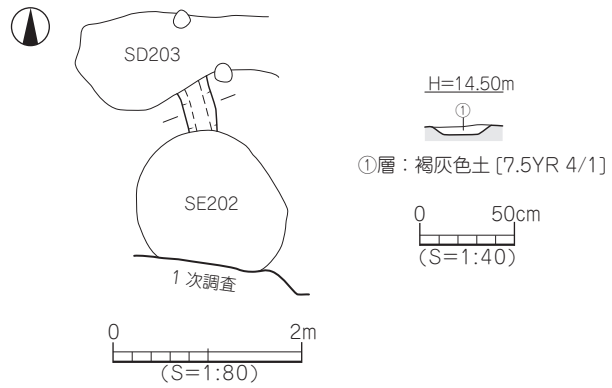
SD222 (第191図、図版28)

SD222は、調査区のE9区に位置し、SD203、SE202に切られる、南北方向の短い溝である。規模は、検出長0.60m、幅0.31m、深さ0.05mを測る。断面形態は、皿状である。埋土は褐灰色土(7.5YR 4/1)である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、陶磁器、須恵器、石製品がある。

出土遺物 (698・699)

698は白磁の碗。口縁端部は折り曲げられて玉縁状である。699はカマド石。煤が付着する。

時期:出土遺物から、中世の溝と考えられる。



第191図 SD222 測量図・出土遺物実測図

SD223 (第192図)

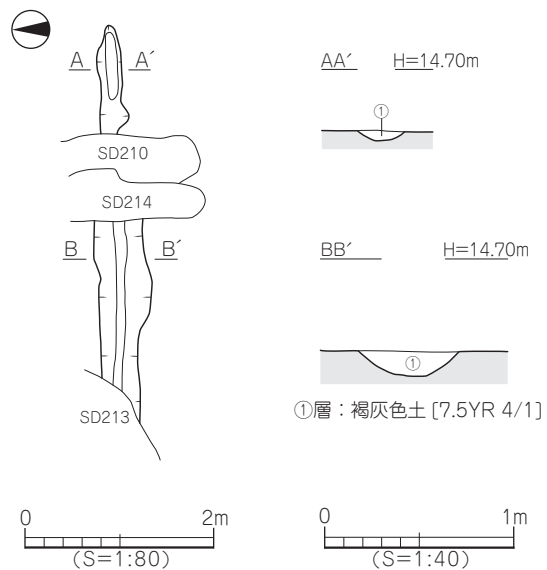
SD223は、調査区のD・E9区に位置する東西方向の溝で、SD209を切り、SD210・213・214に切られる。規模は、検出長4.18m、幅0.66m、深さ0.13mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 4/1)である。出土遺物には、土師器の皿・坏があるが、実測可能遺物はない。

時期:出土遺物から、中世の溝と考えられる。

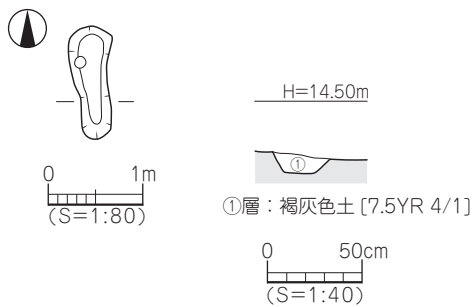
SD224 (第193図)

SD224は、調査区のD8区に位置する南北方向の溝である。規模は、長さ1.20m、幅0.45m、深さ0.11mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 4/1)である。出土遺物はない。

時期:埋土から、中世の溝と考えられる。



第192図 SD223 測量図



第193図 SD224 測量図

## SD226 (第194図)

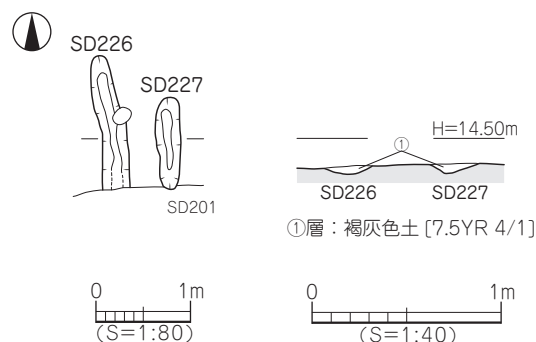
SD226は、調査区のE7・8区に位置する南北方向の溝で、SD201に切られる。規模は、検出長1.40m、幅0.29m、深さ0.04mを測る。断面形態はレンズ状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 4/1)である。出土遺物はない。

時期：埋土から、中世の溝と考えられる。

## SD227 (第194図)

SD227は、調査区のE7・8区に位置し、SD201に切られる、南北方向の溝である。規模は、検出長0.99m、幅0.26m、深さ0.06mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 4/1)である。出土遺物はない。

時期：埋土から、中世の溝と考えられる。



第194図 SD226・227 測量図

## 5) グリッド出土遺物 (700～710) (第195図、図版28)

700～703は土師器。700は埴。内湾する口縁端部は、尖り気味である。701～703は土釜。701は内湾する口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。煤が付着する。702・703は三足付土釜の脚部。702は煤が付着する。704～707は陶磁器。704は皿。口縁部は短く内湾する。705～708は碗。705・706は口縁部の小片。707は天目茶碗。底部の小片。瀬戸焼。708は中国製白磁碗。709は須恵器の坏。710は丸瓦の小片。

## 6) カクラン201出土遺物 (711～714) (第196図、図版28)

711・712は土師器の皿。底部の切り離しは回転糸切りである。713・714は陶磁器の碗。713の口縁端部は尖り気味である。714は中国製白磁碗。口縁端部は玉縁状である。C7・D7区出土。

## 7) 出土地点不明遺物 (715～725) (第197・198図、図版28)

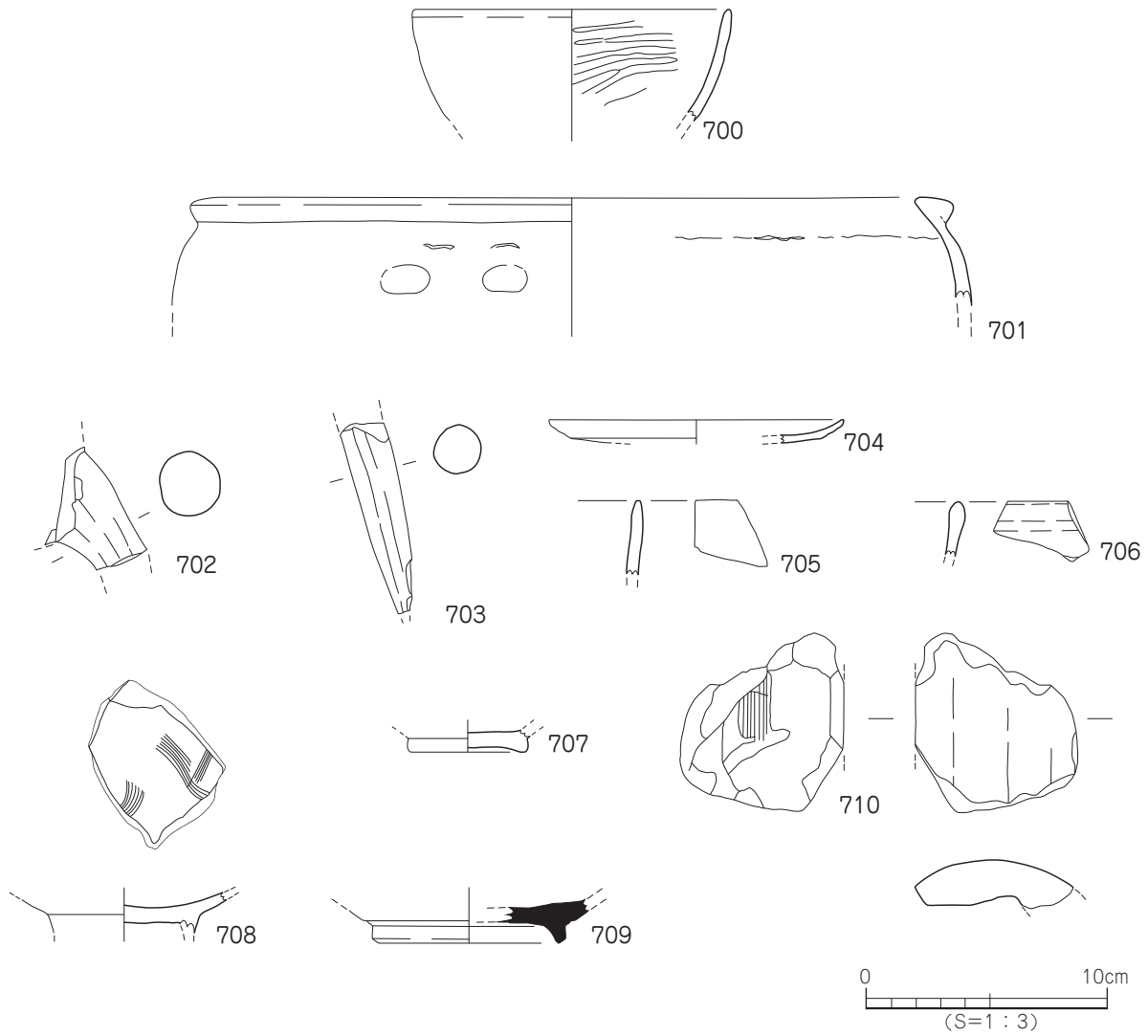
715・716は瓦器。715は埴。僅かに外反する口縁部。716は皿。底部の小片。717～720は土師器。717は皿。底部の切り離しは回転糸切りである。718・719は土釜。口縁端部外面に、断面三角形の鏝貼り付ける。煤が付着する。720は羽釜。水平に伸びる鏝が付く。煤が付着する。721・722は陶磁器の碗。721は口縁部の小片。722は底部片。削り出し高台が付く。723は須恵器の坏蓋。中央部が窪むつまみが付く。724は石製品。硯の可能性が考えられる。725は銅銭。「皇宋通寶」である。

## 8) 第2面(第X層上面)出土遺物 (726～728) (第199図、図版28)

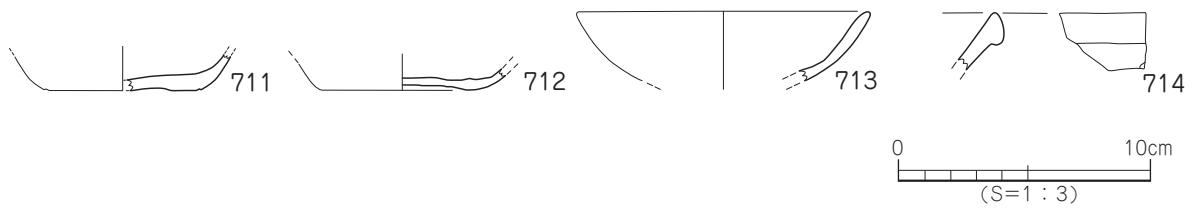
726・727は須恵器。726は坏蓋の完形品。丸みをもつ天井部と、口縁部を分ける稜は不明瞭である。C7区出土。727は坏身の完形品。受け部は外上方に伸び、たちあがりは内傾する。E7区出土。728は砥石。断面四角形で全面に使用痕があり、よく使いこまれている。金属器を研いだ直線状の線と敲打した窪みが見られる。E7区出土727の坏身に近接して出土した。



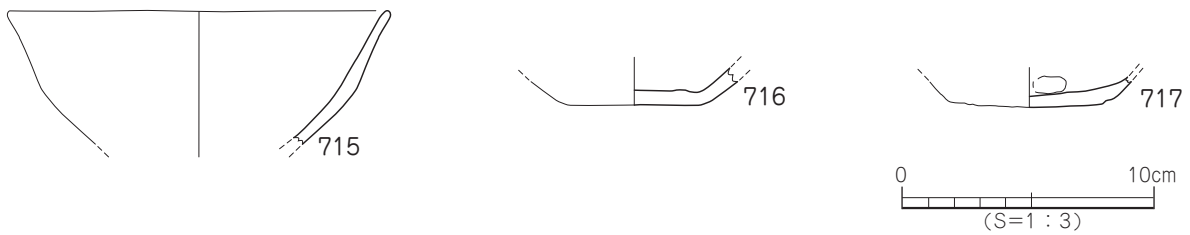
南江戸上沖遺跡2次調査2区



第 195 図 グリッド出土遺物実測図

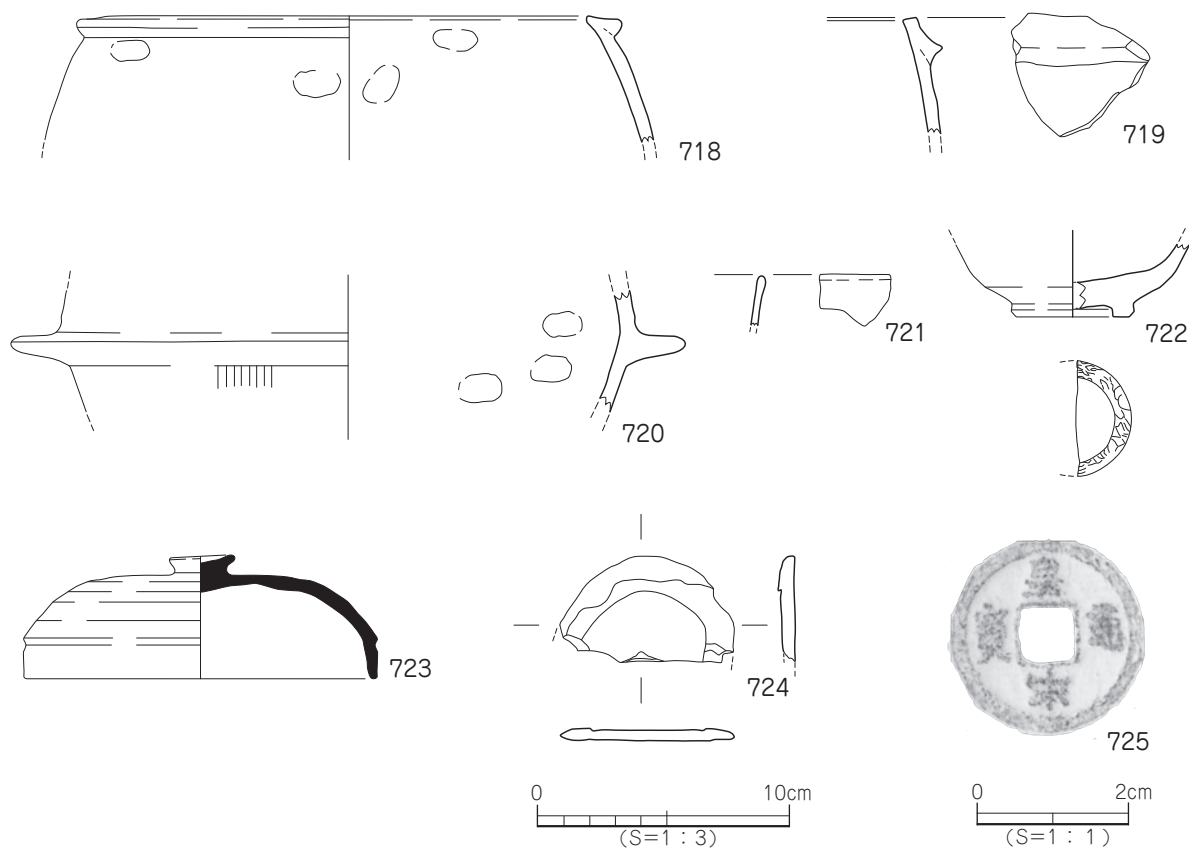


第 196 図 カクラン 201 出土遺物実測図

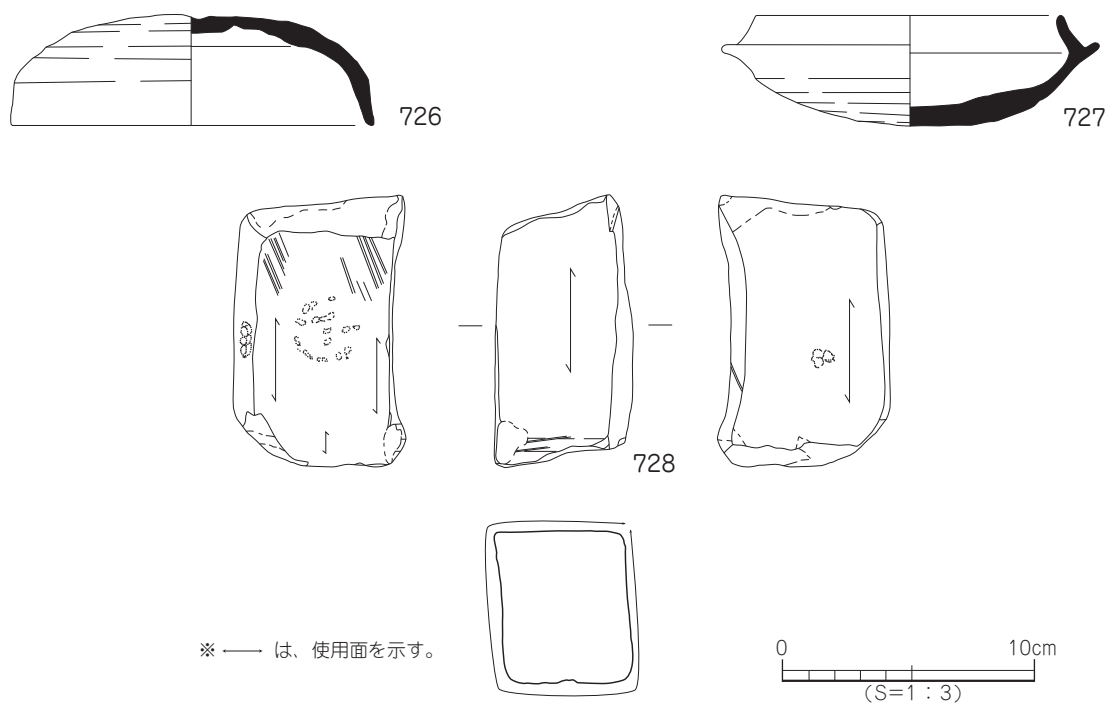


第 197 図 出土地点不明遺物実測図 (1)

遺構と遺物



第 198 図 出土地点不明遺物実測図 (2)・拓本



第 199 図 第 2 面出土遺物実測図

南江戸上沖遺跡2次調査2区

遺構・遺物一覧 — 凡例 —

(1) 以下の表は、本調査地検出の遺構と出土遺物の計測値及び観察一覧である。

(2) 出土遺物観察表の各掲載について

法量欄 ( ): 推定復元値

調整欄 土製品の各部名称を略記した。

例) ㊦→口縁部、㊧→底部、㊨→天井部、㊩上→底部上部、㊩下→底部下部、

㊪上→天井部上部、㊪下→天井部下部、㊫上→胴部上部、㊫下→胴部下部

胎土・焼成欄 胎土欄では混和剤を略記した。

例) 石→石英、長→長石、金→金ウンモ、密→精製土。

( ) 中の数値は混和剤粒子の大きさを示す。

例) 石・長 (1~4) →「1mm~4mm 大の石英・長石を含む」である。

焼成欄の略記について。

◎→良好

表 89 2区土坑一覧

(1)

土坑 (SK)	地区	平面形	断面形	規模 長径×短径×深さ (m)	埋土	出土遺物	時期	備考
201	F7・8	楕円形	レンズ状	(1.58) × 1.68 × 0.17	褐灰色土 (10YR 4/1) 砂混じり	土師器 須恵器 陶器	中世	SD201・202を 切る。北側は 調査区外。
202	F8	楕円形	逆台形状	1.20 × 0.88 × 0.27	褐灰色土 (5YR 5/1) 砂混じり	土師器	中世	SD201に 切られる。
203	F10	楕円形	レンズ状	(0.73) × 1.06 × 0.14	①褐灰色土 (10YR 4/1) ②にぶい黄橙色土 (10YR 7/3)	土師器 須恵器	中世	SK204、トレン チに切ら れる。
204	F9・10	円形	逆台形状	1.10 × 1.10 × 0.45	①褐灰色土 (10YR 4/1) に ぶい黄橙色土 (10YR 7/3) がブロック状に混じる。 ②にぶい黄橙色土 (10YR 7/3) に褐灰色土 (10YR 4/1) が混 じる。 ③褐灰色粘質土 (10YR 6/1) に灰白色砂質土 (10YR 7/1) が混じる。	土師器 須恵器 瓦器 陶磁器	中世	SK203を 切る。
SK205 欠番→SE214に変更								
206	C8	円形	逆台形状	1.05 × 1.05 × 0.20	①灰黄褐色土 (10YR 5/2) ②褐灰色土 (7.5YR 4/1)	土師器 須恵器 瓦器 陶磁器 石製品	中世	SK216、SD201 を切る。
207	C7	不整形	レンズ状	1.25 × 1.09 × 0.10	褐灰色土 (10YR 7/2) に黄橙色土混じり	土師器 須恵器	中世	SP2064・2237 に切られる。
SK208 欠番→SE211に変更								
SK209 欠番→SP2200に変更								
SK210 欠番→SE212に変更								
211	D9	楕円形	レンズ状	0.78 × 0.94 × 0.15	褐灰色土 (10YR 4/1)	土師器	中世	SD202・204を 切る。
212	D6	不整形	レンズ状	0.82 × 0.47 × 0.18	褐灰色土 (10YR 4/1)	なし	中世	
213	C5	円形	レンズ状	1.15 × 1.15 × 0.24	褐灰色土 (10YR 4/1)	土師器 瓦器 須恵器	中世	SK214に 切られる。
214	C5	楕円形	レンズ状	1.72 × 1.23 × 0.21	褐灰色土 (10YR 4/1)	土師器 須恵器	中世	SK213を 切る。
215	C9	楕円形	レンズ状	1.05 × 0.82 × 0.08	褐灰色土 (10YR 4/1)	なし	中世	
216	C8	楕円形	レンズ状	1.96 × 1.07 × 0.20	①灰黄褐色土 (10YR 6/2) ②浅黄橙色土 (10YR 8/4) ③褐灰色土 (10YR 4/1) ④灰黄褐色土 (10YR 6/2) に浅黄橙色土 (10YR 8/4) がブロック状に混じる。	土師器 須恵器 瓦器	中世	SK206に 切られる。

遺構一覧

2区土坑一覧

(2)

土坑 (SK)	地区	平面形	断面形	規模 長径×短径×深さ (m)	埋土	出土遺物	時期	備考
217	F8・9	楕円形	逆台形状	1.93 × 1.50 × 0.63	①褐灰色土 (10YR 4/1) ②にぶい橙色土 (7.5YR 6/4) ③黄灰色粘質土 (2.5Y 4/1) ④黄灰色粘質土 (2.5Y 6/1) ⑤灰黄色粘質土 (2.5Y 7/2)	土師器 須恵器 瓦器 石製品	室町時代	(SE203) 変更。 カクランに切られる。
218	D7	円形	レンズ状	3.45 × 3.18 × 0.60	褐灰色土 (10YR 4/1)	土師器 須恵器 瓦器 陶磁器 石製品	室町時代	(SE205) 変更。 SD216 を切る。
219	C8・9	不整形	逆台形状	2.27 × 1.70 × 0.70	褐灰色土 (10YR 4/1)	土師器 須恵器 瓦器 陶磁器	中世	(SE206) 変更。 SD221 を切る。 破壊された井戸。
220	D6・7	楕円形	逆台形状	1.70 × 1.23 × 0.22	褐灰色土 (10YR 4/1)	土師器 須恵器 瓦器 陶磁器	室町時代	(SE210) 変更。

表 90 2区井戸一覧

井戸 (SE)	地区	平面形	断面形	規模 長径×短径×深さ (m)	埋土	出土遺物	時期	備考
201	E10	円形	逆台形状	1.04 × 1.04 × 1.00	黒褐色土 (7.5YR 3/1)	土師器 須恵器 瓦質土器	室町時代	曲げものが 上下二段。
202	D・E9・10	円形	漏斗形状	1.65 × (1.10) × 0.95	褐灰色土 (10YR 4/1)	土師器 陶磁器	室町時代	南側は1次 調査区につづく。
欠番 203 → SK217 変更								
204	D8	方形	逆台形状	2.00 × 2.00 × 1.03	褐灰色土 (10YR 4/1)	土師器 須恵器 瓦質土器 陶磁器 石製品	室町時代	SD201 を 切る。
欠番 205 → SK218 変更								
欠番 206 → SK219 変更								
欠番 207 → 1次SE4 と同一。1次で報告								
208	D・E8	楕円形	逆台形状	1.65 × 1.23 × 0.64	褐灰色土 (10YR 4/1)	土師器 須恵器	室町時代	SD213 を 切る。
209	D6	不整形	逆台形状	0.95 × 0.90 × 0.68	褐灰色土 (10YR 4/1)	土師器 須恵器	室町時代	SD218 を 切る。木枠。
欠番 210 → SK220 変更								
211	C・D6	不整形楕円形	逆台形状	1.48 × 1.15 × 0.65	褐灰色土 (10YR 4/1)	土師器 須恵器 瓦器	室町時代	(SK208) 変更。
212	D7	円形	逆台形状	2.03 × 1.83 × 0.85	①黒褐色土 (10YR 3/1) ②にぶい黄橙色土 (10YR 6/3) ③褐灰色粘質土 (10YR 6/1) 砂混じり ④灰色粘質土 (5Y 6/1) 黄色砂混じり ⑤黒色土 (10YR 2/1) 炭化材混じり ⑥黒褐色土 (2.5Y 3/1) 砂混じり ⑦浅黄色砂 (2.5Y 7/4)	土師器 須恵器 瓦 石製品	室町時代	(SK210) 変更。
213	C7	円形	逆台形状	0.75 × 0.60 × 0.48	褐灰色土 (10YR 4/1)	土師器 瓦器	室町時代	SP2230 に切られる。西側は1次調査区につづく。
214	E8	円形	逆台形状	1.00 × 0.91 × 0.98	①褐灰色土 (5YR 4/1) ②黒褐色粘質土 (2.5Y 3/1) に黄灰色砂質土 (2.5Y 6/1) がアロック状に混じる ③黄灰色砂質土 (2.5Y 6/1) に黒褐色粘質土 (2.5Y 3/1) がアロック状に混じる ④黄灰色砂質土 (2.5Y 6/1) に礫が混じる	土師器 瓦器 陶磁器	室町時代	(SK205) 変更。
215	C7・8	円形	逆台形状	1.01 × 0.91 × 1.04	褐灰色土 (10YR 4/1)	土師器 須恵器 瓦器	室町時代	西側は1次 調査区につづく。
216	D5	円形	逆台形状	1.36 × 1.31 × 0.70	褐灰色土 (10YR 4/1)	土師器 須恵器 瓦器 白磁瓦	室町時代	

南江戸上沖遺跡2次調査2区

表91 2区溝一覧

(1)

溝 (SD)	地区	方向	断面形	規模 長さ×幅×深さ (m)	埋土	出土遺物	時期	備考
201	C8～G8	東西	レンズ状	(25.30) × 2.82 × 0.25～0.45	①灰褐色土 (75YR 5/2) 砂混じり ②明褐色粘質土 (75YR 7/1) 砂混じり ③褐色土 (10YR 5/1) ④褐色粘質土 (5YR 6/1) ⑤褐色土 (5YR 4/1) ⑥灰白色細砂 (10YR 7/1) ⑦浅黄褐色土 (10YR 8/4) ⑧にぶい赤褐色土 (5YR 5/3)	土師器 須恵器 瓦質土器 陶磁器 石製品	14世紀末 ～15世紀前半	SE204、SK201・202・216、SD213に切られる。 1次SD6、2次SD106と同一溝。
202	C9～G9	東西	レンズ状	(19.00) × 0.83 × 0.23	褐色土 (75YR 5/1)	土師器 須恵器 瓦器 陶磁器 石製品	室町時代	SD204・214、SK211、カクランに切られる。 東側は調査区外につづく。
203	D9～G9	東西	レンズ状	(15.92) × 0.48 × 0.04	褐色土 (75YR 5/1)	土師器 須恵器 瓦器 陶磁器	室町時代	SD214に切られ、東側は調査区外につづく。
204	C9～G9	東西	レンズ状	(24.96) × 1.00 × 0.18	①褐色土 (75YR 5/1) ②褐色土 (75YR 5/1) にぶい橙色土 (75YR 7/4) がブロック状に混じる	土師器 須恵器 陶磁器 石製品 鉄滓	室町時代	SD202を切り、SD214、SK211に切られる。1次調査SD8・10と同一溝。
205	G8・9	南北	レンズ状	(3.94) × 0.40～1.92 × 0.06	褐色土 (75YR 5/1) 砂混り	土師器 須恵器	室町時代	SD206を切る。 SD201に切られる。
206	G8～F9	東西	レンズ状	(5.40) × 0.44～0.65 × 0.09	褐色土 (75YR 5/1)	土師器 須恵器 陶磁器	中世	SK217、SD205、カクランに切られる。
207	E8	南北	レンズ状	2.13 × 0.41 × 0.06	褐色土 (75YR 4/1)	土師器 須恵器	中世	
208	E8・9	南北	箱状	1.06 × 0.38 × 0.10	褐色土 (75YR 4/1)	土師器 須恵器	中世	
209	E8・9	南北	レンズ状	(2.68) × 0.25 × 0.04	褐色土 (75YR 4/1)	土師器 須恵器	中世	SD223に切られる。
210	E8・9	南北	レンズ状	(1.08) × 0.20 × 0.20	褐色土 (75YR 4/1)	土師器 須恵器	中世	SD223を切り、SD214に切られる。
211	E8・9	南北	「U」字状	(1.87) × 0.35 × 0.27	褐色土 (75YR 4/1)	土師器 須恵器	中世	
212	E7・8	東西	レンズ状	(3.02) × 0.93 × 0.05	褐色土 (75YR 4/1)	土師器 須恵器 陶磁器	中世	SK201に切られる。
213 216	D6～C9	南北	レンズ状	(24.60) × 1.16～0.75 × 0.28	①褐色土 (75YR 5/1) 砂混じり ②橙色土 (5YR 6/6) ③灰色粘質土 (N 5/0)	土師器 須恵器 陶磁器	室町時代	SD216・213は同一溝。 SD201を切る。 SE208・SK218に切られる。
214	E7～10	南北	レンズ状	(15.00) × 0.35 × 0.10	褐色土 (5YR 4/1)	陶器	室町時代	SD210を切る。 南側は1区調査区につづく。
215	D8	東西	レンズ状	2.60 × 0.42 × 0.11	褐色土 (75YR 4/1)	なし	中世	
216	213と同一							
217	D6	南北	不整形	1.45 × 0.48 × 0.13	褐色土 (75YR 4/1)	土師器	中世	SP2165に切られる。
218	D6・7	南北	レンズ状	(9.66) × 0.95 × 0.18	褐色土 (75YR 4/1)	土師器 須恵器	中世	SE209、SP2200・2210・2220・2223～2229に切られる。 中央部が途切れる。
219	E7	東西	レンズ状	(2.00) × 1.54 × 0.21	褐色土 (5YR 4/1)	土師器 須恵器 陶磁器	中世	東側は調査区外につづく。
220	C8・9	南北	レンズ状	(2.84) × 0.23 × 0.11	褐色土 (75YR 4/1)	なし	中世	SD201を切る。

出土遺物一覧

溝一覧

(2)

溝 (SD)	地区	方向	断面形	規模 長さ×幅×深さ (m)	埋土	出土遺物	時期	備考
221	C8	東西	「U」字状	(1.28) × 0.23 × 0.13	褐灰色土 (75YR 4/1)	なし	中世	SK219 に切られる。
222	E9	南北	皿状	(0.60) × 0.31 × 0.05	褐灰色土 (75YR 4/1)	土師器 須恵器 陶磁器 石製品	中世	SE202、SD203 に切られる。
223	D・E9	東西	レンズ状	(4.18) × 0.66 × 0.13	褐灰色土 (75YR 4/1)	土師器	中世	SD209 を切る。 SD210・213・214 に切られる。
224	D8	南北	レンズ状	1.20 × 0.45 × 0.11	褐灰色土 (75YR 4/1)	なし	中世	
次番								
226	E7・8	南北	レンズ状	(1.40) × 0.29 × 0.04	褐灰色土 (75YR 4/1)	なし	中世	SD201 に切られる。
227	E7・8	南北	レンズ状	(0.99) × 0.26 × 0.06	褐灰色土 (75YR 4/1)	なし	中世	SD201 に切られる。

表 92 SK201 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
378	皿	口径 (10.8) 底径 (7.0) 器高 2.0	内湾する口縁部から体部。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 にぶい橙色	長 (1) ◎		
379	坏	口径 (10.0) 底径 (6.6) 器高 3.6	外傾する口縁部。	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	長 (1) ◎		
380	坏	底径 (6.6) 残高 1.1	底部の小片。	ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	長 (1) ◎		
381	土釜	残高 3.0	外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色 灰黄褐色	長 (1~2) ◎	煤付着 下層	
382	土釜	残高 4.3	三足付土釜の脚部片。	ナデ		黒褐色	長 (1) 金 ◎		
383	播鉢	底径 (16.9) 残高 3.2	備前焼。	回転ナデ ヨコナデ	ヨコナデ	灰黄褐色 褐灰色	長 (1) ◎		
384	甕	頸部径 (22.0) 残高 9.7	頸部から胴部片。	施釉	回転ナデ ナデ	灰黄色 黄灰色	長 (1) ◎		

表 93 SK202 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
385	土釜	口径 (20.5) 器高 4.0	口縁部外面下に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長 (1~2) ◎		

表 94 SK203 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
386	坏蓋	残高 2.0	外面に 2 本の直線のヘラ記号がある	㊦回転ヘラケズリ ㊦回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
387	捏鉢	口径 (17.5) 底径 (8.4) 器高 5.0	内湾する体部に、口縁端部はナデにより丸い。須恵器。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	長 (1) 密 ◎		

南江戸上沖遺跡2次調査2区

表 95 SK204 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
388	皿	口径 (8.1) 底径 5.1 器高 1.5	短く内湾する体部から口縁部。口縁端部は丸い。	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	長 (1~2) 金 ◎		25
389	土釜	残高 5.9	三足付土釜の脚部片。	ナデ		にぶい黄橙色	石・長 (1) ◎		
390	埴	底径 (5.6) 器高 1.8	内面に暗文あり。瓦器。	回転ナデ ナデ	暗文	灰白色 灰色	密 ◎		
391	碗	底径 (6.6) 残高 3.1	削り出し高台。内面に釉をかき取り。	施釉	施釉	灰白色 灰白色	密 ◎		25

表 96 SK206 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
392	坏	口径 (13.7) 残高 2.2	内湾する体部。	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長 (1~2) ◎		
393	坏	底径 (7.0) 残高 1.0	底部の小片。	ヨコナデ	ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石 (1) 密 ◎		
394	土釜	口径 (15.0) 残高 3.4	口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄褐色 にぶい橙色	長 (1) 金 ◎		
395	土釜	残高 7.3	口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	石・長 (1~2) 金 ◎	外面に 煤付着	
396	土釜	残高 4.0	口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	ヨコナデ ナデ	ナデ	黒褐色 にぶい黄褐色	石・長 (1~2) 金 ◎	外面に 煤付着	
397	土釜	残高 4.3	底部の小片。	ナデ	ナデ	黒色 明褐色	長 (1) ◎	外面に 煤付着	

表 97 SK206 出土遺物観察表 (石製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
398	石庖丁	小片	結晶片岩	5.6	3.1	1.9	23.11		

表 98 SK211 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
399	坏	口径 (11.2) 底径 6.2 器高 2.7	底部の切り離しは、回転糸切り。底部に板状圧痕。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	長 (1) ◎		

表 99 SK213 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
400	坏	底径 (10.8) 残器 1.3	底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	長 (1) 金 ◎		
401	土釜	口径 (22.0) 残器 2.0	口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長 (1~2) 金 ◎		
402	埴	底径 (5.4) 残器 1.2	内面に暗文あり。瓦器。	ナデ	ミガキ (暗文)	灰色 灰色	密 ◎		

出土遺物一覧

表 100 SK214 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
403	皿	口径 (7.0) 底径 (5.4) 器高 1.5	直立気味にたちあがる体部。口縁端部は丸い。	ヨコナデ	ヨコナデ	淡黄色 淡黄色	密 金 ◎		

表 101 SK216 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
404	播鉢	残高 3.7	内面に7条の櫛目あり。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		

表 102 SK217 (SE203) 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
405	坏	底径 (6.4) 残高 0.9	底部の小片。切り離しは、回転糸切り。	ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	長 (1) 金 ◎		
406	坏	底径 (9.0) 残高 1.4	底部の小片。	ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	長 (1) ◎		
407	坏	底径 (7.0) 残高 1.0	底部の小片。外面に段をもち、体部につづく。	ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	石 (2) ◎		
408	坏	底径 (5.2) 残高 1.5	底部に、断面三角形の高台が付く。	ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	石・長 (1) ◎	上層	
409	坏	底径 (7.0) 残高 2.1	底部に、断面三角形の高台が付く。	回転ナデ ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	石・長 (1~2) ◎	上層	
410	埴	口径 (10.6) 残高 3.6	体部は内湾し、口縁端部は尖り気味である。	ナデ	ナデ	淡橙色 淡橙色	石・長 (1~2) ◎		
411	土釜	残高 2.1	口縁部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	ナデ	ナデ	煤付着 にぶい橙色	石・長 (1~5) ◎	煤付着	
412	土鍋	口径 (38.4) 残高 1.8	短く外反する口縁部の小片。	ナデ	ナデ	煤付着 浅黄橙色	石・長(1~2) 金 ◎	煤付着	
413	埴	口径 (17.0) 残高 3.8	内湾する体部の内面に、暗文がある。瓦器。	ナデ	ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~2) ◎	下層	
414	瓶	底径 (17.2) 残高 3.8	底部の小片。須恵器。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~5) ◎		

表 103 SK217 (SE203) 出土遺物観察表 (石製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
415	砥石	全面に使用痕。よく使いこまれている。		(11.5)	8.8	9.5	1684.91	火を受けて焼け焦げている。カマド石として、使用されたものか。	25

表 104 SK218 (SE205) 出土遺物観察表 (土製品)

(1)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
416	皿	口径 7.5 底径 4.0 器高 1.8	底部外面に板状圧痕。	回転ナデ	回転ナデ	淡黄色 淡黄色	石・長 (1) ◎		
417	皿	底径 (4.8) 残高 0.8	底部の小片。	ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	石・長 (1) ◎		



南江戸上沖遺跡2次調査2区

SK218 (SE205) 出土遺物観察表 (土製品)

(2)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
418	皿	底径 (6.0) 残高 0.8	底部の小片。	ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	石・長 (1) ◎		
419	土釜	口径 (15.2) 残高 8.7	口縁部外面に、断面三角形の鐙を貼り付ける。	ヨコナデ ナデ	ハケ→ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長 (1~2) ◎	煤付着	
420	土釜	残高 3.6	口縁部の小片。口縁部外面に、断面三角形の鐙を貼り付ける。	ナデ	ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長 (1~3) ◎	煤付着	
421	土釜	残高 4.1	口縁部の小片。口縁部外面に、断面三角形の鐙を貼り付ける。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙色 にぶい褐色	石・長 (1~2) ◎	煤付着 上層	
422	土釜	残高 5.4	口縁部の小片。口縁部下の外面に、断面三角形の鐙を貼り付ける。	ナデ	ナデ	(スス付着) にぶい褐色	石・長 (1~3) ◎	煤付着	
423	土釜	残高 10.4	三足付土釜の脚部。	ナデ		にぶい褐色	石・長 (1~2) ◎	煤付着	
424	土釜	残高 7.7	三足付土釜の脚部。	ナデ		にぶい褐色	石・長 (1~2) ◎	煤付着	
425	埴	底径 (6.8) 残高 2.0	底部の小片。内黒土器。	ナデ	ナデ	灰白色 暗灰色	石・長 (1~2) ◎		
426	埴	底径 (4.4) 残高 0.9	底部の小片。内面に暗文がある。瓦器。	ナデ	ナデ	灰色 灰色	長 (1) ◎		
427	鉢	残高 7.7	口縁端部は、厚みがあり丸い。東播系須恵器の片口鉢。	回転ナデ	ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~5) ◎		
428	甕	口径 (39.6) 残高 8.3	外傾する口縁端部は丸い。瓦質土器。	ハケ (5本/cm) →ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	石・長 (1~2) ◎		
429	播鉢	口径 (32.0) 残高 5.5	口縁端部は、内傾し先細りである。内面に櫛目が見られる。	ヨコナデ 回転ナデ	ナデ	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	石・長 (1~4) ◎		
430	播鉢	口径 (29.8) 残高 8.5	口縁部は、ナデにより上下に拡張される。内面に櫛目が見られる。備前焼。	ヨコナデ ナデ	ナデ	黄灰色 黄灰色	長 (1~5) ◎		
431	播鉢	口径 (28.0) 残高 4.7	口縁端部は、直立し先細りである。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~6) ◎		
432	播鉢	底径 (13.4) 器高 5.3	内面に7本の櫛目がある。	ナデ	ナデ	褐灰色 灰色	長 (1~3) ◎		
433	甕	残高 9.4	亀山焼。頸部から胴部片。	ハケ後ナデ 格子タタキ	ハケ (10本/cm)	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長 (1~2) ◎		
434	坏蓋	口径 (16.3) 残高 4.0	口縁端部は、尖り気味で内傾する面をもつ。	㊦㊧㊨回転ナデ ㊦㊧㊨回転ヘラケズリ	㊦㊧㊨回転ナデ	灰白色 灰白色	石・長 (1) ◎		

表 105 SK218 (SE205) 出土遺物観察表 (石製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				口径 (cm)	残高 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
435	石鍋	口縁部片。	滑石 (長崎産)	(28.6)	4.9	1.3	130.00	口縁部外面下に、断面「コ」字状の鐙を削り出す。	25

表 106 SK219 (SE206) 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
436	坏	底径 (6.0) 残高 0.9	底部の小片。底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄褐色 浅黄褐色	密 ◎		
437	埴	底径 (5.0) 残高 0.9	底部の小片。高台部は、断面三角形状。	ヨコナデ	ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		

出土遺物一覧

表 107 SK220 (SE210) 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	分量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
438	坏	底径 (6.6) 残高 1.9	底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	長 (1) ◎		
439	坏	底径 (7.8) 残高 1.3	底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	マメツ	灰白色 灰白色	密 ◎		
440	坏	底径 (9.0) 残高 1.7	底部の切り離しは、回転糸切り。	ナデ	ヨコナデ	灰黄褐色 暗灰黄色	密 ◎		
441	土釜	残高 8.7	三足付土釜の脚部。	ナデ		灰白色	石・長 (1~2) ◎		

表 108 SE201 出土遺物観察表 (土製品)

(1)

番号	器種	分量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
442	坏	口径 (10.4) 底径 (7.8) 器高 2.8	底部は丸みをもち、内湾気味にたちあがる。底部の切り離しは、回転糸切り。底部に板状圧痕あり。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
443	坏	口径 11.0 底径 6.5 器高 2.9	全体に歪みがある。底部の切り離しは回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		25
444	坏	口径 11.4 底径 6.8 器高 2.8	口縁部は外傾し、口縁端部は尖り気味である。底部は上げ底で、切り離しは回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
445	坏	口径 (11.4) 底径 (6.2) 器高 3.1	内湾する口縁部。底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
446	坏	口径 (14.2) 底径 (8.0) 器高 3.3	底部の切り離しは、回転糸切り。底部に板状圧痕あり。二次的に焼成を受けて摩滅・剥離が著しい。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰黄褐色 灰黄褐色	白色粒 二次的焼成	内面に 煤付着	
447	坏	口径 (11.2) 残高 2.4	口縁部の小片。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
448	坏	口径 (11.6) 残高 2.2	口縁部の小片。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
449	坏	残高 3.6	口縁部の小片。二次的に焼成を受けている。	マメツ	マメツ	灰褐色 灰褐色	密 ◎		
450	坏	底径 5.4 残高 1.0	底部の切り離しは回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
451	坏	底径 6.2 残高 0.7	底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	密 ◎		
452	坏	底径 (6.6) 残高 1.1	底部の切り離しは、回転糸切り。板状圧痕あり。	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	灰黄褐色 黒褐色	密 ◎	内面に 煤付着	
453	坏	底径 (7.0) 残高 0.8	底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	密 ◎		
454	坏	底径 (8.2) 残高 0.8	底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	密 ◎		
455	土釜	口径 (19.6) 残高 2.8	口縁部外面下に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長 (1~2) ◎	煤付着	
456	土釜	残高 3.0	口縁部外面下に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	ヨコナデ	ヨコナデ	暗灰黄色 浅黄色	白色粒 ◎	煤付着	
457	土釜	残高 8.4	三足付土釜の脚部片。	ナデ		にぶい黄橙色	石・長 (1~3) ◎		
458	手捏ね 土器	口径 (4.2) 残高 4.4	手捏ね。	指抑え ナデ	指抑え ナデ	にぶい黄橙色 明黄褐色	白色粒 ◎		

南江戸上沖遺跡2次調査2区

SE201 出土遺物観察表 (土製品)

(2)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
459	甕	口径 (29.8) 残高 8.7	外反する短い口縁部、端面はナデにより窪む。亀山焼。	格子タタキ	マメツ ハクリ	灰色 灰色	白色粒 ◎		
460	甕	口径 (26.2) 残高 6.3	外反する短い口縁部、端面はナデにより窪む。亀山焼。	格子タタキ	ヨコナデ ナデ	灰色 灰色	白色粒 ◎		

表 109 SE202 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
461	坏	底径 4.4 残高 2.3	丸みのある底部。	ナデ	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1~2) 金 ◎		
462	土釜	口径 (27.0) 残高 3.2	口縁部外面に、断面「コ」字状の罫を貼り付ける。	ナデ	ナデ	淡黄色 淡黄色	石・長(1~2) ◎		
463	土釜	残高 4.7	三足付土釜の脚部片。	ナデ		にぶい橙色	石・長(1~2) ◎		
464	土釜	残高 5.5	三足付土釜の脚部片。	ナデ		にぶい橙色	石・長(1~2) ◎		
465	甕	底径 (20.2) 残高 5.5	底部の内面と外面の一部に、自然釉が付着する。	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色 褐灰色	石・長(1~3) ◎	自然釉	
466	碗	口径 (15.2) 残高 2.6	口縁端部は短く外反し丸い。	施釉	施釉	オリーブ灰色 オリーブ灰色	密 ◎		25

表 110 SE204 出土遺物観察表 (土製品)

(1)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
467	坏	口径 9.4 底径 6.5 器高 4.3	平底の底部に、僅かに内湾する口縁部から体部。底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	長(1) ◎		25
468	坏	口径 (9.2) 底径 (7.0) 器高 3.1	水平な底部。口縁端部は、尖り気味に丸い。	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	長(1) 密 ◎	煤付着	
469	坏	底径 (6.9) 残高 1.7	水平な底部。	ヨコナデ	ヨコナデ	白灰色 白灰色	密 ◎		
470	坏	口径 (11.6) 残高 2.2	外傾する口縁部から体部。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙色 褐灰色	長(1) ◎		
471	土釜	口径 (30.8) 残高 4.3	口縁端部外面に、断面三角形の罫を貼り付ける。	ナデ	ナデ	灰褐色 にぶい褐色	長(1~2) ◎		
472	土釜	口径 (21.4) 残高 3.2	口縁端部外面に、断面三角形の罫を貼り付ける。	ナデ	工具によるナデ	明赤褐色 にぶい赤褐色	長(1~3) 金 ◎		
473	土釜	口径 (21.1) 残高 2.1	口縁端部外面に、断面三角形の罫を貼り付ける。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	長(1~3) 金 ◎	煤付着	
474	土釜	残高 13.6	三足付土釜の脚部。	ナデ		にぶい黄褐色	長(1) 金 ◎		
475	土釜	残高 9.4	三足付土釜の脚部。	ナデ		にぶい褐色	長(1~4) ◎		
476	土釜	残高 6.2	三足付土釜の脚部。	ナデ		にぶい褐色	長(1~2) 金 ◎	煤付着 上層	

出土遺物一覧

SE204 出土遺物観察表 (土製品)

(2)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
477	土釜	残高 8.5	三足付土釜の脚部。	ナデ		にぶい黄橙色	石・長 (1~2) ◎	煤付着 上層	
478	茶釜	口径 (13.3) 残高 3.9	直立する短い口縁部。瓦質土器。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰色 灰色	長 (1~2) ◎		
479	茶釜	残高 3.8	頸部下に把手が付く。瓦質土器。	ナデ	ナデ	黒褐色 にぶい黄褐色	長 (1~3) ◎		
480	甕	口径 (39.2) 残高 3.9	口縁端部はナデにより、上下に拡張され、口縁端面は窪む。亀山焼。	ハケ (5~6/cm) ナデ	ハケ (7~8/cm)	灰色 にぶい橙色	長 (1~2) 金 ◎		
481	甕	口径 (35.7) 残高 13.1	短く外反する口縁端部は、ナデにより上下に拡張される。亀山焼。	ヨコナデ ナデ 格子タタキ	ヨコナデ	黄灰色 灰黄色	長 (1) ◎		25
482	播鉢	口径 (30.1) 残高 6.3	口縁部は直立し口縁端部は、内傾する面をもつ。口縁端部外面に凹線を巡らす。備前焼。	ヨコナデ	ヨコナデ	暗赤灰色 灰赤色	長 (1~2) ◎		
483	播鉢	口径 (24.1) 残高 6.3	外傾する口縁部。内面に櫛目が見られる。備前焼。	ヨコナデ	ヨコナデ	赤灰色 赤灰色	長 (1~3) ◎		
484	播鉢	残高 4.9	内面に櫛目が見られる。備前焼。	ヨコナデ	ヨコナデ	赤灰色 にぶい赤褐色	石・長 (1~3) ◎		
485	播鉢	底径 (15.0) 残高 4.6	内面に櫛目が見られる。	ナデ	ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~3) ◎		
486	壺	底径 (10.0) 残高 5.1	上げ底の底部。	ヨコナデ	ヨコナデ	褐灰色 赤灰色	長 (1~3) ◎		
487	碗	残高 1.8	削り出し高台の小片。青磁。	施釉	施釉	(釉) オリーブ 色灰色	密 ◎		
488	壺	口径 (7.8) 残高 4.4	外反する口縁部。口縁端部はナデにより外傾する面をもつ。自然釉が掛かる。	ヨコナデ	ヨコナデ	赤灰色 赤灰色	石・長 (1~3) ◎	自然釉	
489	壺	口径 (13.9) 残高 4.3	外反する短い口縁端部は、玉縁状である。	ヨコナデ	ヨコナデ	黄灰色 赤灰色	密 ◎		
490	壺	口径 (15.1) 残高 3.8	直立する口縁端部は、玉縁状である。自然釉が掛かる。備前焼。	ヨコナデ	ヨコナデ	褐灰色 褐灰色	長 (1~2) ◎	自然釉	
491	壺	口径 (23.8) 残高 5.9	短く外反する口縁端面は、ナデにより僅かに窪む。	ナデ	ナデ ハケ (10本/cm)	灰色 灰色	長 (1~2) ◎		
492	甕	口径 (36.8) 残高 8.2	直立する口縁部。口縁端部は折り返して玉縁状である。	ヨコナデ	ヨコナデ 指頭痕	赤褐色 赤褐色	長 (1~4) ◎		
493	甕	口径 (48.2) 残高 8.1	直立する口縁部。口縁端部は玉縁状で、外面に凹線を施す。自然釉が掛かる。	ナデ	ナデ	黒褐色 褐灰色	石 (1) ◎	自然釉	

表 111 SE204 出土遺物観察表 (石製品)

(1)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
494	石庖丁	約1/2		(10.8)	6.6	1.2	142.22	両面共によく磨かれている。	
495	加工石材		結晶片岩	(11.3)	5.8	1.7	182.75	部分的に研磨が行われている。	
496	砥石		流紋岩	13.6	5.7	6.7	785.73	全面に使用痕。金属製品の加工に使用された溝がある。	
497	砥石		流紋岩	5.6	5.0	3.9	151.29		
498	砥石		流紋岩	(5.5)	3.8	2.8	80.92	金属製品の研磨に使用された溝がある。	

南江戸上沖遺跡2次調査2区

SE204 出土遺物観察表 (石製品)

(2)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
499	砥石		流紋岩	5.1	5.1	4.4	126.76		
500	砥石		流紋岩	3.0	2.8	3.1	34.25		
501	砥石		緑色片岩	26.0	14.6	3.5	2085.96		
502	石臼	上臼約1/2		径(28.6)		12.3	8580.00	軸穴と挽手穴が残る。	

表 112 SE208 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
503	坏	底径 (6.0) 残高 1.4	底部の小片。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
504	土釜	残高 7.7	三足付土釜の脚部。	ナデ		明赤褐色	石・長(1~2) ◎		
505	土釜	残高 5.0	三足付土釜の脚部。	ナデ		にぶい黄橙色	長(1) ◎		
506	捏鉢	口径 (26.8) 残高 4.2	東播系須恵器。口縁部の小片。13世紀。	回転ナデ	回転ナデ	灰色			

表 113 SE209 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
507	皿	口径 (6.4) 底径 (5.6) 器高 1.4	短く外傾する口縁端部は丸い。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	密 ◎	黒斑	
508	坏	底径 (7.0) 残高 1.6	底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
509	土釜	残高 2.2	断面三角形の鏝を貼り付ける。	ヨコナデ	ナデ	明赤褐色 明赤褐色	石・長(1~2) 金 ◎		

表 114 SE211 (SK208) 出土遺物観察表 (土製品)

(1)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
510	皿	口径 (7.8) 底径 (5.9) 器高 1.3	短く外傾する口縁部。口縁端部は丸い。底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ	淡黄色 淡黄色	密 ◎		
511	坏	口径 (11.2) 底径 (7.0) 器高 2.7	底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
512	坏	底径 (6.0) 残高 1.8	底部の切り離しは、ヘラ切り。内面に轆轤目が残る。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	長(1) 金 ◎		
513	坏	底径 (6.0) 残高 1.3	底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
514	坏	底径 (7.0) 残高 1.1	底部の切り離しは、回転糸切り。板状圧痕。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	長(1) 金 ◎	下層	

出土遺物一覧

SE211 (SK208) 出土遺物観察表 (土製品)

(2)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
515	坏	底径 (7.0) 残高 1.7	底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	長 (1) 金 ◎		
516	土釜	残高 3.5	口縁端部外面下に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1~2) 金 ◎		
517	土釜	残高 8.0	三足付土釜の脚部。	ナデ		にぶい褐色	◎	上層	
518	土釜	残高 4.1	三足付土釜の脚部。	ナデ		灰褐色	長 (1) ◎		
519	壺	口径 (13.0) 残高 2.4	外反する口縁端部は、「コ」字状である。	回転ナデ ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	上層	

表 115 SE212 (SK210) 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
520	坏	口径 (10.4) 底径 (6.0) 器高 2.4	底部の切り離しは、回転糸切り。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	密 ◎		
521	坏	底径 (6.3) 残高 1.0	底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	マメツ 轆轤目	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	密 ◎		
522	坏	口径 (11.4) 残高 2.5	口縁端部は、尖り気味に丸い。	ヨコナデ	ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	長 (1) ◎	黒色	
523	土釜	口径 (22.0) 残高 5.7	口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	マメツ	マメツ	にぶい黄褐色 灰黄褐色	石・長 (1~3) ◎	上層	
524	土釜	口径 (17.0) 残高 2.9	口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。16世紀。	ヨコナデ ナデ	ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	白色粒 ◎	上層	
525	土釜	口径 (22.2) 残高 5.1	口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	白色粒 ◎	煤附着 西半部 下層	
526	土釜	口径 (25.0) 残高 4.0	口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。内面に凹線状の溝がある。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	白色粒 ◎	煤附着 下層	
527	土釜	残高 8.1	三足付土釜の脚部。	ナデ		灰黄色	石・長 (1~2) ◎	煤附着 下層	
528	土釜	残高 7.9	三足付土釜の脚部。	ナデ		にぶい黄橙色	石・長 (1~3) ◎		
529	土釜	残高 6.2	三足付土釜の脚部。	ナデ		にぶい黄橙色	石・長 (1~2) ◎	黒色 上層	
530	土釜	残高 4.0	三足付土釜の脚部。	ナデ		にぶい黄橙色	石・長 (1) ◎	西半部 下層	
531	土釜	残高 4.0	三足付土釜の脚部片。	ナデ		にぶい褐色	石・長 (1) ◎		
532	播鉢	底径 (11.0) 残器 3.3	内面はよく使いこまれツルツルしている。	ハケ (5~6/cm) ナデ	使用痕	褐灰色 にぶい黄橙色	長 (1) ◎	黒色	
533	瓦	残存長 9.6 残存幅 5.9	平瓦。	凸面：縄目タタキ	凹面：布目圧痕	灰白色 灰白色	石・長 (1~3) 石粒・褐色粒 ◎		

南江戸上沖遺跡2次調査2区

表 116 SE212 (SK210) 出土遺物観察表 (石製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
534	砥石	完形	結晶片岩	9.6	3.3	0.6	43.94	断面長方形状。 手持ちの砥石。 東半部下層	

表 117 SE213 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
535	土釜	残高 6.4	三足付土釜の脚部。	ナデ	ヨコナデ	黒褐色 にぶい黄橙色	石・長 (1~3) ◎	煤付着	

表 118 SE214 (SK205) 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
536	皿	口径 (6.3) 底径 (4.2) 器高 1.2	底部に板状圧痕。	ヨコナデ	ナデ	にぶい黄橙色 浅黄橙色	長 (1) ◎		26
537	皿	底径 (6.0) 残高 0.8	底部の切り離しは、回転糸切り。板状圧痕。	ナデ	ヨコナデ ナデ	褐灰色 灰黄褐色	密 ◎		
538	皿	底径 (7.0) 残高 0.8	底部の切り離しは、回転糸切り。内面に轆轤目あり。	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
539	皿	底径 (7.0) 残高 1.1	底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
540	皿	底径 (5.8) 残高 1.1	底部に板状圧痕。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	長 (1) ◎		26
541	坏	底径 (6.8) 残高 1.2	底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	長 (1) ◎		
542	坏	底径 (8.0) 残高 1.1	底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	灰黄褐色 にぶい黄橙色	長 (1) 金 ◎		
543	碗	残高 3.7	口縁端部は玉縁状。中国製白磁。	施釉	施釉	(釉) 乳白灰色 不透明	密 ◎		26

表 119 SE215 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
544	坏	口径 (11.2) 残高 2.0	口縁端部は、尖り気味である。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
545	土釜	残高 4.2	三足付土釜の脚部。	ナデ		褐灰色	長 (1~2) ◎		

表 120 SE216 出土遺物観察表 (土製品)

(1)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
546	皿	口径 8.8 底径 6.4 器高 1.9	底部の切り離しは、回転糸切り。板状圧痕。内面に轆轤目あり。完形品。	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙色 にぶい橙色	長 (1) 金 ◎	煤付着	26
547	坏	口径 (13.8) 底径 (7.0) 器高 4.1	底部の切り離しは、回転糸切り。板状圧痕。	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		

出土遺物一覧

SE216 出土遺物観察表 (土製品)

(2)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
548	坏	底径 (9.4) 残高 1.2	底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	にぶい黄橙色 灰白色	密 ◎		
549	坏	底径 9.0 残高 1.1	底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	灰白色 褐灰色	密 ◎		
550	埴	口径 14.6 底径 4.5 器高 4.9	体部は内湾し、内面に螺旋文と平行線状の暗文あり。瓦器埴の完形品。	ヨコナデ	ミガキ (暗文)	灰色 灰色	密 ◎		26
551	埴	口径 (14.8) 底径 (5.0) 器高 5.5	体部は内湾し、内面に平行線状の暗文あり。瓦器。	ヨコナデ ナデ・指頭痕	ミガキ (暗文)	灰色 灰色	密 ◎		
552	埴	口径 15.0 底径 4.5 器高 4.9	体部は内湾し、内面に平行線状の暗文あり。和泉型瓦器埴。12～13世紀。	ミガキ・ナデ・ 指頭痕	ミガキ (暗文)	灰色 灰色	密 ◎		26
553	埴	口径 (16.0) 底径 (5.0) 器高 4.0	体部は内湾し、断面三角形の高台を貼り付ける。瓦器。	ヨコナデ ナデ・指頭痕	ミガキ	灰色 灰色	密 ◎		
554	埴	口径 (14.4) 残高 3.7	体部は内湾し、内面に格子状の暗文あり。瓦器。	ナデ ミガキ・指頭痕	ミガキ (暗文)	灰色 灰色	密 ◎		
555	埴	口径 (15.0) 残高 4.3	体部は内湾し、内面に格子状の暗文あり。瓦器。	ヨコナデ・ナデ ミガキ・指頭痕	ミガキ (暗文)	灰色 灰色	密 ◎		
556	埴	口径 (15.2) 残高 4.4	内湾する体部。口縁部は僅かに外反する。瓦器。	ヨコナデ・ナデ 指頭痕	ヨコナデ ミガキ	灰白色 灰白色	密 ◎		
557	埴	口径 (15.4) 残高 4.8	内湾する体部。口縁部は僅かに外反する。瓦器。	ヨコナデ・ナデ 指頭痕	ヨコナデ ミガキ	灰白色 灰白色	密 ◎		
558	埴	口径 (17.4) 残高 3.7	内湾する体部。瓦器。	ナデ 指頭痕	ミガキ	灰色 灰色	密 ◎		
559	埴	底径 (5.2) 残高 4.0	内湾する体部。内面に螺旋状と平行線状の暗文あり。断面方形の高台を貼り付ける。瓦器。	ミガキ・ナデ 指頭痕	ミガキ (暗文)	灰色 灰色	密 ◎		
560	埴	底径 (6.2) 残高 1.5	断面三角形の高台を貼り付ける。内面に平行線状の暗文あり。瓦器。	ヨコナデ・ナデ	ミガキ (暗文)	灰色 灰色	密 ◎		
561	埴	底径 (5.6) 残高 1.1	断面三角形の高台を貼り付ける。内面に格子状の暗文あり。瓦器。	ヨコナデ	ミガキ (暗文)	灰色 灰色	密 ◎		
562	埴	底径 (5.4) 残高 1.0	断面三角形の高台を貼り付ける。内面に平行線状の暗文あり。瓦器。	ヨコナデ	ミガキ (暗文)	灰色 灰色	密 ◎		
563	埴	底径 5.2 残高 2.1	断面三角形の高台を貼り付ける。在地の瓦器。	ヨコナデ 回転糸切り→ナデ	ヨコナデ→ ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
564	埴	底径 (4.4) 残高 1.0	断面四角形の高台を貼り付ける。瓦器。	ヨコナデ ナデ	ミガキ	灰色 灰色	密 ◎		
565	捏鉢	口径 (31.8) 残高 10.4	東播系須恵器。口縁部は上方に肥厚する。口縁部は片口。12～13世紀。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石粒 (1～7) ◎		
566	皿	口径 (10.6) 底径 (4.7) 器高 3.1	中国製白磁。断面四角形の削り出し高台が付く。口縁部は外反する。内面に輪状に釉をかき取る。	施釉 ケズリ・目砂	施釉	灰白色 (釉) 灰オリーブ色	密 ◎	目砂 付着	26
567	碗	口径 (14.6) 残高 2.4	中国製白磁の口縁部小片。外傾する体部から口縁部。	施釉	施釉	灰白色 (釉) 灰白色	密 ◎		26



南江戸上沖遺跡2次調査2区

表 121 SD201 出土遺物観察表 (土製品)

(1)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
					内面				
568	皿	口径 8.1 底径 4.2 器高 2.1	体部は内湾し、底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	密 ◎	南半部 上層	26
569	皿	口径 (9.0) 底径 (5.4) 器高 2.3	外傾する体部に、口縁部は外反する。	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	密 ◎	上層	
570	皿	底径 4.1 残高 1.3	底部の切り離しは、回転糸切り。	ナデ	ヨコナデ ナデ	灰黄褐色 灰黄褐色	白色粒 ◎	上層	
571	皿	底径 4.5 残高 0.7	底部の切り離しは、回転ヘラ切り。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	密 ◎	下層	
572	坏	口径 (10.0) 底径 (5.4) 器高 2.5	体部は内湾し、底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	密 ◎	下層	
573	坏	口径 (10.0) 底径 (5.4) 器高 2.5	体部は内湾し、底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	密 ◎	下層	
574	坏	口径 10.4 底径 5.6 器高 2.3	体部は内湾し、底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		26
575	坏	口径 (11.0) 底径 (7.2) 器高 2.6	体部は内湾し、底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎	C8区	
576	坏	口径 (11.0) 底径 (6.0) 器高 2.6	体部は内湾し、内面に粘土ひもの巻き上げ痕が見られる。底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	密 ◎	北半部 下層	
577	坏	口径 (11.6) 底径 (6.0) 器高 2.4	内湾する体部。	マメツ	マメツ	浅黄橙色 浅黄橙色	密 ◎		
578	坏	口径 11.8 底径 8.2 器高 2.1	平底の底部。体部は直線的にたちあがる。完形品。	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	密 ◎		26
579	坏	口径 (11.0) 底径 (6.0) 器高 3.2	平底の底部に、体部は外反する。	ナデ	ヨコナデ ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長 (1~2) ◎		
580	坏	底径 (7.6) 残高 1.8	平底の底部。	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	明褐灰色 にぶい橙色	密 ◎	上層	
581	坏	口径 (11.4) 底径 (6.0) 器高 3.0	体部は内湾し、口縁端部は尖り気味。円盤高台。底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎	南半部 上層	
582	坏	底径 6.1 残高 1.1	円盤高台。10世紀。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	密 ◎	上層	27
583	土釜	口径 (23.2) 残高 10.9	内湾する口縁部から体部。口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。脚部の付け根が残る。	ナデ	ナデ	灰黄褐色 にぶい黄褐色	長 (1~3) ◎	煤付着 下層	
584	土釜	口径 (28.7) 残高 11.0	内湾する口縁部から体部。口縁端部外面に断面三角形の鏝を貼り付ける。脚部の接合痕が残る。	ナデ	ハケ (9~10/cm)	橙色 にぶい橙色	長 (1~3) ◎	煤付着 C8	
585	土釜	口径 (23.4) 残高 10.8	内湾する口縁部から体部。口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	ナデ	工具による ナデ	明黄褐色 明黄褐色	石・長 (1~3) 金 ◎	煤付着 上層	
586	土釜	口径 (18.1) 残高 5.4	内湾する口縁部から体部。口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	ナデ	ナデ	灰黄褐色 にぶい橙色	石 (1~2) ◎	煤付着 上層	
587	土釜	口径 (20.3) 残高 6.8	内湾する口縁部から体部。口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	ナデ 指頭痕	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	長 (1~3) ◎	煤付着 上層	
588	土釜	口径 (21.9) 残高 7.9	内湾する口縁部から体部。口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。口縁端部はナデにより窪む。	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	暗灰色・褐灰色 灰褐色	石・長 (1~3) ◎	煤付着 下層	
589	土釜	口径 (23.7) 残高 4.0	外傾する口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	ナデ 指頭痕	ナデ	にぶい褐色 明赤褐色	石・長 (1~3) ◎	煤付着 上層	

出土遺物一覧

SD201 出土遺物観察表 (土製品)

(2)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
					内面				
590	土釜	口径 (31.0) 残高 6.0	外傾する口縁部。口縁端部外面に、断面台形状の鐏を貼り付ける。口縁端面はナデにより窪む。	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色 明赤褐色	石・長(1~3) 金 ◎	煤付着	
591	土釜	口径 (33.9) 残高 7.2	外傾する口縁部。口縁端部外面に、断面三形状の鐏を貼り付ける。	ヨコナデ 指頭痕	工具による ナデ	橙色 にぶい褐色	石・長(1~4) 金 ◎	煤付着 南半部 上層	
592	土釜	口径 (35.9) 残高 8.5	外傾する口縁部。口縁端部外面に、断面台形状の鐏を貼り付ける。口縁端面はナデにより窪む。	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色 橙色	長 (1~2) ◎	煤付着	
593	土釜	口径 (34.3) 残高 8.0	外傾する口縁部。口縁端部外面に、断面三形状の鐏を貼り付ける。	ナデ 指頭痕	ナデ	にぶい褐色 にぶい橙色	長 (1~2) ◎	煤付着	
594	土釜	口径 (35.2) 残高 7.9	外傾する口縁部。口縁端部外面に、断面三形状の鐏を貼り付ける。	ナデ	ナデ	にぶい橙色 にぶい褐色	長 (1~3) ◎	煤付着	
595	土釜	残高 18.3	三足付土釜の脚部。接合面に釜底部の内面が残る。	ナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙色 灰黄褐色	石・長 (1~2) ◎	煤付着	
596	土釜	残高 11.4	三足付土釜の脚部。	ナデ ハケ工具痕		にぶい黄橙色	石・長 (1~2) ◎	煤付着	
597	土釜	残高 11.5	三足付土釜の脚部。接合面に釜底部の内面が残る。	ナデ ハケ工具痕	ヨコナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄褐色	石・長 (1) ◎	煤付着 南半部 下層	
598	土釜	残高 11.7	三足付土釜の脚部。	ナデ		灰黄褐色	長 (1) ◎	煤付着	
599	土釜	残高 12.6	三足付土釜の脚部。土釜の内面が残る。	ナデ	ヨコナデ	灰褐色 明褐灰色	長 (1) ◎	煤付着	
600	土釜	残高 11.6	三足付土釜の脚部。土釜の内面が残る。	ナデ	ヨコナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	石・長 (1~2) ◎	煤付着 南半部 上層	
601	土釜	残高 10.3	三足付土釜の脚部。	ナデ		にぶい黄褐色	長 (1) ◎	煤付着 南半部 下層	
602	土釜	残高 9.2	三足付土釜の脚部。	ナデ		灰褐色	石・長 (1~2) ◎	煤付着 下層	
603	土釜	残高 5.7	三足付土釜の脚部。	ナデ		褐色	石・長 (1~2) ◎	煤付着 上層	
604	土鍋	残高 4.1	屈曲する口縁部。	ナデ	ナデ	にぶい褐色 にぶい橙色	石・長 (1~2) ◎	煤付着	
605	土鍋	口径 (42.5) 残高 4.9	屈曲する口縁部。口縁端面はナデにより窪む。	ナデ	ナデ	灰黄褐色 にぶい黄褐色	長 (1) ◎	煤付着 南半部 上層	
606	羽釜	残高 7.5	径7mmの円孔をもつ耳を一对、肩部に貼り付ける。鐏ははがれている。瓦質土器。	ヨコナデ 指頭痕・ナデ	ナデ	灰色 灰色	密 ◎	上層	
607	羽釜	残高 6.2	鐏ははがれている。鐏上部に凹線が一条巡る。瓦質土器。	指頭痕・ナデ	指頭痕・ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
608	羽釜	鐏径 (28.1) 残高 10.5	断面台形状の鐏を貼り付ける。水平に伸びる鐏が付く。瓦質土器。	工具による ナデ	工具による ナデ	灰白色 灰白色	石・長 (1~3) ◎	煤付着 上層	
609	羽釜	底径 (16.0) 残高 8.5	平底の底部。内湾する体部の外面に凹線が残る。瓦質土器。	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	灰色 灰色	長(1) 密 ◎		
610	播鉢	口径 (25.8) 残高 6.1	口縁部は上方に肥厚される。内面に10本の櫛目が残る。備前焼。	ヨコナデ ナデ	ナデ	にぶい赤褐色 灰褐色	石・長 (1~2) ◎	上層	
611	播鉢	口径 (28.4) 残高 5.3	口縁部は上方に肥厚される。備前焼。	ヨコナデ ナデ	ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~3) ◎	南半部 下層	

南江戸上沖遺跡2次調査2区

SD201 出土遺物観察表（土製品）

(3)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
612	播鉢	底径 (20.8) 残高 6.5	内面に8本の櫛目。備前焼。	回転ナデ	回転ナデ ナデ	にぶい赤褐色 灰赤褐色	石・長(1~4) ◎		
613	壺	口径 (10.4) 残高 4.5	外傾する頸部。口縁端部は玉縁状である。	回転ナデ	回転ナデ	赤褐色 灰赤色	石・長(1~2) ◎	C8区 自然釉	
614	壺	口径 (14.0) 残高 6.0	外傾する頸部。口縁端部は玉縁状である。備前焼。	ナデ	ナデ	灰褐色 褐灰色	石・長(1~2) ◎	下層 自然釉	
615	壺	口径 (12.4) 残高 5.9	口縁部は折り曲げられて、玉縁状である。備前焼。	ナデ	ナデ	褐灰色 灰色	石・長(1~2) ◎	下層	
616	甕	口径 (27.0) 残高 4.7	口縁部は折り曲げられて、玉縁状である。備前焼。	回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	にぶい赤褐色 にぶい褐色	石・長(1~2) ◎	下層	
617	甕	口径 (40.0) 残高 11.5	外反する口縁端部は、下方に肥厚される。口縁端面はナデにより窪む。外面に自然釉。備前焼。	回転ナデ ナデ	回転ナデ ナデ	褐灰色 黄灰色	石・長(1~3) ◎	上層 自然釉	
618	甕	底径 (20.1) 残高 7.5	平底の底部。備前焼。	回転ナデ→ナデ	回転ナデ→ナデ	灰色 灰色	石・長(1~3) ◎	下層	
619	甕	底径 (30.6) 残高 14.5	平底の底部。備前焼。	工具によるナデ	回転ナデ	黄灰色 ?	石・長(1~3) 金 ◎		
620	碗	口径 (15.0) 残高 3.3	天目茶碗。鉄釉。瀬戸焼か。	施釉	施釉	(胎) 灰白色 (釉) 黒色不透明	密 ◎		27
621	碗	底径 (4.9) 残高 1.9	削り出し高台。高台部に目砂付着。内面に輪状に釉をかき取る。	施釉	施釉	(胎) 灰白色 (釉) オリーブ灰色	密 ◎	下層	27
622	碗	底径 6.8 残高 2.3	削り出し高台。露胎。中国製白磁。	回転ヘラケズリ	施釉	(胎) 灰白色 (釉) 明オリーブ灰色	密 ◎	下層	27
623	碗	底径 (7.0) 残高 1.7	削り出し高台。露胎。中国製白磁。	回転ヘラケズリ	施釉	(胎) 灰白色 (釉) 灰白色	密 ◎	下層	27
624	碗	底径 5.8 残高 1.8	削り出し高台。底部外面は露胎。内面に印花文。中国製青磁。	回転ヘラケズリ	施釉	(胎) 灰白色 (釉) オリーブ灰色	密 ◎		27
625	坏身	口径 (11.6) 器高 3.8	外上方に伸びる受け部に、たちあがりは、内傾し端部は尖り気味である。	㊦㊧回転ナデ ㊦㊧回転ヘラケズリ	㊧回転ナデ ㊦ナデ	灰色 灰色	石・長(1~2) 密 ◎		
626	坏身	受部径 (16.0) 残高 4.2	短く水平に伸びる受け部、たちあがりは、内傾する。	㊦㊧回転ナデ ㊦㊧回転ヘラケズリ	㊧回転ナデ ㊦ナデ	灰黄色 灰白色	石・長(1~2) ◎		
627	甕	胴部径 (9.0) 残高 5.0	球形の胴部。	㊦㊧回転ナデ ㊦㊧回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1~2) ◎	下層	
628	不明	残高 2.6	火鉢などの脚部か(猫足風)。	ナデ		褐灰色	白色粒 ◎	上層	

表 122 SD201 出土遺物観察表（石製品）

(1)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
629	砥石		頁岩	(3.7)	3.3	0.5	12.18	仕上げ砥石 京都鳴滝系	
630	砥石		流紋岩	6.2	6.2	8.2	409.73		
631	砥石		流紋岩	(9.0)	6.5	8.2	624.66		

出土遺物一覽

SD201 出土遺物観察表 (石製品)

(2)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
632	砥石	ほぼ完形	流紋岩	9.2	4.7	3.7	277.06		
633	砥石	完形	流紋岩	10.1	6.5	3.7	407.38		
634	砥石			13.3	9.7	5.5	899.22		
635	砥石→カマド石			8.0	5.3	4.2	349.97	煤付着 再利用	
636	砥石→カマド石			8.7	5.5	5.2	349.64	煤付着 再利用	
637	砥石→カマド石			14.7	10.0	8.5	1698.27	煤付着 再利用	
638	砥石→カマド石			21.0	8.5	4.7	1452.82	煤付着 再利用	
639	カマド石			11.8	7.2	4.7	595.18	煤付着	
640	カマド石			10.5	7.1	4.5	569.27		

表 123 SD202 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
					内面				
641	坏	口径 (11.4) 底径 (6.8) 器高 3.1	底部の切り離しは、回転糸切り。	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
642	土釜	残高 3.1	内湾する口縁端部外面に、銕を貼り付ける。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長 (1~2) ◎	上層	
643	土釜	残高 7.2	三足付土釜の脚部。	ナデ		にぶい黄橙色	石・長 (1~2) ◎	上層	
644	捏鉢	残高 4.0	口縁端部は、上方に肥厚される。東播系。13世紀。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	白色粒 ◎	上層	
645	播鉢	口径 (29.2) 残高 3.7	口縁部外面に、ナデによる2本の凹線が廻る。備前焼。	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色 褐灰色	石・長 (1~2) ◎		
646	播鉢	底径 (14.0) 残高 3.5	底部に目跡がある。備前焼。	回転ナデ	回転ナデ	灰褐色 灰褐色	白色粒 ◎	上層	
647	皿	口径 (11.4) 底径 (4.3) 器高 3.2	段をもち外反する体部。削り出しの高台が付く。底部外面は露胎。唐津焼。	施釉	施釉 (不透明)	(胎) 灰黄色 (釉) 灰黄色	密 ◎	下層	27
648	碗	口径 (9.8) 底径 4.2 器高 6.4	内湾する体部、口縁部は直立し端部は尖る。底部は削り出し高台が付く。唐津焼。	施釉	施釉	(胎) にぶい橙色 (釉) にぶい黄色	密 ◎	上層	27
649	碗	口径 (16.0) 残高 1.9	口縁端部は玉縁状である。白磁。	施釉	施釉 (半透明)	(胎) 灰白色 (釉) 灰オリブ色	密 ◎		27
650	碗	底径 (5.0) 残高 1.4	高台の小片。青磁。	施釉		(胎) 灰白色 (釉) オリブ灰色	密 ◎	上層	27

表 124 SD202 出土遺物観察表 (石製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
651	石器素材	完形		12.5	6.3	1.9	339.00		

南江戸上沖遺跡2次調査2区

表 125 SD203 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
652	土釜	口径 (21.0) 残高 4.3	口縁端部外面に、断面三角形の鐏を貼り付ける。	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長 (1~2) ◎		
653	土釜	残高 6.8	三足付土釜の脚部。	ナデ		にぶい黄橙色	石・長 (1~2) ◎	煤付着	
654	土釜	残高 8.0	三足付土釜の脚部。	ナデ		灰黄褐色	石・長 (1~3) ◎		

表 126 SD204 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
655	皿	底径 (6.8) 残高 1.1	底部の小片。	マメツ	マメツ	浅黄橙色 浅黄橙色	密 ◎		
656	土釜	口径 (16.0) 残高 5.5	内湾する体部、口縁端部外面に、断面三角形の鐏を貼り付ける。	ナデ	ナデ ハケ (8本/cm)	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長 (1) ◎	煤付着 下層	
657	土釜	残高 13.8	三足付土釜の脚部。土釜の底部が残る。	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長 (1~3) ◎	煤付着 下層	
658	土釜	残高 9.3	三足付土釜の脚部。	ナデ		にぶい橙色	石・長 (1~2) ◎	上層	
659	碗	口径 (17.0) 残高 2.9	口縁端部は玉縁状。中国製白磁。	施釉	施釉 (不透明)	(胎) 灰白色 (釉) 灰白色	密 ◎	下層	27
660	碗	底径 (7.4) 残高 1.4	内面に文様あり。中国製青磁 (龍泉窯)。	施釉	施釉	(胎) 灰白色 (釉) 灰オリーブ色 (外) 緑灰色	密 ◎	上層	27

表 127 SD204 出土遺物観察表 (石製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
661	砥石	完形		11.1	9.2	2.9	514.05	煤付着 (カマド石として 使用されたのか)	27
662	カマド石	完形		16.8	12.6	4.5	1612.70	煤付着	

表 128 SD205 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
663	土釜	口径 (22.0) 残高 5.3	内湾する口縁端部外面に、断面三角形の鐏を貼り付ける。	ナデ	ヨコナデ ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	(胎) 灰白色 (釉) 灰オリーブ色		
664	土釜	口径 (22.8) 器高 4.7	内湾する口縁端部外面に、断面三角形の鐏を貼り付ける。	ナデ	マメツ	にぶい黄褐色 明黄褐色	長 (1~2) 金 ◎	下層	

表 129 SD206 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
665	皿	残高 2.2	口縁部は屈曲し、口縁端面は外傾する面をもつ。	施釉	施釉	(釉) 浅黄色 (不透明)	密 ◎	下層	28

出土遺物一覧

表 130 SD212 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
666	土釜	残高 3.7	口縁端部に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	ナデ	マメツ	暗灰黄色 灰色	長 (1~2) ◎		
667	土釜	残高 6.6	三足付土釜の脚部。	マメツ		にぶい黄褐色	長 (1) ◎	下層	
668	壺	口径 (14.0) 残高 3.7	内傾する口縁部。端部は「コ」字状。	鉄釉	鉄釉	(釉) 赤黒色	密 ◎	下層	
669	坏蓋	口径 (14.8) 残高 3.0	口縁部片。端部は尖り気味である。	㊦回転ヘラケズリ ㊧回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎	下層	
670	坏蓋	残高 8.6	天井部の小片。	㊦回転ヘラケズリ ㊧回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	長 (1) 密 ◎		

表 131 SD213 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
671	坏	口径 (10.4) 底径 (6.6) 器高 3.6	平底の底部に、内湾する体部。口縁端部は、尖り気味である。内面底部に轆轤目が残る。	ヨコナデ ナデ	ナデ	浅黄橙色 橙色	密 ◎		
672	土釜	口径 (21.6) 残高 3.7	口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	ヨコナデ ナデ	マメツ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	石・長(1~2) 金 ◎	下層	
673	土釜	残高 15.9	三足付土釜の脚部。	ナデ		にぶい黄褐色	石(1)長(1~2) 金 ◎	煤付着	
674	土釜	残高 6.4	三足付土釜の脚部。土釜の底部内面が残る。	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	長 (1~2) ◎	煤付着 下層	
675	土釜	残高 9.5	三足付土釜の脚部。	ナデ		黒褐色	長 (1) 金 ◎	煤付着 下層	
676	茶釜 (風炉)	口径 (16.0) 残高 4.7	内傾する短い口縁部。	ナデ ハケ (7~8/cm)	ヨコナデ ハケ (7~8/cm)	灰色 灰色	長 (1~2) ◎		
677	碗	口径 (11.6) 底径 (5.2) 器高 5.5	短く外反する口縁部。口縁端部は丸い。底部は露胎。天目茶碗。16世紀。	鉄釉 ㊨ケズリ	鉄釉	にぶい赤褐色 (釉) 黒褐色	密 ◎		28
678	壺	底径 (12.0) 残高 10.3	樽形の胴部。外面に自然釉が付着。	回転ナデ	回転ナデ	暗赤灰色 灰赤色	密 ◎	自然釉	
679	高坏	残高 2.1	基部の小片。	ナデ	マメツ	灰白色 灰白色	密 ◎		
680	瓦	残存長 5.7 残存幅 7.5 残存厚 2.5	小片。	ナデ	布目痕	灰色 灰色	密 ◎	下層	

表 132 SD216 出土遺物観察表 (土製品)

(1)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
681	坏	口径 (10.4) 残高 2.8	口縁端部は外反する。	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	灰褐色 黄褐色	長 (1~2) ◎	下層	
682	坏	底径 (5.8) 残高 1.6	底部の小片。	マメツ	マメツ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長 (1~2) ◎		
683	土釜	口径 (22.2) 残高 8.0	内湾する口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	ナデ 指頭痕	ナデ 指頭痕	にぶい黄褐色 にぶい褐色	石・長 (1~2) ◎	煤付着 下層	

南江戸上沖遺跡2次調査2区

SD216 出土遺物観察表（土製品）

(2)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
684	土釜	口径 (20.1) 残高 5.5	内湾する口縁端部外面に、断面三角形の鐔を貼り付ける。	ナデ 指頭痕	ナデ 指頭痕	にぶい橙色 にぶい褐色	石・長 (1~2) ◎	上層	
685	土釜	残高 7.5	三足付土釜の脚部。	ナデ		にぶい黄橙色	石・長 (1~4) ◎	煤付着	
686	土釜	残高 8.4	三足付土釜の脚部。	ナデ		にぶい橙色	石・長(1~3) 金 ◎	上層	
687	播鉢	残高 4.3	片口部の小片。内面に櫛目が残る。備前焼。	ナデ	ヨコナデ	赤褐色 赤褐色	石・長 (1~3) ◎	下層	
688	碗	口径 (12.8) 残高 3.5	口縁部は短く外反し、端部は尖り気味である。天目茶碗。瀬戸焼。15~16世紀。	施釉	施釉	(釉) にぶい赤褐色・黒褐色 (胎) 灰白色	密 ◎	上層	28

表 133 SD214 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
689	壺	底径 (6.7) 残高 4.7	平底の底部。内面に自然釉が掛かる。備前焼。	回転ナデ	施釉	灰褐色 灰褐色	石・長 (1~2) ◎	自然釉	

表 134 SD217 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
690	土釜	残高 2.0	口縁端部外面に断面三角形の鐔を貼り付ける。	ナデ	マメツ	にぶい橙色 橙色	石・長 (1~2) ◎	煤付着	

表 135 SD218 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
691	土釜	口径 (27.6) 残高 6.7	内湾する口縁端部外面に、断面三角形の鐔を貼り付ける。	ナデ 指頭痕	ナデ 指頭痕	にぶい橙色 にぶい褐色	石・長 (1~2) ◎		
692	土釜	残高 12.6	三足付土釜の脚部。土釜の底部内面が残る。	ナデ	ハケ	橙色 にぶい褐色	石・長 (1~3) ◎	煤付着	
693	土釜	残高 5.3	三足付土釜の脚部。	ナデ		橙色	石・長 (1~3) ◎	上層	

表 136 SD219 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
694	土釜	残高 2.4	口縁端部外面に、断面三角形の鐔を貼り付ける。	ヨコナデ 指頭痕	ヨコナデ	にぶい橙色 にぶい褐色	石・長 (1) ◎	下層	
695	土釜	残高 7.3	三足付土釜の脚部。	ナデ		にぶい黄橙色	石・長 (1~2) ◎	下層	
696	碗	残高 2.2	口縁部の小片。	施釉	施釉	(胎) 灰白色 (釉) 灰オリーブ色	密 ◎		28
697	小壺	口径 (3.0) 残高 2.5	直立する短い口縁端部は丸い。瀬戸焼か。	回転ナデ	回転ナデ	(胎) 灰白色 (釉) 灰オリーブ色	密 ◎	下層	28

出土遺物一覧

表 137 SD222 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
698	碗	残高 2.0	口縁端部は折り曲げられて、玉縁状である。白磁碗。	釉	釉	(胎) 灰白色 (釉) 灰白色	密 ◎	上層	28

表 138 SD222 出土遺物観察表 (石製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
699	カマド石	完形		14.4	5.5	6.1	740.20	煤付着 上層	

表 139 グリッド出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
700	碗	口径 (13.1) 残高 4.6	内湾する口縁端部は、尖り気味である。	ナデ	ミガキ	灰白色 灰色	石・長 (1) ◎	D6区	
701	土釜	口径 (28.6) 残高 4.5	内湾する口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	ヨコナデ ナデ	ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長 (1~2) ◎	D6区 煤付着	
702	土釜	残高 5.2	三足付土釜の脚部。	ナデ		にぶい橙色	石・長 (1~2) ◎	煤付着 D9区	
703	土釜	残高 8.0	三足付土釜の脚部。断面円形。	ナデ		にぶい黄橙色	石・長 (1~2) ◎	D6区	
704	皿	口径 (28.6) 残高 4.5	口縁部は短く内湾する。	施釉	施釉 (透明)	(胎) 灰白色 (釉) 淡黄色	密 ◎	D9区	28
705	碗	残高 3.1	口縁部の小片。	施釉	施釉	(胎) 灰白色 (釉) 灰オリーブ色	密 ◎	C7区	28
706	碗	残高 2.5	口縁部の小片。	施釉	施釉 (透明)	(胎) 灰白色 (釉) 灰白色	密 ◎	C5区	28
707	碗	底径 (4.0) 残高 0.7	天目茶碗の底部の小片。底部外面は露胎。瀬戸焼。	ケズリ	施釉 (鉄釉)	暗褐色 黒褐色	密 ◎	D9区	28
708	碗	残高 1.8	底部外面は露胎。内面にハケ状の文様がある。中国製白磁。	施釉	施釉	(胎) 灰白色 (釉) 灰オリーブ色	密 ◎	F8区	28
709	坏	底径 (7.5) 残高 1.8	断面四角形の高台が付く。須恵器。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	石・長 (1) ◎	D7区	
710	瓦	残存長 7.5 残存幅 6.7 残存厚 1.7	丸瓦の小片。	ナデ	布目痕	灰白色 灰白色	石・長 (1~2) ◎	C5区	

表 140 カクラン 201 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
711	皿	底径 (6.2) 残高 1.3	底部の切り離しは、回転糸切り。	ナデ	ナデ	淡黄色 淡黄色	石・長 (1~2) ◎	C7区	
712	皿	底径 6.1 残高 0.8	底部の切り離しは、回転糸切り。	ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	石・長 (1~2) ◎	D7区	
713	碗	口径 (11.6) 残高 2.8	内湾する口縁端部は、尖り気味である。	ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	石・長 (1) ◎	C7区	
714	碗	残高 2.3	口縁端部は玉縁状である。中国製白磁。	施釉	施釉 (透明)	(胎) 灰白色 (釉) 灰白色	密 ◎	C7区	28



南江戸上沖遺跡2次調査2区

表 141 出土地点不明出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
715	埴	口径 (15.0) 残高 5.3	僅かに外反する口縁部。瓦器。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	長 (1) ◎		
716	皿	底径 (5.3) 残高 1.5	底部の小片。瓦器。	ナデ	ナデ	灰黄褐色 灰黄褐色	長 (1) ◎		
717	皿	底径 6.0 残高 1.2	底部の切り離しは、回転糸切り。	ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	石・長 (1) ◎		
718	土釜	口径 (19.0) 残高 4.8	内湾する口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	ヨコナデ ナデ	ナデ	橙色 にぶい橙色	石・長(1~3) 金 ◎	煤付着	
719	土釜	残高 4.8	口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	ナデ	ナデ	灰色 灰色	石・長(1~2) 密 ◎	煤付着	
720	羽釜	鏝径 (26.8) 残高 4.8	水平に伸びる鏝。	ハケ (4本/cm) →ナデ	ナデ 指頭痕	暗灰黄色 灰黄色	石・長(1~3) 金 ◎	煤付着	
721	碗	残高 2.1	口縁部の小片。	施釉	施釉 (透明)	(胎) 灰白色 (釉) 淡黄色	密 ◎		28
722	碗	底径 (4.6) 残高 2.8	削り出し高台の畳付に目跡。	施釉	施釉 (透明)	(胎) 灰白色 (釉) 灰オリーブ色	密 ◎		28
723	坏蓋	つまみ径 2.7 口径 (14.0) 器高 4.6	中央部が窪むつまみ。口縁部は段をもち直立し接地する	㊦回転ヘラケズリ ㊧㊨回転ナデ	㊩回転ナデ ㊪ナデ	灰色 灰白色	石・長(1~3) 密 ◎		

表 142 出土地点不明出土遺物観察表（石製品）

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
724	硯			(4.3)	6.9	0.5	24.22		28

表 143 出土地点不明出土遺物観察表（金属製品）

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				径 (cm)	孔寸 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
725	古銭「皇宋通寶」	完形	銅	2.4	0.8	1.2	2.03		

表 144 第2面出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
726	坏蓋	口径 14.4 器高 4.4	丸みをもつ天井部と口縁部を分ける境は、不明瞭である。口縁端部は丸い。	㊦㊧回転ヘラケズリ ㊨㊩回転ナデ	㊪回転ナデ ㊫ナデ	灰色 灰白色	長 (1) 密 ◎	C7区	28
727	坏身	口径 12.0 器高 4.4	受け部は外上方に伸び、たちあがりは、内傾する。	㊬㊭㊮回転ナデ ㊯回転ヘラケズリ	㊰回転ナデ ㊱ナデ	灰白色 灰色	石・長(1~2) 密 ◎	E7区	28

表 145 第2面出土遺物観察表（石製品）

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
728	砥石		流紋岩	10.8	5.0	6.1	612.80	全面に使用痕あり。 E7区	

### 4. 3区の調査 (第203図、図版21)

3区は、1次調査1区南区の西に位置する。調査区は、長形状で南北約37m、東西約16mを測る。3区では、中世から近・現代までの遺構や遺物を検出した。検出遺構は、溝9条、土坑4基、土壇墓5基、井戸4基、柱穴323基である。出土遺物は、土師器(中世)、須恵器(中世)、陶磁器(中世)、石器、銅銭、人骨がある。

#### (1) 中世

##### 1) 土坑

土坑は、4基を検出した。

##### SK301 (第200図)

SK301は、調査区のY・Z10区に位置する。平面形態は楕円形で、規模は長さ1.11m、幅1.50m、深さ0.13mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(10YR 5/1)に砂混りである。出土遺物には、土師器の皿・三足土釜、須恵器があるが、実測可能遺物はない。

**時期：**出土遺物から、中世の土坑と考えられる。

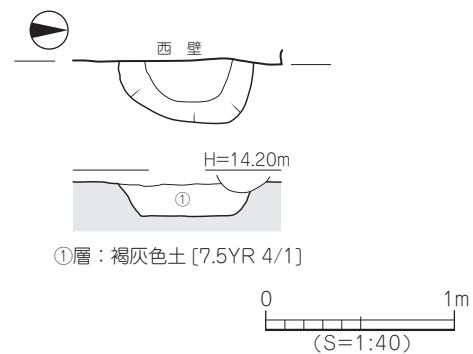


第200図 SK301 測量図

##### SK302 (第201図)

SK302は、調査区のX11区に位置し、西側は調査区外につづく。平面形態は、円形と思われる。規模は、検出径0.72m、深さ0.17mを測る。断面形態は、逆台形状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 4/1)である。出土遺物には、土師器の皿があるが、実測可能遺物はない。

**時期：**出土遺物から、中世の土坑と考えられる。

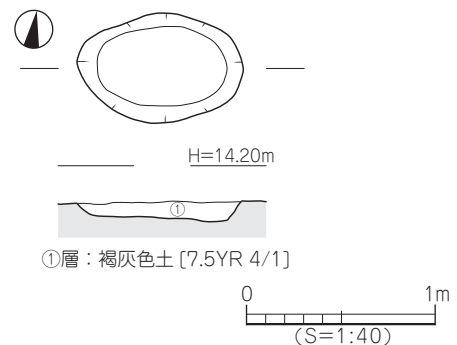


第201図 SK302 測量図

##### SK303 (第202図)

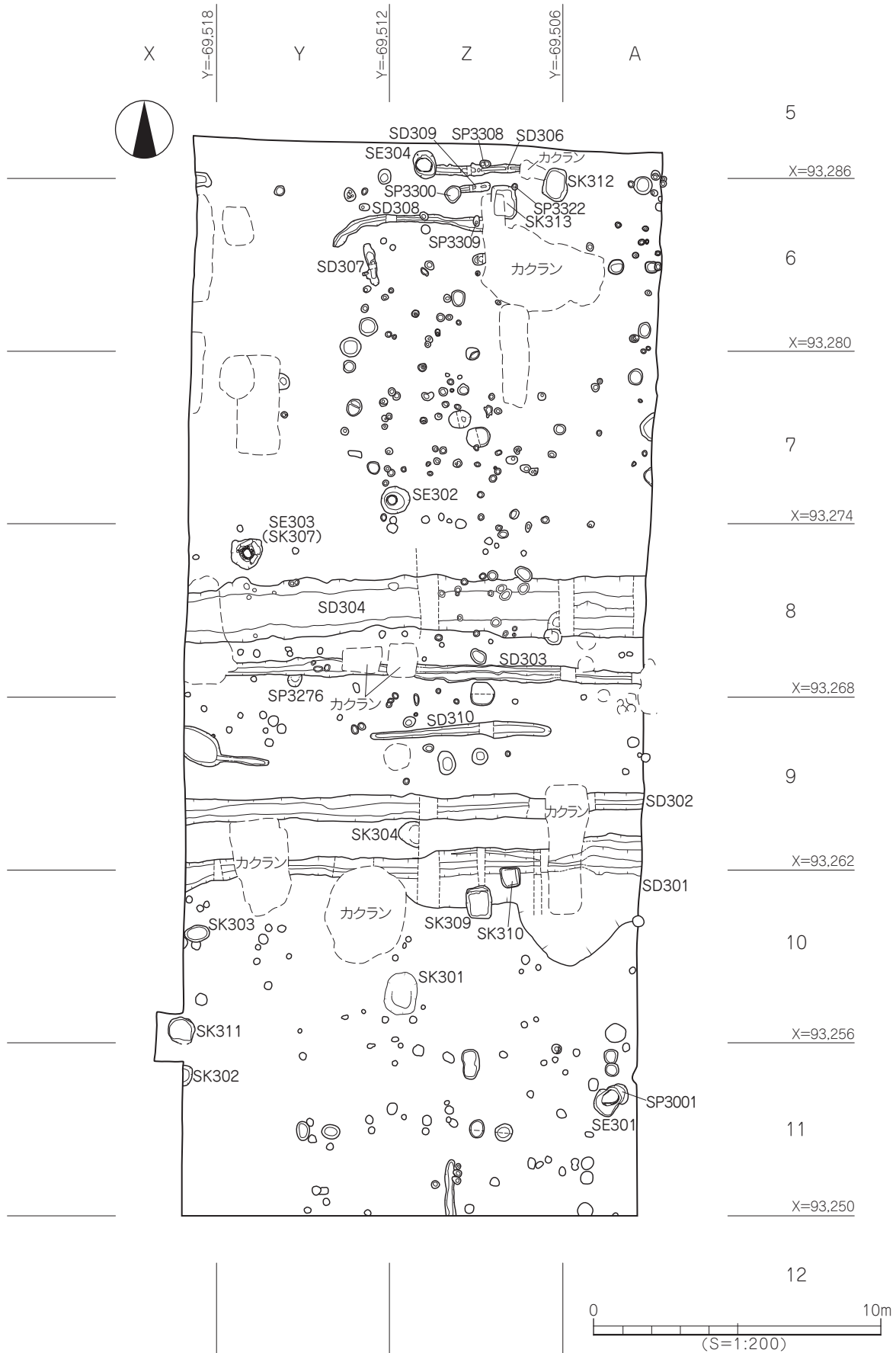
SK303は、調査区のX10区に位置し、SPを切る。平面形態は楕円形で、規模は長さ0.88m、幅0.58m、深さ0.10mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 4/1)である。出土遺物には、土師器の皿・坏・三足土釜があるが、実測可能遺物はない。

**時期：**出土遺物から、中世の土坑と考えられる。



第202図 SK303 測量図

南江戸上沖遺跡 2次調査 3区

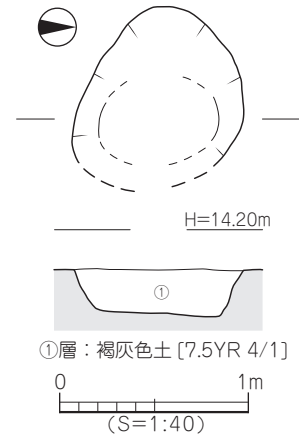


第 203 図 3区遺構配置図

SK304 (第 204 図)

SK304 は、調査区の Z9 区に位置し、東側はベルト内である。平面形態は円形で、規模は南北 0.92 m、深さ 0.25 m を測る。断面形態は、皿状である。埋土は、褐灰色土 (7.5YR 4/1) である。出土遺物には、土師器の皿、須恵器があるが、実測可能遺物はない。

時期：出土遺物から、中世の土坑と考えられる。



第 204 図 SK304 測量図

2) 土壙墓

土壙墓は、5 基検出した。

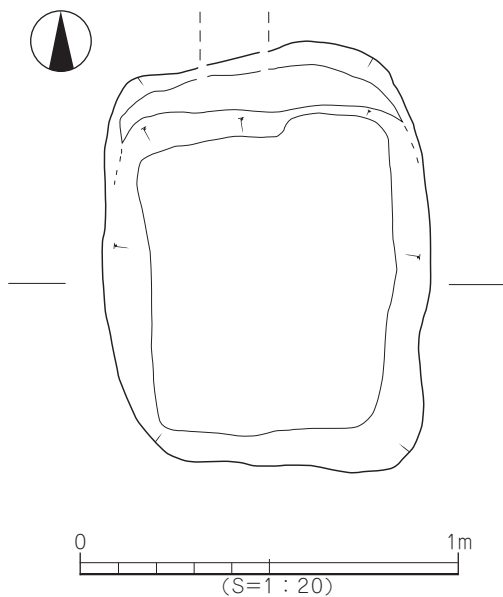
SK309 (第 205 ~ 207 図、図版 21・29)

SK309 は、調査区の Z10 区に位置し、SD301 を切る。墓壙の平面形態は方形で、規模は縦 0.93 m、横 0.86 m、深さ 0.34 m を測る。断面形態は、箱状である。埋土は、①黒褐色土 (7.5YR 3/1)、②黄褐色土 (2.5YR 5/3) である。出土遺物には、土師器の坏、須恵器の小片、陶磁器、木棺、人骨がある。坏 2 点は完形品で、木棺の北東角で出土した。坏の外面には、文字が書かれている。木棺は、方形で蓋板、側板、底板が残存していた。埋葬姿勢は、右を下にした側臥で、頭位は北の状態出土した。

出土遺物 (729 ~ 731)

729 ~ 731 は土師器。729・730 は坏の完形品。729 は平底の底部。体部は直行し、口縁端部は丸みをもつ。体部外面に「十二月廿八日」の墨書が確認できる。730 は平底の底部。体部は直口し口縁端部は丸みをもつ。体部に「十二月十二日」の墨書が確認できる。729・730 の底部の切り離しは回転ヘラ切りである。731 は三足付土釜の脚部。釜底部との接合部に釜の内面が残る。煤が付着する。

時期：出土遺物から、16 世紀末 ~ 17 世紀前半の土壙墓と考えられる。

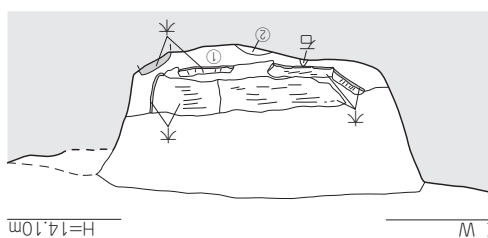
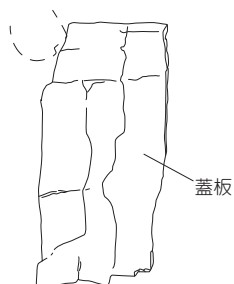
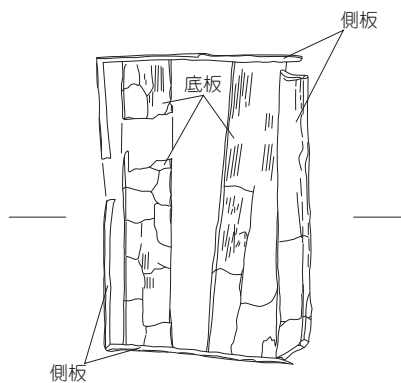
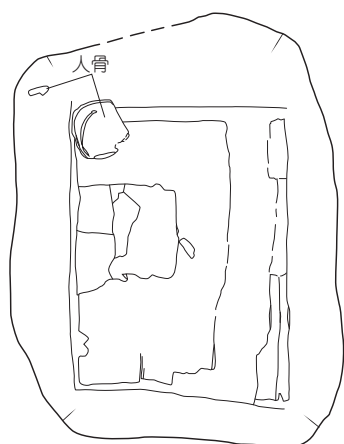


第 205 図 SK309 測量図 (1)

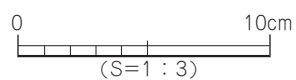
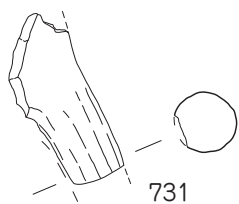
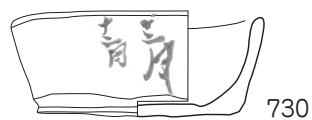
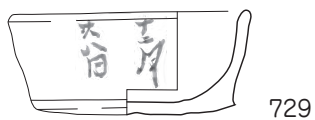
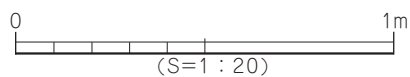


第 206 図 SK309 人骨出土状況写真 (南より)

南江戸上沖遺跡2次調査3区



- ①層：黒褐色土 [7.5YR 3/1]
- ②層：黄褐色土 [2.5Y 5/3]



第 207 図 SK309 測量図 (2)・出土遺物実測図

遺構と遺物

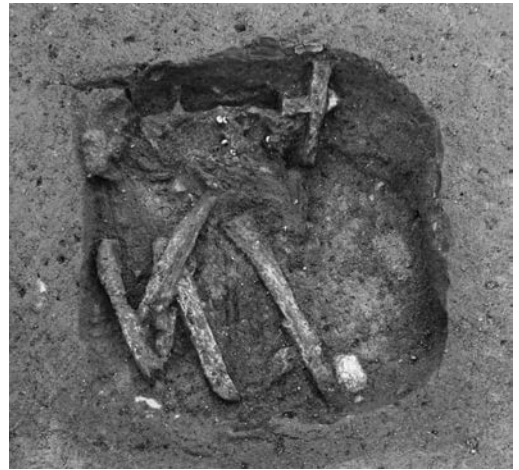
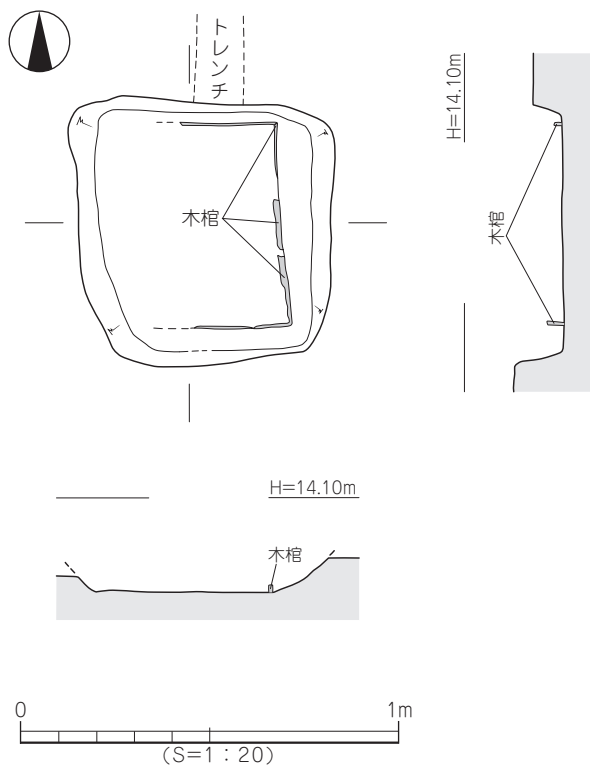
SK310 (第 208・209 図、図版 22・29)

SK310 は、調査区の Z10 区に位置し、SD301 を切る。墓壇の平面形態は方形で、規模は縦 0.71 m、横 0.66 m、深さ 0.09 m を測る。断面形態は、箱状である。埋葬姿勢は、坐位で頭位は南である。出土遺物には、土師器の坏、木棺、人骨、鉄小片がある。

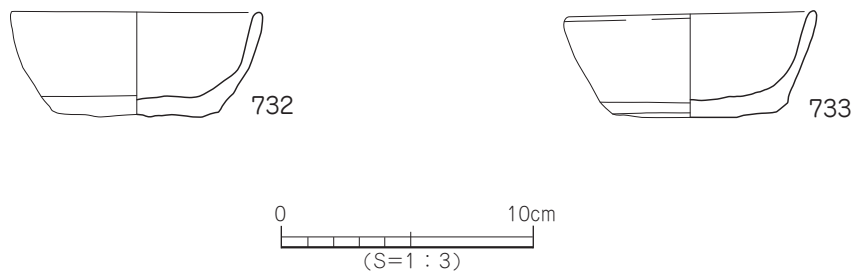
出土遺物 (732・733)

732・733 は土師器の坏の完形品。法量はほぼ同じである。732・733 共に平底で体部はほぼ直口し、口縁端部は丸い。底部の切り離しは、回転ヘラ切りである。

時期：出土遺物から、16 世紀末～17 世紀前半の土壇墓と考えられる。



第 209 図 SK310 人骨出土状況写真 (南より)



第 208 図 SK310 測量図・出土遺物実測図

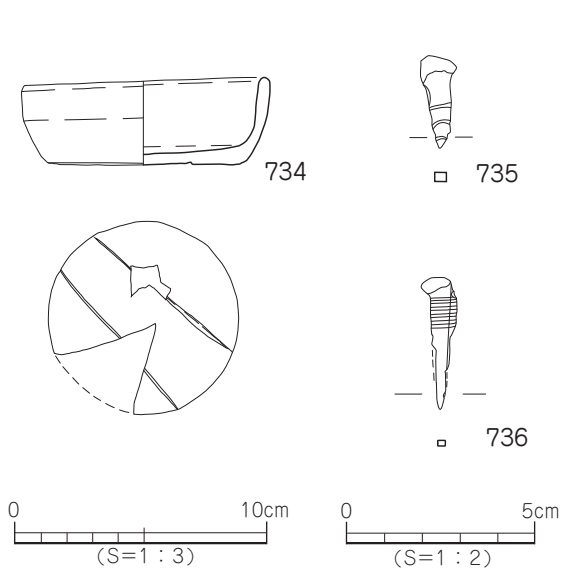
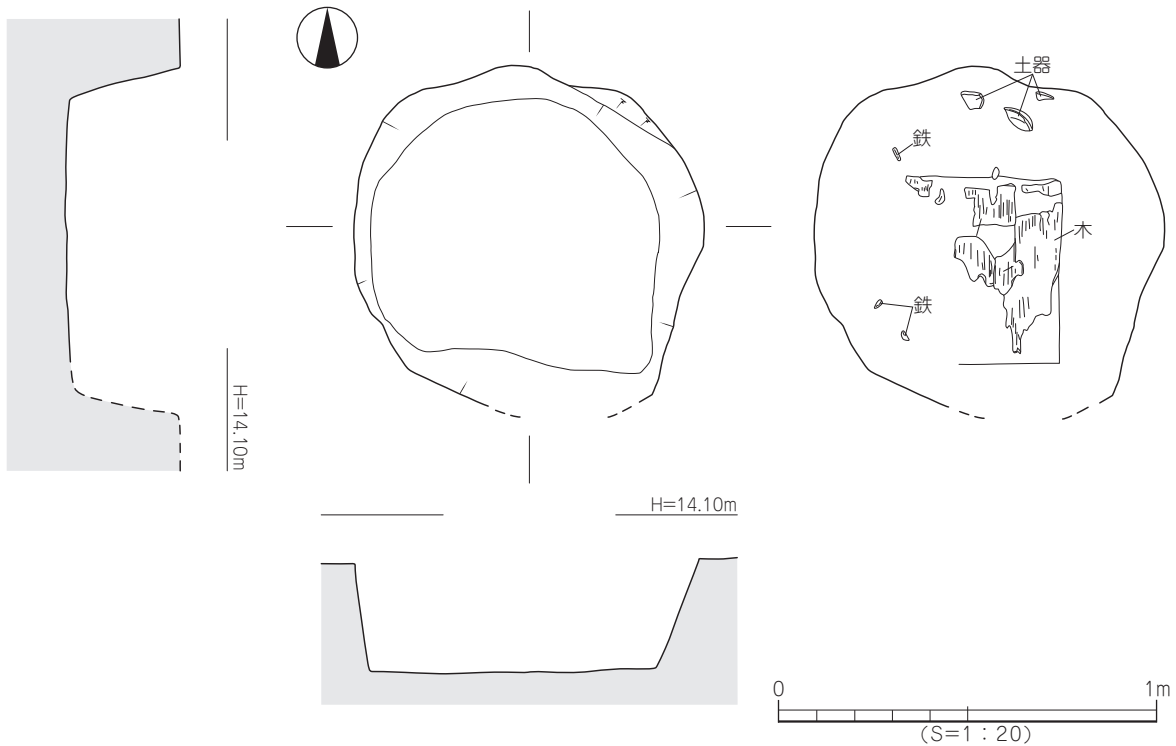
SK311 (第210・211図、図版29)

SK311は、調査区のX10区に位置する。墓壙の平面形態は円形で、規模は径0.90m、深さ0.29mを測る。断面形態は、箱状である。出土遺物には、土師器の坏、須恵器、鉄釘、木棺痕跡、人骨がある。木棺は方形の底板が確認でき、箱棺と思われる。埋葬姿勢は、坐位で頭位は南である。

出土遺物 (734～736)

734は土師器の坏。平底で体部はほぼ直口し口縁端部は丸い。底部外面に平行な直線状の2本の線刻がある。底部の切り離しは、回転ヘラ切りである。735・736は鉄釘。釘頭はつぶれている。

時期：出土遺物から、16世紀末～17世紀前半の土壙墓と考えられる。



第210図 SK311 測量図・出土遺物実測図



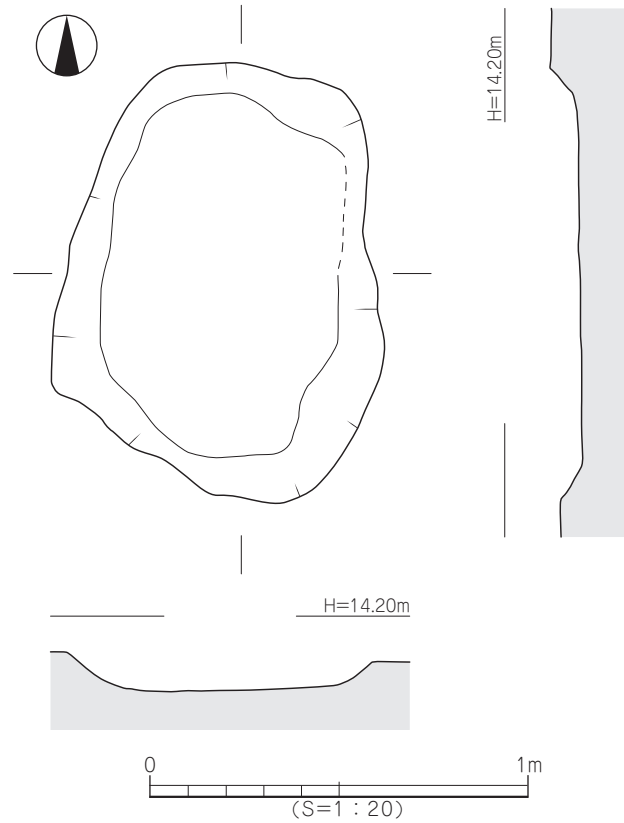
第211図 SK311 人骨出土状況写真 (南東より)

遺構と遺物

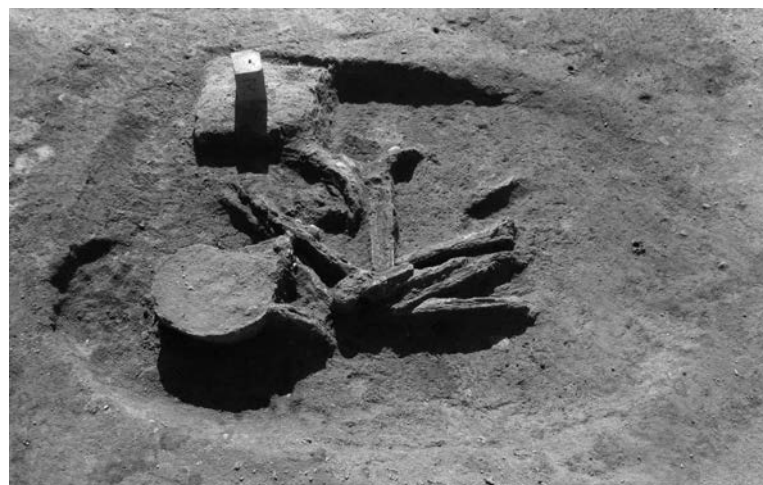
SK312 (第 212・213 図)

SK312 は、調査区の Z・A5・6 区に位置する。墓壙の平面形態は楕円形で、規模は長さ 1.12 m、幅 0.71 m、深さ 0.08 m を測る。断面形態は、箱状である。出土遺物には、土師器、須恵器、瓦器、人骨がある。実測可能遺物はない。埋葬姿勢は、仰臥屈葬である。

時期：出土状況から、16 世紀末～17 世紀前半の土壙墓と考えられる。



第 212 図 SK312 測量図



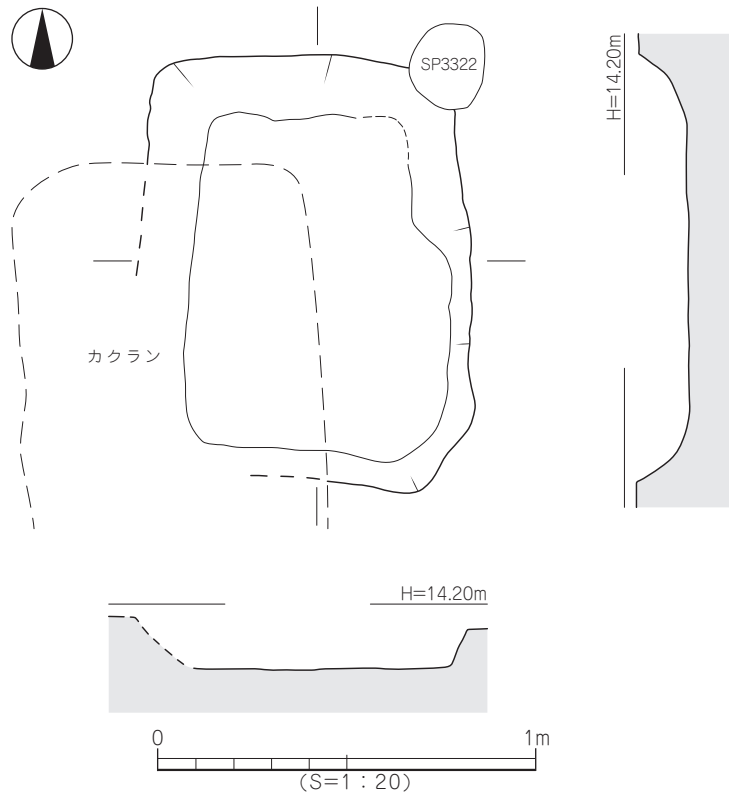
第 213 図 SK312 人骨出土状況写真 (西より)



SK313 (第214・215図)

SK313は、調査区のZ6区に位置し、SP3322、カクランに切られる。墓壙の平面形態は方形で、規模は長さ1.13m、幅0.80m、深さ0.10mを測る。断面形態は、箱状である。出土遺物には、土師器、須恵器、人骨がある。埋葬姿勢は、仰臥である。実測可能遺物はない。

時期：出土状況から、16世紀末～17世紀前半の土壙墓と考えられる。



第214図 SK313 測量図



第215図 SK313 人骨出土状況写真 (南より)

### 3) 井戸

井戸は、4基を検出した。

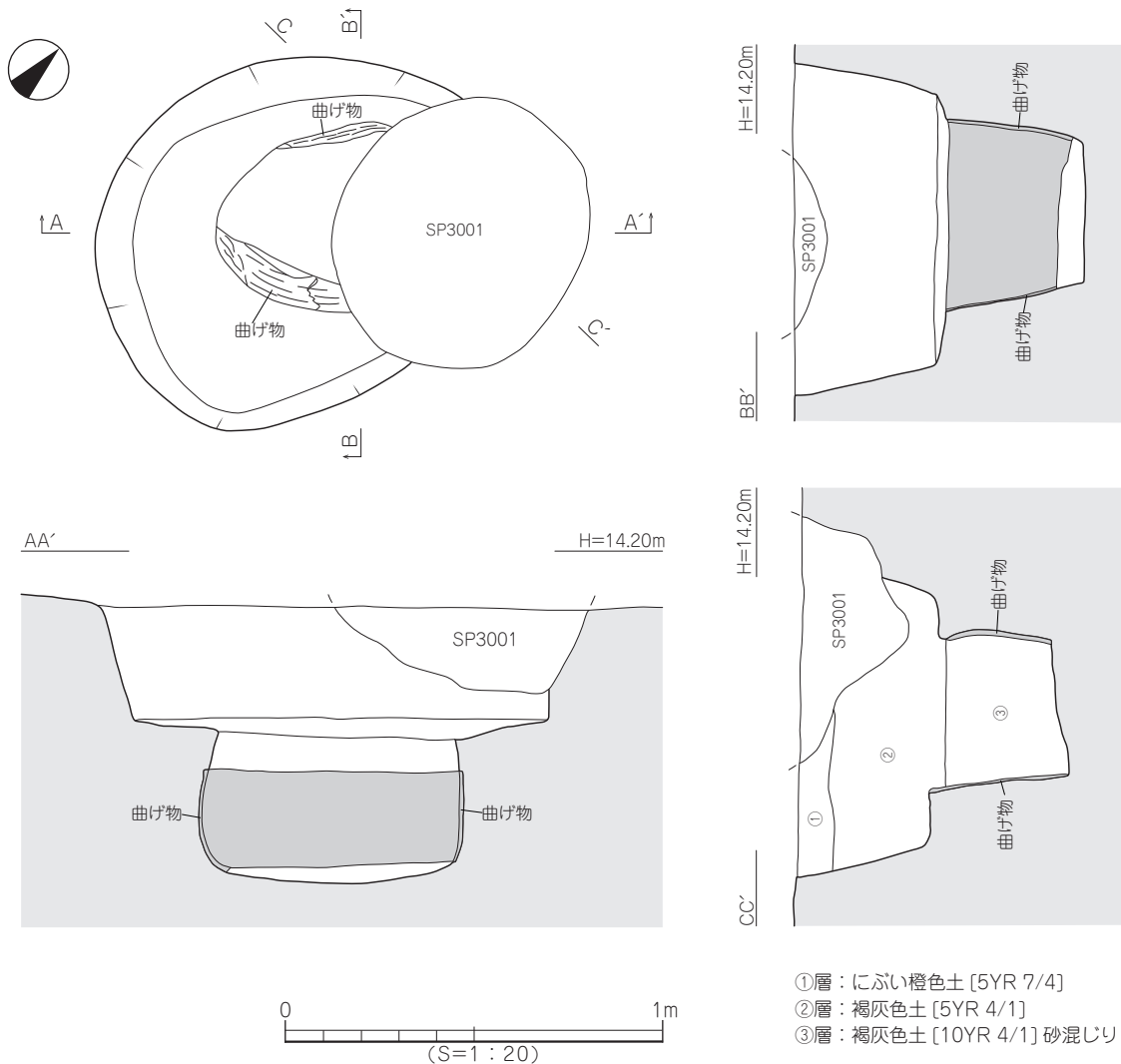
#### SE301 (第216・217図、図版22)

SE301は、調査区のA11区に位置しSP3001に切られる。掘り方の平面形態は楕円形で、規模は長さ1.30m、幅0.78m、深さ0.76mを測る。断面形態は、逆台形状である。埋土は、①にぶい橙色土(5YR 7/4)、②褐灰色土(5YR 4/1)、③褐灰色土(10YR 4/1)砂混じり、である。井戸の構造は、井戸側は素掘りで、水溜は曲げ物の痕跡を検出した。曲げ物痕跡は、土圧により楕円形状に変形している。規模は、長径0.71m、短径0.48m、高さ0.34mを測る。出土遺物には、土師器の壺・土釜・土鍋、石器素材がある。

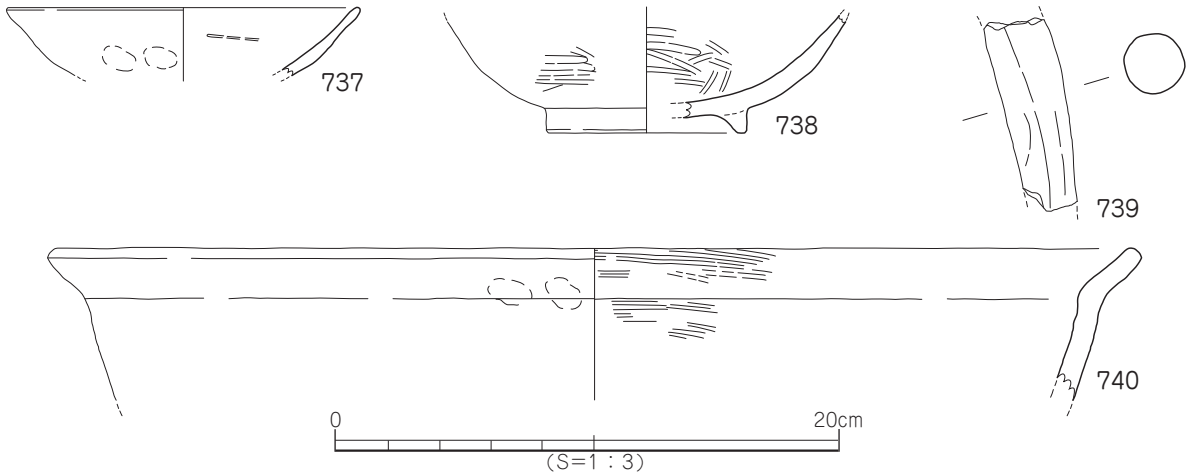
#### 出土遺物 (737～740)

737は瓦器壺。口縁部片、口縁端部は先細りである。738～740は土師器。738は内黒土器の壺。体部は内湾し、底部に逆台形状の高台を貼り付ける。739は三足付土釜の脚部。740は土鍋。口縁部は短く外反し口縁端部は丸い。煤が付着する。

時期：出土遺物から、鎌倉時代の井戸と考えられる。



第216図 SE301 測量図



第217図 SE301 出土遺物実測図

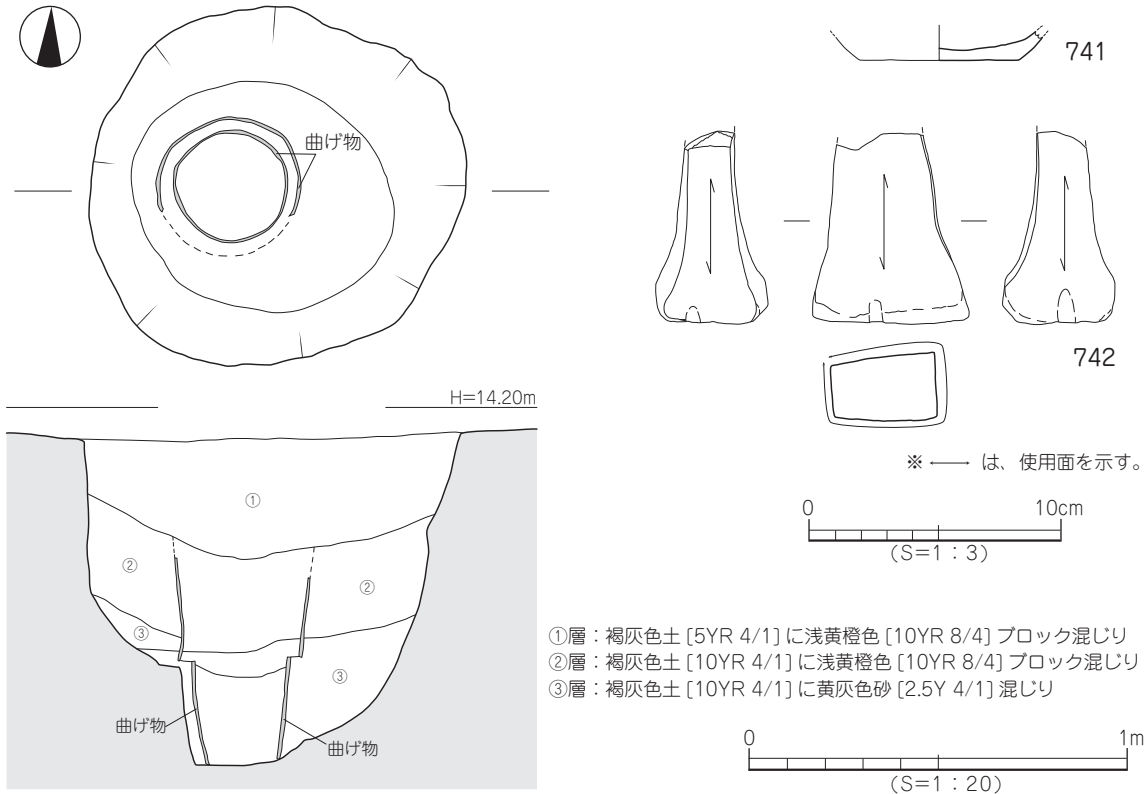
SE302 (第218図、図版22)

SE302は、調査区のY・Z7区に位置する。掘り方の平面形態は円形で、規模は径1.00m、幅0.90m、深さ0.86mを測る。断面形態は、逆台形状である。埋土は、①褐灰色土(5YR 4/1)に浅黄橙色(10YR 8/4)ブロック混じり、②褐灰色土(10YR 4/1)に浅黄橙色(10YR 8/4)ブロック混じり、③褐灰色土(10YR 4/1)に黄灰色砂(2.5Y 4/1)混じり、である。井戸の構造は、井戸側は素掘りで、水溜は、曲げ物を上下二段に検出した。上段の規模は、径35cm、高さ32cm、下段の規模は、径28cm、高さ28cmを測る。出土遺物には、土師器、須恵器、砥石がある。

出土遺物(741・742)

741は土師器の皿底部の小片。742は砥石。石材は流紋岩。全ての面でよく使いこまれている。金属を磨いた細い線が見られる。

時期：出土遺物から、鎌倉時代の井戸と考えられる。



第218図 SE302 測量図・出土遺物実測図

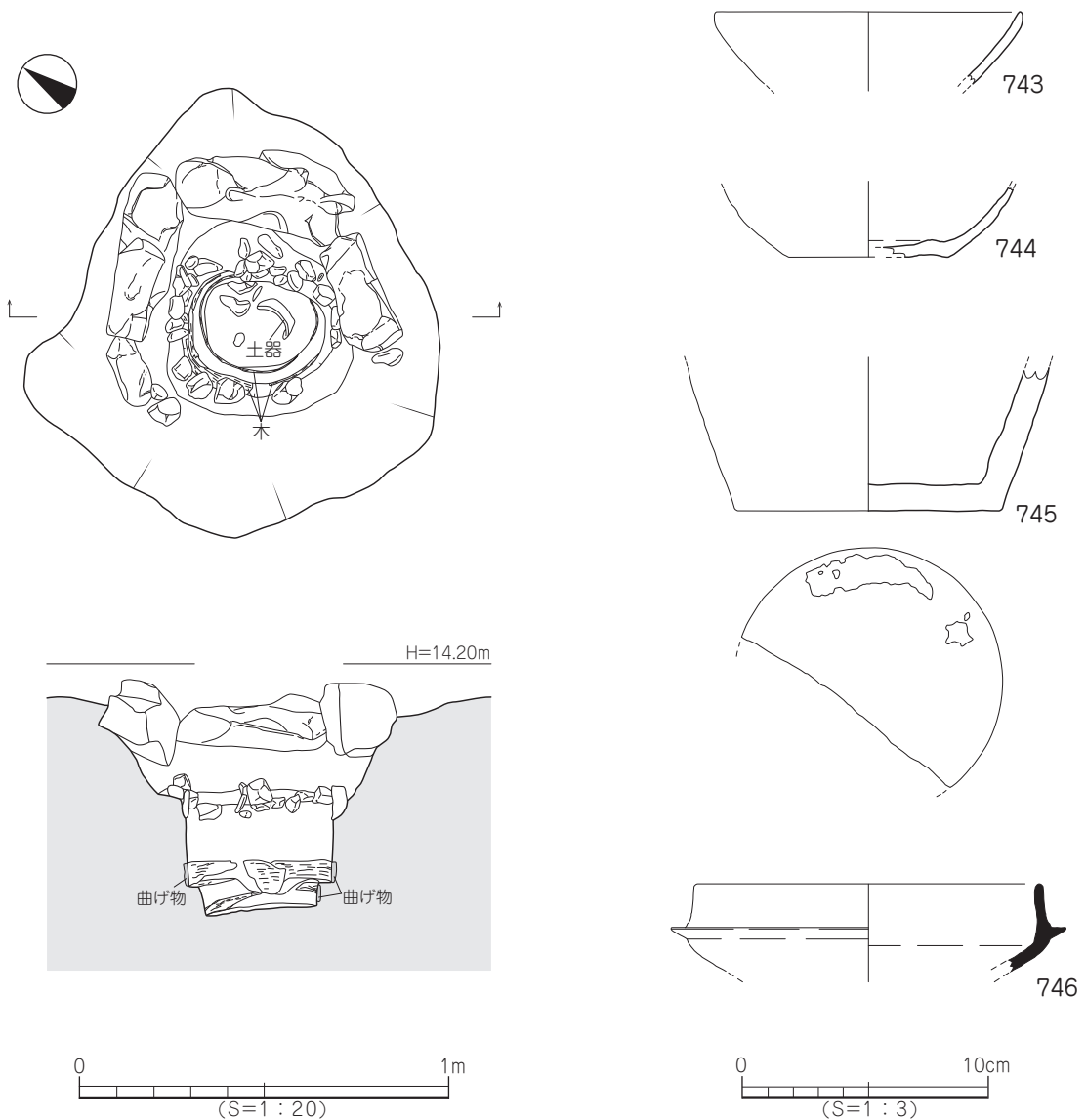
SE303 (SK307) (第 219 図、図版 22・29)

SE303 は、調査区の Y8 区に位置する。掘り方の平面形態は円形で、規模は径 1.22 m、幅 1.11m、深さ 0.64 m を測る。断面形態は、逆台形状である。埋土は、褐灰色土 (10YR 4/1) である。井戸の構造は、三段の構造である。井戸桁は、20～50cm 大の石を使用し、井戸側は、3～8cm 大の石を使用している。水溜は曲げ物を配置している。曲げ物は上下二段の構造で、規模は、上段で径 40cm、下段で径 32cm を測る。出土遺物には、土師器、須恵器、陶器の壺がある。

出土遺物 (743～746)

743・744 は土師器の坏。743 は口縁部の小片。口縁端部は尖り気味である。744 は体部は内湾し、底部の切り離しは、回転糸切りである。745 は陶器の壺。平底の底部に目跡が残る。746 は須恵器の坏身。水平に伸びる受け部、直立するたちあがりの端部は丸い。

時期：出土遺物から、鎌倉時代の井戸と考えられる。



第 219 図 SE303 (SK307) 測量図・出土遺物実測図

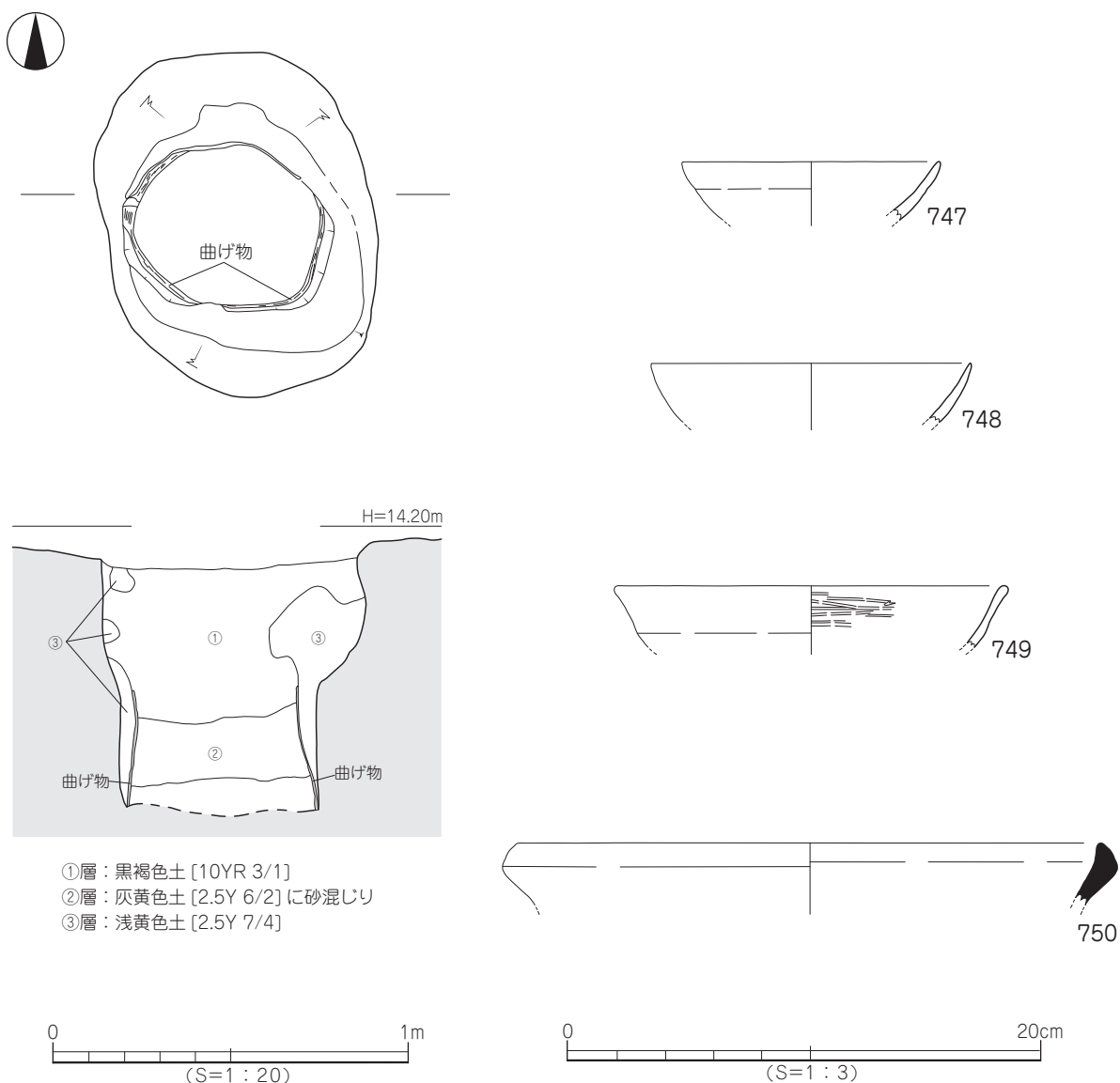
SE304 (第220図、図版22)

SE304は、調査区のZ6区に位置しSD306を切る。掘り方の平面形態は楕円形で、規模は長さ0.97m、幅0.74m、深さ0.77mを測る。断面形態は、逆台形状である。埋土は、①黒褐色土(10YR 3/1)、②灰黄色土(2.5Y 6/2)に砂混じり、③浅黄色土(2.5Y 7/4)である。井戸の構造は、井戸側は素掘りで、水溜は曲げ物を検出した。曲げ物は土圧により楕円形状に変形している。規模は、長径65cm、短径45cm、高さ33cmを測る。出土遺物には、土師器、須恵器の捏鉢、瓦器埴がある。

出土遺物(747～750)

747・748は土師器の坏。747は口縁部の小片。口縁端部は尖り気味である。748は口縁部の小片。口縁端部は先細りで尖り気味である。749は瓦器埴。口縁端部は丸い。750は東播系須恵器の捏鉢。口縁部の小片。口縁端部は上方に肥厚される。

時期：出土遺物から、鎌倉時代の井戸と考えられる。



第220図 SE304 測量図・出土遺物実測図

4) 溝

SD301 (第 221・222 図、図版 29)

SD301は、調査区のX10～A10区に位置する東西方向の溝で、SK310とカクランに切られる。規模は、検出長15.92m、幅0.70m、深さ0.20mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、①灰褐色土(7.5YR 5/2)、②にぶい褐色粘質土(7.5YR 6/3)、③灰褐色土(7.5YR 5/2)に砂混じり、④褐灰色粘質土(7.5YR 5/1)である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、須恵器、瓦質土器、陶磁器、砥石がある。

出土遺物 (751～760)

751～754は土師器。751は皿。体部は内湾し、口縁端部は先細りで丸い。底部はやや上げ底で、底部の切り離しは回転糸切りである。752は坏。底部は平底で、口縁部は直口し体部下部にナデにより段が見られる。753・754は土釜。753は口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。煤が付着する。754は三足付土釜の脚部。煤が付着する。755は和泉型瓦器塼。体部は内湾し、上部にナデにより段をもつ、口縁端部はナデにより丸い。756は瓦質土器の火鉢。直立する口縁部。外面は、2本の凸帯間に印花文を施す。757～759は陶磁器。757は亀山焼の甕。外反する口縁端部はナデにより、上下に拡張される。758は蓋。口縁部は屈曲して接地する。口縁端面は、内傾する面をもつ。759は青磁碗。逆台形状の高台を削り出す。760は砥石。扁平な手持ちの砥石か。

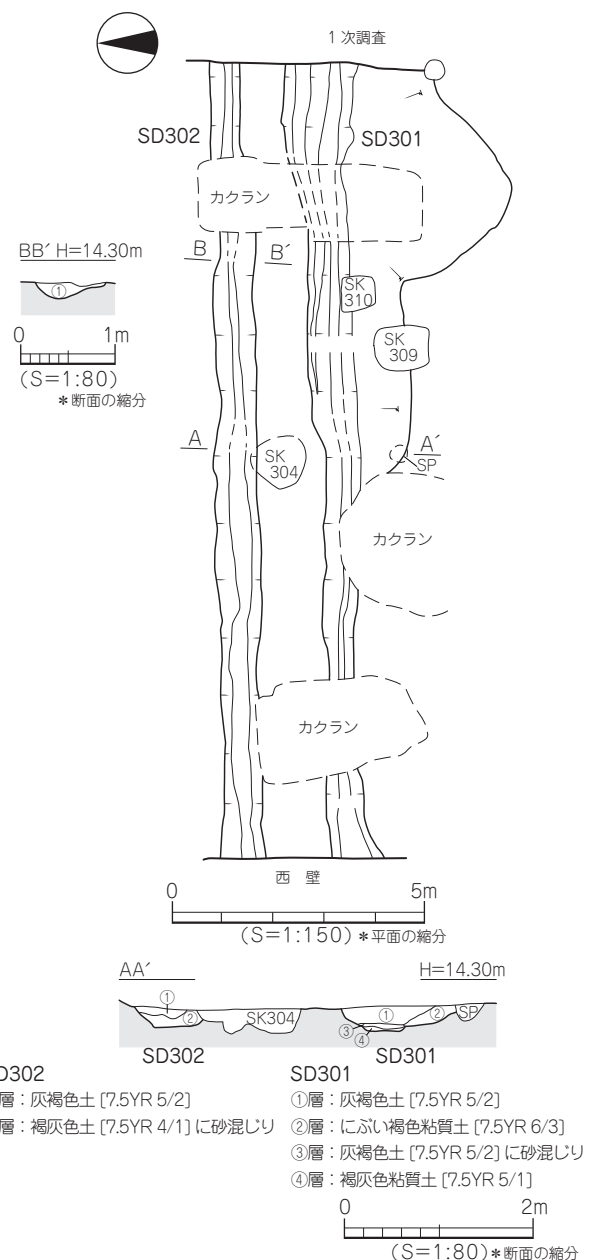
時期：出土遺物と形状からは、室町時代の集落を区画する溝と考えられる。1次調査SD11とSD9と同一遺構で南に折れ曲がる溝である。

SD302 (第 221・223 図)

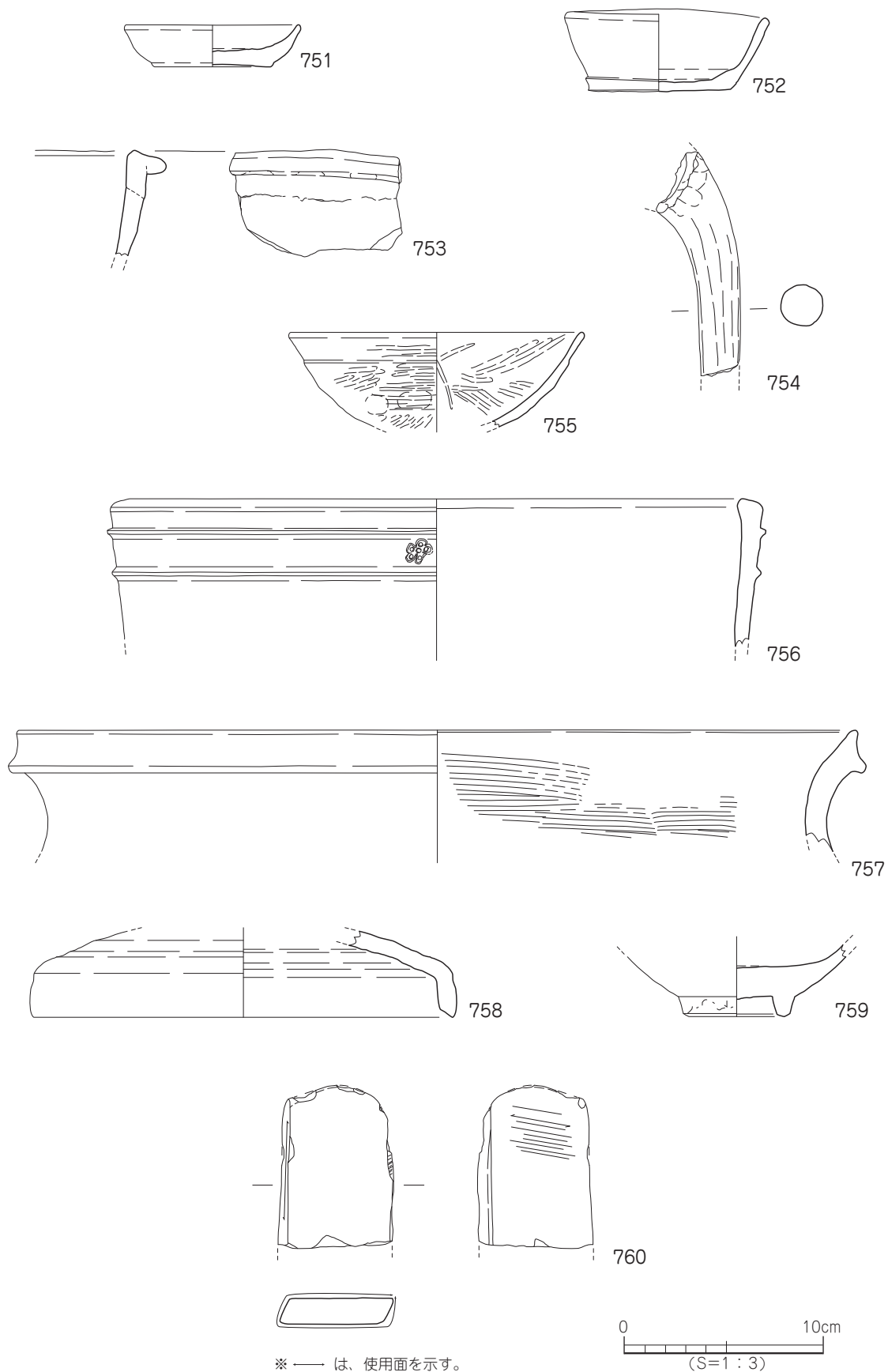
SD302は、調査区のX9～A9区に位置する東西方向の溝でカクランに切られる。規模は、検出長15.95m、幅0.91m、深さ0.25mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、①灰褐色土(7.5YR 5/2)、②褐灰色土(7.5YR 4/1)に砂混じり、である。出土遺物には、土師器の高坏・坏・三足釜・甌、須恵器、瓦質土器、敲石がある。

出土遺物 (761～772)

761～763は土師器。761は坏。底部の切り離しは回転糸切りである。体部は外傾し口縁端部は丸い。762は土釜。口縁端部外面に鏝を貼



第 221 図 SD301・302 測量図

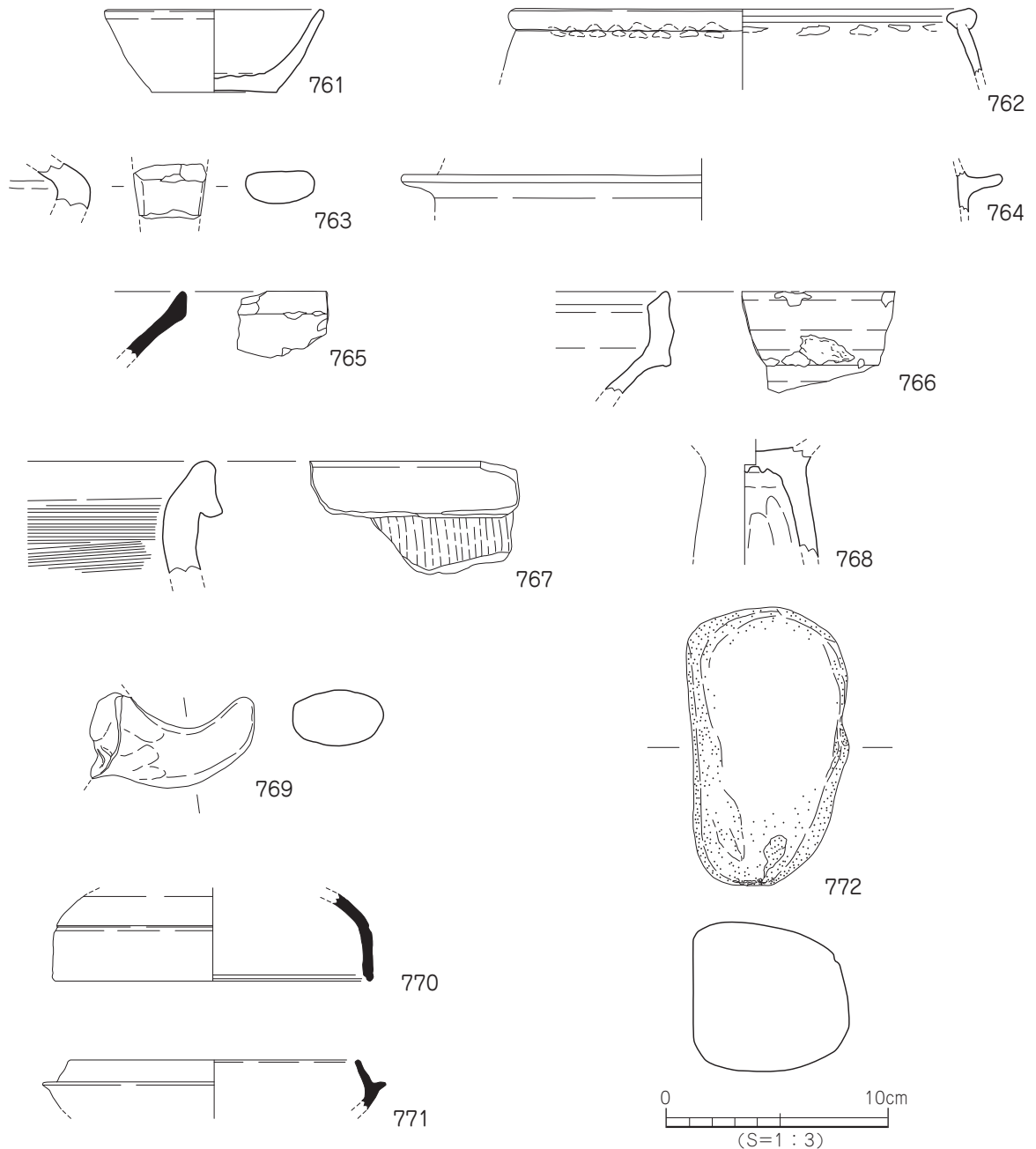


第 222 図 SD301 出土遺物実測図

遺構と遺物

り付け内外に拡張する。763は茶釜か鍋の把手部か。断面は楕円形である。764は瓦質土器の羽釜。水平に伸びる鏝の端部は丸い。765は東播系須恵器の捏鉢。口縁部小片。766・767は陶器。766は備前焼の播鉢。口縁部小片。口縁端面は内傾する面をもつ。767は亀山焼の大甕。口縁端部は肥厚され上下に拡張される。768・769は土師器。768は高坏基部。脚部内側の坏底部中央に貫通しない穿孔がある。769は甑。舌状の把手部。断面は楕円形である。770・771は須恵器。770は坏蓋。口縁部と天井部は凹線で分けられ、口縁部は直立して接地し端面は内傾し窪む。771は坏身。短く水平に伸びる受け部。たちあがりは内傾し端部は先細りである。772は敲石。石材は安山岩か。

**時期：**出土遺物形状からは、1次調査で確認した集落を区画する、室町時代の溝SD10とSD8につながるものと考えられる。



第 223 図 SD302 出土遺物実測図



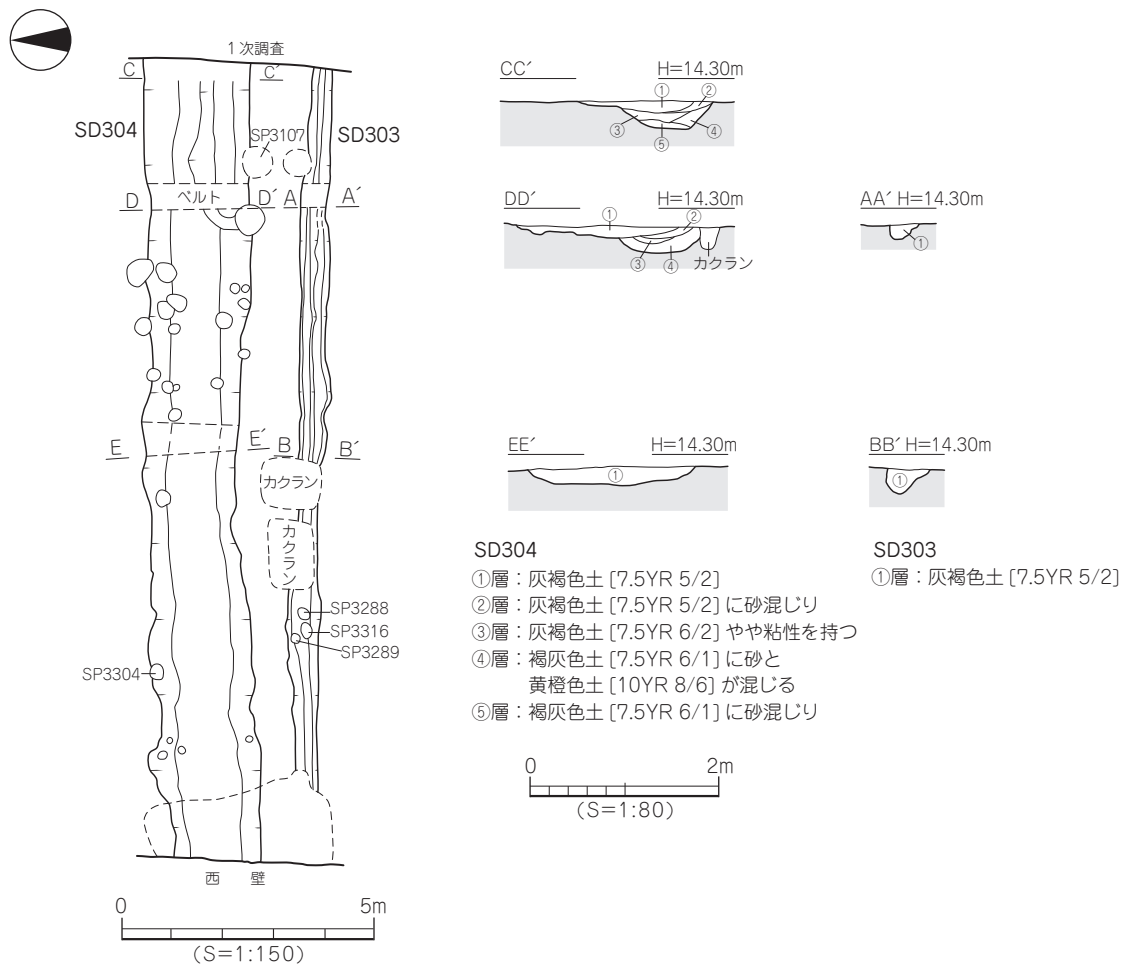
SD303 (第224・225図)

SD303は、調査区のX8～A8区に位置する東西方向の溝で、カクランに切られる。規模は、検出長14.43m、幅0.57m、深さ0.13mを測る。断面形態は、「U」字状である。埋土は、灰褐色土(7.5YR 5/2)である。出土遺物には、土師器の坏・皿、須恵器がある。

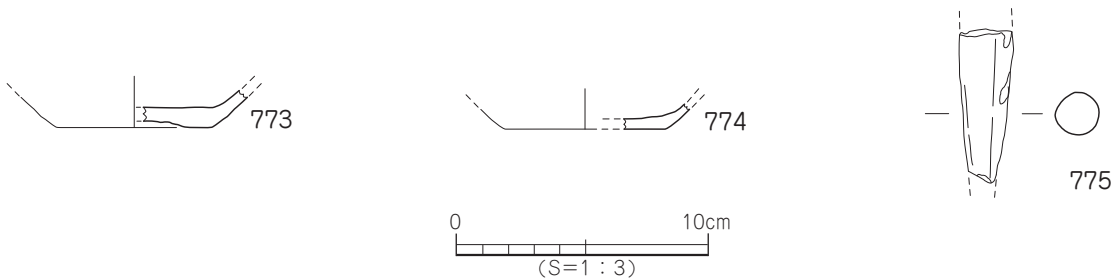
出土遺物(773～775)

773～775は土師器。773・774は皿。底部の切り離しは、回転糸切りである。773の底部には、板状圧痕が見られる。775は土釜。三足付土釜の脚部。

時期：出土遺物と形状からは、1次調査で確認した溝SD7につながるものと考えられる。



第224図 SD303・304 測量図



第225図 SD303 出土遺物実測図

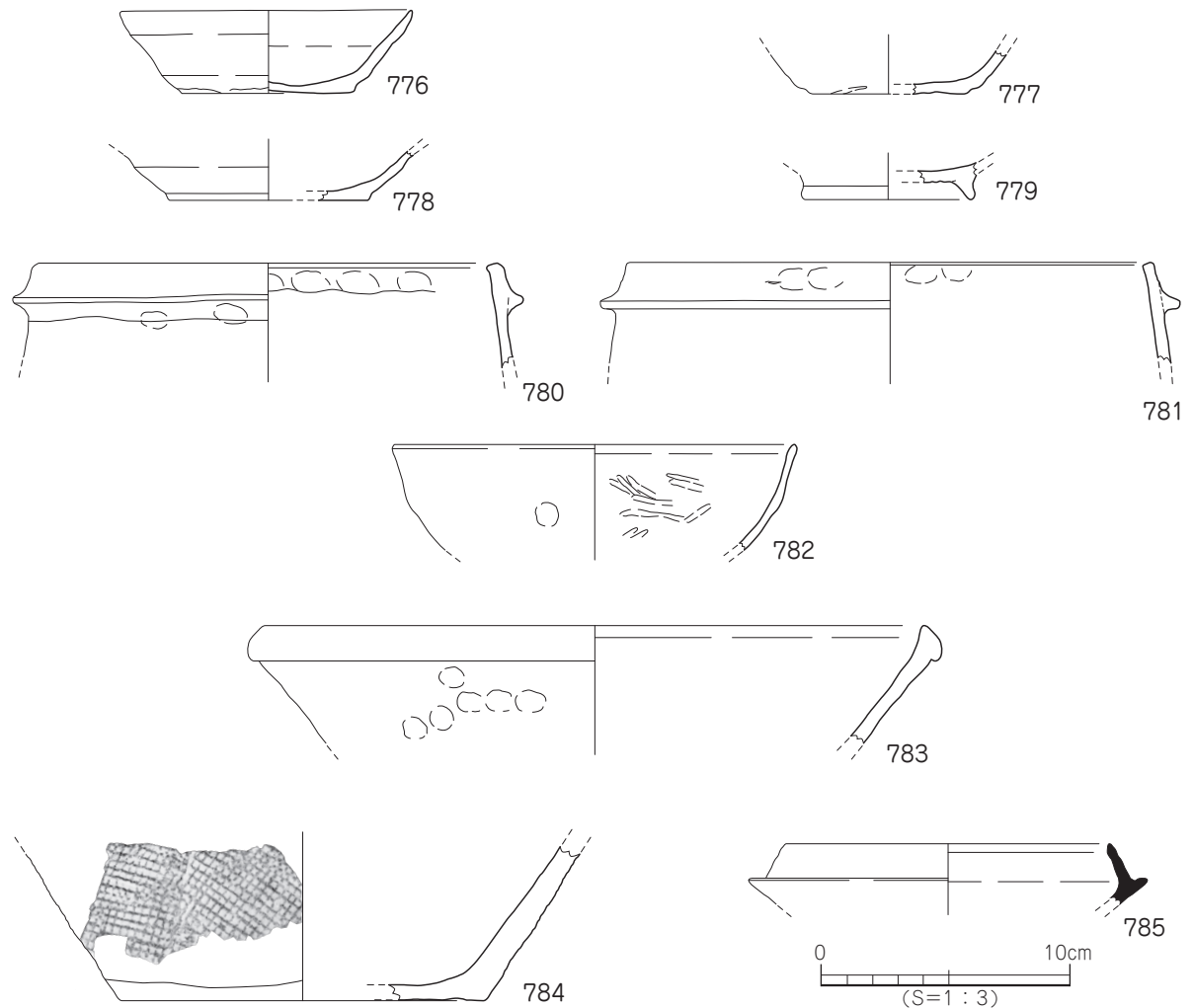
SD304 (第 224・226 図、図版 29)

SD304 は、調査区の X8 ～ A8 区に位置する東西方向の溝である。規模は、検出長 16.04 m、幅 2.05 m、深さ 0.18 ～ 0.34m を測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、①灰褐色土 (7.5YR 5/2)、②灰褐色土 (7.5YR 5/2) に砂混じり、③灰褐色土 (7.5YR 6/2) やや粘性を持つ、④褐灰色土 (7.5YR 6/1) に砂と黄橙色土 (10YR 8/6) が混じる、⑤褐灰色土 (7.5YR 6/1) に砂混じり、である。出土遺物には、土師器の坏・土釜、須恵器、瓦器埴、陶器の甕、石器素材がある。

出土遺物 (776 ～ 785)

776 ～ 781 は土師器。776 ～ 778 は坏。776 の体部は直立気味にたちあがり、口縁端部は先細りする。776 ～ 778 の底部の切り離しは、回転糸切りである。776・777 には板状圧痕が見られる。779 は埴。底部に、断面三角形形状の高台を貼り付ける。780・781 は土釜。口縁部外面下に、断面三角形形状の鏝を貼り付ける。煤が付着する。782 は和泉型瓦器埴。体部は内湾し、口縁端部は丸い。783 は瓦質土器の捏鉢。口縁端部は肥厚され、上下に拡張される。784 は亀山焼の陶器の甕。平底の底部。785 は須恵器の坏身。短く水平に伸びる受け部。たちあがり内傾し、口縁端部は先細りで内傾する面をもつ。

時期：出土遺物と形状から、1 次調査で確認した集落を区画する 14 世紀末～15 世紀前半の溝 SD6 につながり、1 区で南に折れ曲がるものと推定される。

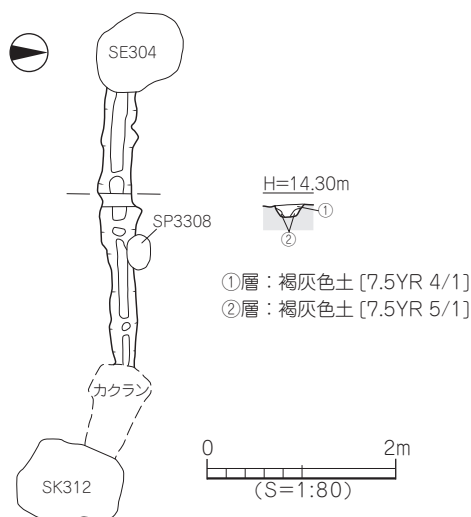


第 226 図 SD304 出土遺物実測図

SD306 (第227図)

SD306は、調査区のZ6区に位置する東西方向の溝で、SE304とSP3308、カクランに切られる。規模は、検出長2.92m、幅0.30m、深さ0.12mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、①褐灰色土(7.5YR 4/1)、②褐灰色土(7.5YR 5/1)である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜がある。実測可能な遺物はない。

時期:出土遺物から、中世の溝と考えられる。

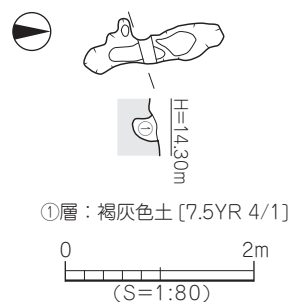


第227図 SD306測量図

SD307 (第228図)

SD307は、調査区のY6区に位置する南北方向の溝である。規模は、長さ1.53m、幅0.36m、深さ0.27mを測る。断面形態は、「U」字状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 4/1)である。出土遺物には、土師器の皿・坏、須恵器がある。実測可能な遺物はない。

時期:出土遺物から、中世の溝と考えられる。

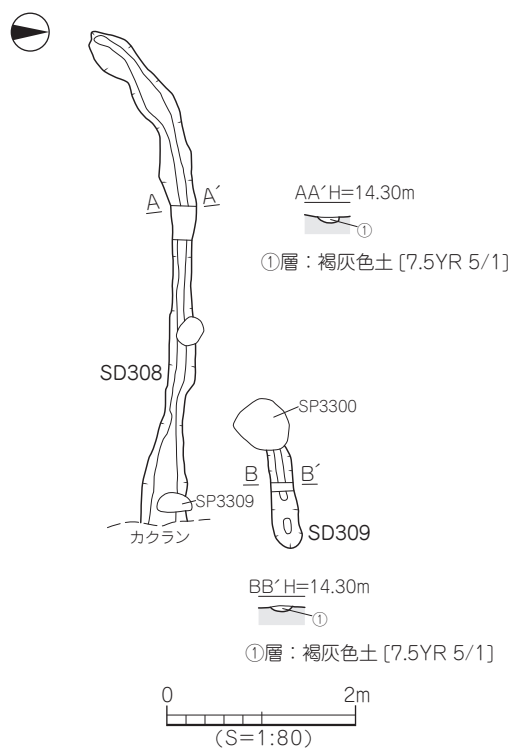


第228図 SD307測量図

SD308 (第229図)

SD308は、調査区のY・Z6区に位置する東西方向の溝で、SP3309とカクランに切られる。規模は、検出長5.25m、幅0.20～0.50m、深さ0.05mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は褐灰色土(7.5YR 5/1)である。出土遺物には、土師器の皿・坏、須恵器がある。実測可能な遺物はない。

時期:出土遺物から、中世の溝と考えられる。



第229図 SD308・309測量図

SD309 (第229図)

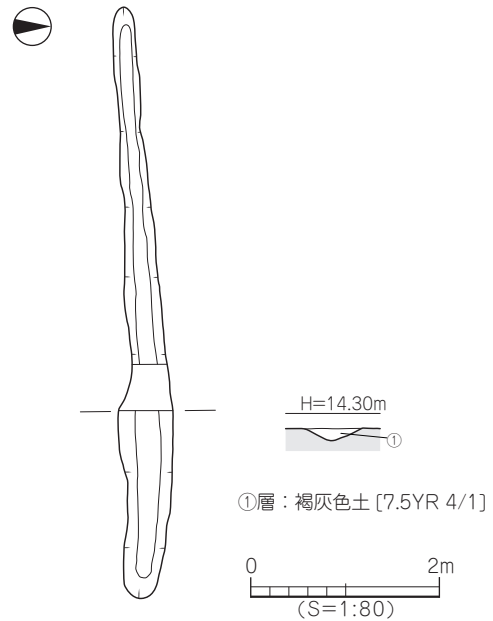
SD309は、調査区のZ6区に位置する東西方向の溝で、SP3300に切られる。規模は、検出長1.06m、幅0.25m、深さ0.05mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 5/1)である。出土遺物はない。

時期:埋土から、中世の溝と考えられる。

SD310 (第 230 図)

SD310 は、調査区の Y・Z9 区に位置する東西方向の溝である。規模は、検出長 6.26 m、幅 0.60 m、深さ 0.13m を測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土 (7.5YR 4/1) である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、須恵器がある。実測可能な遺物はない。

時期: 出土遺物から、中世の溝と考えられる。



第 230 図 SD310 測量図

5) 柱穴

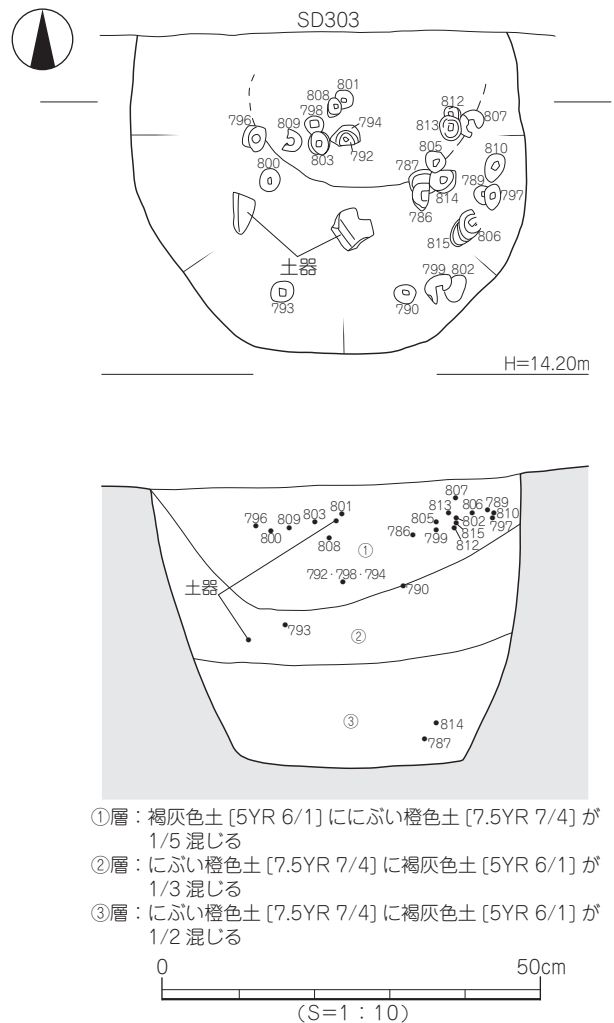
SP3276 (第 231・232 図、図版 22)

SP3276 は、調査区の Y8 区に位置する。北側は SD303 に切られる。平面形態は、円形で規模は径 0.52 m、深さ 0.38 m を測る。埋土は、① 褐灰色土 (5YR 6/1) ににぶい橙色土 (7.5YR 7/4) が 1/5 混じる、② にぶい橙色土 (7.5YR 7/4) に褐灰色土 (5YR 6/1) が 1/3 混じる、③ にぶい橙色土 (7.5YR 7/4) に褐灰色土 (5YR 6/1) が 1/2 混じる、である。出土遺物には、土師器と銅銭 31 枚がある。

出土遺物 (786 ~ 815)

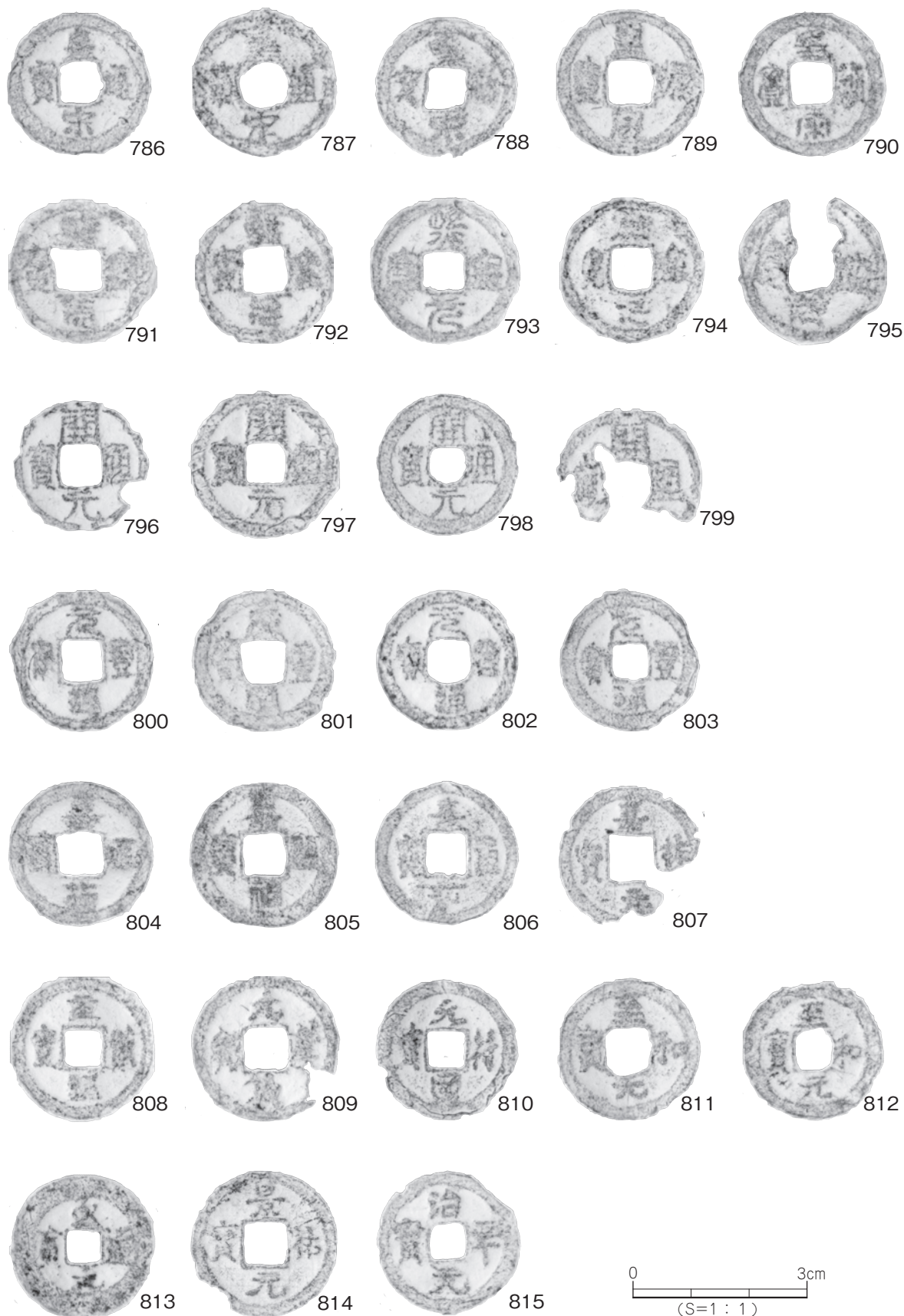
786 ~ 790 の 5 枚は「皇宋通寶」(こうそうつうほう)。791 ~ 795 の 5 枚は「熙寧元寶」(きねいげんぼう)。796 ~ 799 の 4 枚は「開元通寶」(かいげんつうほう)。800 ~ 803 の 4 枚は「元豊通寶」(げんぼうつうほう)。804 ~ 806 の 3 枚は「嘉祐通寶」(かゆうつうほう)。807 は「嘉祐元寶」(かゆうげんぼう)。808 ~ 810 の 3 枚は「元符通寶」(げんぶつうほう)。811・812 の 2 枚は「至和元寶」(しわげんぼう)。813 は「至道元寶」(しどうげんぼう)。814 は「景祐元寶」(けいゆうげんぼう)。815 は「治平元寶」(ちへいげんぼう) である。

時期: 出土遺物から、中世の墓と考えられる。



第 231 図 SP3276 測量図

南江戸上沖遺跡2次調査3区

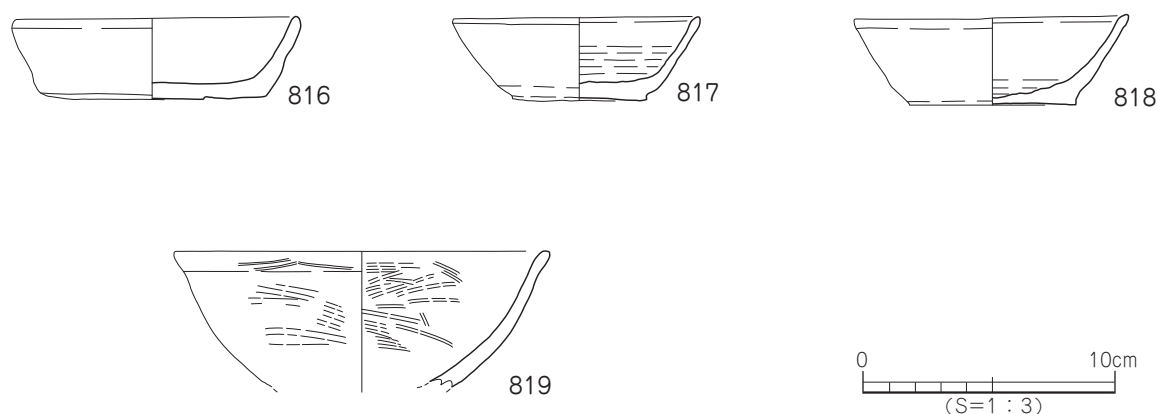


第232図 SP3276 出土銅銭拓本

## 6) グリッド出土遺物 (816～819) (第233図、図版29)

出土した坏3点(816～818)は、重機によりY9・10区の表土掘削作業中に出土した。周辺を精査したが掘り方は確認できなかった。遺構は浅い土壙墓であった可能性が考えられる。坏3点は完形品であり、土壙墓の副葬品と思われる。

816～819は土師器。816～818は坏。816は広い底部から直立気味にたちあがる体部。口縁端部は丸い。817は内湾気味にたちあがる体部。口縁端部は尖り気味である。底部の切り離しは静止糸切りである。818は内湾気味にたちあがる体部。口縁端部は尖り気味で歪みがある。819は内黒土器の碗。体部は内湾し、口縁部はわずかに外反する。黒斑が見られる。A11区出土。

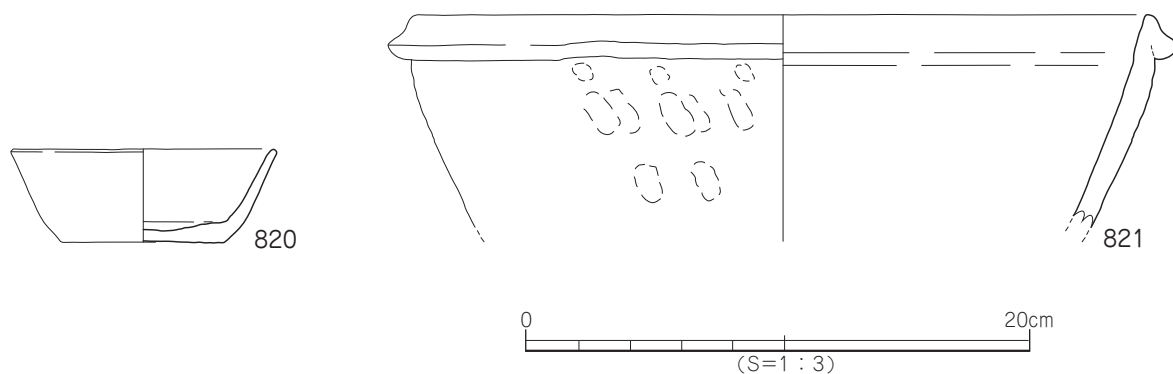


第233図 グリッド出土遺物実測図

## 7) 出土地点不明遺物

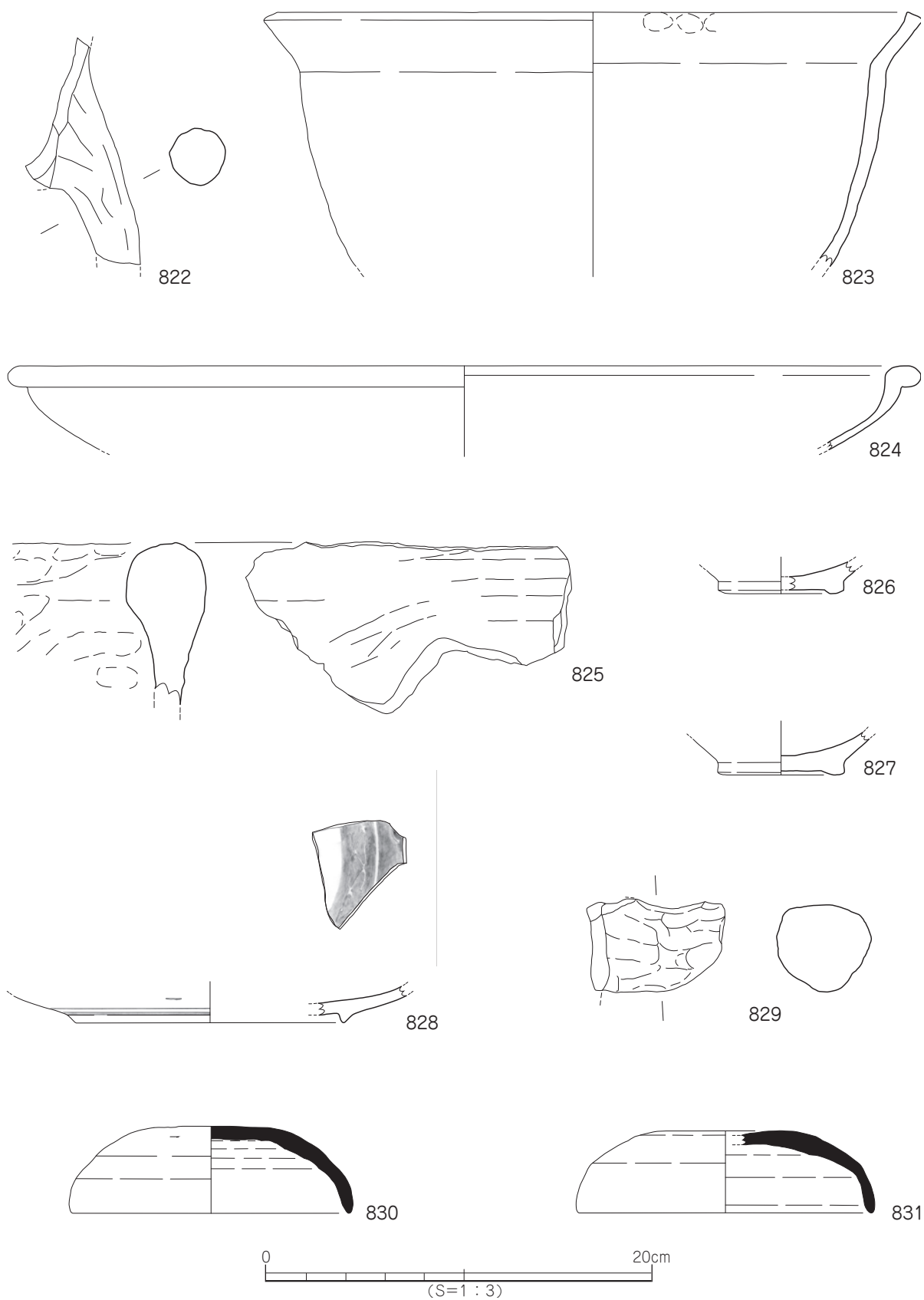
## 出土遺物 (820～831) (第234・235図、図版29)

820～825は土師器。820は坏。体部は直立気味にたちあがり、口縁端部は丸い。底部の切り離しは、回転糸切りである。821・822は土釜。821は口縁部片。口縁端部外面に、断面三角形状の鏝を貼り付ける。煤が付着する。822は三足付土釜の脚部。823は土鍋。体部は内湾し、口縁部は外反する。煤が付着する。内面に黒斑が見られる。824は焙烙鍋。体部は内湾し、口縁端部は短く水平に折り曲げられ丸い。825は移動式カマドの一部か。826～828は陶磁器。826・827は中国製白磁碗。削り出し高台。828は染付の皿。底部に断面三角形状の高台を削り出す。829は土師器の甑。把手部。断面は円形状である。830・831は須恵器の坏蓋。丸みをもつ天井部、天井部と口縁部を分ける稜は不明瞭である。



第234図 出土地点不明遺物実測図 (1)

南江戸上沖遺跡2次調査3区



第 235 図 出土地点不明遺物実測図 (2)

遺構一覧

遺構・遺物一覧 — 凡例 —

(1) 以下の表は、本調査地検出の遺構と出土遺物の計測値及び観察一覧である。

(2) 出土遺物観察表の各掲載について

法量欄 ( ): 推定復元値

調整欄 土製品の各部名称を略記した。

例) □→口縁部、⊕→天井部、⊖→底部

胎土・焼成欄 胎土欄では混和剤を略記した。

例) 石→石英、長→長石、金→金ウンモ、密→精製土。

( ) 中の数値は混和剤粒子の大きさを示す。

例) 石・長 (1~4) →「1mm~4mm 大の石英・長石を含む」である。

焼成欄の略記について。

◎→良好

表 146 3区土坑一覧

土坑 (SK)	地区	平面形	断面形	規模 長径×短径×深さ (m)	埋土	出土遺物	時期	備考
301	Y・Z10	楕円形	レンズ状	1.11 × 1.50 × 0.13	褐灰色土 (10YR 5/1) 砂混り	土師器 須恵器	中世	
302	X11	円形	逆台形状	(0.72) × 0.72 × 0.17	褐灰色土 (75YR 4/1)	土師器	中世	西側は調査 区外につづ く。
303	X10	楕円形	レンズ状	0.88 × 0.58 × 0.10	褐灰色土 (75YR 4/1)	土師器	中世	SP を切る。
304	Z9	円形	皿状	0.92 × 0.92 × 0.25	褐灰色土 (75YR 4/1)	土師器 須恵器	中世	
欠番 305								
欠番 306								
欠番 307 → SE303 変更								
欠番 308								

表 147 3区土壙墓一覧

土壙墓 (SK)	地区	平面形	断面形	規模 長径×短径×深さ (m)	埋土	出土遺物	時期	備考
309	Z10	方形	箱状	0.93 × 0.86 × 0.34	①黒褐色土 (75YR 3/1) ②黄褐色土 (25YR 5/3)	土師器 須恵器 陶磁器 木棺・人骨	16 世紀末 ~ 17 世紀前半	SD301 を切 る。 墨書土器。
310	Z10	方形	箱状	0.71 × 0.66 × 0.09		土師器 木棺 人骨 鉄	16 世紀末 ~ 17 世紀前半	SD301 を切 る。
311	X10	円形	箱状	0.90 × 0.90 × 0.29		土師器 須恵器 鉄釘 人骨	16 世紀末 ~ 17 世紀前半	
312	Z・A5・6	楕円形	箱状	1.12 × 0.71 × 0.08		土師器 須恵器 瓦器 人骨	16 世紀末 ~ 17 世紀前半	
313	Z6	方形	箱状	1.13 × 0.80 × 0.10		土師器 須恵器 人骨	16 世紀末 ~ 17 世紀前半	SP3322、 カクランに 切られる。



南江戸上沖遺跡2次調査3区

表 148 3区井戸一覧

井戸 (SE)	地区	平面形	断面形	規模 長径×短径×深さ (m)	埋土	出土遺物	時期	備考
301	A11	楕円形	逆台形状	1.30 × 0.78 × 0.76	①にぶい橙色土 (5YR 7/4) ②褐灰色土 (5YR 4/1) ③褐灰色土 (10YR 4/1) 砂混じり	土師器 石製品 曲げ物	鎌倉時代	SP3001に 切られる。
302	Y・Z7	円形	逆台形状	1.00 × 0.90 × 0.86	①褐灰色土 (5YR 4/1) に 浅黄橙色 (10YR 8/4) ブロック が混じり ②褐灰色土 (10YR 4/1) に 浅黄橙色 (10YR 8/4) ブロック が混じり ③褐灰色土 (10YR 4/1) に 黄灰色砂 (2.5Y 4/1) が混じ り	土師器 須恵器 石製品 曲げ物	鎌倉時代	
303	Y8	円形	逆台形状	1.22 × 1.11 × 0.64	褐灰色土 (10YR 4/1)	土師器 須恵器 陶器 曲げ物	鎌倉時代	(SK307) 変更。 三段構造
304	Z6	楕円形	逆台形状	0.97 × 0.74 × 0.77	①黒褐色土 (10YR 3/1) ②灰黄色土 (2.5Y 6/2) 砂混じり ③浅黄色土 (2.5Y 7/4)	土師器 須恵器 瓦器 曲げ物	鎌倉時代	SD306を切る。 曲げ物は土圧に より楕円形に 変形。

表 149 3区溝一覧

溝 (SD)	地区	方向	断面形	規模 長さ×幅×深さ (m)	埋土	出土遺物	時期	備考
301	X10 ~ A10	東西	レンズ状	(15.92) × 0.70 × 0.20	①灰褐色土 (7.5YR 5/2) ②にぶい褐色粘質土 (7.5YR 6/3) ③灰褐色土 (7.5YR 5/2) 砂混じり ④褐灰色粘質土 (7.5YR 5/1)	土師器 須恵器 瓦質土器 陶磁器 石製品	室町時代	SK310、カクラン に切られる。1次 SD9・11と同一。 南に折れ曲がる。 区画溝。
302	X9 ~ A9	東西	レンズ状	(15.95) × 0.91 × 0.25	①灰褐色土 (7.5YR 5/2) ②褐灰色土 (7.5YR 4/1) 砂混じり	土師器 須恵器 瓦質土器 石製品	室町時代	カクランに切 られる。 1次SD10・8 につづく。 区画溝。
303	X8 ~ A8	東西	「U」字状	(14.43) × 0.57 × 0.13	灰褐色土 (7.5YR 5/2)	土師器 須恵器	室町時代	カクランに切 られる。 1次SD7に つづく。 区画溝。
304	X8 ~ A8	東西	レンズ状	(16.04) × 2.05 × 0.18 ~ 0.34	①灰褐色土 (7.5YR 5/2) ②灰褐色土 (7.5YR 5/2) 砂混じり ③灰褐色土 (7.5YR 6/1) やや粘性 ④褐灰色土 (7.5YR 6/1) に 砂と黄橙色土 (10YR 8/6) が混じる ⑤褐灰色土 (7.5YR 6/1) 砂混じり	土師器 須恵器 瓦器 陶器 石製品	14世紀末 ~ 15世紀前半	1次SD6に つづく。
欠番								
306	Z6	東西	レンズ状	(2.92) × 0.30 × 0.12	①褐灰色土 (7.5YR 4/1) ②褐灰色土 (7.5YR 5/1)	土師器	中世	SE304、SP3308、 カクランに 切られる。
307	Y6	南北	「U」字状	1.53 × 0.36 × 0.27	褐灰色土 (7.5YR 4/1)	土師器 須恵器	中世	
308	Y・Z6	東西	レンズ状	(5.25) × 0.20 ~ 0.50 × 0.05	褐灰色土 (7.5YR 5/1)	土師器 須恵器	中世	SP3309、 カクランに 切られる。
309	Z6	東西	レンズ状	(1.06) × 0.25 × 0.05	褐灰色土 (7.5YR 5/1)	なし	中世	SP3300に 切られる。
310	Y・Z9	東西	レンズ状	6.26 × 0.60 × 0.13	褐灰色土 (7.5YR 4/1)	土師器 須恵器	中世	

出土遺物一覧

表 150 SK309 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
729	坏	口径 9.2 底径 7.8 器高 4.1	平底。ほぼ直口で口縁端部は丸みをもつ。体部に、「十二月廿八日」の墨書が認められる。	㊸ヨコナデ 底部周にはケズリ風の強いヨコナデにより後が認められる ㊹回転ヘラ切り痕	㊸ヨコナデ ㊹ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長(1~2) ◎		29
730	坏	口径 9.7 底径 7.8 器高 3.5	平底。ほぼ直口で口縁端部は丸みをもつ。やや歪みあり。体部に、「十二月十二日」の墨書が認められる。	㊸ヨコナデ 底部周にはケズリ風の強いヨコナデにより後が認められる ㊹回転ヘラ切り痕	㊸ヨコナデ ㊹ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長(1~2) ◎		29
731	土釜	残高 6.8	三足付土釜の脚部。釜底部との接合部に釜の内面が残る。	ナデ	ハケ(7~8/cm) (10~12/cm)	灰褐色 にぶい褐色	石・長(1~2) ◎	煤付着	

表 151 SK310 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
732	坏	口径 9.7 底径 6.5 器高 4.2	平底。ほぼ直口で口縁端部は丸みをもつ。	㊸ヨコナデ 底部周にはケズリ風の強いヨコナデにより後が認められる ㊹回転ヘラ切り痕	㊸ヨコナデ ㊹ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長(1~2) ◎	金	29
733	坏	口径 9.8 底径 6.5 器高 4.2	平底。ほぼ直口で口縁端部は丸みをもつ。	㊸ヨコナデ 底部周にはケズリ風の強いヨコナデにより後が認められる ㊹回転ヘラ切り痕	㊸ヨコナデ ㊹ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長(1~4) ◎	金	29

表 152 SK311 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
734	坏	口径 9.5 底径 7.6 器高 3.5	平底。ほぼ直口で口縁端部は丸みをもつ。底部外面に直線状の2本の線刻がある。	㊸ヨコナデ ㊹マメツ ㊺回転ヘラ切り痕→ナデ	㊸ヨコナデ ㊹マメツ	浅黄橙色 浅黄橙色	密・白色粒 ◎		29

表 153 SK311 出土遺物観察表（金属製品）

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
735	釘		鉄	2.5	0.8~1.0	0.6~0.8	1.06		
736	釘		鉄	3.5	0.1~0.77	0.1~1.1	1.61		

表 154 SE301 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
737	埴	口径 (14.0) 残高 2.7	口縁部の小片。口縁端部は、先細りで丸い。瓦器。	ナデ 指頭痕	ミガキ	灰色 灰色	密 ◎		
738	埴	底径 (7.8) 器高 4.6	逆台形状の高台を貼り付ける。内湾する体部。内黒土器。	ナデ ミガキ	ミガキ	灰黄色 黒色	石・長(1~2) ◎		
739	土釜	残高 7.6	三足付土釜の脚部。	ナデ		灰黄褐色	石・長(1~3) ◎		
740	土鍋	口径 (42.4) 残高 6.0	口縁部は短く外反する。口縁端部は、丸みをもつ。	ナデ ハケ	ハケ(6本/cm)	暗褐色 にぶい褐色	石・長(1~3) ◎	金 煤付着	

表 155 SE302 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
741	皿	底径 (6.4) 残高 1.1	底部の小片。	マメツ	マメツ	灰白色 褐灰色	長(1) ◎	金 下層	

南江戸上沖遺跡2次調査3区

表 156 SE302 出土遺物観察表 (石製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
742	砥石		流紋岩	(7.5)	3.6~6.3	1.8~4.4	206.02	細い金属を磨いた痕跡。下層。	

表 157 SE303 (SK307) 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
743	坏	口径 (12.4) 残高 2.9	口縁部の小片。口縁端部は、尖り気味である。	マメツ	マメツ	にぶい橙色 浅黄橙色	長 (1) ◎		
744	坏	底径 (6.4) 残高 2.9	内湾する体部。底部の切り離しは、回転糸切りである。	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎	上層	
745	壺	底径 (10.9) 残高 4.8	平底の底部に目跡が残る。	施釉	回転ナデ	(釉) 灰オリーブ色 灰白色	密 ◎		29
746	坏身	口径 (13.8) 残高 3.5	水平に伸びる受け部に、たちあがりは、直立し端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎	上層	

表 158 SE304 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
747	坏	口径 (10.9) 残高 2.5	口縁部の小片。端部は尖り気味である。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	密 金 ◎		
748	坏	口径 (13.5) 残高 2.5	口縁部の小片。端部は先細りで尖り気味である。	ナデ	ナデ	灰色 黄灰色	長 (1) 金 ◎		
749	碗	口径 (16.5) 残高 2.6	口縁部の小片。端部は丸い。瓦器。	ナデ	ミガキ	灰色 灰色	密 ◎		
750	捏鉢	口径 (24.6) 残高 2.6	口縁部の小片。端部は上方に肥厚される。東播系。13世紀。	ヨコナデ	ヨコナデ	黄灰色 灰色	長 (1) ◎		

表 159 SD301 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
751	皿	口径 8.6 底径 5.8 器高 2.1	やや上げ底。底部の切り離しは、回転糸切りである。体部は内湾し、口縁端部は先細りで丸い。	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	密 ◎	Z9-10 区	
752	坏	口径 (9.8) 底径 7.2 器高 3.7	直口する口縁部。体部下部にナデによる段が見られる。底部は平底。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	密 ◎	Z9 区	29
753	土釜	残高 5.3	口縁端部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	煤で不明	ナデ	褐灰色 にぶい黄橙色	石・長 (1~3) ◎	A9 区 上層 煤付着	
754	土釜	残高 11.3	三足付土釜の脚部。	ナデ		にぶい橙色	白色粒 ◎	Z9 区 上層 煤付着	
755	碗	口径 (14.6) 残高 4.8	内湾する体部。体部上位にナデにより段をもつ。口縁端部はナデにより丸い。和泉型瓦器碗。	ナデ→ミガキ 指頭痕	ナデ→ミガキ	灰色 灰色	密 ◎	A10 区	
756	火鉢	口径 (30.6) 残高 7.4	直立する口縁部。外面に2本の凸帯。凸帯間に印花文を施す。瓦質土器。	ヨコナデ ナデ	ナデ	(胎) 灰白色 (釉) 灰色	密 ◎	A9 区 上層	
757	甕	口径 (42.0) 残高 6.1	外反する口縁端部は、ナデにより上下に拡張される。亀山焼。	ナデ ヨコナデ	ヨコナデ ハケ (4本/cm)	(胎) にぶい橙色 (釉) 褐灰色	白色粒 ◎	A9 区	
758	蓋	口径 (21.0) 残高 4.3	口縁部は屈曲して接地する。口縁端面は内傾する面をもつ。	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色 にぶい赤褐色	密 ◎		
759	碗	底径 5.4 器高 3.6	削り出し高台。高台は逆台形状である。青磁。	施釉	施釉	(胎) 灰色 (釉) 明オリーブ灰色	密 △	A10 区 上層	29

出土遺物一覧

表 160 SD301 出土遺物観察表 (石製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
760	砥石			(8.2)	5.8	1.4	102.54	A9区	

表 161 SD302 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
761	坏	口径 (9.8) 底径 5.6 器高 3.8	わずかに上げ底の底部。外傾する体部の口縁部は丸い。底部の切り離しは、回転糸切りである。	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	密 ◎	Z9区 上層	
762	土釜	口径 (20.8) 残高 3.0	口縁端部外面に鈔を貼り付け、内外に拡張する。	ヨコナデ 爪痕状の工具痕	ヨコナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長 (1~2) ◎	Y9区 上層	
763	茶釜か鍋 (把手)	幅 3.3 厚さ 1.5 残高 2.0	断面は楕円形である。	ナデ		灰色	石・長 (1~3) ◎	Y9区 下層 外面に黒斑	
764	羽釜	鈔径 (27.0) 残高 1.8	水平に伸びる鈔部。端部は丸い。瓦質土器。	ヨコナデ	ナデ	褐灰色 褐灰色	白色粒 ◎	Z9区 上層	
765	捏鉢	残高 3.0	口縁部の小片。端部はナデにより上方に伸びる。東播系須恵器。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	Z9区 上層	
766	播鉢	残高 4.6	口縁部は直立し、口縁端面は内傾する面をもつ。備前焼。	回転ナデ	回転ナデ	赤灰色 灰赤色	密 ◎	Z9区 上層	
767	甕	残高 5.1	亀山焼の大型甕。口縁端部は肥厚され、上下に拡張される。	ヨコナデ ハケ (3~4本/cm)	ヨコナデ カキ目 (3~4本/cm)	黄灰色 暗灰黄色	白色粒 (1~2) ◎	A9区 下層	
768	高坏	残高 5.0	基部。脚部内側の中央に、貫通しない穿孔あり。	マメツ	ナデ	灰白色 橙色	白色粒 ◎	Z9区 上層	
769	甌	残高 4.3	舌状の把手部。断面は楕円形状である。	ナデ		にぶい橙色	石・長 (1~2) ◎	Z9区 上層	
770	坏蓋	口径 (14.2) 残高 3.9	口縁部と天井部の境は、凹線で分けられる。口縁部は直立して接地し、端面は内傾し窪む。	回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	Z9区 下層	
771	坏身	口径 (13.0) 残高 2.2	短く水平に伸びる受け部。たちあがりには内傾し、端部は先細りである。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	白色粒 ◎	Y9区 上層	

表 162 SD302 出土遺物観察表 (石製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
772	敲石	完形	安山岩	12.6	7.2	6.7	1022.39		

表 163 SD303 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
773	皿	底径 (6.2) 残高 1.5	底部の切り離しは、回転糸切りである。板状圧痕あり。	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎	Z8区 下層	
774	皿	底径 (6.4) 残高 1.0	底部の切り離しは、回転糸切りである。	マメツ	ナデ	灰白色 灰白色	長 (1) ◎	Y8区 上層	
775	土釜	残高 6.1	三足付土釜の脚部。	ナデ		にぶい褐色	長 (1) 金 ◎	Z8区 上層	

南江戸上沖遺跡2次調査3区

表 164 SD304 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
776	坏	口径 (11.6) 底径 7.0 器高 3.3	体部は直立気味にたちあがり、口縁部は先細りする。底部の切り離しは、回転糸切りである。板状圧痕あり。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	密 ◎	A8区 下層	29
777	坏	底径 (6.1) 残高 1.8	底部の切り離しは、回転糸切りである。板状圧痕あり。	工具によるヨコ ナデ	ヨコナデ ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎	X8区 上層	
778	坏	底径 (8.0) 残高 2.0	底部の切り離しは、回転糸切りである。	ヨコナデ	マメツ	灰白色 灰白色	密 ◎	A8区 上層	
779	埴	底径 (6.6) 残高 1.5	底部に、断面三角形の高台を貼り付ける。	ヨコナデ	マメツ	灰白色 灰白色	密 ◎	Z8区 上層	
780	土釜	口径 (16.0) 残高 4.2	口縁外部に、断面三角形の鋳を貼り付ける。	ヨコナデ ナデ	ナデ	明褐色 にぶい橙色	長 (1) ◎	A8区 下層 炭煤附着	
781	土釜	口径 (20.8) 残高 4.0	口縁外部に、断面三角形の鋳を貼り付ける。	ナデ	ナデ	褐色 にぶい褐色	石・長 (1~2) ◎	A8区 下層 炭煤附着	
782	埴	口径 (16.0) 残高 4.2	体部は内湾し、口縁部は丸い。和泉型瓦器埴。12~13世紀。	ナデ 指頭痕	ミガキ	灰色 灰色	密 ◎	X8区 上層	
783	捏鉢	口径 (26.4) 残高 4.7	口縁部は肥厚され、上下に拡張される。瓦質土器。	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ	灰色 灰色	密 ◎	A8区 下層	
784	甕	底径 (14.6) 残高 6.2	底部は平底。亀山焼。	格子タタキ ナデ	ナデ	灰黄褐色 灰白色	長 (1) ◎	A8区 上層	
785	坏身	口径 (12.8) 残高 2.5	短く水平に伸びる受け部。たちあがりには内傾し、口縁部は先細りで、内傾する面をもつ。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	Z8区 上層	

表 165 SP3276 出土遺物観察表 (金属製品)

(1)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				径 (cm)	孔寸 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
786	古銭「皇宋通寶」	完形	銅	2.5	0.7	0.11	2.22	第4代皇帝・ 仁宗の1039年に 発行。	
787	古銭「皇宋通寶」	完形	銅	2.5	0.6	0.16	2.98		
788	古銭「皇宋通寶」	完形	銅	2.3	0.6	0.12	2.86		
789	古銭「皇宋通寶」	完形	銅	2.5	0.6	0.11	3.04		
790	古銭「皇宋通寶」	完形	銅	2.4	0.8	0.11	2.04		
791	古銭「熙寧元寶」	完形	銅	2.4	0.7	0.13	1.67	北宋6代皇帝・ 神宗の熙寧年間 (1068年~ 1077年)に 鑄造。	
792	古銭「熙寧元寶」	完形	銅	2.4	0.7	0.10	1.82		
793	古銭「熙寧元寶」	完形	銅	2.5	0.6	0.13	2.47		
794	古銭「熙寧元寶」	完形	銅	2.5	0.6	0.14	2.95		
795	古銭「熙寧元寶」	4/5	銅	2.5	0.6	0.11	1.86		

出土遺物一覧

SP3276 出土遺物観察表 (金属製品)

(2)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				径 (cm)	孔径 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
796	古銭「開元通寶」	ほぼ完形	銅	2.2	0.6	0.12	1.68	唐代において 武徳4年(621年) 初鑄。	
797	古銭「開元通寶」	完形	銅	2.5	0.6	0.15	3.20		
798	古銭「開元通寶」	完形	銅	2.4	0.6	0.14	2.89		
799	古銭「開元通寶」	2/3	銅	2.4	0.6	0.10	1.46		
800	古銭「元豊通寶」	完形	銅	2.4	0.7	0.16	2.55	北宋元豊年間 (1078年~1085年) 鑄造。	
801	古銭「元豊通寶」	完形	銅	2.4	0.6	0.16	2.89		
802	古銭「元豊通寶」	完形	銅	2.3	0.6	0.13	1.89		
803	古銭「元豊通寶」	完形	銅	2.3	0.5	0.11	2.11		
804	古銭「嘉祐通寶」	完形	銅	2.4	0.7	0.14	2.10	北宋 1056年~	
805	古銭「嘉祐通寶」	完形	銅	2.5	0.7	0.11	1.82		
806	古銭「嘉祐通寶」	完形	銅	2.4	0.7	0.13	3.51		
807	古銭「嘉祐元寶」	2/3	銅	2.3	0.7	0.10	1.51		
808	古銭「元符通寶」	完形	銅	2.4	0.6	0.15	3.01	北宋 1098年~	
809	古銭「元符通寶」	完形	銅	2.4	0.7	0.12	2.69		
810	古銭「元符通寶」	完形	銅	2.4	0.6	0.12	1.80		
811	古銭「至和元寶」	完形	銅	2.4	0.7	0.13	2.57	北宋 1054年~	
812	古銭「至和元寶」	完形	銅	2.3	0.6	0.13	2.09		
813	古銭「至道元寶」	完形	銅	2.4	0.6	0.12	2.82	北宋 995年~	
814	古銭「景祐元寶」	完形	銅	2.4	0.6	0.10	1.93		
815	古銭「治平元寶」	完形	銅	2.4	0.6	0.13	3.07	北宋 1064年~	

南江戸上沖遺跡2次調査3区

表 166 グリッド出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
816	坏	口径 11.2 底径 9.2 器高 3.3	広い底部から直立気味にたちあがる体部。口縁部は丸い。完形品。	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	密 ◎	Y9・10区	29
817	坏	口径 9.8 底径 5.3 器高 3.3	内湾気味にたちあがる体部、口縁部は尖り気味である。底部の切り離しは、静止糸切りである。ほぼ完形品。	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	密 ◎	Y9・10区	29
818	坏	口径 10.9 底径 6.6 器高 3.3	内湾気味にたちあがる体部。口縁部は尖り気味である。ほぼ完形品。	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙色 灰白色	密 ◎	Y9・10区	29
819	埴	口径 (14.9) 残高 5.4	体部は内湾し、口縁部はわずかに外反する。内黒土器。	ミガキ	ミガキ	淡黄色 黒色	石・長(1~3) ◎	金 A11区 黒斑	

表 167 出土地点不明遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
820	坏	口径 (10.3) 底径 6.4 器高 3.7	体部は直立気味にたちあがり、口縁部は丸い。底部の切り離しは、回転糸切りである。	ヨコナデ	ヨコナデ	橙色 浅黄橙色	石・長(1~2) ◎		
821	土釜	口径 (29.3) 残高 8.4	口縁部外面に、断面三角形の鍔を貼り付ける。	ナデ	工具によるナデ	黒褐色 にぶい赤褐色	石・長(1~2) ◎	煤附着	
822	土釜	残高 10.7	三足付土釜の脚部。	ナデ		にぶい赤褐色	石・長(1~3) ◎		
823	土鍋	口径 (32.6) 残高 13.2	体部は内湾し、口縁部は外反する。	ナデ	工具による ヨコナデ	黒色 暗灰色	石・長(1~3) ◎	煤附着 内面に黒斑	
824	焙烙鍋	口径 (47.2) 残高 4.3	体部は内湾し、口縁部は短く水平に折り曲げ丸い。	ヨコナデ	ヨコナデ	黒褐色 にぶい黄橙色	石・長(1~2) ◎	金	
825	カマド	残高 9.9	移動式カマドの一部。	ナデ	ナデ	灰白色 にぶい橙色	石・長(1~4) ◎		
826	碗	底径 (6.5) 残高 1.6	削り出し高台。中国製白磁。	施釉	施釉	(胎) 灰白色 (釉) 灰白色	密 ◎		29
827	碗	底径 (6.5) 残高 2.2	削り出し高台。中国製白磁。	回転ナデ	施釉	(胎) 灰白色 (釉) 灰白色	密 ◎		29
828	皿	底径 (14.0) 残高 1.9	底部に断面三角形の高台を、削り出す。呉須。	施釉	施釉	(胎) 灰色 (釉) 透明	密 ◎		
829	甌	残高 4.8	甌の把手。断面は円形状である。	指頭痕		にぶい黄橙色	石・長(1~3) ◎		
830	坏蓋	口径 (14.3) 器高 4.5	丸みをもつ天井部。天井部と口縁部を分ける稜は、不明瞭である。	◎回転ヘラケズリ ◎回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	長(1~2) 密 ◎		
831	坏蓋	口径 (15.2) 器高 4.2	丸みをもつ天井部。天井部と口縁部を分ける稜は、不明瞭である。	◎回転ヘラケズリ ◎回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	長(1~2) 密 ◎		

## 5. 4区の調査 (第238図、図版23)

4区は、1次調査区の南に位置し、南北5～12m、東西41mを測る長形状の調査区である。4区では、中世の遺構や遺物を検出した。検出遺構は、溝13条、土坑8基、井戸3基、柱穴309基である。出土遺物は土師器(中世)、須恵器(中世)、陶磁器(中世)、石器、井戸杵(木製品)がある。

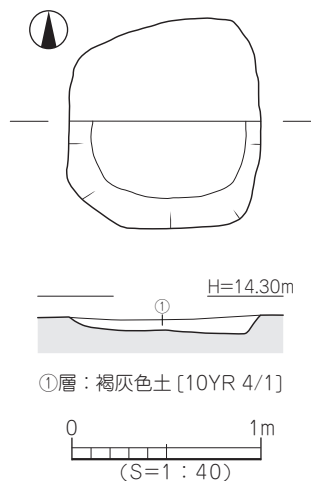
### (1) 中世

#### 1) 土坑

##### SK401 (第236図)

SK401は、調査区のC・D12区に位置する。平面形態は方形で、規模は長さ1.10m、幅1.00m、深さ0.10mを測る。断面形態は、皿状である。埋土は、褐灰色土(10YR 4/1)である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜がある。実測可能遺物はない。

**時期：**出土遺物から、中世の土坑と考えられる。



第236図 SK401 測量図

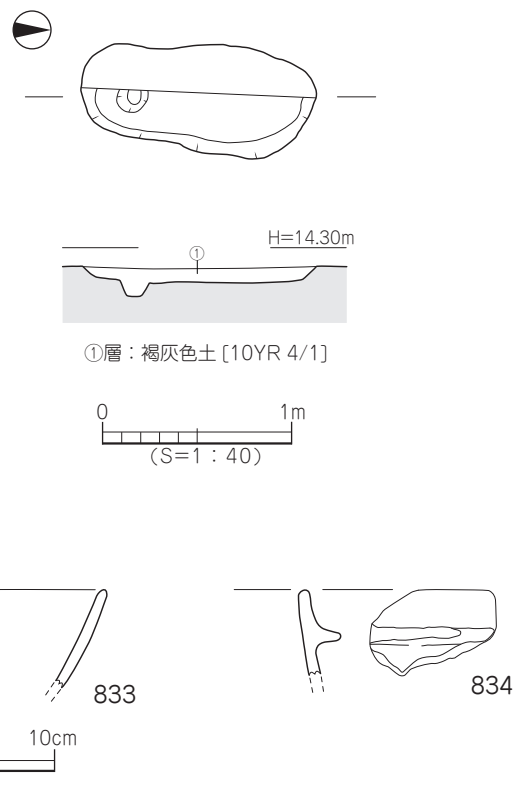
##### SK402 (第237図)

SK402は、調査区のB12区に位置する。平面形態は楕円形で、規模は長さ1.25m、幅0.57m、深さ0.07mを測る。断面形態は、皿状である。埋土は、褐灰色土(10YR 4/1)である。出土遺物には、土師器の皿・碗・土釜、弥生土器がある。

#### 出土遺物 (832～834)

832～834は土師器。832は皿。底部の小片。833は碗。体部は内湾してたちあがり、口縁端部は丸い。834は土釜。口縁部外面下に、断面三角形の鏝を貼り付ける。

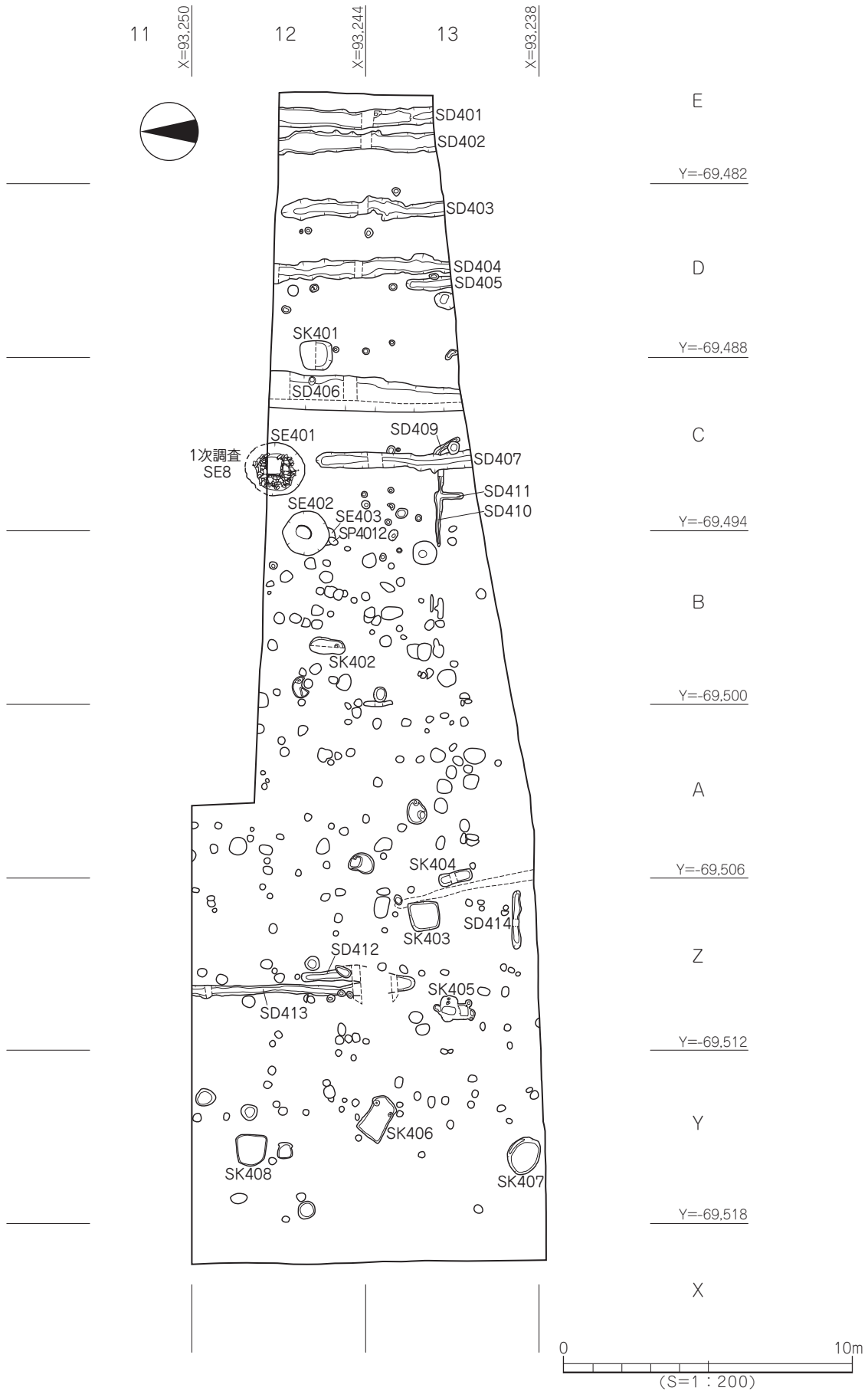
**時期：**出土遺物から、中世の土坑と考えられる。



第237図 SK402 測量図・出土遺物実測図



南江戸上沖遺跡 2次調査 4区



第 238 図 4区遺構配置図

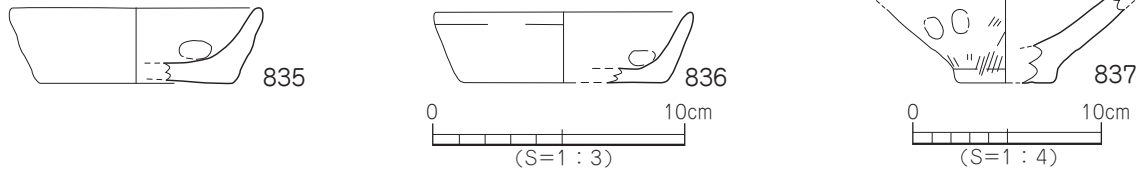
SK403 (第 239 図)

SK403 は、調査区の Z13 区に位置する。平面形態は方形で、規模は長さ 1.04 m、幅 0.97 m 深さ 0.13 m を測る。断面形態は、皿状である。埋土は、褐灰色土 (10YR 4/1) である。出土遺物には、土師器の坏・土釜、須恵器、弥生土器がある。

出土遺物 (835 ~ 837)

835・836 は土師器の坏。835 は平底の底部に、体部は直立気味にたちあがり、口縁端部は尖り気味に丸い。836 はやや上げ底の底部に、体部は短く直立気味にたちあがり、口縁部は尖り気味に丸い。837 は弥生土器の壺。平底の底部に、くびれてたちあがる。体部外面に煤が付着する。

時期：出土遺物から、中世の土坑と考えられる。



第 239 図 SK403 測量図・出土遺物実測図

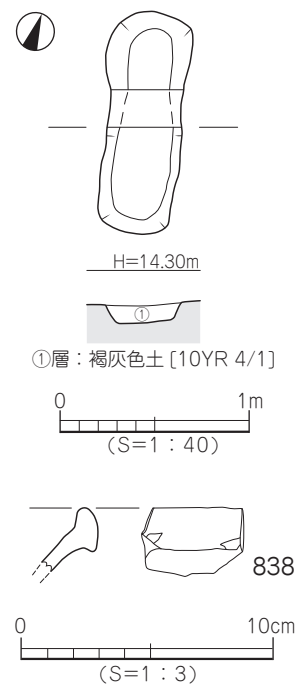
SK404 (第 240 図)

SK404 は、調査区の Z・A13 区に位置する。平面形態は長方形で規模は長さ 1.17 m、幅 0.40 m、深さ 0.12 m を測る。断面形態は、皿状である。埋土は、褐灰色土 (10YR 4/1) である。出土遺物には、土師器の皿・土釜・捏鉢がある。

出土遺物 (838)

838 は土師器の捏鉢。口縁端部は上下に拡張される。

時期：出土遺物から、中世の土坑と考えられる。



第 240 図 SK404 測量図・出土遺物実測図

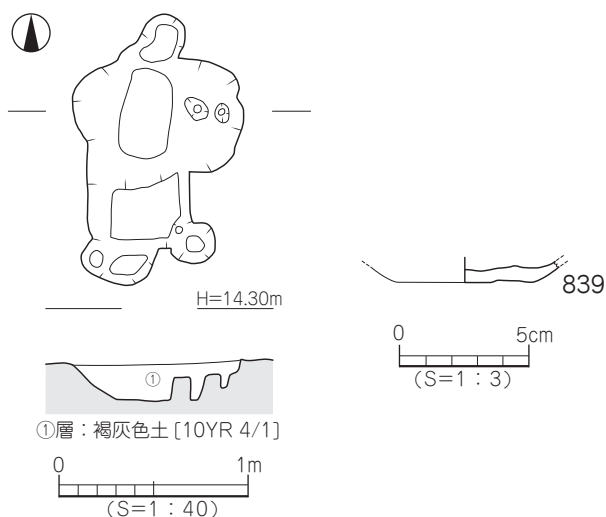
SK405 (第241図)

SK405は、調査区のZ13区に位置する。平面形態は不整形で、規模は1.45m、幅0.90m、深さ0.23mを測る。断面形態は、不整形である。埋土は、褐灰色土(10YR 4/1)である。出土遺物には、土師器の皿・土釜、須恵器がある。

出土遺物(839)

839は土師器の皿。底部の小片である。

時期：出土遺物から、中世の土坑と考えられる。



第241図 SK405 測量図・出土遺物実測図

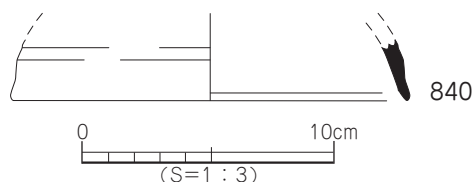
SK406 (第242図)

SK406は、調査区のY12・13区に位置する。平面形態は、長方形で規模は長さ1.53m、幅0.84m、深さ0.14mを測る。断面形態は、皿状である。埋土は、褐灰色土(10YR 4/1)である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、須恵器、弥生土器がある。

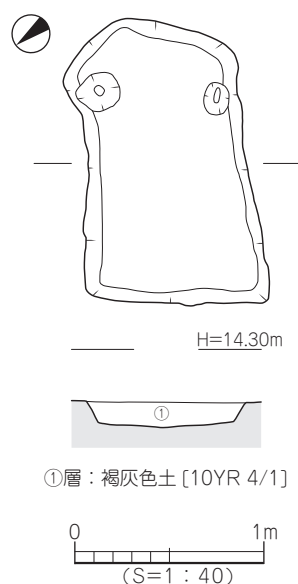
出土遺物(840)

840は須恵器の坏蓋。口縁部の小片である。

時期：出土遺物から、中世の土坑と考えられる。



第242図 SK406 測量図・出土遺物実測図



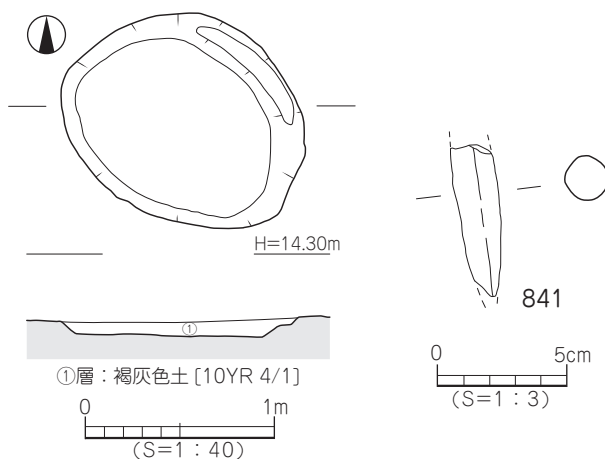
SK407 (第243図)

SK407は、調査区のY13区に位置する。平面形態は楕円形で、規模は長さ1.40m、幅1.10m、深さ0.10mを測る。断面形態は、皿状である。埋土は、褐灰色土(10YR 4/1)である。出土遺物には、土師器の皿・土釜、須恵器、弥生土器がある。

出土遺物(841)

841は土師器の三足付土釜の脚部である。

時期：出土遺物から、中世の土坑と考えられる。



第243図 SK407 測量図・出土遺物実測図

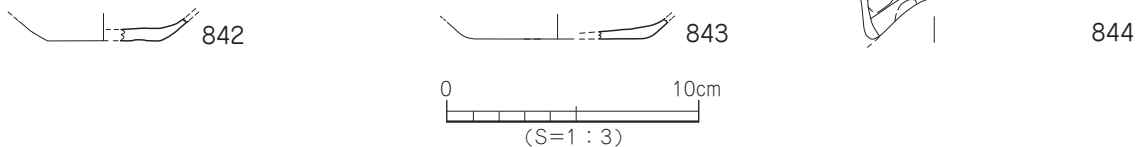
## SK408 (第244図)

SK408は、調査区のY12区に位置する。平面形態は方形で、規模は長さ1.12m、幅1.00m、深さ0.20mを測る。断面形態は、皿状である。埋土は、褐灰色土(10YR 4/1)である。出土遺物には、土師器の坏・皿・土釜、須恵器、弥生土器がある。

## 出土遺物 (842～844)

842～844は土師器。842・843は皿。底部の切り離しは、回転糸切りである。844は甑の把手部である。

時期：出土遺物から、中世の土坑と考えられる。



第244図 SK408 測量図・出土遺物実測図

## 2) 井戸

井戸は3基検出した。

## SE401 (SE8) (第245・246図、図版23・30)

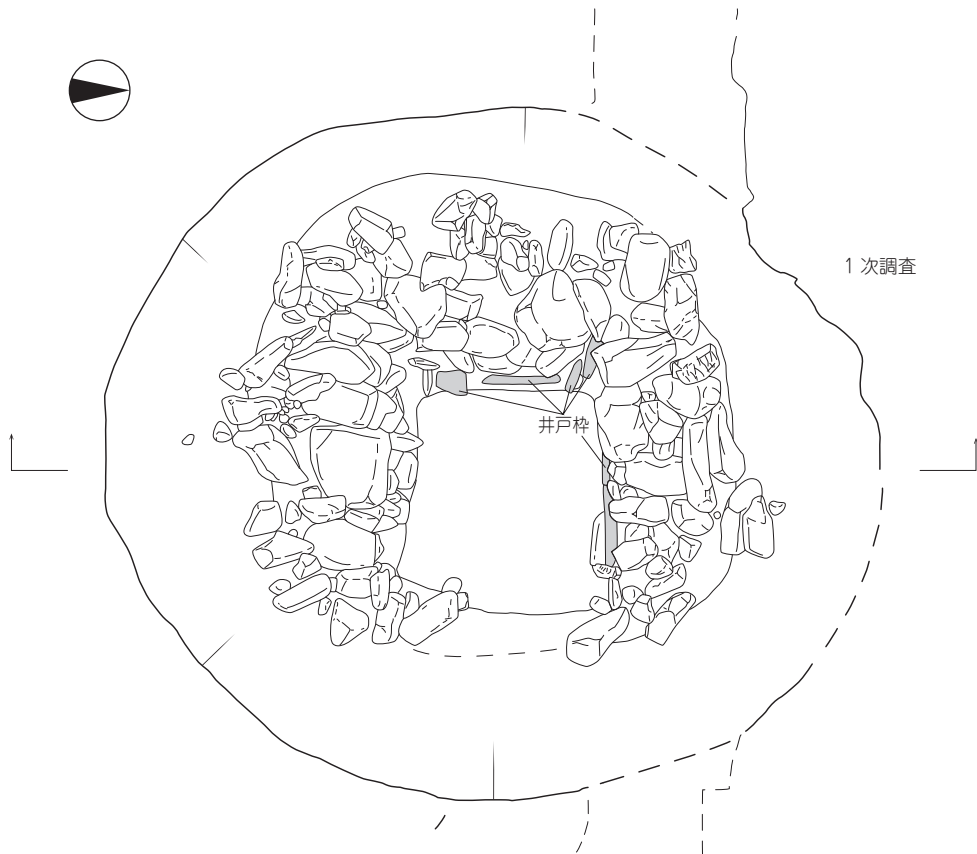
SE401は、調査区のC12区に位置し、北側は1次調査SE8と同一で重なりSD9を切る。掘り方の平面形態は円形で、規模は長さ2.05m、幅1.83m、深さ1.06mを測る。埋土は、褐灰色土(7.5YR 5/1)である。井戸の構造は、井戸側に井戸枠は、石組みを使用し、水溜には、木を使用している。水溜はは方形で、四隅に杭を打ち、杭に横木を渡している。一部の杭には臍をもうけて、はめ込みをしている。規模は、長さ0.60m、幅0.50m、高さ0.40mを測る。断面形態は、逆台形状である。出土遺物には、土師器の甕・土釜・羽釜、須恵器、陶器、石製品がある。1次調査SE8からは、土師器の皿・坏・土釜、瓦質土器の火鉢、須恵器が出土している。

## 出土遺物 (845～858)

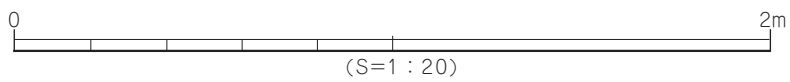
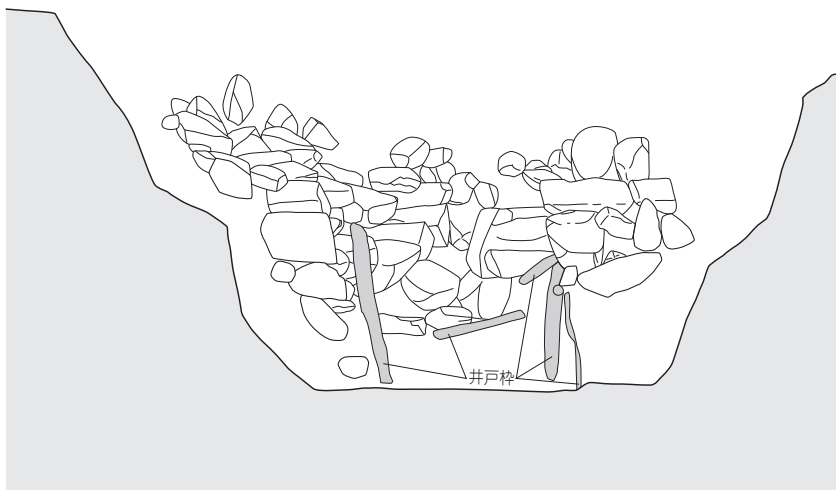
845～854は土師器。845～850は坏。845は外反する短い体部、口縁端部は尖り気味である。内面に煤が付着する。846はわずかに上げ底の底部、体部は外反する。847は平底の底部。848は平底の底部に内湾する短い体部、口縁部は尖り気味である。煤が付着する。849は平底の底部小片。850はやや上げ底の底部。底部の切り離しは、回転糸切りである。851は内黒土器の壺。底部に、断面三角形状の高台を貼り付ける。852・853は土釜。三足付土釜の脚部である。853には煤が付着する。854は羽釜。水平に伸びる鏝の端部は丸い。煤が付着する。855は瓦質土器の火鉢。短く直立する口縁端部は水平な面をもつ。頸部にスタンプによる文様を施す。856は亀山焼の陶器の甕。外反する口縁部である。857は土師器の小型の壺か甑の把手か。858は須恵器の坏の底部片。

時期：出土遺物から、室町時代の井戸と考えられる。

南江戸上沖遺跡 2次調査 4区

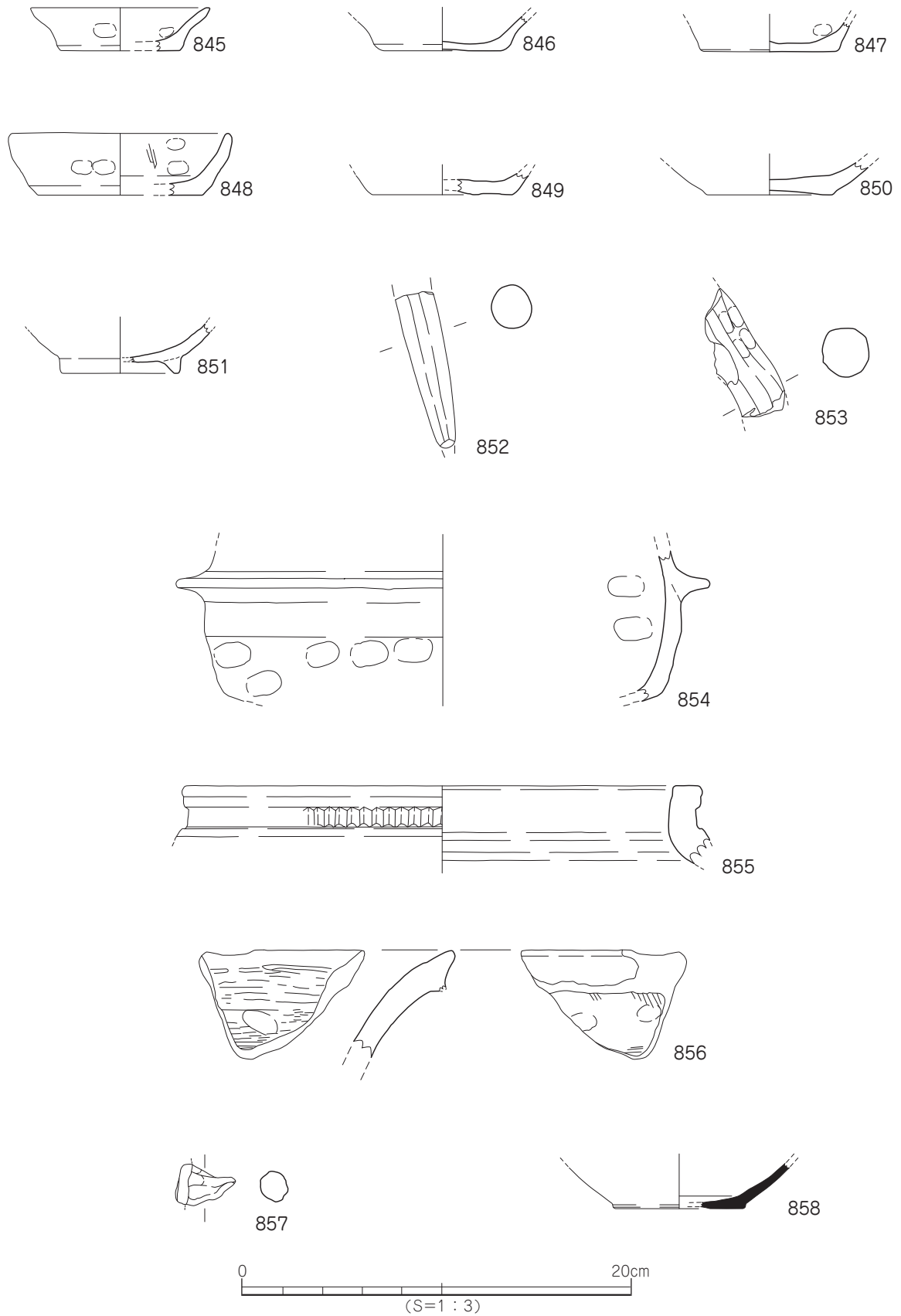


H=14.30m



第 245 図 SE401 (SE8) 測量図

遺構と遺物



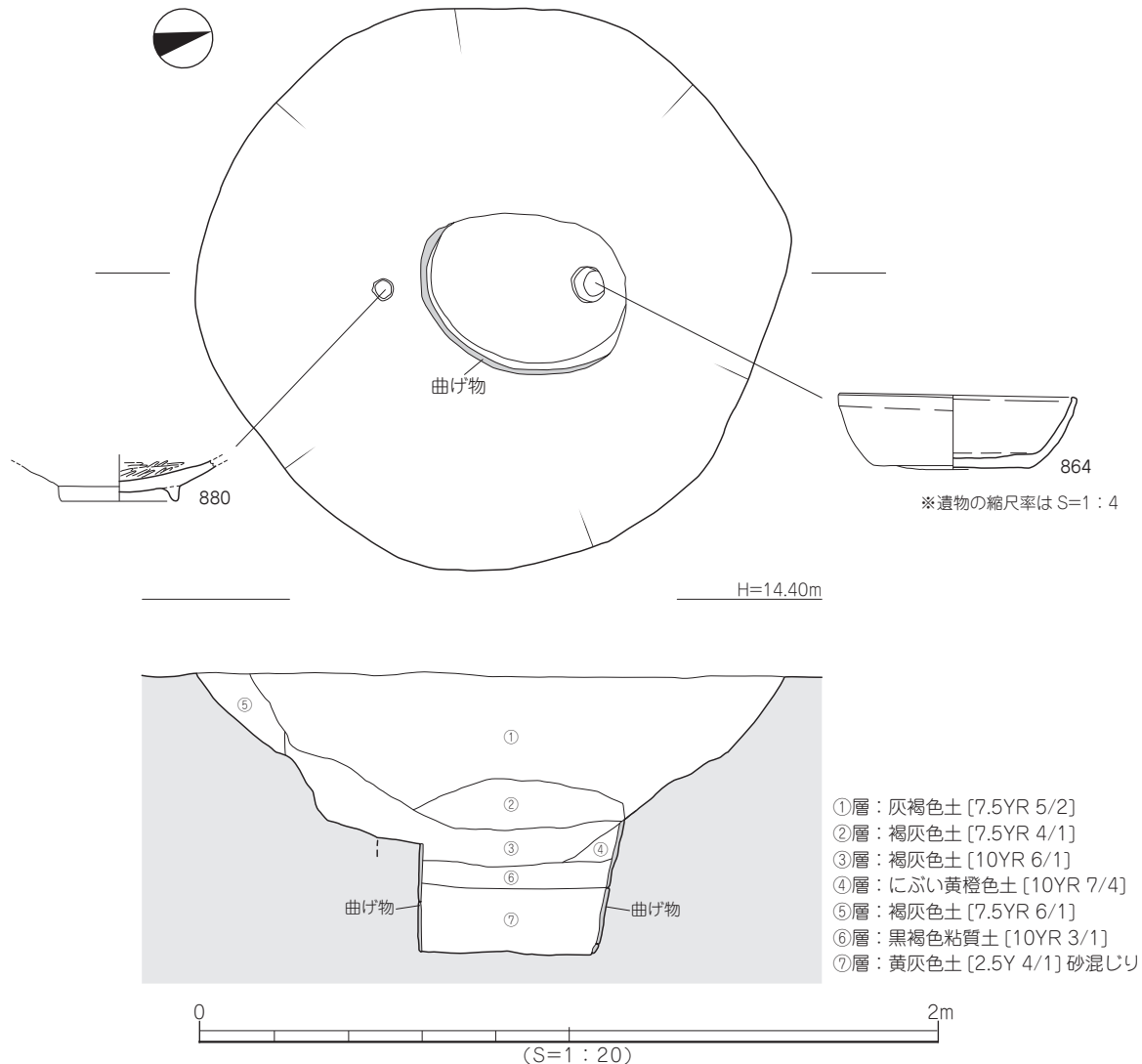
第 246 図 SE401 (SE8) 出土遺物実測図

SE402 (第247・248図、図版23・30)

SE402は、調査区のB・C12区に位置し、SE403を切る。掘り方の平面形態は円形で、規模は長径1.52m、短径1.45m、深さ0.73mを測る。断面形態は、漏斗状である。埋土は、①灰褐色土(7.5YR 5/2)、②褐灰色土(7.5YR 4/1)、③褐灰色土(10YR 6/1)、④にぶい黄橙色土(10YR 7/4)、⑤褐灰色土(7.5YR 6/1)、⑥黒褐色粘質土(10YR 3/1)、⑦黄灰色土(2.5Y 4/1)砂混じり、である。井戸の構造は、井戸側は素掘りで、水溜は、曲げ物を検出した。曲げ物の規模は、上部で長径55cm、短径43cm、下部では径42cm、高さ32cmを測る。出土遺物には、土師器の皿・坏・埴、須恵器がある。

出土遺物 (859～882)

859～880は土師器。859～863は皿。859は平底の底部より外傾してたちあがる体部の器高は低い。底部の切り離しは、回転糸切りである。860は体部は内湾してたちあがり、口縁端部は丸い。底部の切り離しは、回転糸切りである。861は平底の底部より外傾してたちあがる体部。862は平底の底部より、外傾してたちあがる体部、口縁部の端部は尖り気味である。底部の切り離しは、回転糸切りで、板状圧痕が見られる。863は平底の底部より、内湾してたちあがる体部、口縁端部は丸い。864～870は坏。864は完形品。底部の切り離しは回転糸切りで板状圧痕がある。865は口縁部の小片。

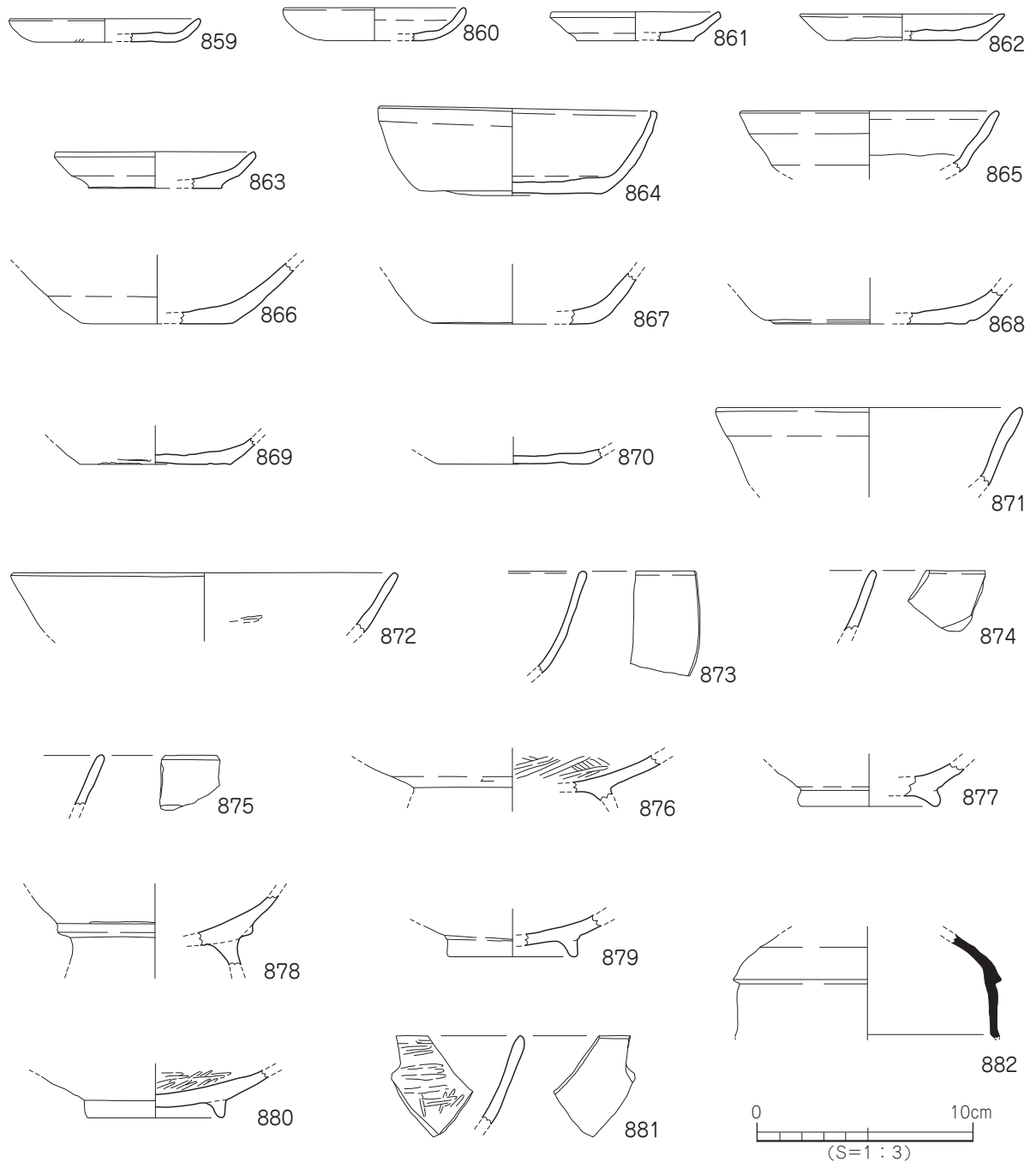


第247図 SE402 測量図・遺物出土状況図

遺構と遺物

口縁端部は丸い。866～870は底部の小片。869・870の底部の切り離しは、回転糸切りである。869は板状圧痕が見られる。871～877は埴。871～875は口縁部の小片。876・877は底部片。877は底部に、断面逆台形状の高台を貼り付ける。878は脚付きの鉢。底部と脚部の付け根に、凸帯を貼り付ける。879・880は内黒土器の埴。879は底部に、断面逆台形状の高台を貼り付ける。880は底部に、断面三角形状の高台を貼り付ける。881は瓦器埴の口縁部小片。882は須恵器の坏蓋。口縁部と天井部を分ける境は、断面三角形状の稜となる。

時期：出土遺物から、鎌倉時代の井戸と考えられる。



第 248 図 SE402 出土遺物実測図

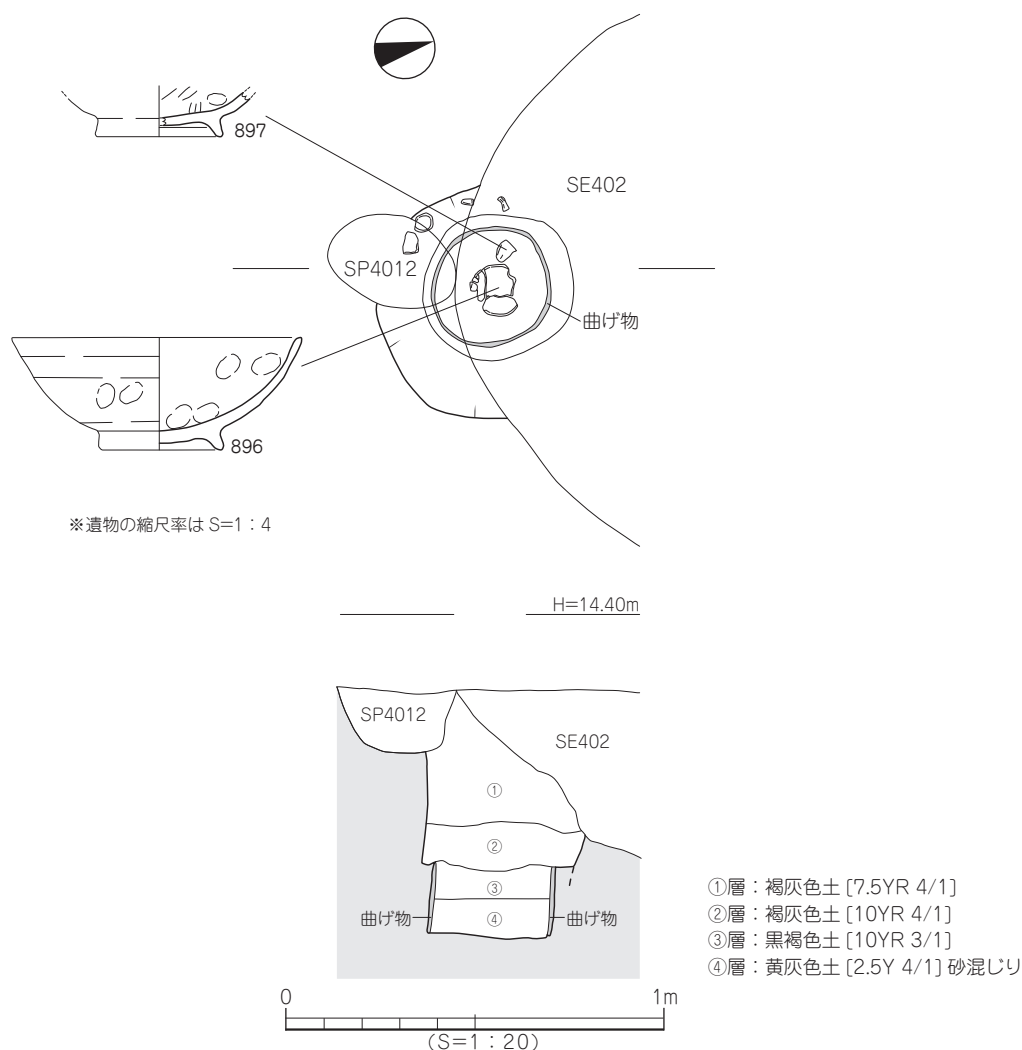


SE403 (第249・250図、図版23・30)

SE403は、調査区のB・C12区に位置し、SE402に切られる。掘り方の平面形態は円形で、規模は径0.62m、深さ0.65mを測る。断面形態は、漏斗状である。埋土は、①褐灰色土(7.5YR 4/1)、②褐灰色土(10YR 4/1)、③黒褐色土(10YR 3/1)、④黄灰色土(2.5Y 4/1)砂混じり、である。井戸の構造は、井戸側は素掘りで、水溜は曲げ物を検出した。曲げ物は円形で、規模は径32cm、高さ19cmを測る。出土遺物には、土師器の皿・坏、瓦器碗、須恵器がある。

出土遺物 (883～903)

883～901は土師器。883～885は皿。883は段をもち外傾する体部。口縁端部は尖り気味で丸い。底部の切り離しは、回転糸切りである。884は外傾する短い体部。口縁端部は丸い。885は段をもち外傾する短い体部。口縁部は尖り気味である。886～889は坏。886・887は外反する口縁部の小片。888・889は底部の小片。888は底部の切り離しは、回転糸切りである。板状圧痕が見られる。890～901は碗。890・891は口縁部の小片。891の口縁端部は尖り気味である。892は内湾する体部、口縁端部は丸い。893・894の口縁端部は尖り気味である。895は内湾する体部。口縁端部は丸い。896は内湾する体部。口縁端部は尖り気味である。897は断面逆台形状の高台を貼り付ける。898は底部に

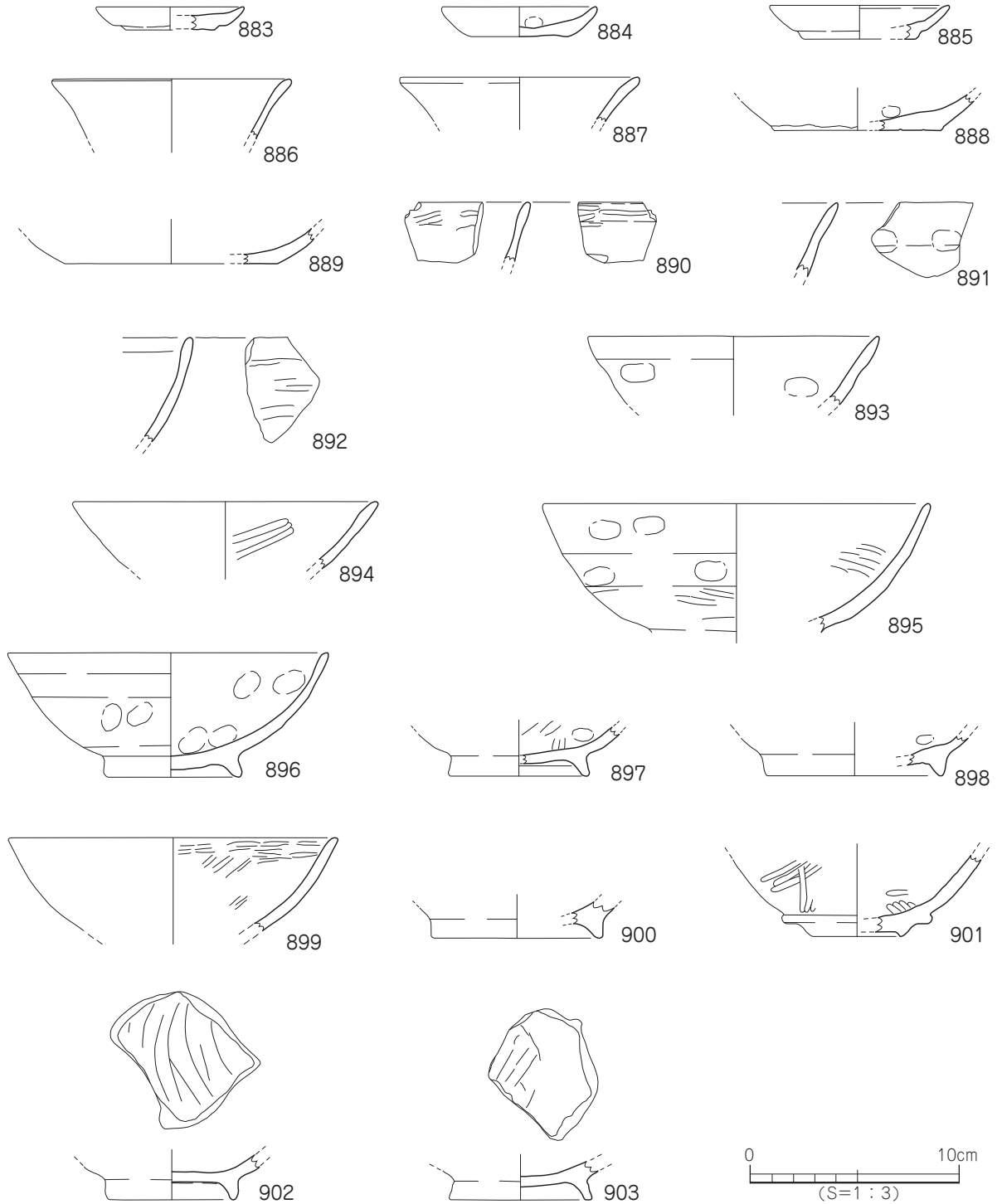


第249図 SE403 測量図・遺物出土状況図

遺構と遺物

断面三角形状の高台を貼り付ける。899・900 は内黒土器。899 は内湾する体部、口縁端部は丸い。900 は底部に、断面三角形状の高台を貼り付ける。901 は黒色土器（両黒）の托状碗である。底部に断面三角形状の高台を貼り付け、高台と底部の間に、凸帯を貼り付ける。902・903 は瓦器。902 は底部に断面三角形状の高台を貼り付ける。903 は底部に断面逆台形状の高台を貼り付ける。

時期：出土遺物から、鎌倉時代の井戸と考えられる。



第 250 図 SE403 出土遺物実測図

3) 溝

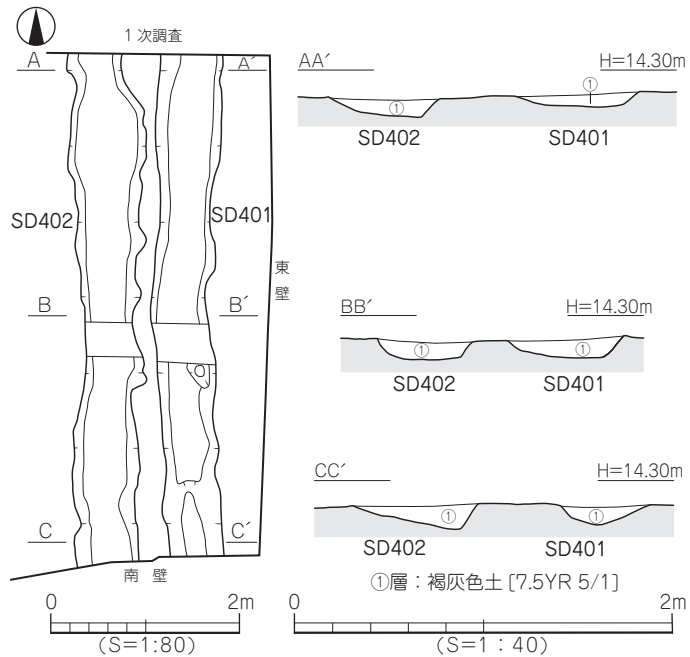
SD401 (第251・252図)

SD401は、調査区のE12・13区に位置する、南北方向の溝で、北側は1次調査区、南側は調査区外につづく。規模は、検出長4.00m、幅0.53m、深さ0.13mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 5/1)である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、陶磁器、須恵器がある。

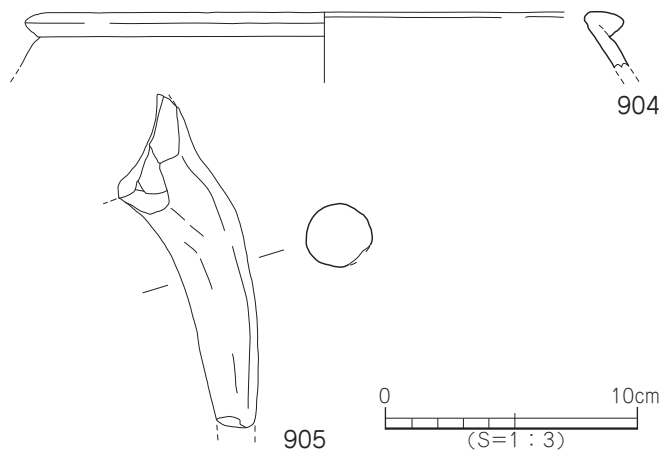
出土遺物 (904～905)

904・905は土師器の土釜。904は口縁部外面に、断面三角形形状の鏝を貼り付ける。905は三足付土釜の脚部である。煤が付着する。

時期:出土遺物から、中世と考えられる。



第251図 SD401・402 測量図



第252図 SD401 出土遺物実測図

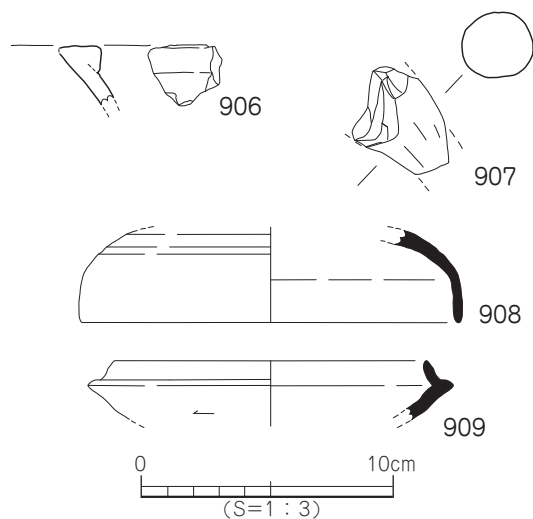
SD402 (第251・253図)

SD402は、調査区のE12・13区に位置する南北方向の溝で、北側は1次調査区、南側は調査区外につづく。規模は検出長4.05m、幅0.50～0.80m、深さ0.14mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 5/1)である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、須恵器の坏身、坏蓋がある。

出土遺物 (906～909)

906・907は土師器の土釜。906は口縁部外面に、断面三角形形状の鏝を貼り付ける。907は三足付土釜の脚部である。908・909は須恵器。908は坏蓋。直立して接地する口縁端部は丸い。909は坏身。短く水平に伸びる受け部、たちあがりは内傾し端部は尖る。

時期:出土遺物から、中世の溝と考えられる。



第253図 SD402 出土遺物実測図

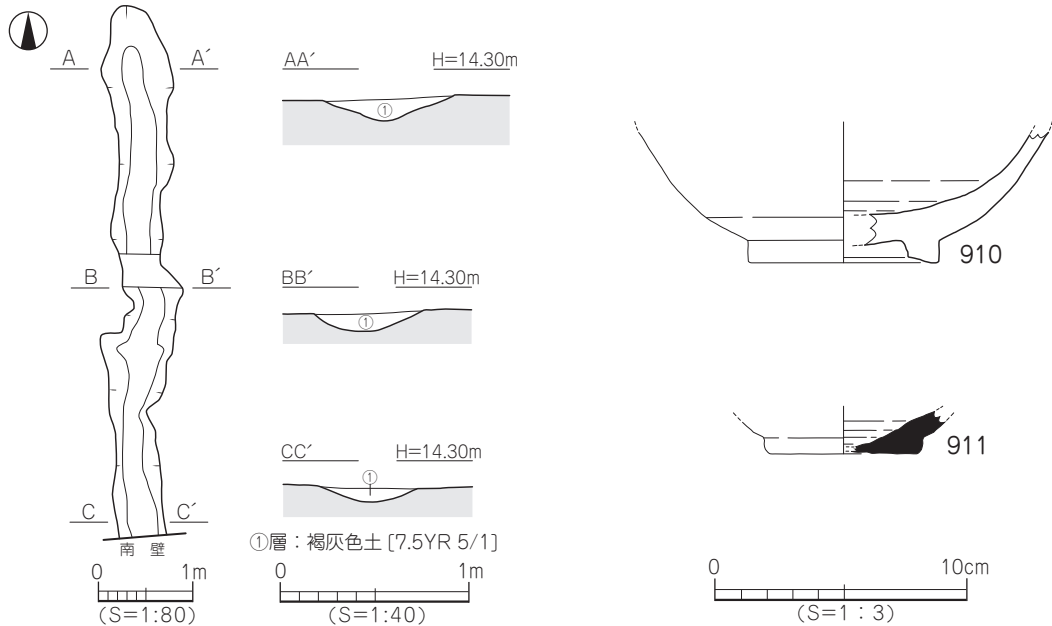
SD403 (第 254 図、図版 30)

SD403 は、調査区の D12・13 区に位置する南北方向の溝で、南側は調査区外につづく。規模は、検出長 5.65 m、幅 0.50 ~ 0.78 m、深さ 0.14m を測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土 (7.5YR 5/1) である。出土遺物には、土師器の皿・坏・土釜、陶磁器、須恵器がある。

出土遺物 (910・911)

910 は陶磁器の碗。削り出し高台。高台接地面は内傾する面をもつ。911 は須恵器の坏。底部の小片。

時期：出土遺物から、中世の溝と考えられる。



第 254 図 SD403 測量図・出土遺物実測図

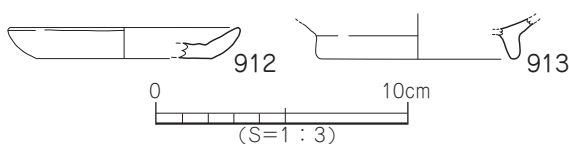
SD404 (第 255・256 図)

SD404 は、調査区の D12・13 区に位置する南北方向の溝で、北側は 1 次調査区、南側は調査区外につづく。規模は、検出長 5.90 m、検出幅 0.60 m、深さ 0.05m を測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、埋土は、褐灰色土 (7.5YR 5/1) である。出土遺物には、土師器の皿・坏・埴、須恵器がある。

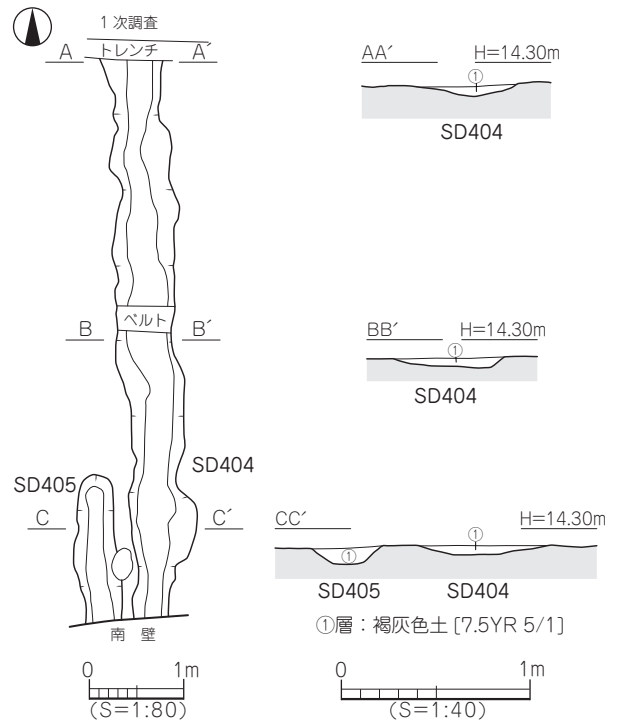
出土遺物 (912・913)

912・913 は土師器。912 は皿。外傾する体部、口縁端部は、尖り気味に丸い。913 は埴。高台部の小片。

時期：出土遺物から、中世の溝と考えられる。



第 256 図 SD404 出土遺物実測図



第 255 図 SD404・405 測量図

SD405 (第255図)

SD405は、調査区のD13区に位置する南北方向の溝で、南側は調査区外につづく。規模は、検出長1.55m、幅0.36m、深さ0.16mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 5/1)である。出土遺物には、土師器の皿・坏、須恵器があるが、実測可能な遺物はない。

時期：出土遺物から、中世の溝と考えられる。

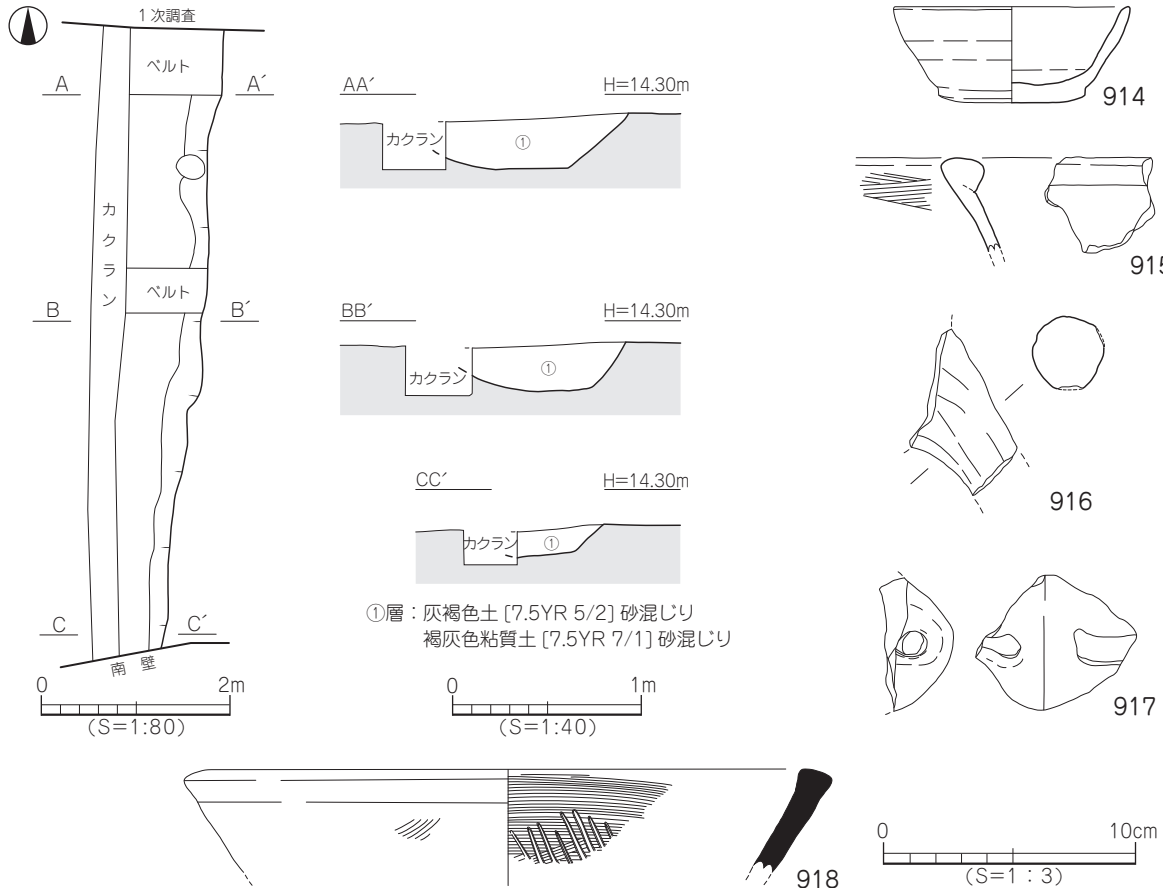
SD406 (第257図)

SD406は、調査区のC12・13区に位置する南北方向の溝で、西側は近現代の配水管に切られ、南側は調査区外に続く。北側は1次調査区のSD8に続く。規模は、検出長6.64m、推定幅0.82m、深さ0.37mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、灰褐色土(7.5YR 5/2)砂混じり、褐灰色粘質土(7.5YR 7/1)砂混じりである。出土遺物には、土師器の坏・皿・土釜、須恵器、石製品がある。

出土遺物 (914～918)

914～917は土師器。914は坏。わずかに丸みのある底部、体部は内湾したちあがり、口縁端部は尖り気味に丸い。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。915・916は土釜。915は口縁部外面に、断面三角形の鏝を貼り付ける。916は三足付土釜の脚部である。917は土釜か土鍋の耳部。横方向に貫通する円孔がある。918は須恵器の播鉢。内面に8本の櫛目が見られる。

時期：出土遺物と形状からは、16世紀末～17世紀初頭の集落を区画する溝と考えられる。1次調査SD8と同一である。



第257図 SD406 測量図・出土遺物実測図

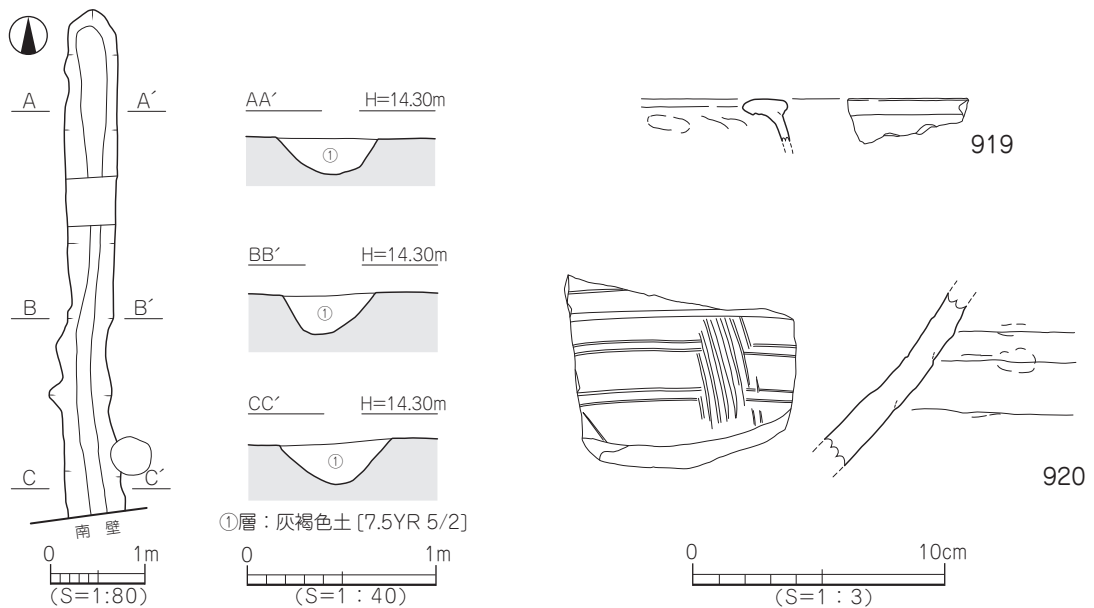
SD407 (第 258 図)

SD407 は、調査区の C12・13 区に位置し SD401 を切る南北方向の溝で、南側は調査区外につづく。北側は 1 次調査 SD9 に接続する。規模は、検出長 5.40 m、幅 0.52 m、深さ 0.20m を測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、灰褐色土 (7.5YR 5/2) である。出土遺物には、土師器、須恵器、陶器の播鉢がある。

出土遺物 (919・920)

919 は土師器の土鍋。口縁端面に鏝を貼り付ける。920 は陶器の播鉢。内面に 8 本の櫛目が見られる。使用痕が顕著にみられツルツルしている。

時期：出土遺物と形状からは、1 次調査で確認した 16 世紀末～17 世紀初頭の集落を区画する、溝 SD9 と同一と考えられる。なお、1 次調査の溝 SD9 とは約 4m 間は途切れている。

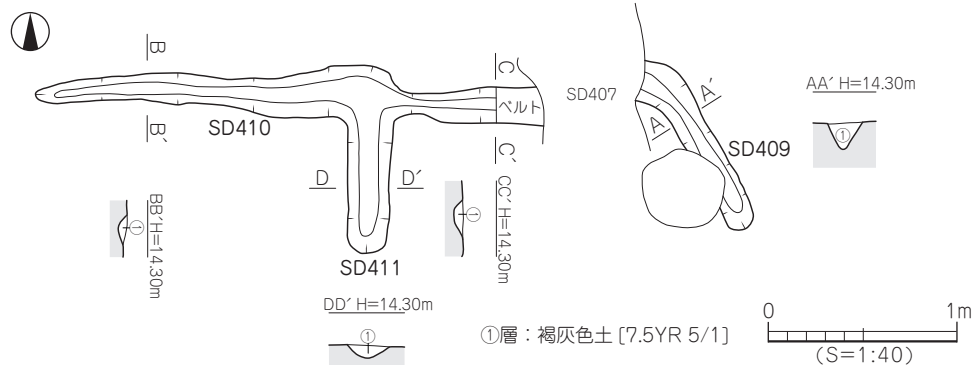


第 258 図 SD407 測量図・出土遺物実測図

SD409・SD410 (第 259 図)

SD409・410 は、調査区の B・C13 区に位置する東西方向の短い同一溝で、SD407 に切られる。規模は、検出長 4.20 m、幅 0.13 m、深さ 0.05～0.15m を測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土 (7.5YR 5/1) である。出土遺物はない。

時期：埋土から、中世の溝と考えられる。



第 259 図 SD409・410・411 測量図

SD411 (第259図)

SD411は、調査区のC13区に位置する南北方向の短い溝で、SD410と切り合っている。規模は、検出長0.76m、幅0.23m、深さ0.07mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 5/1)である。出土遺物はない。

時期：埋土から、中世の溝と考えられる。

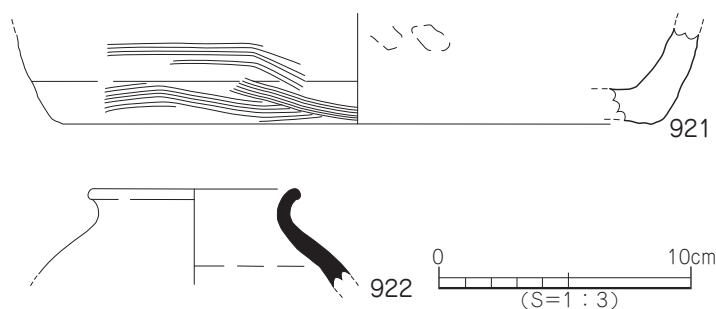
SD412 (第260・261図)

SD412は、調査区のZ12・13区に位置する南北方向の溝である。規模は、検出長3.93m、幅0.30m、深さ0.04mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 5/1)である。出土遺物には、土師器の皿・坏、陶器、須恵器がある。

出土遺物 (921・922)

921は陶器の壺底部。922は須恵器の壺口縁部。外反する短い口縁部は丸い。

時期：出土遺物から、中世の溝と考えられる。



第261図 SD412出土遺物実測図

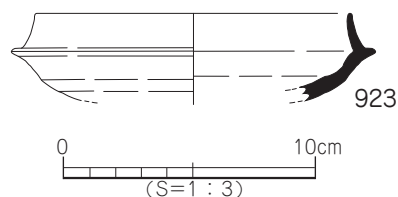
SD413 (第260・262図)

SD413は、調査区のZ12・13区に位置する南北方向の溝である。規模は、検出長9.65m、幅0.30m、深さ0.07mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 5/1)である。出土遺物には、土師器の皿・坏、須恵器がある。

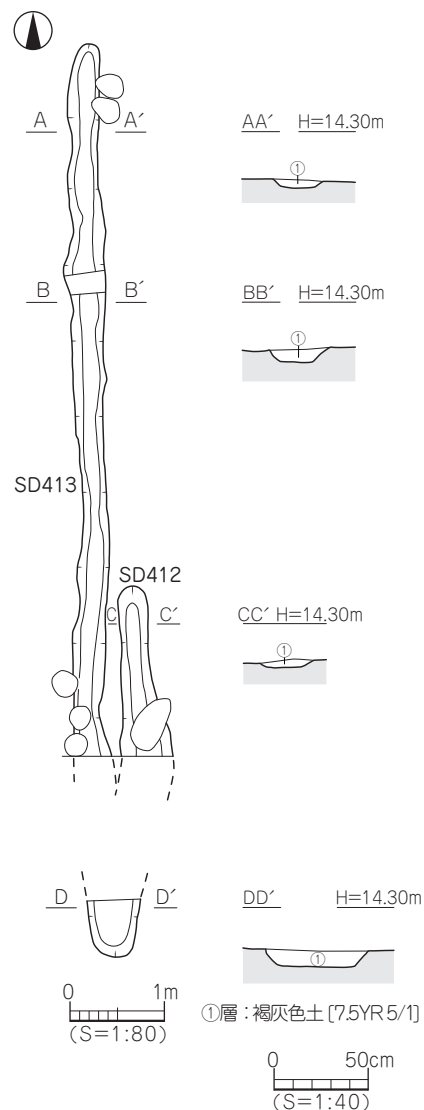
出土遺物 (923)

923は須恵器の坏身。短く水平に伸びる受け部、たちあがりは内傾し外反する。

時期：出土遺物から、中世の溝と考えられる。



第262図 SD413出土遺物実測図

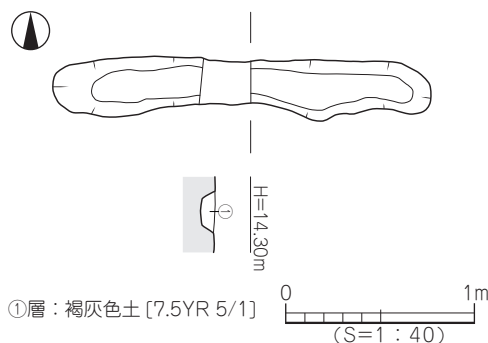


第260図 SD412・413測量図

SD414 (第 263 図)

SD414 は、調査区の Z13 区に位置する、東西方向の短い溝である。規模は、検出長 2.00 m、幅 0.24 m、深さ 0.07m を測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、褐灰色土 (7.5YR 5/1) である。出土遺物はない。

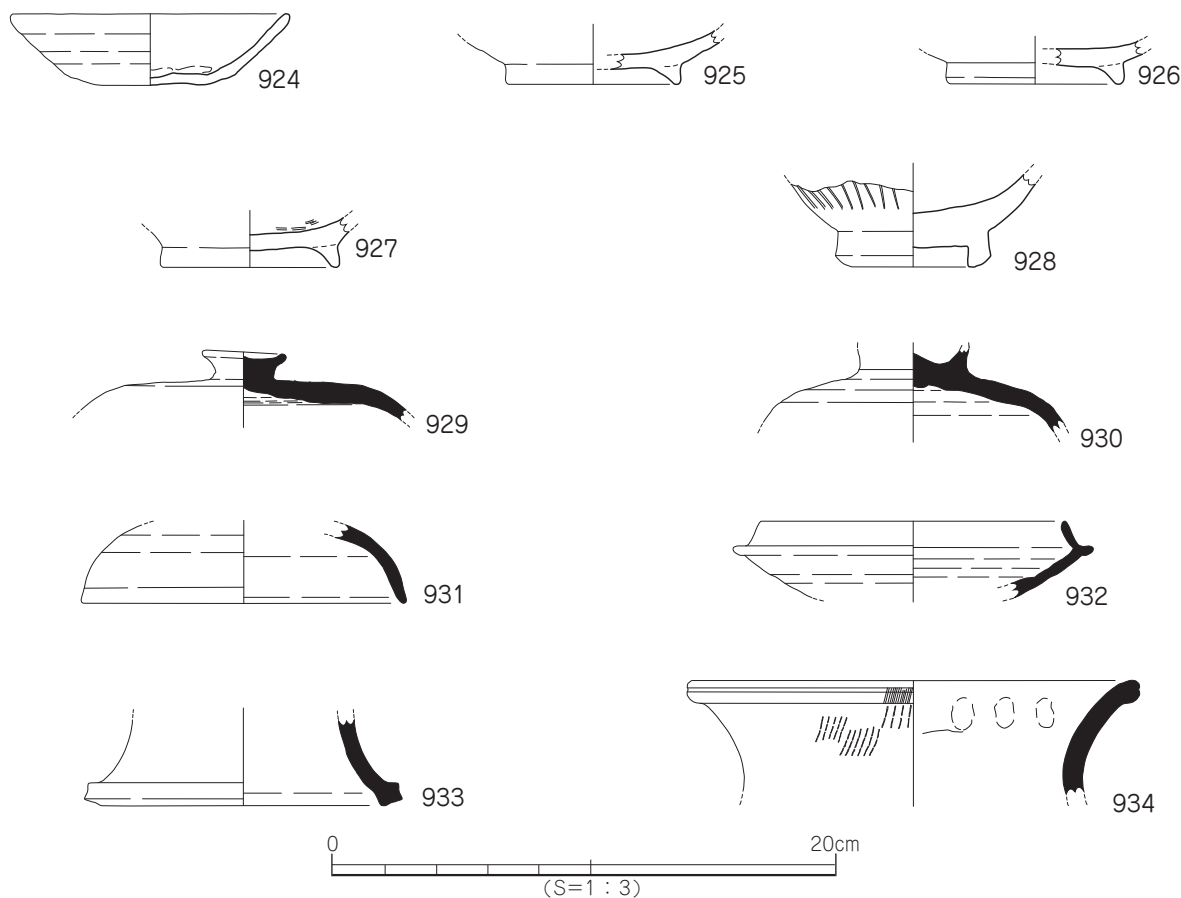
時期：埋土から、中世の溝と考えられる。



第 263 図 SD414 測量図

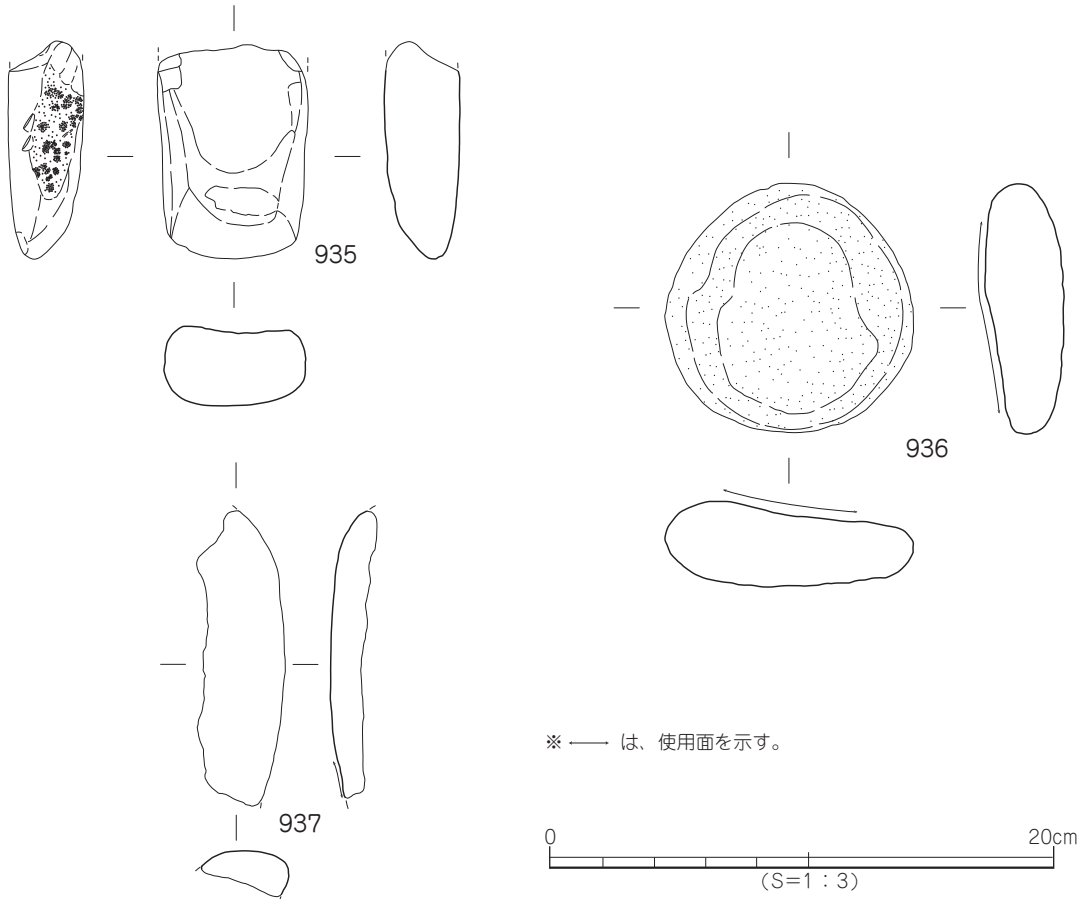
4) グリッド出土遺物 (924 ~ 937) (第 264・265 図、図版 30)

924 ~ 927 は土師器。924 は坏。体部は外傾し、口縁端部は丸い。底部に板状圧痕が見られる。925 ~ 927 は埴。底部に、断面三角形の高台を貼り付ける。928 は青磁碗。削り出し高台。畳付は露胎。外面に直線状の押し形文がある。929 ~ 934 は須恵器。929 ~ 931 は坏蓋。929 は中央部が窪むつまみをもつ。930 はつまみは窪んでナデにより中央部が凸状である。931 の口縁端部は丸い。932 は坏身。短く水平に伸びる受け部、たちあがりは内傾し端部は丸い。933 は高坏の脚部。脚端部はナデにより窪む。934 は壺。外反する口縁部は肥厚され丸い。口縁端面に凹線が巡る。935 ~ 937 は石製品。935 は磨製石斧。側面に敲打痕が見られる。936 は擦り石。937 は砥石。



第 264 図 グリッド出土遺物実測図 (1)

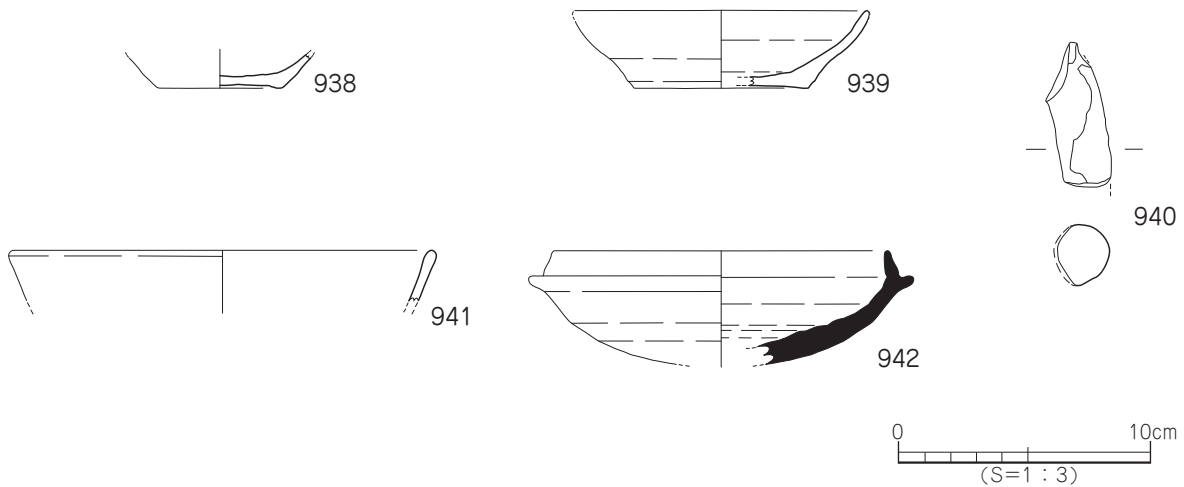




第265図 グリッド出土遺物実測図(2)

5) 出土地点不明遺物 (938～942) (第266図)

938～940は土師器。938は皿。底部に板状圧痕が見られる。939は坏。体部は内湾してたちあがる。底部の切り離しは回転糸切りで、板状圧痕が見られる。940は土釜。三足付土釜の脚部である。941は青磁碗。口縁部の小片、灰オリーブ色の釉が掛かる。942は須恵器の坏身。短く水平に伸びる受け部。内傾するたちあがりの端部は、先細りで丸い。



第266図 出土地点不明遺物実測図

遺構一覧

遺構・遺物一覧 — 凡例 —

(1) 以下の表は、本調査地検出の遺構と出土遺物の計測値及び観察一覧である。

(2) 出土遺物観察表の各掲載について

法量欄 ( ): 推定復元値

調整欄 土製品の各部名称を略記した。

例) ①→口縁部、②→底部、③→底部上部、④→底部下部、⑤→天井部、  
⑥→天井部上部、⑦→天井部下部、⑧→つまみ部

胎土・焼成欄 胎土欄では混和剤を略記した。

例) 石→石英、長→長石、金→金ウンモ、密→精製土。

( ) の中の数値は混和剤粒子の大きさを示す。

例) 石・長 (1~4) →「1mm~4mm 大の石英・長石を含む」である。

焼成欄の略記について。

◎→良好

表 168 4 区土坑一覧

土坑 (SK)	地区	平面形	断面形	規模 長径×短径×深さ (m)	埋土	出土遺物	時期	備考
401	C・D12	方形	皿状	1.10 × 1.00 × 0.10	褐灰色土 (10YR 4/1)	土師器	中世	
402	B12	楕円形	皿状	1.25 × 0.57 × 0.07	褐灰色土 (10YR 4/1)	土師器 弥生土器	中世	
403	Z13	方形	皿状	1.04 × 0.97 × 0.13	褐灰色土 (10YR 4/1)	土師器 須恵器 弥生土器	中世	
404	Z・A13	長方形	皿状	1.17 × 0.40 × 0.12	褐灰色土 (10YR 4/1)	土師器	中世	
405	Z13	不整形	不整形	1.45 × 0.90 × 0.23	褐灰色土 (10YR 4/1)	土師器 須恵器	中世	
406	Y12・13	長方形	皿状	1.53 × 0.84 × 0.14	褐灰色土 (10YR 4/1)	土師器 須恵器 弥生土器	中世	
407	Y13	楕円形	皿状	1.40 × 1.10 × 0.10	褐灰色土 (10YR 4/1)	土師器 須恵器 弥生土器	中世	
408	Y12	方形	皿状	1.12 × 1.00 × 0.20	褐灰色土 (10YR 4/1)	土師器 須恵器 弥生土器	中世	

表 169 4 区井戸一覧

井戸 (SE)	地区	平面形	断面形	規模 長径×短径×深さ (m)	埋土	出土遺物	時期	備考
401	C12	円形	逆台形状	2.05 × 1.83 × 1.06	褐灰色土 (7.5YR 5/1)	土師器 須恵器 陶器 石製品	16 世紀末 ~ 17 世紀初頭	1 次調査 SE8 と重なる。SD9 を切る。
402	B・C12	円形	漏斗状	1.52 × 1.45 × 0.73	① 灰褐色土 (7.5YR 5/2) ② 褐灰色土 (7.5YR 4/1) ③ 褐灰色土 (10YR 6/1) ④ にぶい黄褐色土 (10YR 7/4) ⑤ 褐灰色土 (7.5YR 6/1) ⑥ 黒褐色粘質土 (10YR 3/1) ⑦ 黄灰色土 (2.5YR 4/1) 砂混じり	土師器 須恵器	鎌倉時代	SE403 を切る。
403	B・C12	円形	漏斗状	0.62 × 0.62 × 0.65	① 褐灰色土 (7.5YR 4/1) ② 褐灰色土 (10YR 4/1) ③ 黒褐色土 (10YR 3/1) ④ 黄灰色土 (2.5YR 4/1) 砂混じり	土師器 須恵器 瓦器	鎌倉時代	SE402 に切られる。

南江戸上沖遺跡2次調査4区

表 170 4区溝一覧

溝 (SD)	地区	方向	断面形	規模 長さ×幅×深さ (m)	埋土	出土遺物	時期	備考
401	E12・13	南北	レンズ状	(4.00) × 0.53 × 0.13	褐灰色土 (7.5YR 5/1)	土師器 須恵器 陶磁器	中世	北側は1次調査区、 南側は調査区外。
402	E12・13	南北	レンズ状	(4.05) × 0.50 ~ 0.80 × 0.14	褐灰色土 (7.5YR 5/1)	土師器 須恵器	中世	北側は1次調査区、 南側は調査区外。
403	D12・13	南北	レンズ状	(5.65) × 0.50 ~ 0.78 × 0.14	褐灰色土 (7.5YR 5/1)	土師器 須恵器 陶器	中世	南側は調査区外。
404	D12・13	南北	レンズ状	(5.90) × 0.60 × 0.05	褐灰色土 (7.5YR 5/1)	土師器 須恵器	中世	北側は1次調査区、 南側は調査区外。
405	D13	南北	レンズ状	(1.55) × 0.36 × 0.16	褐灰色土 (7.5YR 5/1)	土師器 須恵器	中世	南側は調査区外。
406	C12・13	南北	レンズ状	(6.64) × (0.82) × 0.37	灰褐色土 (7.5YR 5/2) 砂混じり 褐灰色粘質土 (7.5YR 7/1) 砂混じり	土師器 須恵器 石製品	16世紀末 ~ 17世紀初頭	南側は調査区外、 北側は1次調査 SD8に続く。
407	C12・13	南北	レンズ状	(5.40) × 0.52 × 0.20	灰褐色土 (7.5YR 5/2)	土師器 須恵器 陶器	16世紀末 ~ 17世紀初頭	南側は調査区外、 北側は1次調査 SD9に続く。
SK408 欠番								
409 410	B・C13	東西	レンズ状	(4.20) × 0.13 × 0.05 ~ 0.15	褐灰色土 (7.5YR 5/1)	なし	中世	SD407 に 切られる。
411	C13	南北	レンズ状	(0.76) × 0.23 × 0.07	褐灰色土 (7.5YR 5/1)	なし	中世	SD410 と 切り合う。
412	Z12・13	南北	レンズ状	(3.93) × 0.30 × 0.04	褐灰色土 (7.5YR 5/1)	土師器 須恵器 陶器	中世	
413	Z12・13	南北	レンズ状	(9.65) × 0.30 × 0.07	褐灰色土 (7.5YR 5/1)	土師器 須恵器	中世	
414	Z13	東西	レンズ状	(2.00) × 0.24 × 0.07	褐灰色土 (7.5YR 5/1)	なし	中世	

表 171 SK402 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
832	皿	底径 (6.0) 残高 0.9	底部の小片。	ナデ	ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長 (1 ~ 2) ◎		
833	碗	口径 (13.4) 残高 3.8	体部は内湾したちあがり、口縁端部は丸い。	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙色 灰白色	石・長 (1 ~ 5) ◎		
834	土釜	残高 3.3	口縁部外面下に、断面三角形の鏝を貼り付ける。	ナデ	ナデ	灰色 灰色	石・長 (1 ~ 2) ◎	煤付着	

出土遺物一覧

表 172 SK403 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
835	坏	口径 (10.0) 底径 (7.8) 器高 3.0	平底の底部に、体部は短く直立気味にたちあがり、口縁端部は尖り気味である。	ヨコナデ	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長 (1) 金 ◎		
836	坏	口径 (10.0) 底径 (8.0) 器高 2.8	やや上げ底の底部に、体部は短く直立気味にたちあがり、口縁端部は尖り気味である。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長 (1) ◎		
837	壺	底径 (5.0) 残高 4.2	平底の底部に、くびれてたちあがる体部。	ハケ→ナデ	ナデ	灰黄色 黄灰色	石・長 (1~2) ◎	煤付着	

表 173 SK404 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
838	捏鉢	残高 2.5	口縁端部は、上下に拡張される。	ナデ	ナデ	淡橙色 浅黄橙色	長 (1) ◎		

表 174 SK405 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
839	皿	底径 (5.7) 残高 0.7	底部の小片。	ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	石・長 (1) ◎		

表 175 SK406 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
840	坏蓋	口径 (15.7) 残高 4.6	口縁部の小片。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長 (1) 密 ◎		

表 176 SK407 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
841	土釜	残高 6.0	三足付土釜の脚部。	ナデ		にぶい黄褐色	石・長 (1) ◎		

表 177 SK408 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
842	皿	底径 (8.4) 残高 4.6	底部の切り離しは、回転糸切りである。	ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	石 (1) ◎		
843	皿	底径 (7.0) 残高 0.8	底部の切り離しは、回転糸切りである。	ナデ	ナデ	浅黄橙色 灰白色	石・長 (1) ◎		
844	甌	残高 4.7	甌の把手部。	ナデ		にぶい橙色	石・長 (1~2) ◎		

南江戸上沖遺跡2次調査4区

表 178 SE401 (SE8) 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
845	坏	口径 (9.2) 底径 (6.0) 器高 2.2	外反する短い体部の口縁部は、尖り気味である。	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色 にぶい黄橙色	石・長 (1) ◎	内面に 煤附着	
846	坏	底径 (6.4) 残高 1.7	わずかに上げ底の底部、体部は外反する。	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	長 (1) ◎	上層	
847	坏	底径 (7.0) 残高 1.5	平底の小片。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	長 (1) ◎	下層	
848	坏	口径 (10.1) 底径 (8.4) 器高 3.2	平底の底部。内湾する短い体部の口縁部は、尖り気味である。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	石・長 (1) 金 ◎	煤附着	
849	坏	底径 (7.2) 残高 1.0	平底の小片。	ナデ	ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長 (1) ◎		
850	坏	底径 (6.4) 残高 1.7	やや上げ底の底部。底部の切り離しは、回転糸切りである。	回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長 (1~2) ◎	1次 SE8	
851	埴	底径 (5.9) 残高 2.5	底部に、断面三角形の高台を貼り付ける。内黒土器。	マメツ	マメツ	にぶい黄橙色 暗灰色	石・長 (1~2) ◎	1次 SE8	
852	土鍋	残高 8.0	三足付土釜の脚部。	ナデ	ナデ	にぶい橙色	石・長 (1) ◎	1次 SE8	
853	土釜	残高 6.5	三足付土釜の脚部。	ナデ	ナデ	にぶい橙色	石・長 (1~4) ◎	煤附着	
854	羽釜	鍔径 (27.2) 残高 7.7	水平に伸びる鍔の端部は丸い。	回転ナデ	ヨコナデ	橙色 橙色	石・長 (1~3) 金 ◎	煤附着	
855	火鉢	口径 (26.5) 残高 4.0	短く直立する口縁端部は、水平な面をもつ。頸部にスタンプによる文様を施す。瓦質土器。	工具によるナデ	工具によるナデ	灰黄色 にぶい橙色	石・長 (1~3) 金 ◎	1次 SE8	30
856	甕	残高 5.5	外反する口縁部。亀山焼。	ナデ	ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~2) ◎	上層	
857	把手	残高 2.9	小型の埴か甕の把手か。	ナデ		浅黄橙色	石・長 (1) ◎		30
858	坏	底径 (6.6) 残高 2.3	須恵器の坏の底部小片。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~2) ◎	1次 SE8	

表 179 SE402 出土遺物観察表 (土製品)

(1)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
859	皿	口径 (8.8) 底径 (7.0) 器高 1.1	平底の底部より、外傾してたちあがる。器高は低い。底部の切り離しは、回転糸切りである。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	密 ◎	上層	
860	皿	口径 (8.4) 底径 (5.6) 器高 1.5	体部は内湾し口縁端部は丸い。底部の切り離しは、回転糸切りである。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	密 ◎	東側 上層	
861	皿	口径 (7.7) 底径 (5.5) 器高 1.4	平底の底部より外傾してたちあがる。	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ	灰黄褐色 灰黄褐色	密 ◎	最下層	
862	皿	口径 (9.4) 底径 (7.0) 器高 1.2	平底の底部。口縁端部は尖り気味である。底部の切り離しは、回転糸切りである。板状圧痕あり。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	石・長 (1) ◎	中層	
863	皿	口径 (9.1) 底径 (6.2) 器高 1.7	平底の底部より内湾してたちあがる。口縁端部は丸い。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	密 ◎	下層	

出土遺物一覧

SE402 出土遺物観察表 (土製品)

(2)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
864	坏	口径 (12.6) 底径 8.5 器高 4.1	内湾する体部。底部の切り離しは、回転糸切りで板状圧痕あり。口縁部は歪んでいる。完形品。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		30
865	坏	口径 (11.8) 残高 2.8	口縁端部は丸い。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	密 ◎	上層	
866	坏	底径 (7.0) 残高 2.8	底部の小片。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	長 (1) ◎	南側 中層	
867	坏	底径 (7.6) 残高 2.3	底部の小片。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
868	坏	底径 (8.8) 残高 1.6	底部の小片。	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄色 浅黄色	密 ◎	上層	
869	坏	底径 (7.0) 残高 1.2	底部の切り離しは、回転糸切りである。板状圧痕あり。	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	長 (1) ◎	南側 中層	
870	坏	底径 (7.0) 残高 0.7	底部の切り離しは、回転糸切りである。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	密 ◎	南側 中層	
871	埴	口径 (14.0) 残高 3.6	口縁端部は丸い。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	長 (1~2) ◎	最下層	
872	埴	口径 (17.6) 残高 2.8	口縁部の小片。	ヨコナデ	ヨコナデ ミガキ	浅黄色 浅黄色	長 (1) 密 ◎	上層	
873	埴	残高 4.7	口縁部の小片。口縁端部は丸い。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
874	埴	残高 2.8	口縁部の小片。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	密 ◎	下層	
875	埴	残高 2.4	口縁部の小片。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	密 ◎	下層	
876	埴	残高 2.0	高台が付く。	ヨコナデ	ヘラミガキ	浅黄橙色 灰白色	長 (1) 金 ◎	最下層	
877	埴	底径 (6.4) 残高 2.0	底部に断面逆台形状の、高台を貼り付ける。	ヨコナデ	ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	密 ◎		
878	鉢	残高 3.2	脚付きの鉢。底部と脚部の付け根に凸帯を貼り付ける。	ヨコナデ	ミガキ	灰白色 灰白色	長 (1) ◎	南側 中層	
879	埴	底径 (6.0) 残高 1.9	底部に断面逆台形状の、高台を貼り付ける。内黒土器。	ヨコナデ	マメツ	浅黄褐色 褐灰色	長 (1) ◎		
880	埴	残高 2.2	底部に断面三角形の、高台を貼り付ける。内黒土器。	ヨコナデ	ヘラミガキ	にぶい黄褐色 灰黄褐色	長 (1) ◎		
881	埴	残高 4.1	口縁部の小片。瓦器。	ヨコナデ	ヘラミガキ	灰白色 黒色	密 ◎		
882	坏蓋	残高 4.8	口縁部と天井部を分ける境は、断面 三角形の稜となる。	◎底◎ 回転ナデ ◎底◎ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		

南江戸上沖遺跡2次調査4区

表 180 SE403 出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
883	皿	口径 (7.0) 底径 (4.2) 器高 1.1	段をもち外傾する短い体部、口縁端部は、尖り気味で丸い。底部の切り離しは、回転糸切りである。	回転ナデ	ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長(1) 金 ◎	下層	
884	皿	口径 (7.4) 底径 (4.8) 器高 1.4	外傾する短い体部、口縁端部は丸い。	回転ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1~2) 金 ◎	最下層	
885	皿	口径 (8.6) 底径 (5.4) 器高 1.6	段をもち外傾する短い体部、口縁部は尖り気味である。	回転ナデ	ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長(1) ◎	最下層	
886	坏	口径 (9.4) 残高 2.9	外反する口縁部。	回転ナデ	ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長(1~2) ◎	下層	
887	坏	口径 (11.4) 残高 2.2	外反する口縁部。	ナデ	ナデ	灰黄褐色 灰褐色	石・長(1~2) 金 ◎	上層	
888	坏	底径 (8.0) 残高 1.3	底部の切り離しは、回転糸切りである。板状圧痕あり。	回転ナデ	ナデ	浅黄橙色 灰色	石・長(1~2) ◎	下層	
889	坏	底径 (8.0) 残高 1.3	底部の切り離しは、回転糸切りである。板状圧痕あり。	回転ナデ	ナデ	浅黄橙色 灰色	石・長(1~2) ◎	下層	
890	埴	残高 2.8	口縁部の小片。	ミガキ	ミガキ	灰色 暗灰色	石・長(1~3) ◎		
891	埴	残高 3.6	口縁部の小片。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1~2) ◎		
892	埴	残高 5.0	内湾する体部。口縁端部は丸い。	ミガキ	ミガキ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長(1) 金 ◎	最下層	
893	埴	口径 (13.8) 残高 3.3	口縁端部は、尖り気味である。	回転ナデ	ナデ	にぶい黄橙色 浅黄橙色	石・長(1) ◎		
894	埴	口径 (14.6) 残高 3.3	口縁端部は、尖り気味である。	回転ナデ	ナデ ミガキ	灰黄色 暗灰色	石・長(1) ◎	上層	
895	埴	口径 (18.4) 残高 6.3	内湾する体部、口縁端部は丸い。	回転ナデ ミガキ	ナデ ミガキ	浅黄橙色 灰色	石・長(1~2) ◎		
896	埴	口径 15.3 底径 6.2 器高 6.0	内湾する体部。口縁端部は尖り気味である。12世紀。	回転ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1~5) ◎		30
897	埴	底径 (6.6) 残高 2.3	底部に断面逆台形状の高台を貼り付ける。	回転ナデ	ナデ ミガキ	灰白色 灰白色	石・長(1) ◎		
898	埴	底径 (8.2) 残高 1.3	底部に断面三角形の高台を貼り付ける。	回転ナデ	ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長(1~2) 金 ◎		
899	埴	口径 (15.5) 残高 4.5	内湾する体部。口縁部は尖り気味である。内黒土器。	回転ナデ	ナデ ミガキ	灰白色 暗灰色	石・長(1) ◎	最下層	
900	埴	底径 (8.0) 残高 1.7	底部に断面三角形の高台を貼り付ける。内黒土器。	回転ナデ	ナデ	浅黄橙色 暗灰色	石・長(1~2) ◎	上層	
901	托状埴	底径 (4.2) 残高 3.7	底部に断面三角形の高台。底部と高台の間に凸帯を貼り付ける。黒色土器（両黒）。	ナデ ミガキ	ナデ ミガキ	暗灰色 暗灰色	石・長(1~2) ◎		30
902	埴	底径 (6.0) 残高 2.0	底部に断面三角形の高台が付く。瓦器。	回転ナデ	ナデ ミガキ	灰白色 暗灰色	石・長(1~4) ◎		
903	埴	底径 (6.8) 残高 1.8	底部に断面逆台形状の高台が付く。瓦器。	回転ナデ	ナデ ミガキ	黄灰色 暗灰色	石・長(1~2) 金 ◎		

出土遺物一覧

表 181 SD401 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
904	土釜	口径 (8.0) 残高 2.2	口縁部外面に、断面三角形の鐔を貼り付ける。	ナデ	ナデ	明赤褐色 橙色	長 (1) ◎		
905	土釜	残高 13.2	三足付土釜の脚部。	ナデ		にぶい黄橙色	長 (1~2) 金 ◎	煤付着	

表 182 SD402 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
906	土釜	残高 2.4	口縁部外面に、断面三角形の鐔を貼り付ける。	ナデ	ナデ	橙色 橙色	長 (1~2) ◎		
907	土釜	残高 4.3	三足付土釜の脚部。	ナデ		橙色	石・長 (1~3) ◎		
908	坏蓋	口径 (18.2) 残高 4.2	直立して接地する口縁部、口端部は丸い。	◎回転ヘラケズリ ◎回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
909	坏身	口径 (12.4) 残高 2.3	短く水平に伸びる受け部、たちあがりは、内傾し端部は尖る。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長 (1~2) ◎		

表 183 SD403 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
910	碗	底径 (7.5) 残高 5.2	削り出し高台。高台接地面は内傾する面をもつ。	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	(胎) 褐灰色 (釉) 褐色	密 ◎		30
911	坏	底径 (6.0) 残高 1.7	底部の小片。須恵器。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	長 (1) ◎		

表 184 SD404 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
912	皿	口径 (9.1) 底径 (7.0) 器高 1.2	外傾する体部、口縁端部は、尖り気味に丸い。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	石・長 (1~2) ◎		
913	埴	底径 (8.1) 残高 1.6	高台部の小片。	ナデ	ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	長 (1) ◎		

表 185 SD406 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
914	坏	口径 (9.3) 底径 (5.8) 器高 4.3	わずかに丸みのある底部。体部は内湾したちあがり、口縁端部は、尖り気味に丸い。回転ヘラ切り。15世紀。	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	長 (1) 金 ◎		
915	土釜	残高 3.8	口縁部外面に、断面三角形の鐔を貼り付ける。	ナデ	ナデ ハケ (6本/cm)	にぶい赤褐色 橙色	石・長 (1~4) ◎		
916	土釜	残高 6.6	三足付土釜の脚部。	ナデ		橙色	石・長 (1~3) ◎		
917	土釜か土鍋	残高 5.3	耳部。横方向に貫通する円孔がある。	ナデ		にぶい赤褐色	石・長 (1~3) ◎		
918	挿鉢	口径 (25.7) 残高 4.1	内面に8本の櫛目が見られる。瓦質の可能性有。	ハケ ナデ	ハケ	灰白色 灰白色	長 (1~2) ◎		



南江戸上沖遺跡2次調査4区

表 186 SD407 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
919	土鍋	残高 1.8	口縁端面に鐏を貼り付ける。	ナデ	ナデ	橙色 にぶい橙色	石・長(1~3) 金 ◎		
920	播鉢	残高 6.8	内面に櫛目が8本見られ、よく使いこまれてツルツルしている。	ナデ	ナデ	橙色 橙色	長(1~2) ◎		

表 187 SD412 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
921	壺	底径 (23.4) 残高 3.8	底部の小片。	ナデ ハケ(5~6/cm)	ナデ	褐色 褐灰色	石・長(1~3) ◎		
922	壺	口径 (8.1) 残高 3.9	外反する短い口縁部、口縁端面は丸い。	ヨコナデ	ハケ→ナデ	灰白色 灰白色	長(1) ◎		

表 188 SD413 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
923	坏身	口径 (12.5) 残高 3.5	短く水平に伸びる受け部、たちあがりは、内傾し外反する。	◎回転ヘラケズリ ◎回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		

表 189 グリッド出土遺物観察表 (土製品)



番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
924	坏	口径 (11.0) 底径 (6.9) 器高 3.8	体部は外傾し、口縁端面は丸い。底部に板状圧痕が見られる。	ヨコナデ	ナデ	橙色 浅黄橙色	石・長(1~3) ◎	Z11区	
925	埴	底径 (6.8) 残高 2.1	底部に断面三角形の高台を、貼り付ける。	ヨコナデ	ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1~3) 金 ◎	A12区	
926	埴	底径 (6.8) 残高 1.7	底部に断面三角形の高台を、貼り付ける。	ナデ	ミガキ	灰黄褐色 灰黄褐色	長(1) 金 ◎	X11区	
927	埴	底径 (6.9) 残高 1.9	底部に断面三角形の高台を、貼り付ける。	ヨコナデ	ミガキ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長(1~3) 金 ◎	Z11区	
928	碗	底径 5.2 残高 3.2	削り出し高台、畳付は露胎。外面に直線状の押し形文がある。青磁。	施釉	施釉	(胎) 灰白色 (釉) 明オリブ灰色	密 ◎	A12区	30
929	坏蓋	つまみ径 3.4 残高 2.8	中央部が窪むつまみをもつ。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	Z11区	
930	坏蓋	残高 3.8	つまみの中央部は窪み、ナデにより中央部が凸状である。	◎回転ヘラケズリ ◎回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	長(1~2) 密 ◎	Y12区	
931	坏蓋	口径 (12.9) 残高 3.1	口縁端面は丸い。	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	長(1~2) 密 ◎	Y12区	
932	坏身	口径 (12.1) 残高 3.0	短く水平に伸びる受け部、たちあがりは、内傾し端部は丸い。	◎◎回転ナデ ◎◎回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	Y13区	
933	高坏	底径 (11.1) 残高 3.4	高坏の脚部。脚端部はナデにより窪む。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	長(1~2) 密 ◎	Z11区	
934	壺	口径 (17.8) 残高 4.5	外反する口縁部は、肥厚され丸い。口縁端面に凹線状のくぼみが見られる。	タタキ→ナデ	ナデ 指頭痕	灰色 灰色	密 ◎	Z11区	

出土遺物一覧

表 190 グリッド出土遺物観察表（石製品）

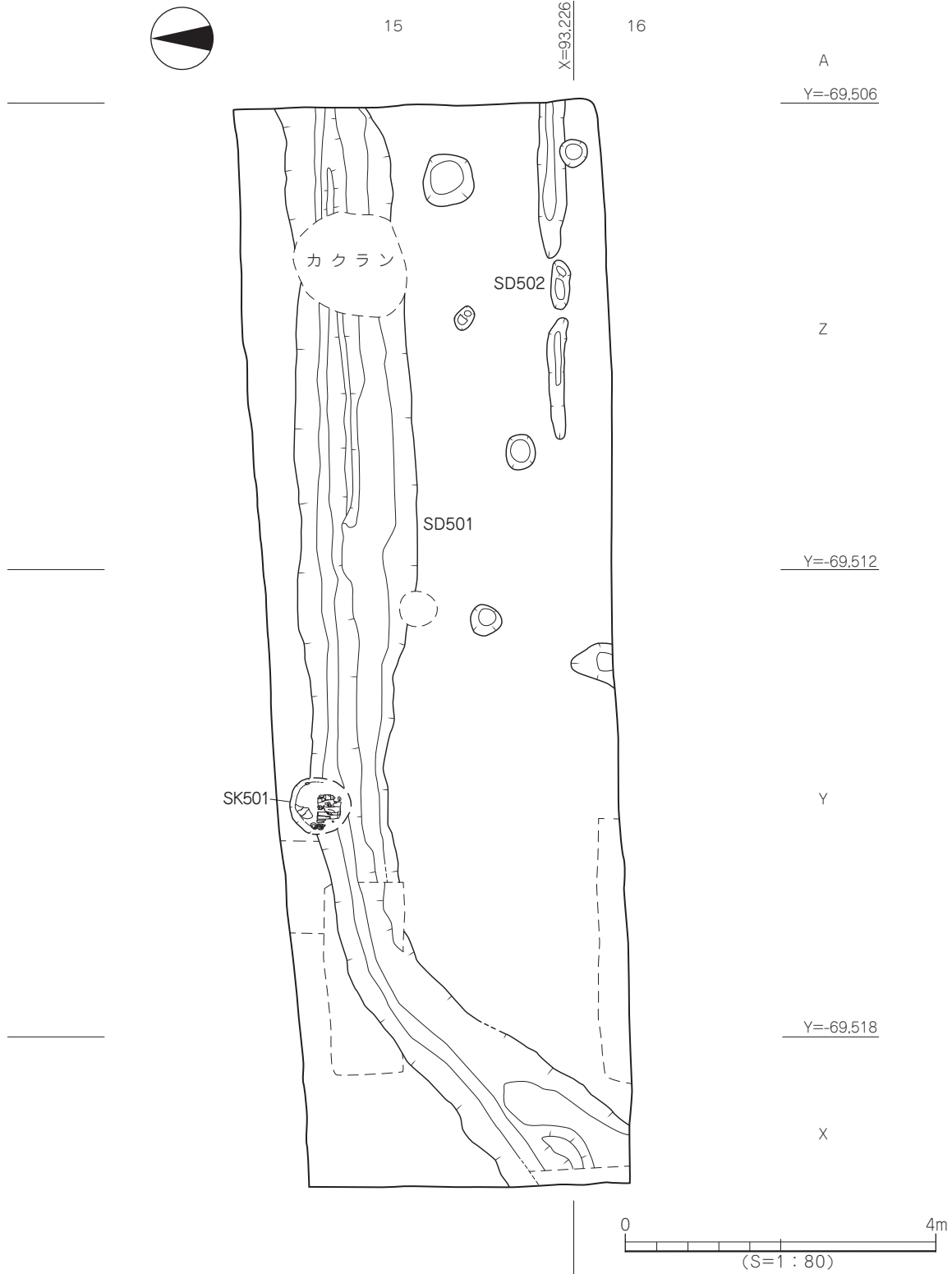
番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
935	石斧	刃部		(8.5)	5.0~5.9	2.1~3.0	291.26	磨製石斧、側面に 敲打痕が見られる。 Z11区	
936	擦り石	完形		9.9	9.8	18~3.1	431.93	Z11区	
937	砥石			(11.7)	(3.3)	(1.6)	93.62	Y12区	

表 191 出土地点不明遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
938	皿	底径 (5.0) 残高 1.3	底部に板状圧痕が見られる。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	石・長(1~2) 金 ◎		
939	坏	口径 (11.6) 底径 (7.0) 器高 3.1	体部は内湾してたちあがる。底部の切り離しは、回転糸切りである。底部に板状圧痕が見られる。	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	密 金 ◎		
940	土釜	残高 5.8	三足付土釜の脚部。	ナデ		灰黄色	石・長(1~2) ◎		
941	碗	口径 (16.8) 残高 2.0	口縁部の小片。青磁。	施釉	施釉	(胎) 灰色 (釉) 灰オリーブ色	密 ◎		
942	坏身	口径 (13.4) 残高 4.5	短く水平に伸びる受け部、たちあがりは、内傾し端部は先細りで丸い。	◎  回転ナデ ◎  回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1~2) 金 密 ◎		

### 6. 5区の調査 (第267図、図版24)

5区は、4区の道路を隔てた南側に位置する。調査区は、東西14m、南北5mを測る長方形状である。5区では、中世の遺構や遺物を検出した。検出遺構は、溝2条、土墳墓1基、柱穴6基である。出土遺物は、土師器(中世)、須恵器(中世)、陶磁器(中世)、石器、木製品、人骨がある。



第267図 5区遺構配置図

(1) 中世

1) 土墳墓

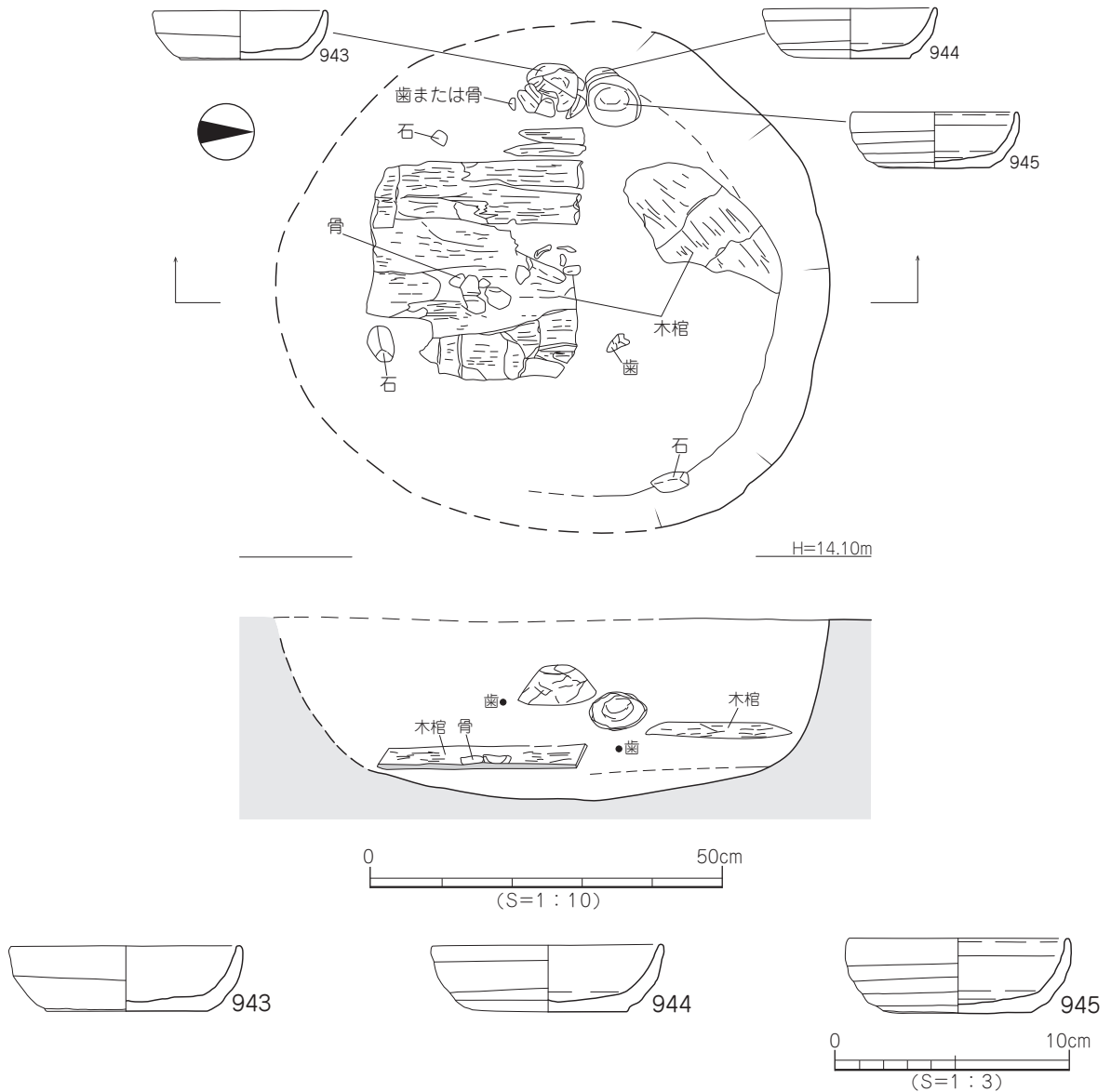
SK501 (第268図、図版24・30)

SK501は、調査区のY15区に位置し、SD501に切られる。墓壇の平面形態は円形で、規模は径0.50m、深さ0.25mを測る。断面形態は、逆台形状である。埋土は、褐灰色土(7.5YR 5/2)に橙色土(7.5YR7/6)混じり、である。出土遺物には、土師器の坏、須恵器、人骨、木棺がある。土師器の坏3点は完形品で、土壇墓の西側に重なるように出土した。木棺は、底板を確認し、底板上面に人骨が確認できたが、保存状態が悪く木棺、人骨ともに取り上げはできなかった。

出土遺物 (943～945)

943～945は土師器の坏の完形品。体部は内湾して立ち上がり、口縁端部は先細りである。底部の切り離しは、回転糸切りである。944・945の体部外面は、強いナデにより段が見られる。

時期：出土遺物から、16世紀末～17世紀初頭の土壇墓と考えられる。



第268図 SK501 測量図・出土遺物実測図

2) 溝

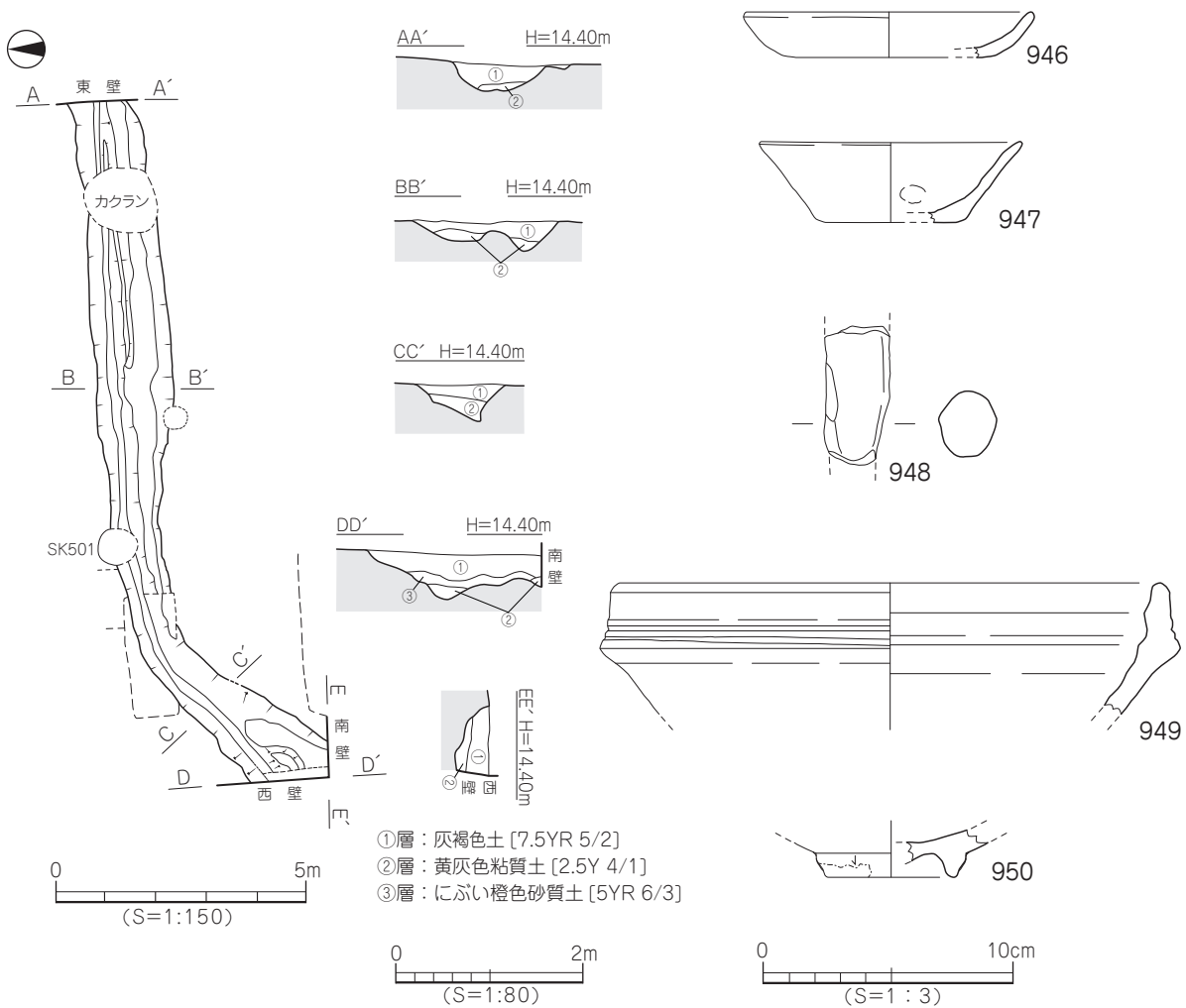
SD501 (第269・270図、図版30)

SD501は、調査区のZ15～X16区に位置する東西方向の溝で、SK501を切り、カクランに切られる。規模は、検出長15.0m、幅1.2～1.5m、深さ0.46mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、①灰褐色土(7.5YR 5/2)、②黄灰色粘質土(2.5Y 4/1)、③にぶい橙色砂質土(5YR 6/3)である。出土遺物には、土師器、須恵器、備前焼きの陶器の播鉢、石製品がある。

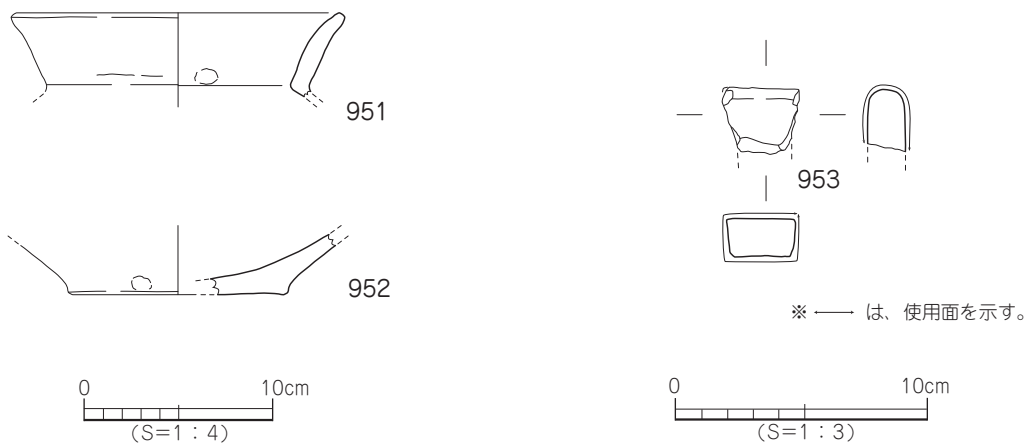
出土遺物(946～953)

946～948は土師器。946は皿。外傾し内湾する体部、口縁端部は丸い。947は坏。外傾する体部。口縁部は先細りで尖り気味である。948は土釜。三足付土釜の脚部である。949・950は陶器。949は備前焼の播鉢。口縁端部は直立し、外面に凹線が2条巡る。950は唐津焼の碗の高台部。畳付は露胎。951・952は弥生土器。951は甕形土器の口縁部。952は壺形土器の底部。黒斑がある。953は砥石。石材は流紋岩。

時期：出土遺物と形状からは、15世紀末～16世紀初頭の集落を区画する溝と考えられる。



第269図 SD501 測量図・出土遺物実測図(1)

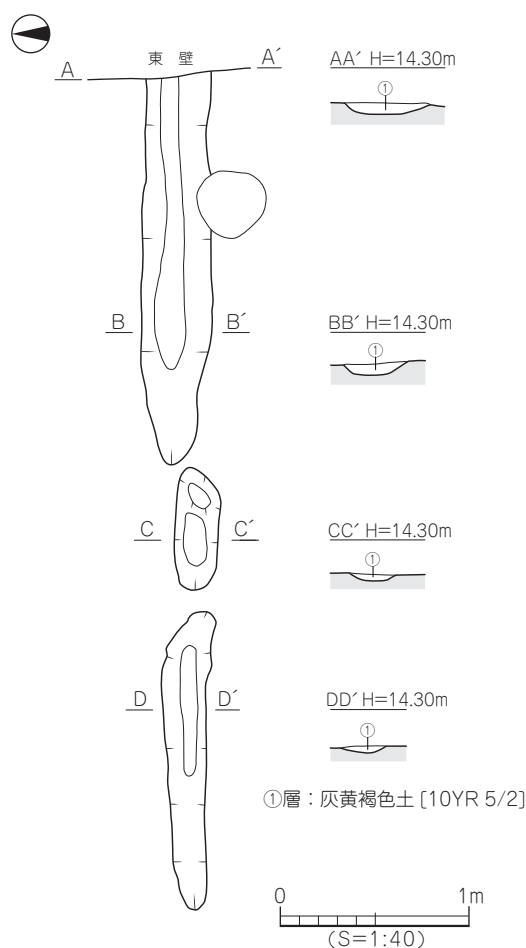


第270図 SD501 出土遺物実測図(2)

SD502 (第271図)

SD502は、調査区のZ15区に位置する東西方向の溝で、東側は調査区外につづき、中央部は途切れる。規模は、検出長4.44m、幅0.23～0.45m、深さ0.04～0.06mを測る。断面形態は、レンズ状である。埋土は、灰黄褐色土(10YR 5/2)である。出土遺物はない。

時期：埋土からは、中世の溝と考えられる。

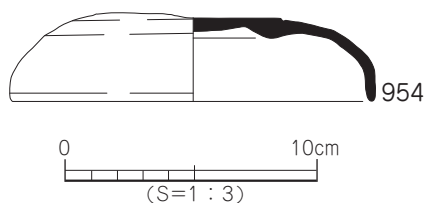


第271図 SD502 測量図

3) グリッド出土遺物

出土遺物 (954) (第272図)

954は須恵器の坏蓋。扁平な天井部、口縁部は直立して接地する。天井部と口縁部を分ける稜は、不明瞭である。Y15区出土。



第272図 グリッド出土遺物実測図

南江戸上沖遺跡2次調査5区

遺構・遺物一覧 — 凡例 —

(1) 以下の表は、本調査地検出の遺構と出土遺物の計測値及び観察一覧である。

(2) 出土遺物観察表の各掲載について

法量欄 ( ): 推定復元値

調整欄 土製品の各部名称を略記した。

例) ㊦→天井部、㊦下→天井部下部、㊦→口縁部

胎土・焼成欄 胎土欄では混和剤を略記した。

例) 石→石英、長→長石、密→精製土。

( ) 中の数値は混和剤粒子の大きさを示す。

例) 石・長 (1~4) →「1mm~4mm 大の石英・長石を含む」である。

焼成欄の略記について。

◎→良好

表 192 5区土坑墓一覧

土坑墓 (SK)	地区	平面形	断面形	規模 長径×短径×深さ (m)	埋土	出土遺物	時期	備考
501	Y15	円形	逆台形状	0.50 × 0.50 × 0.25	灰褐色土 (75YR 5/2) に橙色土 (75YR7/6) 混じり	土師器 須恵器 人骨・桶	16世紀末 ~17世紀初頭	SD501に 切られる。

表 193 5区溝一覧

溝 (SD)	地区	方向	断面形	規模 長さ×幅×深さ (m)	埋土	出土遺物	時期	備考
501	Z15 ~ X16	東西	レンズ状	(15.00) × 1.20 ~ 1.50 × 0.46	①灰褐色土 (75YR 5/2) ②黄灰色粘質土 (25Y4/1) ③にぶい橙色砂質土 (5YR 6/3)	土師器 須恵器 陶器 石製品	15世紀末 ~16世紀初頭	SK501を切り カクランに 切られる。 区画溝
502	Z15	東西	レンズ状	4.44 × 0.23 ~ 0.45 × 0.04 ~ 0.06	灰黄褐色土 (10YR 5/2)	なし	中世	東側は 調査区外

表 194 SK501 (土坑墓) 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面 内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
943	坏	口径 9.7 底径 6.9 器高 2.8	体部は内湾してたちあがり、口縁端部は、先細りである。底部の切り離しは、回転糸切りである。完形品。	ヨコナデ	ヨコナデ	淡橙色 淡橙色	密 ◎		30
944	坏	口径 9.7 底径 6.6 器高 2.8	体部は内湾してたちあがり、口縁端部は先細りである。底部の切り離しは、回転糸切りである。完形品。	強いヨコナデ 工具痕が残る	ヨコナデ	灰白色・橙色 灰白色・にぶい橙色	密 ◎		30
945	坏	口径 9.3 底径 6.4 器高 3.2	体部は内湾してたちあがり、口縁端部は先細りである。底部の切り離しは、回転糸切りである。完形品。	強いヨコナデ 工具痕が残る	ヨコナデ	にぶい橙色 灰白色	密 ◎		30

出土遺物一覧

表 195 SD501 出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
946	皿	口径 (11.8) 底径 (8.0) 器高 1.8	外傾し内湾する短い体部、口縁端部は丸い。	ヨコナデ	ヨコナデ	黒褐色 黒褐色	石・長 (1) ◎	上層	
947	坏	口径 (10.4) 底径 (5.6) 器高 3.2	外傾する体部、口縁部は先細りで尖り気味である。	ナデ	ヨコナデ	橙色 橙色	長 (1) ◎	上層	
948	土釜	残高 5.5	三足付土釜の脚部である。	ナデ		にぶい黄橙色	長 (1~2) ◎	上層	
949	播鉢	口径 (21.6) 残高 5.2	口縁端部は直立し、外面に凹線が2条巡る。備前焼。	ナデ	回転ナデ	赤灰色 明赤褐色	密 ◎	下層	
950	碗	底径 (5.0) 残高 1.9	高台の小片。畳付は露胎。唐津焼。	施釉	施釉	(胎) 灰白色 (釉) 灰オリーブ色	密 ◎	下層	30
951	甕	口径 (17.0) 残高 4.4	弥生土器の甕形土器の口縁部。外傾する口縁部は、端部手前で外反する。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	石・長 (1~3) ◎	上層	
952	壺	底径 (11.1) 残高 3.2	弥生土器の壺形土器の底部。	ナデ	マメツ	褐灰色 黒色	石・長 (1~3) ◎	底部に 黒斑 下層	

表 196 SD501 出土遺物観察表 (石製品)

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
953	砥石		流紋岩	(2.5)	3.0	1.5	16.16	上層	

表 197 グリッド出土遺物観察表 (土製品)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
954	坏蓋	口径 (14.2) 器高 3.5	扁平な天井部、口縁部は直立して接地する。天井部と口縁部を分ける境は、不明瞭である。	◎回転ヘラケズリ ◎◎回転ナデ	◎ナデ ◎回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎	Y15 区	



## 7. 小結

2次調査1区～5区では、中世の集落に関連する遺構を多数検出した。検出した遺構は、1次調査から延びる区画溝、井戸18基、土壙墓6基である。

区画溝：1次調査で確認されたSD6が東西に延び、東側は2区SD201～1区SD106につづき南に折れ曲がる、西側は3区SD304につづき調査区外に延びる。また、集落を区画する東西方向の溝は1次調査で検出したSD6に平行するSD10があり、このSD10も東西方向に延びる溝を検出した。東側は2区SD202・203・204につづき1区と2区の間にある道路上で南に折れ曲がると思われる。西側は、3区SD302につづき調査区外に延びる。1次調査でSD10から南に接続するSD8の南側からは4区SD406が続き調査区外に延びる。1次調査SD11から南に折れ曲がるSD9は、4区SD407につづき調査区外に延びる。検出した1次SD6から続く区画溝は、検出規模が長さ65mを測り、これは松環古照遺跡や南斎院土居北遺跡で検出された方形館2基より広い区画溝になる。また東西方向に延びるSD6に平行な溝SD10は、南北方向の溝SD8につづき「T」字状に区画される溝である。また、「T」字状に区画された溝の南西に平行に逆「L」字状に廻る溝があり、中世の集落構造を研究する資料になる。

井戸：18基を検出した。形状は円形と方形とがある。円形の井戸の規模は径1～2mを測り、上部には石組み、下部には木製の曲げ物を二段と一段に据えるものがある。また、石組みがなく、曲げ物だけを二段ないし一段据える井戸、上部から下部まで石組みの井戸など多くの形態があった。また、方形の井戸SE204とSE401の規模は一辺2mを測り、上部には石組み、下部には四隅に杭を打ち、横木は臍穴で固定していた。今回の調査で、形状と規模が異なる井戸を多数検出したことは、中世の井戸を研究する上で良好な資料を得たことになる。

土壙墓：6基を検出した。SK309～SK313の5基は木棺と人骨が残り、土師器の坏と釘が出土し、さらには土師器の坏外面には墨書による文字が読みとれた。中世の土壙墓を研究する良好な資料である。

以上、今回の調査では、中世の集落を区画する溝を確認し、区画内には井戸や墓があり、多数の土師器・須恵器・陶磁器などが出土したことで、調査地や周辺地域には、中世集落の存在が明らかになった。加えて中世の集落が大峰ヶ台丘陵の南側から南江戸の東側まで広がることが判明したのである。今後は周辺の詳細な調査をし、中世における集落の様相や構造等について解明していく必要がある。

## 第4章 南江戸上沖遺跡出土の中世人骨

松下真実\*・松下孝幸\*\*

【キーワード】：愛媛県、中世人骨、側臥、坐位、仰臥、木棺、保存不良

### はじめに

愛媛県松山市南江戸一丁目<sup>かみおき</sup>に所在する南江戸上沖遺跡の発掘調査が、松山駅周辺土地区画整備事業に伴い、2015（平成27）年度と2016（平成28）年度におこなわれた。1次調査（2015年8月～2016年1月）では2体、2次調査（2016年2月～7月）では5体の人骨が出土した。

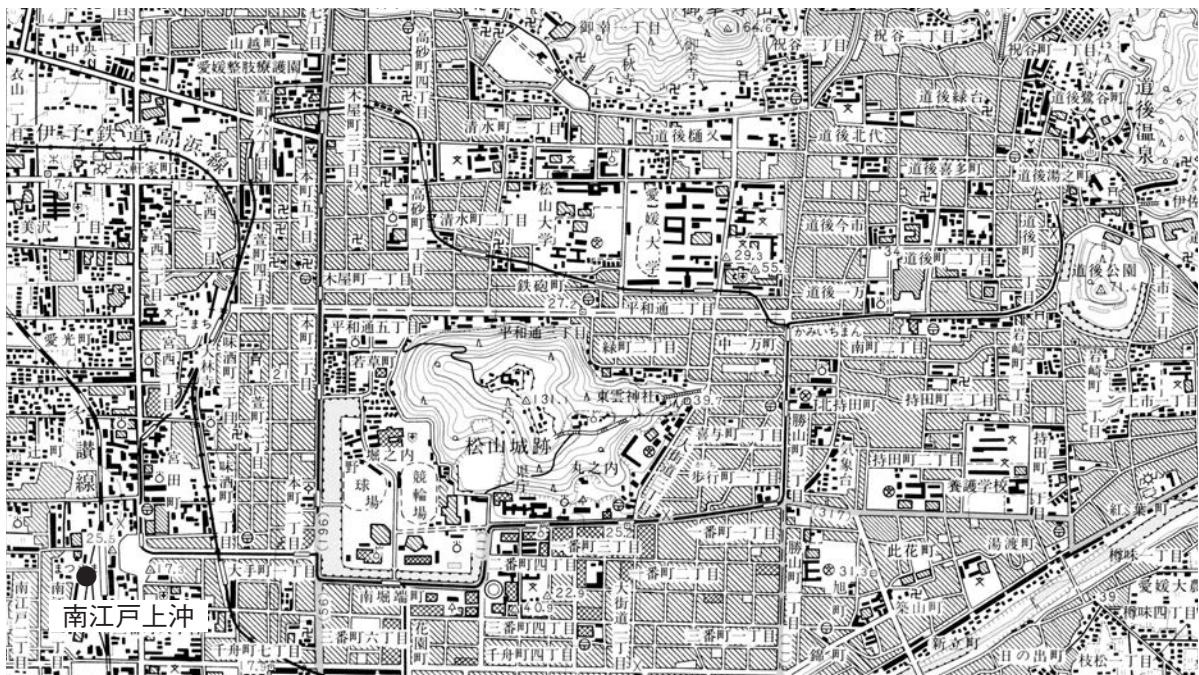
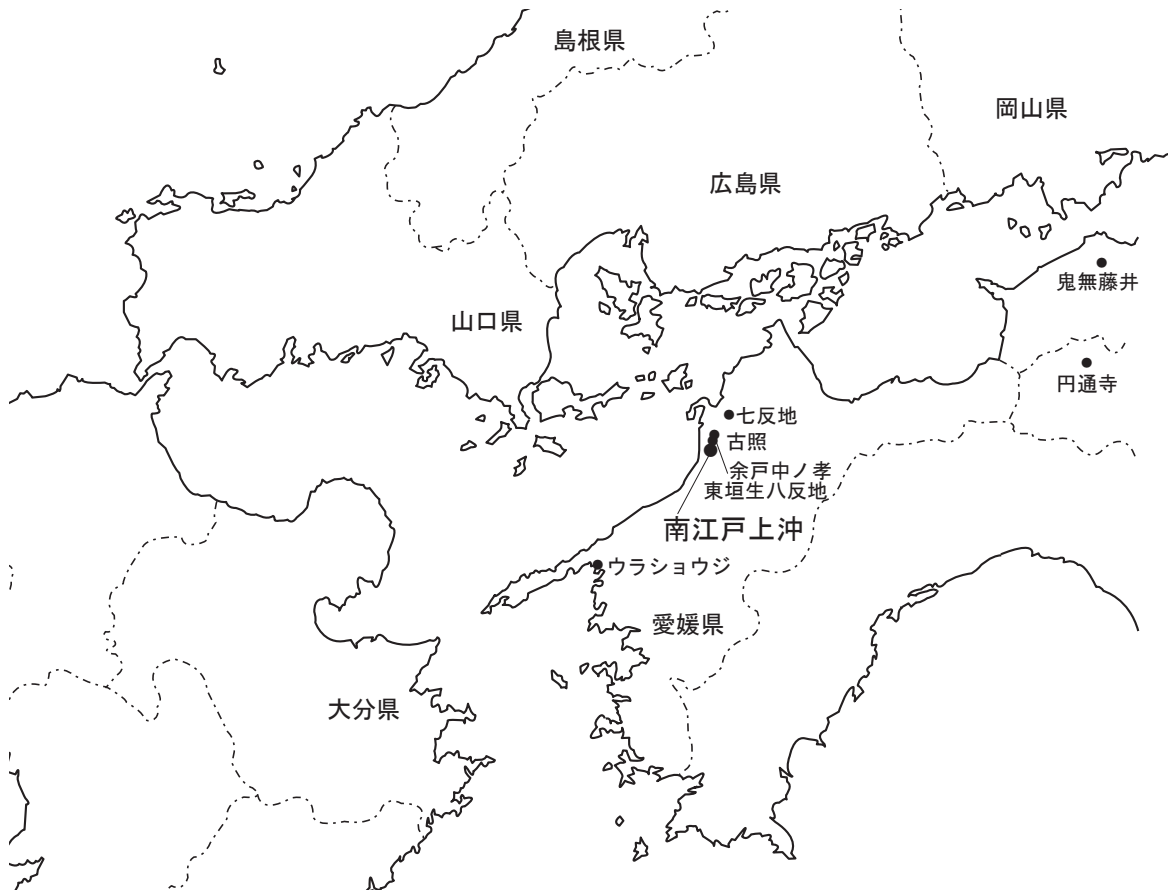
1次調査区で検出された遺構は古墳時代から近現代までの遺跡で、人骨は鎌倉時代の溝と柱穴から出土した。2次調査区からは15世紀～16世紀の墓が5基検出され、5体の人骨が出土した。



第273図 調査区全景写真

愛媛県で筆者らが調査や鑑定<sup>の</sup>依頼を受けた人骨のうち中世人骨は松山市の古照遺跡（松下、1998）と七反地遺跡（松下、2000）、余戸中ノ孝遺跡、余戸中ノ孝遺跡3次調査、東垣生八反地遺跡および八幡浜市のウラショウジ遺跡（松下、1999）から出土した中世人骨のみである。古照遺跡からは14世紀末頃の1体の壮年・女性骨が出土している。頭型や顔面の特徴は不明であるが、四肢骨が細い女性であった。七反地遺跡からは5体（男2、女3）の中世人骨が出土している。男性は長頭型を示し、歯槽性突顎がみられたが、女性の頭型と顔面の特徴は明らかにできなかった。男性の上腕骨と大腿骨は長く、男性の脛骨と女性の大腿骨、脛骨は短く、骨体は男女ともに細いものであった。また、男性は高身長であったが、女性は低身長であった。ウラショウジ遺跡からは16世紀に属する熟年・男性骨と年齢不明の女性骨がそれぞれ1体ずつ出土している。頭型や顔面の特徴は不明で、四肢骨は下肢骨しか残っていなかったが、男女とも下肢骨は細いものであった。余戸中ノ孝遺跡では、愛媛県では初例となる円形の溝を伴った土壙墓（1号墓）が出土しており、この1号墓から出土した男性人骨は頭蓋の保存状態が悪く、頭型や顔面の特徴は不明であるが、下顎骨や四肢骨が巨大で、身長が高く、被葬者はきわめて屈強な巨漢であったことが判明している。

本人骨の遺存状態は必ずしも良好なものではないが、2次調査では現場で人骨の発掘調査をおこなうことができたので、人骨を詳細に観察した。なかには計測が可能な人骨もあったので、その結果を報告しておきたい。



第 274 図 遺跡の位置図 (1/25,000)  
 (Fig.1 Location of the Minamiedokamioki site, Matsuyama City, Ehime Prefecture)

## 資 料

1次調査では2基の遺構（SD11）（SP487）から2体、2次調査では5基の墓（SK309、SK310、SK311、SK312、SK313）から5体の人骨が出土した（表198）。性別や年齢は表199のとおりである。また、本人骨は考古学的所見より、1次調査区出土人骨は鎌倉時代に、2次調査区出土人骨は室町時代（15世紀～16世紀）に属する人骨である。各骨の残存状態は図280・281に示すとおりで、保存状態は悪い。

計測方法は、Martin-Saller（1957）によった。なお、年齢区分は表200の基準のとおりである。

表198 資料数 (Table 1. Number of materials)

	成 人			幼小児	合 計
	男性	女性	不明		
1次調査	0	0	1	1	2
2次調査	3	1	1	0	5

表199 出土人骨一覧 (Table 2. List of skeletons)

	人骨番号	性別	年齢	頭位	備考
1次調査	SP487	不明	不明	－	柱穴から検出
	SD11	－	幼児	－	溝から検出
2次調査	SK309	男性	不明	北	側臥（右を下）、木棺
	SK310	不明	不明	南	坐位、顔は北向き
	SK311	男性	壮年	南	坐位、箱棺、顔は北向き
	SK312	女性	熟年	北	坐位（仰臥屈葬）
	SK313	男性	壮年	北	仰臥

表200 年齢区分 (Table 3. Division of age)

	年齢区分	年 齢
未成人	乳児	1歳未満
	幼児	1歳～5歳（第一大臼歯萌出直前まで）
	小児	6歳～15歳（第一大臼歯萌出から第二大臼歯歯根完成まで）
	成年	16歳～20歳（蝶後頭軟骨結合癒合まで）
成人	壮年	21歳～39歳（40歳未満）
	熟年	40歳～59歳（60歳未満）
	老年	60歳以上

注）成年という用語については土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書（1996）を参照されたい。

## 所 見

### I 人骨の検出状況と埋葬姿勢

#### SK309 (男性・年齢不明)

埋葬遺構は方形の木棺である。蓋板、側板、底板が残存していた。埋葬姿勢は右を下にした側臥で、頭位は北である。ほぼ全身骨が残存していたが、遺存状態は著しく悪く、緻密質や皮質が剥落し、脆弱で、人骨はほとんど取り上げることができなかった。右側肘関節は約60度に屈曲していたが、左側肘関節は伸展状態であった。膝関節は両側とも強屈して、右側に倒した状態で検出された。

頭部の東側に土師器(坏)が副葬されており、その他に須恵器、陶磁器が出土している。

#### SK310 (性別・年齢不明)

墓壙の平面プランは方形である。埋葬姿勢は坐位と思われる。頭は南に位置し、顔面は北を向いていた。残存していたのは頭蓋、右側上腕骨と前腕の骨、左右の大腿骨と脛骨である。膝を立てていたと思われるが、腐敗した際に膝関節がずれたと思われる。保存状態は著しく悪く、ほとんど取り上げられなかった。墓から土師器の杯、鉄小片が出土している。

#### SK311 (男性、壮年)

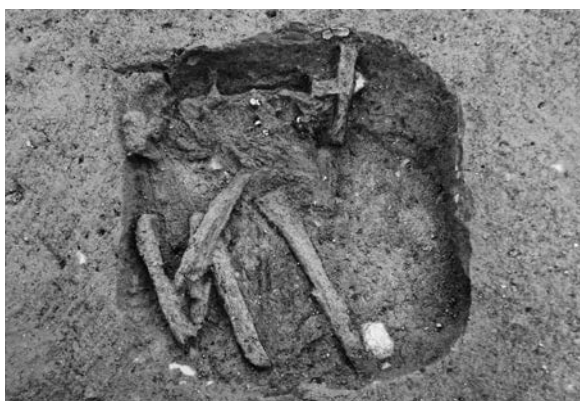
墓壙の平面プランは円形である。方形の底板が残存していたことから埋葬遺構は箱棺と思われる。埋葬姿勢は坐位で、下肢は胡座を組んでいた。頭の位置は南で、顔を北に向けて埋葬されていた。

残存していたのは頭蓋、上腕骨、尺骨、橈骨、左右の大腿骨と脛骨、腓骨である。頭蓋は木棺の範囲から北側にはみ出した状態で検出されたが、これは遺体が坐位で安置された際に上半身が前方に倒れ、伏せたような状態になっており、その後木棺の蓋が腐り木棺に内に土が侵入し、土圧で頭蓋が北側に押し出されたものと思われる。おそらく木棺の北側では埋め戻した土があまり締まっていなかったものと思われる。

墓からは土師器の杯、須恵器、鉄釘が出土している。



第275図 SK309 人骨出土状況写真



第276図 SK310 人骨出土状況写真



第277図 SK311 人骨出土状況写真

### SK312 (女性、熟年)

墓壙の平面プランは楕円形である。北頭位。残存していたのは頭蓋、左右の上腕骨、前腕の骨、大腿骨、脛骨、肋骨であるが、保存状態はきわめて悪い。左右の肘関節はやや強く曲げ、無造作に頭蓋付近に置かれていた。両側の膝関節は強屈し、下肢骨が腹部に乗った状態で、大腿骨の後面が上を向いた状態で検出された。埋葬姿勢は仰臥屈葬であるが、本来、坐葬を意識して埋葬したと思われる。身体が小柄だったことから、墓壙底で仰臥の姿勢になったものと思われる。

墓からは土師器の杯、須恵器、瓦器が出土している。



第 278 図 SK312 人骨出土状況写真

### SK313 (男性、壮年)

SK312 の西側に位置する。墓壙の平面プランは方形である。残存していたのは頭蓋、左側上腕骨、左側大腿骨と脛骨、腓骨と、そのほかに右側脛骨、左側鎖骨、肋骨が認められたが、ほとんど痕跡程度で、保存状態はきわめて悪い。肘関節の様態は不明であるが、膝関節は両側とも強屈して、右側へ倒っていた。埋葬姿勢は仰臥。頭蓋は右側へ倒れていた。左側上腕骨は後面がやや上を向いており、体は墓壙の東側に寄せられ、体が右側を下にしてやや右側へ傾いていた。体の左側がやや高くなっており、床も水平でないことから木棺は想定しがたい。右側の上肢骨や下肢骨はトレンチで破壊されていた。

墓からは土師器の杯、須恵器が出土している。



第 279 図 SK313 人骨出土状況写真

## II. 人骨の形質

各骨の計測値は文末に一括して掲げた。

### 1 次調査

#### SP487 (性別・年齢不明)

四肢骨片が残存していたにすぎない。遺存状態は著しく悪く、骨種を同定することはできなかったが、成人の四肢骨の骨体の一部である。性別、年齢は不明である。

#### SD11 (性別不明・幼児)

歯冠が1点残存していたにすぎない。下顎の左側第一大臼歯冠と思われる。咬耗は認められず、また、歯根も未完成である。

年齢は、下顎第一大臼歯の歯冠には咬耗がみられず、歯根も完成していないことから6歳未満の幼児と推定した。

## 南江戸上沖遺跡2次調査

### SK309 (男性・年齢不明)

#### 1. 頭蓋

##### (1) 脳頭蓋

遺存状態は著しく悪く、土によってかろうじて形が保たれている状態である。前頭結節や外後頭隆起の発達は不明である。また、乳様突起や外耳道、縫合の観察もできない。脳頭蓋は計測も観察もできないので、頭型は不明である。

##### (2) 顔面頭蓋

眉上弓の隆起の程度は不明であるが、鼻根部は扁平ではなさそうである。計測はできないが、観察したところ、顔面の高径は高そうである。下顎骨は、下顎体が残存していた。下顎体は高く大きい。

#### 2. 歯

上下両顎には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

／／	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	／／	[／：不明(破損)]
／	7	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	／／／	

(1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第一小臼歯、5：第二小臼歯、6：第一大臼歯、7：第二大臼歯、8：第三大臼歯)

咬耗度はBrocaの2度(咬耗が部分的に象牙質まで及ぶ)である。歯の咬合形式は不明である。

#### 3. 四肢骨

上腕骨と大腿骨を取り上げることができ、観察もできた。

##### ①上腕骨

両側の骨体が残存していた。保存状態は著しく悪く、皮一枚が残存しているような状態であった。遺存状態が悪いので、骨体の形質的特徴は不明である。

##### ②大腿骨

両側の骨体が残存していた。保存状態は悪く、ほとんど観察はできなかったが、骨体は大きそうである。現場で右側の最大長が計測できた。右側大腿骨最大長は405mm程度しかなく、長さはかなり短い。

#### 4. 推定身長値

現場で計測した右側大腿骨最大長から、Pearsonおよび藤井の公式を用いて推定身長値を算出すると、それぞれ157.45cm(Pearson、右)、154.94cm(藤井、右)となり、身長は低い。

#### 5. 性別・年齢

性別は、顔面の諸径や下顎体が大きく、四肢骨も大きいので、男性と推定した。年齢は不明である。

### SK310 (性別・年齢不明)

頭蓋片、歯、四肢骨を確認することができたが、保存状態が著しく悪く、ほとんど取り上げることができなかった。

## 1. 歯

遊離歯が残存していた。歯冠はやや小さい。残存歯を歯式で示すと、次のとおりである。

8 / 6 / 4 3 2 1		1 / / 4 / 6 / 8	[ / : 不明 (破損) ]
/ / 6 / 4 / / 1		/ / / 4 5 6 / 8	

(1: 中切歯、2: 側切歯、3: 犬歯、4: 第一小臼歯、5: 第二小臼歯、6: 第一大臼歯、7: 第二大臼歯、8: 第三大臼歯)

咬耗度は Broca の 1 度 (咬耗がエナメル質のみ) ~ 2 度 (咬耗が部分的に象牙質まで及ぶ) である。歯の咬合形式は不明である。

## 2. 四肢骨

上腕骨、大腿骨、脛骨が残存していた。

### ①上腕骨

右側の骨体が残存していたが、ほとんど痕跡程度で、骨体の大きさや三角筋粗面の観察はできなかった。

### ②大腿骨

両側の骨体が残存していた。遺存状態は著しく悪く、骨の痕跡が確認できたにすぎない。

### ③脛骨

両側の脛骨が残存していた。保存状態は悪く、痕跡程度しか残存していなかったため、形質的特徴は不明である。

## 3. 性別・年齢

性別、年齢は不明である。

## SK311 (男性・壮年)

歯、上腕骨、大腿骨、脛骨が残存していた。

## 1. 歯

遊離歯が残存していた。残存歯を歯式で示すと、次のとおりである。

/ / / / / 3 2 /		/ / 3 / / 6 / /	[ / : 不明 (破損) ]
/ / 6 / 4 / 2 /		1 / / / 5 / / /	

(1: 中切歯、2: 側切歯、3: 犬歯、4: 第一小臼歯、5: 第二小臼歯、6: 第一大臼歯、7: 第二大臼歯、8: 第三大臼歯)

咬耗度は Broca の 3 度 (咬耗が象牙質まで及ぶ) である。歯の咬合形式は不明である。

## 2. 四肢骨

### ①上腕骨

右側の骨体が残存していた。保存状態は著しく悪く、ほとんど痕跡状態で土によって形が保たれている状態である。計測も観察もできないので、形質的特徴は不明である。

### ②大腿骨

両側の骨体が残存していたが、保存状態は悪い。骨体は著しく大きく、粗線の発達は良好で、左側は骨体両側面の後方への発達が良好である。右側は土圧により前後方向に変形している。

計測値は、骨体中央周が 92mm (右)、94mm (左) で、骨体は著しく太い。骨体中央矢状径は 32mm (右)、29mm (左)、中央横径が 25mm (左)、30mm (左) で、骨体中央断面示数は 128.00 (右)、96.67 (左) となり、右側の骨体両側面の後方への発達は良好である。また、骨体上横径は 37mm (左)、骨体上矢状径は 12mm (左) で、上骨体断面示数は 59.46 (左) となり、骨体上部は扁平であるが、左側骨



体は土圧による変形を受けているようなので、示数値が実際よりも小さくなっている可能性がある。

### ③脛骨

両側の骨体が残存していたが、保存状態は悪い。計測はできないが、骨体は大きい。ヒラメ筋線や骨体の断面形は不明である。

## 3. 性別・年齢

性別は、大腿骨と脛骨の径が大きいことから、男性と推定した。年齢は不明である。

## SK312 (女性・熟年)

### 1. 頭蓋

前頭骨の右側半分と右側頭頂骨、右側側頭骨の一部が残存していた。保存状態は悪い。骨壁はやや厚い。前頭結節や外後頭隆起の発達は不明である。外耳道は両側とも観察できない。縫合は、冠状縫合とラムダ縫合の一部の観察ができた。冠状縫合の内板は完全に癒合している。外板もほぼ癒合しており、わずかに縫合が確認できる程度である。ラムダ縫合は内外両板とも開離している。脳頭蓋の計測はできなかった。観察もできないので、頭型は不明である。

下顎骨は、下顎体の一部が残存していたにすぎない。

### 2. 歯

下顎骨には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

/// / 4 / 2 1		/// / / / / / / /	[ / : 不明 (破損) ]
/ 7 6 5 4 3 2 1		1 2 / / / / / / /	

(1: 中切歯、2: 側切歯、3: 犬歯、4: 第一小臼歯、5: 第二小臼歯、6: 第一大臼歯、7: 第二大臼歯、8: 第三大臼歯)

咬耗度は Broca の 1 度 (咬耗がエナメル質のみ) ~ 2 度 (咬耗が部分的に象牙質まで及ぶ) である。歯の咬合形式は不明である。

### 3. 四肢骨

上腕骨、前腕の骨、大腿骨、脛骨が残存していたが、上肢骨の保存状態は著しく悪い。

#### ①大腿骨

右側の大腿骨が残存していたが、遺存状態は悪く、緻密質は剥落している。計測はできないが、骨体はかなり細い。粗線や骨体両側面の後方への発達は悪そうである。

#### ②脛骨

両側の骨体が残存していた。保存状態は著しく悪く、計測はできないが、骨体はかなり細い。ヒラメ筋線や骨体の断面形は不明である。

## 4. 性別・年齢

性別は、大腿骨と脛骨がかなり細いことから女性と推定した。年齢は、冠状縫合の内外両板が癒合し、ラムダ縫合は内外両板がまだ開離していることから、熟年と推定した。

## SK313 (男性・壮年)

### 1. 頭蓋

頭蓋の保存状態は悪く、頭蓋腔内に埋土が充填しており、かろうじて形が保たれている状態である。前頭骨から左側頭頂骨にかけてと右側側頭骨の外耳道周辺、前頭突起の一部が残存していた。前頭結

節の発達弱く、外後頭隆起の発達は良好である。眉上弓はやや隆起して居る。外耳道は両側とも観察できない。縫合は、冠状縫合とラムダ縫合の観察ができた。冠状縫合とラムダ縫合は内外両板とも開離している。脳頭蓋の計測や観察はできないので、頭型は不明である。

下顎骨は、下顎体が残存していた。保存状態は比較的良好である。下顎体や下顎枝は低い。

## 2. 歯

下顎骨には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

$\diagup$ 7 $\diagdown$ $\diagup$ $\diagdown$ 3 $\diagup$ $\diagdown$	$\diagup$ $\diagdown$ 3 $\diagup$ $\diagdown$ 6 $\diagup$ $\diagdown$
● ⑧ ⑦ ⑥ 5 4 ③ ② ①	$\diagup$ $\diagdown$ ③ 4 5 ⑥ 7 ● ⑧

[○：歯槽開存 ●：歯槽閉鎖 /：不明（破損）]

(1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第一小白歯、5：第二小白歯、6：第一大臼歯、7：第二大臼歯、8：第三大臼歯)

咬耗度は Broca の 1 度（咬耗がエナメル質のみ）～ 2 度（咬耗が部分的に象牙質まで及ぶ）である。歯の咬合形式は不明である。

## 3. 四肢骨

上腕骨、大腿骨、脛骨が残存していたが、計測や観察ができたのは上腕骨のみである。

### ①上腕骨

左側の骨体が残存していた。遺存状態は比較的良好である。骨体はかなり細いが、三角筋粗面の発達は良好である。

計測値は、中央周が 64mm（左）で、骨体はかなり細い。中央最大径は 20mm（左）、中央最小径が 17mm（左）で、骨体断面示数は 85.00（左）となり、骨体には扁平性は認められない。

## 4. 性別・年齢

性別は、前頭結節の発達は弱く、眉上弓はやや隆起しており、外後頭隆起の発達が良好なことから男性と推定した。年齢は、冠状縫合とラムダ縫合の内外両板が開離していることから壮年と推定した。

## 考 察

愛媛県では保存状態が良好な中世人骨の出土例は少なく、比較資料に乏しいので、愛媛県内の中世人のほか、広島県と山口県の中世人および例数が多い神奈川県鎌倉市の由比ヶ浜南遺跡出土の例と比較してみた。

### 1. 上腕骨

表 201 は男性上腕骨の比較表である。SK313 の中央周は 64mm（左）で、七反地土壙墓 4 と同値で、土井ヶ浜 1402（60mm）、七反地土壙墓 1-A（61mm）より大きい、その他の資料より小さく、上腕骨体は大きくない。骨体断面示数は 85.00（左）で、表 201 では最大値となり、骨体には扁平性は認められない。すなわち SK313 の上腕骨は、骨体がやや細く、扁平性がみられない上腕骨である。

### 2. 大腿骨

表 202 は男性大腿骨の比較表である。SK311 の骨体中央周は 92mm（右）で、余戸中ノ孝 1 号墓人骨（93mm）、助平（93mm）に次いで大きく、大腿骨はかなり太い。中央断面示数は 128mm（右）で、表 202 では最大値となり、SK311 の大腿骨は、中世人としては珍しく粗線や骨体両側面の後方への発達は良好である。

## 要 約

愛媛県松山市南江戸一丁目に所在する南江戸上沖遺跡の発掘調査が、松山駅周辺土地区画整備事業に伴い2015(平成27)年度と2016(平成28)年度におこなわれ、前者の1次調査では2体分の人骨(歯)が検出され、後者の2次調査では5体分の人骨が出土した。人骨の保存状態は著しく悪いものであったが、2次調査では現場で人骨の発掘調査をすることができ、残存していた人骨の同定と埋葬姿勢などを確認することができた。取り上げることができた人骨については計測や人類学的観察をおこない、以下の結果を得た。

1. 1次調査では溝と柱穴からそれぞれ1体分の人骨(歯)が検出され、2次調査では5基の埋葬遺構(墓)から5体分(男3体、女1体、性別不明1体)の成人骨が出土した。
2. 1次調査では溝と柱穴から人骨(歯)が検出されているが、溝から検出されたのは成人の四肢骨片(性別・年齢不明)のみで、柱穴からは永久歯冠が1個検出されたにすぎない。いずれも埋葬跡から出土したものではない。溝から検出された四肢骨片はおそらく遺棄された遺体の一部であろう。柱穴から検出されたのは幼児の遊離歯冠であることから、埋葬されていた遺体が攪乱され、残存していた歯冠が後世の土地改変の際に混入した可能性がある。未成人の埋葬は墓壇が浅いので、攪乱を受けやすい。
3. 考古学的所見から、1次調査で検出された2体の人骨は鎌倉時代に、2次調査で墓から出土した5体の人骨は15～16世紀(室町時代)に属する人骨と推測されている。
4. 2次調査で検出された5基の墓のうち、2基では木棺が使用されていた(SK309、SK311)。埋葬姿勢は、側臥が1体(SK309)、仰臥が1体(SK313)、坐位が3体(SK310、SK311、SK312)であるが、SK312は姿勢を坐位にして納棺したものの、小柄であったために棺底で体が滑って、結果的に仰臥 屈葬の姿勢で検出されたようである。
5. 男性の上腕骨(SK313)は、男性としては細く、骨体には扁平性が認められない上腕骨である。
6. 男性の大腿骨(SK311)は太く、粗線や骨体両側面の後方への発達はきわめて良好である。
7. 15～16世紀(室町時代)に属する5基の墓から検出された被葬者の埋葬姿勢に仰臥と側臥、坐位がみられた。側臥は中世にみられる埋葬姿勢で、坐位は近世に盛行する埋葬姿勢である。中世から近世に移行する時期の埋葬跡で、埋葬姿勢に側臥と坐位の両方が混在する状況は、埋葬施設や埋葬姿勢といった葬送儀礼の形態が変化する状況を物語っており、移行期の様相を知ることができた貴重な事例である。
8. 大腿骨体が太い中世人の例が増えつつある。今後は被葬者の社会的地位や生活様式を含めて、その形質を検討していく必要がある。

### 謝辞

◀ 擧筆するにあたり、本研究と発表の機会を与えていただいた松山市埋蔵文化財センターの皆様方に感謝致します。 ▶

## 《参考文献》

1. 池田次郎、1980：帝釈寄倉岩陰遺跡出土の中世人骨について。広島大学文学部帝釈峽遺跡群発掘調査室年報Ⅲ：99-105.
2. Martin-Saller, 1957：Lehrbuch der Anthropologie. Bd.1.Gustav Fisher Verlag, Stuttgart：429-597.
3. 松下真実・他、2017：愛媛県松山市余戸中ノ孝遺跡出土の中世人骨。(投稿中)
4. 松下真実・他、2017：愛媛県松山市余戸中ノ孝遺跡3次調査出土の中世人骨。(投稿中)
5. 松下真実・他、愛媛県松山市東垣生八反地遺跡出土の中世人骨。(投稿中)
6. 松下孝幸、1987：広島県月見城出土の中世人骨。月見城遺跡（広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第54集）：97-106.
7. 松下孝幸・他、1992：東広島市助平古墳出土の古墳・中世人骨。西城第一土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ（東広島市教育委員会文化財調査報告書第21集）：127-134.
8. 松下孝幸、1996：土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査出土の中世・弥生時代人骨。土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書（山口県豊北町埋蔵文化財調査報告書第12集）：24-50.
9. 松下孝幸、1998：愛媛県松山市古照遺跡出土の中世人骨。斎院・古照新松山空港道路建設に伴う埋蔵文化財調査報告書（遺物編）：532-538.
10. 松下孝幸、1999：愛媛県八幡浜市ウラショウジ遺跡出土の中世人骨。愛媛県歴史博物館研究紀要第4号：96-123.
11. 松下孝幸、2000：愛媛県松山市七反地遺跡出土の中世人骨。道ヶ谷古墳・池の奥遺跡・平田七反地遺跡（一般国道196号松山北条バイパス埋蔵文化財調査報告書Ⅱ）（埋蔵文化財発掘調査報告書第86集）：391-422.
12. 松下孝幸、2002：神奈川県鎌倉市由比ヶ南遺跡出土の中世人骨。神奈川県・鎌倉市由比ヶ南遺跡〈第3分冊・分析編Ⅱ〉：1-99.
13. 松下孝幸、2002：鎌倉市由比ヶ南遺跡集骨墓出土人骨の埋葬と個体数および受傷人骨。神奈川県・鎌倉市由比ヶ南遺跡〈第3分冊・分析編Ⅱ〉：101-134.
14. 中橋孝博・他、1985：人骨（山口県下関市吉母浜遺跡出土人骨）。吉母浜遺跡：154-225.

---

\* Masami MATSUSHITA、\*\* Takayuki MATSUSHITA

The Organization of Anthropological Research〔NPO法人・人類学研究機構〕

表201上腕骨計測値(男性、右、mm)(Table 4. Comparison of measurements and indices of male right humeri)

	南江戸上沖		余戸中ノ孝		七反地		月見城		土井ヶ浜		吉母浜		由比ヶ浜南	
	中世人	愛媛県 松山市	中世人	愛媛県 松山市 (松下)	中世人	愛媛県 松山市 (松下)	中世人	広島県 広島市 (松下)	中世人	山口県 豊北町 (松下)	中世人	山口県 豊浦町 (中橋・他)	中世人	神奈川県 鎌倉市 (松下)
SK313	1号墓人骨		土壙墓1-A 土壙墓4		SK3		SK3		1402		n M		n M	
5. 中央最大径	20	(左)	27	21	(左)	22	24	20	22.9	41	22.22			
6. 中央最小径	17	(左)	21	16	(左)	16	15	20	17.3	41	17.10			
7. 骨体最小周	-		70	60	(左)	60	61	20	62.6	39	62.15			
7(a). 中央周	64	(左)	77	61	(左)	64	66	20	66.4	42	66.00			
6/5 骨体断面示数	85.00	(左)	-	76.19	(左)	72.73	62.50	66.67	75.6	(左)	77.04			

表202大腿骨計測値(男性、右、mm)(Table 5. Comparison of measurements and indices of male right femora)

	南江戸上沖		余戸中ノ孝		七反地		ウラシヨウジ		寄倉		月見城		助平		吉母浜		土井ヶ浜		由比ヶ浜南	
	中世人	愛媛県 松山市	中世人	愛媛県 松山市 (松下)	中世人	愛媛県 松山市 (松下)	中世人	愛媛県 八幡浜市 (松下)	中世人	広島県 (庄原市) (池田)	中世人	広島県 広島市 (松下)	中世人	東広島市 (松下・他)	中世人	山口県 下関市 (中橋・他)	中世人	山口県 豊北町 (松下)	中世人	神奈川県 鎌倉市 (松下)
SK311	1号墓人骨		土壙墓1-A 土壙墓4		SK3		SK3		1号人骨		SK3		1402		n M		n M		n M	
6. 骨体中央矢状径	32	31	25	29	29	(左)	29	29	29	(左)	31	19	27.7	24	81	27.32				
7. 骨体中央横径	25	29	25	27	(左)	27	28	27	(左)	28	27	19	27.5	26	81	26.27				
8. 骨体中央周	92	93	79	89	(左)	80	91	87	(左)	93	87	19	87.5	79	81	84.90				
6/7 骨体中央断面示数	128.00	106.90	100.00	107.41	(左)	107.40	103.6	107.41	(左)	110.71	100.6	92.31	104.49							

表203下顎骨(男性、mm、度)(Mandibula)

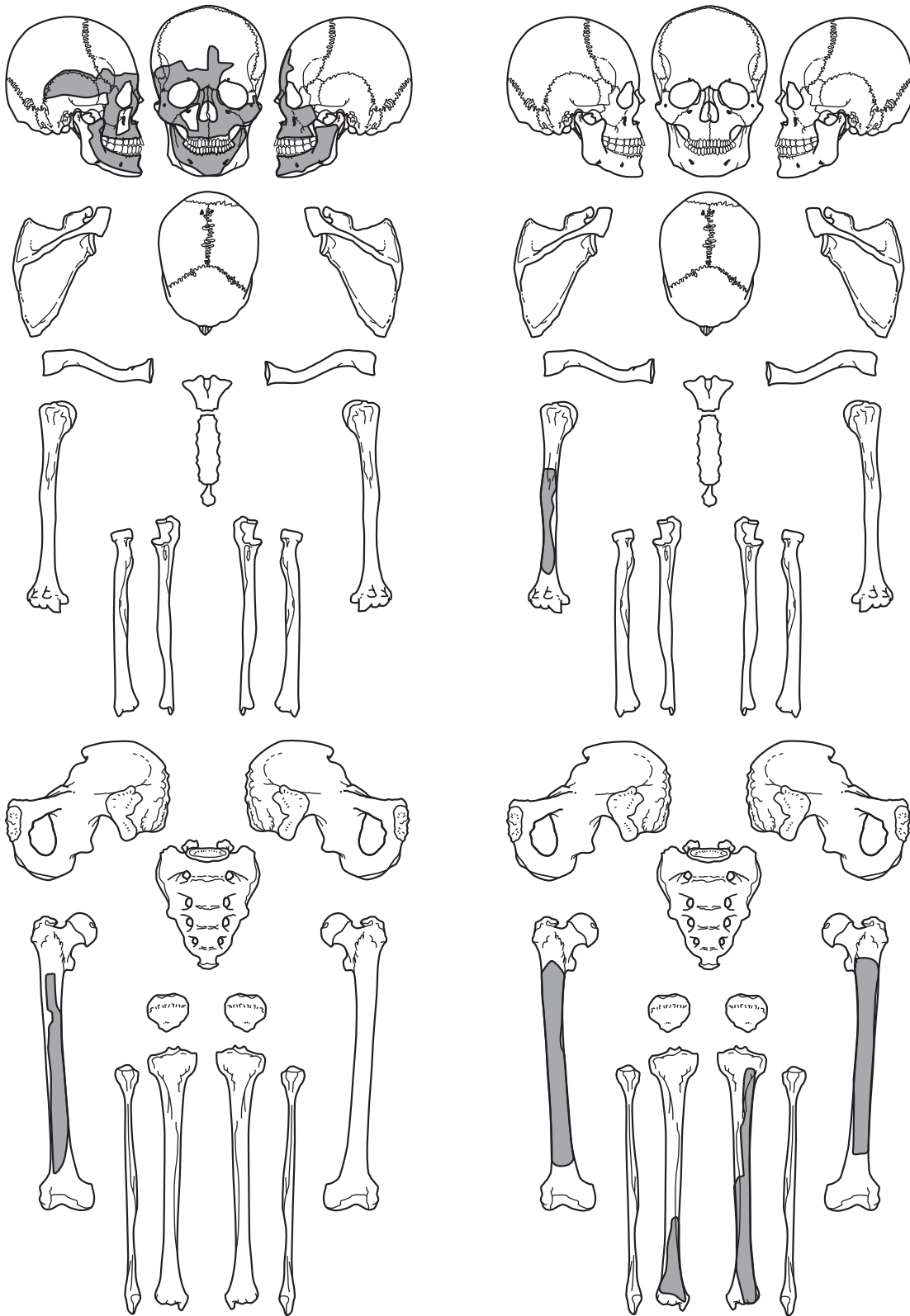
南江戸上沖 SK313 男性		
65	下顎関節突起幅	-
65(1)	下顎筋突起幅	-
66	下顎角幅	-
67	前下顎幅	42
68	下顎長	-
68(1)	下顎長	-
69	オトガイ高	-
69(1)	下顎体高(右)	-
	(左)	-
69(2)	下顎体高(右)	-
	(左)	(23)
70	枝高(右)	-
	(左)	-
70(1)	前枝高(右)	-
	(左)	-
70(2)	最小枝高(右)	-
	(左)	-
70(3)	下顎切痕高(右)	-
	(左)	-
71(1)	下顎切痕幅(右)	-
	(左)	-
71	枝幅(右)	-
	(左)	-
71a	最小枝幅(右)	-
	(左)	-
79	下顎枝角(右)	-
	(左)	-
66/65	下顎幅示数	-
68/65	幅長示数	-
68(1)/65	幅長示数(右)	-
69(2)/69	下顎高示数(右)	-
	(左)	-
71/70	下顎枝示数(右)	-
	(左)	-
71a/70(2)	下顎枝示数(右)	-
	(左)	-
70(3)/71(1)	下顎切痕示数(右)	-
	(左)	-

表204上腕骨(mm)(Humerus)

南江戸上沖 SK313 男性		
1.	上腕骨最大長(右)	-
	(左)	-
2.	上腕骨全長(右)	-
	(左)	-
3.	上端幅(右)	-
	(左)	-
3(1)	横上径(右)	-
	(左)	-
4.	下端幅(右)	-
	(左)	-
5.	中央最大径(右)	20
	(左)	-
6.	中央最小径(右)	17
	(左)	-
7.	骨体最小周(右)	-
	(左)	-
7(a)	中央周(右)	-
	(左)	64
8.	頭周(右)	-
	(左)	-
9.	頭最大横径(右)	-
	(左)	-
10.	頭最大矢状径(右)	-
	(左)	-
11.	滑車幅(右)	-
	(左)	-
12.	小頭幅(右)	-
	(左)	-
12(a)	滑車幅および小頭幅(右)	-
	(左)	-
13.	滑車深(右)	-
	(左)	-
14.	肘頭窩幅(右)	-
	(左)	-
15.	肘頭窩深(右)	-
	(左)	-
6/5	骨体断面示数(右)	-
	(左)	85.00
7/1	長厚示数(右)	-
	(左)	-

表205大腿骨(男性、mm)(Femur)

南江戸上沖 SK311 男性		
1.	最大長(右)	-
	(左)	-
2.	自然位全長(右)	-
	(左)	-
3.	最大転子長(右)	-
	(左)	-
4.	自然位転子長(右)	-
	(左)	-
6.	骨体中央矢状径(右)	32
	(左)	29
7.	骨体中央横径(右)	25
	(左)	30
8.	骨体中央周(右)	92
	(左)	94
9.	骨体上横径(右)	-
	(左)	37
10.	骨体上矢状径(右)	-
	(左)	22
15.	頸垂直径(右)	-
	(左)	-
16.	頸矢状径(右)	-
	(左)	-
17.	頸周(右)	-
	(左)	-
18.	頭垂直径(右)	-
	(左)	-
19.	頭横径(右)	-
	(左)	-
20.	頭周(右)	-
	(左)	-
21.	上頸幅(右)	-
	(左)	-
8/2	長厚示数(右)	-
	(左)	-
6/7	骨体中央断面示数(右)	128.00
	(左)	96.67
10/9	上骨体断面示数(右)	-
	(左)	59.46

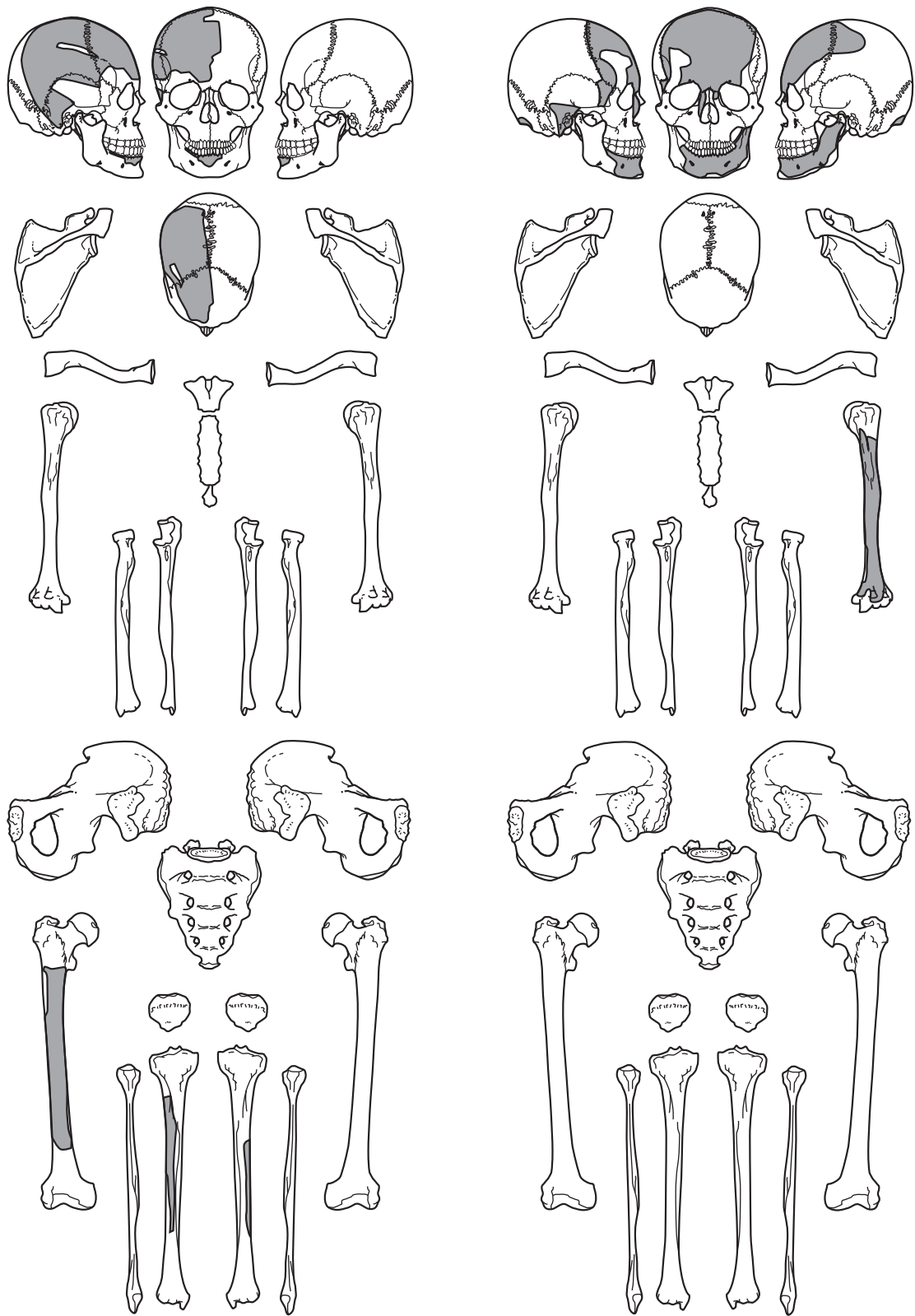


南江戸上沖2次・SK309 (男性・年齢不明)

南江戸上沖2次・SK311 (男性・壮年)

第280図 SK309・SK311 人骨の残存図 (アミかけ部分)

(Fig.2-1 Regions of Preservation of the skeleton. Shaded areas are preserved.)



南江戸上沖2次・SK312 (女性・熟年)

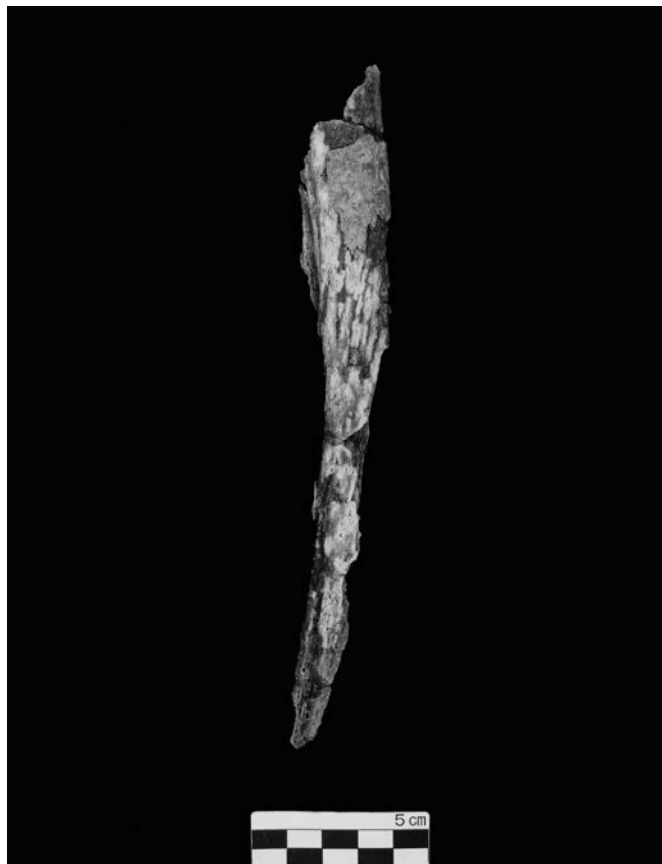
南江戸上沖2次・SK313 (男性・壮年)

第281図 SK312・SK313 人骨の残存図 (アミかけ部分)  
 (Fig.2-2 Regions of Preservation of the skeleton. Shaded areas are preserved.)



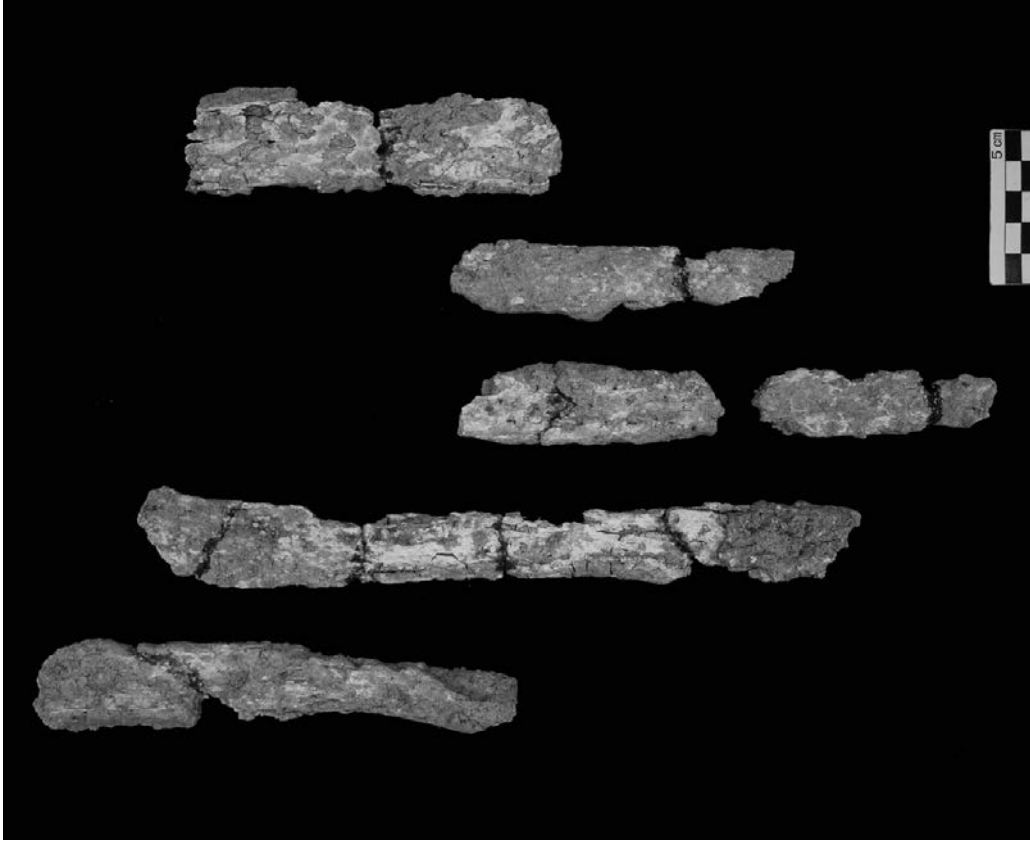


頭蓋 (The skull)



右大腿骨 (The right femur)

第 282 図 SK309 人骨写真 (男性・年齢不明)  
(The skeleton SK309 from the Minamiedokamioki site, male unknown age)



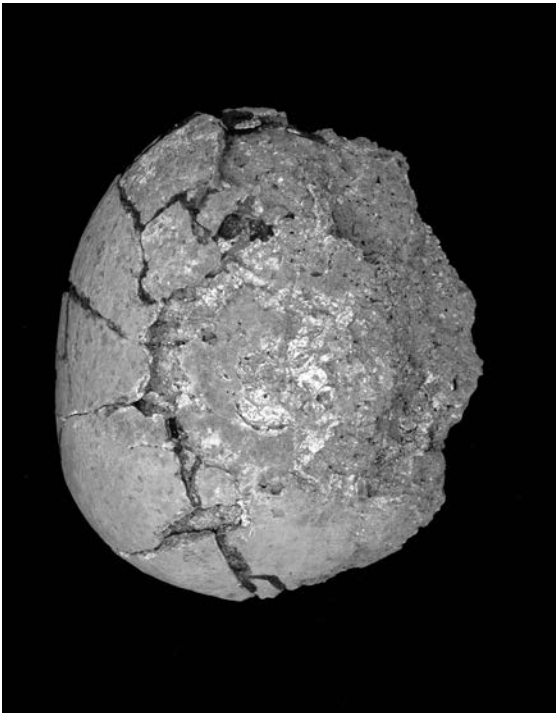
上肢骨 (Bones of the upper limb)

第 283 図 SK310 人骨写真 (性別・年齢不明)  
 ( The skeleton SK310 from the Minamiedokamioki site,  
 sex and age are unknown )



下肢骨 (Bones of the lower limb)

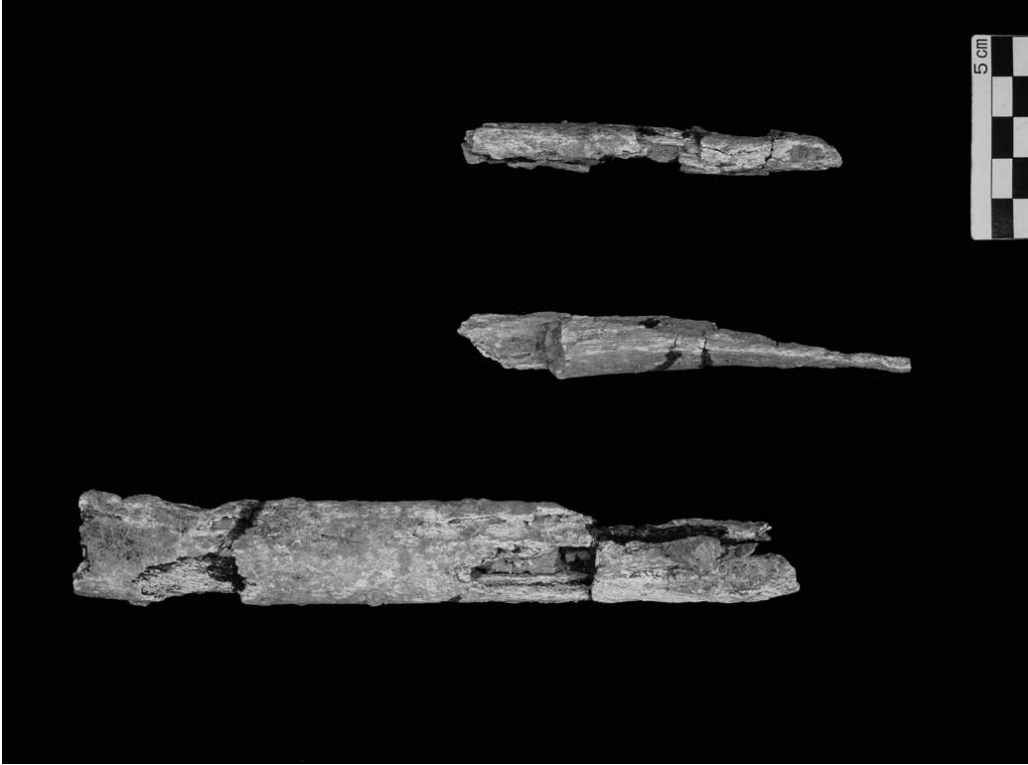
第 284 図 SK311 人骨写真 (男性・壮年)  
 (The skeleton SK311 from the Minamiedokamioki site,  
 young adult male)



頭蓋 (The skull)

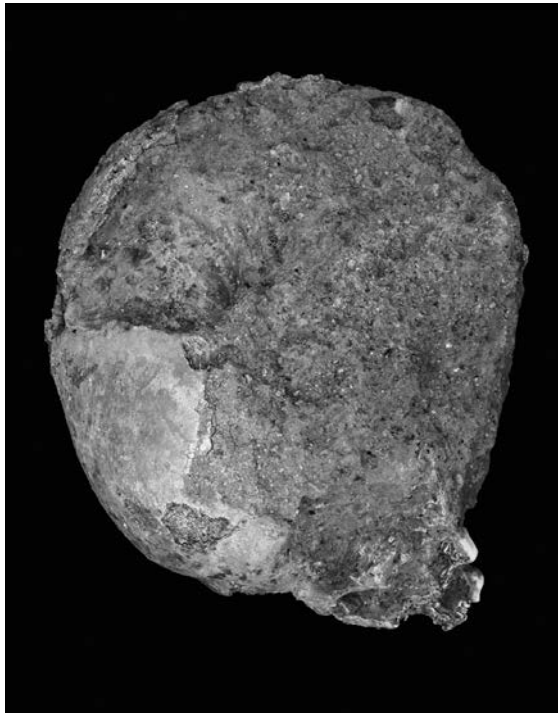


下顎骨 (The mandible)



下肢骨 (Bones of the lower limb)

第 285 図 SK312 人骨写真 (女性・熟年)  
( The skeleton SK312 from the Minamiedokamioki site, mature female )



頭蓋 (The skull)



下顎骨 (The mandible)



左上腕骨 (The left Humeri)

第286図 SK313 人骨写真 (男性・壮年)

( The skeleton SK313 from the Minamiedokamioki site, young adult male )

## 第5章 調査の成果と課題

松山駅周辺区画整備に伴い実施した南江戸上沖遺跡1次調査・2次調査では、古墳時代集落跡と中世の集落跡を確認し、それ等の関連遺構と遺物を多数検出した。ここでは松山平野でも検出事例の少ない古墳時代の祭祀遺構と、中世（近世？）の遺構（区画溝・土墳墓・井戸）について分析を行うものである。

### 1. 古墳時代の祭祀遺構

古墳時代5世紀後半～6世紀の祭祀遺構について、本調査の祭祀遺構SX1・SX2と本調査地から北へ約0.5kmにある辻町遺跡の祭祀遺構とを比較し、推移や土器の組成・構成等について分析を行う。

なお、記載に際しては、時期の古い辻町遺跡から資料を提示する。

#### (1) 資料

①辻町遺跡：5世紀後半から6世紀前半の祭祀遺構が1基（SX1）あり、掘方がない場所で（要確認）、50cm四方の範囲に須恵器（13点）と土師器（11点）が24点出土し、北側には須恵器、南側には土師器を配列した状況がある。出土品では、須恵器の坏身4点・坏蓋1点・高坏蓋4点・高坏3点・甗1点、土師器の甗2点・高坏6点・壺2点・埴1点が出土し、全てがほぼ完形品であった。また、土器以外にも白玉が出土し、土師器の長頸壺内から5点、その長頸壺の周辺から14点が出土している。

②辻町遺跡2次調査：6世紀初頭の祭祀遺構が7基あり、いずれも窪地や平坦面で、1～9m四方に須恵器と土師器が延べ134点出土し、完形品が据え置かれた状態であった。遺構別出土数は表207で、その延べ数では須恵器は81点（60.4%）、土師器は53点（39.0%）である。このうち須恵器は8器種81点で、坏身17点・坏蓋18点・高坏蓋6点・高坏27点・短頸壺1点・壺3点・甗7点・甗2点であり、坏（坏蓋・坏身）43.2%、高坏（蓋・高坏）40.7%で、坏と高坏で83.2%を占める。土師器は6器種53点で、甗19点・壺5点・高坏17点・埴9点・手捏ね2点・甗1点であり、甗と高坏で67.9%となり、土師器の約7割を占める。

なお、辻町遺跡と辻町遺跡2次調査は、ほぼ続く調査地（約20m離れている）であることから、以下の分析では同一資料として扱う。

③南江戸上沖遺跡1次調査：6世紀後半の祭祀遺構が2基（SX1・SX2）あり、3×5m四方に須恵器と土師器とが据え置いている状況で集中して出土し、いずれも完形品である。出土品は、SX1で58点（須恵器52点・土師器6点）、SX2で31点（須恵器22点・土師器9点）が出土している。本文では2つの遺構は同時期と考えられることから、その総数は89点、須恵器74点（83.1%）、土師器15点（16.9%）として取り扱う。このうち須恵器は5器種あり、坏身42点・坏蓋28点・高坏1点・短頸壺2点・平瓶1点で、坏身・坏蓋で70点があり、須恵器の94.6%を占めている。土師器は3器種で、甗7点・壺6点・埴2点であり、甗と壺はほぼ同数で、その2種で土師器の86.6%を占めている。

#### (2) 出土数と器種構成

出土数では、両遺跡の各遺構からの出土数は2大別でき、8～31点と50点以上のものがある。そして、全ての遺跡・遺構で須恵器と土師器とが相伴している。

辻町遺跡では、須恵器94点（59.5%）、土師器64点（40.5%）で、須恵器が土師器をやや上回る（17.6%増）。須恵器の構成では、坏（身・蓋）40点（42.5%）と高坏（蓋含む）40点（42.5%）が概ね常に

出土し、坏・高坏とで86%を占める。このほかには、壺・甕・甗が少数（14点・14.9%）ある。土師器の構成では、甕21点（32.8%）と埴10点（15.6%）が概ね常に出土し、高坏23点（35.9%）と壺7点（10.9%）が加わり、稀に手捏ね・甗が見られる。高坏は出土すると、その量が多い傾向がある。

南江戸上沖遺跡1次調査では、須恵器74点（83.1%）、土師器15点（16.9%）で、須恵器が多数を占める。須恵器の構成では、坏（身・蓋）70点（94.6%）が大多数を占め、少数（1～2点）の高坏・短頸壺・平瓶がある。土師器の構成では、甕7点（46.7%）と壺6点（40.0%）とで多数を占め、埴がある（2点・13.3%）。

以上のことから、出土量と器種構成等には、幾つかの傾向が認められてくるのである。

まず、両遺跡の共通点は、須恵器と土師器とが共伴し、須恵器が土師器より多く、須恵器には坏・高坏・壺、土師器には甕・壺・埴があることである。

次に、違いである。南江戸上沖遺跡は辻町遺跡より須恵器の比率が23.6%ほど高く、中でも坏が須恵器の中で94.6%を占め、辻町遺跡のその比率（42.5%）の2倍以上である。一方、減少するのは高坏で、南江戸上沖遺跡1次調査では、わずか1点（1.4%）で、辻町遺跡の30点（31.9%）に比べ大差がある。高坏が減少した傾向は、土師器にも見られ、辻町遺跡では23点であったものが、南江戸上沖遺跡では出土が見られないのである。

このほか、少数事例であるが、両遺跡間で違いがみられるものが幾つかある。須恵器では、辻町遺跡で見られた壺・甕・甗が南江戸上沖遺跡にはなく、その反面、南江戸上沖遺跡には平瓶がある。土師器では、辻町遺跡で見られた手捏ね・甗が南江戸上沖遺跡にはないのである。

### （3）土器内に収められた遺物

さて、南江戸上沖遺跡と辻町遺跡には、土器内から石や玉が出土する例がある。南江戸上沖遺跡では、坏身の中に小石（15点）を入れ、蓋をした状態で出土したものが1例ある。

また、辻町遺跡では、土師器の壺内から7点と、周辺から12点の白玉が出土している。

松山平野での須恵器の坏身内から小石が出土する例は、北井門遺跡1次調査から2例（SI09・SI14、古墳時代中期～後期初頭、坏身から小石多数点数不明）と樽味四反地遺跡6次調査から1例（SB028、5世紀末～6世紀初頭、坏身内から小石11点）がある。両遺跡の資料は共に竪穴建物跡から蓋をした状態で出土しているものである。一方、祭祀遺構から白玉が出土する例は、松前町出作遺跡にある。出作遺跡には、祭祀遺構が3基あり、白玉（5,501点）と石製模造品の有孔円盤・石剣などが多量（約277点）に出土している。

### （4）小 結

南江戸上沖遺跡と辻町遺跡のある南江戸地区では、5世紀後半から6世紀後半にかけて、浅い窪地に須恵器や土師器を数多く据え置く祭祀が行われ、出土品からは、北にある辻町遺跡が古く、東にある南江戸上沖遺跡が新しいことを確認した。また、両遺跡の器種構成等からは、時代が新しくなることで須恵器の比率が増し、特に坏が主要な器種になったことが分かった。一方で、土師器は高坏の減少が著しく、祭祀での主要な土器としては、土師器の高坏から須恵器の坏へ移行したことが推測できるのである。

これからの調査で、南江戸上沖遺跡・辻町遺跡の位置する南江戸地区で祭祀遺構が検出されれば、

より明確に祭祀道具等の移り変わりが判明するであろう。なお、今回の調査では、居住域の遺構が希薄であり、祭祀遺構との関係を明らかにすることができなかった。また、祭祀を行った人々の関係では、大峰ヶ台丘陵の古墳群や裾部に広がる集落との関係も明らかにしなければならない。

【参考文献】

- 梅木謙一・宮内慎一 1992 『朝美澤遺跡・辻町遺跡』松山市文化財調査報告書第29集  
 河野史知・相原浩二 1995 『辻町遺跡2次調査』松山市文化財調査報告書第51集  
 相田則美 他 1993 『出作遺跡I』松前町教育委員会  
 梅木謙一・小玉亜紀子 2005 『樽味四反地遺跡Ⅱ－6次調査－』松山市文化財調査報告書第106集  
 岡田敏彦 他 2010 『北井門遺跡』愛媛県埋蔵文化財発掘調査報告書第159集

表 206 遺跡別祭祀遺物一覧表

遺跡	時期	種類・器種・出土数																
		須恵器										土師器						
		坏身	坏蓋	高坏蓋	高坏	短頸壺	壺	甕	平瓶	甗	合計(点)	甕	壺	高坏	埴	手捏ね	甗	合計(点)
辻町遺跡	5C後半	4	1	4	3					1	13	2	2	6	1			11
辻町遺跡2次	6C初頭	17	18	6	27	1	3	7		2	81	19	5	17	9	2	1	53
	計	21	19	10	30	1	3	7	0	3	94	21	7	23	10	2	1	64
	%	0.223	0.202	0.106	0.319	0.016	0.032	0.074	0	0.032		0.328	0.109	0.359	0.156	0.032	0.016	
	%	0.421		0.439														

遺跡	時期	種類・器種・出土数																
		須恵器										土師器						
		坏身	坏蓋	高坏蓋	高坏	短頸壺	壺	甕	平瓶	甗	合計(点)	甕	壺	高坏	埴	手捏ね	甗	合計(点)
南江戸上沖遺跡1次	6C後半	42	28		1	2			1		74	7	6		2			15
	%	0.568	0.378	0	0.014	0.027	0	0	0.014	0		0.467	0.400		0.133			
	%	0.946		0.014														

表 207 祭祀遺構遺物別出土数一覧表

遺跡名	遺構名	時期	種類・器種・出土数																						
			須恵器										土師器						石製品						
			坏身	坏蓋	高坏蓋	高坏	短頸壺	壺	甕	平瓶	甗	計	甕	壺	高坏	埴	手捏ね	甗	計	合計(点)	白玉	石台			
南江戸上沖遺跡 1次	SX1	6C 後半	31	17		1	2			1					52	1	3		2			6	58		
	SX2	6C 後半	11	11											22	6	3					9	31		
計			42	28		1	2			1					74	7	6		2			15	89		
合計(点)			74										15						89						
比率(%)			0.83										0.17												
			須恵器										計	土師器						計	合計(点)	石製品			
辻町遺跡	SX1	5C 後半	4	1	4	3					1	13	2	2	6	1					11	24	19		
合計(点)			13										11						24						
比率(%)			0.54										0.46												
			須恵器										計	土師器						計	合計(点)	石製品			
辻町遺跡 2次	SX1	6C 初頭	9	9	3	11	1	2	6		1	42	4	2	5	3					14	56			
	SX2	6C 初頭	2	1								3	9	1		1					11	14			
	SX3	6C 初頭	2	1		5		1				9	2			2		1			5	14		2	
	SX4	6C 初頭	2	1	1	2						6	1			1					2	8			
	SX5	6C 初頭									1	1	1	2	11	1	1				16	17		1	
	SX6	6C 初頭	1	4	1	7						13			1		1				2	15			
	SX7	6C 初頭	1	2	1	2			1			7	2			1					3	10			
計			17	18	6	27	1	3	7		2	81	19	5	17	9	2	1		53	134				
合計(点)			94										64						158						
比率(%)			0.59										0.41												

表 208 出土遺物総点数

遺構名	須恵器	土師器	合計(点)	須恵器(比率%)	土師器(比率%)
南江戸上沖遺跡 1次	74	15	89	0.831	0.169
辻町遺跡	94	64	158	0.595	0.405



## 2. 中世の集落遺構

本調査では、中世（近世）の集落跡と、その関連遺構が多数検出され、南江戸地区の中世～近世集落の様相が明らかになってきている。そこで、本調査で特徴的な遺構である区画溝・井戸・土坑について、南江戸地区にある遺跡・遺構との比較をし、調査成果を充実させるものである。

### (1) 区画溝

1次調査と2次調査（1区～5区）とでは、区画溝を4条検出した。本書を作成するにあたり、溝の検出位置・規模・断面形状・出土品から、同一と考えられる区画溝を検討・整理し、統一した区画溝の名称を付けることにする。

**区画溝Ⅰ**：1次調査と2次調査の3区から1区に位置する逆「L」字状の溝で、SD304・SD6・SD201・SD106の4本で構成される。1区南北方向の溝4本（SD102・103・104・106）は、南壁の土層観察からは、再掘削が行われていたのか、1本の溝の溝底なのかは判断できなかった。規模は東西75m、南北21.4mで、時期は14世紀後半～15世紀前半である。

**区画溝Ⅱ**：1次調査と2次調査の3区～4区に位置する「T」字状の溝で、東西方向はSD302・SD10・SD204で構成され、区画溝Ⅰに平行し、規模は58.9mである。南北方向はSD8・SD406で構成され、SD204の東側で合流し、規模は24.6mである。東側は調査区外であるが、1区西壁で検出した南北方向のSD107につながる可能性が考えられる。時期は16世紀末～17世紀初頭である。

**区画溝Ⅲ**：3区から4区に位置し、SD301・SD11・SD9・SD407で構成され、区画溝Ⅱに平行する逆「L」字状の溝である。一部は3区と4区の境界部分で途切れる。規模は東西32m、南北21.4mで、時期は16世紀末～17世紀初頭である。

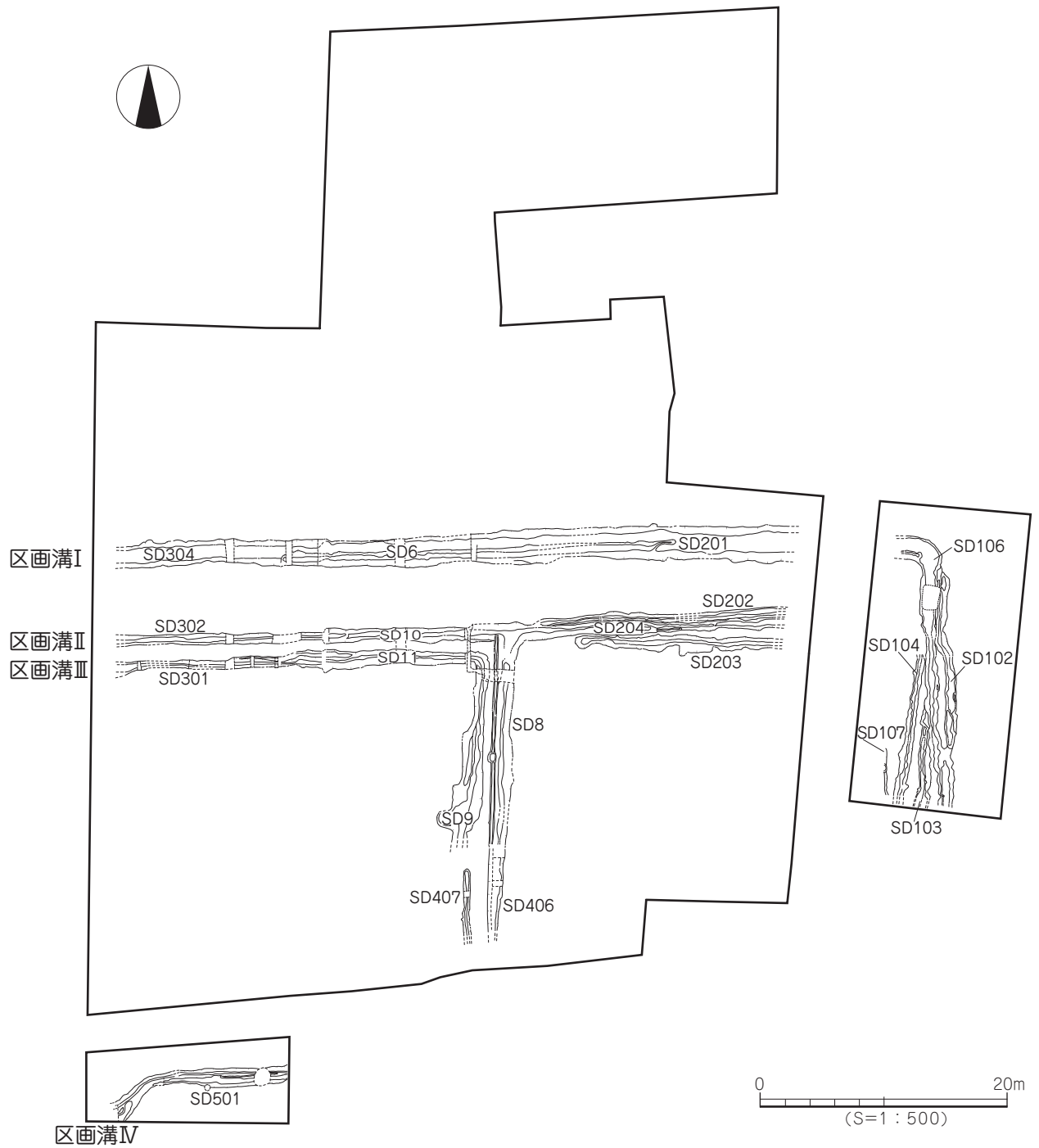
**区画溝Ⅳ**：5区に位置する東西方向の溝（SD501）で、西側で南方向に曲がる角部がある。規模は15mで、時期は15世紀末～16世紀初頭である。

さて、南江戸地区では、これまでに区画溝が2例確認されている。南江戸上沖遺跡の北西約0.5kmにある松環古照遺跡の方形館Ⅰと、西約1.0kmにある南斎院土居北遺跡の方形館Ⅱである。方形館Ⅰは一辺54mで、時期は13～14世紀であり、方形館Ⅱは一辺55mで、時期は15～16世紀である。また、松山平野で確認されている中世の方形館は、これ以外に2例ある。一つは、伊予国守護・河野氏の本城である湯築城跡の西約0.3kmにある一辺109m（一町）の方形館（道後町遺跡）であり、もう一つは、市内の恵原町にある河野氏重臣・平岡氏の居館とされる一辺120～130mの荏原城がある。

本調査の区画溝Ⅰは75m以上で、松環古照遺跡の方形館Ⅰ、南斎院土居北遺跡の方形館Ⅱより大規模で、当地における有力者の拠点であった可能性が考えられる。また、区画溝Ⅱは59m以上、区画溝Ⅲは32m以上であり、区画溝Ⅱ・Ⅲは同時期のもので、区画溝Ⅱが大区画、その中を区画溝Ⅲが小区画することが考えられる。

このように大規模な区画溝を複数検出したことにより、本調査地は14世紀末～17世紀初頭には、南江戸地区の主要な地域の一つであったと考えられるのである。

今回の調査や松環古照遺跡、南斎院土居北遺跡の調査では、県下でも有数の方形館が検出され、南江戸地区のみならず愛媛県の中世集落の様相を明らかにする資料が得られている。今後の南江戸地区での発掘調査は、愛媛県の中世集落研究にとって、とても重要なものになるであろう。



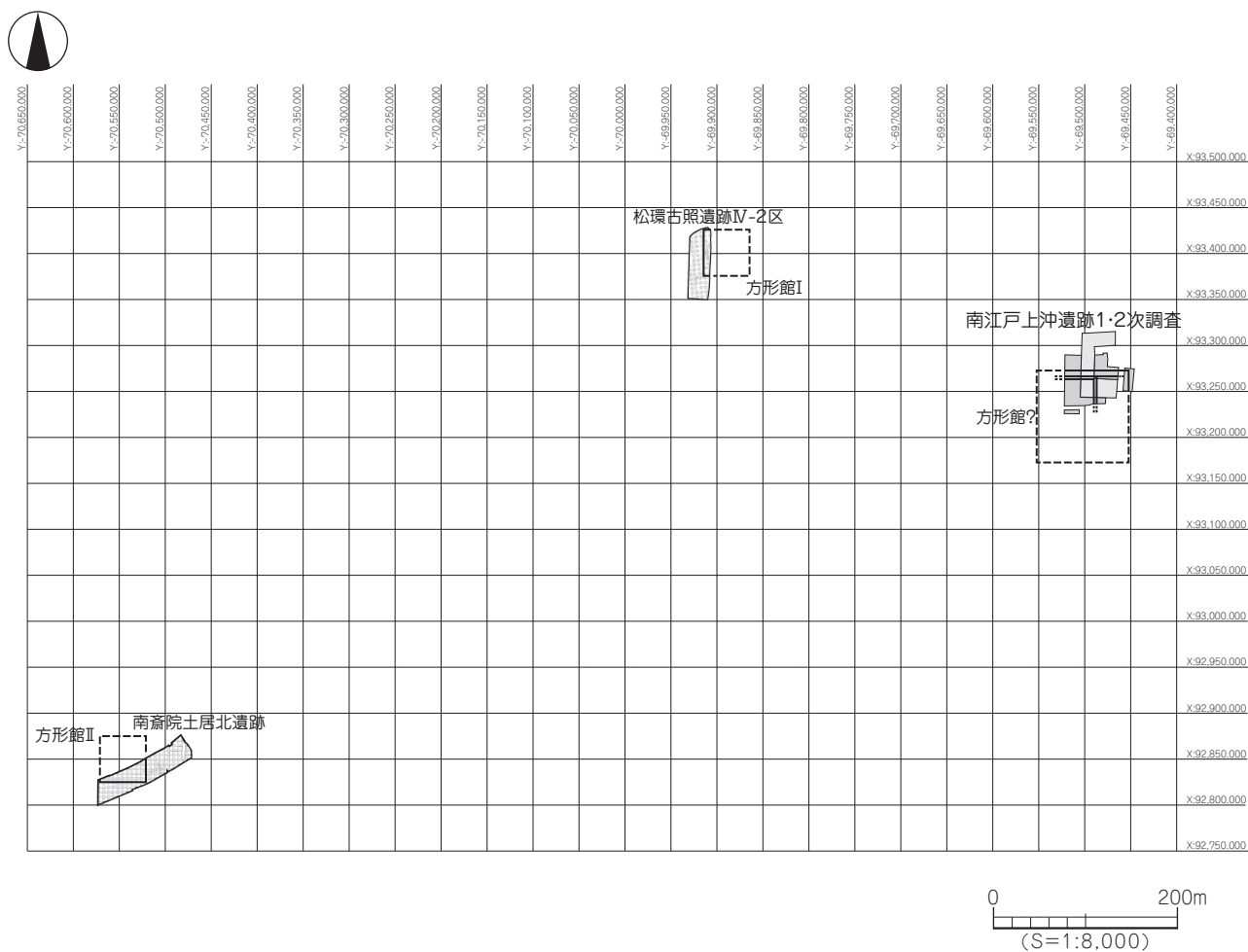
第 287 図 南江戸上沖遺跡区画溝配置図

表 209 区画溝一覧表

番 号	溝 名 称	
	1 次	2 次
区画溝 I	SD6	SD (102・103・104・106)・201・304
区画溝 II	SD8・10	SD (202・203)・204・302・406
区画溝 III	SD9・11	SD301・407
区画溝 IV		SD501

【参考文献】

- 岡田敏彦 1993 『一般国道 196 号松山環状線埋蔵文化財発掘調査報告書 I』 「松環古照遺跡」 愛媛県埋蔵文化財発掘調査報告書 第 41 集
- 中野良一 2004 『南斎院土居北遺跡・南江戸鬮日遺跡 2 次調査』 愛媛県埋蔵文化財発掘調査報告書第 113 集
- 中野良一 2020 「新発見、まつやまの中世」 「発掘調査による中世集落の復元」 松山市立埋蔵文化財センター（松山市考古館）開館 30 周年記念事業講演会・シンポジウム南江戸上沖遺跡の区画溝
- 中野良一 2018 『紀要愛媛』 道後町遺跡もう一つの方形区画溝 （公財）愛媛県埋蔵文化財センター
- 中野良一 2004 『南斎院土居北遺跡』（公財）愛媛県埋蔵文化財センター
- 寺島信三・松本圭太 2002 『道後町遺跡』 愛媛県埋蔵文化財発掘調査報告書第 97 集



第 288 図 南江戸地区中世区画溝遺跡位置図

## (2) 井戸

南江戸上沖遺跡からは、24基の井戸が検出されている。また、本遺跡のある南江戸地区には、同時代の井戸が26基検出されている。そこで、本遺跡ならびに南江戸地区の中世の井戸について分析をし、その特徴を明らかにしていく。

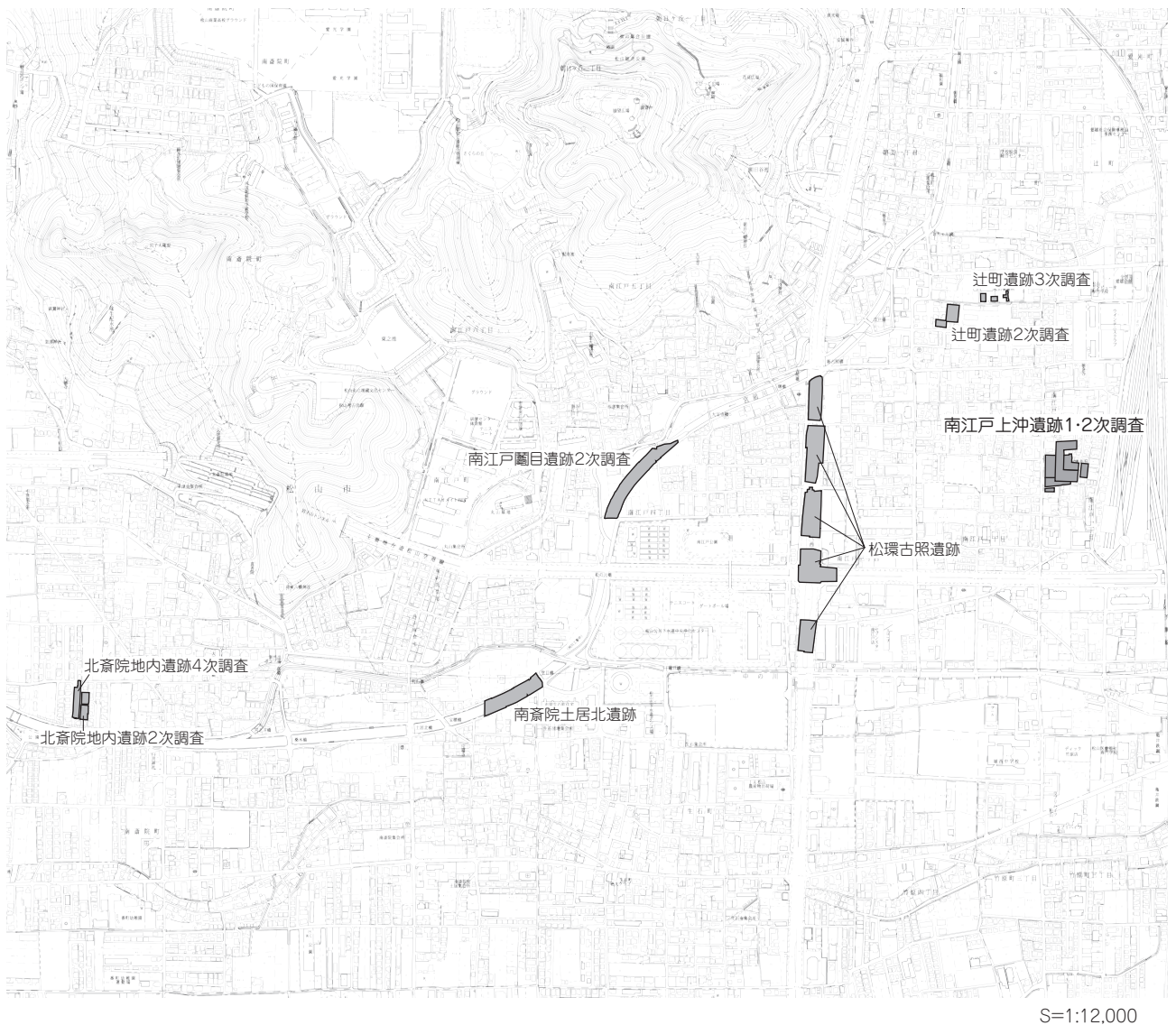
南江戸地区の26基：辻町遺跡2・3次2基、北斎院地内遺跡2・4次4基、南斎院土居北遺跡5基、南江戸鬮目遺跡2次6基、松環古照遺跡9基である。

分析に際しては、宇野隆夫氏の研究を基に分類等を行う。構造は、地上部と地下部に大別し、さらに地下部は上部と下部に区分けする。

地上部…井戸桁は、物や人・汚水などが侵入しないための構造物。ほとんどの井戸は、この地上部が失われている。

地下部・上部…井戸側・井戸の壁面が崩れ落ちないように地下部上部の壁面の部分。

地下部・下部…水溜・湧水を浄水し、溜めておくための部分。



第 289 図 南江戸地区の中世井戸遺跡位置図

## 1) 南江戸上沖遺跡

24基の井戸は深さ0.64～1.09m、井戸底のレベルは13.02～13.76mであった。以下では、平面形態、構造、組み合わせで分析をする。

①平面形態：円形・楕円形・方形の3種類に分類でき、円形20基、楕円形3基、方形1基の計24基である。

②構造：井戸桁・井戸側・水溜に分け、各々の構造を整理する。

井戸桁（1基）…SE303は、水溜に曲げ物、井戸側に小型の円礫、その上部に30～40cmの長方形の石材を配置し、検出面では石材がわずかに露出した状態で検出した。井戸桁の石材は、井戸側の石材とは、大きさや使用状況が異なり、地上部にわずかに露出していたため井戸桁とした。

井戸側（24基）…3種類で、素掘り6基、石組み14基、曲げ物4基がある。

水溜（24基）…5種類で、素掘り1基、石組み2基、曲げ物18基、木組み2基、土器1基がある。

③組み合わせ：3種類で、水溜の組み合わせについて見てみる。

井戸側が素掘り（6基）…素掘り1基、曲げ物5基である。

井戸側が石組み（14基）…曲げ物9基、石組み2基、木組み2基、土器1基である。

井戸側が曲げ物（4基）…曲げ物4基である。

## 2) 南江戸地区の分類

南江戸地区では、7遺跡26基の井戸が検出されている。ここでは、各種報告書で井戸側と水溜とが明確な6遺跡（辻町2次・辻町3次・北斎院地内2次・北斎院地内4次・南斎院土居北・南江戸圃目2次）16基を取り上げる。

①平面形態：円形・楕円形・不整楕円形の3種類で、円形8基、楕円形2基、不整楕円形6基の計16基がある。

②構造：井戸桁・井戸側・水溜に分け、構造を整理する。

井戸桁（0基）…出土はない。

井戸側（16基）…2種類で、素掘り9基、石組7基がある。

水溜（16基）…4種類で、素掘り3基、石組み2基、曲げ物10基、木組み1基がある。

③組み合わせ：2種類で、水溜との組み合わせを見てみる。

井戸側が素掘り（9基）…素掘り1基、曲げ物7基、木組み1基である。

井戸側が石組（7基）…素掘り2基、石組み2基、曲げ物3基である。

## 3) 分析

ここからは、南江戸上沖遺跡ならびに南江戸地区の井戸について、ここまでする分類を基に比較検討を行う。

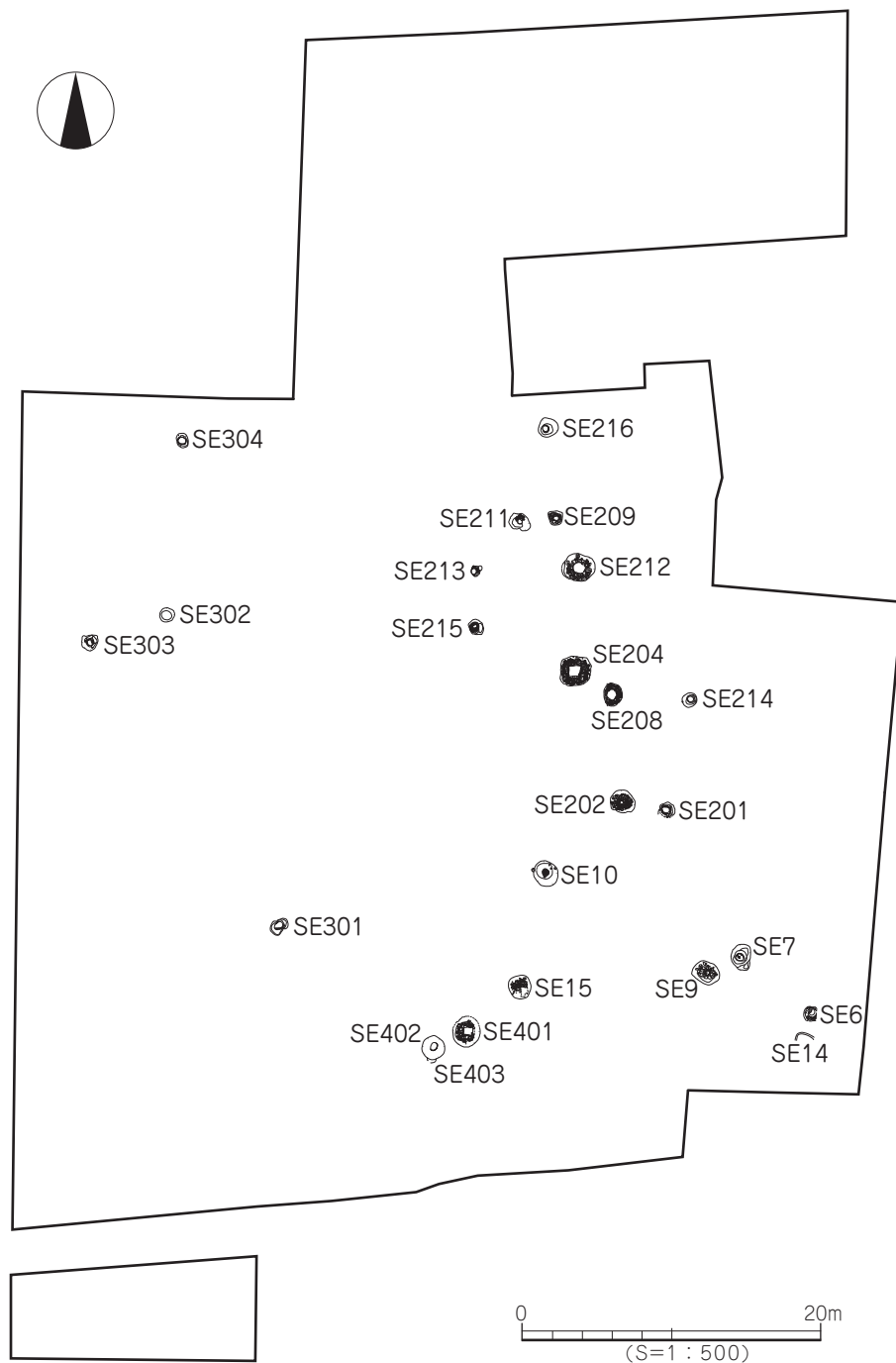
①平面形態

南江戸上沖遺跡、南江戸地区ともに半数以上が円形である。次に楕円（不整楕円系含む）があり、南江戸上沖遺跡には方形が1例ある。方形の井戸は、規模が大型で水溜に木組を使う特徴がみられる。

②構造

井戸桁…南江戸上沖遺跡の1基に限られる。この井戸は、長方形の石材で囲われ、石材が検出面に入り込んでいた。

井戸側…南江戸上沖遺跡では、半数以上（58.6%）が石組で、素掘り（25.0%）と曲げ物（16.7%）



第 290 図 南江戸上沖遺跡中世井戸位置図

表 210 井戸の平面形

遺跡	平面				計 (基)
	円	楕円	方形	不整楕円	
南江戸上沖	20	3	1	0	24
比率 (%)	0.833	0.125	0.042	0.000	
南江戸地区	8	2	0	6	16
比率 (%)	0.500	0.125	0.000	0.375	

も同数程度ある。南江戸地区では、素掘りが半数を超え（56.3%）、石組みも多く使用（43.7%）され、曲げ物はない。

水溜…南江戸上沖遺跡・南江戸地区ともに、多くが曲げ物（62.5～75.0%）で、少数（4.2～18.8%）ながら素掘り・石組み・木組みがある。南江戸上沖遺跡では、この地域唯一の土器が使用されている。

### ③組み合わせ

南江戸上沖遺跡では、井戸側に石組みを使用し、水溜に曲げ物を組合せるものが一番多く（9基 37.5%）、素掘りに曲げ物を組み合わせるもの（5基 20.8%）、曲げ物に曲げ物を組み合わせるもの（4基 10.0%）がつづく。また、水溜に土器を使用するものが1基検出されている。なお、井戸側が曲げ物のものでは、水溜も曲げ物に限られている。

南江戸地区では、井戸側は素掘りで水溜に曲げ物を組み合わせるものが一番多く（7基 43.8%）、井戸側が素掘りないし石組みで、素掘り・石組みなどが見られる。なお、井戸側が曲げ物であるものは検出例がない。

そこで、南江戸上沖遺跡と南江戸地区との違いは、井戸側の曲げ物使用と、水溜の土器に顕著に表れる。

## 4) 小 結

南江戸上沖遺跡の調査では、これまでに所在する南江戸地区で検出された井戸数とほぼ同数の24基を検出した。分析の結果、平面形態には円形が多く、井戸側には石組が多いことが傾向として見られ、水溜には曲げ物が多く使用され、この地域唯一の土器の使用が明らかになった。

さて、南江戸地区は、西に伊予灘があり、沖積平野が東から西へ傾斜している（南江戸上沖遺跡が高く、順次北西の辻町遺跡、松環古照遺跡、古照遺跡、南江戸鬮目遺跡、南斎院土居北遺跡、北斎院地内遺跡へと低くなる）。かつ、本調査地の北には、現在も北東から南西に大峰ヶ台丘陵を迂回し西流する宮前川がある。当時から伏流水が豊富にあり、生活面から1m前後の深さで水を摂取できたと考えられる。それゆえ、多くの人々が生活する集落が経営できたものと考えられる。

### 【参考文献】

宇野隆夫 1982 『史林』「井戸考」史学研究会

中島弘二 2003 『紀要愛媛 第3号』「愛媛県内の井戸遺構について(1)」愛媛県埋蔵文化財センター

表 211 井戸側の構造

遺跡	井戸側			計 (基)
	素掘り	石組み	曲げ物	
南江戸上沖	6	14	4	24
比率 (%)	0.250	0.583	0.167	
南江戸地区	9	7	0	16
比率 (%)	0.563	0.4375	0.000	

表 212 水溜の構造

遺跡	井戸側					計 (基)
	素掘り	石組み	曲げ物	木組み	土器	
南江戸上沖	1	2	18	2	1	24
比率 (%)	0.042	0.083	0.750	0.083	0.042	
南江戸地区	3	2	10	1	0	16
比率 (%)	0.188	0.125	0.625	0.063	0.000	

表 213 組み合わせ (井戸側が素掘り + 水溜)

遺跡	素掘り	水溜				計 (基)
	素掘り	石組み	曲げ物	木組み	土器	
南江戸上沖	1	0	5	0	0	6
比率 (%)	0.167	0.000	0.833	0.000	0.000	
全体の比率 (%)	0.042		0.208			
南江戸地区	1		7	1	0	9
比率 (%)	0.111	0.000	0.778	0.111	0.000	
全体の比率 (%)	0.063		0.438	0.063		

表 214 組み合わせ (井戸側が石組み + 水溜)

遺跡	石組み	水溜				計 (基)
	素掘り	石組み	曲げ物	木組み	土器	
南江戸上沖	0	2	9	2	1	14
比率 (%)	0.000	0.143	0.643	0.143	0.071	
全体の比率 (%)	0	0.083	0.375	0.083	0.042	
南江戸地区	2	2	3	0	0	7
比率 (%)	0.286	0.286	0.429	0.000	0.000	
全体の比率 (%)	0.125	0.125	0.188			

表 215 組み合わせ (井戸側が曲げ物 + 水溜)

遺跡	曲げ物	水溜				計 (基)
	素掘り	石組み	曲げ物	木組み	土器	
南江戸上沖	0	0	4	0	0	4
比率 (%)	0.000	0.000	1.000	0.000	0.000	
全体の比率 (%)			0.167			
南江戸地区	0	0	0	0	0	0
比率 (%)						
全体の比率 (%)						



### (3) 土壙墓

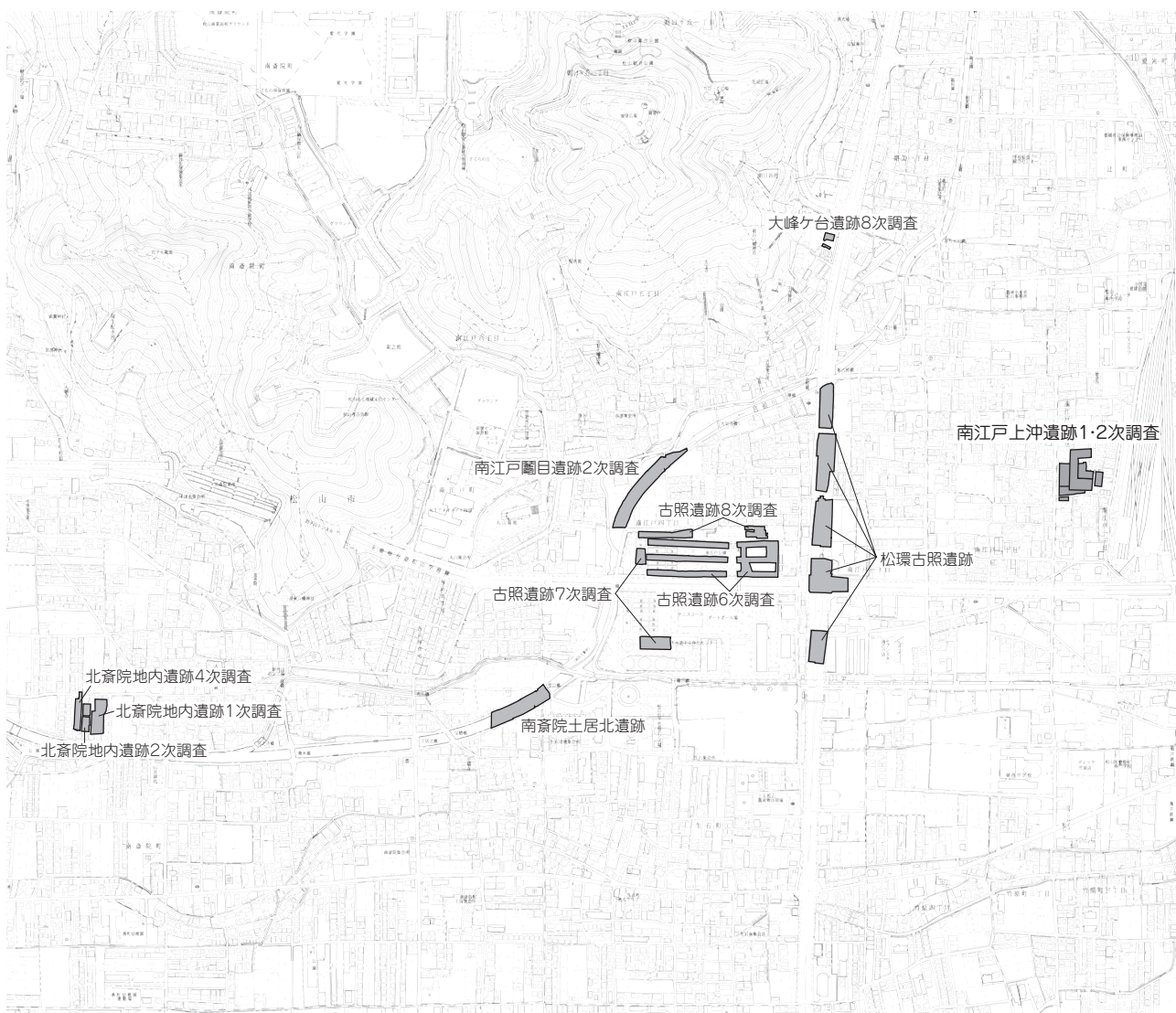
ここでは、南江戸上沖遺跡と南江戸地区で検出した中世の土壙墓について平面形態による比較検討を行う。

南江戸上沖遺跡では11基の土壙墓を検出した。一方、南江戸地区では10遺跡34基の土壙墓の報告があるが、このうち平面形態の判明しているものは、下記の6遺跡30基であり、それ等を資料として取り扱う。分類は平面形状を基準にし、方形（隅丸方形含む）、長方形（隅丸長方形含む）、円形（楕円形含む）の3大別とする。

南江戸上沖遺跡には方形6基、長方形1基、円形4基があり、南江戸地区の6遺跡には方形2基・長方形17基・円形11基がある。

また、南江戸上沖遺跡と南江戸地区の検出数を合わせると計41基で、方形8基（20%）、長方形18基（44%）、円形15基（36%）となる。

大峰ヶ台遺跡：長方形2基



第291 図 南江戸地区の中世土壙墓遺跡位置図

古照遺跡：方形1基・長方形2基・円形4基

北斎院地内遺跡：長方形5基・円形4基

南斎院土居北遺跡：長方形2基・円形1基

南江戸鬮目遺跡：方形1基・円形2基

松環古照遺跡：長方形6基

検出数では、南江戸上沖遺跡の土墳墓は11基あり、南江戸地区の7遺跡で最も多く、全体の26.8%を占める。つづいて北斎院地内遺跡9基（21.9%）があり、両遺跡で48.7%と全体のほぼ半数を占める。

平面形態では、南江戸上沖遺跡では方形（6基54.5%）・円形（4基36.4%）・長方形（1基9.1%）の順である。また、南江戸上沖遺跡を含む南江戸地区全体では長方形が最も多く（18基43.9%）、次に円形（15基36.6%）、最も少ないものが方形（8基19.5%）となる。

この結果、南江戸上沖遺跡は、検出例は最も多いが、平面形態の傾向性で他の遺跡とは全く異なり、方形が最も多く、長方形が最も少ないことが明らかになった。この違いは、今後調べを進め、解決していかなければならない課題である。

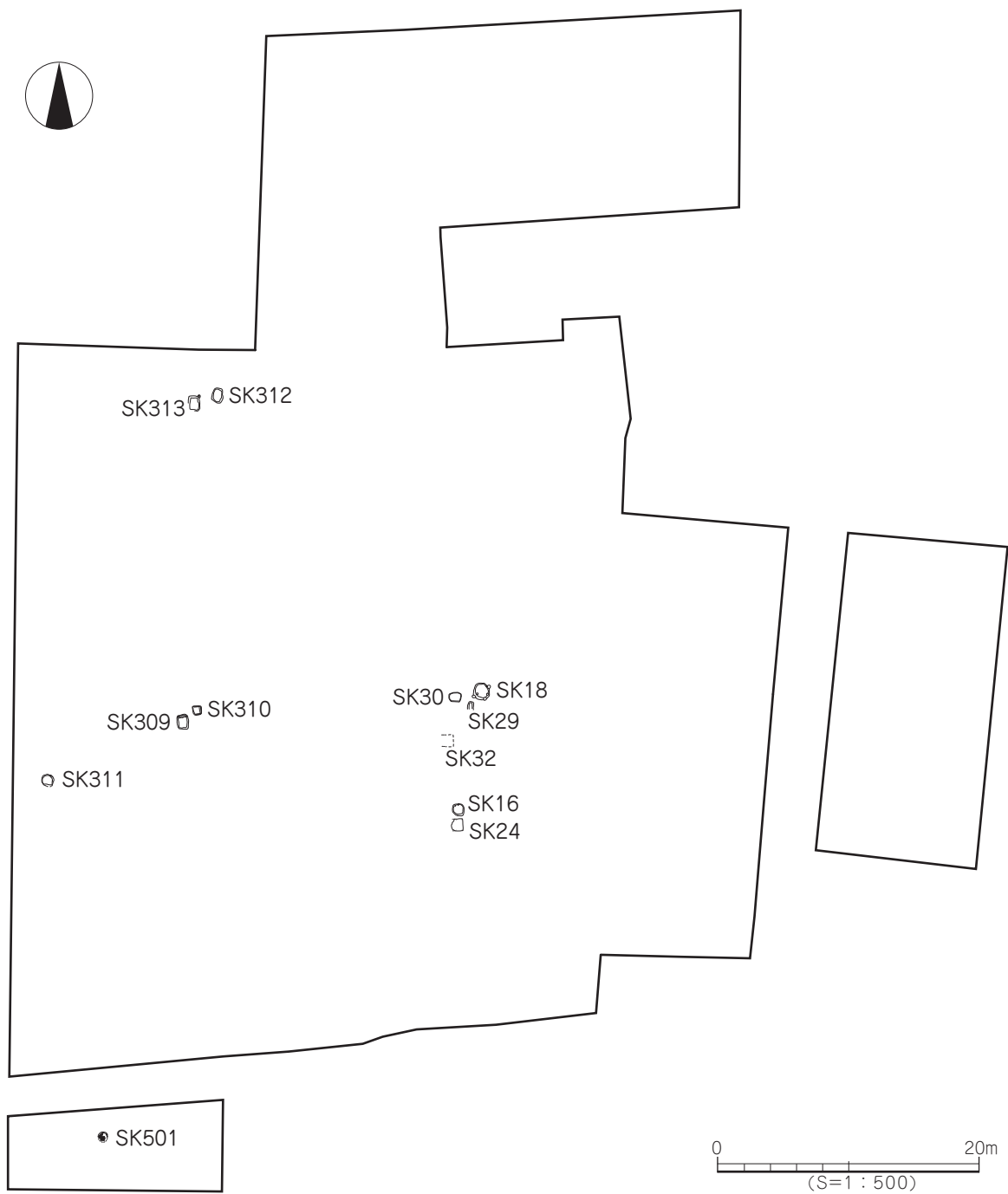
表 216 土墳墓分類表

遺跡名・地区	平面形態分類			計（基）
	方形	長方形	円形	
南江戸上沖遺跡	6	1	4	11

南江戸地区		方形	長方形	円形	計（基）
1	大峰ヶ台遺跡		2		2
2	古照遺跡	1	2	4	7
3	北斎院地内遺跡		5	4	9
4	南斎院土居北遺跡		2	1	3
5	南江戸鬮目遺跡	1		2	3
6	松環古照遺跡		6		6
計（基）		2	17	11	30

表 217 土墳墓分類比率

遺跡名・地区	平面形態分類			計（基）
	方形	長方形	円形	
南江戸上沖遺跡	0.547	0.091	0.364	
南江戸上沖／南江戸地区	0.750	0.056	0.267	
土墳墓（基）	8	18	15	41
比率（%）	0.195	0.439	0.366	



第 292 図 南江戸上沖遺跡中世土壌墓位置図

# 写真図版

写真図版 1 ～ 19 : 南江戸上沖遺跡 1 次調査

写真図版 20 ～ 30 : 南江戸上沖遺跡 2 次調査

## 写真図版データ

1. 遺構は、主な状況については、4×5判や6×7判の白黒ネガフィルム・カラーリバーサルフィルムで撮影し、35mm判フィルムカメラ・デジタルカメラで補足している。一部の撮影には高所作業車を使用した。

使用機材：

カメラ	トヨフィールド45A	レンズ	スーパーアンギュロン	90mm他
	アサヒペンタックス67		ペンタックス67	55mm他
	ニコンニューFM2		ズームニッコール	28～85mm他
フィルム	白黒	アクロス		
デジタルカメラ	Nikon D90	AF-S	DX18	～55mm

2. 遺物は、デジタルカメラで撮影した。

使用機材：

デジタルカメラ	Nikon D610	マイクロニッコール	105mm
ストロボ	コメット/CA32	CB2400	
スタンド等	トヨ無影撮影台	ウエイトスタンド	101

3. 製 版：写真図版 175 線  
印 刷：オフセット印刷  
用 紙：マットコート 110kg

【参考】『埋文写真研究』vol.1～20・『報告書制作ガイド』『文化財写真研究』vol.1～6

[大西 朋子]

南江戸上沖遺跡 1次調査



1. 調査前状況①  
(北より)



2. 調査前状況②  
(西より)



3. 1区北・南  
遺構検出状況  
(南西より)



1. 1区北  
遺構検出状況  
(東より)



2. 1区南  
遺構検出状況  
(南西より)



3. 1区南  
遺構完掘状況  
(南西より)



1. 2区遺構検出状況（西より）



2. 2区遺構完掘状況①（西より）



南江戸上沖遺跡 1次調査

図  
版  
4



1. 2区  
遺構完掘状況②  
(西より)



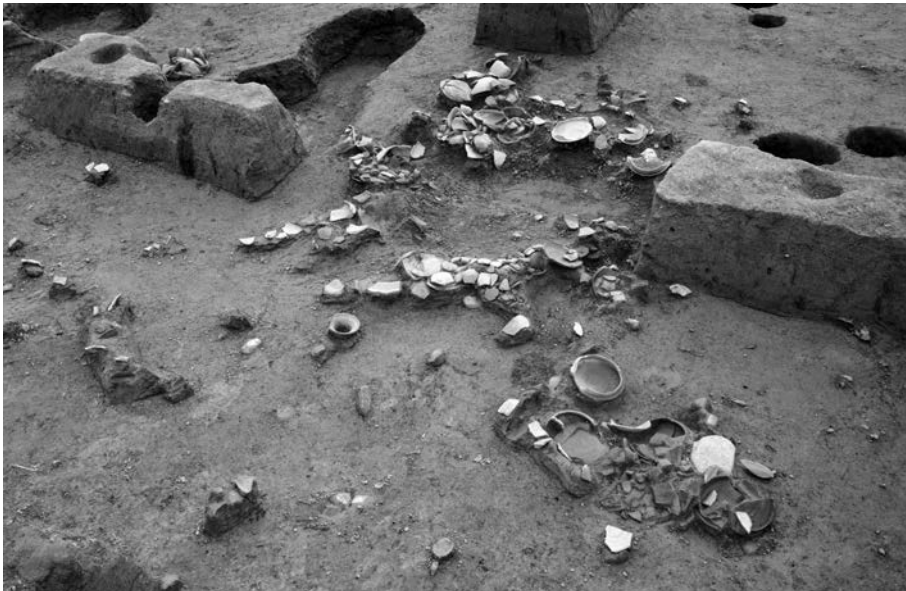
2. 2区  
遺構完掘状況③  
(南西より)



3. 2区  
遺構完掘状況④  
(北より)



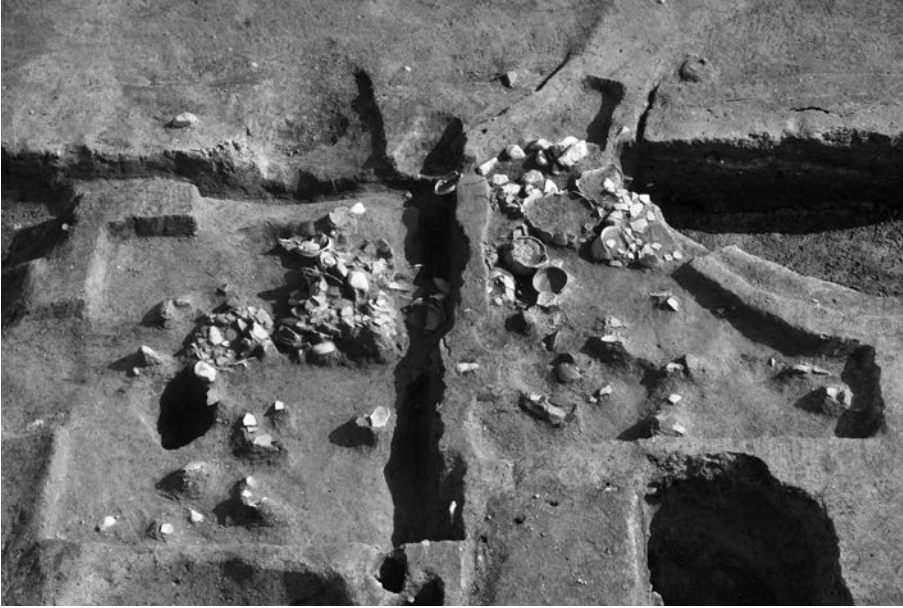
1. SX1  
遺物出土状況①  
(南東より)



2. SX1  
遺物出土状況②  
(北西より)



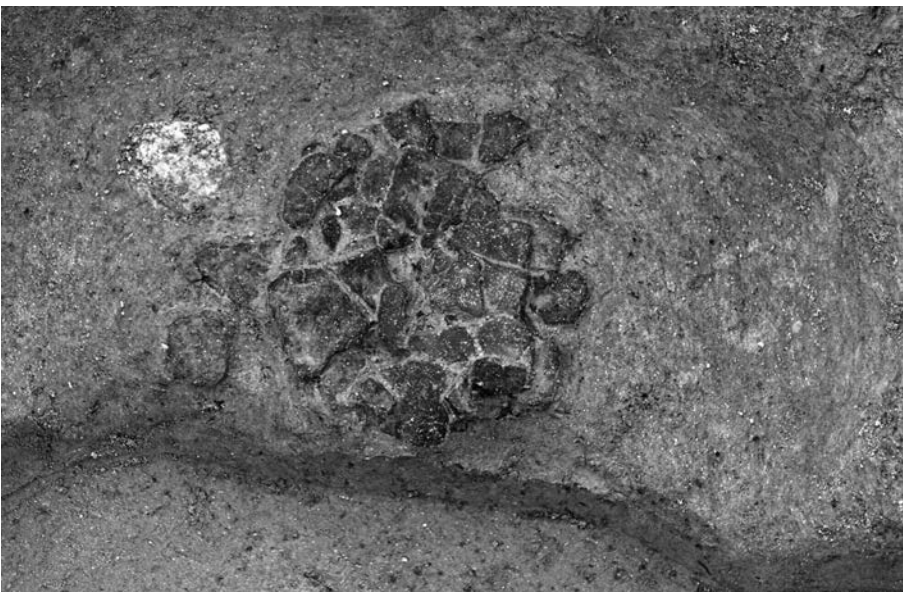
3. SX2  
遺物出土状況①  
(東より)



1. SX2  
遺物出土状況②  
(西より)



2. P4 地点  
甕出土状況  
(西より)



3. P3 地点  
土師器出土状況  
(北より)



1. SK10  
遺物出土状況  
(南より)



2. SK16  
遺物出土状況  
(南東より)



3. SK18  
遺物出土状況  
(東より)



1. SK30  
遺物出土状況  
(南より)



2. SE6  
完掘状況  
(南西より)



3. SE9  
完掘状況  
(南より)



1. SE9  
半裁状況  
(南より)



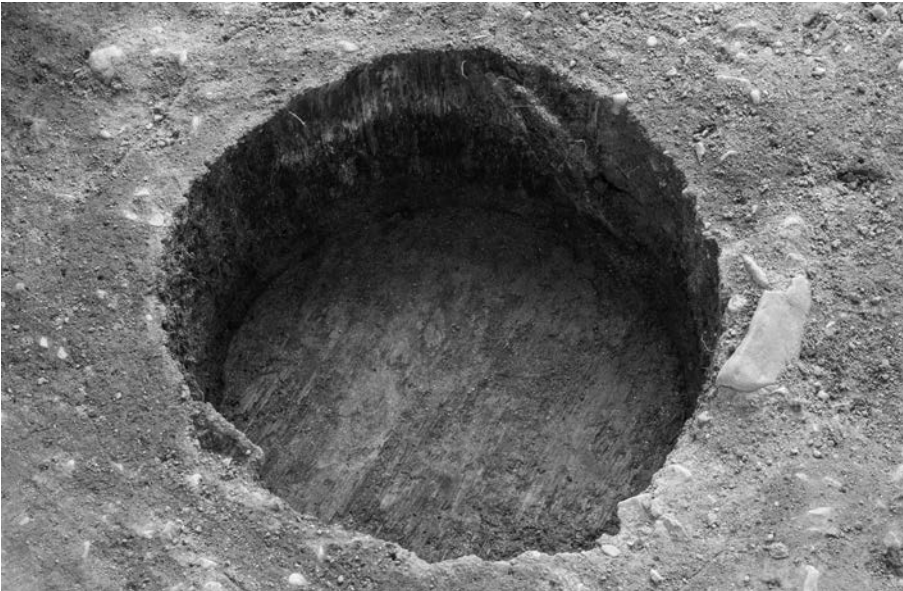
2. SE10  
土層状況  
(南より)



3. SE15 (SK17)  
完掘状況  
(北より)



1. SP2 (水琴窟)  
検出状況  
(北東より)



2. SK8  
完掘状況  
(北西より)



3. SE1  
完掘状況  
(北東より)



1. SE3  
完掘状況  
(南より)

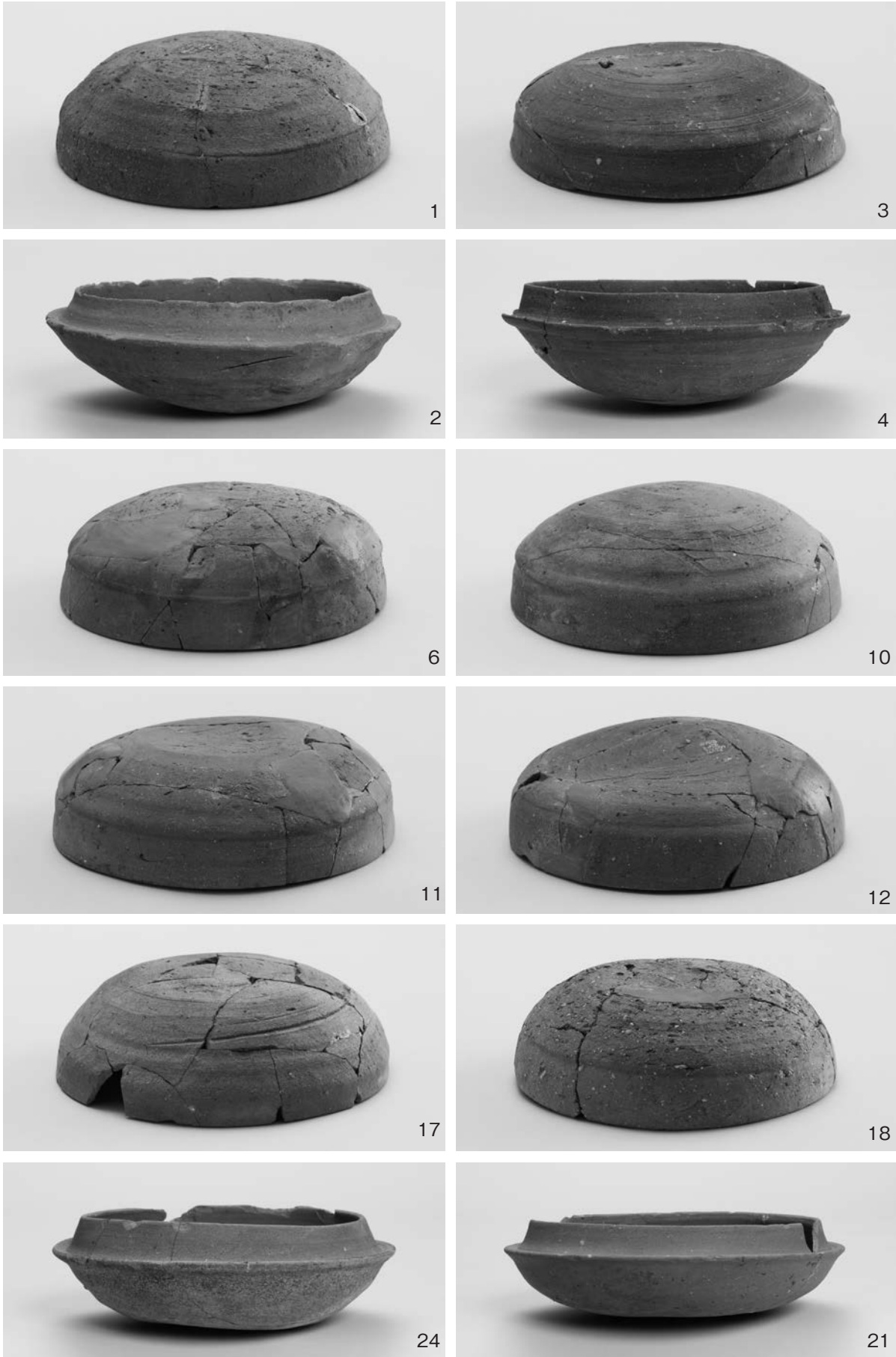


2. SE11 (SK2)  
完掘状況  
(西より)



3. SE12 (SK3)  
検出状況  
(南西より)





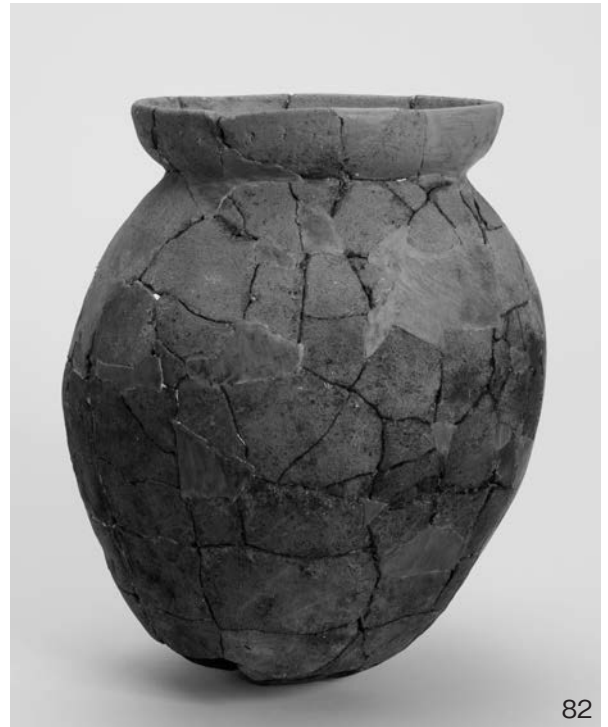
1. SX1 出土遺物①



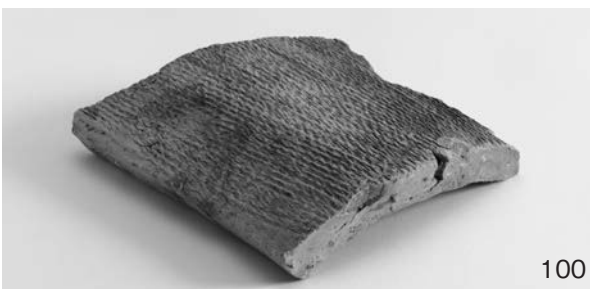
1. SX1 出土遺物②



1. SX1 (52~56) 出土遺物③、SX2 (58~61) 出土遺物①



1. SX2 出土遺物②



1. P3 (89)・P4 (90) 地点、SK10 (95・96・99・100) 出土遺物



1. SK28 (104)、土壙墓 SK16 (105~107)・18 (108・109・111)・24 (112・113)・29 (114)・30 (115・116) 出土遺物



1. 土壙墓 SK32 (118~120)、SE7 (124)・9 (130)・10 (133)・15 (138・140・143) 出土遺物



1. SD6 (149・150・152・167・170・178～180)・8 (188～190)・9 (203・204)・10 (220)・11 (226)・14 (247)、SK8 (298) 出土遺物





1. 1区遺構検出状況（北より）



2. 1区遺構完掘状況（北より）



3. 2区遺構検出状況（南より）



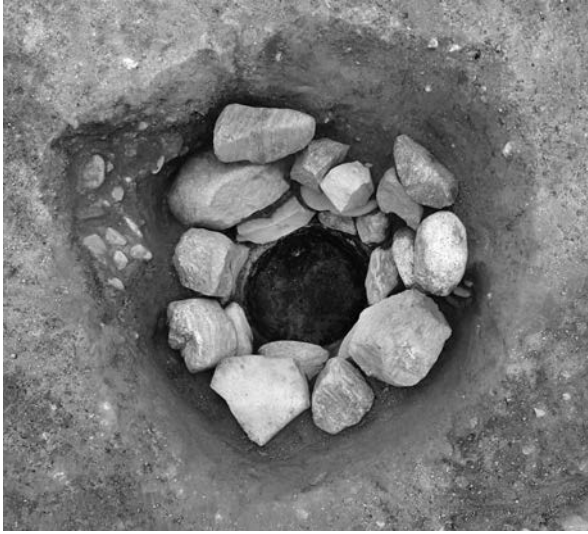
4. 2区遺構完掘状況（西より）



5. SE202 完掘状況（西より）



6. SE208 完掘状況（北西より）



1. SE209 完掘状況 (南より)



2. SE212 (SK210) 完掘状況 (南東より)



3. 3区遺構検出状況 (南より)



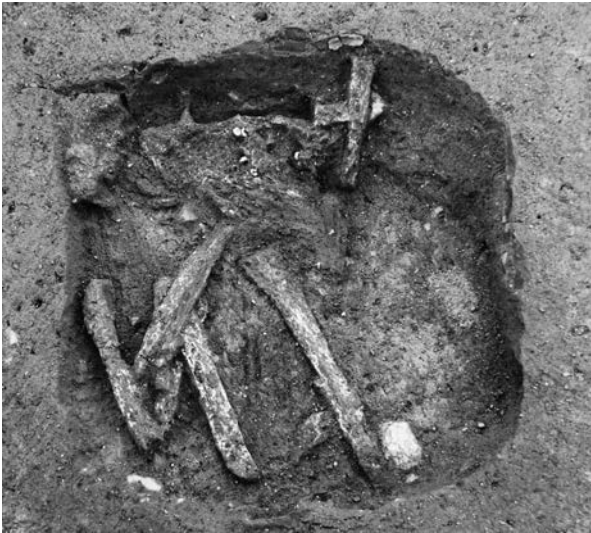
4. 3区完掘状況 (奥) (東より)



5. SD301・302 完掘状況 (西より)



6. SK309 人骨出土状況 (東より)



1. SK310 人骨出土状況 (南より)



2. SE301 完掘状況 (南西より)



3. SE302 曲げ物検出状況 (南より)



4. SE303 完掘状況 (南より)



5. SE304 完掘状況 (南より)



6. SP3276 銅銭出土状況 (南より)



1. 4区遺構検出状況（北東より）



2. 4区遺構完掘状況（東より）



3. SE401 完掘状況（東より）



4. SE401 半掘状況（東より）



5. SE402 遺物出土状況（南東より）



6. SE402・403 完掘状況（東より）



1. 5区遺構検出状況（東より）



2. 5区遺構完掘状況（東より）



3. 5区遺構完掘状況（南西より）



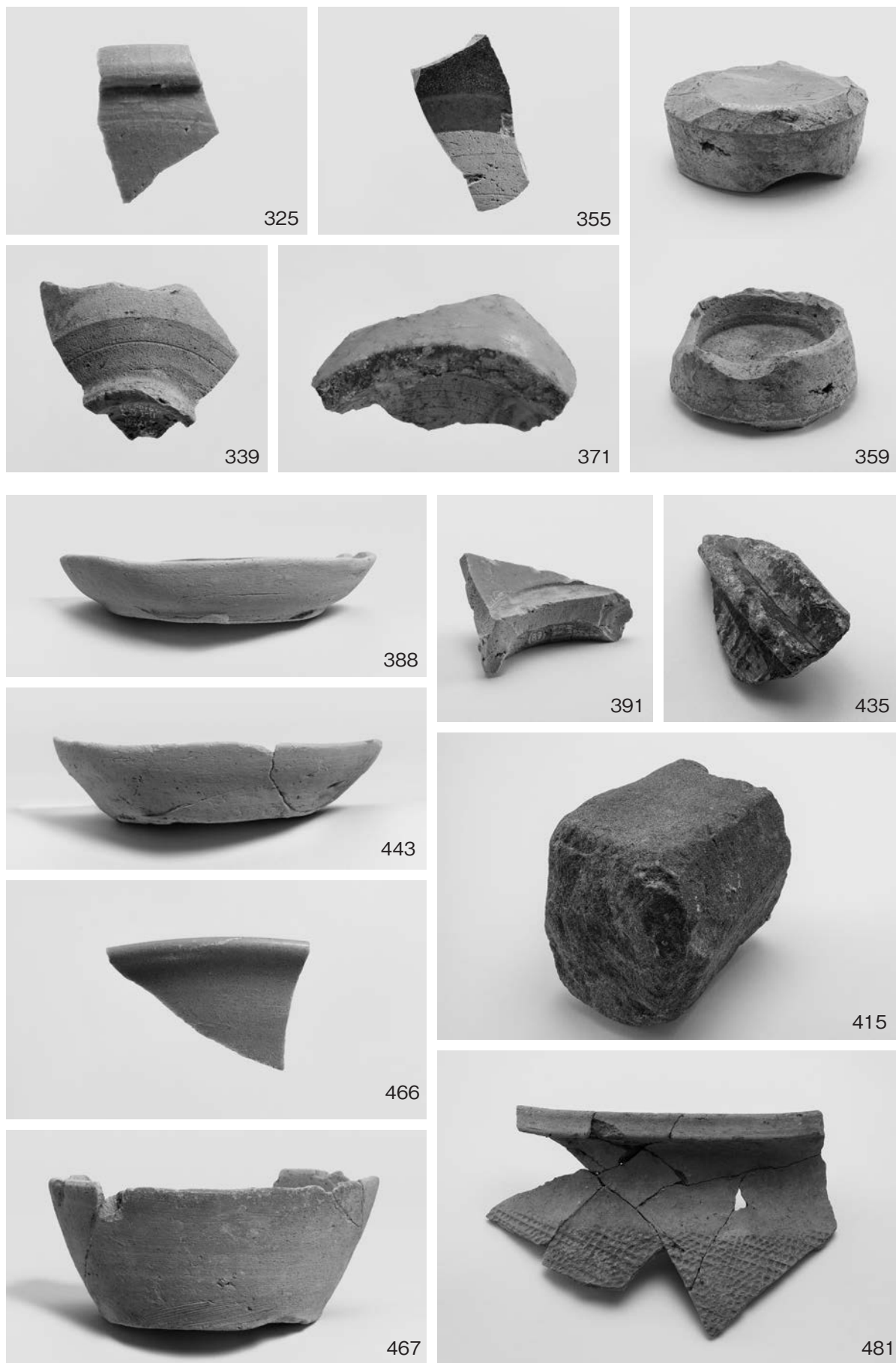
4. SK501 遺物出土状況①(南西より)



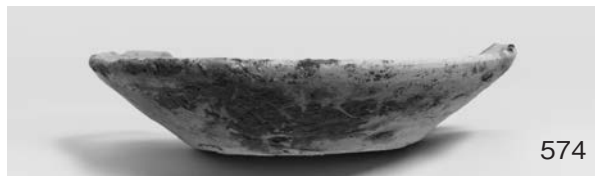
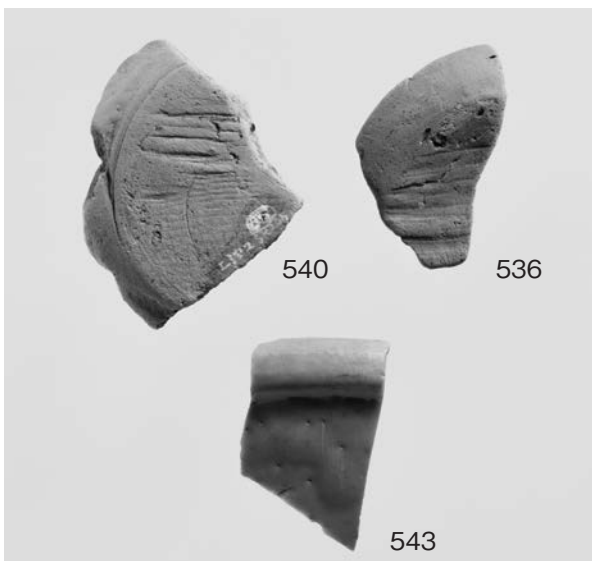
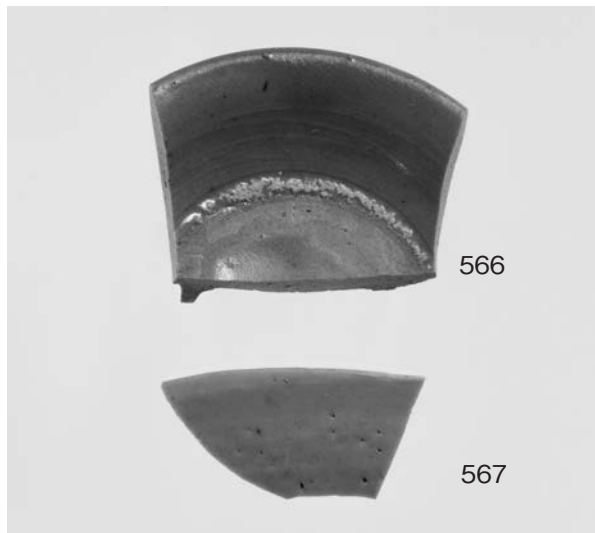
5. SK501 遺物出土状況②(南東より)



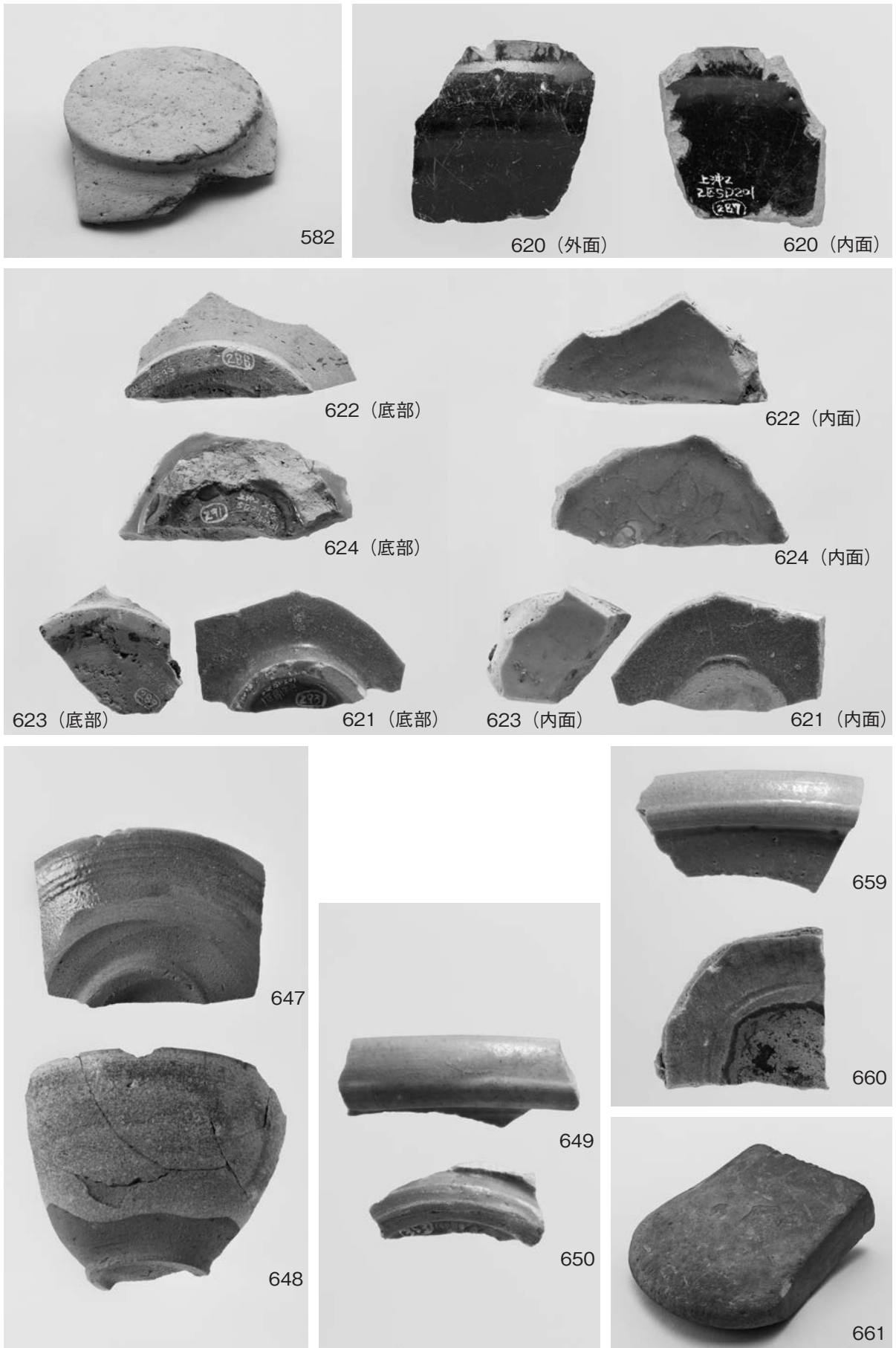
6. SK501 遺物出土状況③（南西より）



1. SD102 (325)・104 (339)・106 (355)、SK101 (359)、1区出土地点不明 (371)、SK204 (388・391)・217 (415)・218 (435)、SE201 (443)・202 (466)・204 (467・481) 出土遺物

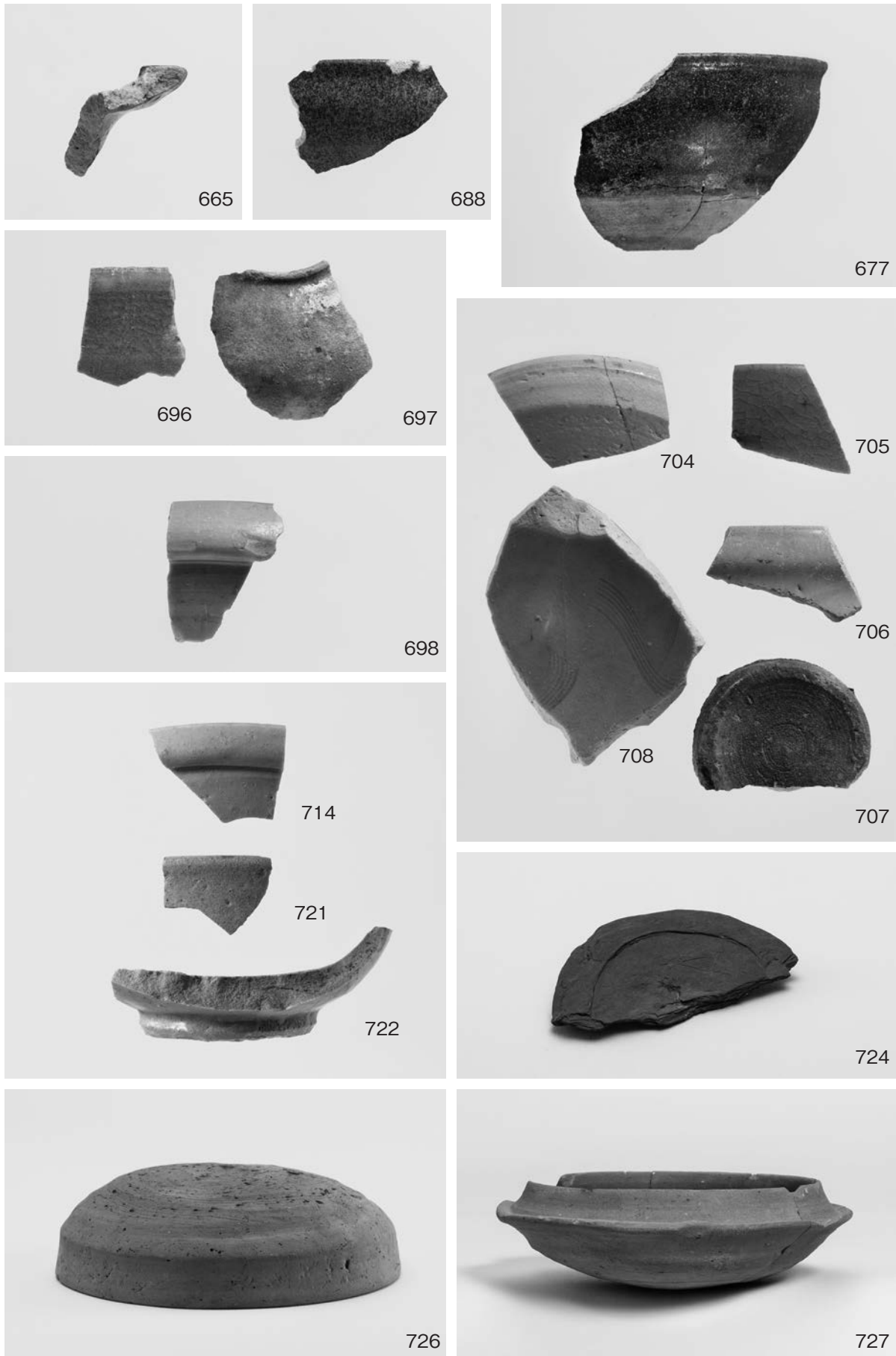


1. SE214 (536・540・543)・216 (546・550・552・566・567)、SD201 (568・574・578) 出土遺物



1. SD201 (582・620～624)・202 (647～650)・204 (659～661) 出土遺物

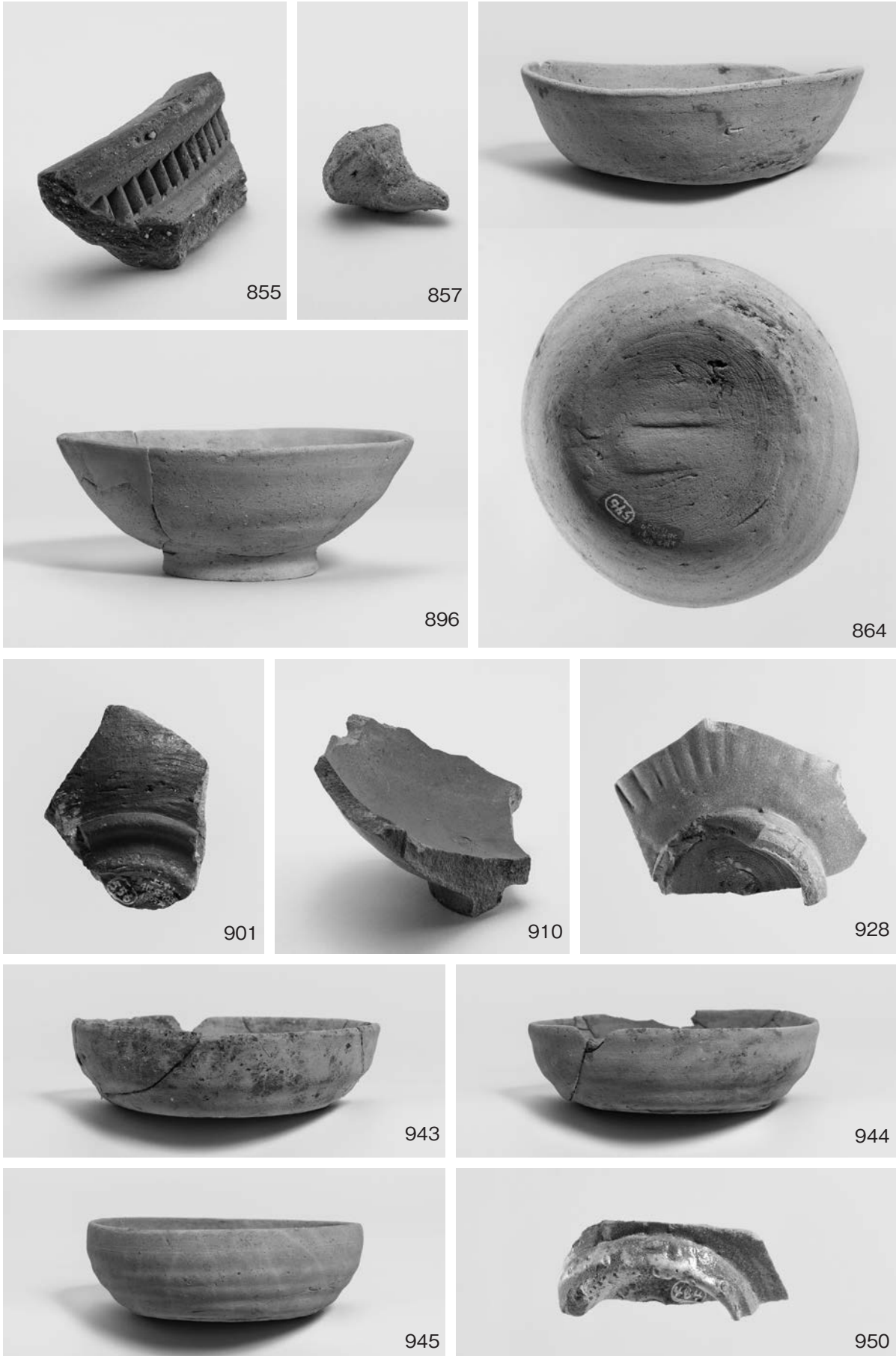




1. SD206 (665)・213 (677)・216 (688)・219 (696・697)・222 (698)、2区グリッド (704～708)、  
2区カクラン 201 (714)、2区出土地点不明 (721・722・724)、2区第2面 (726・727) 出土遺物



1. SK309 (729・730)・310 (732・733)・311 (734)、SE303 (745)、SD301 (752・759)・304 (776)、  
3区グリッド (816～818)、3区出土地点不明 (826・827) 出土遺物



1. SE401 (855・857)・402 (864)・403 (896・901)、SD403 (910)、4区グリッド (928)、SK501 (943～945)、SD501 (950) 出土遺物

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	みなみえどかみおきいせき-いちじ・にちようさ-
書名	南江戸上沖遺跡-1次・2次調査-
副書名	松山駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	松山市文化財調査報告書
シリーズ番号	第202集
編著者名	高尾 和長
編集機関	公益財団法人 松山市文化・スポーツ振興財団 埋蔵文化財センター
所在地	〒791-8032 愛媛県松山市南斎院町乙67番地6 TEL089-923-6363
発行年月日	西暦2021(令和3)年11月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 〃〃	東経 〃〃	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
みなみえどかみおき 南江戸上沖遺跡 1次調査	まつやましみなみえど 松山市南江戸	38201		33° 50′ 19″939	132° 44′ 56″910	20150824 ) 20160129	約1,900	区画整備 事業
みなみえどかみおき 南江戸上沖遺跡 2次調査	まつやましみなみえど 松山市南江戸	38201		33° 50′ 19″482	132° 44′ 57″634	20160201 ) 20160705	約2,100	区画整備 事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
みなみえどかみおき 南江戸上沖遺跡 1次調査	集落	古墳  中世	土器溜まり  区画溝、土坑、井戸、柱穴、 土墳墓		須恵器、土師器  陶磁器、瓦器、銅銭、瓦		土器溜まり  区画溝・土墳墓・井戸	
みなみえどかみおき 南江戸上沖遺跡 2次調査	集落	中世	区画溝、土坑、井戸、柱穴、 土墳墓		須恵器、土師器、瓦器、陶磁器、 人骨		区画溝・土墳墓・井戸・ 墨書土器	
要 約	<p>南江戸上沖遺跡1次調査から古墳時代後期の祭祀を行ったと思われる土器溜まりが2箇所で見つかった。この土器溜まりは、調査地の北に位置する辻町遺跡1次・2次調査から8基の祭祀遺構が検出されている。辻町遺跡とは、出土遺物の器種にわずかに違いが見られるが、掘方のない場所に遺物が据え置かれたという出土状況は、同じ様相を示している。</p> <p>南江戸上沖遺跡1次・2次調査から中世の集落を区画する溝を確認した。区画内には井戸や墓があり、多数の土師器・須恵器・陶磁器などが出土したことで、調査地や周辺地域には、中世集落の存在が明らかになった。加えて中世の集落が大峰ヶ台丘陵の南側から南江戸の東側まで広がる事が判明した。</p>							

松山市文化財調査報告書 第202集

松山駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

# 南江戸上沖遺跡

## - 1次・2次調査 -

令和3年11月30日 発行

編集 公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団  
発行 埋蔵文化財センター  
〒791-8032 松山市南斎院町乙67番地6  
TEL (089) 923-6363

印刷 株式会社ハラプレックス  
〒799-1502 今治市喜田村1-2-1  
TEL (0898) 48-5511